



Version 28.0: Summer '13

メタデータ API 開発者ガイド



最終更新日: 2013/5/20

© Copyright 2000–2013 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce.com, "no software" ロゴ、および Team Edition は、salesforce.com, inc. の登録商標です。また、AppExchange, "Success On Demand", および "The Business Web" は、salesforce.com, inc. の商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

概要.....	1
第 1 章: メタデータ API について.....	1
サポート対象の Salesforce のエディション.....	2
開発プラットフォーム.....	2
標準への準拠.....	3
メタデータ API サポートポリシー.....	3
関連リソース.....	4
第 2 章: クイックスタート.....	5
前提条件.....	5
ステップ 1: 組織の Web サービス WSDL の生成または取得.....	6
ステップ 2: 開発プラットフォームへの WSDL ファイルのインポート.....	6
ステップ 3: Java サンプルコードの説明.....	7
メタデータ API の使用.....	19
第 3 章: メタデータのリリースと取得.....	19
Zip ファイルの使用.....	19
メタデータ型.....	21
package.xml マニフェストファイルのサンプル.....	31
リリースでのテストの実行.....	36
ユーザ参照の保持.....	37
第 4 章: CRUD ベースのメタデータ開発.....	38
第 5 章: エラー処理.....	42
セッション終了のエラー処理.....	42
参照.....	43
第 6 章: ファイルベースのコール.....	43
deploy().....	43
checkDeployStatus().....	55
retrieve().....	56
RetrieveRequest.....	67
checkRetrieveStatus().....	68
第 7 章: CRUD ベースのコール.....	69
create().....	69
delete().....	70

update().....	72
第 8 章: ユーティリティコール.....	76
checkStatus().....	76
describeMetadata().....	77
listMetadata().....	78
ListMetadataQuery.....	80
第 9 章: Result オブジェクト.....	81
AsyncResult.....	81
DeployResult.....	83
DescribeMetadataResult.....	88
RetrieveResult.....	89
第 10 章: メタデータ型.....	92
Metadata コンポーネントおよびメタデータ型.....	96
サポートされていないメタデータ型.....	97
AnalyticSnapshot.....	99
ArticleType.....	101
ArticleType レイアウト.....	105
ArticleType CustomField.....	108
ApexClass.....	110
ApexComponent.....	113
ApexPage.....	114
ApexTrigger.....	116
ApprovalProcess.....	118
AssignmentRules.....	131
AuthProvider.....	134
AutoResponseRules.....	136
CallCenter.....	139
Community (Zone).....	141
CustomApplication.....	145
CustomApplicationComponent.....	162
CustomLabels.....	163
CustomObject.....	165
ActionOverride.....	172
BusinessProcess.....	174
CustomField.....	176
FieldSet.....	183
ListView.....	185
NamedFilter.....	189
Picklist (連動選択リストを含む).....	192
RecordType.....	200
SearchLayouts.....	203
SharingReason.....	206

SharingRecalculation.....	207
ValidationRule.....	208
Weblink.....	210
メタデータのデータ型.....	215
CustomObjectTranslation.....	217
CustomPageWebLink.....	224
CustomSite.....	228
CustomTab.....	234
Dashboard.....	236
DataCategoryGroup.....	256
Document.....	263
EmailTemplate.....	266
EntitlementProcess.....	270
EntitlementTemplate.....	276
EscalationRules.....	277
Flow.....	280
Folder.....	303
FolderShare.....	305
Group.....	307
HomePageComponent.....	308
HomePageLayout.....	310
InstalledPackage.....	311
Layout.....	312
Letterhead.....	324
LiveChatAgentConfig.....	328
LiveChatButton.....	330
LiveChatDeployment.....	333
Metadata.....	335
MetadataWithContent.....	335
MilestoneType.....	336
Network.....	337
Package.....	343
PermissionSet.....	345
Portal.....	349
Profile.....	352
Queue.....	366
QuickAction.....	367
RemoteSiteSetting.....	372
Report.....	373
ReportType.....	403
Role.....	407
RoleOrTerritory.....	408
Scontrol.....	410
設定.....	412
ActivitiesSettings.....	414

AddressSettings.....	418
CaseSettings.....	423
ChatterAnswersSettings.....	431
CompanySettings.....	433
ContractSettings.....	434
EntitlementSettings.....	435
ForecastingSettings.....	438
IdeasSettings.....	442
KnowledgeSettings.....	443
LiveAgentSettings.....	447
MobileSettings.....	448
OpportunitySettings.....	452
ProductSettings.....	453
QuoteSettings.....	455
SecuritySettings.....	456
SharedTo.....	461
SharingRules.....	464
BaseSharingRule.....	467
CriteriaBasedSharingRule.....	468
OwnerSharingRule.....	473
Skill.....	479
StaticResource.....	480
Territory.....	482
Translations.....	483
Workflow.....	489
 用語集.....	 506

概要

第 1 章

メタデータ API について

メタデータ API を使用して、組織のカスタムオブジェクト定義やページレイアウトなどのカスタマイズ情報を取得、リリース、作成、更新、または削除します。API はカスタマイズを管理し、データ自体ではなくメタデータモデルを管理できるツールを構築するためのものです。取引先またはリードなどのレコードを作成、取得、更新、または削除するには、[SOAP API](#) または [REST API](#) データを使用します。

Force.com IDE または Force.com 移行ツールを使用すると、最も簡単にメタデータ API の機能にアクセスできます。これらのツールはメタデータ API の上位に構築され、メタデータ API との連携タスクを簡略化するために標準 Eclipse および Ant ツールを使用します。Eclipse プラットフォームで開発された Force.com IDE は、統合された開発環境に慣れているプログラマーに快適な環境を提供し、IDE 内でコード記述、コンパイル、テスト、リリースのすべてを行うことができます。Force.com 移行ツールは、スクリプトまたはコマンドラインユーティリティを使用してローカルディレクトリと Salesforce 組織間でメタデータを移動する場合に最適です。Force.com IDE または Force.com 移行ツールについての詳細は、developer.force.com を参照してください。

メタデータ API の基礎となるコールは、独自のクライアントアプリケーションを構築する必要があるユーザが直接使用できるよう公開されています。このガイドでは、メタデータ API を直接使用する方法について詳しく説明します。

非同期のメタデータ API を使用して、組織の情報(メタデータ)の設定とカスタマイズを管理できます。たとえば、次のようになります。

- 組織のカスタマイズを XML メタデータファイルとしてエクスポートします。「[Zip ファイルの使用](#)」および [メタデータ API の使用](#) を参照してください。
- 組織間で設定の変更を移行します。[メタデータ API の使用](#) および [メタデータ API の使用](#) を参照してください。
- XML メタデータファイルを使用して組織の既存のカスタマイズを変更します。[メタデータ API の使用](#) および [メタデータ API の使用](#) を参照してください。
- 組織のカスタマイズをプログラムで管理します。「[CRUD ベースのメタデータ開発](#)」、[メタデータ API の使用](#)、[メタデータ API の使用](#)、および [メタデータ API の使用](#) を参照してください。

Developer Edition または Sandbox でテスト組織のメタデータを変更し、Enterprise Edition または Unlimited Edition の本番組織にテスト済みの変更をリリースすることができます。また、カスタムオブジェクト、カスタム項目およびその他のコンポーネントを使用して新しい組織を入力するスクリプトも作成できます。

サポート対象の Salesforce のエディション

メタデータ API を使用するには、Enterprise Edition、Unlimited Edition、または Developer Edition を使用する必要があります。既存の Salesforce のお客様で Enterprise Edition または Unlimited Edition のいずれかにアップグレードする場合は、担当者にご連絡ください。

本番組織の厳密なレプリカである Sandbox を使用することを強くお勧めします。Enterprise Edition および Unlimited Edition には、無料の開発者 Sandbox が付属しています。詳細は、

を参照してください。

また、ユーザは Enterprise Edition で使用できるすべての機能へのアクセスを提供する Developer Edition 組織を使用できます。ただし、ユーザ数およびストレージ容量には制限があります。Developer Edition 組織は、本番組織のコピーではありませんが、組織のデータに影響を与えることなくソリューションを構築およびテストできる環境を提供します。Developer Edition のアカウントは、から無料で入手できます。



メモ: メタデータコンポーネントは、メタデータ API がメタデータコンポーネントに対して動作するように組織で参照可能になっている必要があります。また、ユーザはメタデータコンポーネントへのアクセス権を持つには、「API の有効化」権限も必要です。

開発プラットフォーム

メタデータ API では、ファイルベースおよび CRUD ベースの開発の両方をサポートしています。

ファイルベースの開発

宣言型またはファイルベースの非同期のメタデータ API である `retrieveMetadata` コールおよび `retrieveMetadataById` コールでは、フォルダのセットでコンポーネントを保持する `MetadataComponent` ファイルおよび `MetadataComponent` という名前のマニフェストファイルをリリースまたは取得します。詳細は、「[メタデータのリリースと取得](#)」(ページ 19)を参照してください。Force.com IDE または Force.com 移行ツールを使用すると、最も簡単にファイルベースの機能にアクセスできます。

CRUD ベースの開発

CRUD ベースの非同期メタデータ API コールである `createMetadata`、`updateMetadata`、および `deleteMetadata` は、Enterprise WSDL の同期 API コールによるオブジェクトに対する動作と同様にメタデータコンポーネントに対して動作します。Enterprise WSDL についての詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』を参照してください。



メモ: CRUD (create、read、update、delete) というと、read コールが存在するように思われますが、CRUD ベースの開発には read コールに相当するものではありません。メタデータを参照する場合、ファイルベースの `retrieveMetadata` コールを使用します。

`createMetadata` コール、`updateMetadata` コール、および `deleteMetadata` コールは、ユーティリティコール `executeMetadata` と併用します。詳細は、「[CRUD ベースのメタデータ開発](#)」を参照してください。

標準への準拠

メタデータ API は、次の仕様に準拠するよう実装されています。

標準名	Web サイト
Simple Object Access Protocol (SOAP) 1.1	
Web Service Description Language (WSDL) 1.1	
WS-I Basic Profile 1.1	

メタデータ API サポートポリシー

Salesforce.com ではメタデータ API の以前のバージョンをサポートしています。ただし、新しいクライアントアプリケーションでは、より豊富な機能と優れた効率性の利点を十分に生かすには、最新バージョンの Force.com メタデータ API の WSDL ファイルを使用する必要があります。

後方互換性

Salesforce.com では、Force.com プラットフォームを使用している場合の後方互換性を容易にできるよう努めています。

新しい Salesforce リリースは、次の 2 つのコンポーネントで構成されています。

- salesforce.com システムにある新しいリリースのプラットフォームソフトウェア
- 新しいバージョンの API

たとえば、Spring '07 リリースには API バージョン 9.0 が、Summer '07 リリースには API バージョン 10.0 が含まれていました。

プラットフォームソフトウェアのリリースにわたって、各 API バージョンのサポートを維持しています。指定された API バージョンを処理するよう作成されたアプリケーションが、今後のプラットフォームソフトウェアのリリースで同じバージョンの API を継続して処理するよう、API には後方互換性があります。

あるバージョンの API に対して作成されたアプリケーションが将来の API バージョンを使用することは保証されません。API が拡張し続けているため、メソッド署名およびデータ表示の変更が必要な場合が多くあります。ただし、変更を新しい API バージョンに移行する必要がある場合、バージョン間の API の一貫性は最小限に保持されます。

たとえば、Spring '07 リリースに付属する API バージョン 9.0 を使用して作成されたアプリケーションは、Summer '07 リリースの API バージョン 9.0、また今後のリリースにも対応し続けます。ただし、アプリケーションを変更せずに、同じアプリケーションで API バージョン 10.0 を使用することはできません。

API の有効期限

Salesforce.com では、最初のリリース日から最低 3 年 API バージョンをサポートします。API の品質およびパフォーマンスを充実させ、改善するために、3 年を超えるバージョンのサポートは停止される場合があります。

API バージョンに廃止の予定がある場合、サポートが終了する最低 1 年前までに事前通知されます。Salesforce.com は、廃止予定の API バージョンを使用するお客様に直接通知します。

関連リソース

第 2 章

クイックスタート

Force.com IDE または Force.com 移行ツールを使用すると、最も簡単にメタデータ API の機能にアクセスできます。これらのツールはメタデータ API の上位に構築され、メタデータ API との連携タスクを簡略化するために標準 Eclipse および Ant ツールを使用します。Eclipse プラットフォームで開発された Force.com IDE は、統合された開発環境に慣れているプログラマに快適な環境を提供し、IDE 内でコード記述、コンパイル、テスト、リリースのすべてを行うことができます。Force.com 移行ツールは、スクリプトまたはコマンドラインユーティリティを使用してローカルディレクトリと Salesforce 組織間でメタデータを移動する場合に最適です。Force.com IDE または Force.com 移行ツールについての詳細は、developer.force.com を参照してください。

ただし、メタデータ API の基礎となるコールは、独自のクライアントアプリケーションを構築する必要があるユーザが直接使用できるよう公開されています。このクイックスタートでは、組織のカスタマイズを管理するためにメタデータ API を直接使用するアプリケーションの作成を開始するのに必要なすべての情報について説明します。このクイックスタートでは、ファイルベースの開発を開始する方法について説明します。CRUD ベースの開発の例については、「[CRUD ベース開発用の Java のサンプルコード](#)」を参照してください。

前提条件

メタデータ API を使用し始める前に、次の前提条件を必ず実行してください。

- 開発環境を作成します。

本番組織の厳密なレプリカである Sandbox を使用することを強くお勧めします。Enterprise Edition および Unlimited Edition には、無料の開発者 Sandbox が付属しています。詳細は、[こちら](#)を参照してください。

また、ユーザは Enterprise Edition で使用できるすべての機能へのアクセスを提供する Developer Edition 組織を使用できます。ただし、ユーザ数およびストレージ容量には制限があります。Developer Edition 組織は、本番組織のコピーではありませんが、組織のデータに影響を与えることなくソリューションを構築およびテストできる環境を提供します。Developer Edition のアカウントは、[こちら](#)から無料で入手できます。

- 「API の有効化」および「すべてのデータの編集」権限を持つユーザを特定します。これらの権限はメタデータ API コールにアクセスするために必要です。
- SOAP クライアントをインストールします。メタデータ API は、Visual Studio® .NET や Force.com Web Service Connector (WSC) などに限らず、現在の SOAP 開発環境で動作します。

このドキュメントでは、WSC および JDK 6 (Java Platform Standard Edition Development Kit 6) に基づく Java の例を使用しています。サンプルを実行するには、まず mvnrepository.com/artifact/com.force.api/force-wsc/ から最

新の force-wsc JAR ファイルとその連動関係 (連動関係リストはバージョンを選択したときにページに表示されます) をダウンロードします。



メモ: 開発プラットフォームは、SOAP の実装によって異なります。特定の開発プラットフォームにおける実装の相違点により、メタデータ API の一部またはすべての機能にアクセスできないことがあります。

ステップ 1: 組織の Web サービス WSDL の生成または取得

メタデータ API コールにアクセスするには、Web Service Description Language (WSDL) ファイルが必要です。WSDL ファイルは、使用できる Web サービスを定義します。開発プラットフォームではこの WSDL を使用してスタブコードを生成し、WSDL が定義する Web サービスにアクセスします。組織の Salesforce システム管理者から WSDL ファイルを取得することも、WSDL ダウンロードページへのアクセス権限がある場合は Salesforce ユーザーインターフェースで自分で生成することもできます。WSDL の詳細は、[を参照してください](#)。

メタデータ API コールにアクセスするには、Enterprise WSDL および Partner WSDL で定義されているコールを使用して Web サービスを使用するための認証を行う必要があります。そのため、これらの WSDL の 1 つを取得する必要もあります。

「すべてのデータの編集」権限を持つユーザなら誰でも WSDL ファイルをダウンロードし、Salesforce プラットフォームを統合および拡張できます (システム管理者プロファイルにこの権限が与えられます)。

[ステップ 3: Java サンプルコードの説明](#) (ページ 7) のサンプルコードでは Enterprise WSDL を使用していますが、Partner WSDL でも同様に適切に機能します。

組織のメタデータおよび Enterprise WSDL ファイルを生成する手順は、次のとおりです。

1. Salesforce 取引先にログインします。「すべてのデータの編集」権限を持つ管理者またはユーザとしてログインします。
2. [設定] から、[開発] > [API] をクリックします。
3. [メタデータ WSDL の生成] をクリックして、ファイルシステムに XML WSDL ファイルを保存します。
4. [Enterprise WSDL の生成] をクリックして、ファイルシステムに XML WSDL ファイルを保存します。

ステップ 2: 開発プラットフォームへの WSDL ファイルのインポート

WSDL ファイルを作成したら、開発環境でクライアント Web サービスアプリケーションの構築に必要なオブジェクトを生成できるよう、WSDL ファイルを開発プラットフォームにインポートする必要があります。このセクションでは、WSC のサンプルについて説明します。その他の開発環境の指示については、プラットフォームの製品マニュアルを参照してください。



メモ: WSDL ファイルをインポートするプロセスは、メタデータファイルおよび Enterprise WSDL ファイルの場合と同じです。

Java 環境での使用方法 (WSC)

Java 環境は、サーバ側オブジェクトのプロキシとして機能する Java オブジェクトを使用して、API にアクセスします。API を使用する前に、まず組織の WSDL ファイルからこれらのオブジェクトを生成する必要があります。

SOAP クライアントには、このプロセスで使用する独自のツールがあります。WSC では、ユーティリティを使用します。



メモ: を実行する前に、システムに WSC JAR ファイルがインストール済みであり、クラスパスで参照されている必要があります。 mvnrepository.com/artifact/com.force.api/force-wsc/ から最新の force-wsc JAR ファイルとその連動関係 (連動関係リストはバージョンを選択したときにページに表示されます) をダウンロードできます。

の基本構文は、次のとおりです。

```
pathToWsc;pathToWscDependencies  
pathToWsd1/Wsd1Filename pathToOutputJar/OutputJarFilename
```

たとえば、Window の場合、次のようになります。

Mac OS X および UNIX では、クラスパスの項目間にセミコロンではなくコロンを使用します。

は、クライアントアプリケーションの作成で使用する JAR ファイル、Java ソースコード、およびバイトコードファイルを生成します。Enterprise WSDL でもこのプロセスを繰り返し、enterprise.JAR ファイルを作成します。

ステップ 3: Java サンプルコードの説明

WSDL ファイルをインポートすると、メタデータ API を使用するクライアントアプリケーションの構築を開始できます。このサンプルは、独自のコードを記述するための出発点として適しています。

サンプルを実行する前に、プロジェクトとコードを次のように変更します。

1. WSC JAR、その連動関係、および WSDL から生成した JAR ファイルを含めます。



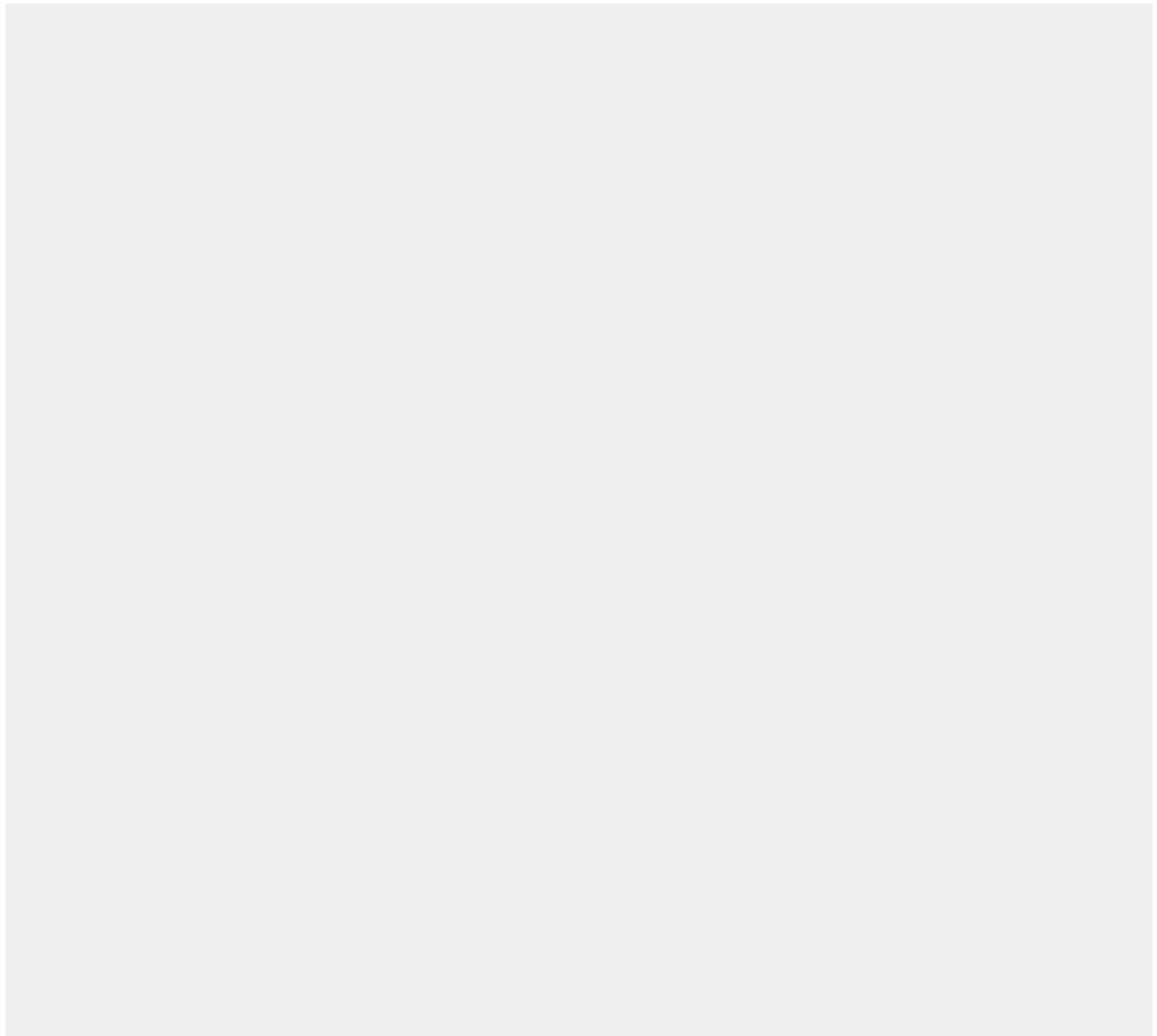
メモ: WSC には他の連動関係がありますが、次のサンプルでは Rhino (js-1.7R2.jar) のみが必要です。

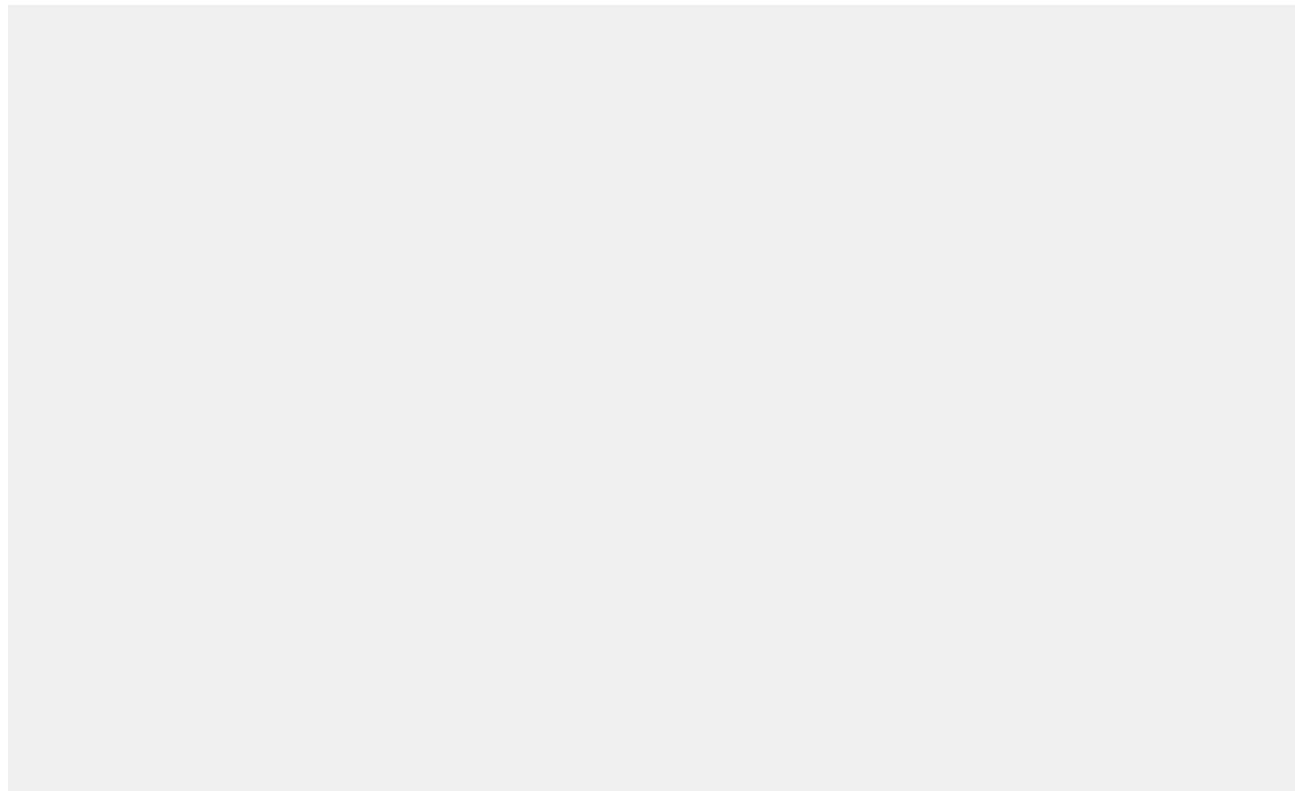
2. 自分のユーザ名とパスワードを使って、メソッドの USERNAME 変数と PASSWORD 変数を更新します。現在の IP アドレスが組織の信頼済み IP 範囲内にない場合は、セキュリティ トークンをパスワードに追加する必要があります。
3. Sandbox を使用している場合は、必ずログイン URL を変更してください。

ログインユーティリティ

Java ユーザは、を使用して、Enterprise API、Partner API、および Metadata SOAP API に接続
できます。は オブジェクトを作成し、Enterprise WSDL の login メソッ
ドを使用してログインします。次に、と を取得して を作成
し、メタデータ API のエンドポイントに接続します。は WSC で定義されています。

クラスは、サンプルの他の部分からログインコードを抽象化するため、Salesforce API ごと
に変更を行わずにこのコードの一部を再利用できます。





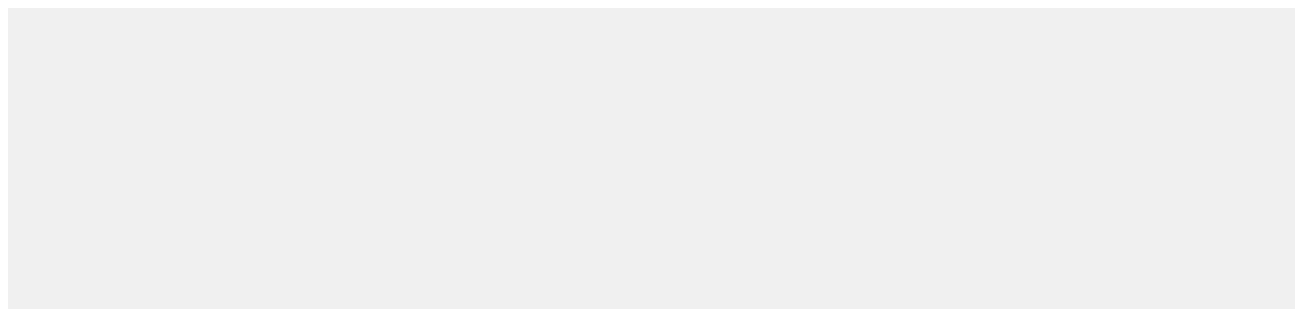
ファイルベース開発用の Java のサンプルコード

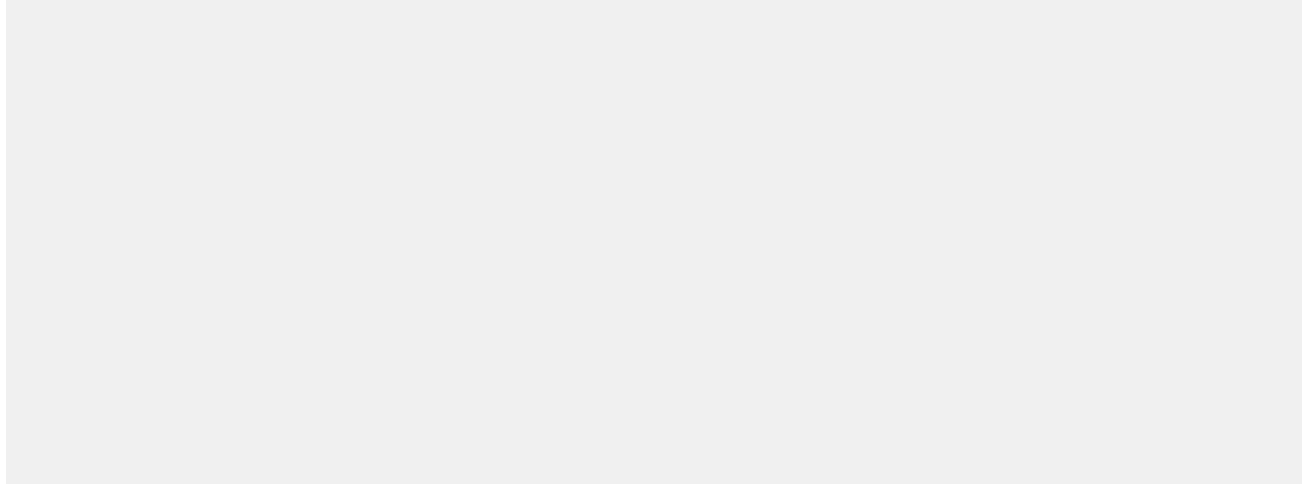
サンプルコードは、[ログインユーティリティ](#)を使用してログインします。次に、取得、リリース、および終了のメニューを表示します。

コールおよび コールは両方とも という名前の .zip ファイルを処理します。 コールは組織のコンポーネントを に取得し、 コールは のコンポーネントを組織にリリースします。コンピュータにサンプルを保存して実行する場合は、後でリリースできる ファイルを含めることができるように、まず取得オプションを実行します。retrieve または deploy コールの後、 の状況値が操作の完了を示すまで、ループで をチェックします。

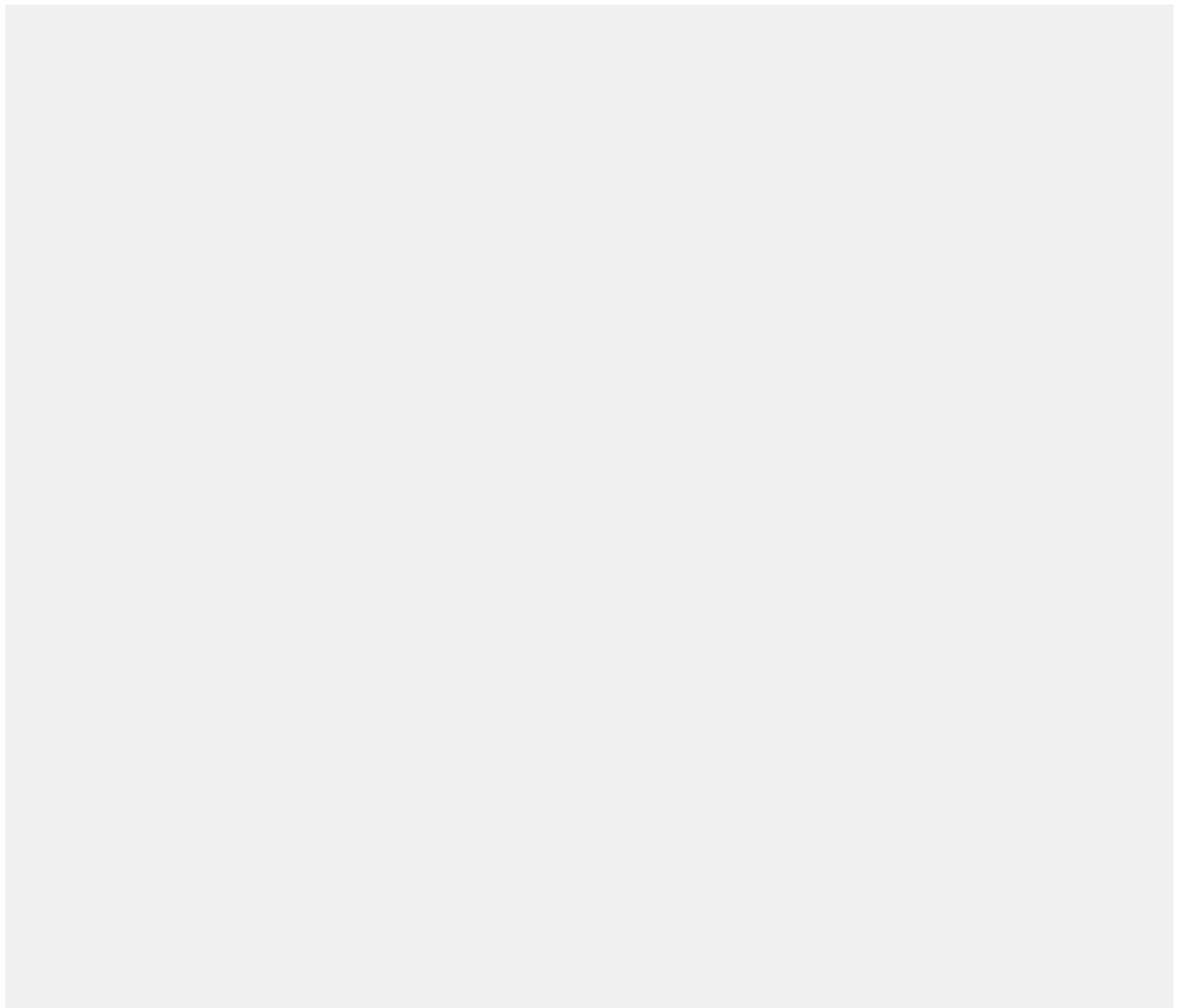
コールは、マニフェストファイルを使用して組織から取得するコンポーネントを決定します。

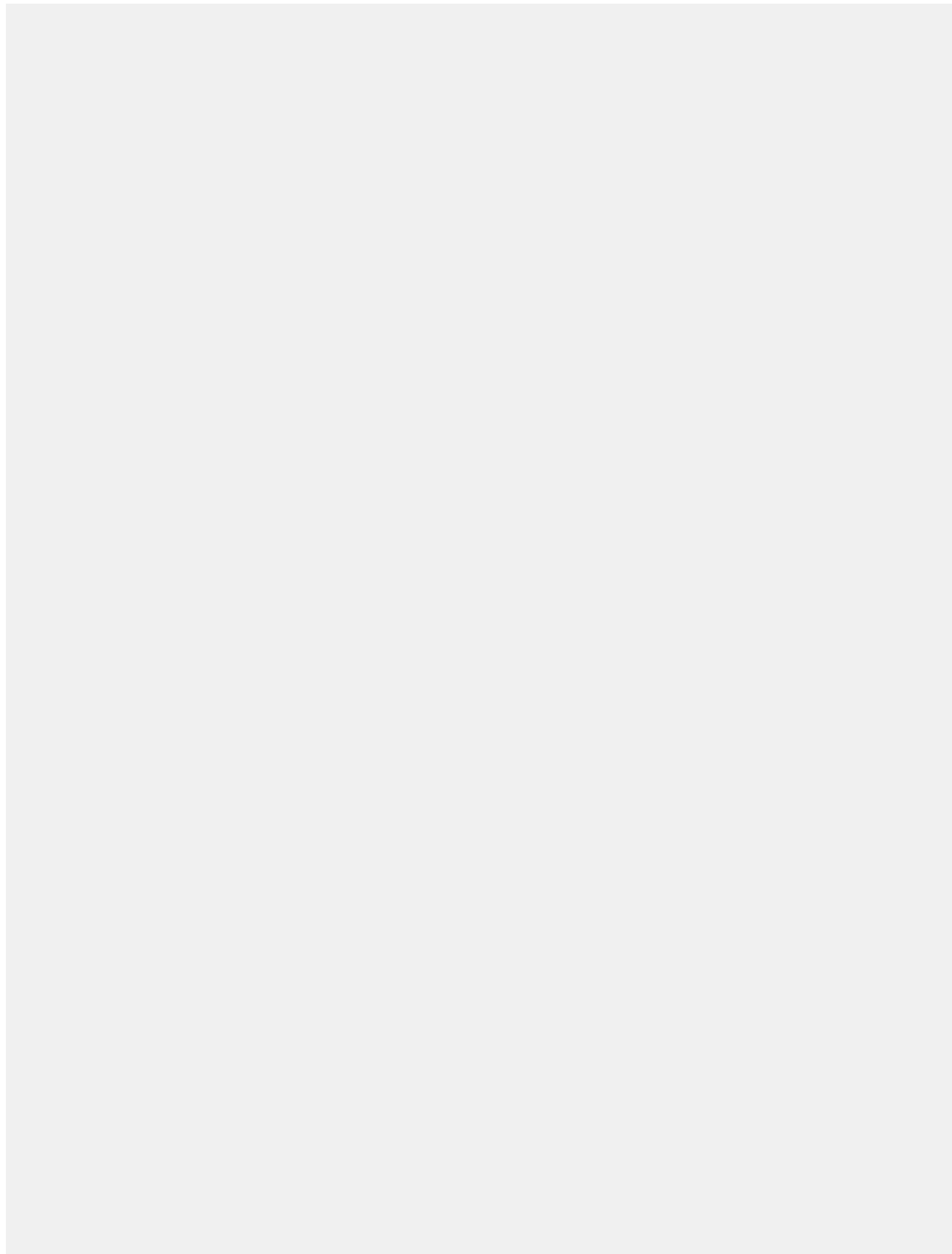
マニフェストファイルのサンプルは次のとおりです。マニフェストファイルの構造についての詳細は、「[Zip ファイルの使用](#)」を参照してください。このサンプルでは、マニフェストファイルはすべてのカスタムオブジェクト、カスタムタブ、およびページレイアウトを取得します。

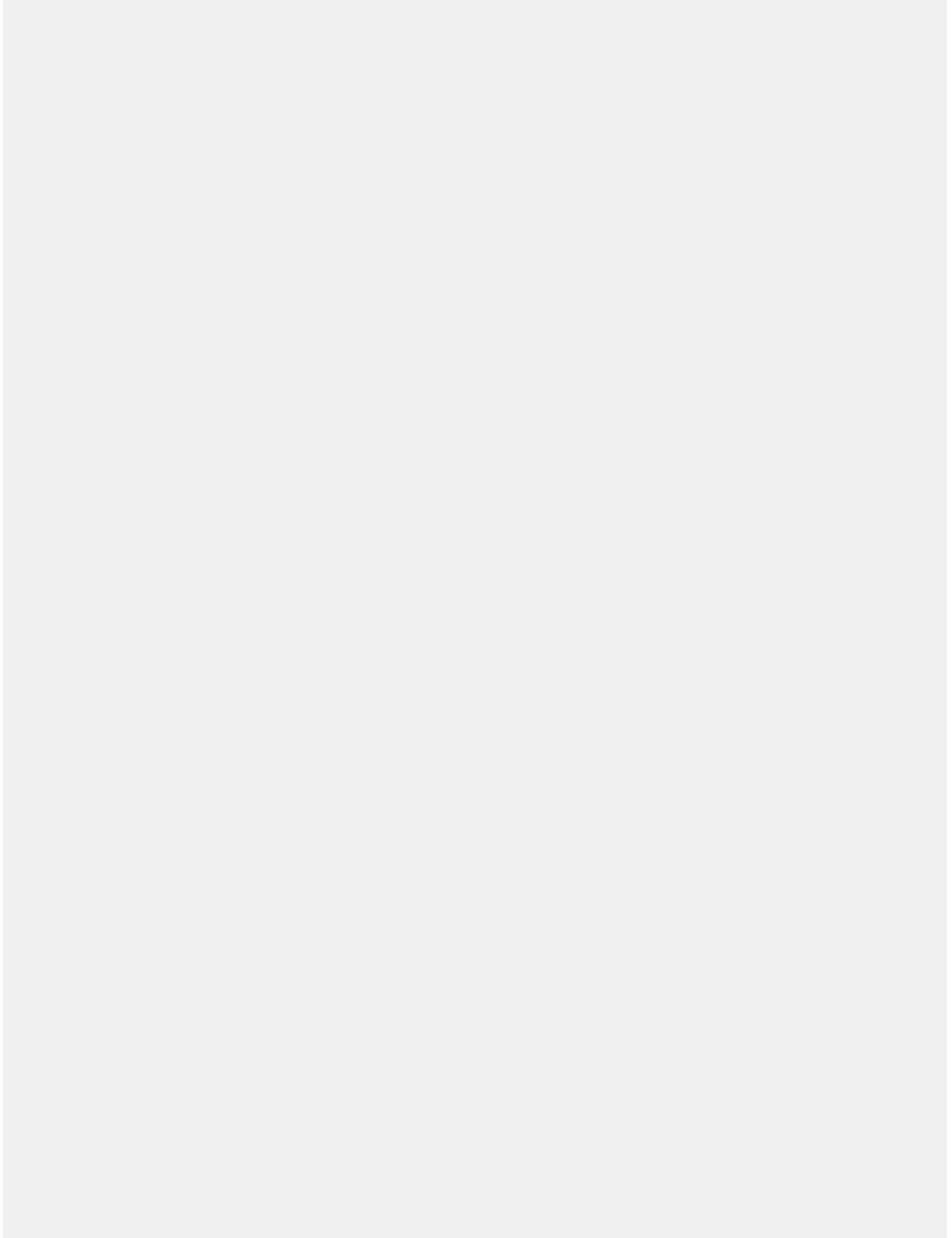


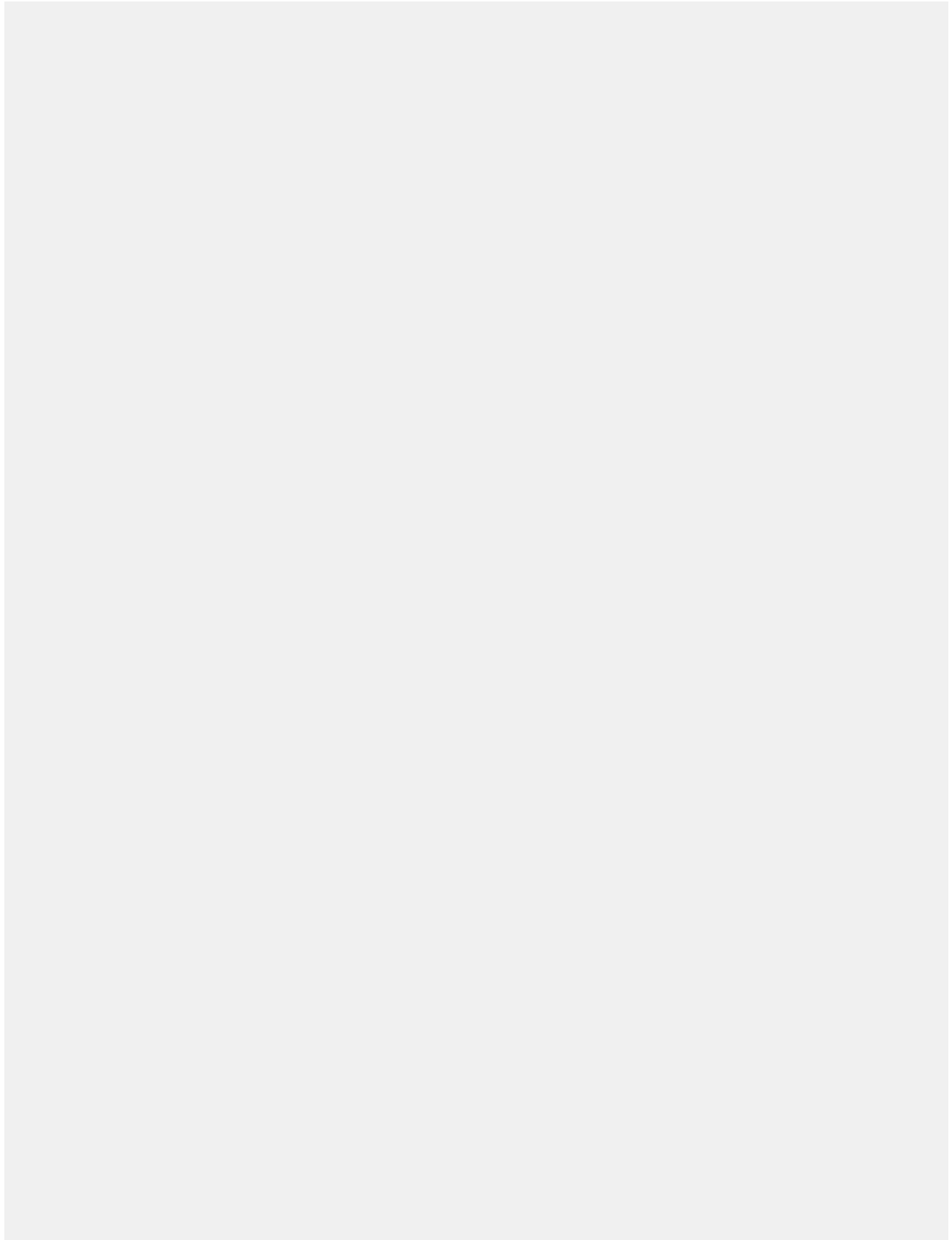


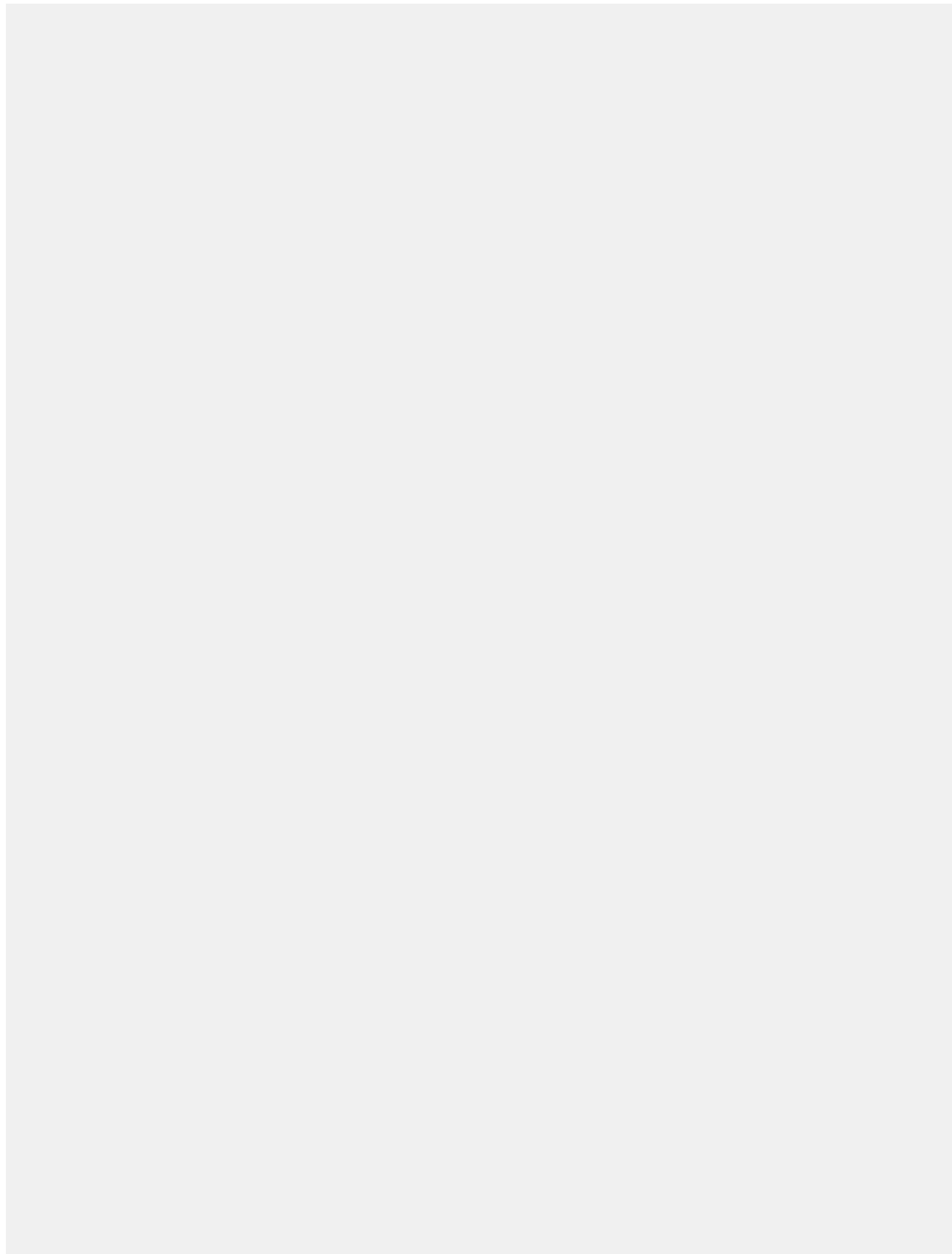
API コールに続く、エラー処理コードに注意してください。

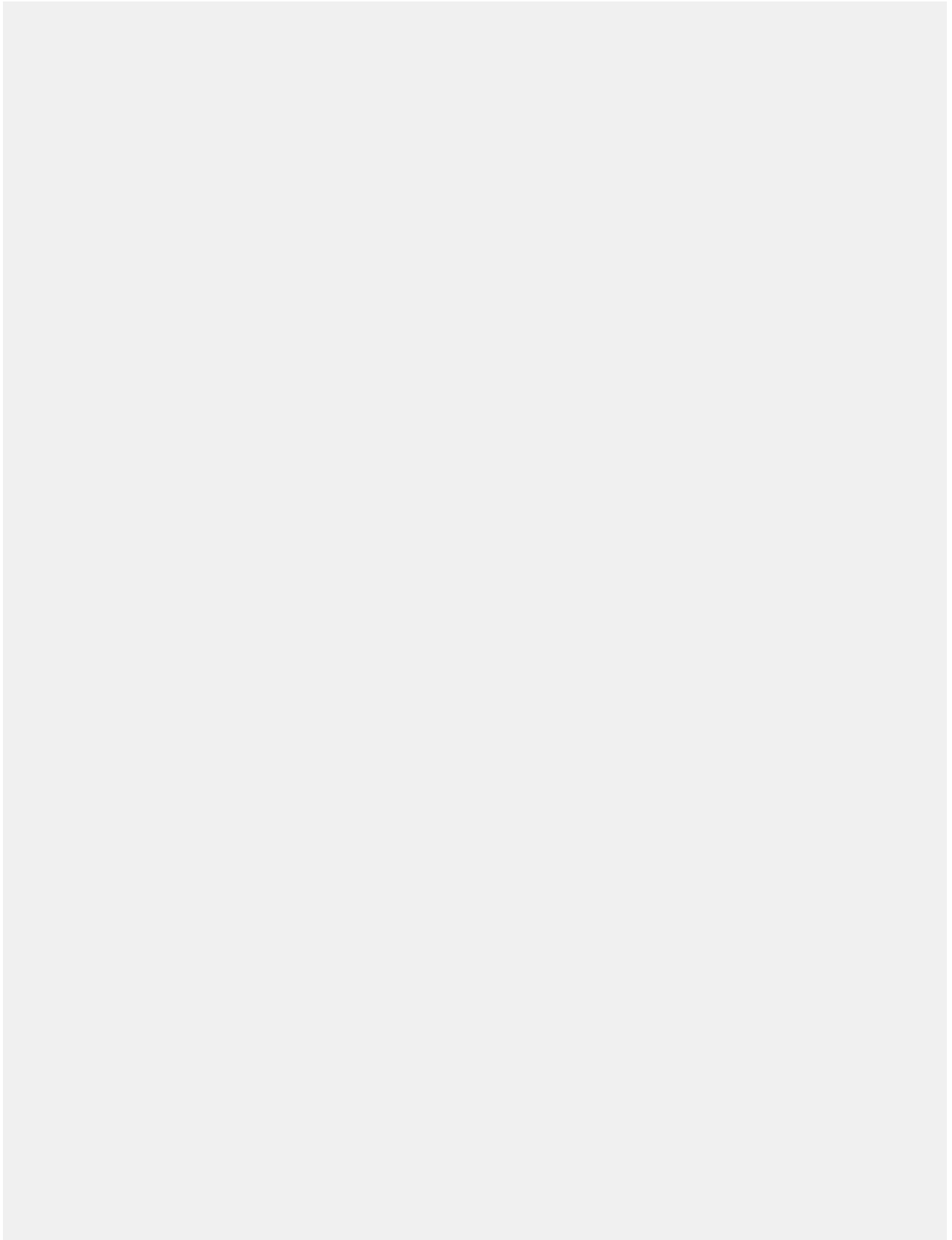


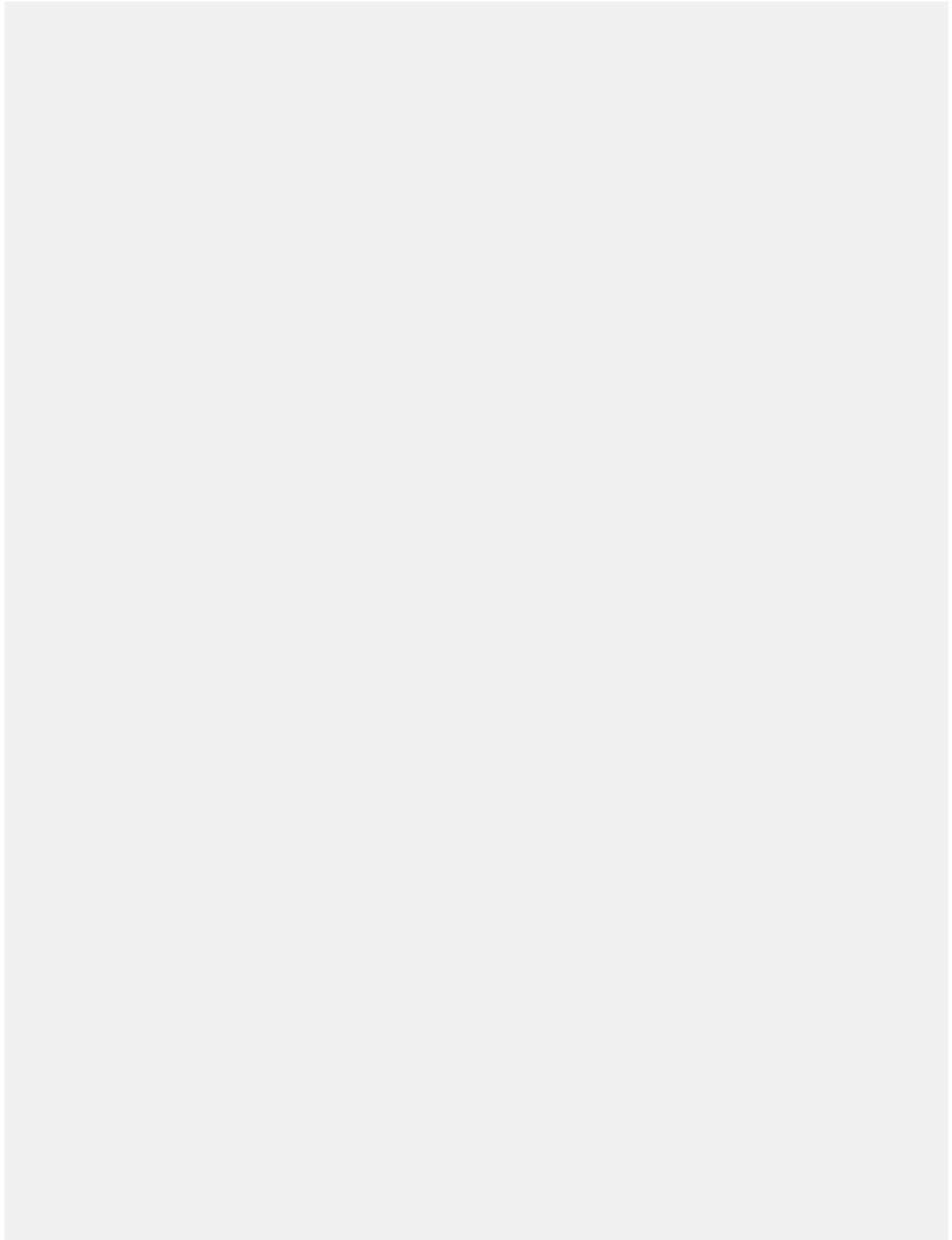


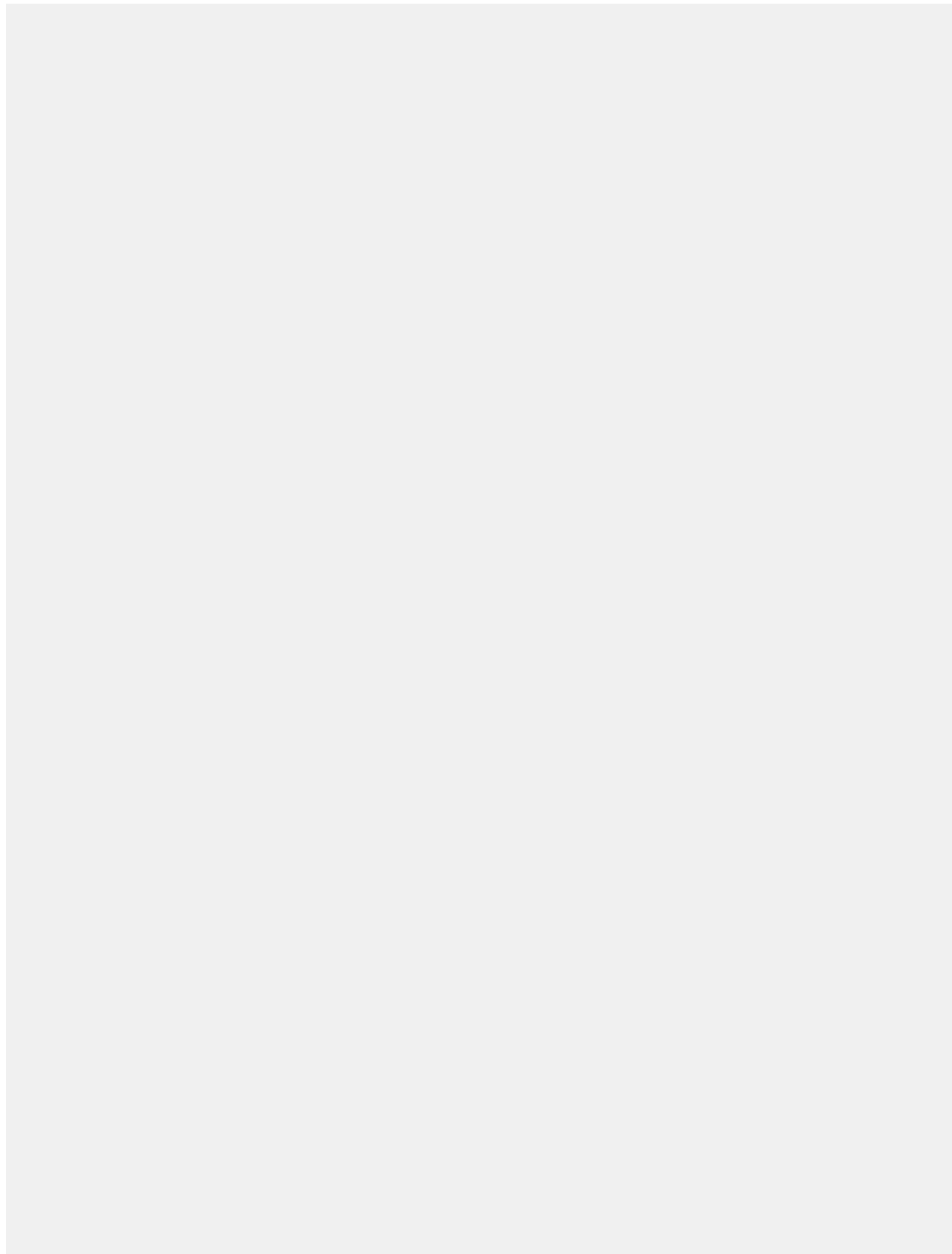


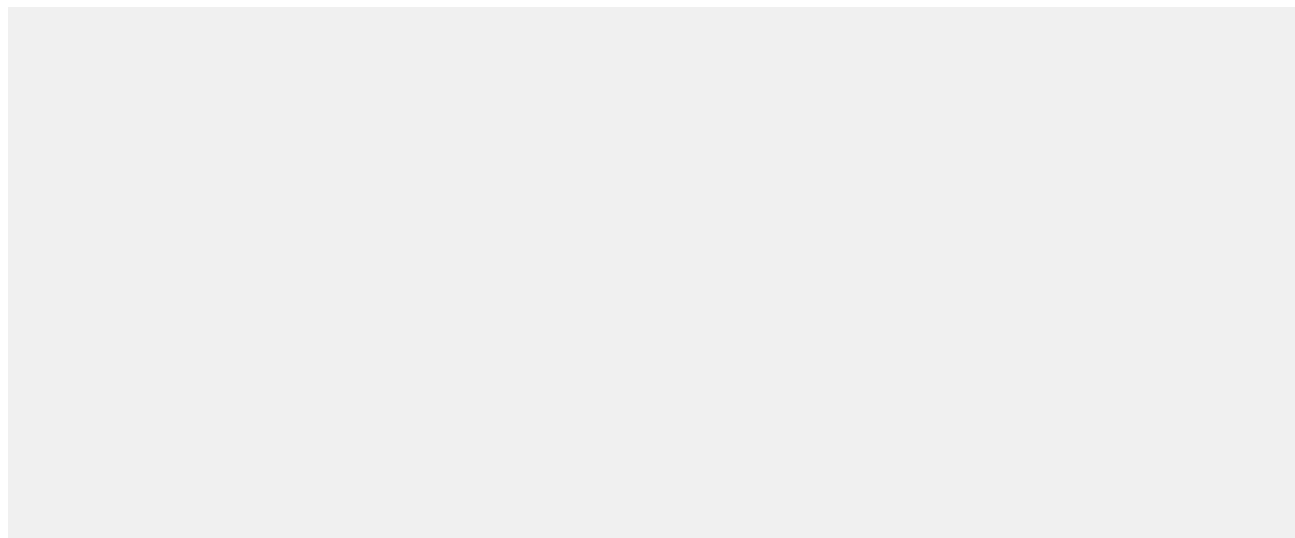












メタデータ API の使用

第 3 章

メタデータのリリースと取得

メタデータを Salesforce 組織とローカルファイルシステム間で移動するには、`sfdx` コールと `sf` コールを使用します。ファイルシステムに XML ファイルを取得すると、ソースコード制御システムでの変更管理、コードまたは設定・定義のコピーと貼り付け、コンポーネントへの変更の diff 出力、およびその他多数のファイルベース開発操作の実行を行えるようになります。これらの変更は、随時別の Salesforce 組織にリリースできます。



メモ: Force.com IDE および Force.com 移行ツールは、`sfdx` コールと `sf` コールを使用して、メタデータを移動します。これらのツールを使用する場合、メタデータ API を使用した操作をバックグラウンドでシームレスに行えます。そのため、ほとんどの開発者は、`sfdx` と `sf` を直接コールするコードを作成するよりも、これらのツールを使用するほうがより簡単だと考えます。

XML ファイルのデータは、英語(米国)ロケールで書式設定されます。こうすることによって、異なる言語を使用する組織間でデータを移行するときに、ロケールに依存する日付項目などの項目が一貫して解釈されます。組織は、ユーザに表示するための複数の言語をサポートできます。

`sfdx` コールと `sf` コールは、主に、次の開発状況で使用されます。

- `sandbox` 組織でのカスタムアプリケーション (またはカスタマイズ) の開発。開発およびテストが完了すると、アプリケーションまたはカスタマイズはメタデータ API を使用して本番組織にリリースされます。
- Developer Edition 組織でのアプリケーションのチーム開発。開発とテストが完了すると、Force.com AppExchange を介してアプリケーションを配布できます。

Zip ファイルの使用

`sfdx` コールと `sf` コールは、.zip ファイルをリリースおよび取得するために使用されます。.zip ファイル内には、取得またはリリースする項目の一覧を示すプロジェクトマニフェスト `sfdx-project.json` やフォルダに整理された 1 つ以上の XML コンポーネントが含まれます。



メモ: コンポーネントは、メタデータ型のインスタンスです。たとえば、`CustomObject` はカスタムオブジェクトのメタデータ型で、`CustomObject__c` コンポーネントはカスタムオブジェクトのインスタンスです。

.zip で取得またはリリースされるファイルは、組織内にあるパッケージ化されていないコンポーネント（標準オブジェクトなど）、または指定したパッケージ内にあるパッケージコンポーネントである場合があります。



メモ: メタデータ API は、一度に最大 5,000 個のファイルをリリースおよび取得できます。特定のファイルサイズ制限が適用されていない場合は、非常に大きいファイルではメモリ不足エラーが発生する可能性があります。


各 .zip ファイルには、プロジェクトマニフェスト、
という名前のファイル、およびコンポーネントを含むディレクトリのセットが含まれます。マニフェストファイルは、.zip ファイルで取得またはリリースしようとしているコンポーネントを定義します。

ファイルのサンプルを次に示します。要素に
項目値を指定して、メタデータ型の個別のコンポーネントを取得できます。または、
を使用して、メタデータ型のすべてのコンポーネントを取得することもできます。

次の要素は、
に定義されている場合があります。

- には、サーバ側パッケージの名前が含まれます。
が存在しない場合、これは、クライアント側の
パッケージです。
- には、取得またはリリースされるメタデータ型の名前（
など）および指定メンバー（
など）が含まれます。マニフェストファイルには複数の
要素が含まれる場合があります。各指定コンポーネントあたり 1 つのエントリと個々のメンバーあたり 1 つのエントリがあります。
- には、
など、コンポーネントの
が含まれます。
コールは、個々のコンポーネントを取得する場合に、特定のメタデータ型のコンポーネントの
を

特定する場合に役立ちます。多くのメタデータ型の場合、各メンバーを個別に書き出す代わりに、の値をワイルドカード文字（アスタリスク）に置き換えることができます。メタデータ型テーブルの 列の値が「はい」となっているメタデータ型は、いずれもこのワイルドカードの使用をサポートしています。



メモ: SecuritySettings コンポーネントの種類を取得する場合には、要素で Security を指定し、name 要素で Settings を指定します。

- には、またはなどのメタデータ型が含まれます。ディレクトリの各メタデータ型には1つの名前が定義されています。Metadata を拡張するすべてのメタデータ型は有効な値です。入力される名前は、メタデータ API WSDL に定義されているメタデータ型に一致する必要があります。リストについては、「Metadata コンポーネントおよびメタデータ型」を参照してください。
- は、.zip ファイルをリリースまたは取得するときに使用される API のバージョン番号です。現在のところ、有効な値はです。

異なるメタデータのサブセットを使用する方法を説明した マニフェストファイルのその他のサンプルは、「 マニフェストファイルのサンプル」を参照してください。

項目を削除するには、同じ手順を実行します。ただし、の代わりに、マニフェストファイルを指定します。組織に存在しない項目がファイルに含まれる場合、指定した項目のうち組織に存在する項目のみが削除されます。ごみ箱をスキップするには、を参照してください。

メタデータ型

次のテーブルには、メタデータ API を使用して取得またはリリースできるすべてのメタデータ型、ファイルで使用されるメタデータ型の XML 名、コンポーネントの取得先フォルダ、コンポーネント取得時におけるワイルドカード (*) 記号の使用の可否、および該当する場合はこのコンポーネントに関する注意が記載されています。

コンポーネント	XML <name> メタデータ型	フォルダ	*のメモ 使用
取引先条件に基づく共有ルール			はい AccountCriteriaBasedSharingRule は、として表され、AccountSharingRules コンポーネントに含まれます。
取引先所有者の共有ルール			はい AccountOwnerSharingRule は、として表され、AccountSharingRules コンポーネントに含まれます。
取引先のテリトリー共有ルール			はい AccountTerritorySharingRule は、として表され、

コンポーネント	XML <name> メタデータ型	フォルダ	*の 使用	メモ
				AccountTerritorySharingRules コンポーネントに含まれます。
override アクション			いいえ	このタイプはオブジェクトファイルの一部として取得またはリリースされます。コンポーネント名の前のオブジェクト名をドット修飾する必要があります。ActionOverride には、これを含む CustomObject にアクセスすることによってのみアクセスできます。
活動設定	ActivitiesSettings		はい	組織の活動設定と、カレンダー用のユーザインターフェース設定を表します。
住所の設定			はい	国選択リストと都道府県選択リストの設定を表します。国選択リストと都道府県選択リストおよび AddressSettings メタデータ型は、ベータリリースに含まれています。
分析スナップショット			いいえ	
Apex クラス			はい	
承認プロセス			はい	<p>変更セットでサポートされます。管理パッケージでも未管理パッケージでもサポートされません。</p> <p>ワイルドカード (*) 記号を使用すると、すべてのオブジェクトのすべての承認プロセスを取得できます。ワイルドカードは承認プロセスのサブセットの取得には使用できません。</p> <p>のような構文はサポートされません。</p>
記事タイプ			はい	

コンポーネント	XML <name> メタデータ型	フォルダ	*のメモ 使用
Apex トリガ			はい
割り当てルール			はい 特定のオブジェクトの個々のルールにアクセスする場合は、 の代わりに を使用します。
認証プロバイダ			いいえ
自動レスポンス ルール		autoResponseRules	はい 特定のオブジェクトの個々のルールにアクセスする場合は、 の代わりに を使用します。
ビジネスプロセス			いいえ このタイプはオブジェクトファイルの一部として取得またはリリースされます。コンポーネント名の前のオブジェクト名をドット修飾する必要があります。
コールセンター			はい
キャンペーン条件に基づく共有 ルール			はい CampaignCriteriaBasedSharingRule は、 として表され、CampaignSharingRules コンポーネントに含まれます。
ケースの設定			はい
キャンペーン所有者の共有ルール			はい CampaignOwnerSharingRule は、 として表され、 CampaignSharingRules コンポーネントに含まれます。
会社の設定			はい
ケース条件に基づく共有ルール			はい CaseCriteriaBasedSharingRule は、 として表され、CaseSharingRules コンポーネントに含まれます。

コンポーネント	XML <name> メタデータ型	フォルダ	*の 使用	メモ
ケース所有者の共有ルール			はい	CaseOwnerSharingRule は、 として表され、 CaseSharingRules コンポーネントに含まれます。
Chatter アンサーの設定			はい	
コミュニティ			はい	
取引先責任者条件に基づく共有ルール			はい	ContactCriteriaBasedSharingRule は、 として表され、 ContactSharingRules コンポーネントに含まれます。
取引先責任者所有者の共有ルール			はい	ContactOwnerSharingRule は、 として表され、 ContactSharingRules コンポーネントに含まれます。
契約の設定			はい	
カスタムオブジェクト条件に基づく共有ルール			はい	CustomObjectCriteriaBasedSharingRule は、 として表され、 CustomObjectSharingRules コンポーネントに含まれます。
カスタムオブジェクト所有者の共有ルール			はい	CustomObjectOwnerSharingRule は、 として表され、 CustomObjectSharingRules コンポーネントに含まれます。
カスタムアプリケーション			はい	
カスタム項目			はい	カスタム項目はカスタムオブジェクトファイルの一部として取得またはリリースされます。コンポーネント名の前のオブジェクト名をドット修飾する必要があります。個々のカスタム項目は、ワイルドカード (*) 記号を使用して取得することはできませんが、 セクション

[illegible]

コンポーネント	XML <name> メタデータ型	フォルダ	*のメモ 使用
エンタイトルメントの設定			はい
エンタイトルメントテンプレート			はい
エスカレーションルール		escalationRules	はい 特定のオブジェクトの個々のルールにアクセスする場合は、 の代わりに を使用します。
項目セット			はい
フロー			はい ファイルは、フロー定義のXML 表現です。
フォルダ		、 または	はい フォルダには、ドキュメント、メールテンプレート、レポート、またはダッシュボードが含まれます。取得またはリリースするフォルダの種類 (Document、EmailTemplate、Report、Dashboard) を指定する必要があります。
FolderShare		または	はい 拡張分析フォルダの共有設定を表します。レポートまたはダッシュボードを含むフォルダへの閲覧者、エディタまたはマネージャアクセス権を他のユーザに付与することにより、レポートまたはダッシュボードへのアクセスを制御できます。
ForecastingSettings		での	はい ForecastingSettings の値は、対応するパッケージディレクトリのディレクトリという 1 つのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが 1 つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

コンポーネント	XML <name> メタデータ型	フォルダ	*のメモ 使用
グループ			はい
ホームページのコンポーネント			はい
ホームページのページレイアウト			はい
アイデアの設定			はい
インストール済みパッケージ			はい インストールまたはアンインストールするパッケージを表します。現在インストールされているパッケージの新バージョンをリリースすると、パッケージがアップグレードされます。
ナレッジの設定			はい
レターヘッド			いいえ
リストビュー			いいえ このタイプはオブジェクトファイルの一部として取得またはリリースされます。コンポーネント名の前のオブジェクト名をドット修飾する必要があります。
Live Agent の設定			はい
Live Agent のエージェント設定			はい
Live Agent の[チャット]ボタン			はい
Live Agent のリリース			はい

コンポーネント	XML <name> メタデータ型	フォルダ	*のメモ 使用
Live Agent のスキル			はい
ルックアップ検索条件			はい このタイプはオブジェクトファイルの一部として取得またはリリースされます。コンポーネント名の前のオブジェクト名をドット修飾する必要があります。
リード条件に基づく共有ルール			はい LeadCriteriaBasedSharingRule は、 として表され、LeadSharingRules コンポーネントに含まれます。
リード所有者の共有ルール			はい LeadOwnerSharingRule は、 として表され、 LeadSharingRules コンポーネントに含まれます。
マイルストーンタイプ			はい
モバイル設定			はい
Network			はい
商談条件に基づく共有ルール			はい OpportunityCriteriaBasedSharingRule は、 として表され、OpportunitySharingRules コンポーネントに含まれます。
商談所有者の共有ルール			はい OpportunityOwnerSharingRule は、 として表され、 OpportunitySharingRules コンポーネントに含まれます。
商談の設定			はい え
ページレイアウト			はい

コンポーネント	XML <name> メタデータ型	フォルダ	*のメモ 使用
権限セット			はい
ポータル			はい
商品設定			はい え
プロフィール			はい
キュー			はい
QuickAction			はい Chatter パブリッシャーで使用可能となるオブジェクトに対して指定された作成または更新アクションを表します。たとえば、取引先の詳細ページで、ユーザがそのページの Chatter フィードからその取引先に関連する取引先責任者を作成するアクションを作成できます。 QuickAction は、カスタム項目が許可されたオブジェクトで作成できます。
見積設定			はい え
レコードタイプ			はい このタイプはオブジェクトファイルの一部として取得またはリリースされます。コンポーネント名の前のオブジェクト名をドット修飾する必要があります。
リモートサイトの設定			はい
レポート			はい え

コンポーネント	XML <name> メタデータ型	フォルダ	*の 使用	メモ
レポートタイプ			はい	カスタムレポートタイプを使用すると、ユーザがレポートを作成またはカスタマイズできるフレームワークを構築できます。
ロール			はい	
Sコントロール			はい	非推奨。Visualforce ページ。
セキュリティ設定			はい	
共有の理由			はい	このタイプはオブジェクトファイルの一部として取得またはリリースされます。コンポーネント名の前のオブジェクト名をドット修飾する必要があります。
共有再適用			はい	このタイプはオブジェクトファイルの一部として取得またはリリースされます。コンポーネント名の前のオブジェクト名をドット修飾する必要があります。
静的リソース			はい	
テリトリー			はい	
トランスレーションワークベンチ			はい	
入力規則			はい	このタイプはオブジェクトファイルの一部として取得またはリリースされます。コンポーネント名の前のオブジェクト名をドット修飾する必要があります。
Visualforce コンポーネント			はい	

コンポーネント	XML <name> メタデータ型	フォルダ	*のメモ 使用
Visualforce ページ			はい
Web リンク			いいえ このタイプはオブジェクトファイルの一部として取得またはリリースされます。コンポーネント名の前のオブジェクト名をドット修飾する必要があります。
ワークフロー			はい ファイルは、オブジェクトに関連付けられた個々のワークフローコンポーネントのコンテナです。

関連リンク

[サポートされていないメタデータ型](#)

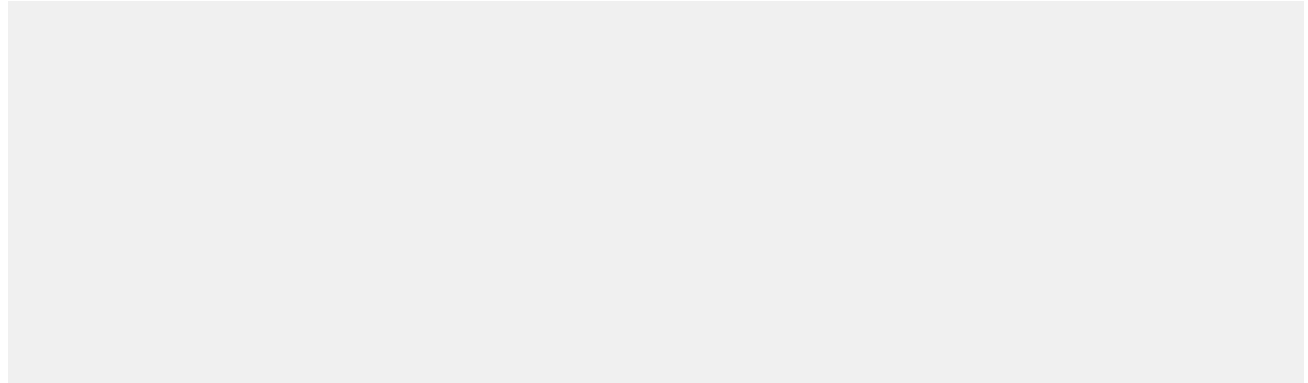
package.xml マニフェストファイルのサンプル

このセクションには、異なるメタデータのサブセットを使用する方法を説明する マニフェストファイルのサンプルが含まれます。マニフェストファイルには、複数の 要素を含めることができるため、1つのバッチですべてのメタデータを使用する場合は、個々のサンプルを1つの マニフェストファイルに組み入れることができます。マニフェストファイルの構造についての詳細は、「[Zip ファイルの使用](#)」を参照してください。次のサンプルがリストされています。

- [標準オブジェクト](#)
- [すべてのカスタムオブジェクト](#)
- [標準選択リスト項目](#)
- [カスタム項目](#)
- [標準オブジェクトのリストビュー](#)
- [パッケージ](#)
- [セキュリティ設定](#)
- [割り当てルール、自動レスポンスルール、エスカーレーションルール](#)

標準オブジェクト

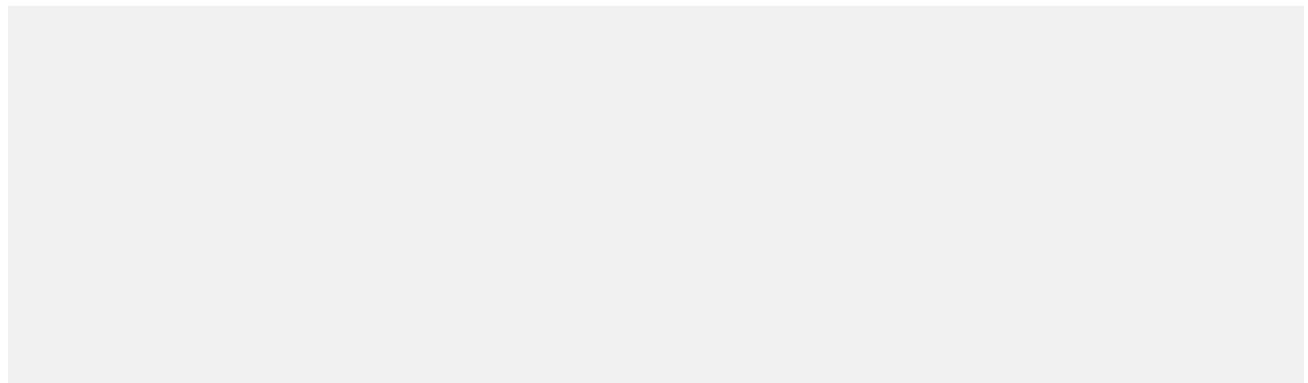
この マニフェストファイルのサンプルでは、標準の Account オブジェクトの使用方法を示します。標準オブジェクトの取得とリリースには、取引先のすべてのカスタム項目と、 項目などのすべての標準選択リスト項目が含まれます。



CustomObject タイプのメンバーとして標準の Account オブジェクトを指定することによって、どのようにそれを使用するかを確認してください。ただし、アスタリスクワイルドカードを使用してすべての標準オブジェクトを使用することはできません。それぞれの標準オブジェクトを名前指定する必要があります。

すべてのカスタムオブジェクト

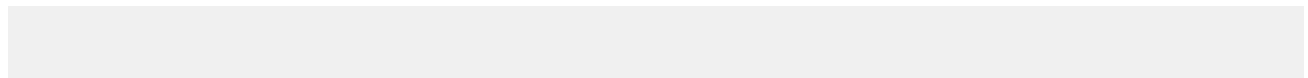
この マニフェストファイルのサンプルでは、すべてのカスタムオブジェクトの使用方法を示します。



このマニフェストファイルは、すべてのカスタムオブジェクトを取得またはリリースするために使用できます。これには、すべての標準オブジェクトは含まれません。

標準選択リスト項目

この マニフェストファイルのサンプルでは、標準の Account オブジェクトの 選択リスト項目を使用する方法を示します。



項目の `objectName picklistField` 構文において、`objectName` は などのオブジェクトの名前で、`picklistField` は 業種 などの標準選択リスト項目名です。

カスタム項目

この マニフェストファイルのサンプルでは、カスタムおよび標準オブジェクトでのカスタム項目の使用方法を示します。

項目の `objectName customField` 構文において、`objectName` は、Account などのオブジェクトの名前で、`customField` は、サービスレベル契約オプションを表す 選択リスト項目などのカスタム項目の名前です。MyCustomObject カスタムオブジェクトの カスタム項目は、その完全名によって一意に識別されます。

標準オブジェクトのリストビュー

標準オブジェクトのリストビューを取得する最も簡単な方法は、オブジェクトを取得することです。リストビューは、取得されたコンポーネントに含まれます。「[標準オブジェクト](#)」(ページ 32)を参照してください。

また、オブジェクトのすべての詳細情報を取得しない場合は、個々のリストビューを使用することもできます。この マニフェストファイルのサンプルでは、標準の Account オブジェクトのリストビューの使用方法を示します。

項目の `objectName listViewUniqueName` 構文において、`objectName` は、Account などのオブジェクトの名前で、`listViewUniqueName` は、リストビューの ビューの一意の名前 です。リストビューを取得すると、コンポーネントは、 に保存されます。

パッケージ

パッケージを取得するには、 をコールするときに、[RetrieveRequest](#) の 項目にパッケージの名前を設定します。 マニフェストファイルは、取得された ファイルに自動的に格納されます。 の 要素には、取得されたパッケージの名前が含まれます。

要素にアスタリスクワイルドカードを使用して特定のメタデータ型のすべてのコンポーネントを取得する場合、取得されたコンテンツには管理パッケージのコンポーネントは含まれません。

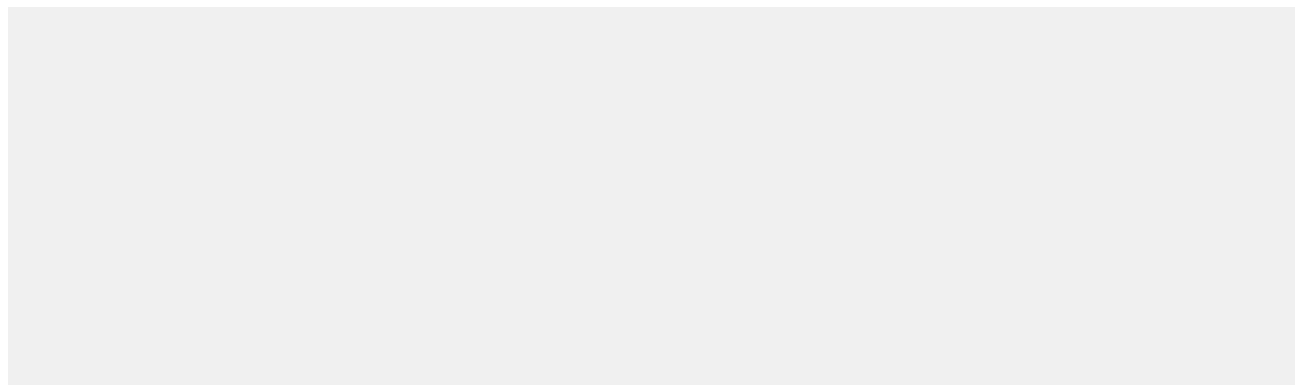
管理パッケージのコンポーネントを取得する最も簡単な方法は、前述のように、[RetrieveRequest](#) の 項目にパッケージの名前を設定することによって完全なパッケージを取得する方法です。次の マニフェストファイルのサンプルでは、パッケージの個々のコンポーネントを取得する代替方法を示します。

項目の `namespacePrefix__objectName` 構文において、`namespacePrefix` は、パッケージの名前空間プレフィックスで、`objectName` はオブジェクトの名前です。名前空間プレフィックスは、パッケージおよびそのコンテンツとその他の公開者のパッケージを区別する 1 ~ 15 文字の英数字で構成される識別子です。名前

空間プレフィックスについての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「名前空間プレフィックスの登録」を参照してください。

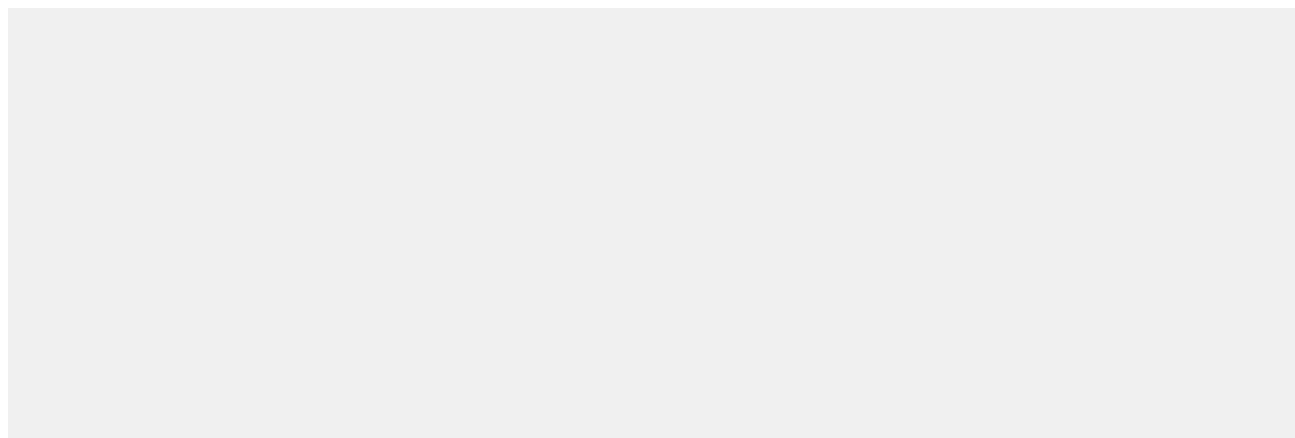
セキュリティ設定

この マニフェストファイルのサンプルでは、組織のセキュリティ設定の使用方法を示します。
SecuritySettings コンポーネントの種類を取得する場合には、 要素で Security を指定し、name 要素で Settings を指定します。

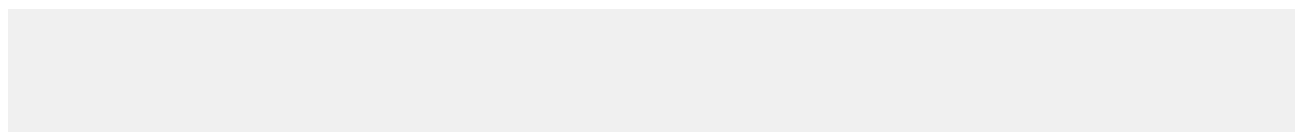


割り当てルール、自動レスポンスルール、エスカーレーションルール

割り当てルール、自動レスポンスルール、およびエスカーレーションルールでは、オブジェクト種別の一連のまたは個別のルールにアクセスするために、さまざまな 型名が使用されます。たとえば、マニフェストファイルの次のサンプルは、組織のケースとリードのみの割り当てルールにアクセスする方法を示しています。



マニフェストファイルの次のサンプルは、Case の「samplerule」割り当てルールとリードの「newrule」割り当てルールのみアクセスする方法を示しています。型名は ではなく、です。



同様に、個々の自動レスポンスルールとエスカレーションルールにアクセスする場合は、
と の代わりに と を使用します。

リリースでのテストの実行

本番組織へのリリースの場合、インストール済みの管理パッケージから作成されたテストを除く組織のすべてのテストは、自動的に実行されます。テストのいずれかが失敗した場合は、リリース全体がロールバックされます。

次の 1 つ以上のメタデータ型のコンポーネントをリリースする場合は、このルールに例外があります。

- ApexComponent
- ApexPage
- Dashboard
- EmailTemplate
- Report
- Scontrol
- StaticResource

1 つ以上のこれらのメタデータ型のコンポーネントでリリース全体が構成されている場合、テストは実行されません。ただし、リリースに他のいずれかのメタデータ型のコンポーネントが含まれている場合は、テストはすべて自動的に実行されます。

たとえば、次のリリースではテストは実行されません。

- 1 個の ApexComponent コンポーネント
- 100 個の Report コンポーネントおよび 40 個の Dashboard コンポーネント

次のリリースではすべてのテストが自動的に実行されます。

- 1 個の CustomField コンポーネント
- 1 個の ApexComponent コンポーネントおよび 1 個の ApexClass コンポーネント
- 5 個の CustomField コンポーネントおよび 1 個の ApexPage コンポーネント

- 100 個の Report コンポーネント、40 個の Dashboard コンポーネント、および 1 個の CustomField コンポーネント

関連リンク

[deploy\(\)](#)

ユーザ参照の保持

ユーザ項目は、メタデータのリリース中に保持されます。

ワークフローメール通知の受信者やダッシュボード実行ユーザなど、リリース時にコンポーネントで特定のユーザを参照すると、リリース中にユーザ名を比較することにより対象組織で一致するユーザが Salesforce によって検索されます。

たとえば、データを Sandbox にコピーする場合、ユーザ名を含む本番組織の項目は Sandbox 名を含むように変更されます。 という名前の Sandbox の場合、ユーザ名 は になります。Sandbox のメタデータを別の組織にリリースする場合、ユーザ名に含まれる は無視されます。

リリース時のユーザ参照では、Salesforce で次の順に処理が行われます。

1. ソース環境とターゲット環境でユーザ名が比較され、組織のドメイン名が適用されます。
2. 一致するユーザ名が複数存在すると、一致する名前が一覧表示され、ソース環境のいずれか 1 つのユーザ名を変更するよう要求されます。
3. ソース環境のユーザ名がターゲット環境に存在しない場合はエラーが表示され、ユーザ名を削除するかターゲット環境のユーザに解決するまでリリースは停止します。

第 4 章

CRUD ベースのメタデータ開発

組織またはアプリケーションの設定・定義コンポーネントを作成、更新、または削除するには、CRUD ベースのメタデータコールを使用します。これらの設定コンポーネントには、カスタムオブジェクト、カスタム項目、およびその他の設定メタデータが含まれます。メタデータコールは、コンポーネントの作成、更新、または削除について、Salesforce ユーザインターフェースの動作を模倣します。適用されるすべてのルールは、これらのコールにも適用されます。



メモ: CRUD (create、read、update、delete) というと、read コールが存在するかのようには思われますが、CRUD ベースの開発には read コールに相当するものではありません。メタデータを参照する場合、ファイルベースの `retrieve` コールを使用します。

メタデータコールは、コアの同期 API コールとは次の点で異なります。

- メタデータ API コールは、別の WSDL で使用できます。WSDL をダウンロードするには、Salesforce にログインし、[設定] で [開発] > [API] をクリックして、[メタデータ WSDL のダウンロード] リンクをクリックします。
- ログイン後、SOAP API 以外の URL を持つメタデータ API エンドポイントにメタデータ API コールを送信する必要があります。SOAP API `login` コールによって返される `LoginResult` から `url` を取得します。SOAP API についての詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』を参照してください。
- 対応するコアの同期コールと同じ名前のメタデータコールが、異なる署名で 3 つあります (`create`、`update`、`delete`)。また、特殊な `retrieve` ユーティリティコールもあり、同期コールの完了をポーリングするために使用します。
- メタデータコールは非同期であるため、結果は 1 つのコールで返されません。API コアコールは同期であるため、1 つのコールで結果が返されます。
- 返される応答は、異なる結果の型を返すコア API コールとは異なり、すべて `AsyncResult` 型です。

次の開発ワークフローは、CRUD ベースのメタデータコールに共通です。

- ログインユーザは、作成または更新するすべての必須項目を指定し、メタデータコールを発行します。
- Salesforce は、操作がキューから完了またはエラー状態に移行するたびに、各コンポーネントの状況情報で更新される `AsyncResult` オブジェクトを返します。
- ログインユーザは、`AsyncResult` の状況値を確認して、すべての create または update 操作が完了した日時を判断します。



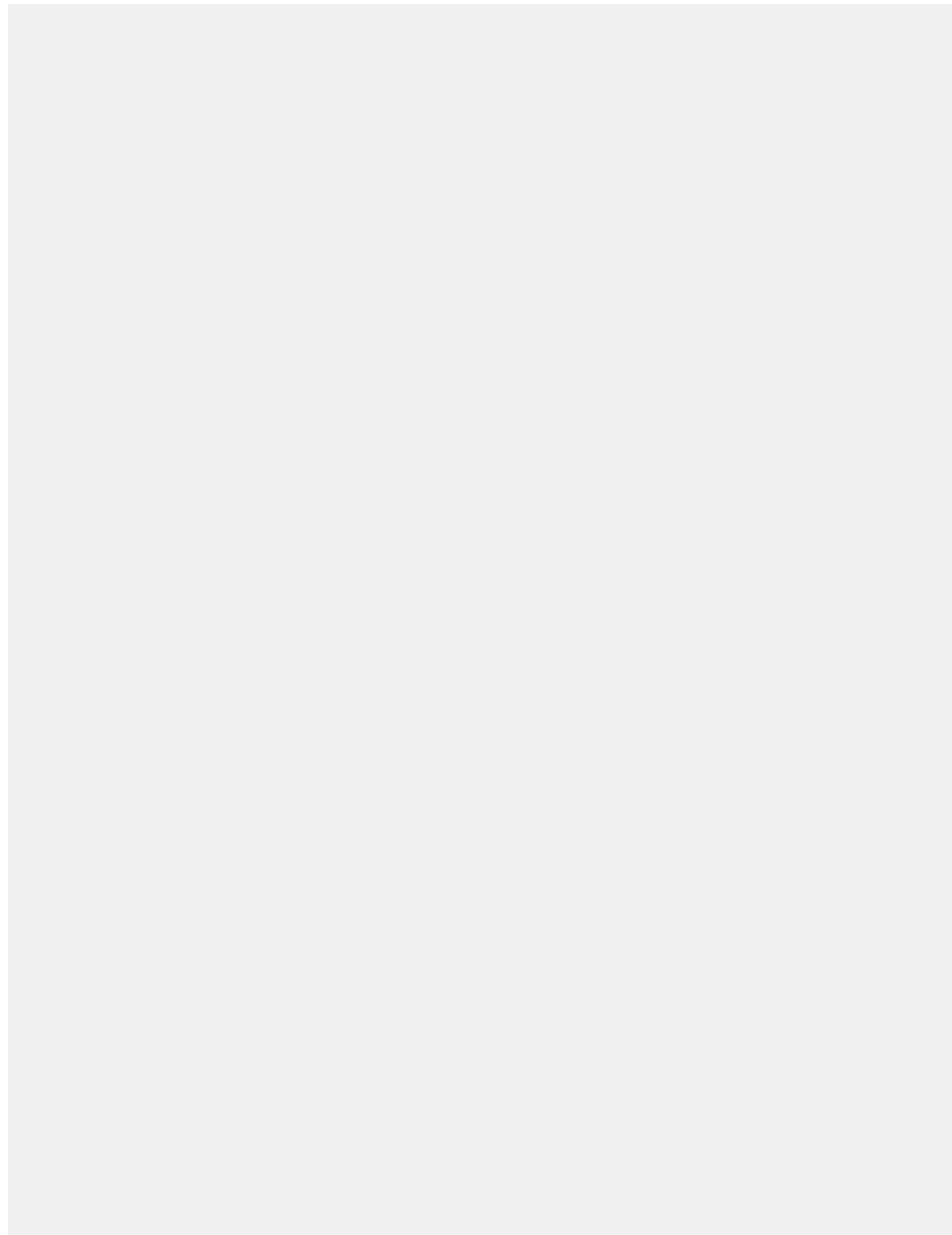
メモ: メタデータ API は、メタデータコンポーネントの取得とリリースを行う `retrieve` コールと `delete` コールもサポートしています。詳細は、『[メタデータのリリースと取得](#)』を参照してください。

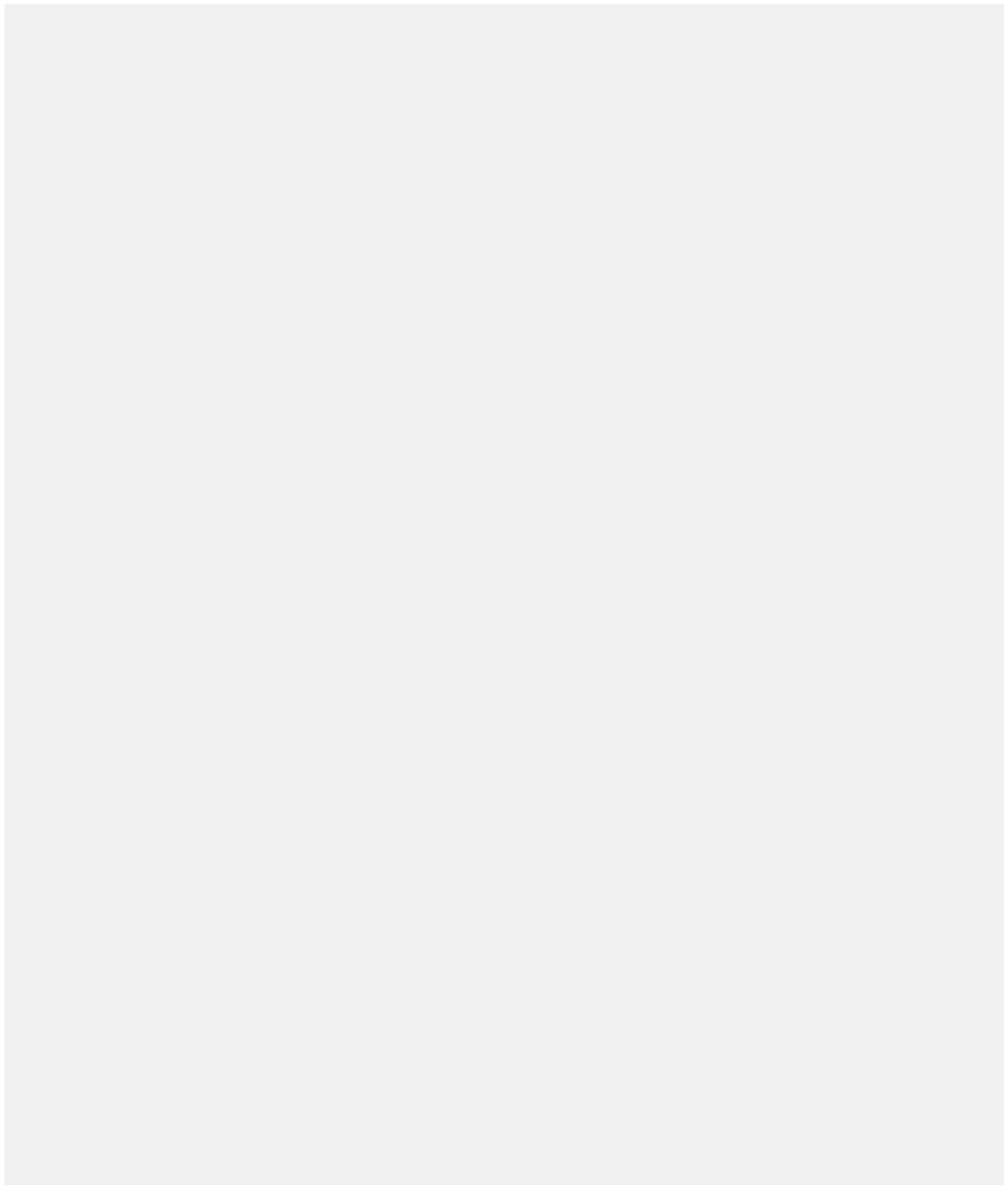
CRUD ベース開発用の Java のサンプルコード

このセクションでは、CRUD ベースのコールを使用する Java クライアントアプリケーションのサンプルについて説明します。このサンプルアプリケーションでは、次の主要なタスクを実行します。

1. `MetadataService` クラスを使用し、Metadata 接続を作成します。詳細は、「[ステップ 3: Java サンプルコードの説明](#)」を参照してください。
2. 新しいカスタムオブジェクトを作成するには、`create` をコールします。
Salesforce では、作成しようとしたコンポーネントごとに `AsyncResult` オブジェクトが返されます。`AsyncResult` オブジェクトは、操作がキューから完了またはエラー状態に移行するたびに、状況情報で更新されます。
3. `AsyncResult` の状況値が `create` 操作が完了したことを示すまで、ループで `poll` をコールします。

API コールに続く、エラー処理コードに注意してください。





第 5 章

エラー処理

メタデータ API コールは、クライアントアプリケーションがランタイムエラーを識別し解決するために使用できるエラー情報を返します。メタデータ API は次のタイプのエラー処理を提供します。

- メタデータ API は認証のために Enterprise WSDL または Partner WSDL を使用するため、不正なフォームのメッセージ、失敗した認証、または同様の問題によるエラーのためにこれらの WSDL で定義されている SOAP エラーメッセージを使用します。各 SOAP エラーには関連付けられた `ExceptionCode` があります。詳細は、[SOAP API Developer's Guide](#) の「Error Handling」を参照してください。
- `DescribeGlobal`、`DescribeGlobalWithFields`、および `DescribeGlobalWithFieldsAndRelationships` でのエラーについては、関連付けられているコンポーネントの `AsyncResult` オブジェクトの `GetExceptionCode` 項目のエラー状況コードを参照してください。
- `Deploy` でのエラーについては、関連付けられているコンポーネントの `DeployMessage` オブジェクトの `GetExceptionCode` 項目および `GetExceptionCode` 項目を参照してください。
- `Retrieve` でのエラーについては、関連付けられているコンポーネントの `RetrieveMessage` オブジェクトの `GetExceptionCode` 項目を参照してください。

サンプルコードについては、「[ステップ 3: Java サンプルコードの説明](#)」(ページ 7)を参照してください。

セッション終了のエラー処理

コールでサインオンする場合、新しいクライアントセッションが開始し、対応する一意のセッション ID が生成されます。セッションは、Salesforce アプリケーションの [セキュリティのコントロール] の設定領域で指定されている時間(デフォルトは2時間)が経過すると、自動的に期限切れになります。セッションが終了すると、例外コード `INVALID_SESSION_ID` が返されます。この場合、`connect` コールを再度呼び出す必要があります。`INVALID_SESSION_ID` についての詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』を参照してください。

第 6 章

ファイルベースのコール

XML コンポーネントをリリースまたは取得するには、次の [ファイルベース](#) のコールを使用します。

- ・
- ・

deploy()


ファイル表現のコンポーネントを使用して、組織のファイル表現のコンポーネントを作成、更新、または削除します。

構文

<code>zipFile</code>	<code>deployOptions</code>
----------------------	----------------------------

使用方法

このコールを使用して、ファイル表現のコンポーネントを取得し、ファイル表現のコンポーネントが表すコンポーネントを作成、更新、または削除することにより、組織にファイル表現のコンポーネントをリリースします。



メモ: メタデータ API は、一度に最大 5,000 個のファイルをリリースおよび取得できます。特定のファイルサイズ制限が適用されていない場合は、非常に大きいファイルではメモリ不足エラーが発生する可能性があります。

パッケージ化されたコンポーネントまたはパッケージ化されていないコンポーネントをリリース (作成または更新) する手順は、次のとおりです。

1. コールを発行して、非同期リリースを開始すると、[AsyncResult](#) オブジェクトが返されます。コールが完了すると、`items` 項目に `items` が含まれます。ほとんどの場合、コールはすぐに完了しないため最初の結果に記述されません。完了している場合、返された `items` 項目の値を書き留め、次のステップを省略します。
2. コールが完了していない場合、前のステップで `items` コールから返された [AsyncResult](#) オブジェクトの `items` 項目の値を使用して、ループで `items` コールを発行します。 `items` 項目に `items` が含まれるまで、

返される `AsyncResult` オブジェクトを確認します。 コールを完了するまでにかかる時間は、リリースされる zip ファイルのサイズによって異なるため、zip ファイルのサイズが大きくなるほど、反復間の待機時間をより長くする必要があります。

3. 最初のステップで返された 値を使用して、 コールを発行し、 コールの結果を取得します。

項目を削除するには、同じ手順を実行します。ただし、 の代わりに、マニフェストファイル を指定します。組織に存在しない項目がファイルに含まれる場合、指定した項目のうち組織に存在する項目のみが削除されます。ごみ箱をスキップするには、 を参照してください。

処理中または過去 7 日間で完了したリリースの状況を追跡するには、[設定] で [監視] > [リリース] をクリックします。

[リリースの監視] ページで、処理中のリリースをキャンセルできます。リリースをキャンセルするには、[中止] をクリックします。リリースが完全にキャンセルされるまで、リリースの状況は「中止要求済み」になります。

権限

クライアントアプリケーションは、「すべてのデータの編集」権限でログインしている必要があります。

引数

名前	型	説明
	base64	Base 64 で符号化されたバイナリデータ クライアントアプリケーションは、バイナリデータを base64 に符号化する必要があります。
	<code>DeployOptions</code>	リリースするパッケージまたはファイルを特定するためのオプションをカプセル化します。

DeployOptions

このコールでは次のリリースオプションを選択できます。

名前	型	説明
	boolean	ファイルが では指定されているが、 ファイルにはない場合でもリリースを継続するか()、否か()を指定します。 本番組織へのリリースでは、この引数を設定することはできません。
	boolean	ファイルが ファイルにはあるが、 で指定されていない場合、ファイルを自動的にパッケージに追加するか()、否か()を指定します。 ファイルを含む が更新された場合は、 が自動的に発行されます。

名前	型	説明
		本番組織へのリリースでは、この引数を設定することはできません。
	boolean	Apex クラスおよびトリガをリリースの一部として組織に保存するか()、否か()を示します。デフォルトは です。発行済みのエラーまたはメッセージもすべて生成されます。このパラメータは、Salesforce Ant ツールの パラメータと似ています。
	boolean	<p>警告を無視してリリースの正常な完了を許可するか()、否か()を示します。デフォルトは です。</p> <p>警告の DeployMessage オブジェクトには次の値が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> — — 警告のテキスト <p>警告が発生し、 が に設定されている場合は、DeployMessage の 項目は です。 が に設定されている場合、 は に設定され、警告はエラーとして処理されます。</p> <p>この項目は API バージョン 18.0 以降で使用できません。バージョン 18.0 より前では、警告とエラーは区別されていませんでした。すべての問題はエラーとして処理され、リリースの成功を妨げていました。</p>
	boolean	コールをリリース直後に実行するか()、否か()を示します。リリース直後のものをすべて取得するには に設定します。
	boolean	<p>の場合、 マニフェストファイルの削除されたコンポーネントはごみ箱に保存されません。代わりに、即座に削除の対象となります。</p> <p>この項目は API バージョン 22.0 以降で使用できません。</p> <p>このオプションは Developer Edition 組織または Sandbox 組織でのみ機能しますが、本番組織では機能しません。</p>
	boolean	エラーが発生した場合、ロールバックを完了するか()、否か()を示します。 の場合、エラーなしで実行できるアクションのセットはすべ

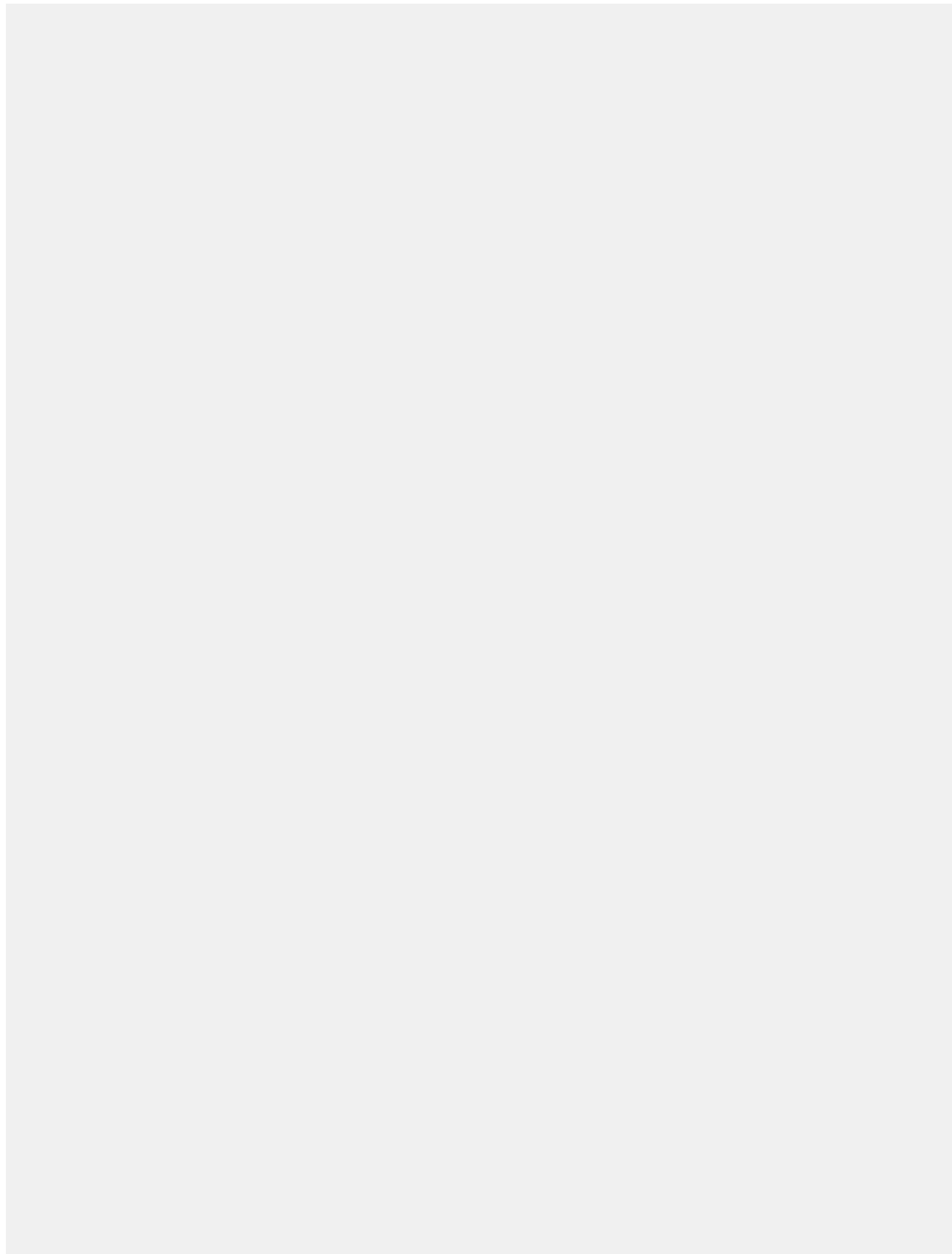
名前	型	説明
		て実行され、残りのアクションではエラーが返されます。本番組織にリリースする場合は、このパラメータは に設定されている必要があります。
	boolean	<p>の場合、組織で定義されているすべての Apex テストが実行されます。</p> <p>本番組織へのリリースの場合、インストール済みの管理パッケージから作成されたテストを除くすべてのテストは、この引数に関係なく自動的に実行されます。パラメータが true に設定されているときにテストのいずれかが失敗した場合は、リリース全体がロールバックされます。</p>
	string[]	<p>リリース時に実行される Apex テストのリスト。クラス名 (1 インスタンスあたり 1 つの名前) を指定します。また、クラス名にはドット付きの名前空間を指定することもできます。たとえば、3 つのテストを実行するには、次のコードを使用します。</p> <p>パラメータが に設定されているときにこれらのテストのいずれかが失敗した場合は、リリースがロールバックされ、組織への変更は行われません。</p>
	boolean	<p>指定された ファイルが指し示すディレクトリ構造が 1 つのパッケージを持つか ()、パッケージのセットを持つか () を示します。</p>

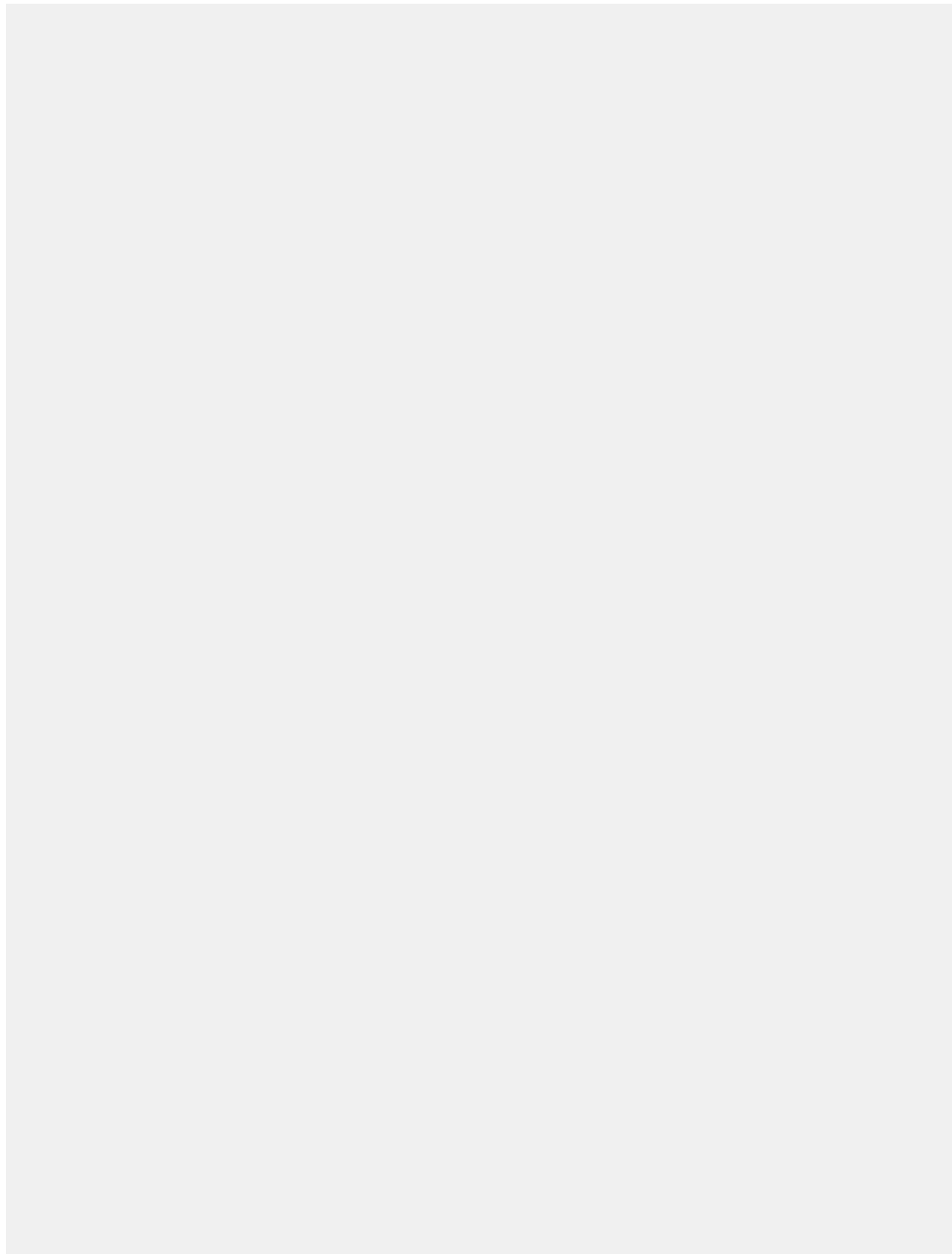
応答

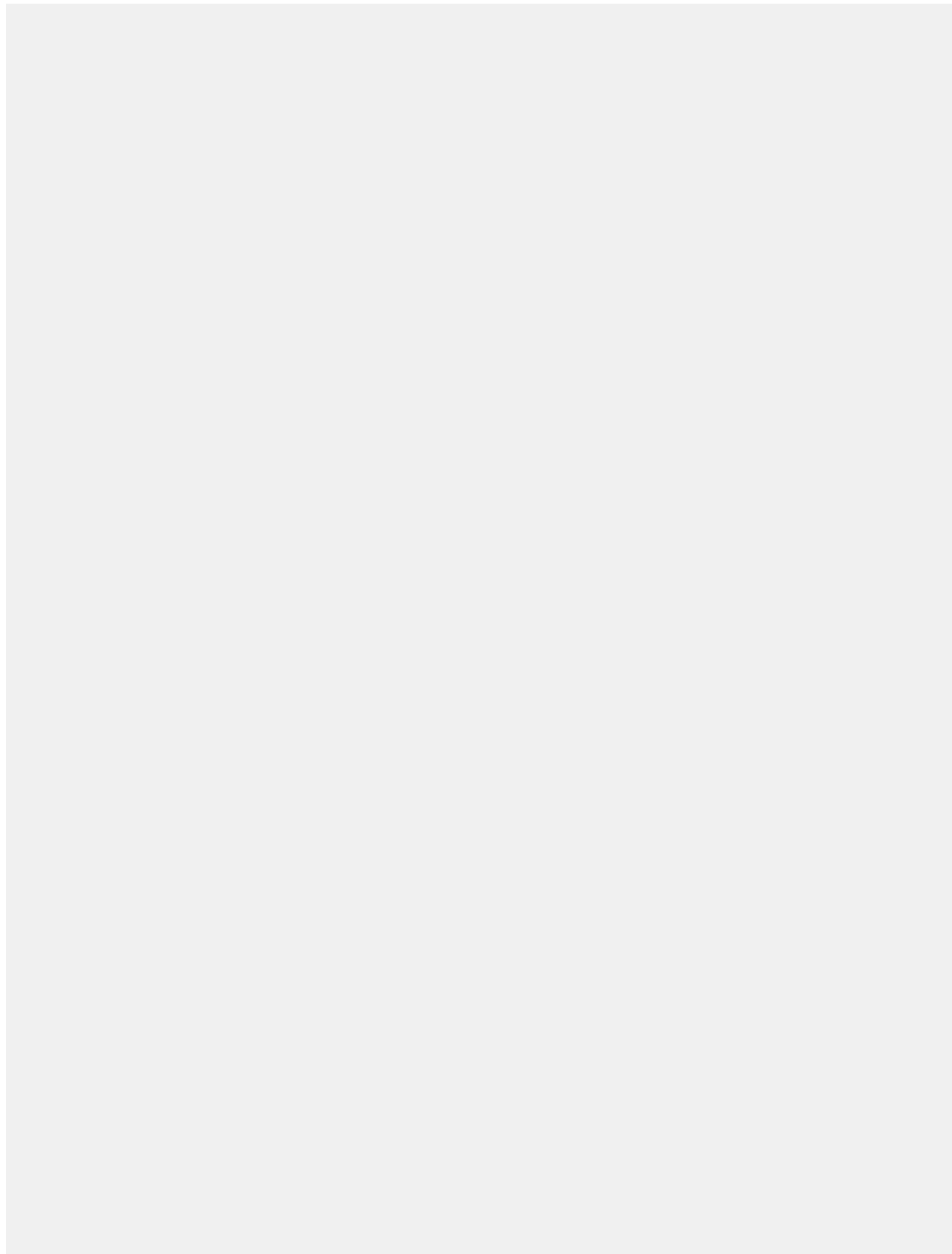
AsyncResult

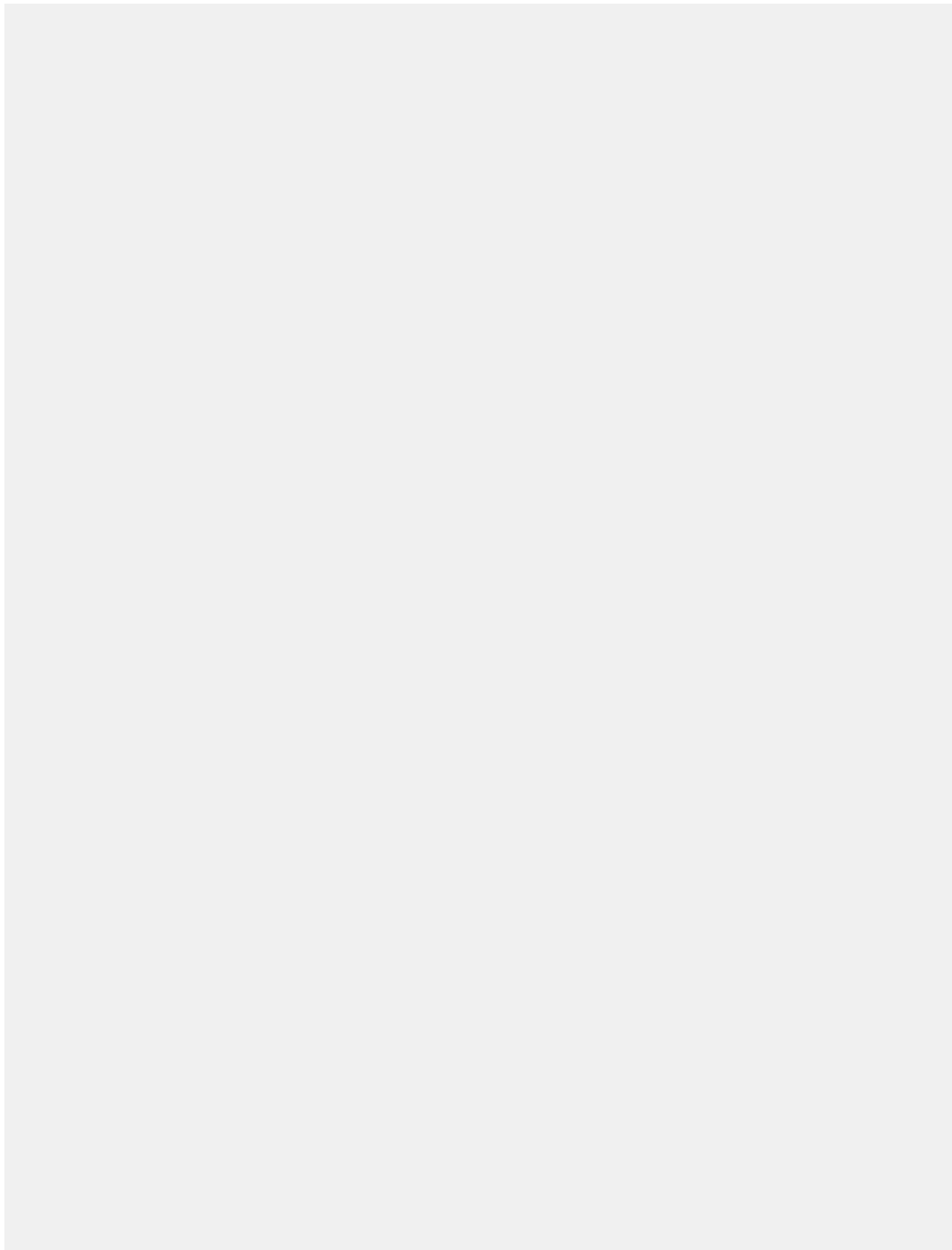
サンプルコード—Java

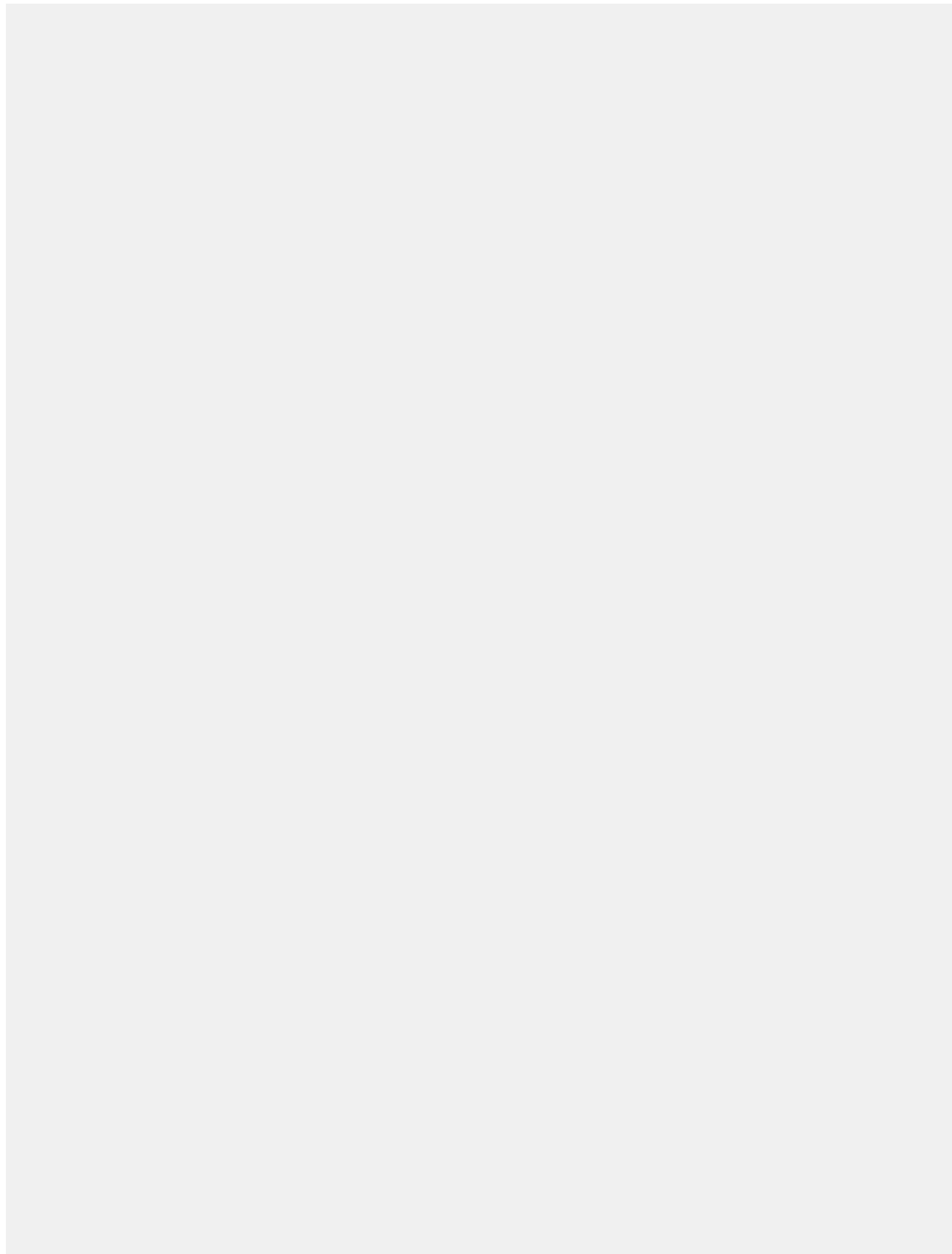
このサンプルでは、zip ファイルでコンポーネントをリリースする方法を示します。zip ファイルの取得方法についての詳細は、「[のサンプルコード](#)」を参照してください。

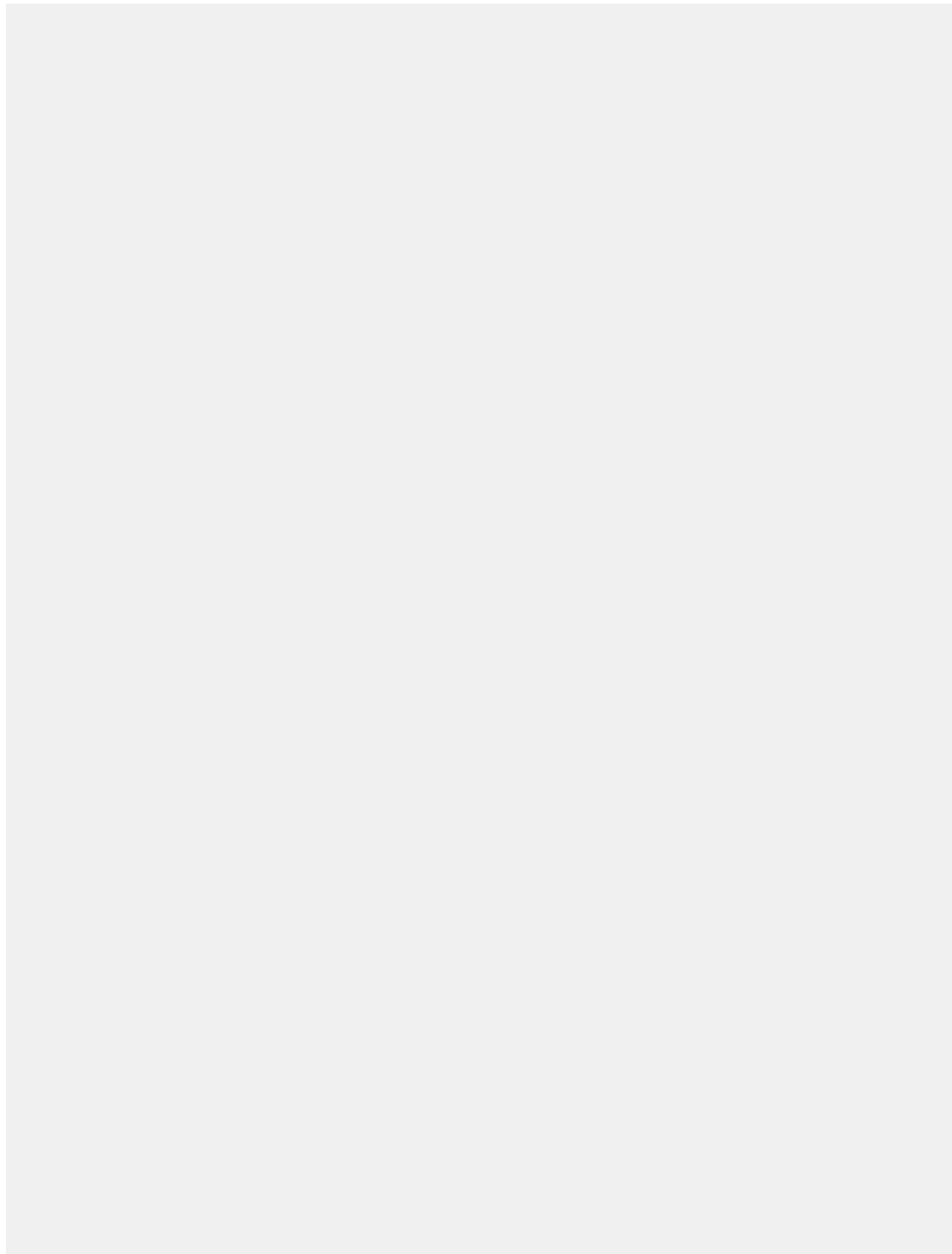


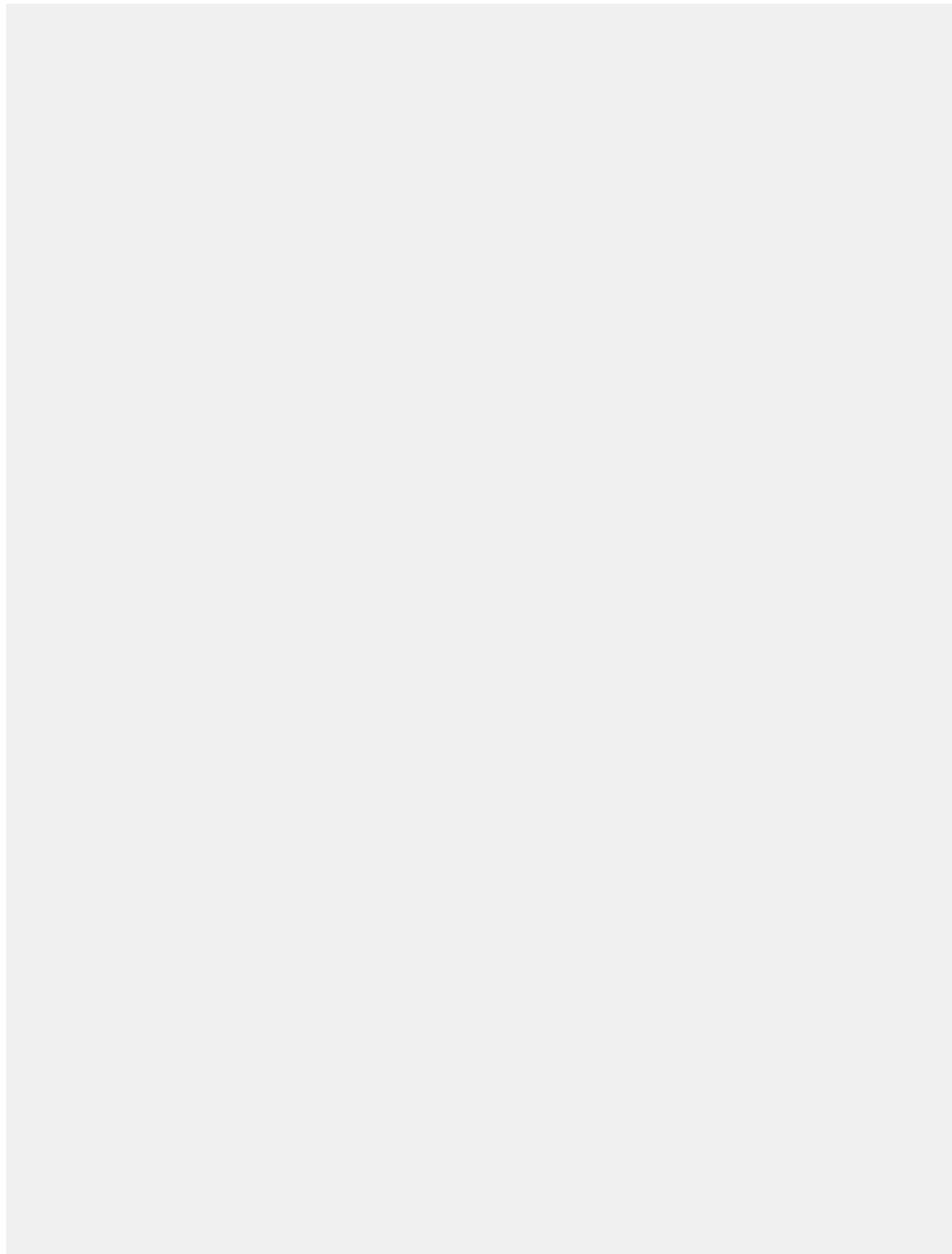


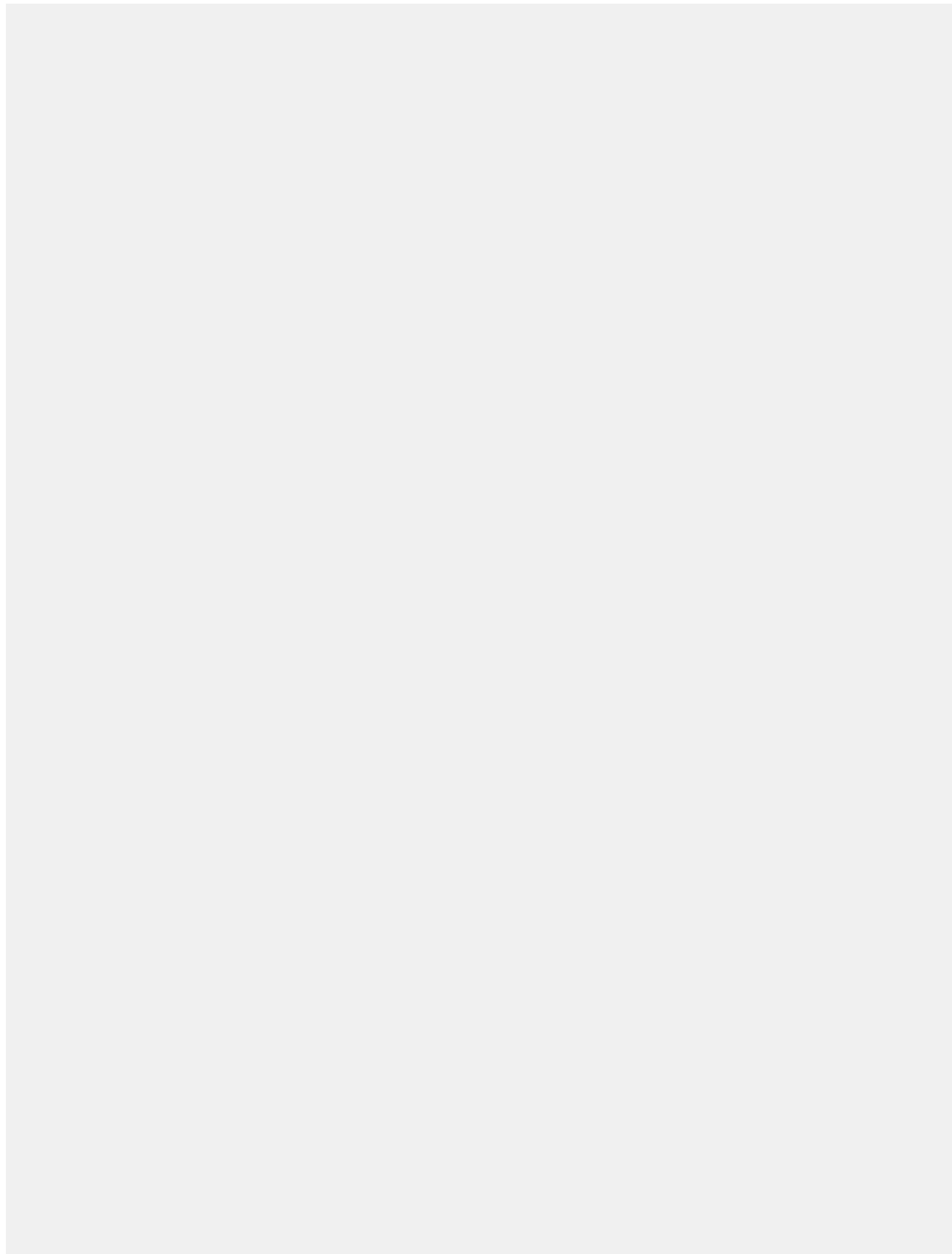


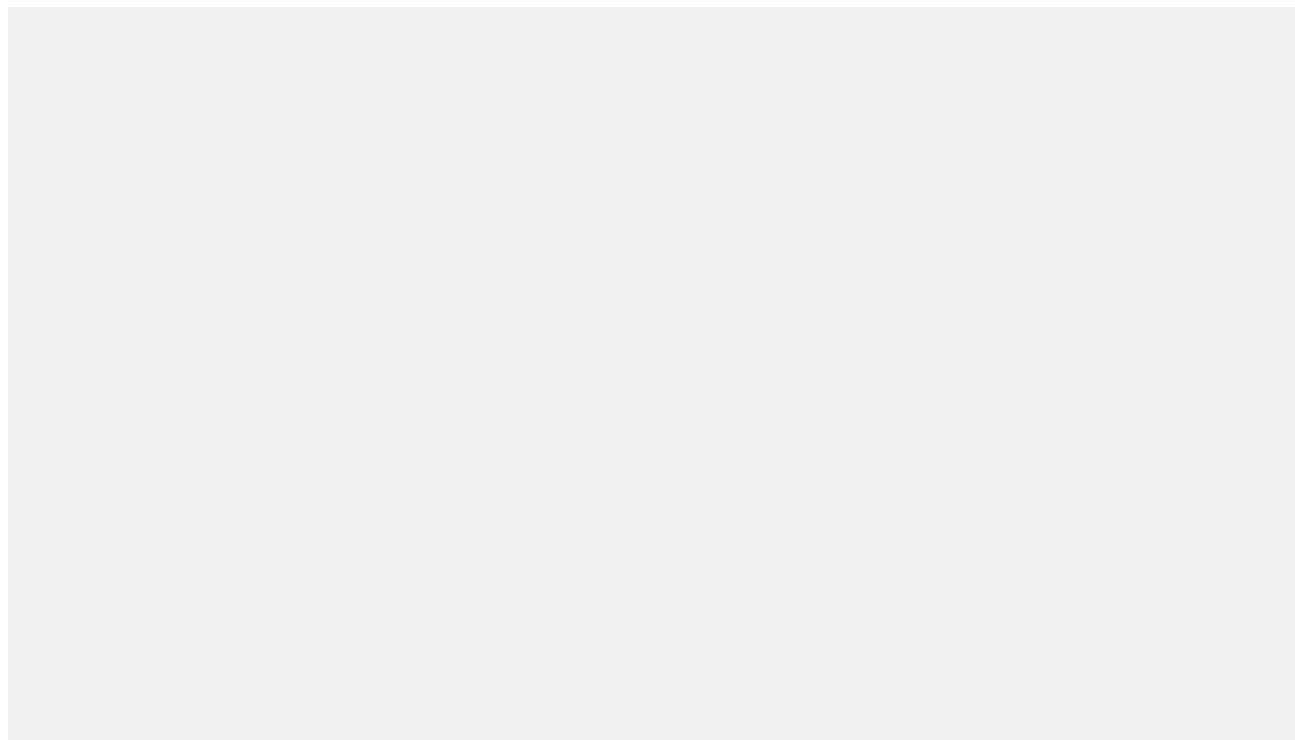












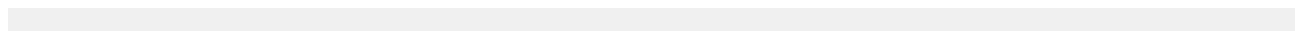
関連リンク

[リリースでのテストの実行](#)

checkDeployStatus ()

宣言的なメタデータコール の状況を確認します。

構文



使用方法

は、パッケージコンポーネントまたはパッケージ化されていないコンポーネントを組織にリリースするためのプロセスの一部として使用されます。

1. コールを発行して、非同期リリースを開始すると、[AsyncResult](#) オブジェクトが返されます。コールが完了すると、 項目に が含まれます。ほとんどの場合、コールはすぐに完了しないため最初の結果に記述されません。完了している場合、返された 項目の値を書き留め、次のステップを省略します。
2. コールが完了していない場合、前のステップで コールから返された [AsyncResult](#) オブジェクトの項目の値を使用して、ループで コールを発行します。 項目に が含まれるまで、返される [AsyncResult](#) オブジェクトを確認します。 コールを完了するまでにかかる時間は、リリースされる zip ファイルのサイズによって異なるため、zip ファイルのサイズが大きくなるほど、反復間の待機時間をより長くする必要があります。

3. 最初のステップで返された `value` 値を使用して、`retrieve()` コールを発行し、`value` コールの結果を取得します。

サンプルコード —Java

このコールの使用例は、「[リソースのサンプルコード](#)」を参照してください。

引数

名前	型	説明
<code>id</code>	ID	コールまたは後続の <code>retrieve()</code> コールによって返される <code>AsyncResult</code> オブジェクトから取得した ID。

応答

`DeployResult`


retrieve()

このコールは、組織内の XML ファイル表現のコンポーネントを取得します。

構文

使用方法

組織内のファイル表現のコンポーネントを取得するには、このコールを使用します。



メモ: メタデータ API は、一度に最大 5,000 個のファイルをリリースおよび取得できます。特定のファイルサイズ制限が適用されていない場合は、非常に大きいファイルではメモリ不足エラーが発生する可能性があります。

パッケージ化されたコンポーネントまたはパッケージ化されていないコンポーネントを取得する手順は、次のとおりです。

1. `retrieve()` コールを発行し、非同期的な取得を開始すると、`AsyncResult` オブジェクトが返されます。コールが完了すると、`value` 項目に `value` が含まれます。ほとんどの場合、コールはすぐに完了しないため、結果に記述されません。完了している場合、返された `value` 項目の値を書き留め、次のステップを省略します。
2. コールが完了していない場合、前のステップで `value` コールから返された `AsyncResult` オブジェクトの `value` 項目の値を使用して、ループで `retrieve()` コールを発行します。 `value` 項目に `value` が含まれるまで、返される `AsyncResult` オブジェクトを確認します。 `value` コールを完了するまでにかかる時間は、リリースされる zip ファイルのサイズによって異なるため、zip ファイルのサイズが大きいほど、反復中の待機時間をより長く設定します。
3. 最初のステップで返された `value` 値を使用して、`retrieve()` コールを発行し、`value` コールの結果を取得します。

権限

クライアントアプリケーションは、「すべてのデータの編集」権限でログインする必要があります。

引数

名前	型	説明
	RetrieveRequest	取得するパッケージまたはファイルを決定するためのオプションをカプセル化します。

応答

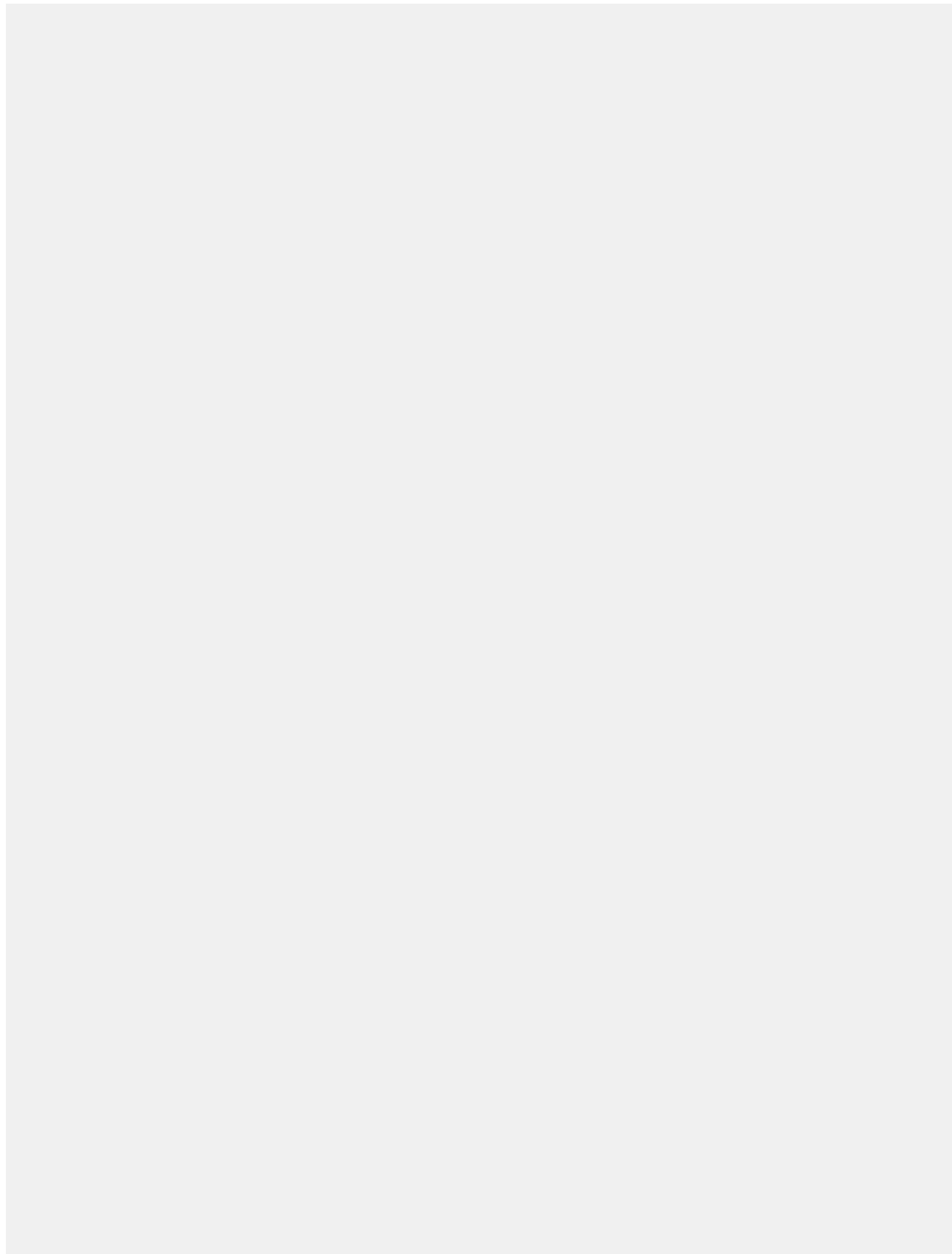
[AsyncResult](#)

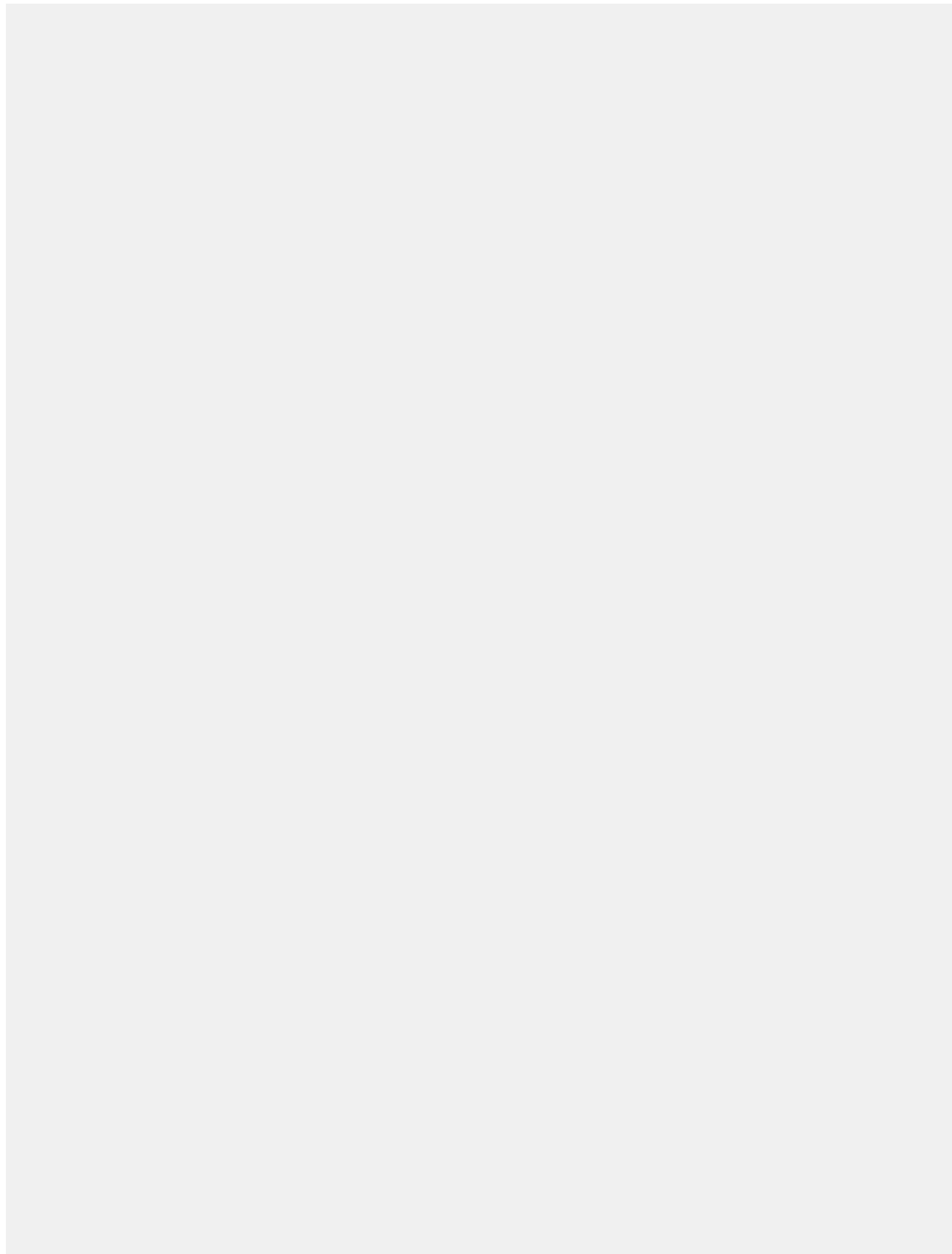
サンプルコード —Java

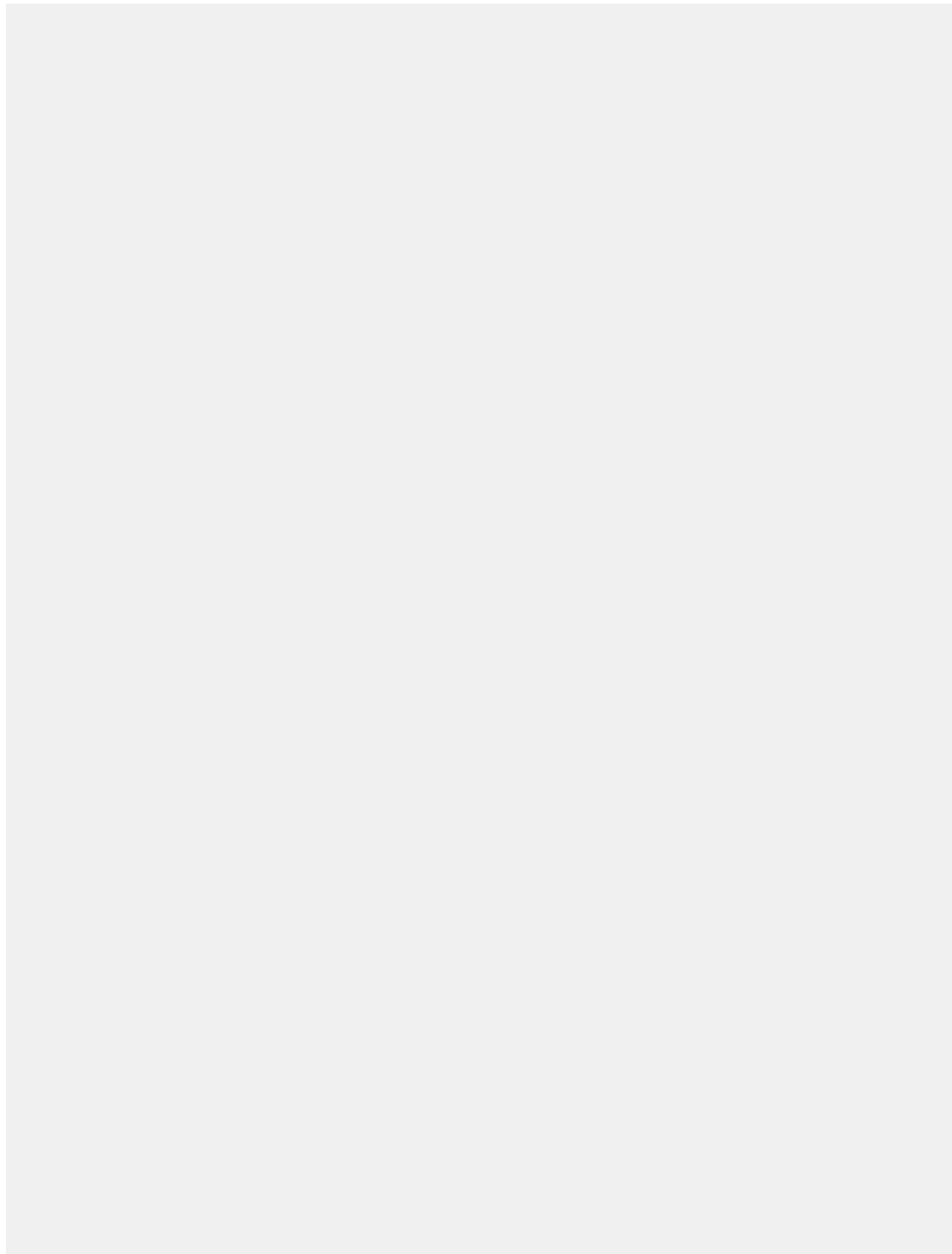
このサンプルでは、コンポーネントを zip ファイルにして取得する方法を示します。zip ファイルのリリース方法の詳細は、「[のサンプルコード](#)」を参照してください。

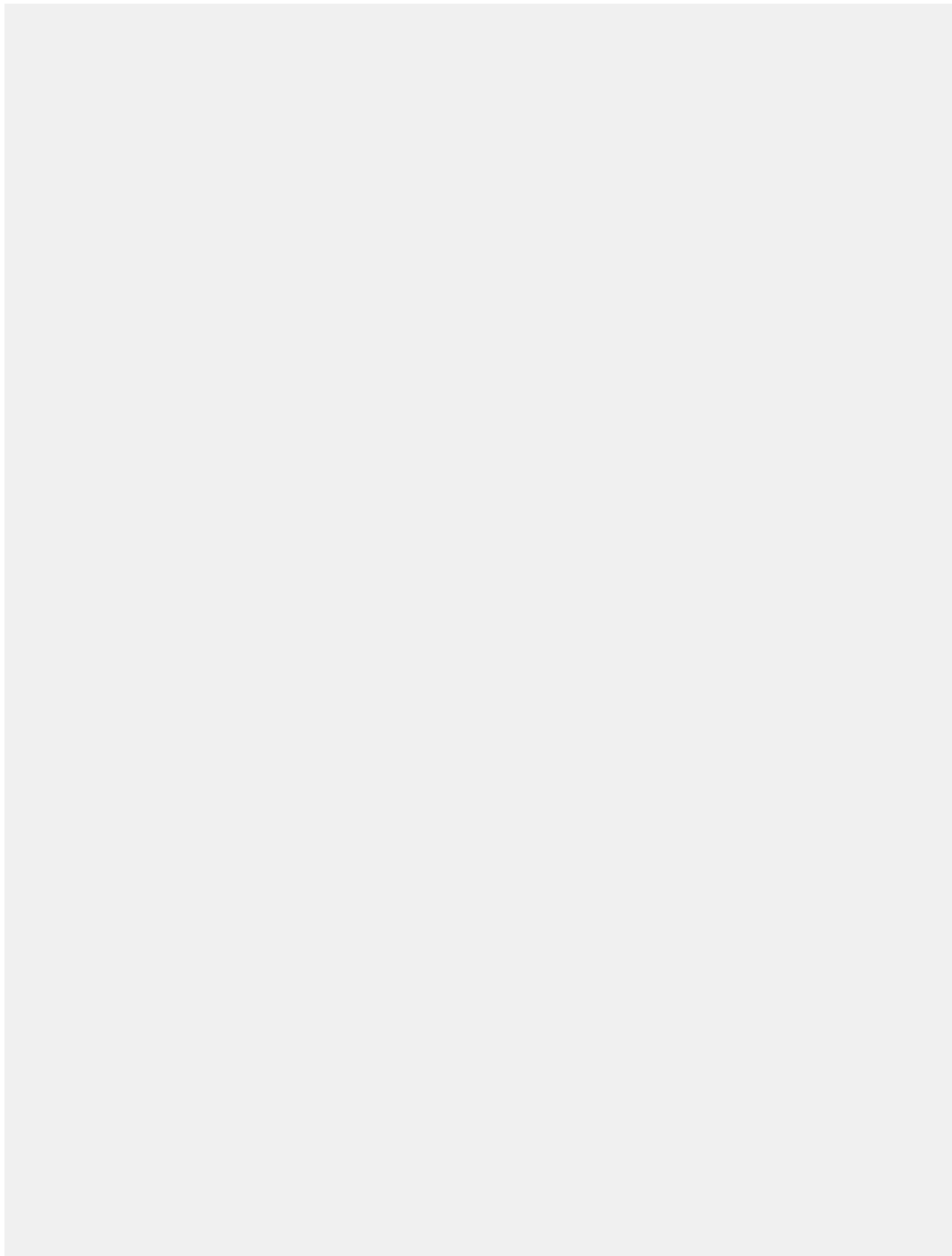


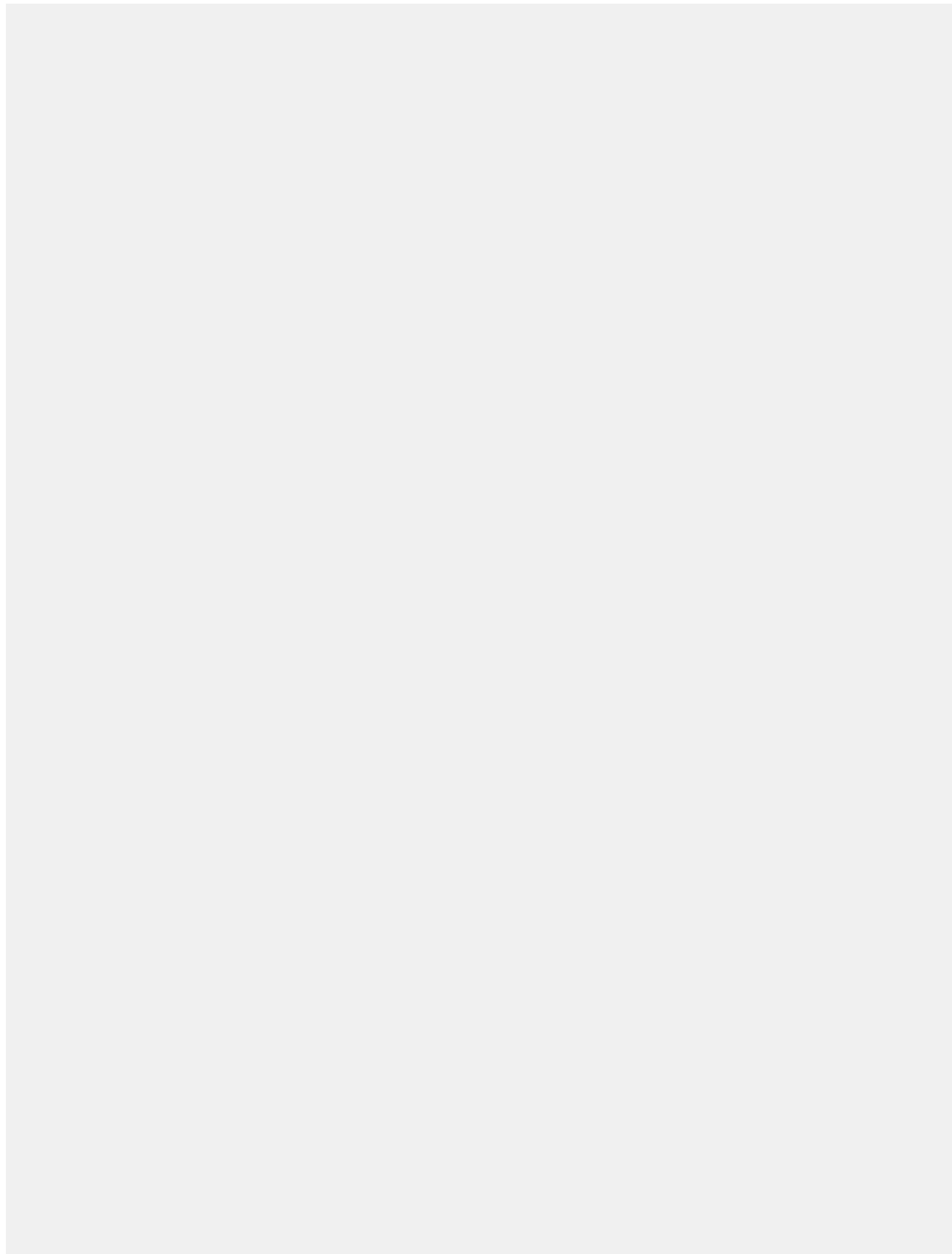
メモ: このサンプルは Apache Axis を使用して作成されています。WSDL2Java ユーティリティは、メタデータ型がメタデータ WSDL のとして定義されている場合でも、クラスを生成しません。他の SOAP クライアントはクラスの別の名前を生成する場合があります。

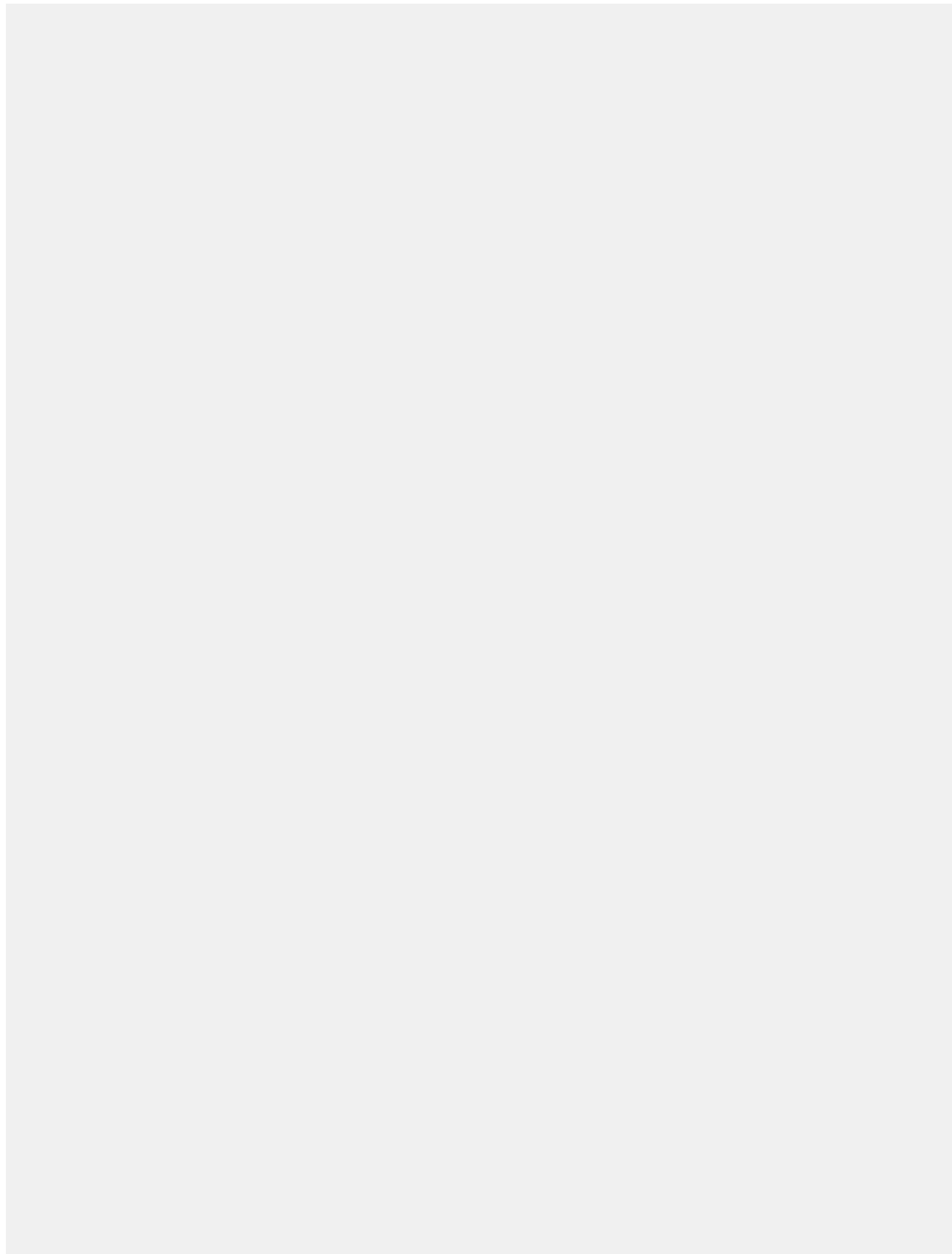


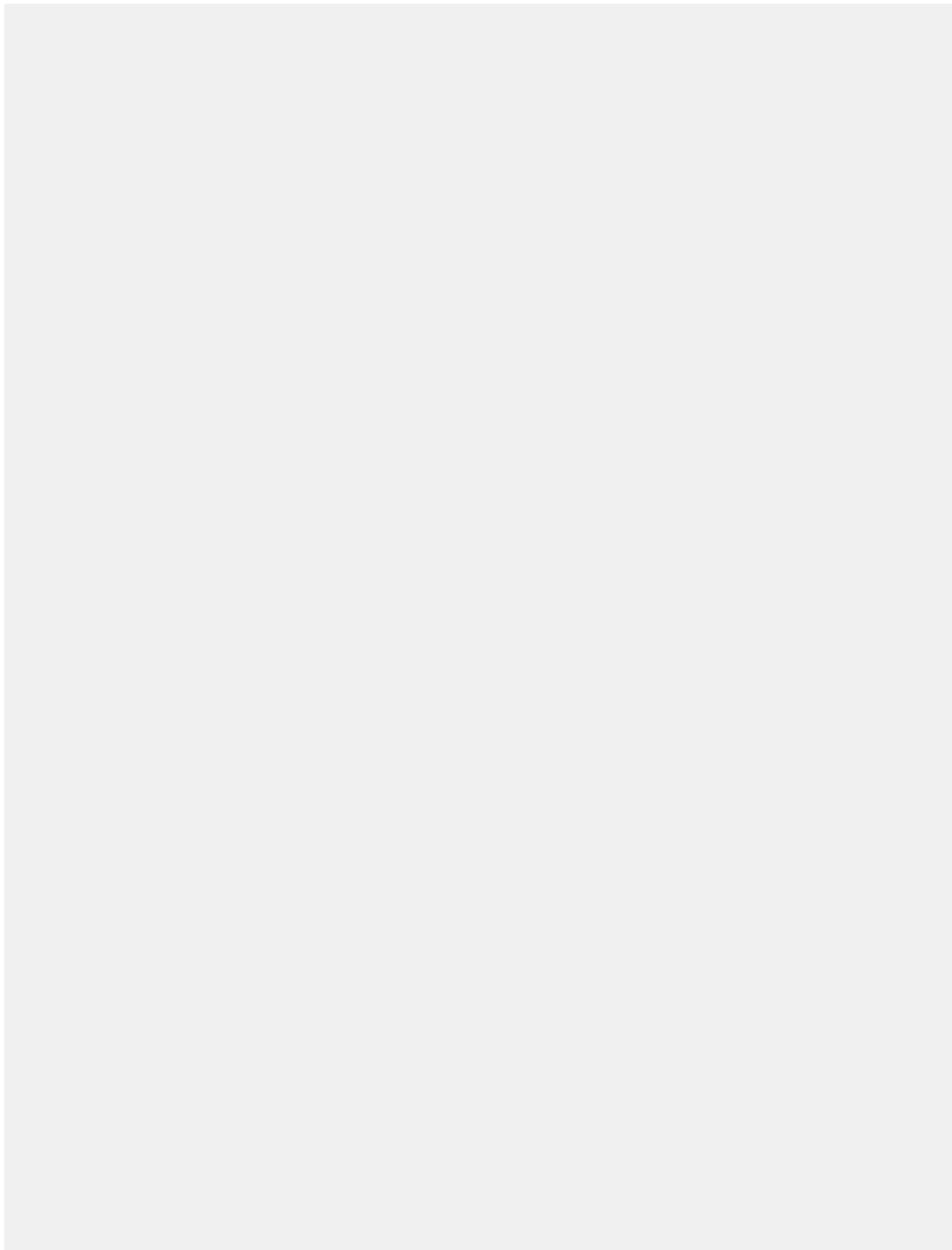


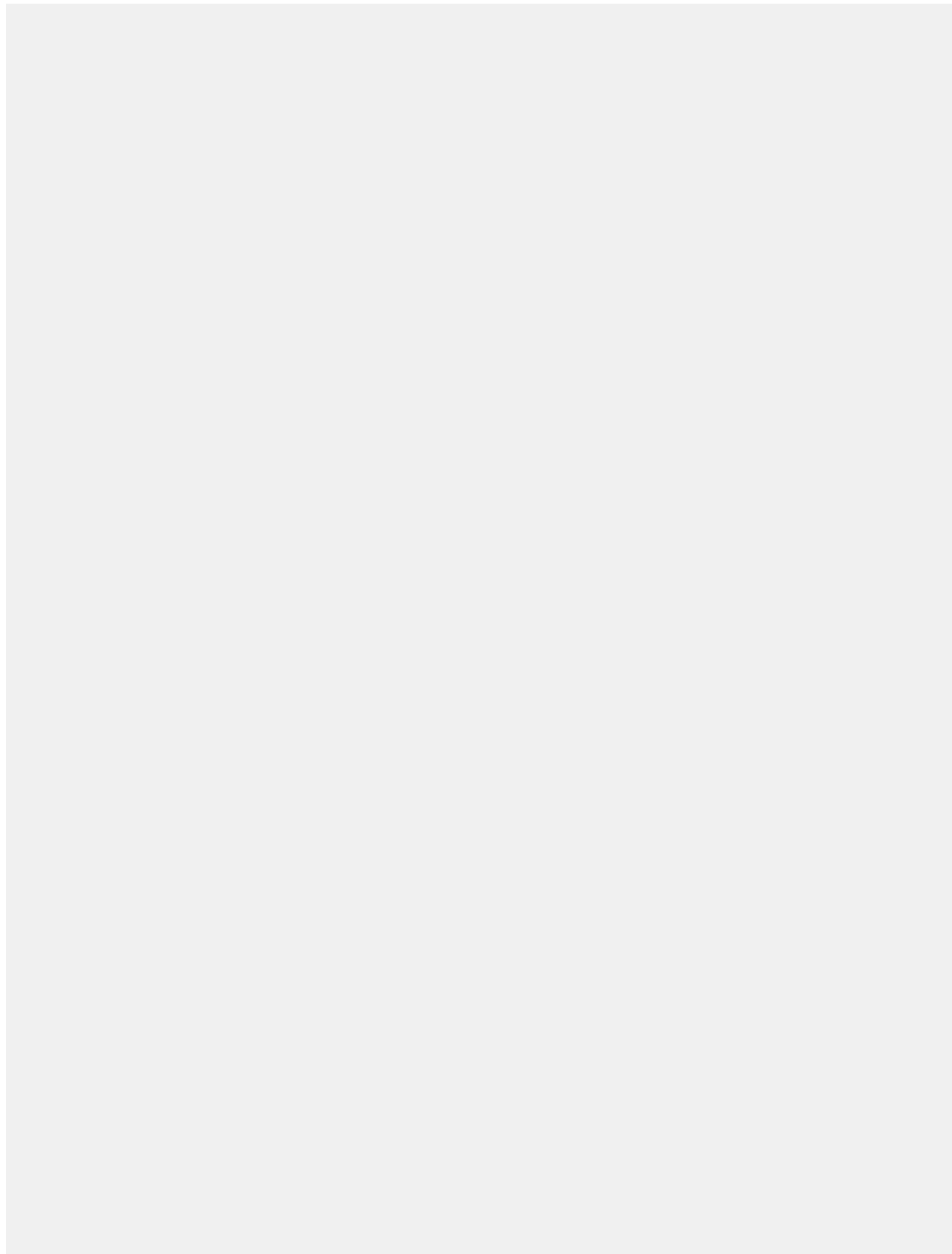


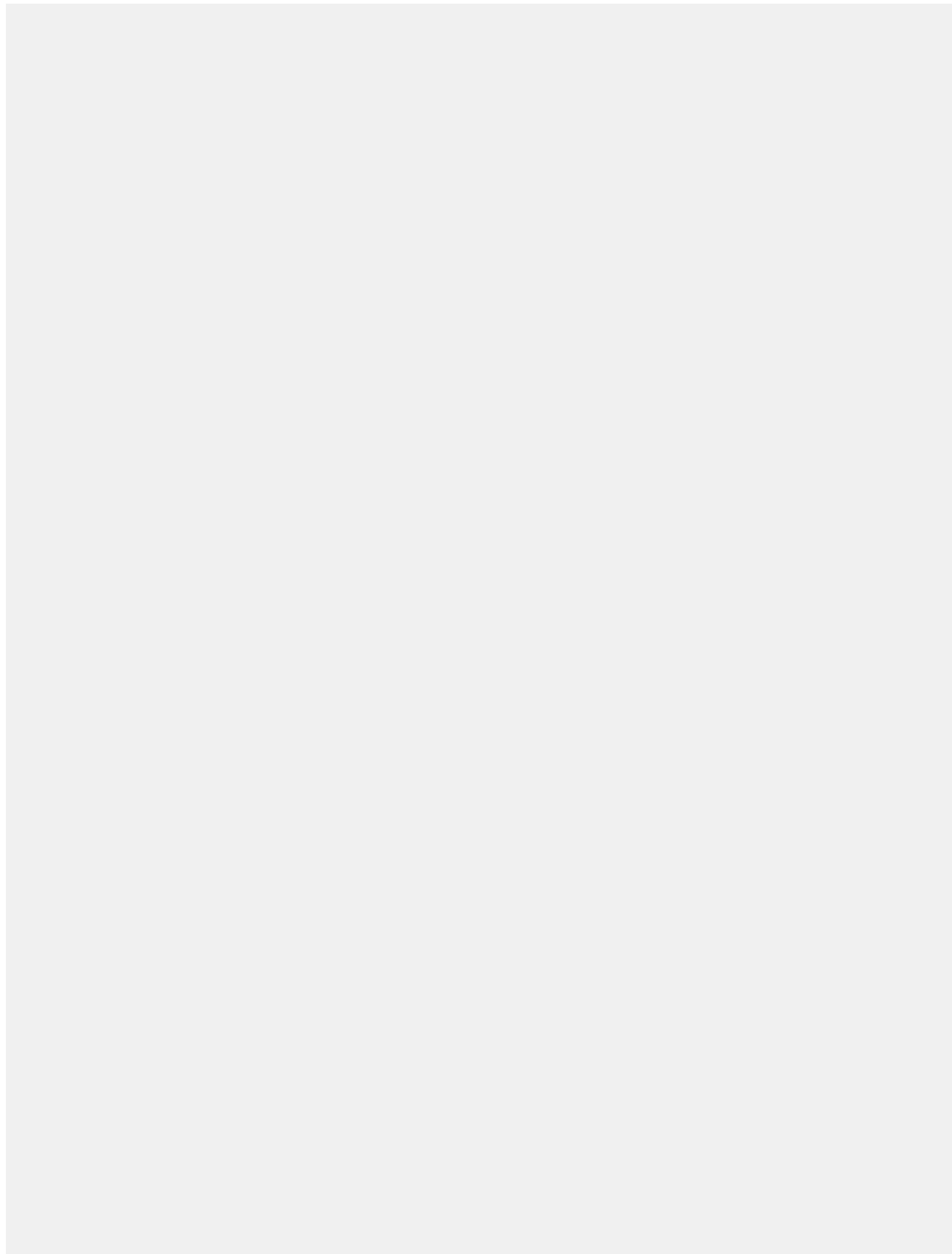


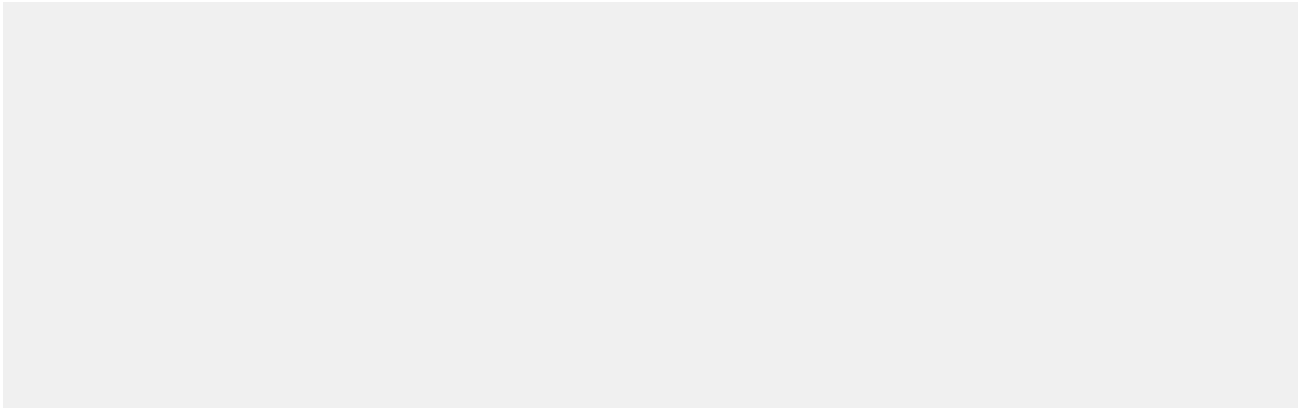












RetrieveRequest

コールで指定される RetrieveRequest オブジェクトは、次のプロパティで構成されます。

名前	型	説明
	double	必須。retrieve 要求の API バージョン。API バージョンによって、各メタデータ型で取得される項目が決まります。たとえば、API バージョン 14.0 のには項目が追加されました。バージョン 13.0 以前のコンポーネントを取得する場合、このコンポーネントには項目は含まれません。
	string[]	取得するパッケージ名のリスト。パッケージ化されていないコンポーネントのみを取得する場合、ここで名前を指定しないでください。同じ retrieve でパッケージ化されたコンポーネントとパッケージ化されていないコンポーネントを取得できます。
	boolean	取得するのが 1 つのパッケージのみか()、否か()を指定します。 の場合、複数のパッケージが取得されます。
	string[]	取得するファイル名のリスト。このプロパティに値が指定されている場合、 を 、 を に設定する必要があります。
	Package	取得するパッケージに含まれていないコンポーネントのリスト。

checkRetrieveStatus()

宣言的なメタデータコール の状況を確認し、zip ファイルのコンテンツを返します。

構文

使用方法

 は、組織からメタデータコンポーネントを取得する処理の一部です。非同期
コールが完了したことを示す コールと共に使用します。 によってコールが完了した
ことが示されたら、 をコールして、zip ファイルのコンテンツを取得します。

1. コールを発行し、非同期的な取得を開始すると、[AsyncResult](#) オブジェクトが返されます。コー
ルが完了すると、 項目に が含まれます。ほとんどの場合、コールはすぐに完了しないため、結果
に記述されません。完了している場合、返された 項目の値を書き留め、次のステップを省略します。
2. コールが完了していない場合、前のステップで コールから返された [AsyncResult](#) オブジェクトの
項目の値を使用して、ループで コールを発行します。 項目に が含まれるまで、
返される [AsyncResult](#) オブジェクトを確認します。 コールを完了するまでにかかる時間は、リリー
スされる zip ファイルのサイズによって異なるため、zip ファイルのサイズが大きいほど、反復中の待機時間
をより長く設定します。
3. 最初のステップで返された 値を使用して、 コールを発行し、 コー
ルの結果を取得します。

サンプルコード —Java

このコールの使用例は、「 [のサンプルコード](#)」を参照してください。

引数

名前	型	説明
	ID	コールによって返される RetrieveResult オブジェクト、または コールによって返される後続の AsyncResult オブジェクトから 取得した ID。

応答

[RetrieveResult](#)

第 7 章

CRUD ベースのコール

Enterprise WSDL の同期 API コールのオブジェクトに対する動作と同様にメタデータコンポーネントを使用するには、次の [CRUD ベース](#) のコールを使用します。

-
-
-

create ()

組織のデータに 1 つ以上の新しいメタデータコンポーネントを追加します。このコールは、[Metadata](#) を拡張するオブジェクトを作成するために使用できます。詳細は、「[Metadata コンポーネントおよびメタデータ型](#)」(ページ 96)を参照してください。

構文

使用方法

このコールを使用して、組織の情報に 1 つ以上のメタデータコンポーネントを追加します。

権限

クライアントアプリケーションは、「すべてのデータの編集」権限でログインしている必要があります。

必須項目

必須項目は、作成されるメタデータコンポーネントによって決まります。特定のコンポーネントの種類についての詳細は、「[Metadata コンポーネントおよびメタデータ型](#)」(ページ 96)を参照してください。

有効なデータ値

整数項目については整数(英字は不可)、項目のデータ型に対して有効な値を入力する必要があります。クライアントアプリケーションでは、使用しているプログラム言語および開発ツールに指定されたデータ形式に従ってください(開発ツールは、SOAP メッセージのデータ型の適切な対応付けを処理します)。

文字列値

文字列項目に値を格納する場合、前後にある空白はAPIが切り捨てます。たとえば、項目の値に
と入力されると、その値はデータベースに として保存されます。

メタデータコンポーネント作成の基本手順

メタデータコンポーネントを作成するには、次のプロセスを使用します。

- 1. 配列を設計し、作成するコンポーネントを挿入します。
- 2. 引数にコンポーネント配列を渡し、 をコールします。
- 3. 作成しようとした各コンポーネントごとに [AsyncResult](#) オブジェクトが返されます。操作がキューから完了またはエラー状態に移行するたびに、値が状況情報で更新されます。[AsyncResult](#) の状況値がすべての create 操作が完了したことを示すまで、ループで をコールします。 コールの反復間の待機時間を 1 秒間で開始して、以降の各コール実行時にはその待機時間を 2 倍の秒数に指定します。

サンプルコード —Java

コールを使用したJavaのサンプルコードについては、「[ステップ 3:Java サンプルコードの説明](#)」(ページ 7)を参照してください。

引数

名前	型	説明
	Metadata []	1 つ以上のメタデータコンポーネントの配列。 上限: 10。 1 つの種類のコンポーネントの配列を送信する必要があります。たとえば、10 個のカスタムオブジェクトまたは10個のプロファイルの配列を送信できますが、両方の種類を混ぜて送信することはできません。

応答

[AsyncResult](#)[]

delete ()

組織のデータから 1 つ以上のコンポーネントを削除します。このコールは、[Metadata](#) を拡張するいずれかのオブジェクトを削除するために使用できます。詳細は、「[Metadata コンポーネントおよびメタデータ型](#)」(ページ 96)を参照してください。

構文

使用方法

組織のデータから 1 つ以上のコンポーネントを削除するには、このコールを使用します。

権限

クライアントアプリケーションは、「すべてのデータの編集」権限でログインしている必要があります。

ルールとガイドライン

コンポーネントを削除する場合は、次のルールやガイドラインを考慮する必要があります。

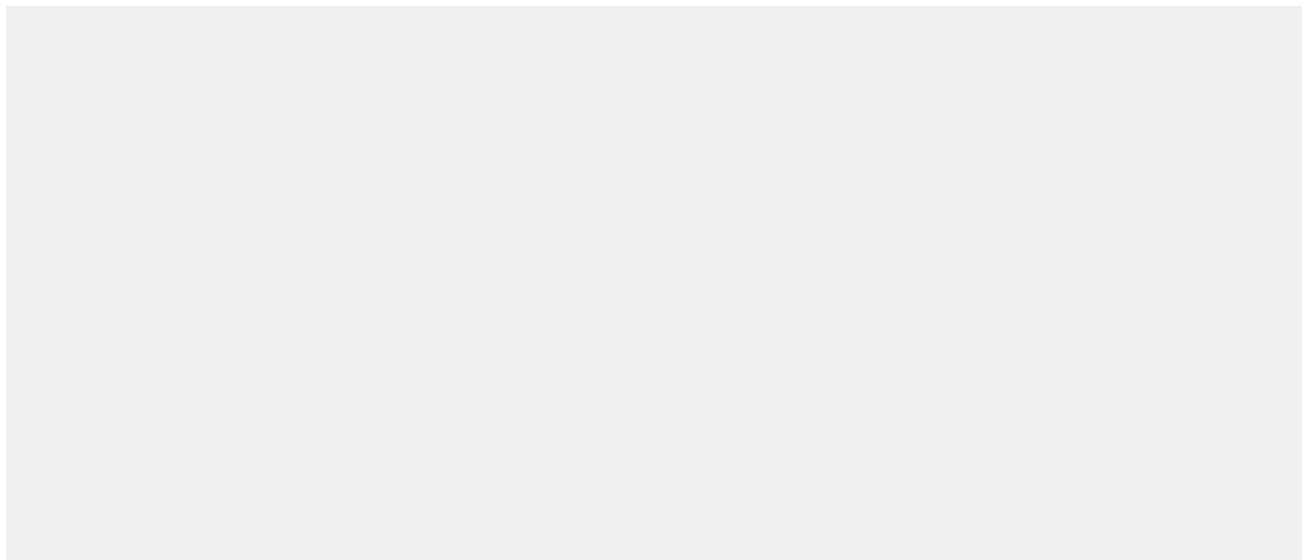
- 指定したコンポーネント内の個別のコンポーネントを削除するには、実行するのに十分なアクセス権を使用してクライアントアプリケーションにログインする必要があります。詳細は、[SOAP API Developer's Guide](#)の「Factors that Affect Data Access」を参照してください。
- また、コンポーネントの親コンポーネントにアクセスする権限も必要となる場合があります。
- 参照整合性を確保するために、このコールはカスケード削除をサポートします。親コンポーネントを削除すると、各子コンポーネントが削除可能な場合は、その子コンポーネントは自動的に削除されます。
- 一部の標準オブジェクトとは異なり、すべてのメタデータコンポーネントは削除できます。

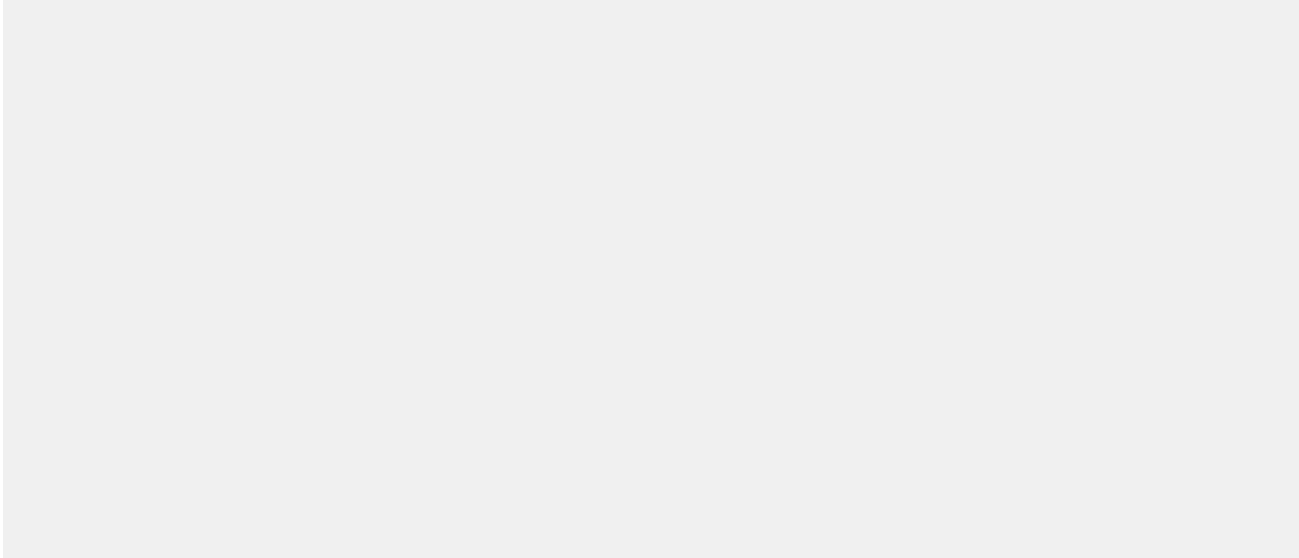
メタデータコンポーネント削除の基本手順

メタデータコンポーネントを削除するには次のプロセスを使用します。

1. 削除する各コンポーネントの `id` を確認します。 `id` 項目についての詳細は、「[Metadata](#)」を参照してください。1 つのコールでは同じ型のコンポーネントのみを削除する必要があります。
2. このコールを呼び出し、`ids` が指定されているメタデータコンポーネントの配列を渡します。
3. 削除しようとしたコンポーネントごとに [AsyncResult](#) オブジェクトが返されます。操作がキューから完了またはエラー状態に移行するたびに、値が状況情報で更新されます。[AsyncResult](#) の状況値がすべての `delete` 操作が完了したことを示すまで、ループで `wait` をコールします。 `wait` コールの反復間の待機時間を 1 秒間で開始して、以降の各コール実行時にはその待機時間を 2 倍の秒数に指定します。

サンプルコード —Java





引数

名前	型	説明
	Metadata []	1 つ以上のメタデータコンポーネントの配列。 Metadata オブジェクトの項目の設定のみが必要です。 上限: 10。 1 つの種類のコンポーネントの配列を送信する必要があります。たとえば、10 個のカスタムオブジェクトまたは 10 個のプロファイルの配列を送信できますが、両方の種類を混ぜて送信することはできません。

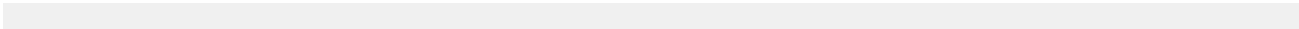
応答

[AsyncResult](#)[]

update ()

組織のデータ内にある 1 つ以上のコンポーネントを更新します。このコールは、[Metadata](#) を拡張するオブジェクトを更新するために使用できます。詳細は、「[Metadata コンポーネントおよびメタデータ型](#)」(ページ 96)を参照してください。

構文



使用方法

このコールを使用して、1 つ以上のコンポーネントの更新します。このコールは SQL の ALTER TABLE ステートメントに類似しています。

権限

クライアントアプリケーションは、「すべてのデータの編集」権限でログインしている必要があります。

更新可能なオブジェクト

標準オブジェクトとは異なり、すべてのメタデータコンポーネントを更新できます。

必須項目

コンポーネント内のすべての必須項目に値を指定する必要があります。

有効な項目値

整数項目については整数 (英字は不可)、項目のデータ型に対して有効な値を入力する必要があります。クライアントアプリケーションでは、使用しているプログラム言語および開発ツールに指定されたデータ形式に従ってください (開発ツールは、SOAP メッセージのデータ型の適切な対応付けを処理します)。

文字列値

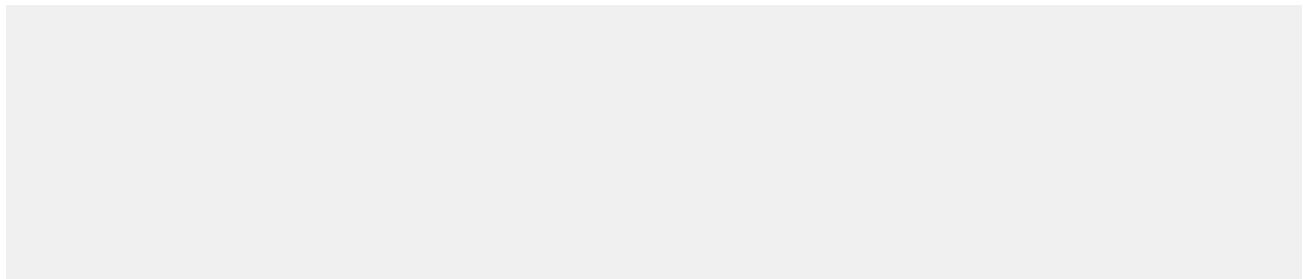
String 項目に値を保存する場合、API は先頭および末尾の空白文字を削除します。たとえば、項目の値に " MyObject " と入力されると、その値はデータベースに "MyObject" として保存されます。

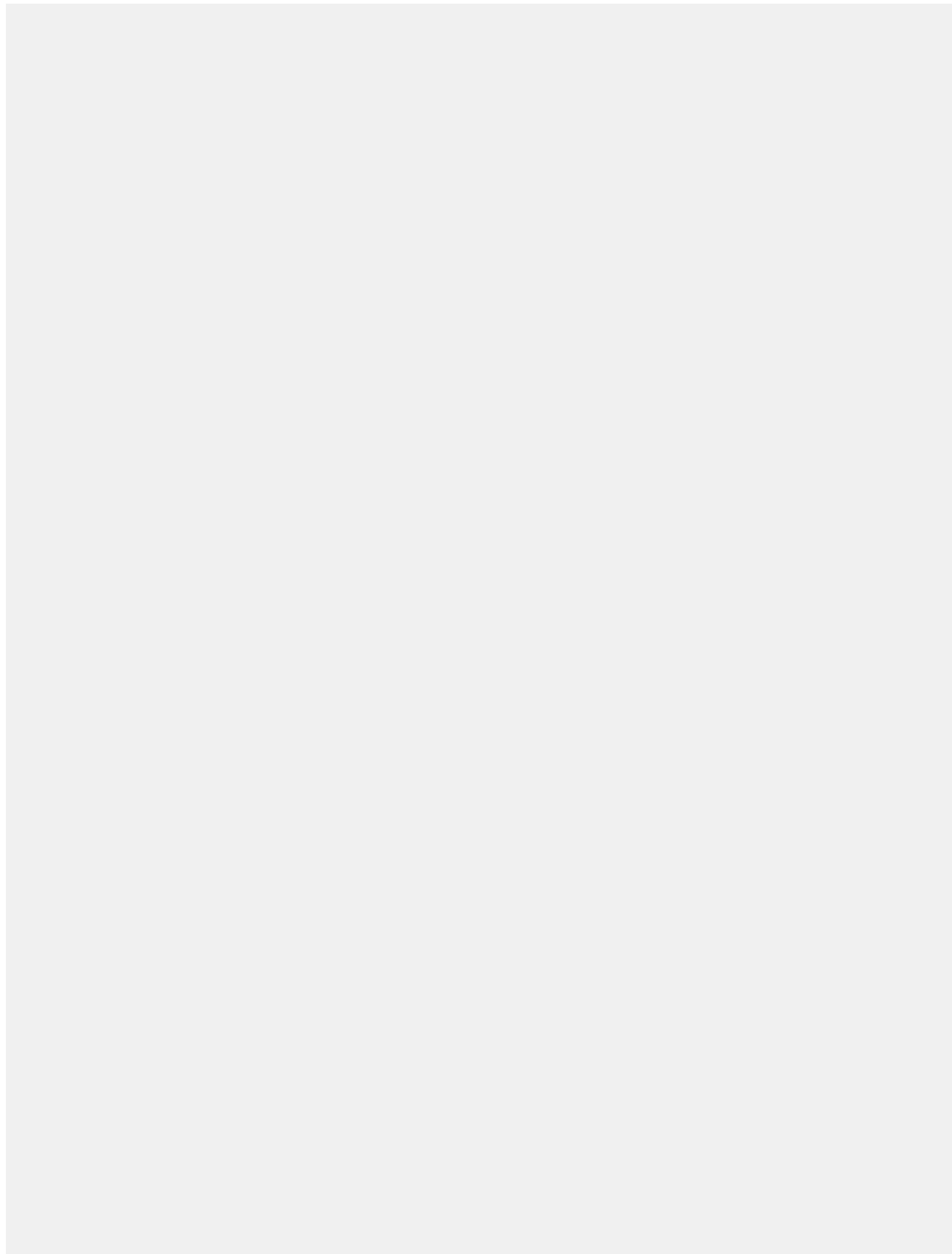
メタデータコンポーネント更新の基本手順

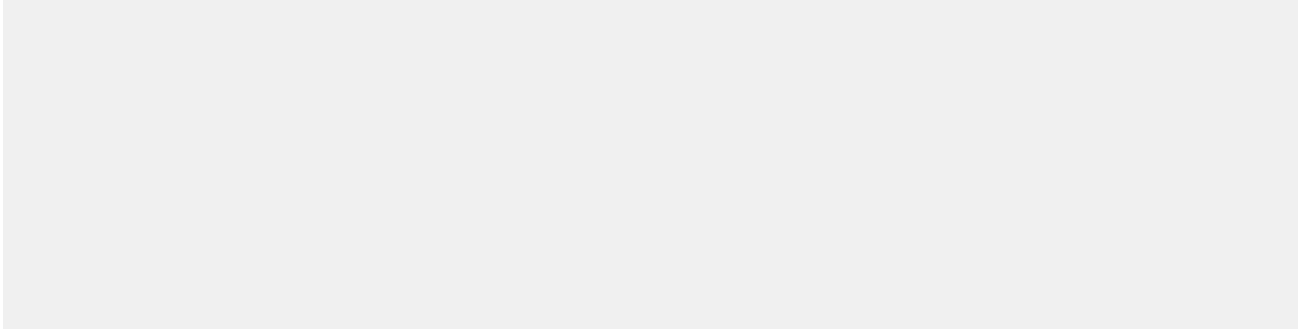
メタデータコンポーネントを更新するには、次のプロセスを使用します。

1. このコールを呼び出し、更新するコンポーネントを表すメタデータコンポーネントの配列を渡します。
2. 更新しようとしたコンポーネントまたは項目ごとに [AsyncResult](#) オブジェクトが返されます。操作がキューから完了またはエラー状態に移行するたびに、値が状況情報で更新されます。 [AsyncResult](#) 内の状況値を確認します。
3. 更新しようとしたコンポーネントごとに [AsyncResult](#) オブジェクトが返されます。操作がキューから完了またはエラー状態に移行するたびに、値が状況情報で更新されます。 [AsyncResult](#) の状況値が、すべての更新操作が完了したことを示すまで、ループで [update\(\)](#) をコールします。 コールの反復間の待機時間を 1 秒間で開始して、以降の各コール実行時にはその待機時間を 2 倍の秒数に指定します。

サンプルコード —Java







引数

名前	型	説明
	UpdateMetadata[]	更新しようとするコンポーネントを表す、1 つ以上の UpdateMetadata データ構造の配列。 上限: 10。 1 つの種類のコンポーネントの配列を送信する必要があります。たとえば、10 個のカスタムオブジェクトまたは 10 個のプロファイルの配列を送信できますが、両方の種類を混ぜて送信することはできません。

UpdateMetadata

1 つ以上の [UpdateMetadata](#) オブジェクトが 引数で定義されます。このオブジェクトは、[Metadata](#) を拡張するオブジェクトを更新するために使用できます。詳細は、「[Metadata コンポーネントおよびメタデータ型](#)」(ページ 96)を参照してください。各 [UpdateMetadata](#) オブジェクトには、次の項目があります。

項目	データ型	説明
	string	更新前のコンポーネントまたは項目の API 名。たとえば、Foo という名前の CustomObject を更新する場合、この項目の値は になります。この値はこのコールによって名前が変更される可能性があるため提供されるものであり、その値は対応付けに使用されます。
	Metadata	更新するコンポーネントまたは項目の完全な仕様。

応答

[AsyncResult\[\]](#)

第 8 章

ユーティリティコール

ファイルベースまたは CRUD ベースのコールを使用するのに役立つ情報を収集するには、次のユーティリティコールを使用します。

- ・
- ・
- ・

checkStatus ()

非同期メタデータコール、またはの状況、または宣言的なメタデータコールまたはの状況を確認します。

構文

使用方法

このコールを使用して、非同期メタデータコールまたは宣言的なメタデータコールが完了したかどうかを確認します。

サンプルコード —Java

このコールを使用した Java のサンプルコードについては、「[ステップ 3: Java サンプルコードの説明](#)」(ページ 7)を参照してください。

引数

名前	型	説明
	ID[]	1 つ以上の ID の配列。各 ID は、 AsyncResult 内で返され、作成、更新、削除、リリース、または取得されているコンポーネントに対応します。

応答

[AsyncResult\[\]](#)

describeMetadata()

このコールは組織を説明するメタデータを取得します。この情報には Apex クラスおよびトリガ、カスタムオブジェクト、標準オブジェクトのカスタム項目、アプリケーションを定義するタブセット、および他の多くのコンポーネントが含まれています。

構文

引数

名前	型	説明
	double	28.0 など、メタデータが必要な API バージョン。

権限

クライアントアプリケーションは、「すべてのデータの編集」権限でログインしている必要があります。

サンプルコード —Java

応答

[DescribeMetadataResult](#)

listMetadata()

このコールは組織のメタデータコンポーネントに関するプロパティ情報を取得します。パラメータで指定されている条件に一致したコンポーネントのデータが返されます。配列には各コールに対する最大3つの [ListMetadataQuery](#) クエリを含めることができます。このコールは、[CustomObject](#) や [ApexClass](#) などの最上位の型、および [CustomField](#) や [RecordType](#) などの子の型の両方のすべてのメタデータ型をサポートします。

構文

使用方法

このコールは、[listMetadata\(\)](#) コールの個々のコンポーネントを識別する場合、または組織の特定のメタデータ型の概要が必要な場合に役立ちます。たとえば、組織の [CustomObject](#) コンポーネントまたは [Layout](#) コンポーネントのすべての名前のリストが返されるようにこのコールを使用できます。さらに、この情報を使用して後続の [describeMetadata\(\)](#) コールを実行し、これらのコンポーネントのサブセットが返されるようにすることができます。この使用についての詳細は、「[メタデータのリリースと取得](#)」(ページ 19)を参照してください。



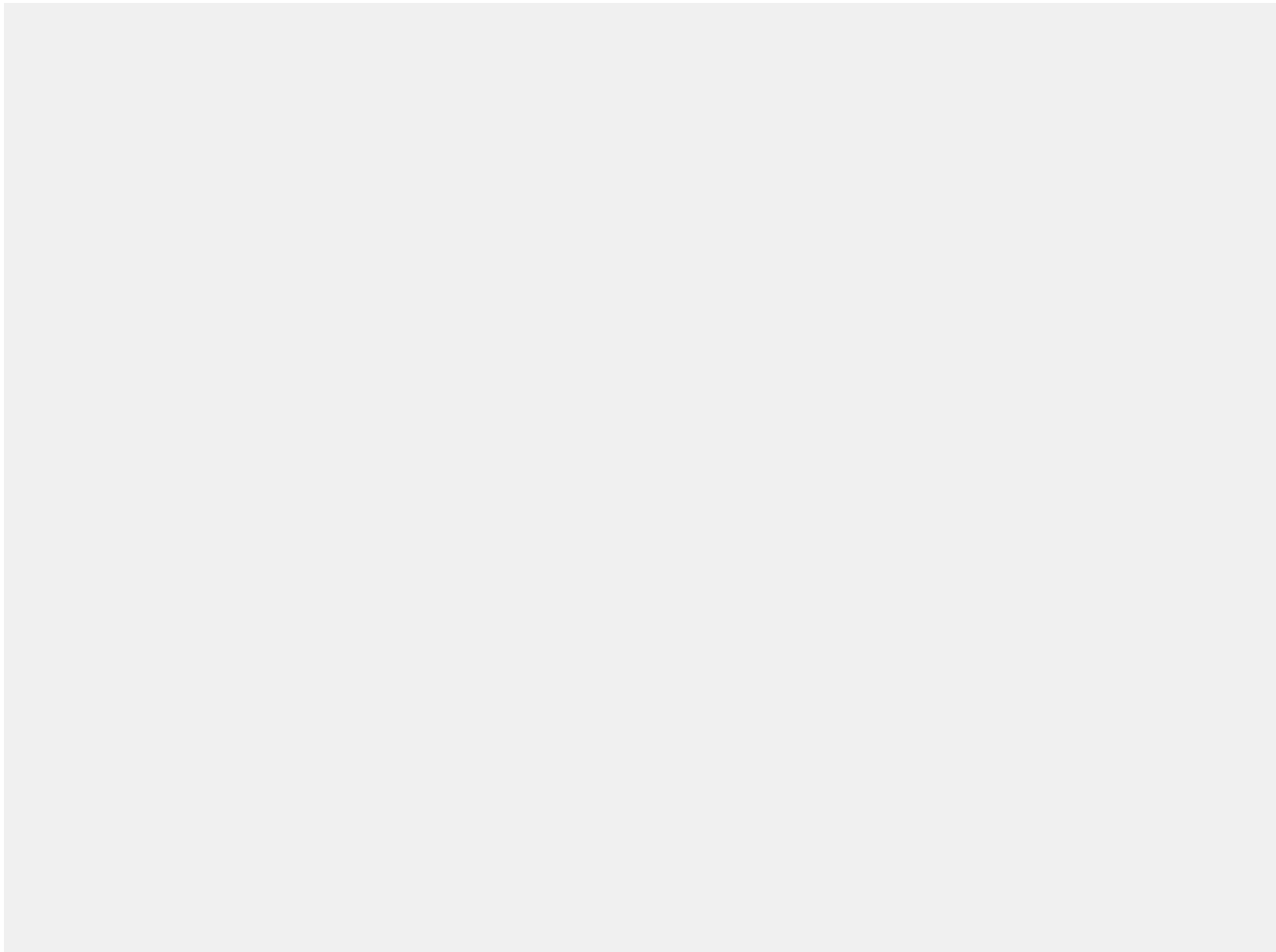
メモ: これは、結果が1つのコールで返される同期コールです。これは、結果を取得するために少なくとも1つの後続のコールが必要な [describeMetadata\(\)](#) などの非同期コールと異なります。

権限

クライアントアプリケーションは、「すべてのデータの編集」権限でログインしている必要があります。

サンプルコード —Java

以下のサンプルコードでは、カスタムオブジェクトの情報を表示します。このコードは、SOAP バインドがすでに確立されていることを前提としています。



引数

名前	型	説明
	ListMetadataQuery	目的のコンポーネントを指定するオブジェクトのリスト。
	double	要求のリストを表示するメタデータの API バージョン。この項目に値を指定しない場合、ログイン時に指定したデフォルトの API バージョンになります。この項目を使用してデフォルトを上書きし、他の API バージョンを設定できます。これにより、たとえば、ログイン時に指定した API バージョンより後のバージョンで追加されたメタデータ型のメタデータのリストを表示できます。この項目は API バージョン 18.0 以降で使用できます。

応答

[FileProperties](#)

ListMetadataQuery

コールで指定されている ListMetadataQuery パラメータは次のプロパティで構成されています。

名前	型	説明
	string	コンポーネントに関連付けられたフォルダ。この項目は、 Dashboard 、 Document 、 EmailTemplate 、または Report などのフォルダを使用するコンポーネントでは必須です。
	string	必須。 、 、または などのメタデータ型。

第 9 章

Result オブジェクト

ファイルベースまたは CRUD ベースのコールの結果を取得するには、次のオブジェクトを使用します。

- [AsyncResult](#)
- [DeployResult](#)
- [DescribeMetadataResult](#)
- [RetrieveResult](#)

AsyncResult

このオブジェクトの値をポーリングして、非同期のメタデータコールが完了したタイミングと正常に完了したかどうかを判定します。非同期のメタデータコール [describeMetadata](#)、[retrieve](#)、および [deploy](#) は、AsyncResult オブジェクトの配列を返します。配列の各要素は、コールで渡されたメタデータコンポーネントの配列の要素に対応します。

各オブジェクトに対して [getSucceeded](#) コールを発行し、そのオブジェクトのコールが完了するタイミングを検出します。Salesforce は、コールが完了すると、またはエラーが発生すると、各 AsyncResult オブジェクトを更新します。

[getSucceeded](#) コールと [getFailed](#) コールは AsyncResult を同様に使用しますが、リリースまたは取得の状況情報をさらに取得するには、以降で [getReleased](#) または [getRetrieved](#) をそれぞれに使用する必要があります。

各 AsyncResult オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
isReleased	boolean	組織で一切の変更を行わず、リリースされたファイルの有効性を確認するためにこのリリースが使用されているか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>)を示します。確認のみのリリースでは、いずれのコンポーネントもリリースせず、組織の変更も一切行いません。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用でき、 describeMetadata コールのみに関連します。
isSucceeded	boolean	必須。コールが完了したか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>)を示します。
id	ID	必須。作成、更新、削除、リリース、または取得されるコンポーネントの ID。

名前	型	説明
	string	返された項目がある場合は、それに対応するメッセージ。
	int	このリリース中にエラーを生成したコンポーネントの数。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用でき、コールのみに関連します。
	int	このリリースについて、これまでにリリースされたコンポーネントの数。この項目は、項目と併せて、リリースの進行状況を示します。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用でき、コールのみに関連します。
	int	リリースのコンポーネントの合計数。この項目は、項目と併せて、リリースの進行状況を示します。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用でき、コールのみに関連します。
	int	このリリース中にエラーを生成した Apex テストの数。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用でき、コールのみに関連します。
	int	このリリースについて、これまでに完了した Apex テストの数。この項目は、項目と併せて、リリースのテストの進行状況を示します。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用でき、コールのみに関連します。
	int	リリースの Apex テストの合計数。この項目は、項目と併せて、リリースのテストの進行状況を示します。この項目の値は、リリースされるコンポーネントのテストの実行がリリースで開始されるまで正確ではありません。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用でき、コールのみに関連します。
	int	この項目は API バージョン 13.0 以降ではサポートされていません。後方互換性を確保するためにのみ提供されています。この項目は API バージョン 17.0 で削除されました。 コールが完了するまでにかかるおおよその秒数を示します。これは推定のみです。をコールする前に少し待って、操作が完了したかを確認するのが合理的なアプローチです。以降のコールの各反復については、操作が完了するまでの待機時間を 2 倍にします。
	AsyncRequestState (string 型の列挙)	必須。オブジェクトの値は、次の 4 つの値のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> : このコールは開始していません。キューで待機しています。

名前	型	説明
		<ul style="list-style-type: none">：このコールは開始していますが、まだ完了していません。：このコールは完了しました。：エラーが発生しました。詳細は を参照してください。
	string	現在リリースされているコンポーネント、または実行している Apex テストクラスを示します。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用でき、 コールのみに関連します。
	dateTime	項目が最後に更新された日時。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用でき、 コールのみに関連します。
	StatusCode (string 型の列挙)	、 、または コール中にエラーが発生した場合、状況コードが返され、その状況コードに対応するメッセージが 項目に返されます。 各 StatusCode の値の説明については、 SOAP API Developer's Guide の「StatusCode」を参照してください。

DeployResult

非同期のメタデータコール は、DeployResult オブジェクトを返します。このオブジェクトには関連付けられた コールの成功または失敗の情報が含まれています。

名前	型	説明
	ID	リリースされるコンポーネントの ID。
	DeployMessage[]	コールの成功または失敗の情報が含まれます。
	RetrieveResult	に パラメータが指定されていた場合、 の完了直後に が実行されます。この項目にはその 取得の結果が含まれます。
	RunTestsResult	パラメータまたは パラメータがテストを実行するように設定されている場合、この項目にはそれらのテストの結果が含まれます。
	boolean	リリースが正常に行われたか ()、否か () を示します。

使用方法

コールの成功または失敗の情報が含まれます。

DeployMessage

各 DeployResult オブジェクトには 1 つ以上の DeployMessage オブジェクトが含まれます。各 DeployMessage オブジェクトにはリリース ファイルのコンポーネントのリリースの成功または失敗の情報が含まれます。

名前	型	説明
	boolean	の場合、このリリースの結果としてコンポーネントが変更されました。の場合、リリースされたコンポーネントは組織内にすでにある対応するコンポーネントと同じものです。
	int	各コンポーネントはテキストファイルで表されます。リリース中にエラーが発生した場合、この項目はエラーが発生したテキストファイルの列を表します。
	boolean	の場合、このリリースの結果としてコンポーネントが作成されました。の場合、このリリースの結果としてコンポーネントが削除されたか、または変更されたかのいずれかです。
	boolean	の場合、このリリースの結果としてコンポーネントが削除されました。の場合、このリリースの結果としてコンポーネントが新規作成されたか、または変更されたかのいずれかです。
	string	このコンポーネントのリリースに使用される ファイル内のファイルの名前。
	string	必須。コンポーネントの完全名です。 Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 を参照 してください。
	ID	リリースされるコンポーネントの ID。
	int	各コンポーネントはテキストファイルで表されます。リリース中にエラーが発生した場合、この項目はエラーが発生したテキストファイルの行番号を表します。
	string	エラーまたは警告が発生した場合、この項目にはコンパイルの失敗を引き起こした問題の説明が含まれます。
	DeployProblemType (string 型の 列挙)	問題の種別を示します。問題の詳細は 項目 で追跡されます。有効な値は、次のとおりです。 . . この項目は API バージョン 18.0 以降で使用できます。バージョン 18.0 より前では、警告とエラーは区別されていませんでした。すべての問題はエラーとして処理され、リリースの成功を妨げていました。

名前	型	説明
	boolean	コンポーネントのリリースが正常に行われたか()、否か()を示します。

RunTestsResult

コールは、指定された Apex のコンパイルが成功したか否か、単体テストが正常に完了したか否かについての情報を返します。

RunTestsResult オブジェクトには、次のプロパティがあります。

名前	型	説明
	CodeCoverageResult[]	単体テストのコードカバレッジの詳細を含む 1 つ以上の CodeCoverageResult オブジェクトの配列。
	CodeCoverageWarning[]	テストの実行について警告する 1 つ以上のコード範囲の配列。結果には、実行された行の合計数、実行されなかったコードの数、行、列の位置が含まれています。
	RunTestFailure[]	単体テストの失敗があれば、それについての情報を含む 1 つ以上の RunTestFailure オブジェクトの配列。
	int	単体テストの失敗数。
	int	実行された単体テストの数。
	RunTestSuccess[]	成功についての情報があればその情報を含む 1 つ以上の RunTestSuccesses オブジェクトの配列。
	double	テストの実行に費やした累積時間の合計。パフォーマンスの監視に役立つ場合があります。

CodeCoverageResult

このオブジェクトは [RunTestsResult](#) オブジェクトに含まれ、指定された Apex のコンパイルと単体テストの実行が正常に行われたかどうかの情報を保持します。

名前	型	説明
	CodeLocation[]	このプロパティには、テストされた各クラスまたはトリガについて、また、テストされたコードの各部分について、DML ステートメントの場所、コードが実行された回数、これらのコールに費やした累積時間の合計が含まれています。パフォーマンスの監視に役立つ場合があります。

名前	型	説明
	ID	CodeLocation の ID。ID は組織内で一意です。
	CodeLocation []	テストされた各クラスまたはトリガについて、コードが一切カバーされていない場合、テストされていないコードの行および列、コードが実行された回数。
	CodeLocation []	テストされた各クラスまたはトリガについて、メソッド呼び出しの場所、コードが実行された回数、これらのコールに費やした累積時間の合計。パフォーマンスの監視に役立つ場合があります。
	string	カバーされているクラスまたはトリガの名前。
	string	指定されている場合、単体テストを含む名前空間。
	int	コードの場所の合計数。
	CodeLocation []	テストされた各クラスまたはトリガについて、コードの SOQL ステートメントの場所、コードが実行された回数、これらのコールに費やした累積時間の合計。パフォーマンスの監視に役立つ場合があります。
	string	使用しません。以前のサポートされていないリリースでは、クラスまたはパッケージを指定していました。

CodeCoverageWarning

このオブジェクトは [RunTestsResult](#) オブジェクトに含まれ、警告を生成した Apex クラスに関する情報を保持します。

このオブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
	ID	CodeLocation の ID。ID は組織内で一意です。
	string	生成された警告のメッセージ。
	string	指定されている場合、単体テストを含む名前空間。
	string	指定されている場合、単体テストを含む名前空間。

RunTestFailure

[RunTestsResult](#) オブジェクトは、単体テスト実行時の失敗に関する情報を返します。

このオブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
	ID	失敗を生成したクラスの ID。
	string	失敗のメッセージ。
	string	失敗したメソッドの名前。
	string	失敗したクラスの名前。
	string	指定されている場合、クラスを含む名前空間。
	string	失敗についてのスタック追跡。
	double	失敗した処理についてテストの実行に費やした時間。パフォーマンスの監視に役立つ場合があります。
	string	使用しません。以前のサポートされていないリリースでは、クラスまたはパッケージを指定していました。

RunTestSuccess

[RunTestsResult](#) オブジェクトは、単体テスト実行時の成功に関する情報を返します。

このオブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
	ID	成功を生成したクラスの ID。
	string	成功したメソッドの名前。
	string	成功したクラスの名前。
	string	指定されている場合、単体テストを含む名前空間。
	double	この操作についてテストの実行に費やした時間。パフォーマンスの監視に役立つ場合があります。

CodeLocation

[RunTestsResult](#) オブジェクトは、多数の項目にこのオブジェクトを含みます。

このオブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
	int	テストされた Apex の列の場所。
	int	テストされた Apex の行の場所。
	int	テスト実行時に Apex が実行された回数。
	double	この場所で費やした累積時間の合計。パフォーマンスの監視に役立つ場合があります。

DescribeMetadataResult

コールは、宣言型メタデータを使用する開発者に役立つ、組織に関する情報を返します。

各 DescribeMetadataResult オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
	DescribeMetadataObject []	1 つ以上のメタデータコンポーネントおよびその属性。
	string	組織の名前空間。管理パッケージを含めることができる Developer Edition 組織用にのみ指定します。管理パッケージには作成時に指定される名前空間があります。
	boolean	が許容されるか()、否か()を示します。 この値は常に次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> 本番組織では 。 の反対。
	boolean	テストが必要か()、否か()を示します。 この値は常に の反対です。

DescribeMetadataObject

このオブジェクトは、DescribeMetadataResult の一部として返されます。各 DescribeMetadataObject には次のプロパティがあります。

名前	型	説明
	string[]	このコンポーネントの子サブコンポーネントのリスト。

名前	型	説明
	string	このコンポーネントを含む ファイルのディレクトリの名前。
	boolean	コンポーネントがフォルダ内にあるか(), 否か()を示します。たとえば、ドキュメント、メールテンプレート、およびレポートはフォルダに保存されます。
	boolean	コンポーネントに付随するメタデータファイルが必要かどうかを示します。たとえば、ドキュメント、クラス、Sコントロールは追加のメタデータファイルを必要とするコンポーネントです。
	string	このコンポーネントのファイルサフィックス。
	string	このコンポーネントのメタデータファイルのルート要素の名前。また、この名前は、マニフェストファイル の > > 項目にも表示されます。

RetrieveResult

メタデータコール は RetrieveResult オブジェクトを返します。このオブジェクトには、関連付けられた コールの成功または失敗に関する情報が含まれます。

各 RetrieveResult オブジェクトには、次の項目があります。

名前	型	説明
fileProperties	FileProperties []	ファイルの各コンポーネントのプロパティとマニフェストファイルに関する情報が含まれます。コンポーネントごとに 1 つのオブジェクトが返されます。
id	ID	取得されるコンポーネントの ID。
messages	RetrieveMessage []	コールの成功または失敗に関する情報が含まれます。
zipFile	base64Binary	retrieve 要求で返された zip ファイル。Base 64 で符号化されたバイナリデータ API コールを行う前に、クライアントアプリケーションはバイナリ添付データを base64 に符号化する必要があります。応答を受信したら、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリに復号化する必要があります。この変換は、通常 SOAP クライアントによって処理されます。

FileProperties

このコンポーネントには、 ファイルの各コンポーネントのプロパティとマニフェストファイルに関する情報が含まれます。コンポーネントごとに 1 つのオブジェクトが返されます。このコンポーネントに

は、ファイル内の関連付けられたメタデータファイルに関する情報は含まれず、コンポーネントファイルとマニフェストファイルに関する情報のみが含まれます。FileProperties には次のプロパティが含まれます。

名前	型	説明
	string	必須。ファイルを作成したユーザの ID。
	string	必須。ファイルを作成したユーザの名前。
	dateTime	必須。ファイルが作成された日時。
	string	必須。ファイルの名前。
	string	必須。API アクセスの一意の識別子として使用される、ファイルの開発者名。値は 開発者名 に基づいていますが、許容される文字はより制限されます。 開発者名 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。
	string	必須。ファイルの ID。
	string	必須。ファイルを最後に更新したユーザの ID。
	string	必須。ファイルを最後に更新したユーザの名前。
	dateTime	必須。ファイルが最後に更新された日時。
	ManageableState (string 型の 列挙)	指定されたコンポーネントがパッケージに含まれている場合、そのコンポーネントの管理可能な状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • • • • • • Force.com AppExchange パッケージのコンポーネントの管理可能性の状態に関する詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「管理パッケージのリリースの計画」を参照してください。
	string	コンポーネントの名前空間プレフィックス (ある場合)。
	string	必須。 メタデータ型 、 メタデータ型 、または メタデータ型 などのメタデータ型。

RetrieveMessage

RetrieveResult はこのオブジェクトを返します。このオブジェクトには、 [RetrieveMessage](#) コールの成功または失敗に関する情報が含まれます。問題ごとに 1 つのオブジェクトが返されます。

名前	型	説明
	string	取得された ファイル に含まれる、問題が発生したファイルの名前。

名前	型	説明
	string	発生した問題の説明。

第 10 章

メタデータ型

メタデータ API では、カスタマイズできるユーザインターフェースのすべてにアクセスを許可するわけではありません。開発プロジェクトに必要なすべてのコンポーネントがメタデータ API で取得され、リリースされるように、サポートされるメタデータ型とサポートされないメタデータ型のリストを確認し、適宜計画してください。メタデータ型は、必ずしも関連するデータ型に直接対応するわけではないため、情報がアクセス可能である場合でも、期待通りに構成されるとは限りません。たとえば連動選択リストは、別のメタデータ型ではなく、選択リストの型として公開されます。

メタデータ型	説明
AnalyticSnapshot	分析スナップショットを表します。分析スナップショットにより、履歴データに関するレポートを作成できます。承認されたユーザは、表形式のレポートやサマリーレポートの結果をカスタムオブジェクトの項目に保存することができ、それらの項目を対象オブジェクト上の対応する項目に割り当てることができます。その上で、レポートをいつ実行してそのカスタムオブジェクトの項目にレポートのデータを読み込むかをスケジューリングできます。分析スナップショットでは、一般の Salesforce でのレコード操作と同様のレポートデータ操作を実行できます。
ApexClass	Apex クラスを表します。Apex クラスは、Apex オブジェクトを作成するためのテンプレート、つまり設計図です。クラスは、他のクラス、ユーザ定義メソッド、変数、例外型、および静的初期化コードで構成されます。
ApexComponent	Visualforce コンポーネントを表します。
ApexPage	1 つの Visualforce ページを表します。
ApexTrigger	Apex トリガを表します。トリガは、オブジェクトレコードがデータベースに挿入される前や、レコードが削除された後など、特定のデータ操作言語 (DML) 行動が発生する前後に実行される Apex コードです。
ApprovalProcess	承認プロセスに関連付けられたメタデータを表します。承認プロセスは、Salesforce でレコードを承認する場合に、組織で利用できる自動化されたプロセスです。承認プロセスでは、承認するレコードの条件と各承認ステップの承認者を指定します。各承認ステップは、その承認プロセスの対象レコードすべてに適用することも、システム管理者が定義した特定の条件を満たすレコードのみに適用することもできます。承認プロセスでは、レコードの承認、却下、取り消しまたは最初の承認申請時に実施するアクションも指定します。
ArticleType	記事タイプに関連付けられたメタデータを表します。

メタデータ型	説明
AuthProvider	組織の認証プロバイダを表します。認証プロバイダはFacebook® やJanrain®などの外部サービスプロバイダのログイン情報を使用して、Salesforce 組織にユーザがログインできるようにします。
BaseSharingRule	条件に基づく共有ルールおよび所有者に基づく共有ルールの基本コンテナを表します。
CriteriaBasedSharingRule	条件に基づく共有ルールを表します。CriteriaBasedSharingRule を使用すると、特定の条件に基づいたレコードの共有を行えます。
CustomApplication	CustomApplication はカスタムアプリケーションを表します。アプリケーションは、説明とロゴを使用したタブ参照のリストです。
CustomApplicationComponent	Service Cloud コンソールとしてマークされている CustomApplication に割り当てられたカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。カスタムコンソールコンポーネントは、Service Cloud コンソールアプリケーションの機能を拡張します。
CustomLabels	このメタデータ型を使用して、異なる言語、国、および通貨で使用するためにローカライズできるカスタム表示ラベルを作成できます。
CustomObject	組織に固有のデータを保存するカスタムオブジェクトを表します。
CustomObjectTranslation	このメタデータ型を使用して、カスタムオブジェクトをさまざまな言語に翻訳できます。
CustomPageWebLink	ホームページコンポーネントに定義された Web リンクを表します。
CustomSite	Force.com サイトを表します。Force.com サイトでは、公開 Web サイトとアプリケーションを作成できます。それらは Salesforce 組織と直接統合されるため、ユーザがログインする場合にユーザ名やパスワードは必要ありません。
CustomTab	カスタムタブを表します。カスタムタブとは、カスタムオブジェクトのデータや、アプリケーションに埋め込まれている他の Web コンテンツを表示するために作成するユーザインターフェースコンポーネントのことです。タブにカスタムオブジェクトが表示されているとき、タブ名はカスタムオブジェクト名と同じになります。ページ、Sコントロール、またはURLタブの場合は任意の名前です。
Dashboard	ダッシュボードを表します。ダッシュボードは、総計値とパフォーマンスを一目で理解できるように表示されたデータの視覚的表現です。
DataCategoryGroup	データカテゴリグループを表します。
Document	ドキュメントを表します。すべてのドキュメントは、 などのドキュメントフォルダ内にある必要があります。
EmailTemplate	メールテンプレートを表します。
EntitlementTemplate	エンタイトルメントテンプレートを表します。エンタイトルメントテンプレートは、商品にすばやく追加できる、事前定義されたカスタマサポート

メタデータ型	説明
	の条件です。たとえば、ユーザが顧客に提供される商品にエンタイトルメントを容易に追加できるよう Web サポートまたは電話サポートのエンタイトルメントテンプレートを作成できます。
Flow	フローに関連付けられたメタデータを表します。フローを使用すると、ユーザが一連の画面を移動してデータベース内のレコードをクエリおよび更新するアプリケーションを作成できます。また、ユーザ入力に基づいてロジックを実行して分岐機能を提供し、動的なアプリケーションを構築できます。
Folder	フォルダを表します。
Group	ユーザ、ロールおよびその他のグループを含めることができる公開グループのセットを表します。
HomePageComponent	ホームページコンポーネントに関連付けられたメタデータを表します。[ホーム] タブにサイドバーリンク、会社のロゴ、またはダッシュボードのスナップショットなどのコンポーネントを含めるようにカスタマイズできます。
HomePageLayout	ホームページのレイアウトに関連付けられたメタデータを表します。ホームページのレイアウトをカスタマイズし、ユーザのプロファイルに基づいてユーザにレイアウトを割り当てることができます。
InstalledPackage	インストールまたはアンインストールするパッケージを表します。現在インストールされているパッケージの新バージョンをリリースすると、パッケージがアップグレードされます。
Layout	ページレイアウトに関連付けられたメタデータを表します。
Letterhead	メールテンプレートのレターヘッドの書式設定オプションを表します。レターヘッドは、HTML メールテンプレートのデザインを定義します。レターヘッドからは、使用するロゴ、ページの色、およびテキスト設定を HTML メールテンプレートに継承できます。
Metadata	これはすべてのメタデータ型の基本クラスです。このオブジェクトを編集することはできません。コンポーネントは、メタデータ型のインスタンスです。
MetadataWithContent	これは、ドキュメントまたはメールテンプレートなどのコンテンツが含まれるすべてのメタデータ型の基本型で、
MobileSettings	Chatter 設定や、Mobile Lite が有効化されているかどうかなどの、組織のモバイル設定を表します。
Network	コミュニティを表します。コミュニティとは、従業員、顧客、パートナーがつながることのできるブランド空間です。ビジネスニーズに合ったコミュニティを複数カスタマイズおよび作成し、コミュニティ間をシームレスに移行できます。Salesforce.com コミュニティには Network コンポーネントを使用します。Chatter アンサーおよび アイデアを含むゾーンを作成する場合は、Community (Zone) コンポーネントを使用します。

メタデータ型	説明
OwnerSharingRule	所有権ベースの共有ルールを表します。OwnerSharingRule を使用すると、対象のユーザグループのアクセスレベルを指定するルールを使用して、あるユーザのセットが所有するレコードを他のユーザのセットと共有することができます。
Package	コールの一部として取得するメタデータコンポーネントを指定するため、またはコンポーネントのパッケージを定義するために使用されます。
PermissionSet	ユーザのプロファイルを変更せずに、追加権限の許可に使用する権限のセットを表します。アクセスの許可に権限セットを使用できますが、アクセスの拒否には使用できません。
Portal	Portal メタデータ型はパートナーポータルまたはカスタマーポータルを表します。
Profile	ユーザプロファイルを表します。プロファイルは、Salesforce 内でさまざまな機能を実行するためのユーザの権限を定義します。
Queue	処理する前にアイテムを置いておく領域を表します。
RemoteSiteSetting	リモートサイトの設定を表します。Sコントロールやカスタムボタンで XmlHttpRequest を使用し、Visualforce ページ、Apex 呼び出し、または JavaScript コードで外部サイトを呼び出せるようにするには、[リモートサイトの設定] ページにそのサイトを登録しておく必要があります。これを行わないと、呼び出しは失敗します。
Report	カスタムレポートを表します。
ReportType	カスタムレポートタイプに関連付けられたメタデータを表します。
Role	組織内のロールを表します。
Scontrol	非推奨。Salesforce ユーザインターフェースの Sコントロールに対応する、Scontrol コンポーネントを表します。
SecuritySettings	組織のセキュリティ設定を表します。セキュリティ設定は、ネットワークアクセス用の信頼できる IP 範囲、パスワードとログインの要件、およびセッション終了とセキュリティ設定を定義します。
SharingRules	共有ルールのセットを表します。SharingRules を使用すると、対象ユーザグループのアクセスレベルを指定するルールを使用して、レコードをユーザのセットと共有できます。
StaticResource	静的リソースファイルを表します。多くの場合は、ZIP ファイル内のコードライブラリです。
Territory	組織内のテリトリーを表します。
Translations	このメタデータ型を使用して、さまざまな使用言語の翻訳を処理できます。
Weblink	カスタムオブジェクトに定義された Web リンクを表します。

メタデータ型	説明
Workflow	ワークフロールールに関連付けられたメタデータを表します。ワークフロールールは、指定された条件に該当するときに、ワークフローアクションを実行します。ワークフローアクションは、ワークフロールールで指定された条件をレコードが満たすとただちに実行するか、タイムトリガを設定して特定の日に実行するように設定することができます。

Metadata コンポーネントおよびメタデータ型

Metadata コンポーネントは、API のオブジェクトのような sObject には基づいていません。代わりに、[Metadata](#) を拡張する ApexClass および CustomObject などのメタデータ型に基づいています。コンポーネントは、メタデータ型のインスタンスです。たとえば、[CustomObject](#) はカスタムオブジェクトのメタデータ型で、コンポーネントはカスタムオブジェクトのインスタンスです。

メタデータ型は、メタデータ WSDL では、[Metadata](#) の complexType を拡張する任意の complexType として識別できます。メタデータ型である complexType には、WSDL 定義に次の要素が含まれます。

CustomObject および BusinessProcess は Metadata を拡張するため、これらはメタデータ型です。一方、ActionOverride は Metadata を拡張しないためメタデータ型ではありません。

メタデータ型のコンポーネントは個々にリリースまたは取得できます。たとえば、個々の BusinessProcess コンポーネントは取得できますが、個々の ActionOverride コンポーネントは取得できません。ActionOverride コンポーネントは、このコンポーネントを含む CustomObject コンポーネントを取得することによってのみ取得できます。

メタデータコンポーネントは、[非同期のメタデータ API コール](#)または[宣言型 \(つまり、ファイルベースの\) メタデータ API コール](#)によって操作できます。

ほとんどのコンポーネントは Force.com IDE を使用してアクセスできます。例外は、オブジェクトの説明に記述されています。

項目のデータ型

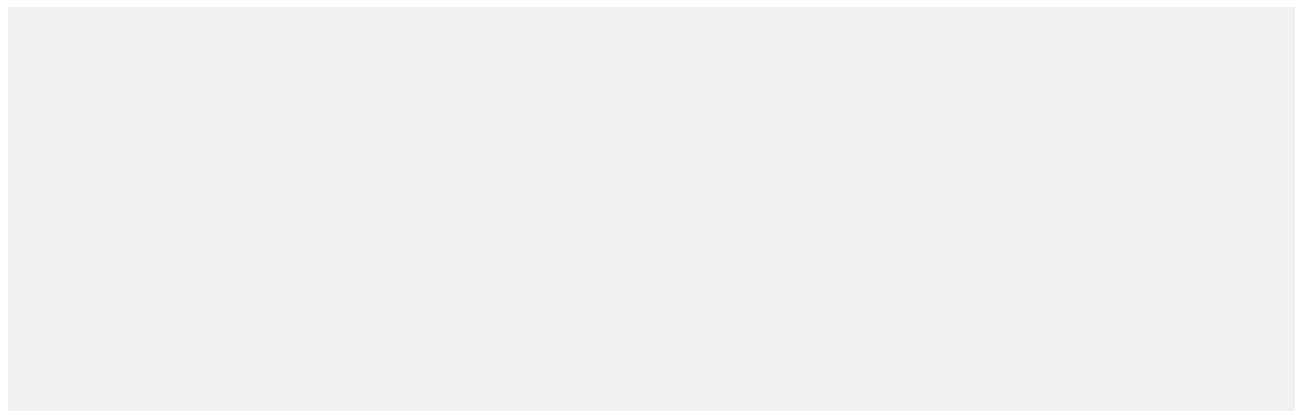
各コンポーネントの項目には固有のデータ型があります。これらのデータ型は WSDL で定義されているその他のコンポーネント、または、強く型付けされたプログラミング言語で一般的に使用されている [プリミティブデータ型](#) などのプリミティブデータ型に対応している場合があります。

これら項目のデータ型は、クライアントアプリケーションと API との間で交換される SOAP メッセージで使用されます。クライアントアプリケーションを記述するときは、プログラム言語および開発環境で定義されているデータ型のルールに従ってください。開発ツールでは、プログラミング言語のデータ型の対応付けをこの SOAP データ型で処理します。

プリミティブデータ型の詳細は、[『SOAP API 開発者ガイド』](#)を参照してください。

列挙項目

一部のコンポーネント項目は列挙であるデータ型を持ちます。列挙は、APIでの選択リストと同じです。項目の有効な値は、同じデータ型を持つ指定可能な値のセットに厳密に制限されます。これらの値のリストは、各列挙項目の項目の説明列に示されます。string 型の列挙項目の例については、[こちら](#)を参照してください。以下の XML では WSDL の string 型の列挙の定義のサンプルを示します。



サポートされているコール

個々のコンポーネントセクションで別途指定されていない限り、すべてのメタデータ型はメインコールでサポートされています。メインのメタデータ API コールは、[こちら](#)、[こちら](#)、[こちら](#)、[こちら](#)、[こちら](#)、および [こちら](#) です。などのその他のすべてのコールは、メインコールの 1 つと併用されるためユーティリティコールとみなされます。

サポートされていないメタデータ型

Salesforce 組織でカスタマイズできるコンポーネントの一部をメタデータ API では使用できません。

次のコンポーネントはメタデータ API では取得またはリリースできません。また、これらのコンポーネントへの変更は組織ごとに手動で行う必要があります。

- 取引先チームの役割
- 取引先チーム
- 活動ボタンの上書き
- 分析設定
- カスタマイズ可能な標準項目での自動採番
- 営業時間
- キャンペーンの影響
- ケース取引先責任者の役割
- ケースフィードのレイアウト
- ケースチーム内の役割
- Chatter の承認
- コンソールレイアウト

- 通貨の換算レート
- データカテゴリの表示設定
- 代理管理者
- ディビジョン
- メールサービス
- 項目履歴管理 – 通貨項目および所有者項目
- 会計年度
- 休日
- HTML ドキュメントと添付ファイルの設定
- 表示ラベルの名称変更
- リードの設定
- 差し込み印刷テンプレート
- モバイル管理
- モバイルユーザとデバイス
- オフラインブリーフケース設定
- 商談の大規模商談アラート
- 商談アップデートリマインダー
- 組織のメールアドレス
- パートナー管理
- 定義済みのケースチーム
- 商品スケジュール設定
- 公開およびリソースカレンダー
- 見積テンプレート
- Salesforce to Salesforce
- 検索設定
- セルフサービスポータルフォントと色
- セルフサービスポータル設定
- セルフサービスポータルユーザ
- セルフサービス公開ソリューション
- セルフサービス Web-to-ケース
- 組織の共有設定の共有
- Site.com
- ソーシャル取引先/取引先責任者の設定
- ソリューションカテゴリ
- ソリューション設定
- サポート設定
- タブの名称変更
- タグ設定
- テリトリー割り当てルール
- ユーザーインターフェース設定 ([ActivitiesSettings](#) (ページ 414) でサポートされているカレンダー機能を除く)
- 個人取引先ページレイアウトの Web リンク
- Web-to-リード

AnalyticSnapshot

分析スナップショットを表します。分析スナップショットにより、履歴データに関するレポートを作成できます。承認されたユーザは、表形式のレポートやサマリーレポートの結果をカスタムオブジェクトの項目に保存することができ、それらの項目を対象オブジェクト上の対応する項目に割り当てることができます。その上で、レポートをいつ実行してそのカスタムオブジェクトの項目にレポートのデータを読み込むかをスケジューリングできます。分析スナップショットでは、一般の Salesforce でのレコード操作と同様のレポートデータ操作を実行できます。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

Force.com の AnalyticSnapshot コンポーネントは、対応するパッケージディレクトリの **ディレクトリ** に保存されます。ファイル名は、分析スナップショットの一意の名前に一致し、拡張子はありません。

バージョン

Force.com の AnalyticSnapshot コンポーネントは、API バージョン 16.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	string	分析スナップショットの説明。
	string	API アクセスに使用される分析スナップショット名。名前には、英数字、およびアンダースコア (_) 文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した 2 つのアンダースコア文字を含めたりすることはできません。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	string	ソースレポートからのデータ抽出レベルを指定する列。サマリーレポートのみに適用されます。
	AnalyticSnapshotMapping[]	分析スナップショットの対応付けのリスト。有効な値については、「 AnalyticSnapshotMapping 」を参照してください。
	string	必須。分析スナップショットの表示名。
	string	分析スナップショットを実行するために使用されるロールと共有設定を所有するユーザのユーザ名。
	string	必須。データの抽出元であるレポート。
	string	必須。データの挿入先であるカスタムオブジェクト。

AnalyticSnapshotMapping

AnalyticSnapshotMapping は、分析スナップショットの対応付けを定義します。有効な値は、次のとおりです。

項目	データ型	説明
	ReportSummaryType[] (string 型の列挙)	各レポート項目が集計されるかどうか、および集計方法を定義するリスト。有効な値については、「 ReportSummaryType 」を参照してください。
	string	sourceField は、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • targetObject で targetField に対応付ける sourceReport の項目。 • sourceReport の項目の概要 (サマリーレポートのみ) • 分析スナップショットの JobName、RunningUser、または ExecutionTime などの項目 (ユーザインターフェースで設定) <p>注意: sourceField は、指定する sourceType に対応している必要があります。</p>
	ReportJobSourceTypes[] (string 型の列挙)	分析スナップショットのレポート形式を定義するリスト。有効な値については、「 ReportJobSourceTypes 」を参照してください。
	string	この特定の sourceField の挿入先である targetObject の項目。

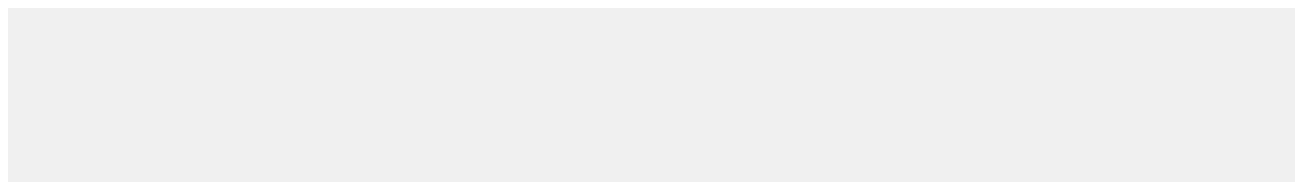
ReportJobSourceTypes

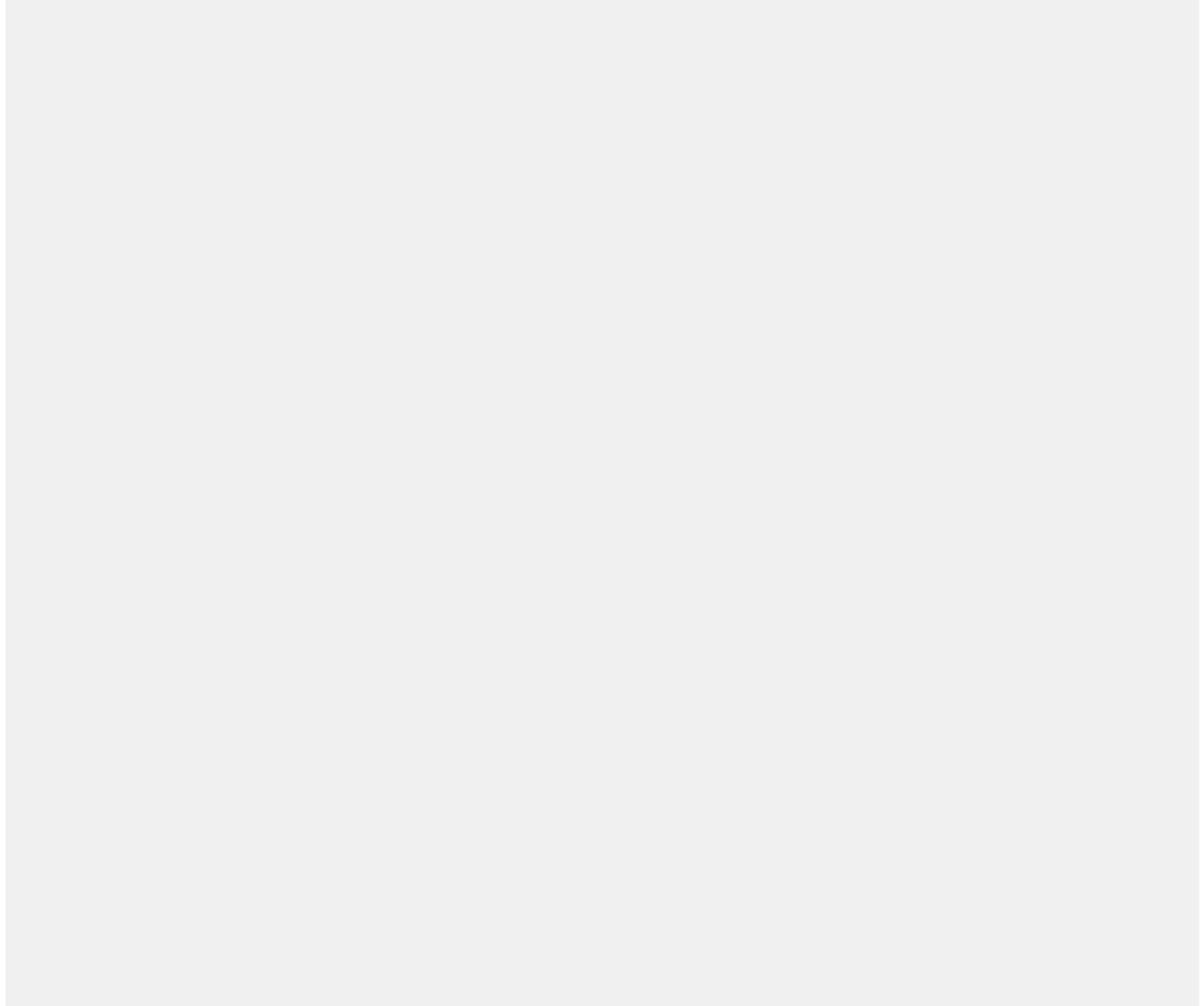
分析スナップショットのレポート形式を定義する string 型の列挙。有効な値は、次のとおりです。

列挙値	説明
	sourceField に JobName、RunningUser、または ExecutionTime などのスナップショット固有の情報が含まれる場合は、このオプションを使用します。
	sourceReport の項目の集計 (合計、平均、最小、最大) を参照する場合は、このオプションを使用します。
	sourceReport から使用可能な列を参照する場合は、このオプションを使用します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

分析スナップショットの XML 定義のサンプルを以下に示します。





関連リンク

[Report](#)

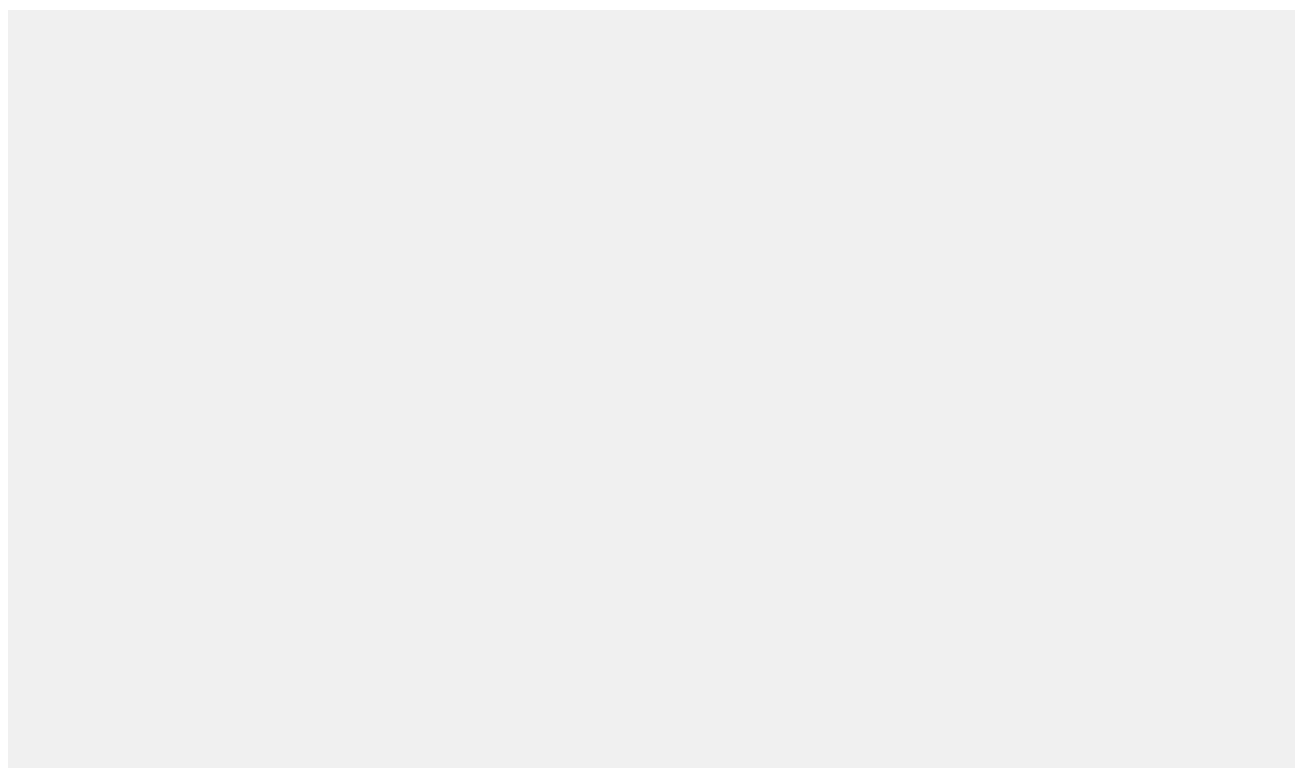
ArticleType

記事タイプに関連付けられたメタデータを表します。Salesforce ナレッジのすべての記事は1つの記事タイプに割り当てられます。記事のタイプは、記事が含むコンテンツのタイプ、外観、および記事にアクセスできるユーザーを特定します。たとえば、単純なFAQの記事タイプには、およびの2つのカスタム項目があり、記事マネージャがFAQの記事の作成または更新時にそこにデータを入力します。より複雑な記事タイプでは、複数のセクションに分かれた多数の項目が必要な場合があります。レイアウトおよびテンプレートを使用することで、管理者は特定のコンテンツに対して最も効果的な方法で記事タイプを構築できます。記事タイプへのユーザーのアクセスは権限によって制御されます。各記事タイプについて、管理者は「作成」、「参照」、「編

集」、または「削除」権限をユーザに与えることができます。たとえば、記事マネージャが内部ユーザにはFAQを参照、作成、編集できるようにするけれども、パートナーユーザにはFAQの参照のみを可能にする場合などです。Salesforce オンラインヘルプの「記事タイプの管理」および『[SOAP API Developer's Guide](#)』の「Articles」を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ArticleType はカスタムオブジェクトとして定義され、`ArticleType` フォルダに保存されます。ArticleType のサフィックスには `ArticleType` を使用します (カスタムオブジェクトの場合の `__c` の代わりに)。ArticleType 項目名にはその他のカスタムオブジェクトと同様に `ArticleType` サフィックスを使用し、属する記事タイプの名前を使ってドット修飾する必要があります。次のサンプル `ArticleTypeChannelDisplay` ファイルでこれを示します。



バージョン

ArticleType は、API バージョン 19.0 以降で使用できます。

項目

項目名	データ型	説明
	<code>articleTypeChannelDisplay</code>	さまざまなチャンネルで記事を表示するために使用する記事タイプテンプレートを表します。Salesforce オンラインヘルプの「記事タイプテンプレートの割り当て」を参照してください。

項目名	データ型	説明
	DeploymentStatus (string 型の 列挙)	カスタムオブジェクトまたはカスタム項目のリリース状況を表す文字列。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・
	string	記事タイプの説明。最大 1000 文字です。
	CustomField[]	記事タイプの 1 つ以上の項目を表します。
	Gender	名詞の性別を示す言語の翻訳をサポートするための名前の性別。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・ ・
	string	Salesforce ユーザインターフェース全体でオブジェクトを表す表示ラベル。
	string	値の複数形です。
	StartsWith (string 型の 列挙)	名前が母音、子音、または特殊文字で開始されているかを示します。これは、語の最初の文字に基づいて、異なる処理が必要となる言語に使用されます。有効な値は、「 StartsWith 」にリストされています。

articleTypeChannelDisplay

チャンネルで記事を表示するために使用される記事タイプテンプレートを決定します。別途記載がない限り、すべての項目は作成可能、除外可能で、null にすることもできます。

項目名	データ型	説明
	articleTypeTemplates	特定のチャンネルに適用する記事タイプテンプレートを示します。

articleTypeTemplates

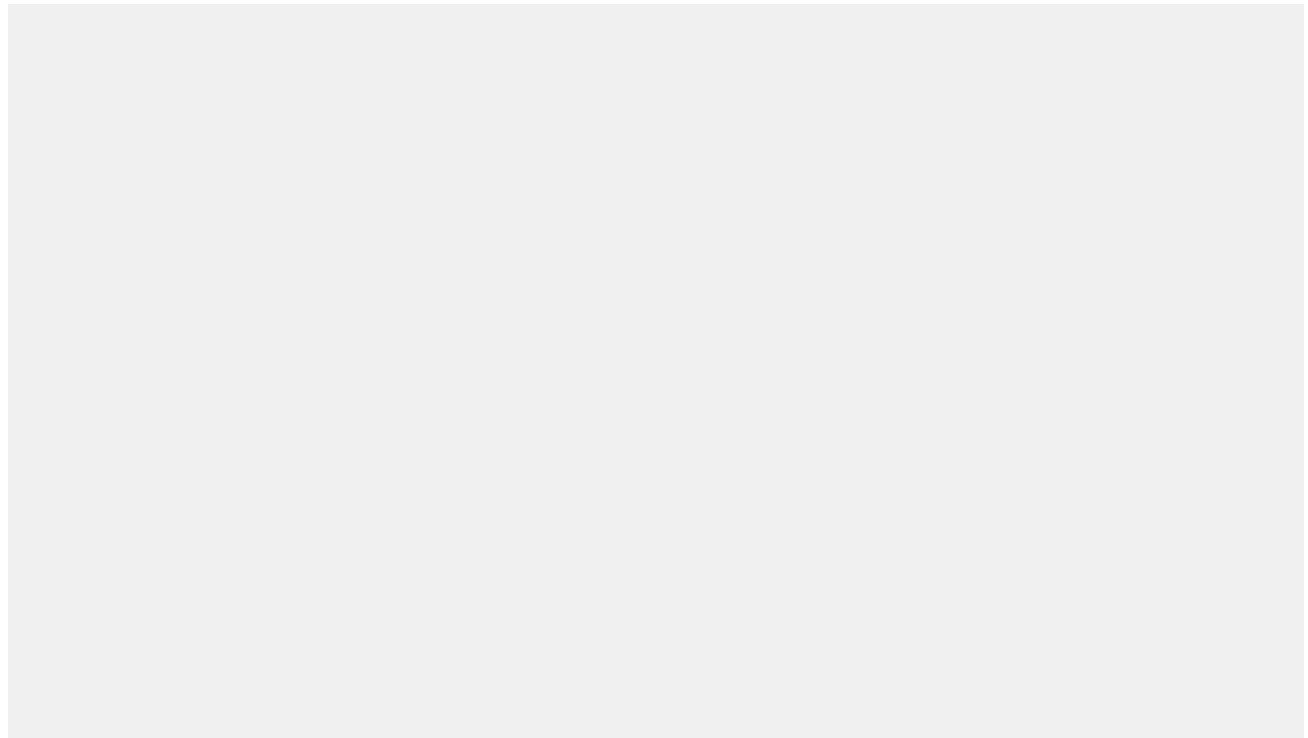
特定のチャンネルで使用する記事タイプテンプレートを設定します。指定されていない場合、デフォルトの記事タイプテンプレートが適用されます。

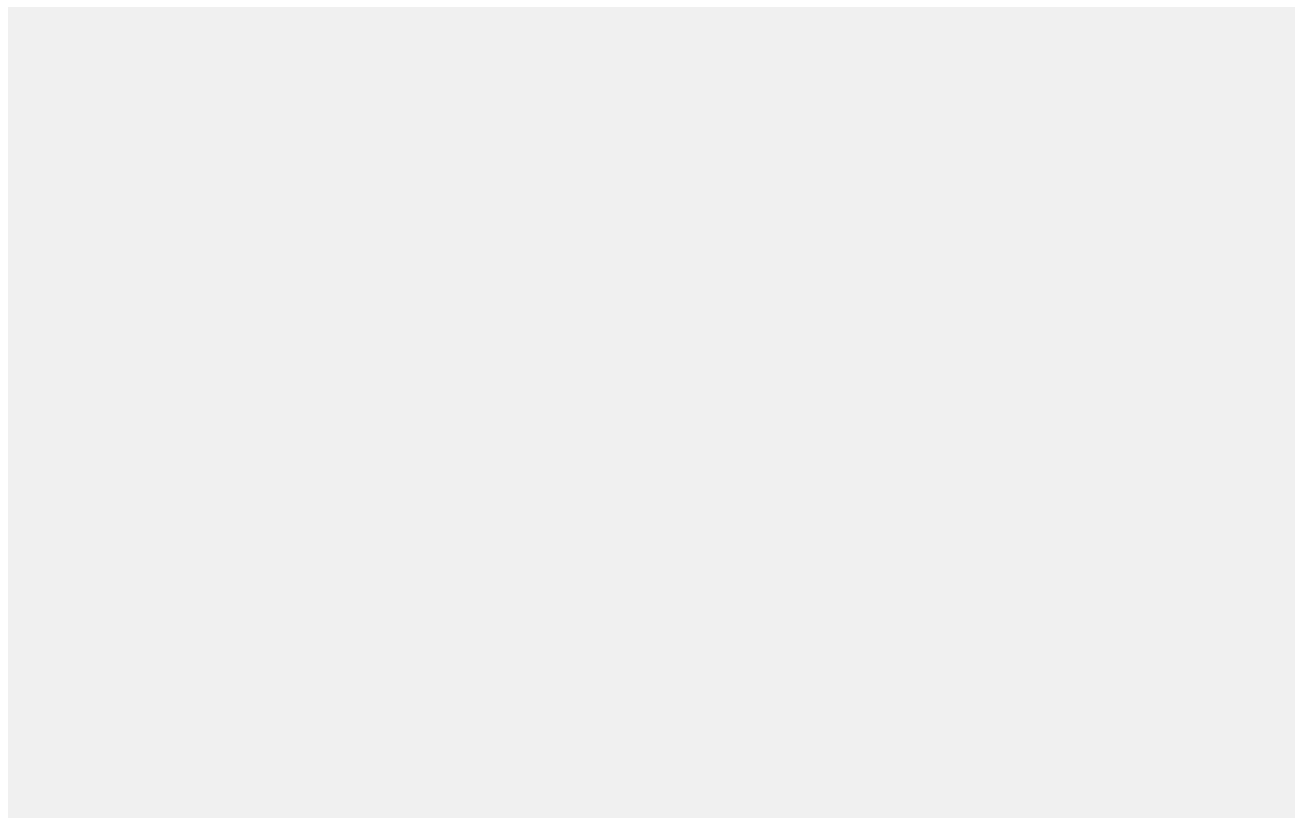
項目名	データ型	説明
	string	記事タイプテンプレートが適用されるチャンネルを指定します。 ・ : 使用できるすべてのチャンネル ・ : Salesforce ナレッジの [記事] タブ

項目名	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • : 公開知識ベース • : カスタマーポータル • : パートナーポータル <p>チャンネルについての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Salesforce ナレッジの用語」を参照してください。</p>
	string	カスタム記事タイプテンプレートとして使用されるカスタム Visualforce ページの名前を表します。template 項目で選択する場合にこの項目を使用します。
	string	<p>特定のチャンネルに使用する記事タイプテンプレートを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • : カスタム Visualforce ページ。この値を指定する場合、項目を Visualforce ページ名で設定する必要があります。 • : タブとしてレイアウトに定義したセクションを表示します。 • : 目次としてレイアウトに定義したセクションを表示します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

記事タイプの定義のサンプルを以下に示します。





関連リンク

[ArticleType レイアウト](#)

[ArticleType CustomField](#)

ArticleType レイアウト

記事タイプのページレイアウトに関連付けられたメタデータを表します。記事タイプレイアウトは、ユーザが記事にデータを入力するときに参照および編集できる項目と、ユーザが記事を参照するときに表示されるセクションも決定します。記事の形式 (たとえばレイアウトセクションをサブタブ、またはリンクのある 1 つのページとして表示するかどうか) は、[記事タイプテンプレート](#)で定義します。各記事タイプには 1 つのレイアウトのみ使用できますが、記事タイプの 4 つのチャンネルのそれぞれに異なるテンプレートを選択できます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「記事タイプの管理」および[SOAP API Developer's Guide](#)の「Articles」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ArticleType レイアウトは、対応するパッケージディレクトリの `layouts` ディレクトリに保存されます。プレフィックスは、記事タイプの API 名に一致する必要があります。拡張子は `.layout` です。

バージョン

ArticleType レイアウトは、API バージョン 19.0 以降で使用できます。

項目

項目名	データ型	説明
	<code>LayoutSection[]</code>	記事項目を含むレイアウトのメインセクション。ここの順序はレイアウトの順序を決定します。

LayoutSection

LayoutSection は、ArticleType レイアウトのセクションを表します。

項目名	データ型	説明
	boolean	このセクションの表示ラベルがカスタムであるか標準(組み込み)であることを示します。カスタム表示ラベルは任意のテキストですが、翻訳する必要があります。標準表示ラベルには、「システム情報」など、自動的に翻訳される、定義済みの有効な値セットが含まれます。
	string	表示ラベル。 フラグに基づいて標準またはカスタムのいずれかとなります。
	LayoutColumn[]	レイアウトの列です。スタイルによって異なります。Salesforce ナレッジでは、記事タイプレイアウトで 1 つの列のみがサポートされています。
	LayoutSectionStyle (string 型の 列挙)	レイアウトのスタイル。Salesforce ナレッジでは、1 つの列ページを表示する 値のみがサポートされています。

LayoutColumn

LayoutColumn は、レイアウトセクション内の列の項目を表します。

項目名	データ型	説明
	<code>LayoutItem[]</code>	列内の個々の項目 (上から下の順序)

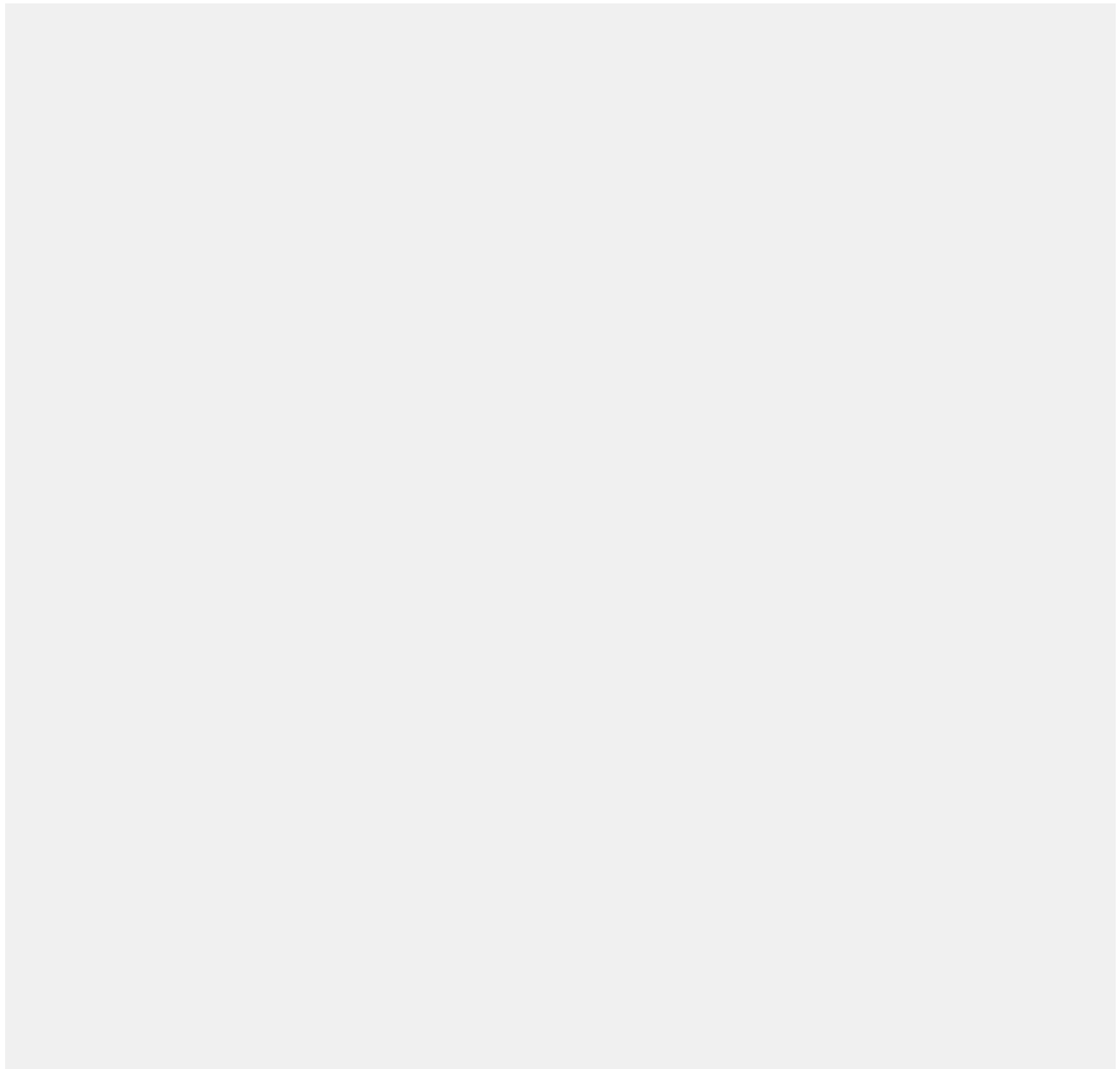
LayoutItem

LayoutItem は、レイアウト項目を定義する有効な値を表します。

項目名	データ型	説明
	string	などの項目名の参照。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

ArticleType ページレイアウトの定義を次に示します。



関連リンク

[ArticleType](#)

[ArticleType CustomField](#)

ArticleType CustomField

記事タイプカスタム項目に関連付けられたメタデータを表します。記事タイプ カスタム項目の定義を作成、更新、または削除するには、このメタデータ型を使用します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

カスタム項目を作成または更新するときには必ず完全名を指定する必要があります。たとえば、カスタムオブジェクトのカスタム項目は次のように表されます。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

カスタム項目は記事タイプの一部として定義されます。ArticleType 項目名にはその他のカスタムオブジェクトと同様に サフィックスを使用し、属する記事タイプの名前を使ってドット修飾する必要があります。詳細は、「[ArticleType](#)」を参照してください。

カスタムオブジェクトまたは標準オブジェクトのカスタム項目の取得

カスタムオブジェクトまたは標準オブジェクトを取得するとき、そのオブジェクトに関連付けられるものすべてが返されます。ただし、で明示的にオブジェクトと項目の名前を指定することによって、オブジェクトのカスタム項目のみを取得することもできます。内の次の定義は、それぞれに 1 つのカスタム項目の定義を含む、およびファイルを取得します。

バージョン

ArticleType カスタム項目は、API バージョン 19.0 以降で使用できます。

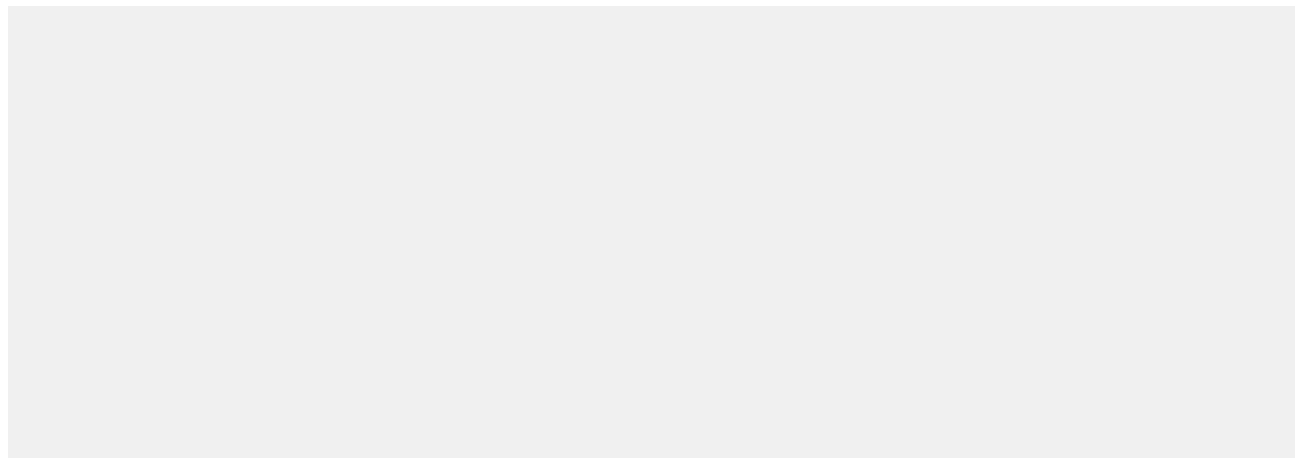
ArticleType の項目

別途記載がない限り、すべての項目は作成可能、除外可能で、null にすることもできます。

項目名	データ型	説明
	string	項目の説明。
	string	Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新

項目名	データ型	説明
		時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 を参照してください。 この値は にできません。
	string	項目レベルのヘルプの内容を表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「項目レベルのヘルプの定義」を参照してください。
	string	項目の表示ラベル。[記事タイプ] の標準項目の [タイトル]、[URL 名]、[概要] などの表示ラベルを更新することはできません。
	int	項目の長さ。
	Picklist (連動選択リストを含む)	指定されている場合、項目は選択リストで、この項目は選択リスト値および表示ラベルを列挙します。
	FieldType	必須。項目のデータ型を示します。有効な値は、次のとおりです。
	int	項目に表示される線の数を示します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル



関連リンク

[ArticleType](#)

[ArticleType レイアウト](#)

ApexClass

Apex クラスを表します。Apex クラスは、Apex オブジェクトを作成するためのテンプレート、つまり設計図です。他のクラス、ユーザ定義メソッド、変数、例外種別、および静的初期化コードで構成されます。詳細は、『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』を参照してください。このメタデータ型は、[MetadataWithContent](#) コンポーネントを拡張し、その項目を共有します。



メモ: Apex クラスに 1 つ以上の有効なスケジュール済みジョブがある場合は、このクラスへの更新をリリースすることはできません。

サポートされているコール



メモ: このメタデータ型は、[ApexClass](#)、[ApexClass](#)、および [ApexClass](#) コールでサポートされていません。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

クラスファイルのファイルサフィックスは、[.cls](#) です。付随するメタデータファイルには、`ClassName` という名前が付けられます。

Apex クラスは、対応するパッケージディレクトリの [classes](#) フォルダに保存されます。

バージョン

API クラスは API バージョン 10.0 以降で使用できます。

項目

このメタデータ型には、次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	double	このクラスの API バージョン。すべてのクラスには、作成時に指定された API バージョンが割り当てられています。
	base64	Apex クラスの定義。Base 64 で符号化されたバイナリデータ API コールを行う前に、クライアントアプリケーションはバイナリ添付データを base64 に符号化する必要があります。応答を受信したら、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリに復号化する必要があります。この変換は、通常 SOAP クライアントによって処理されます。この項目は、 MetadataWithContent コンポーネントから継承されます。
	string	Apex クラス名。名前には、英数字、およびアンダースコア (_) 文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した 2 つのアンダースコア文字を含めたりすることはできません。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	PackageVersion []	この Apex クラスによって参照される、インストール済みの管理パッケージバージョンのリスト
	ApexCodeUnitStatus (string 型の 列挙)	<p>Apex クラスの現在の状況。有効な文字列値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - クラスは有効です。 - クラスには削除のマークが付いています。管理パッケージの更新時にクラスを削除できるため、管理パッケージに利用すると便利です。 <p> メモ: ApexCodeUnitStatus には オプションが含まれますが、ApexTrigger のみでサポートされており、ApexClass ではサポートされていません。</p>

PackageVersion

PackageVersion は、管理パッケージのバージョンを識別します。パッケージバージョンは、パッケージでアップロードされる一連のコンポーネントを特定する番号です。バージョン番号の形式は *majorNumber.minorNumber.patchNumber* (例: 2.1.3) です。メジャー番号とマイナー番号は、毎回のメジャーリリース時に指定した値に増えます。*patchNumber* は、パッチリリースにのみ生成および更新されます。API バージョン 16.0 以降で使用できます。

項目名	データ型	説明
	string	必須。パッケージコンテキストでは、名前空間プレフィックスとは AppExchange にある自社パッケージとそのコンテンツを他の開発者のパッケージと区別するための 1 ~ 15 文字の英数字で構成される識別子です。名前空間プレフィックスでは、大文字小文字は区別されません。たとえば、ABC と abc は一意として認識されま

項目名	データ型	説明
		<p>せん。名前空間プレフィックスは、すべての Salesforce 組織にわたって必ずグローバルに一意なものを指定します。名前空間プレフィックスを使用することで、自社の管理パッケージのみを管理できるようになります。</p> <p>名前空間についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「名前空間プレフィックスの登録」を参照してください。</p>
	int	必須。パッケージバージョンのメジャー番号。パッケージバージョン番号は、 <code>majorNumber.minorNumber</code> 形式です。
	int	必須。パッケージバージョンのマイナー番号。パッケージバージョン番号は、 <code>majorNumber.minorNumber</code> 形式です。

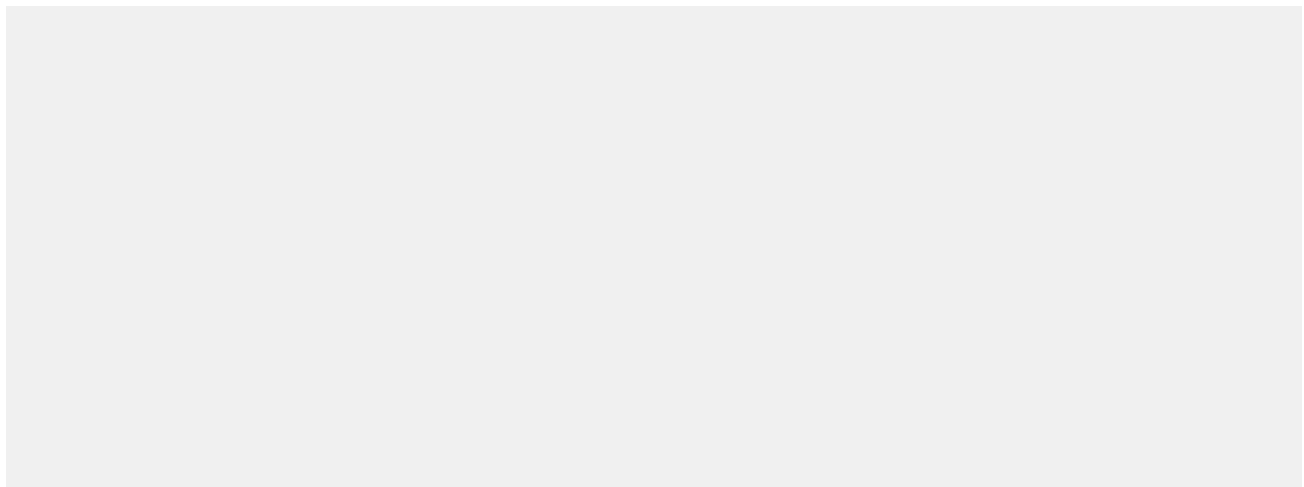
宣言的なメタデータの定義のサンプル

次のサンプルでは、
ルを作成します。

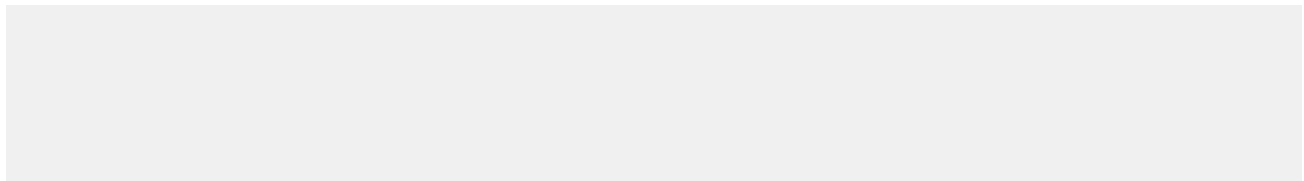
クラスと、対応する

メタデータファイ

ファイル:



:



関連リンク

[ApexTrigger](#)

ApexComponent

Visualforce コンポーネントを表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Visualforce の概要」を参照してください。このメタデータ型は、[MetadataWithContent](#) コンポーネントを拡張し、その項目を共有します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ページファイルのファイルサフィックスは、`ComponentName` です。付随するメタデータファイルには、`ComponentName` という名前が付けられます。

Visualforce コンポーネントは、対応するパッケージディレクトリの `ComponentName` フォルダに保存されます。

バージョン

Visualforce コンポーネントは、API バージョン 12.0 以降で使用できます。

項目

このメタデータ型には、次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	double	この Visualforce コンポーネントの API バージョン。どのコンポーネントにも、作成時に API バージョンが指定されます。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用できます。
	base64Binary	コンポーネントのコンテンツ。Base 64 で符号化されたバイナリデータ API コールを行う前に、クライアントアプリケーションはバイナリ添付データを base64 に符号化する必要があります。応答を受信したら、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリに復号化する必要があります。この変換は、通常 SOAP クライアントによって処理されます。この項目は、 MetadataWithContent コンポーネントから継承されます。
	string	コンポーネントの機能の説明。
	string	API アクセスの一意の識別子として使用されるコンポーネントの開発者名。 <code>__V</code> には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	string	必須。このコンポーネントの表示ラベル。
	PackageVersion []	この Visualforce コンポーネントによって参照される、インストール済みの管理パッケージバージョンのリスト。  メモ: パッケージコンポーネントと Visualforce カスタムコンポーネントの概念は大きく異なります。パッケージは、カスタムオブジェクト、Apex クラスとトリガ、カスタム

項目名	データ型	説明
		ページおよびカスタムコンポーネントなどの、多くの要素で構成されます。

関連リンク

[ApexPage](#)

ApexPage

1 つの Visualforce ページを表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Visualforce の概要」を参照してください。このメタデータ型は、[MetadataWithContent](#) コンポーネントを拡張し、その項目を共有します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ページファイルのファイルサフィックスは、`.apexpage` です。付随するメタデータファイルには、`PageName` という名前が付けられます。

Visualforce ページは、対応するパッケージディレクトリの `pages` フォルダに保存されます。

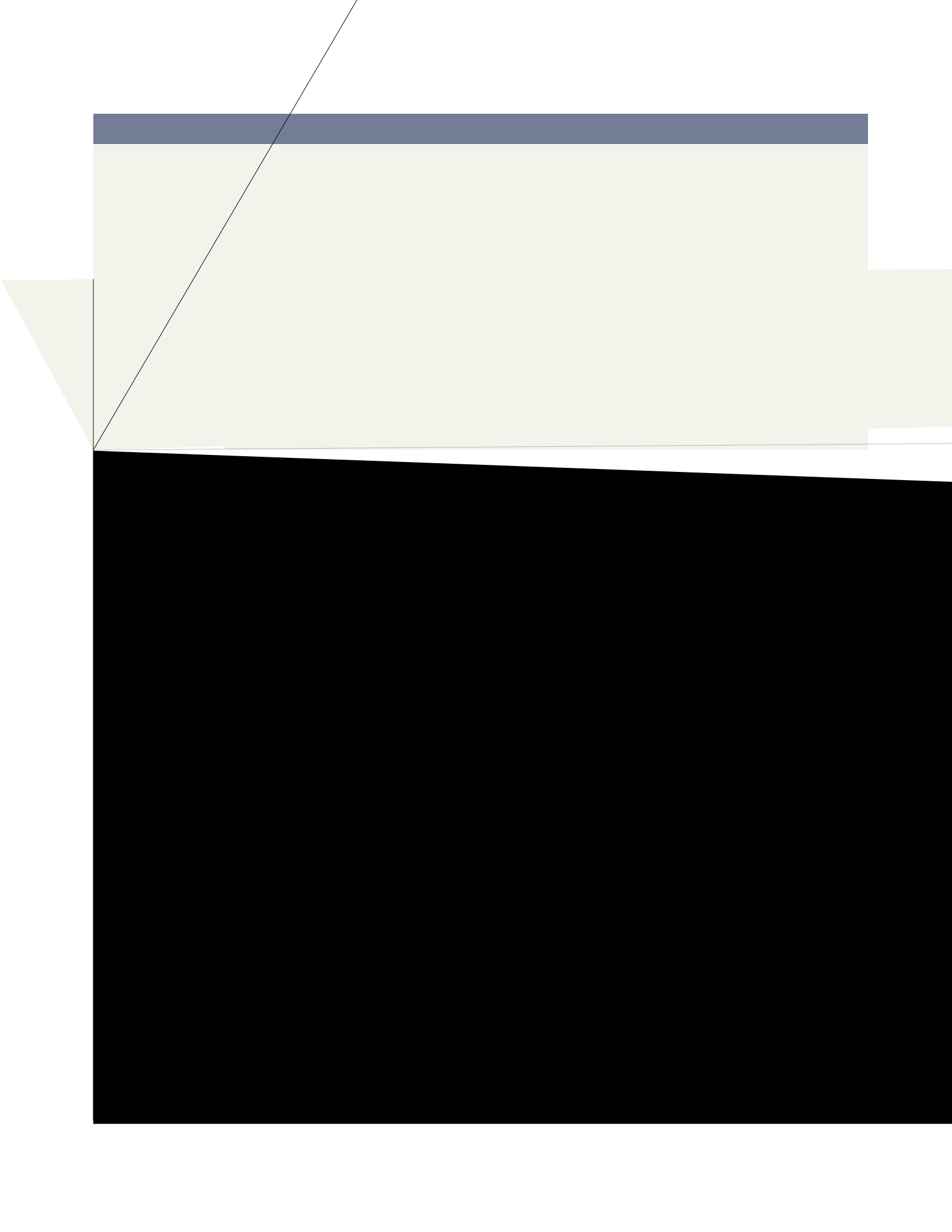
バージョン

Visualforce ページは、API バージョン 11.0 以降で使用できます。

項目

このメタデータ型には、次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	double	必須。このページの API バージョン。すべてのクラスには、作成時に指定された API バージョンが割り当てられています。この項目は API バージョン 15.0 以降で使用できます。この項目を 15.0 より小さい数値に設定すると、15.0 に変更されます。
	base64Binary	ページコンテンツ。Base 64 で符号化されたバイナリデータ API コールを行う前に、クライアントアプリケーションはバイナリ添付データを base64 に符号化する必要があります。応答を受信したら、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリに復号化する必要があります。この変換は、通常 SOAP クライアントによって処理されます。この項目は、 MetadataWithContent コンポーネントから継承されます。
	string	ページが実行する内容の説明。



関連リンク

[ApexComponent](#)

ApexTrigger

Apex トリガを表します。トリガは、オブジェクトレコードがデータベースに挿入される前や、レコードが削除された後など、特定のデータ操作言語 (DML) 行動が発生する前後に実行される Apex コードです。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Apex トリガの管理」を参照してください。このメタデータ型は、[MetadataWithContent](#) コンポーネントを拡張し、その項目を共有します。

サポートされているコール



メモ: このメタデータ型は、[ApexTrigger](#)、[ApexTriggerBatch](#)、および [ApexTriggerHandler](#) コールでサポートされています。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

トリガファイルのファイルサフィックスは `triggerName.trigger` です。付随するメタデータファイルには、`TriggerName` という名前が付けられます。

Apex トリガは、対応するパッケージディレクトリの `triggers` フォルダに保存されます。

バージョン

トリガは、API バージョン 10.0 以降で使用できます。

項目

このメタデータ型には、次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
<code>apiVersion</code>	double	必須。このトリガの API バージョン。どのトリガにも、作成時に API バージョンが指定されます。
<code>label</code>	base64	Apex トリガの定義。この項目は、 MetadataWithContent コンポーネントから継承されます。
<code>name</code>	string	Apex トリガ名。名前には、英数字、およびアンダースコア (_) 文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した 2 つのアンダースコア文字を含め

項目名	データ型	説明
		たりすることはできません。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	PackageVersion[]	この Apex トリガによって参照される、インストールされた管理パッケージバージョンのリスト。
	ApexCodeUnitStatus (string 型の 列挙)	<p>必須。Apex トリガの現在の状況。有効な文字列値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - トリガは有効です。 - トリガは無効ですが、削除されてはいません。 - トリガには削除のマークが付いています。管理パッケージの更新時にトリガを削除できるため、管理パッケージの場合に便利です。

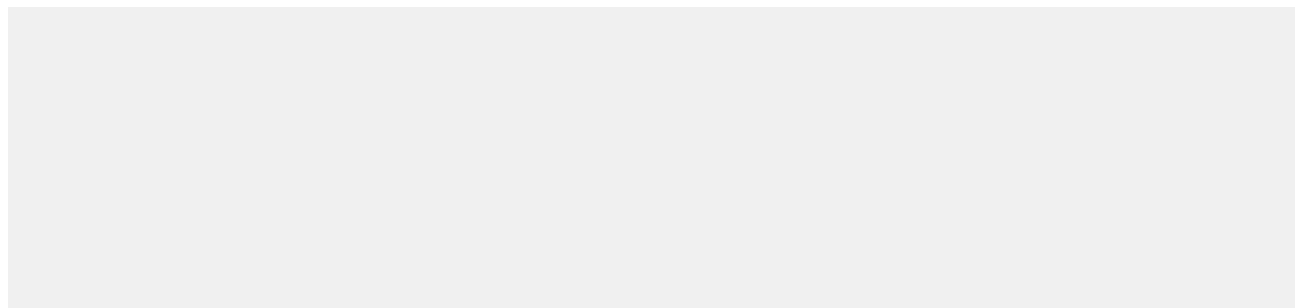
宣言的なメタデータの定義のサンプル

次のサンプルでは、
タファイルを作成します。

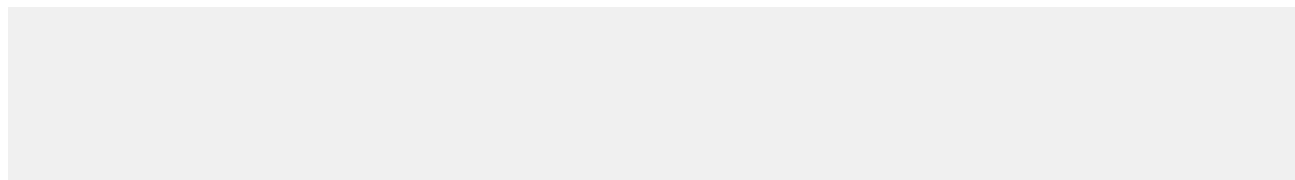
トリガと、対応する

メタデー

ファイル:



:



関連リンク

[ApexClass](#)

ApprovalProcess

承認プロセスに関連付けられたメタデータを表します。承認プロセスは、Salesforce でレコードを承認する場合に、組織で使用できる自動化されたプロセスです。承認プロセスでは、承認するレコードの条件と各承認ステップの承認者を指定します。各承認ステップは、その承認プロセスの対象レコードすべてに適用することも、システム管理者が定義した特定の条件を満たすレコードのみに適用することもできます。承認プロセスでは、レコードの承認、却下、取り消しまたは最初の承認申請時に実施するアクションも指定します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。



メモ:

- Salesforce ナレッジ承認プロセスは、Metadata API ではサポートされません。
- メールドラフトの送信アクションおよび承認プロセスは、Metadata API ではサポートされません。
- 組織に承認プロセスを実装する前に、Salesforce オンラインヘルプの「承認プロセスの考慮事項」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ApprovalProcess コンポーネントのサフィックスは、[ApprovalProcess](#) で、[ApprovalProcess](#) フォルダに保存されます。

バージョン

ApprovalProcess コンポーネントは、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	必須。承認プロセスがアクティブかどうか。 承認プロセスを有効にした後に、その承認プロセスのステップの追加、削除、または順序の変更や、プロセスの却下またはスキップの動作の変更はできません (プロセスを無効にしてもこれらの操作を行うことはできません)。
	boolean	申請者に承認申請の取り消しを許可するかどうか。 に設定されている場合、システム管理者のみが承認申請を取り消すことができます。
	ApprovalSubmitter[]	必須。レコードの承認申請が許可されているユーザの配列。
	ApprovalPageField	承認者がレコードを承認または却下する承認ページに表示する項目を指定します。デフォルトでは、次の項目が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 名前 項目

項目名	項目のデータ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> 所有者 項目 (子オブジェクトを除く)
	ApprovalStep[]	承認ステップ定義の配列。
	string	承認プロセスを説明します。
	string	<p>承認申請に使用するメールテンプレートを指定します。指定されていない場合は、デフォルトのメールテンプレートが使用されます。</p> <p>承認プロセスによってユーザへ承認申請が割り当てられると、Salesforce からそのユーザに対して承認申請メールが送信されます。メールには Salesforce の承認ページへのリンクが記載されています。このリンクでは、ユーザが申請を承認または却下し、コメントを追加できます。</p>
	boolean	<p>ワイヤレス対応のモバイルデバイスから承認者が承認ページにアクセスするのを許可するかどうか。ユーザインターフェースの セキュリティ設定 に対応します。</p> <p>に設定されている場合、承認ステップに承認者を含めることはできません。</p> <p>に設定されている場合、承認者は Salesforce にログインして承認ページにアクセスする必要があります。</p>
	ApprovalEntryCriteria	承認プロセスの対象となるレコードを決定します。承認プロセスをすべてのレコードに許可する場合は、この項目を除外します。
	ApprovalAction	レコードに対するすべての承認申請が終了したときに実行するワークフローアクションを指定します。
	boolean	必要なすべての承認が終了した後でレコードをロックしたままにするかどうか。デフォルト: <input type="checkbox"/> 。
	ApprovalAction	レコードが最終却下状態に移行した後で実行するワークフローアクションを指定します。
	boolean	最終的に却下された後でレコードをロックしたままにするかどうか。デフォルト: <input type="checkbox"/> 。
	ApprovalAction	レコードの最初の承認申請時に実行するワークフローアクションを指定します。
	string	必須。承認プロセスの名前。

項目名	項目のデータ型	説明
	NextAutomatedApprover	承認ステップに承認者を自動割り当てするために使用できる、標準またはカスタムユーザ階層項目を指定します。 この項目を除外すると、承認ステップでユーザ階層項目を使用して承認者の自動割り当てができなくなります。
	string	Chatter での承認に使用する投稿テンプレート。 Chatter 投稿承認通知は、フィード追跡が有効になっているオブジェクトに関連付けられている承認プロセスでのみ使用可能です。
	ApprovalAction	未承認の申請を取り下げたときに実行するワークフローアクションを指定します。
	RecordEditabilityType (string 型の列挙)	未承認のレコードを編集できるユーザを指定します。レコードは承認申請されると自動的にロックされ、承認プロセス中に他のユーザがそのレコードを編集するのを防ぎます。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">— 未承認のレコードを編集できるユーザは、次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">◇ 「すべてのデータの編集」権限を持つユーザ◇ 指定のオブジェクトに対してオブジェクトレベルで「すべての編集」権限を持つユーザ— 未承認のレコードを編集できるユーザは、次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">◇ 「すべてのデータの編集」権限を持つユーザ◇ 指定のオブジェクトに対してオブジェクトレベルで「すべての編集」権限を持つユーザ◇ 指定のオブジェクトに対して、ユーザ権限および組織の共有設定を介してレコードへの編集アクセス権を持つ、割り当て済みの承認者
	boolean	承認申請の詳細を承認者が表示できレコードを承認または却下できる承認ページに、[承認履歴] 関連リストを追加するかどうか。[承認履歴] 関連リストは、レコードの承認プロセスを追跡します。 [承認履歴] 関連リストをレコード詳細ページおよび編集ページにも追加する場合は、Salesforce ユーザインターフェースを使用して指定のオブジェクトのページレイアウトをカスタマイズします。

ApprovalSubmitter

レコードの承認を申請できるユーザまたはユーザセットを表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	<p>レコードの承認を申請できる特定のユーザまたはユーザセットを識別します。次のタイプが指定され 項目が無視される場合を除き、この項目は必須です。</p> <ul style="list-style-type: none">••• <p>例:</p> <div></div>
	ProcessSubmitterType (string 型の列挙)	<p>必須。レコードの承認を申請できるユーザまたはユーザセットの種別。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">•••••••••• <p>— 組織内のすべての Salesforce ユーザ。</p>

ApprovalPageField

承認申請の詳細を承認者が表示できレコードを承認または却下できる承認ページに表示するために選択された項目を表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string[]	承認者がレコードを承認または却下する承認ページに表示する項目の配列。

ApprovalStep

承認プロセスのステップを表します。承認ステップでは、承認申請をさまざまなユーザに割り当て、承認プロセスにおける承認のつながりを定義します。各承認ステップでは、その承認ステップに進むために必要なレコードの条件、そのレコードの申請を承認できるユーザ、および代理承認者による承認を許可するかどうかを指定します。承認プロセスの最初の承認ステップでは、レコードがこのステップの条件を満たさない場合に実施するアクションも指定します。その後のステップでは、却下時のアクションを指定することができます。



メ毛:

- 承認プロセス定義の エントリの順序によって、承認ステップの実行順序が決まります。
- 承認プロセスを有効にした後に、その承認プロセスのステップの追加、削除、または順序の変更や、プロセスの却下またはスキップの動作の変更はできません (プロセスを無効にしてもこれらの操作を行うことはできません)。
- ステップは、プロセスごとに最大 15 に制限されています。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	承認プロセスのこのステップで代理承認者を許可するかどうか。代理承認者は、割り当てられた承認者により承認申請の承認代理として任命されたユーザです。
	ApprovalAction	承認プロセスのこのステップでレコードが承認されたときに実行するワークフローアクションを指定します。
	ApprovalStepApprover	承認プロセスのこのステップに割り当てられた承認者を指定します。
	string	承認ステップを説明します。
	ApprovalEntryCriteria	承認プロセスのこのステップの対象となるレコードを決定します。
	StepCriteriaNotMetType (string 型の列挙)	<p>開始条件を満たさないレコードに対する処理を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 申請を承認し、最終承認時のアクションをすべて実行します。 — 申請を却下し、最終却下時のアクションをすべて実行します。このオプションは、承認プロセスの最初のステップでのみ表示されます。

項目名	項目のデータ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> — 次の承認ステップにスキップします。最初の承認ステップでこのオプションを選択し、レコードが他のステップの開始条件を満たさない場合、レコードは却下されます。
	string	必須。承認ステップの名前。
	string	必須。承認ステップの一意の名前。アンダースコアと英数字のみを含むこと、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。一意性は、特定の承認プロセス内でのみ必要です。
	ApprovalStepRejectBehavior	<p>承認プロセスの最初のステップを除き必須。承認プロセスの最初のステップでない場合に、承認者がこの承認ステップで申請を却下したときの処理を指定します。</p> <p>承認プロセスの最初のステップで承認者が申請を却下した場合、却下時の処理は によって決まります。</p>
	ApprovalAction	承認プロセスのこのステップでレコードが却下されたときに実行するワークフローアクションを指定します。

ApprovalAction

承認プロセスの結果として発生するアクションを表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	WorkflowActionReference[]	実行するワークフローアクションの配列。

ApprovalStepApprover

承認ステップに割り当てられた承認者を表します。承認者は、ステップごとに最大 25 人に制限されています。

項目名	項目のデータ型	説明
	Approver[]	承認プロセスのこのステップに割り当てられた承認者の配列。

項目名	項目のデータ型	説明
	RoutingType (string 型の列挙)	<p>ステップに複数の承認者が割り当てられている場合の、承認または却下の処理方法を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> — (デフォルト) このステップのすべての承認者から全員の承認を得る必要があります。いずれかの承認者が申請を却下すると、このステップの承認申請は却下されます。 — 最初の返答に基づいて承認または却下します。

Approver

承認ステップに割り当てられた承認者を表します。



メモ: 承認者を指定するときには、次の点に注意してください。

- 割り当てられる承認者に、承認申請対象レコードの参照アクセス権を必ず付与してください。たとえば、経費カスタムオブジェクトの参照アクセス権がないユーザは、経費承認申請を参照できません。
- パートナーユーザに承認申請を割り当てることはできません。
- 承認者にキューを割り当てた承認プロセスでは、メール承認は使用できません。
- 承認者は、メールを使用して承認申請を承認または却下できる「APIの有効化」システム権限が必要です。
- 1つのステップで承認申請を同じユーザに複数回割り当てることもできますが、Salesforce はそのような冗長性を認識すると、そのユーザに対して1つの承認しか申請しません。
- レコードが承認ステップに進んだ後は、そのステップの承認者は変更されません。これは、承認プロセスが前のステップに戻されたときに、承認者を指定するユーザ項目が変更されている場合でも同様です。たとえば、承認プロセスの最初のステップでユーザのマネージャに承認を申請しているとします。2番目のステップで承認申請が却下され最初のステップに戻された場合、承認申請は、ユーザのマネージャが現在変わっている場合でも、前回この申請を受け取ったマネージャに割り当てられます。
- 承認者にキューを割り当てた場合:
 - ◇ すべてのキューメンバーが、そのキューに割り当てられた承認申請を承認または却下できます。
 - ◇ 承認申請がキューに割り当てられている場合は、そのキューのメールアドレスにメール通知が送信されます。キューの設定によっては、各キューメンバーにもメール通知が送信されます。
 - ◇ 承認申請がキューに割り当てられると、各キューのメンバーの代理承認者も承認申請のメール通知を受信します。
 - ◇ キューへのメール通知は外部利用者を対象としたものではないため、メールテンプレート内の差し込み項目のインスタンスは、相当する内部 URL として送信されます。
 - ◇ 承認申請が却下されて前の承認者に戻され、前の承認者がキューであった場合は、キューではなく承認したユーザに割り当てられます。
 - ◇ [承認履歴] 関連リストの 割り当て先 列にキュー名が表示され、その承認申請を承認または却下した実際のユーザが 承認者 列に表示されます。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	割り当てられた承認者を特定します。 が次のいずれかで が無視される場合を除き、この項目は必須です。 <ul style="list-style-type: none"> • •
	NextOwnerType (string 型の列挙)	指定された と組み合わせて、割り当てられた承認者を特定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • — ステップの承認者を手動で選択する必要があります。最初のステップの場合は、申請者が承認者を選択します。2 番目以降のステップの場合は、前のステップの承認者が承認者を選択します。この値の場合は、 項目を除外します。 • — 組織内のユーザ。この値の場合は、 項目にユーザ名を入力します。 • — 標準またはカスタムユーザ階層項目 (標準 マネージャ 項目など) で指定されたユーザ。この値の場合は、 項目を除外します。ユーザ階層項目は、承認プロセスの で定義されている必要があります。 • — 申請されたレコードのユーザ参照項目 (最終更新者 項目など) で指定されたユーザ。この値の場合は、 項目にユーザ参照項目の名前を入力します。 • — 自動的にキューに割り当てます。この値の場合は、 項目にキューの名前を入力します。

ApprovalEntryCriteria

レコードが承認プロセスまたは承認ステップに進むための条件を表します。検索条件または数式のいずれかを指定します。両方は指定できません。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	の検索条件ロジック。 を入力する場合は、この項目を除外します。
	FilterItem[]	レコードが承認プロセスまたは承認ステップに進むための検索条件。 承認プロセスでは、検索条件の エントリをサポートしていません。
	string	レコードが承認プロセスまたは承認ステップに進むためにレコードを true と評価する数式。

ApprovalStepRejectBehavior

承認プロセスの最初のステップでない場合に、承認者がこの承認ステップで申請を却下したときの処理を表します。承認プロセスの最初のステップの場合、却下時の処理は承認プロセスの最終却下時のアクションによって決まります。

項目名	項目のデータ型	説明
	StepRejectBehaviorType (string 型の列挙)	<p>有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> — これまでに承認されたステップに関係なく、申請を自動的に最終却下します。Salesforce は、このステップのすべての却下時のアクションと、最終却下時のすべてのアクションを実行します。 — 申請を自動的に却下し、承認申請を前の承認者に戻します。Salesforce は、このステップのすべての却下時のアクションを実行します。承認プロセスの最初のステップでは無効です。

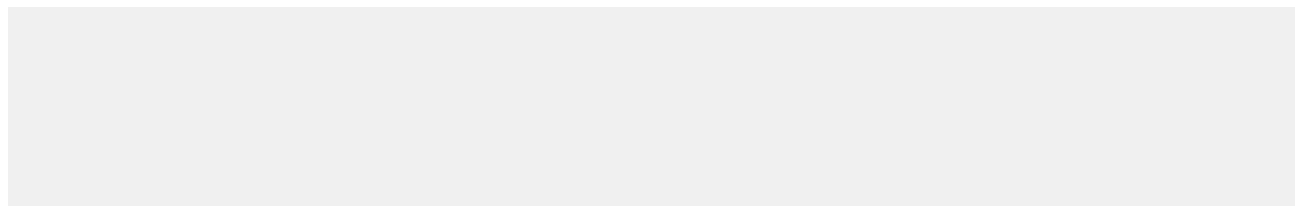
NextAutomatedApprover

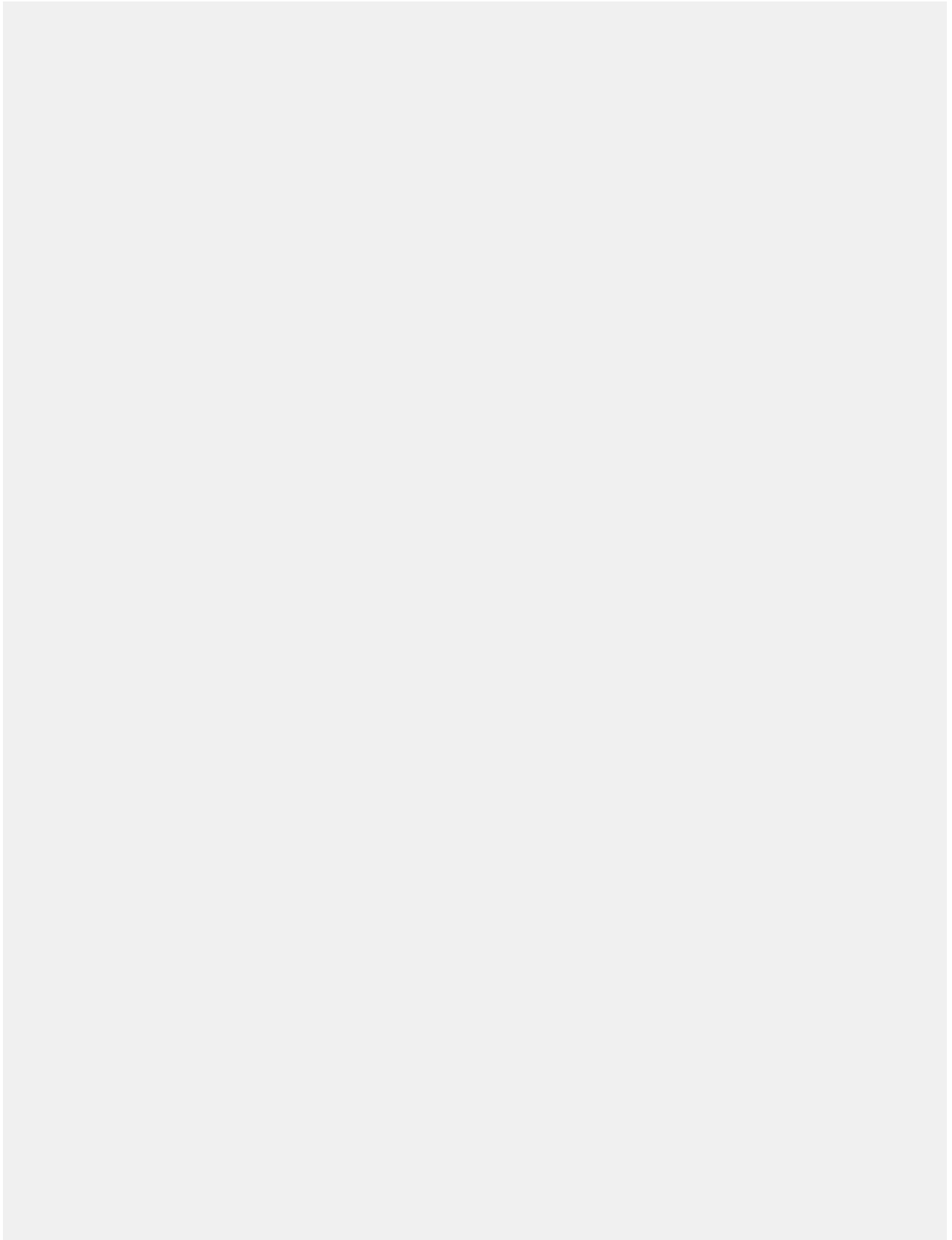
承認プロセスの次の承認者として使用するユーザ階層項目を表します。定義されていると、階層項目で指定されたユーザを、1 つ以上の承認ステップで承認者として自動的に割り当てることができます。

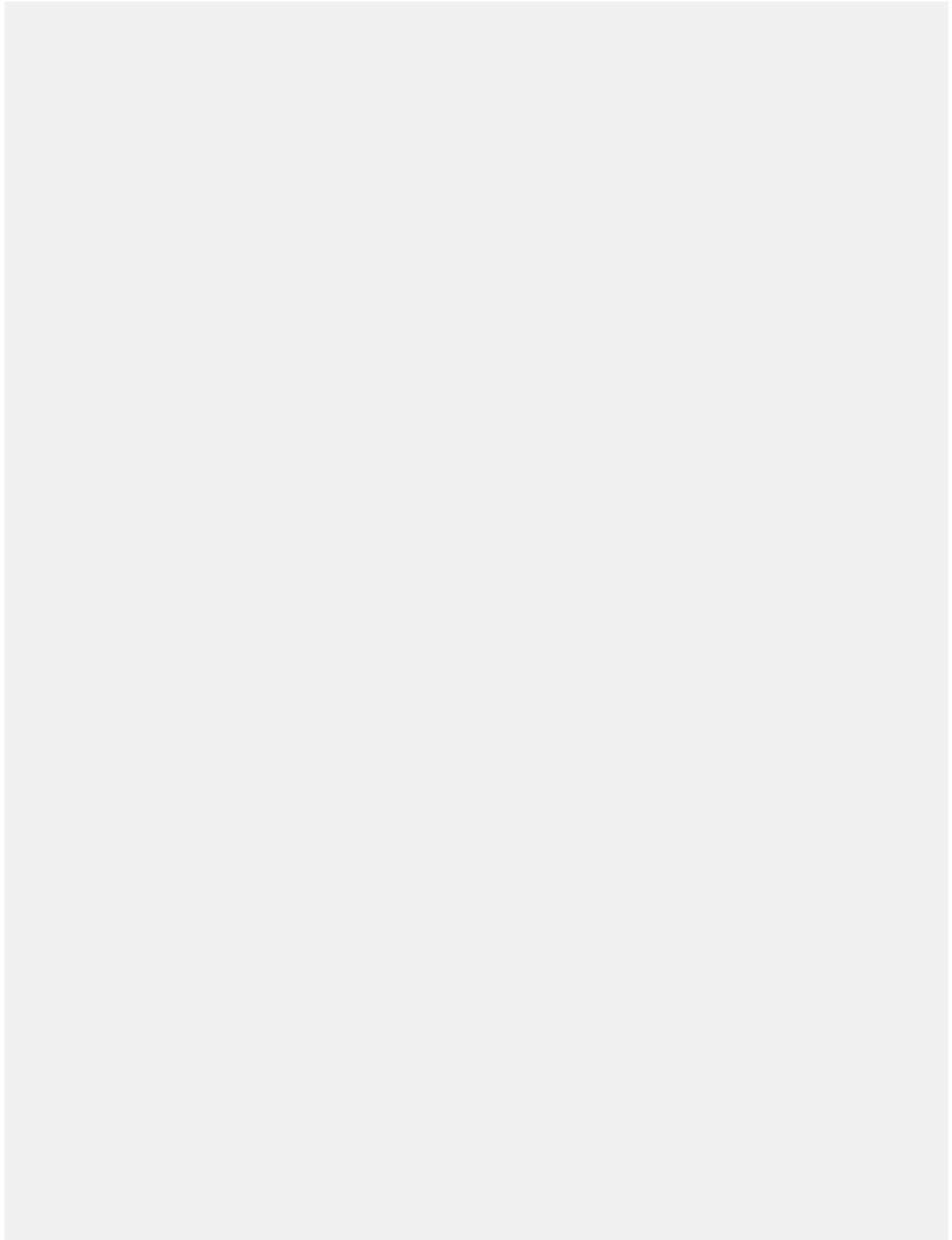
項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	必須。申請者のユーザレコードではなく、レコード所有者のユーザレコードで指定された承認者として承認プロセスで使用すべきかどうか。
	string	<p>必須。承認者として割り当てるユーザを指定する値を持つ、標準またはカスタムユーザ階層項目。たとえば、標準 マネージャ 階層項目を使用して、従業員の有給休暇申請の承認者を割り当てることができます。</p> <p>割り当てられる承認者に、承認申請対象レコードの参照アクセス権を必ず付与してください。たとえば、経費カスタムオブジェクトの参照アクセス権がないユーザは、経費承認申請を参照できません。</p>

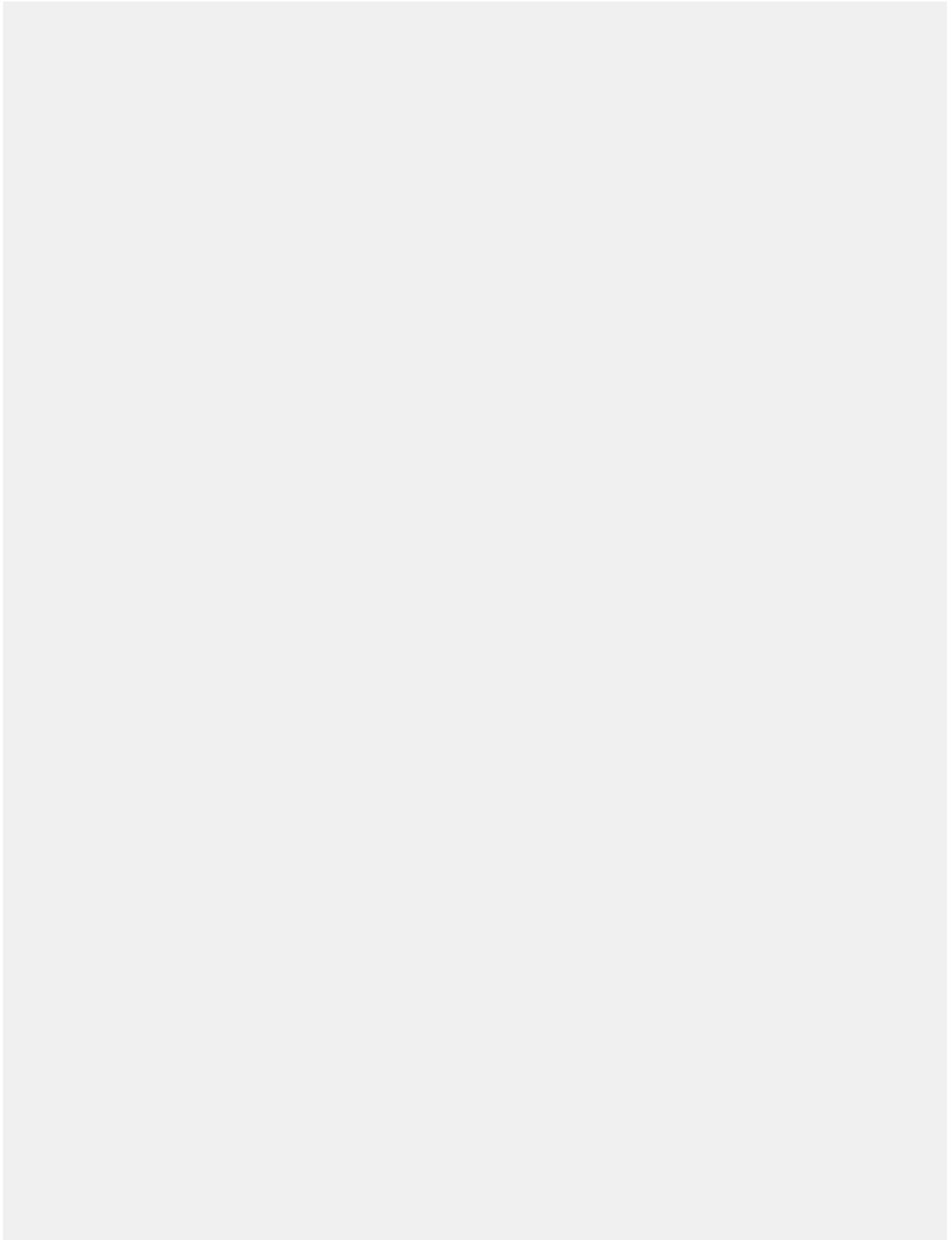
宣言的なメタデータの定義のサンプル

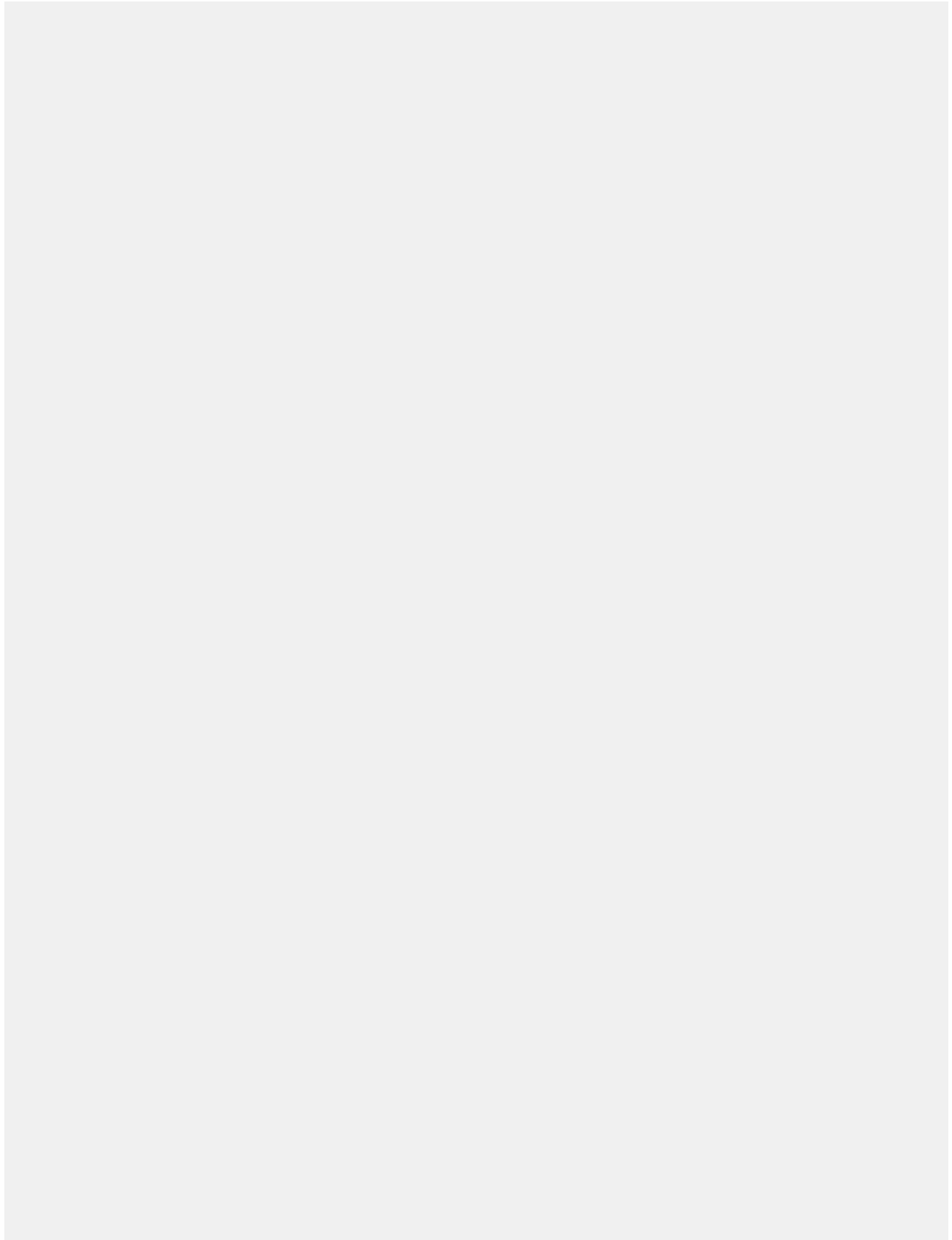
次に、ApprovalProcess コンポーネントの例を示します。

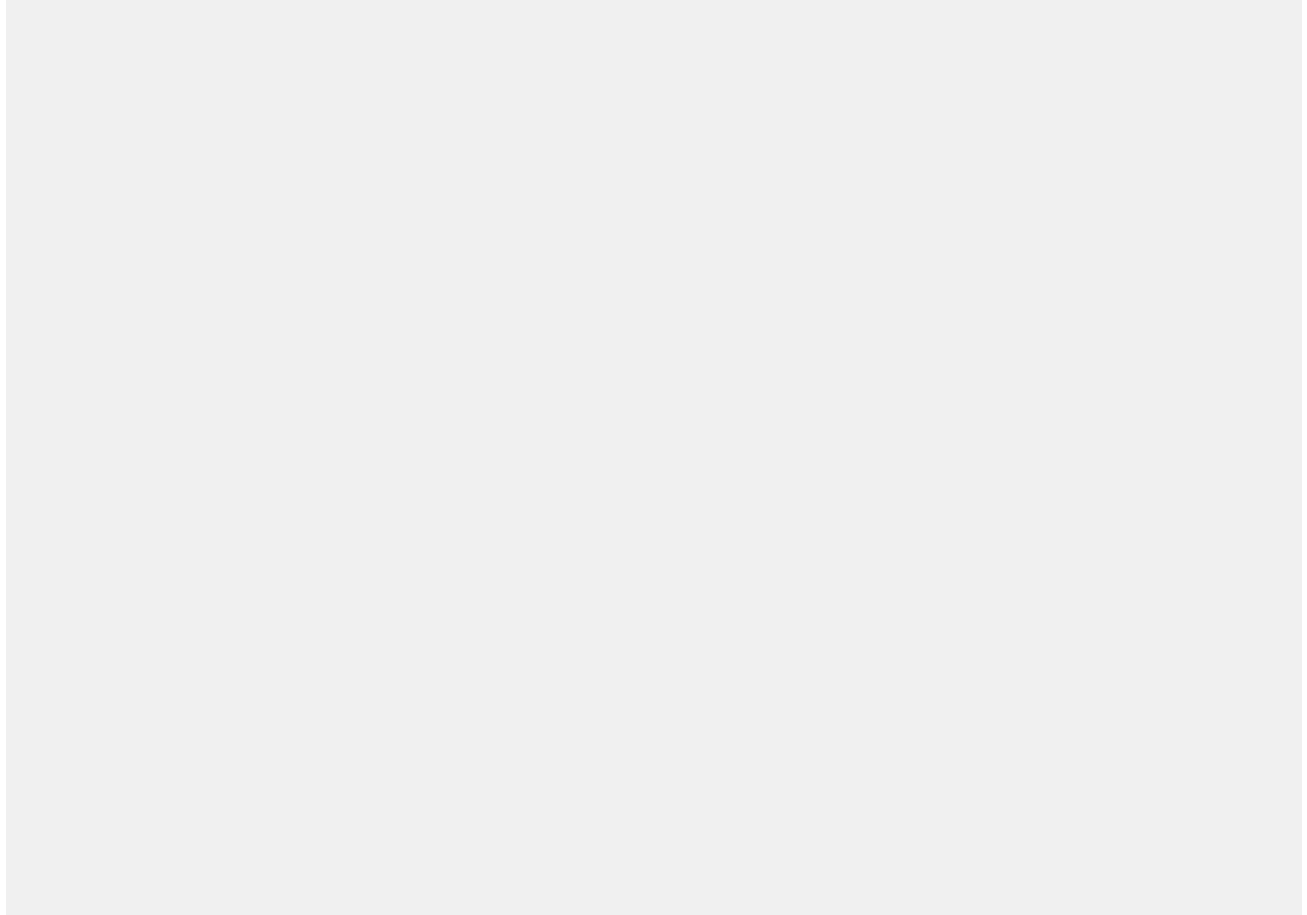






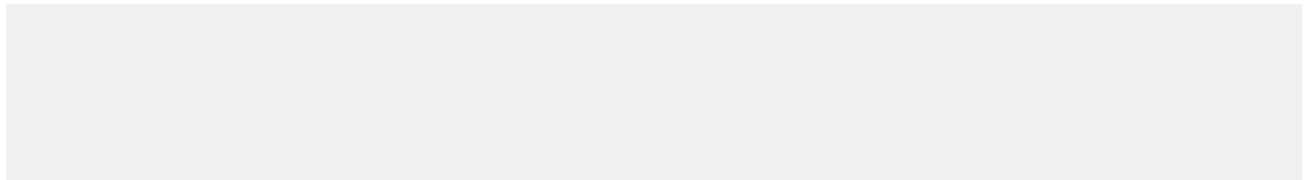




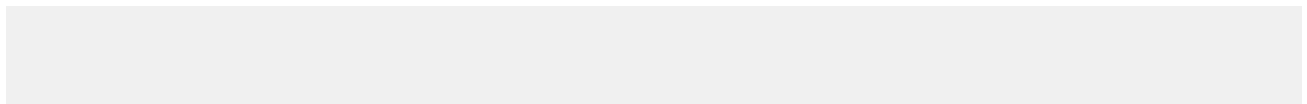


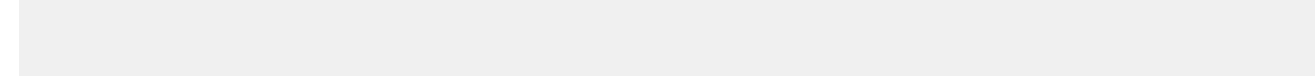
AssignmentRules

適切なユーザまたはキューに自動的にケースを転送できる割り当てルールを表します。該当するすべてのオブジェクト、特定のオブジェクト、または特定のオブジェクトの特定のルールのルールメタデータにアクセスできます。すべてのオブジェクトのすべての割り当てルールにアクセスする 構文は次のとおりです。

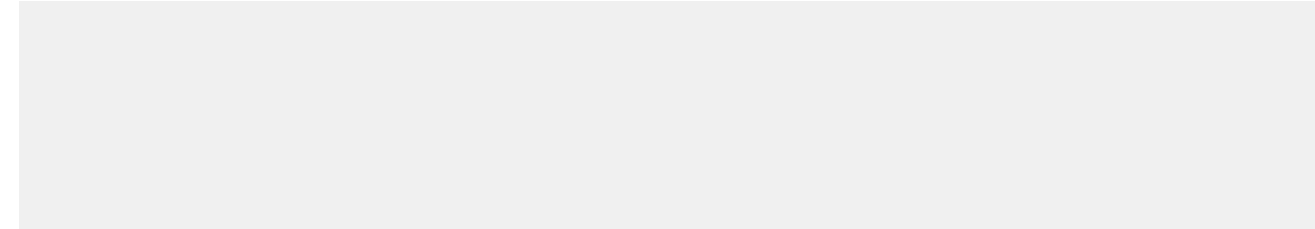


特定のオブジェクトのすべてのルールでは、ワイルドカードを使用しない類似の構文が使用されます。たとえば、Case オブジェクトのすべての割り当てルールでは、次の構文が使用されます。





オブジェクトの特定の割り当てルールにもアクセスできます。次の例では、Case オブジェクトの「`samplerule`」および「`newrule`」割り当てルールのみにもアクセスできます。この例では、型名の構文は `CaseNameRuleName` ではなく、`CaseNameRuleNameRule` です。



ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

オブジェクトの割り当てルールのサフィックスは `RuleName` で、`RuleName` フォルダに保存されます。たとえば、すべての Case 割り当てルールは、`CaseNameRuleName` ファイルに保存されます。

バージョン

AssignmentRules コンポーネントは、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	<code>AssignmentRule[]</code>	指定した割り当てルールの定義を表します。


AssignmentRule

ルールが有効であるかどうか、およびその定義を指定します。ルールは AssignmentRules コンテナ内に表示される順序で処理されます。

項目名	項目のデータ型	説明
	<code>boolean</code>	割り当てルールが有効であるか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を示します。
	<code>string</code>	<code>Metadata</code> から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 <code>AssignmentRule</code> を参照してください。 この値は <code>AssignmentRuleType</code> にできません。
		割り当てルールの種類と説明を表します。

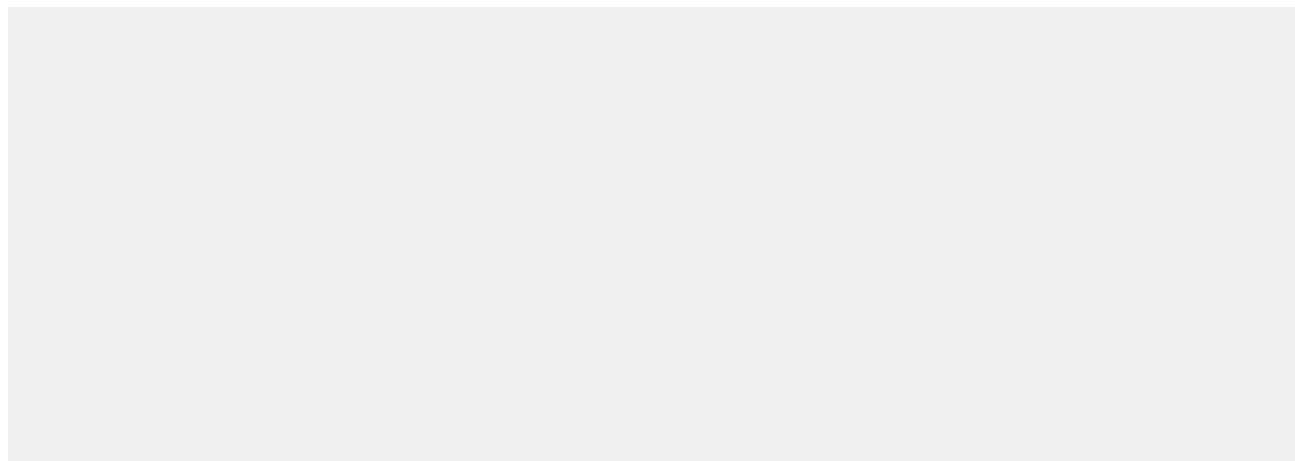
RuleEntry

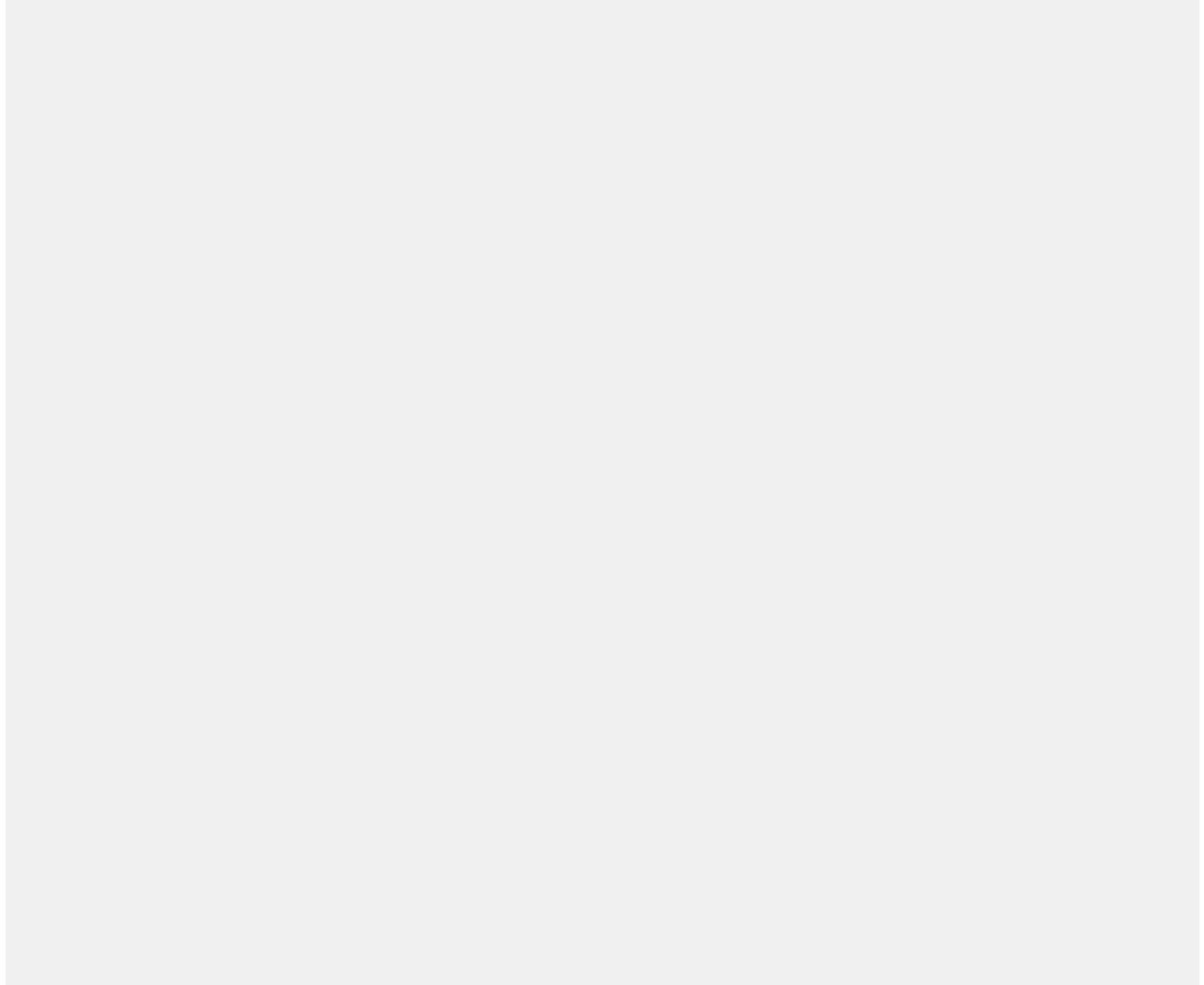
ルールで使用される項目を表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	項目が割り当てられるユーザまたはキューの名前。
	(string 型の 列挙)	有効な値は、次のとおりです。 ・ ・
	string	ルールに指定されている高度な絞り込み条件。
		割り当て条件を定義するリストの項目。
	string	入力規則数式。  メモ: と のいずれかを指定します。両方の項目は指定できません。
	boolean	割り当てが完了したらケースチームをリセットするか()、または前のチームを置き換える代わりに現在のチームをケースに追加するか()を指定します。
	string[]	ケースチームの名前。0回以上発生する場合があります。
	string	指定した受信者に自動送信されるメールで使用されるテンプレートを指定します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

Case オブジェクトの 2 つの割り当てルールを示すファイルの例を次に示します。





AuthProvider

組織の認証プロバイダを表します。認証プロバイダは Facebook[®] や Janrain[®] などの外部サービスプロバイダのログイン情報を使用して、Salesforce 組織にユーザがログインできるようにします。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

認証プロバイダは `AuthProvider` ディレクトリに保存されます。ファイル名は URL サフィックスに一致し、拡張子は `AuthProvider` です。たとえば、URL サフィックスが `myCompany` という認証プロバイダは、`myCompany.AuthProvider` に保存されます。

サポートされているコール

、 、 、 、

バージョン

認証プロバイダは API バージョン 27.0 以降で使用できます。

特別なアクセスルール

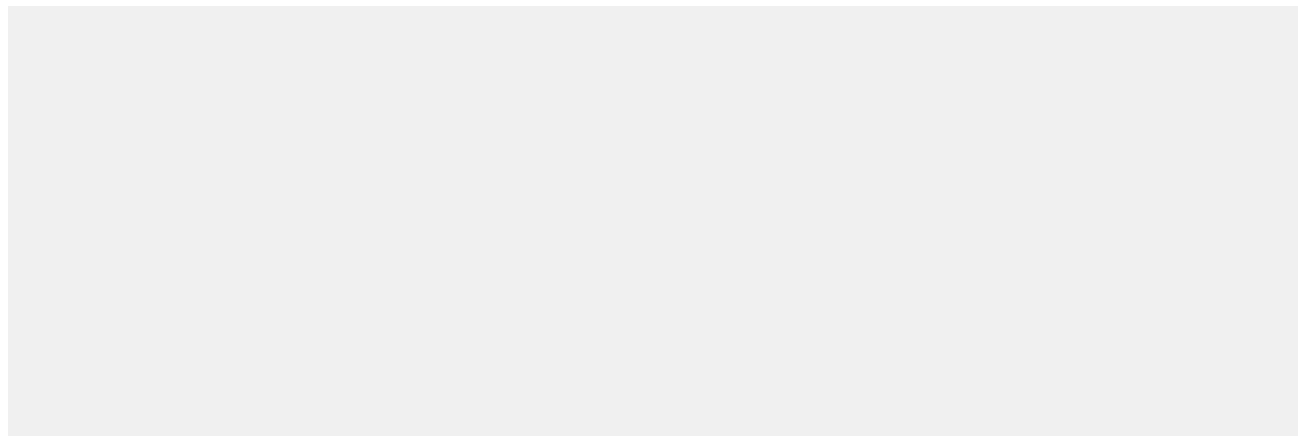
このオブジェクトにアクセスできるのは、「アプリケーションのカスタマイズ」権限および「認証プロバイダの管理」権限のあるユーザのみです。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	<p>。次のいずれかに なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Facebook Salesforce Janrain 	必須。使用するサードパーティのシングルサインオンプロバイダ。
	string	必須。わかりやすいプロバイダ名。
	string	必須。サードパーティのシングルサインオンプロバイダに登録されているアプリケーションの鍵。
	string	<p>必須。サードパーティのシングルサインオンプロバイダに登録されているアプリケーションのコンシューマの秘密。この項目は更新できません。</p> <p>を使用する場合、この項目は暗号化する必要があります。テキスト形式から暗号化形式のコンシューマの秘密を作成する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> を使用して認証プロバイダを作成します。 認証プロバイダを保存します。 認証プロバイダコンポーネントを含む送信変更セットを作成します。 <p>新規変更セットの .xml ファイルには</p> <p>という形式の入力があります。++XYZ++ は暗号化された秘密です。</p>
	string	エラーのレポートに使用するプロバイダのカスタムエラー URL。
	string	インターフェースを実装する既存の Apex クラス。
	string	Apex ハンドラクラスを実行するユーザ。このユーザは「ユーザの管理」権限を持っている必要があ

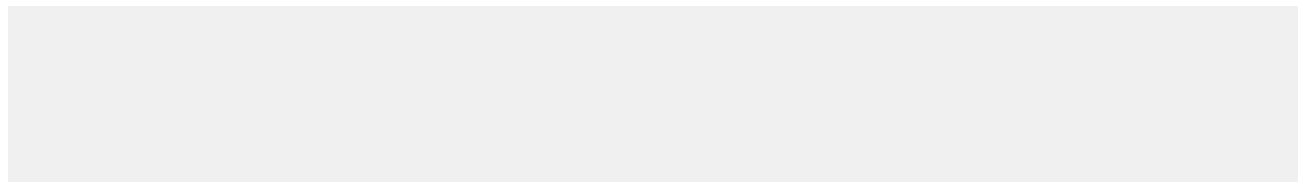
項目名	項目のデータ型	説明
		ります。登録ハンドラクラスを指定した場合は、ユーザが必要です。
	string	この に関連付けるポータル。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

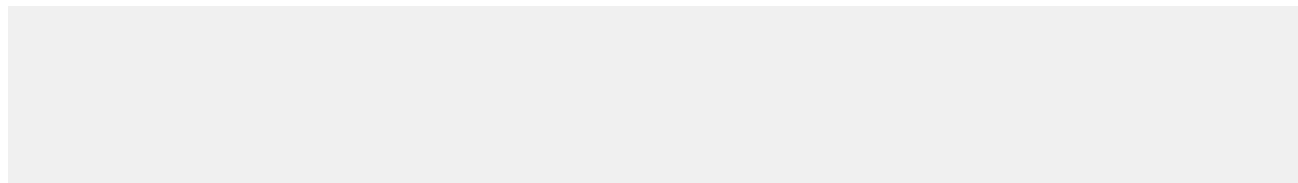


AutoResponseRules

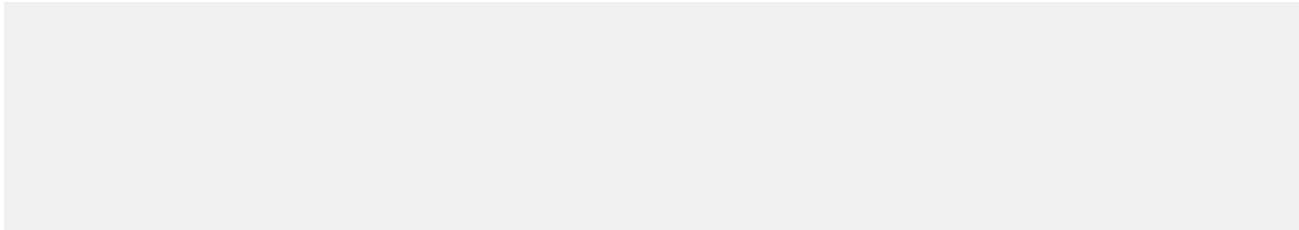
提出されたレコードの属性に基づいてリードまたはケース登録に自動メールレスポンスを送信する条件を設定する自動レスポンスルールを表します。該当するすべてのオブジェクト、特定のオブジェクト、または特定のオブジェクトの特定のルールメタデータにアクセスできます。すべてのオブジェクトのすべての自動レスポンスルールにアクセスする 構文は次のとおりです。



特定のオブジェクトのすべてのルールでは、ワイルドカードを使用しない類似の構文が使用されます。たとえば、Case オブジェクトのすべての自動レスポンスルールでは、次の構文が使用されます。



オブジェクトの特定の自動レスポンスルールにもアクセスできます。次の例では、Case オブジェクトの「samplerule」および「newrule」自動レスポンスルールのみにアクセスできます。この例では、型名の構文はではなく、



ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

オブジェクトの AutoResponseRules のサフィックスは で、 フォルダに保存されます。たとえば、すべてのケース自動レスポンスルールは、 ファイルに保存されます。

バージョン

AutoResponseRules コンポーネントは、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	AutoResponseRule[]	指定した自動レスポンスルールの定義を表します。


AutoResponseRule

ルールが有効であるかどうかと、ルールで処理される項目の順序を表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	自動レスポンスルールが有効であるか ()、否か () を示します。
	string	Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 を参照してください。 この値は にできません。
	RuleEntry[]	自動レスポンスルールの種類と説明を表します。

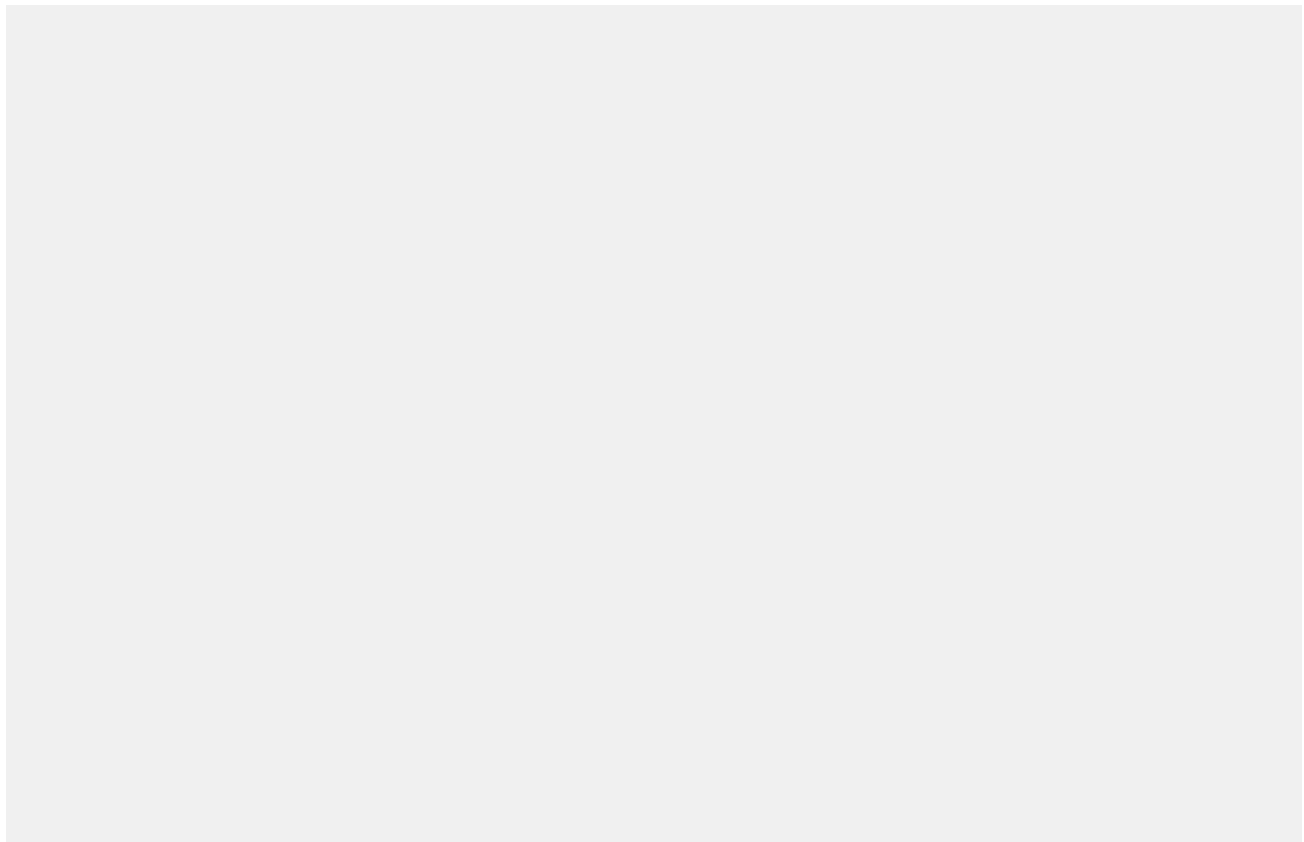
RuleEntry

ルールで使用される項目を表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	ルールに指定されている高度な絞り込み条件。 割り当て条件を定義するリストの項目。
	string	入力規則数式。  メモ: と のいずれかを指定します。両方の項目は指定できません。
	string	reply-to ヘッダーに表示されるメールアドレス。
	string	メール通知を送信する個人またはキューのメールアドレス。
	string	メール通知を送信する個人またはキューの名前。
	string	指定した受信者に自動送信されるメールで 사용되는テンプレートを指定します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

AutoResponseRules コンポーネントの例を次に示します。



CallCenter

Salesforce をサードパーティのコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムと統合するために使用されるコールセンター定義を表します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

CallCenter コンポーネントのサフィックスは `__cc` で、`__cc` フォルダに保存されます。

バージョン

CallCenter コンポーネントは、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	省略可能な項目。CTI 4 アダプタを示す URL。
	string	このコールセンターの表示名。
	string	コールセンター設定ページの項目の表示ラベル。
	string	コールセンター設定ページの項目の表示ラベル。
	string	このコールセンターのバージョン。
	CallCenterSection[]	このコールセンターに定義されたカスタム設定項目。

CallCenterSection

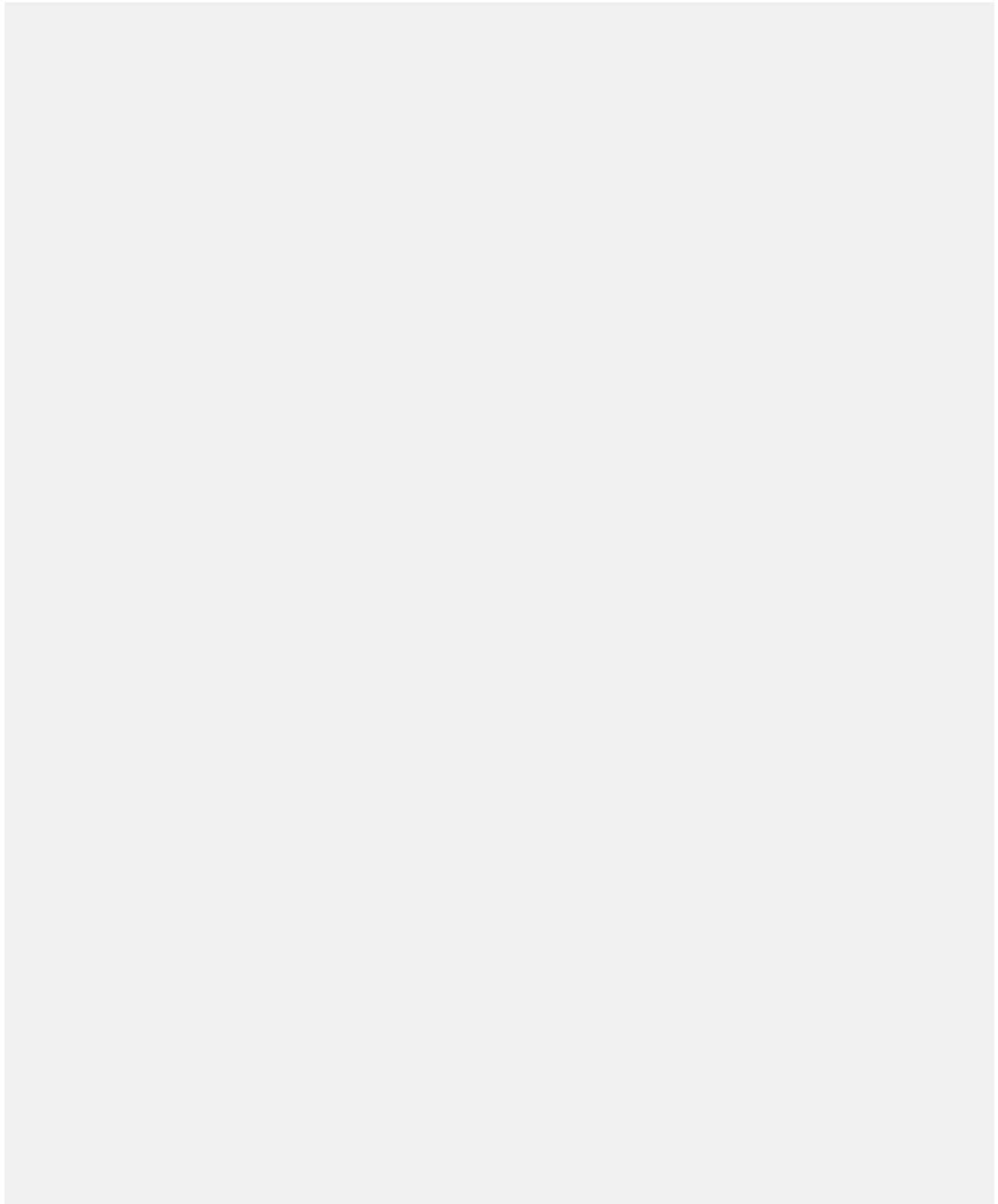
項目名	項目のデータ型	説明
items	CallCenterItem[] (ページ 139)	セクションを説明する表示ラベル、名前、値が表示されます。
label	string	セクションの表示ラベル。
name	string	セクションの名前。

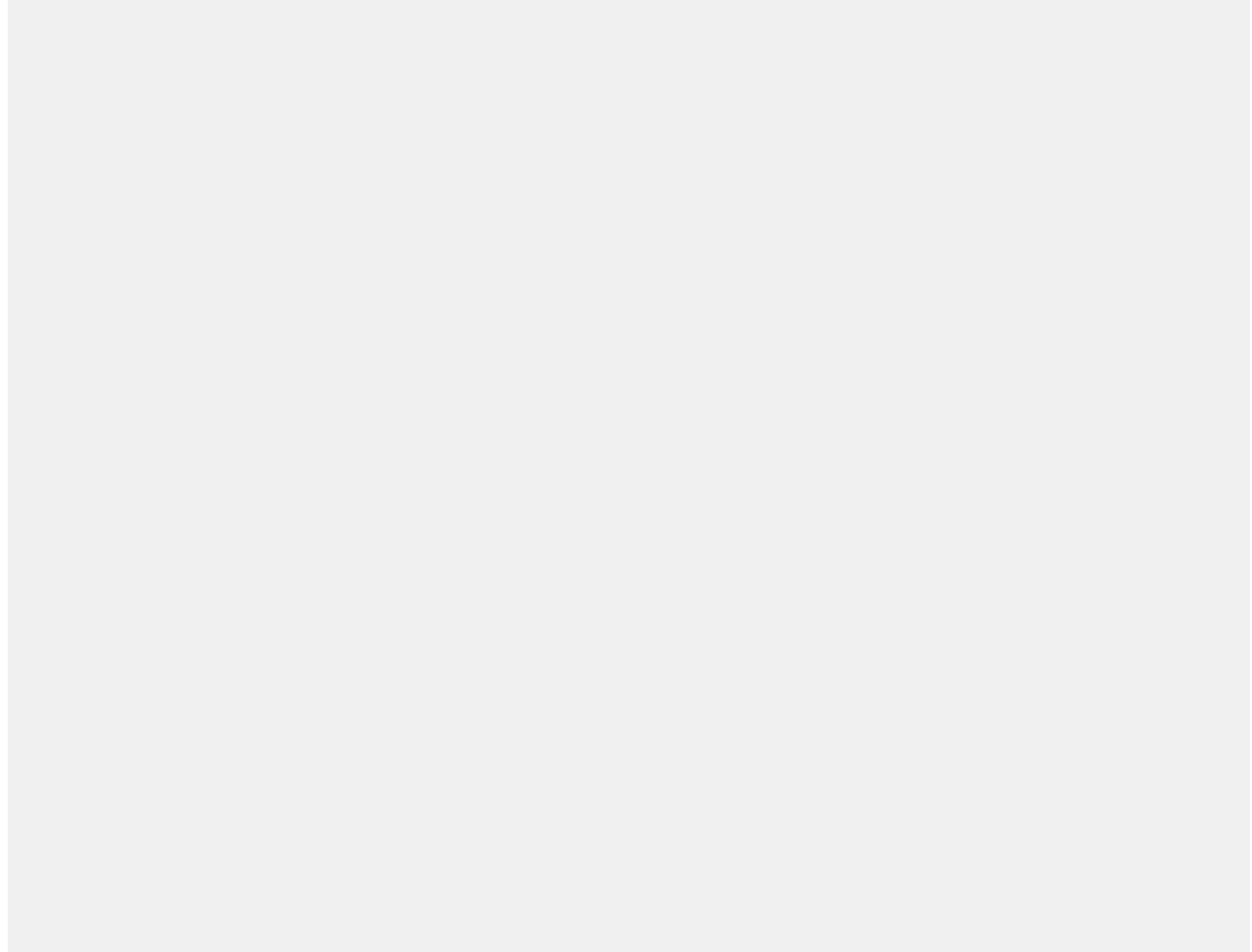
CallCenterItem

項目名	項目のデータ型	説明
label	string	カスタム設定項目の表示ラベル。
name	string	カスタム設定項目の名前。
value	int または URL	カスタム設定項目の値。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

CallCenter コンポーネントの例を次に示します。





Community (Zone)



メモ: Summer '13 リリース以降では、Chatter アンサーおよびアイデア「コミュニティ」の名前が「ゾーン」に変わりました。API バージョン 28 では、API オブジェクトの表示ラベルが に変わりましたが、API 種別は のままです。

アイデアオブジェクトまたは Chatter アンサーオブジェクトを含むゾーンを表します。ゾーンは、アイデア、アンサー、および Chatter アンサー機能で共有されるため、このどこからでもゾーンを表示および作成できます。

[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その 項目を継承します。



メモ: が に設定されている場合、
、
、
、
および 項目に指定した値は無視され、保存されません。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ゾーンのサフィックスは で、 フォルダに保存されます。

バージョン

Community (Zone) コンポーネントは、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	ゾーンが有効であるか()、否か()を示します。
	string	ゾーンのフィードがホストされる Visualforce ページ。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。
	string	ゾーンの説明。
	string	組織のブランド情報をメール通知のフッターに組み込むテキストファイルまたはHTML ファイル。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。
	string	組織のブランド情報をメール通知のヘッダーに組み込むテキストファイルまたはHTML ファイル。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。
	string	メール通知に含まれる URL。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。この項目は API バージョン 28.0 以降の に置き換わるものです。
	boolean	ゾーンで Chatter アンサーが有効化されているか()、否か()を示します。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。
	boolean	Chatter アンサーの質問をケースにエスカレーションできるか()、否か()を示します。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。
	string	ゾーンのエキスパートの役割を果たす公開グループの名前。この項目は、組織でアイデアまたはアンサーが有効になっている場合に使用できます。
	string	ゾーンが表示されるポータルの名前。
	string	メール通知に含まれるポータル URL。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。この項目は API バージョン 28.0 以降の に置き換わるものです。

項目名	項目のデータ型	説明
	ReputationLevels	定義する各評価レベルの名前とポイントを定義する項目。評価レベルは、1 ゾーンにつき 25 個まで作成できます。
	boolean	ゾーンをすべてのポータルで利用できるか ()、いずれのポータルでも使用できないか () を示します。
	string	ゾーンのサイトの名前。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。

ReputationLevels

フィードでユーザの写真の上にマウスを置くと表示されるポイントと評価レベルを表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	ChatterAnswersReputationLevel []	Chatter アンサーの評価レベルを説明する名前と値のペアが含まれます。API バージョン 28.0 以降で利用できます。
	IdeaReputationLevel	アイデアの評価レベルを説明する名前と値のペアが含まれます。API バージョン 28.0 以降で利用できます。

ChatterAnswersReputationLevel

Chatter アンサーの評価名およびそのレベルのポイント数を表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	評価レベルの名前。たとえば「エキスパート」など。
	int	評価レベルの最小ポイント数。

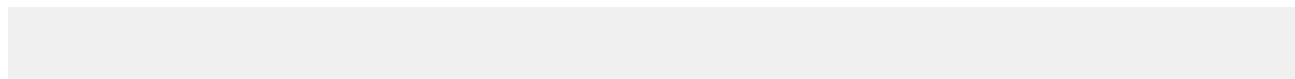
IdeaReputationLevel

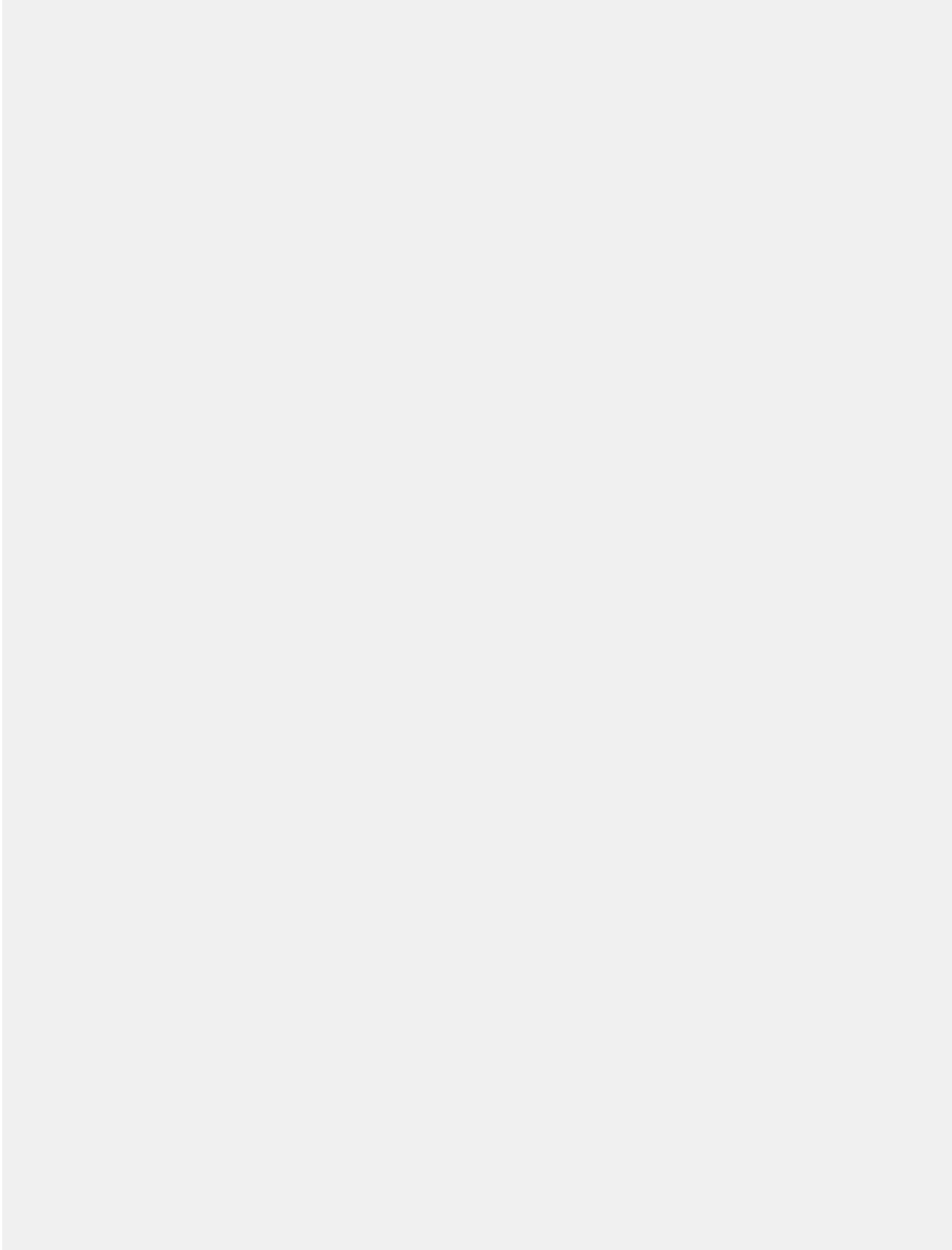
アイデアの評価名およびそのレベルのポイント数を表します。API バージョン 28.0 以降で利用できます。

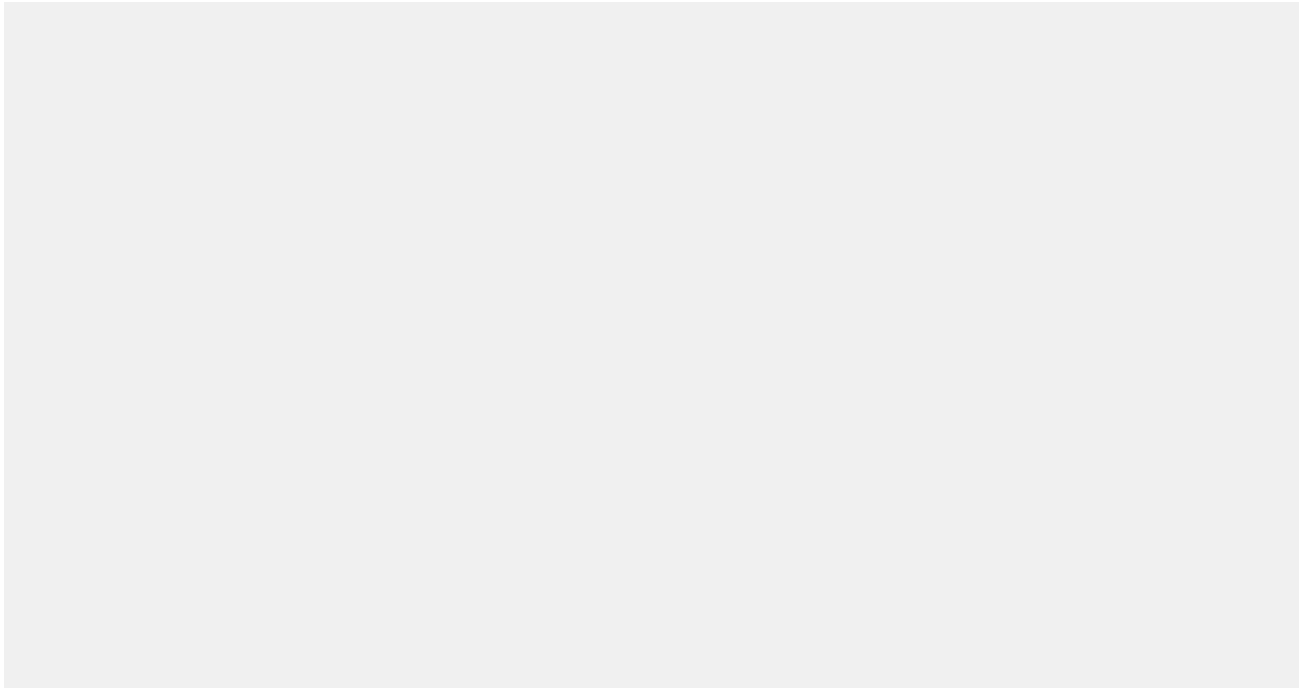
項目名	項目のデータ型	説明
	string	評価レベルの名前。たとえば「エキスパート」など。
	int	評価レベルの最小ポイント数。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

次に、Community (Zone) コンポーネントの定義を示します。







CustomApplication

CustomApplication はカスタムアプリケーションを表します。アプリケーションは、説明とロゴを使用したタブ参照のリストです。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

カスタムアプリケーションのサフィックスは `CustomApplication` で、`CustomApplication` フォルダに保存されます。



メモ: プロジェクトでこのメタデータ型のコンポーネントを取得すると、[Profile](#) コンポーネントにもこのコンポーネントが表示されるようになります。

バージョン

カスタムアプリケーションは API バージョン 10.0 以降で使用できます。

項目

項目名	データ型	説明
	CustomApplicationComponents	Service Cloud コンソールアプリケーションに割り当てられたカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。

項目名	データ型	説明
	string	このアプリケーションが選択されたときに開く標準タブまたはカスタムタブの。
	string	アプリケーションの説明テキスト(省略可能)。
	string	Service Cloud コンソールアプリケーションにおける詳細ページの更新方法を決定します。 が である場合は必須です。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • none • autoRefresh • flag この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。
	DomainWhitelist	Service Cloud コンソールアプリケーション内からユーザがアクセスできる外部ドメイン。たとえば、 のように指定します。この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。
	boolean	Service Cloud コンソールアプリケーションでキーボードショートカットが有効化されており、ユーザがマウスを使用せずにキーの組み合わせを押してアクションを実行できるかどうかを示します。キーボードショートカットを有効化すると、デフォルトのいくつかのショートカットをカスタマイズできます。カスタムショートカットを作成するには、事前に開発者が メソッドを使用してショートカットのアクションを Service Cloud コンソール統合ツールキットに定義しておく必要があります。コンソールの外部から実行されるアクションのキーボードショートカットを作成することはできません。 が である場合は必須です。 この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。
	boolean	アプリケーションが Service Cloud コンソールアプリケーションであるかを示します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Service Cloud コンソールの概要」を参照してください。
	KeyboardShortcuts	Service Cloud コンソールアプリケーションのキーボードショートカットを表します。キー

項目名	データ型	説明
		<p>ボードショートカットにより、ユーザはマウスを使用せずにキーの組み合わせを押してアクションを実行できます。</p> <p>この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。</p>
	string	<p>アプリケーションの内部名。 に基づきますが、有効性のために空白と特殊文字はエスケープ処理されます。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、Metadata コンポーネントから継承されています。</p>
	string	<p>必須。アプリケーションの名前。</p>
	ListPlacement	<p>Service Cloud コンソールアプリケーションにおけるリストの表示方法を表します。</p> <p>が である場合は必須です。</p>
	string	<p>Service Cloud コンソールアプリケーションにおけるリストの更新方法を決定します。</p> <p>が である場合は必須です。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • none • refreshList • refreshListRows <p>この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。</p>
	LiveAgentConfig (ページ 155)	<p>Service Cloud コンソールで Live Agent を使用するための設定を表します。</p>
	string	<p>アプリケーションの画像ドキュメントへの参照 (省略可能)。</p>
	PushNotifications	<p>Service Cloud コンソールアプリケーションの転送通知を表します。転送通知とは、リストおよび詳細ページにあるビジュアルインジケータであり、ユーザのセッション中にレコードまたは項目が変更されると表示されます。たとえば、2 つのサポートエージェントが同じケースで作業している場合に一方のエージェントが 優先度 を変更すると、もう一方のエージェントに</p>

項目名	データ型	説明
		<p>転送通知が表示されるため、そのエージェントは変更を認識でき、同じ作業を行わなくて済みます。</p> <p>この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。</p>
	boolean	<p>コンソールのユーザがブラウザを閉じたり、Salesforce からログアウトしたりしても、再度ログインしたときに以前に開いていたタブが表示されるようにするため、Service Cloud コンソールアプリケーションでユーザセッションを自動的に保存するかどうかを示します。</p> <p>が である場合は必須です。</p> <p>この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。</p>
	string[]	<p>このアプリケーションに含まれるタブのリスト。API バージョン 12.0 では、[ホーム]、[取引先]、および [レポート] などの組み込みタブの がタブの名前になります (Home など)。API バージョン 13.0 以降では、組み込みタブには というプレフィックスが追加されます。たとえば、[取引先] タブを参照するには、 を使用します。</p>
	WorkspaceMappings	<p>Service Cloud コンソールアプリケーションでレコードをどのように開くかを表します。</p> <p>が である場合は必須です。この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。</p>

CustomApplicationComponents

Service Cloud コンソールアプリケーションに割り当てられたカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	string	Service Cloud コンソールアプリケーションのフッターにおけるカスタムコンソールコンポーネントの整列方法を決定します。
	string	Service Cloud コンソールアプリケーションに割り当てられたカスタムコンソールコンポーネントの名前。

CustomShortcut

Service Cloud コンソールアプリケーションに割り当てられたカスタムキーボードショートカットを表します。カスタムショートカットを作成するには、事前に開発者がメソッドを使用してショートカットのアクションを Service Cloud コンソール統合ツールキットに定義しておく必要があります。コンソールの外部から実行されるアクションのキーボードショートカットを作成することはできません。API バージョン 28.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	string	必須。ユーザがキーボードショートカットを押したときにコンソールで実行されるアクション。
	boolean	必須。キーボードショートカットが有効であるか ()、否か () を示します。
	string	<p>必須。キーボードショートカットをトリガするためにユーザが押すキーの組み合わせ。キーボードショートカットでは大文字と小文字が区別されませんが、見やすくするため Salesforce ユーザインターフェースの設定ページには大文字で表示されます。</p> <p>各キーコマンドには、修飾子キーを最大 4 つ、その後に非修飾子キーを 1 つ含めることができます。修飾子キーと非修飾子キーは、キーで区切られます。修飾子キーの順序は任意ですが、キーコマンドシーケンスの最後に非修飾子キーを指定する必要があります。たとえば、</p> <p>です。</p> <p>有効な修飾子キーは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • • • (Mac での COMMAND キーを表す) <p>有効な非修飾子キーは、A ~ Z の文字と 0 ~ 9 の数字です。その他の有効なキーは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • • • • • • • • • •

[illegible]

項目名	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • •
	string	キーボードショートカットの説明テキスト (省略可能)。
	string	必須。Service Cloud コンソールインテグレーションツールキットを使用して、開発者がカスタムショートカット関数をコンソールに追加するときに使用できるコード。

DefaultShortcut

Service Cloud コンソールアプリケーションにデフォルトで割り当てられたキーボードショートカットを表します。コンソールのキーボードショートカットを有効にすると、タブの開閉、タブ間の移動、およびレコードの保存など、いくつかのデフォルトショートカットをカスタマイズに使用できるようになります。API バージョン 28.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	string	<p>必須。ユーザがキーボードショートカットを押したときにコンソールで実行されるアクション。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • • • • • • • • • • • • • • • • • <p>デフォルトのキーボードショートカットの一覧および説明は、Salesforce オンラインヘルプの「Service Cloud コンソールのデフォルトのキーボードショートカット」を参照してください。</p>

[illegible]

[illegible]

DomainWhitelist

Service Cloud コンソールアプリケーション内からユーザがアクセスできる外部ドメインを表します。たとえば、[ドメイン管理](#)です。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	string	この Service Cloud コンソールアプリケーション内からユーザがアクセスできる外部ドメイン。

KeyboardShortcuts

Service Cloud コンソールアプリケーションに割り当てられたキーボードショートカットを表します。
 が である場合は必須です。API バージョン 28.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	KeyboardShortcuts[]	Service Cloud コンソールアプリケーションに割り当てられたカスタムキーボードショートカットを表します。カスタムショートカットを作成するには、事前に開発者が メソッドを使用してショートカットのアクションを Service Cloud コンソール統合ツールキットに定義しておく必要があります。コンソールの外部から実行されるアクションのキーボードショートカットを作成することはできません。
	KeyboardShortcuts[]	Service Cloud コンソールアプリケーションにデフォルトで割り当てられたキーボードショートカットを表します。コンソールのキーボードショートカットを有効にすると、タブの開閉、タブ間の移動、およびレコードの保存など、いくつかのデフォルトショートカットをカスタマイズに使用できるようになります。 デフォルトのキーボードショートカットの一覧および説明は、Salesforce オンラインヘルプの「Service Cloud コンソールのデフォルトのキーボードショートカット」を参照してください。

ListPlacement

Service Cloud コンソールアプリケーションにおけるリストの表示方法を表します。
 が である場合は必須です。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	int	リストの高さ (ピクセルまたはパーセント単位)。 が top の場合は必須です。
	string	必須。画面上のリストの位置。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • full • top • left

項目名	データ型	説明
	string	必須。または がピクセル単位かパーセント単位かを表します。
	int	リストの幅 (ピクセルまたはパーセント単位)。 が left の場合は必須です。

LiveAgentConfig

Service Cloud コンソールで Live Agent を使用するための組織の設定を表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	組織で Live Agent が有効化されているか ()、否か () を指定します。
	boolean	エージェントがチャットを受け入れたときに Service Cloud コンソールで新しい [取引先] サブタブを自動的に開くか ()、否か () を指定します。
	boolean	エージェントがチャットを受け入れたときに Service Cloud コンソールで新しい [ケース] サブタブを自動的に開くか ()、否か () を指定します。
	boolean	エージェントがチャットを受け入れたときに Service Cloud コンソールで新しい [取引先責任者] サブタブを自動的に開くか ()、否か () を指定します。
	boolean	エージェントがチャットを受け入れたときに Service Cloud コンソールで新しい [リード] サブタブを自動的に開くか ()、否か () を指定します。
	boolean	エージェントがチャットを受け入れたときに Service Cloud コンソールで新しい Visualforce ページをサブタブとして自動的に開くか ()、否か () を指定します。
	PagesToOpen (ページ 155)	エージェントがチャットを受け入れたときに Service Cloud コンソールのサブタブで Visualforce ページを開くことを指定します。
	boolean	Service Cloud コンソールで Live Agent を使用するときナレッジコンポーネントを表示するか ()、否か () を指定します。

PagesToOpen

エージェントがチャット要求を受け入れたときに Service Cloud コンソールのサブタブで開く Visualforce ページを表します。API バージョン 28.0 以降で利用できます。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	エージェントがチャットを受け入れたときに Service Cloud コンソールのサブタブで開く Visualforce ページの名前。

PushNotifications

ユーザのセッション中にレコードまたは項目が変更されると表示される、リストおよび詳細ページにあるビジュアルインジケータである転送通知のセットを表します。
が の場合に使用できます。
API バージョン 28.0 以降で利用できます。

項目名	項目のデータ型	説明
	PushNotification[]	転送通知のセット。

PushNotification

ユーザのセッション中にレコードまたは項目が変更された場合に、リストおよび詳細ページにあるビジュアルインジケータを Service Cloud コンソールアプリケーションに表示するかどうかを表します。
が の場合に使用できます。API バージョン 28.0 以降で利用できます。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	必須。選択されたオブジェクトに対して転送通知をトリガする 1 つまたは複数の項目の名前。
	string	必須。転送通知をトリガするオブジェクトの名前。

WorkspaceMappings

Service Cloud コンソールアプリケーションでレコードをどのように開くかを表します。
が である場合は必須です。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	WorkspaceMapping	Service Cloud コンソールアプリケーションで特定のタブのレコードをどのように開くかを表します。CustomApplication に指定された各タブで必須です。

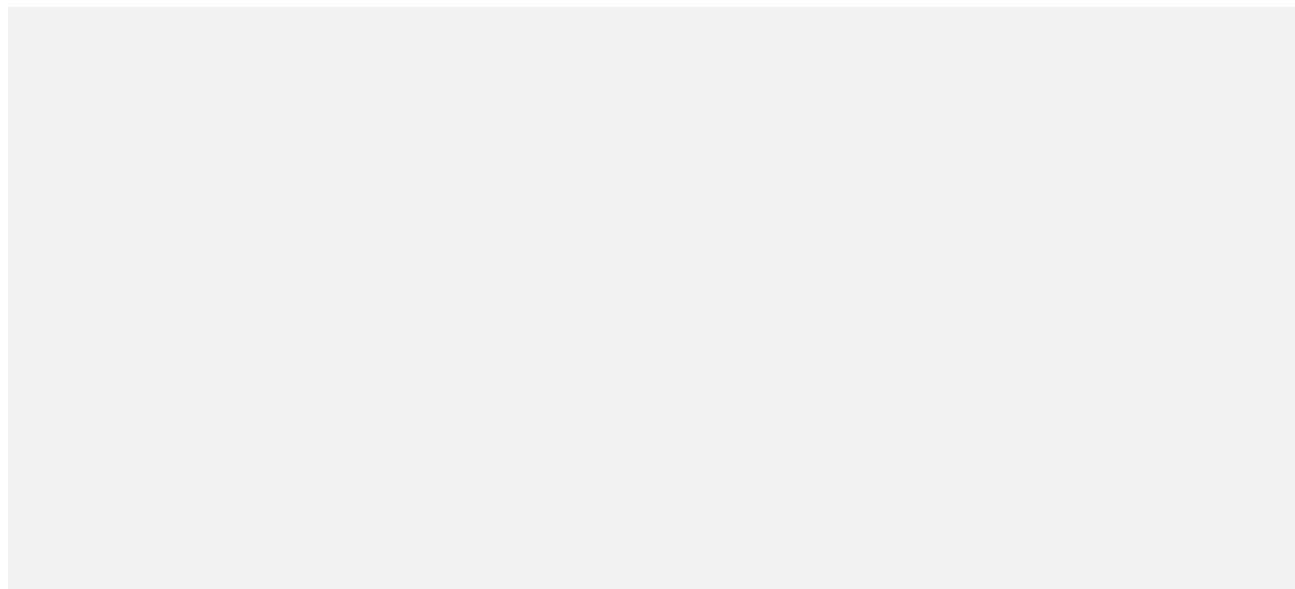
WorkspaceMapping

Service Cloud コンソールアプリケーションで特定のタブのレコードをどのように開くかを表します。
CustomApplication に指定された各タブで必須です。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	string	をサブタブとして表示する主タブを指定する項目の名前。指定されていない場合、 は主タブとして開きます。
	string	必須。タブの名前。

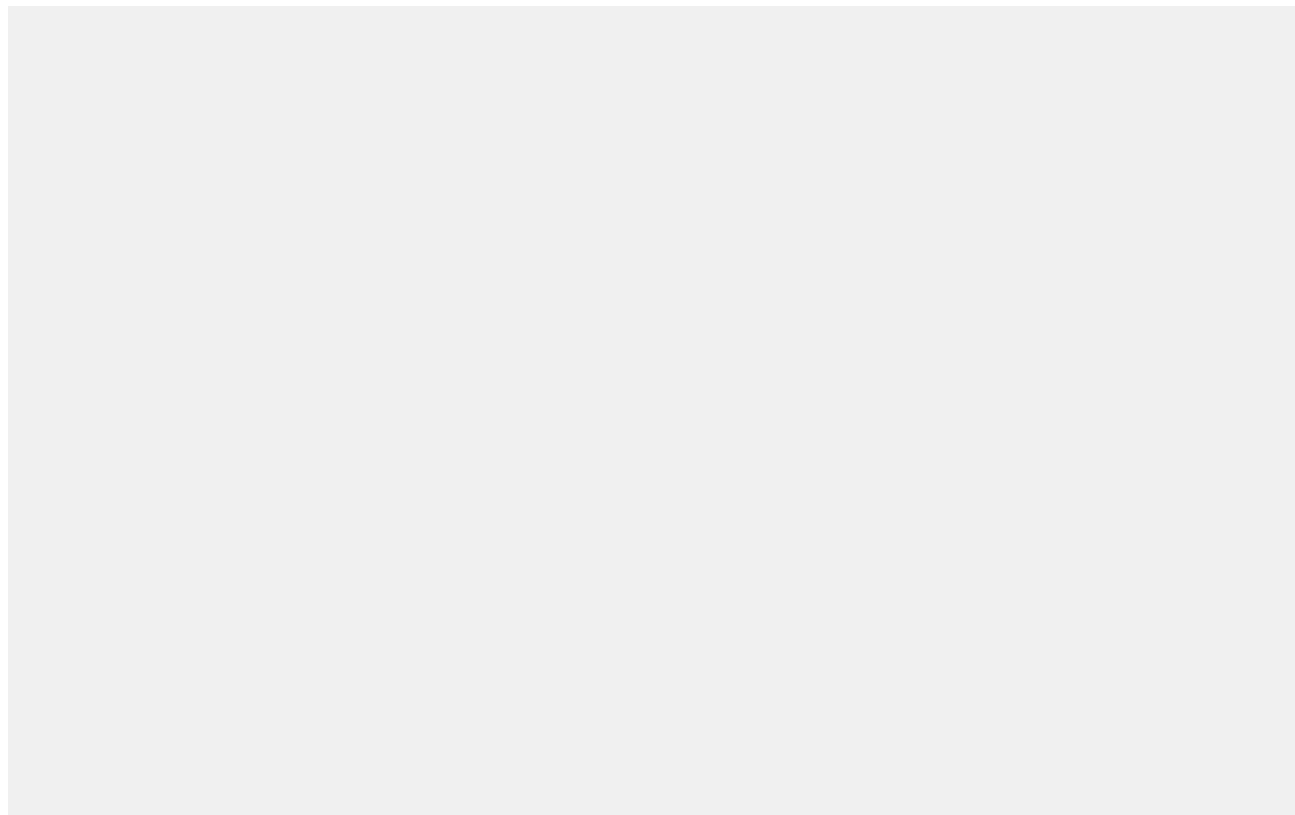
宣言的なメタデータの定義のサンプル

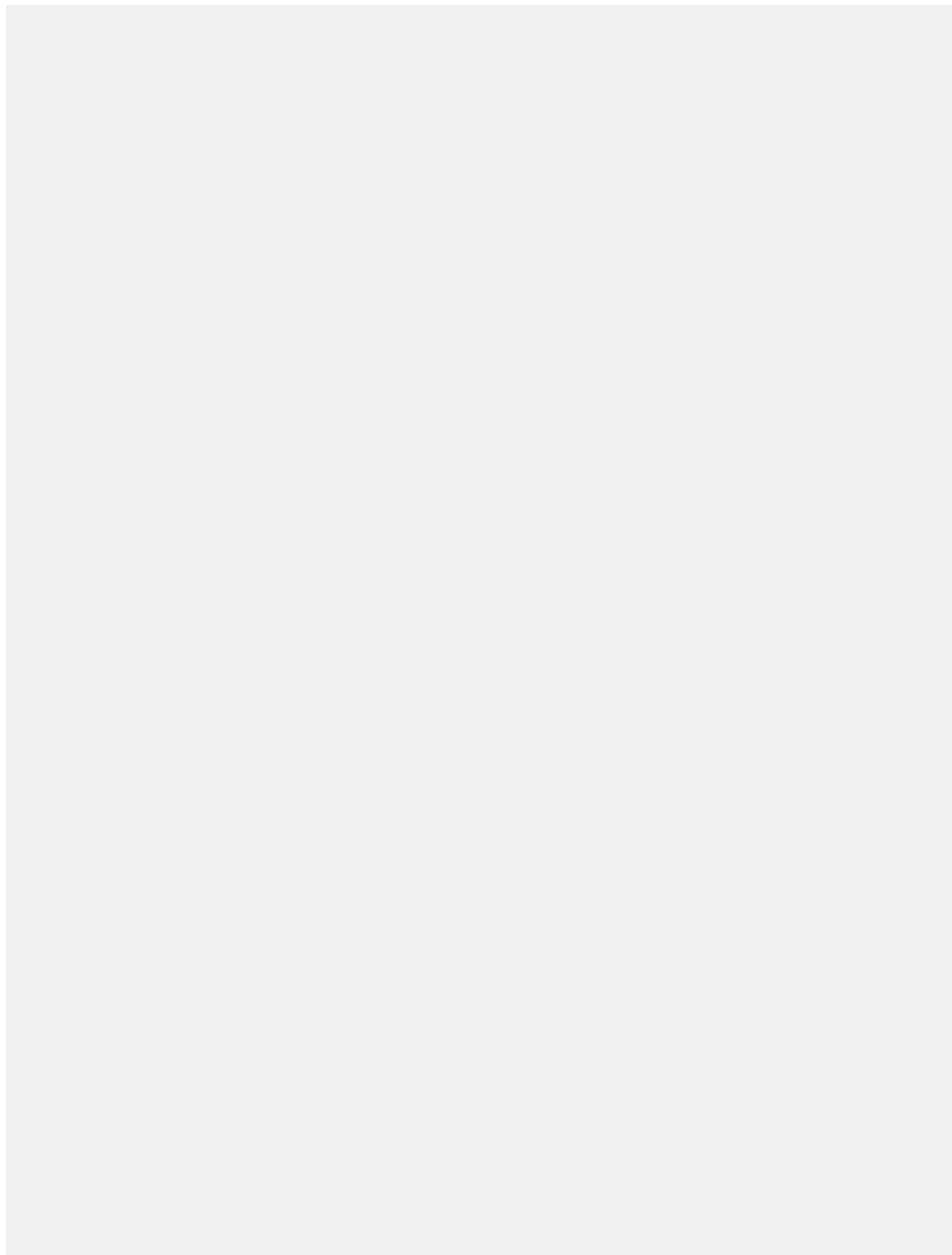
カスタムアプリケーションの定義を次に示します。

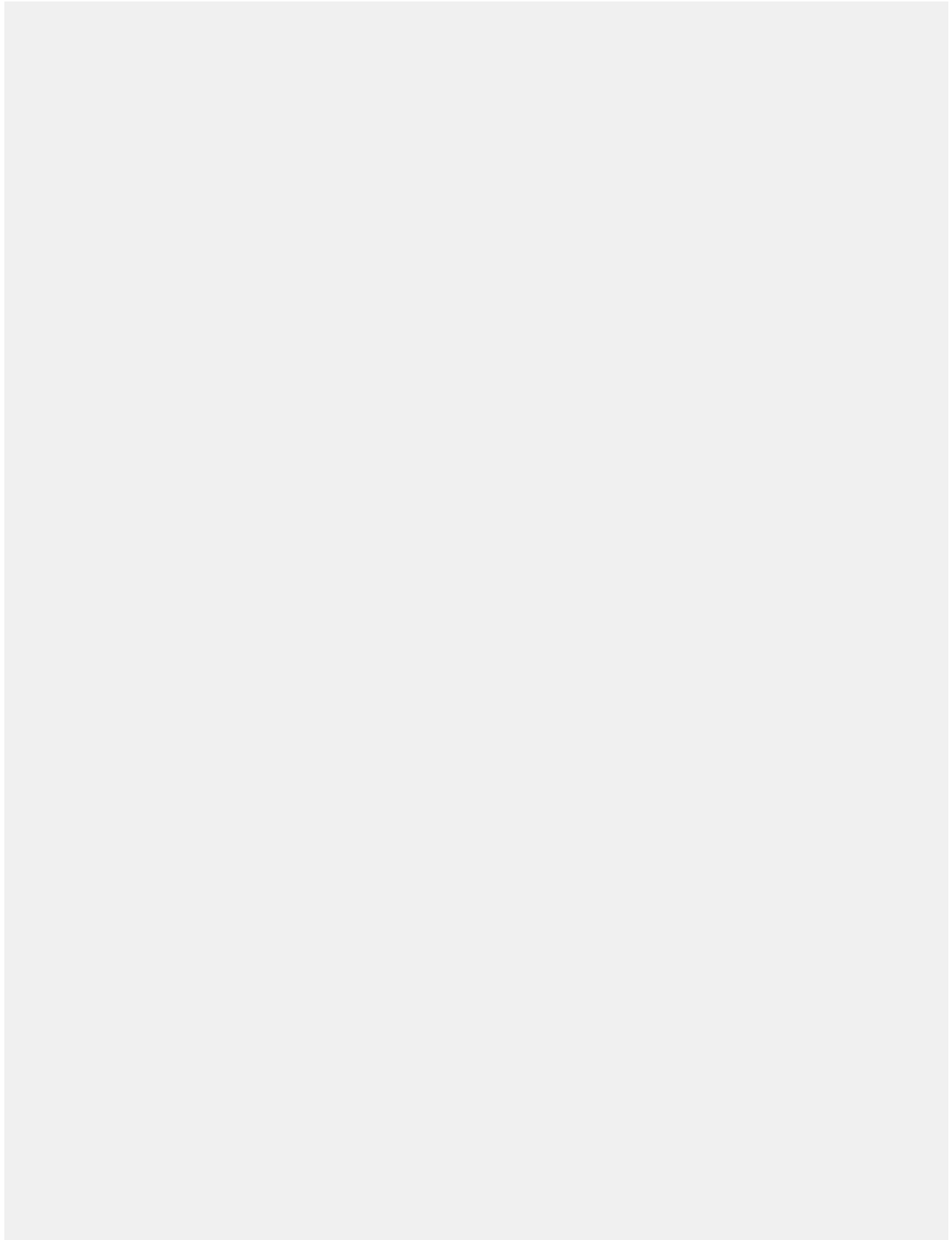


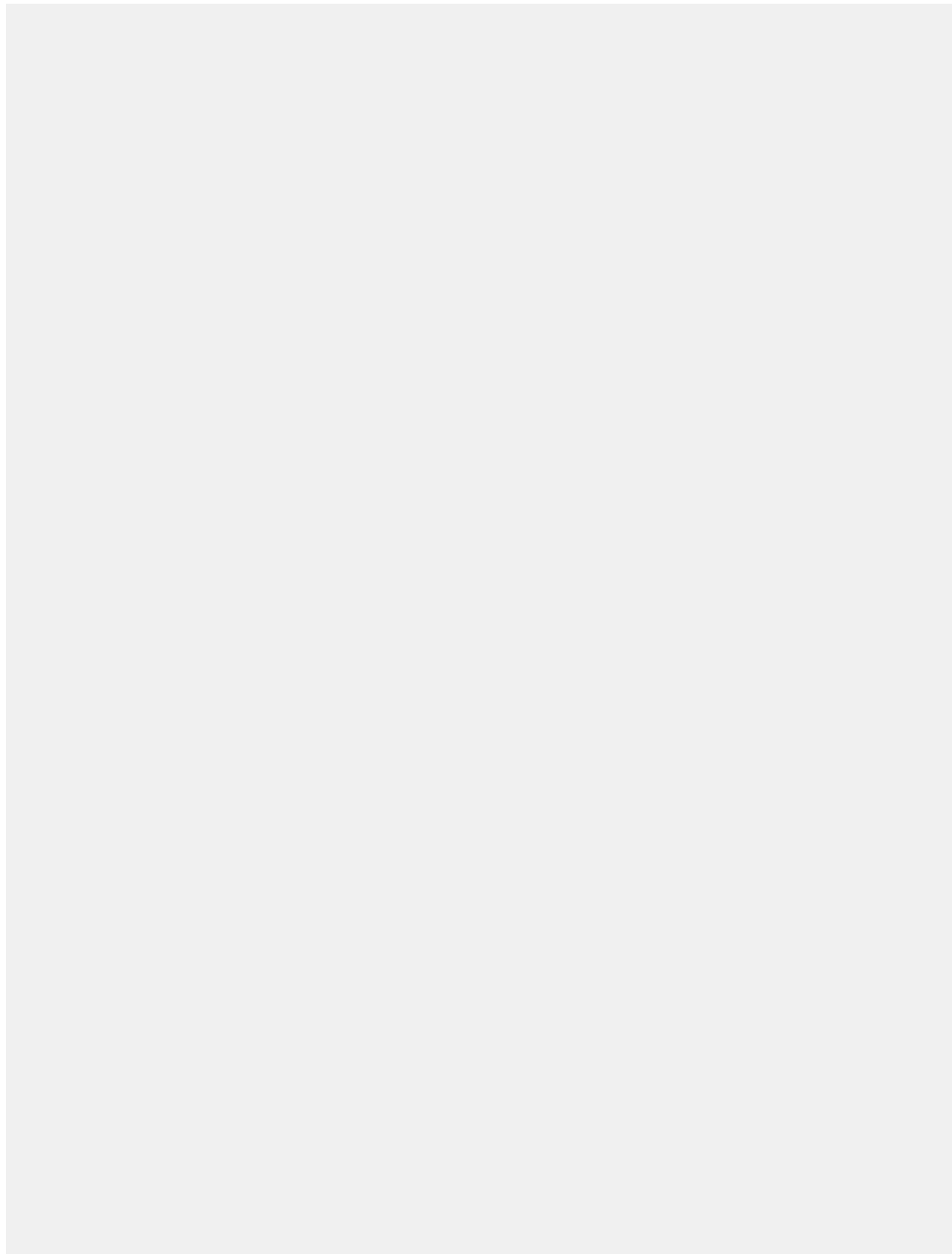
宣言的なメタデータの定義のサンプル — Service Cloud コンソール

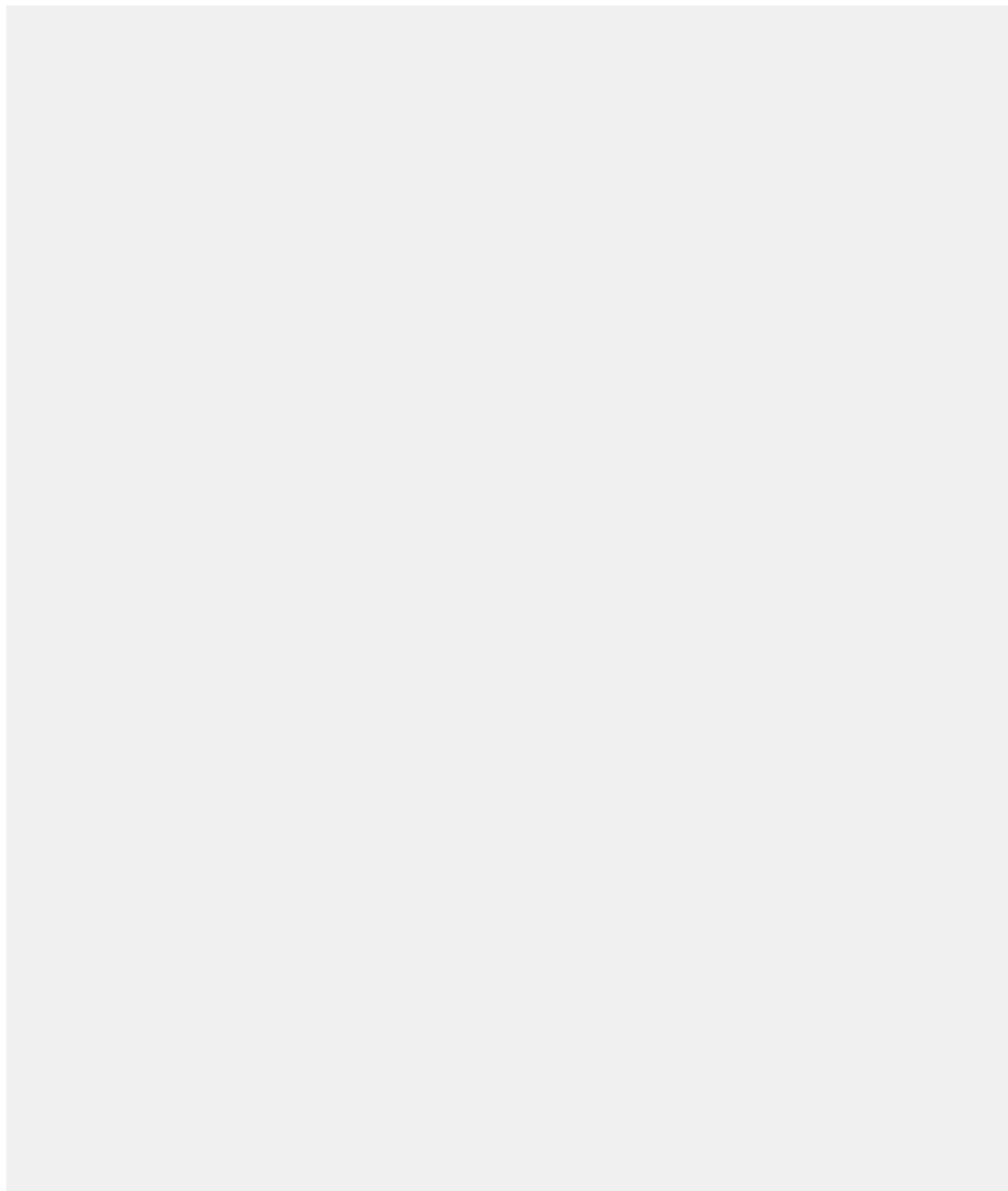
が であるカスタムアプリケーションの定義を次に示します。











関連リンク

[CustomTab](#)

CustomApplicationComponent

Service Cloud コンソールとしてマークされている [CustomApplication](#) に割り当てられたカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。カスタムコンソールコンポーネントは、Service Cloud コンソールアプリケーションの機能を拡張します。Salesforce オンラインヘルプの「カスタムコンソールコンポーネントの概要」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

カスタムアプリケーションコンポーネントのサフィックスは `ComponentName` で、フォルダに保存されます。

バージョン

カスタムアプリケーションは API バージョン 25.0 以降で使用できます。

項目

[illegible]

カスタムアプリケーションコンポーネントの定義を次に示します。

このメタデータ型を使用して、異なる言語、国、および通貨で使用するためにローカライズできるカスタム表示ラベルを作成できます。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その 項目を継承します。カスタム表示ラベルは、Apex クラスまたは Visualforce ページからアクセスできる、最長 1,000 文字のカスタムテキスト値です。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「[カスタム表示ラベルの概要](#)」を参照してください。

マスタカスタム表示ラベルの値は、`localeCode` ファイルに保存されます。翻訳は、`localeCode` という名前形式のファイルに保存されます。`localeCode` は、翻訳言語のロケールコードです。サポートされるロケールコードのリストは、「言語」(ページ 483) に示しています。

カスタム表示ラベルの翻訳は、対応するパッケージディレクトリの `translations` フォルダに保存されます。

CustomLabels コンポーネントは、API バージョン 14.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	string	必須。カスタム表示ラベルバンドルの名前。 Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 こちら を参照してください。
	CustomLabel[]	カスタム表示ラベルのリスト。

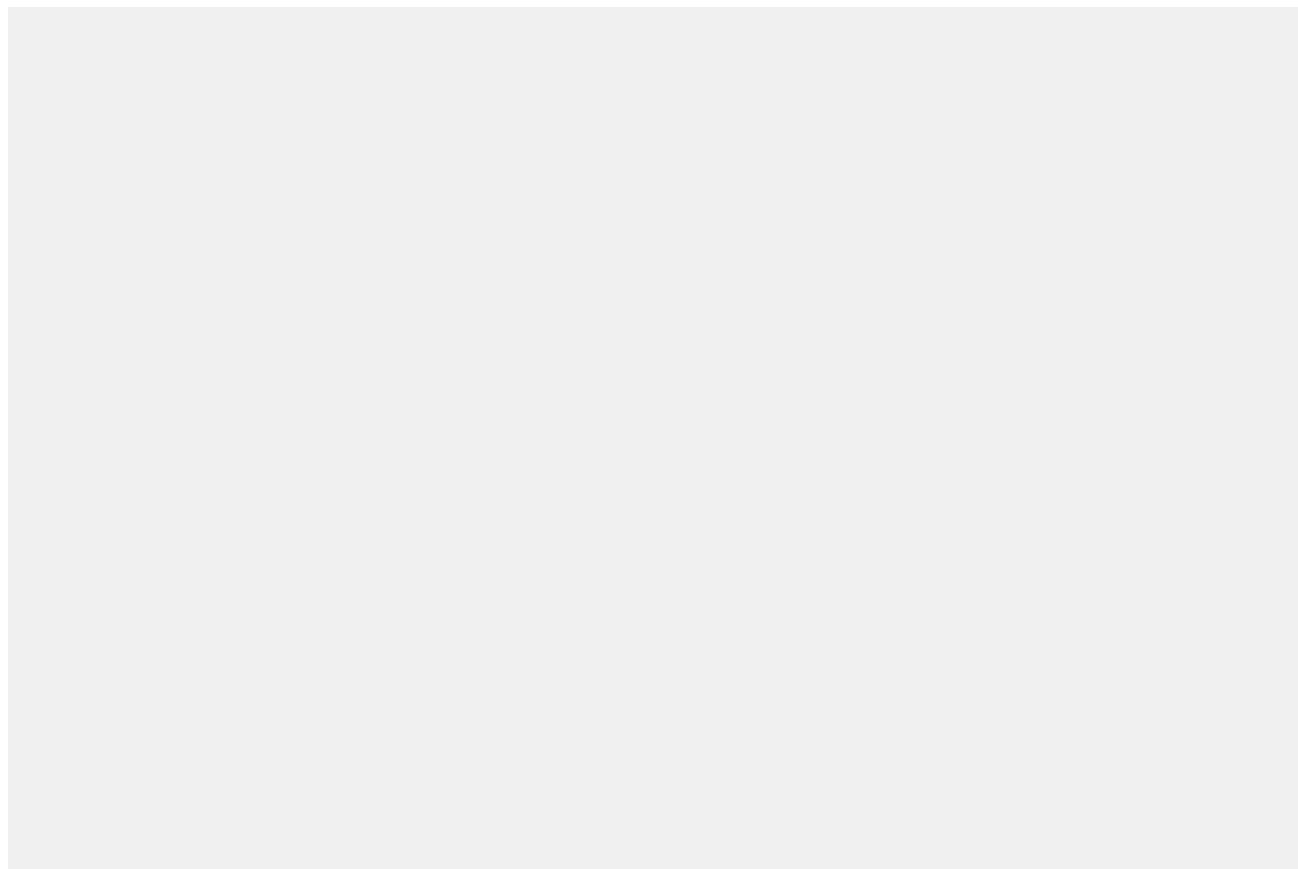
CustomLabel

このメタデータ型は、カスタム表示ラベルを表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

項目	データ型	説明
	string	表示ラベルのカテゴリのカンマ区切りのリスト。この項目は、カスタム表示ラベルのリストビューを作成するときに、検索条件として使用できます。最大 255 文字です。
	string	必須。カスタム表示ラベルの名前。 Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 こちら を参照してください。
	string	必須。翻訳されたカスタム表示ラベルの言語。
	boolean	必須。このコンポーネントが保護されるか ()、否か () を示します。保護コンポーネントは、インストールする組織で作成されたコンポーネントによってリンク設定したり参照したりすることはできません。
	string	必須。このカスタム表示ラベルを識別するための、認識しやすい用語。この説明は差し込み項目で使用されます。
	string	必須。翻訳済みのカスタム表示ラベル。最大 1000 文字です。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

カスタム表示ラベルコンポーネントの XML 定義のサンプルを以下に示します。



関連リンク

[Translations](#)

CustomObject

組織に固有のデータを保存するカスタムオブジェクトを表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。カスタムオブジェクトを作成または更新するときに関連するすべての項目を指定する必要があります。オブジェクトの単一の項目を更新することはできません。カスタムオブジェクトの詳細については、Salesforce オンラインヘルプの「カスタムオブジェクトの概要」を参照してください。

また、このメタデータ型を使用して、取引先などの標準オブジェクトのカスタマイズを行うこともできます。[「標準オブジェクト」](#) (ページ 32) の例を参照してください。

すべてのメタデータコンポーネントには [項目](#) があり、すべてのカスタムオブジェクトで完全に指定されている必要があります。

たとえば、次は、完全に指定されている名前です。

カスタムオブジェクトを作成する Java のサンプルコードについては、「[ステップ 3: Java サンプルコードの説明](#)」(ページ 7)を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

カスタムオブジェクト名には、自動的に `__c` が追加されます。カスタムオブジェクト (または標準オブジェクト) ファイルのファイルサフィックスは `.cls` です。

カスタムオブジェクトと標準オブジェクトは、対応するパッケージディレクトリの `objects` フォルダに保存されます。



メモ: プロジェクトでこのメタデータ型のコンポーネントを取得すると、[Profile](#) コンポーネントにもこのコンポーネントが表示されるようになります。

バージョン

カスタムオブジェクトは API バージョン 10.0 以降で使用できます。

項目

別途記載がない限り、すべての項目は作成可能、除外可能で、null にすることもできます。

項目名	データ型	説明
	ActionOverride[]	標準またはカスタムオブジェクトの <code>override</code> アクションのリスト。 この項目は API バージョン 18.0 以降で使用できます。
	BusinessProcess[]	オブジェクトに関連付けられたビジネスプロセスのリスト。 この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。
	string	このカスタムオブジェクトがヘルプコンテンツをカスタマイズした場合に、ヘルプコンテンツが含まれる Sコントロール。この項目は API バージョン 14.0 以降で使用できます。
	string	このカスタムオブジェクトがヘルプコンテンツをカスタマイズした場合に、ヘルプコンテンツが含まれる Visualforce ページ。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用できます。

項目名	データ型	説明
	CustomSettingsType (string 型の列挙)	<p>この項目が存在する場合、このコンポーネントはカスタムオブジェクトではなくカスタム設定です。この項目はカスタム設定の型を返します。有効な文字列値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> — キャッシュに保存された静的データで、アプリケーションの一部としてアクセスされます。組織全体で使用できます。 — キャッシュに保存された静的データで、アプリケーションの一部としてアクセスされます。ユーザ、プロファイル、または組織の階層に基づいて使用できます。これはデフォルト値です。 <p>この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。</p>
	CustomSettingsVisibility (string 型の列挙)	<p>この項目が存在する場合、このコンポーネントはカスタムオブジェクトではなくカスタム設定です。この項目はカスタム設定の表示を返します。有効な文字列値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> — カスタム設定がパッケージ化されている場合、すべての登録組織がアクセスできます。 — カスタム設定が管理パッケージに含まれる場合、開発組織のみがアクセスできます。登録組織はアクセスできません。これはデフォルト値です。 <p>この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。</p>
	DeploymentStatus (string 型の列挙)	カスタムオブジェクトのリリース状況を示します。
	boolean	将来の使用のために予約されています。
	string	オブジェクトの説明。最大 1000 文字です。
	boolean	活動のカスタムオブジェクトが有効になっているか()、否か()を示します。
	boolean	ディビジョンのカスタムオブジェクトが有効になっているか()、否か()を示します。ディビジョンオブジェクトについての詳細は、『 SOAP API 開発者ガイド 』を参照してください。
	boolean	拡張ルックアップのカスタムオブジェクトが有効になっているか()、否か()を示します。API バージョン 28.0 以降では、この項目を

項目名	データ型	説明
		Account、Contact、および User オブジェクトにも使用できます。拡張ルックアップにより、ルックアップダイアログインターフェースが更新され、検索結果の絞り込み、並び替え、およびページ操作と検索結果列のカスタマイズが可能になります。拡張ルックアップについての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「拡張ルックアップの有効化」を参照してください。
	boolean	フィード追跡のカスタムオブジェクトが有効になっているか()、否か()を示します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Chatter フィード追跡のカスタマイズ」を参照してください。 この項目は API バージョン 18.0 以降で使用できます。
	boolean	監査履歴のカスタムオブジェクトが有効になっているか()、否か()を示します。
	boolean	レポートのカスタムオブジェクトが有効になっているか()、否か()を示します。
	CustomField[]	オブジェクトの 1 つ以上の項目を表します。
	FieldSet	このオブジェクトに存在する項目セットを定義します。
	string	Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 を参照してください。 この値は にできません。
	Gender	名詞の性別を示す言語の翻訳をサポートするための名前の性別。有効な値は、次のとおりです。 . . .
	boolean	この項目は、Salesforce for Wealth Management でのみ使用できるリレーショングループという機能をサポートします。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Salesforce for Wealth Management の概要」を参照してください。

項目名	データ型	説明
	string	Salesforce ユーザインターフェース全体でオブジェクトを表す表示ラベル。
	ListView []	オブジェクトに関連付けられた 1 つ以上のリストビューを表します。
	NamedFilter []	<p>ルックアップ検索条件に関連付けられたメタデータを表します。ルックアップ検索条件の定義を作成、更新、または削除するには、このメタデータ型を使用します。</p> <p>この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。</p>
	CustomField	<p>必須。このオブジェクトの名前が保存されている項目。すべてのカスタムオブジェクトには名前が必要です。この名前は、通常文字列型 または自動採番型です。</p> <p>カスタムオブジェクトのレコードに付けられる識別子。この名前は、ページレイアウト、関連リスト、ルックアップダイアログ、検索結果、およびタブホームページの主要リストに表示されます。デフォルトでは、カスタムオブジェクトのページレイアウトに必須項目としてこの項目が追加されます。すべてのカスタムオブジェクトには名前が必要です。この名前は、通常文字列型 または自動採番型です。</p>
	string	値の複数形です。
	RecordType []	このオブジェクトに定義された 1 つ以上のレコードタイプの配列。
	boolean	<p>フィールド追跡のレコードタイプが有効になっているか ()、否か () を示します。この項目を に設定するには、関連付けられた CustomObject の 項目も に設定されている必要があります。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Chatter フィード追跡のカスタマイズ」を参照してください。</p> <p>この項目は API バージョン 19.0 以降で使用できます。</p>
	boolean	<p>このレコードタイプの履歴追跡が有効になっているか ()、否か () を示します。</p> <p>を true に設定するには、関連付けられたカスタムオブジェクトの</p>

項目名	データ型	説明
		項目も に設定されている必要があります。 この項目は API バージョン 19.0 以降で使用できません。
	SearchLayouts	カスタムオブジェクトの検索レイアウト関連リスト情報。
	SharingModel	このカスタムオブジェクトの共有モデルを示します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • •  メモ: この項目の値は、メタデータ API を介して変更することはできません。Web インターフェースを使用する必要があります。
	SharingReason[]	カスタムオブジェクトが共有されている理由。
	SharingRecalculation[]	カスタムオブジェクトに関連付けられたカスタム共有の再適用のリスト。
	StartsWith (string 型の列挙)	名前が母音、子音、または特殊文字で開始されているかを示します。これは、語の最初の文字に基づいて、異なる処理が必要となる言語に使用されます。有効な値は、「 StartsWith 」にリストされています。
	ValidationRule[]	このオブジェクトの 1 つ以上の入力規則の配列。
	Weblink[]	このオブジェクトに定義された 1 つ以上の Web リンクの配列。

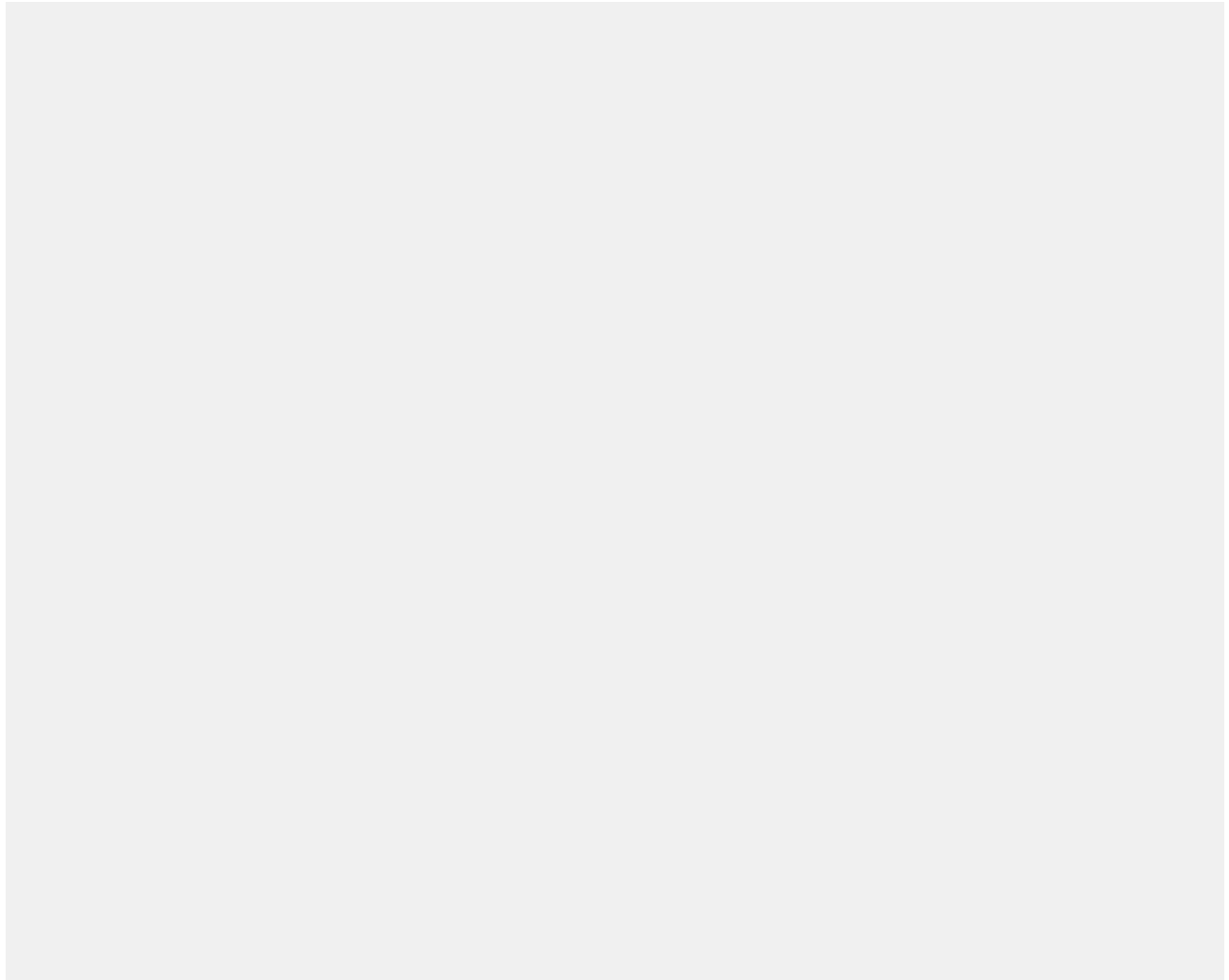
宣言的なメタデータのその他のコンポーネント

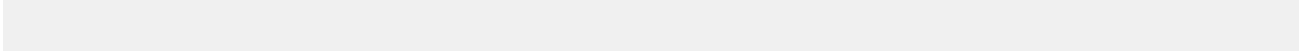
CustomObject の定義には、カスタムオブジェクトで宣言的なメタデータについて定義されているその他のコンポーネントが含まれる場合があります。CustomObject に定義されているコンポーネントは、次のとおりです。

- [ActionOverride](#)
- [BusinessProcess](#)
- [CustomField](#)
- [FieldSet](#)
- [ListView](#)
- [NamedFilter](#)
- [RecordType](#)
- [SearchLayouts](#)

- [SharingReason](#)
- [SharingRecalculation](#)
- [ValidationRule](#)
- [Weblink](#)

宣言的なメタデータの定義のサンプル





関連リンク

- [CustomField](#)
- [Metadata](#)
- [Picklist \(連動選択リストを含む\)](#)
- [SearchLayouts](#)
- [Weblink](#)
- [CustomObjectTranslation](#)
- [ListView](#)

ActionOverride

標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトの `override` アクションを表します。これを使用して、`override` アクションを作成、更新、編集、または削除します。ActionOverride には、これを含む CustomObject にアクセスすることによってのみアクセスできます。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

`override` アクションは標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトの一部として定義されます。

バージョン

`override` アクションは、API バージョン 18.0 以降で使用できます。Summer '13 以降では、`override` アクションを標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの両方に適用できます。以前は、カスタムオブジェクトのみに適用できました。

項目

別途記載がない限り、すべての項目は作成可能、除外可能で、`null` にすることもできます。

項目名	データ型	説明
	string	必須。使用できる値は、上書きできるアクションと同じです。 <ul style="list-style-type: none">•••••••
	string	<code>override</code> に関連付けるすべてのコメント。

項目名	データ型	説明
	string	または に が設定されている場合は、この項目を設定します。override として使用する S コントロールまたは Visualforce ページの名前を参照します。インストールされたコンポーネントを参照するには、 <code>Component_ namespace Component_name</code> の形式を使用します。
	boolean	この override アクションによって作成された新しいレコードをレコードタイプ選択ページに転送されないようにするには、この項目を に設定します。この項目は、 が "create" 種別 (など) で、 が に設定されている場合にのみ有効です。この項目は、API バージョン 21.0 以降で使用できます。
	ActionOverrideType(string 型の列挙)	必須。override アクションの種類を表します。有効な値は、「ActionOverrideType」に記述されています。

ActionOverrideType

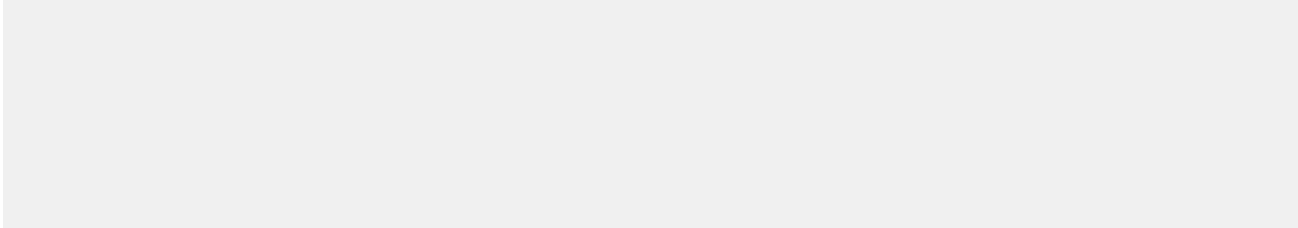
ActionOverrideType は、使用する override アクションの種類を定義する string 型の列挙です。有効な値は、次のとおりです。

- override はインストールされたパッケージが提供するカスタム override を使用します。利用できるものがない場合、標準の Salesforce の動作が使用されます。
- override は S コントロールの動作を使用します。
- override は通常の Salesforce の動作を使用します。
- override は Visualforce ページの動作を使用します。

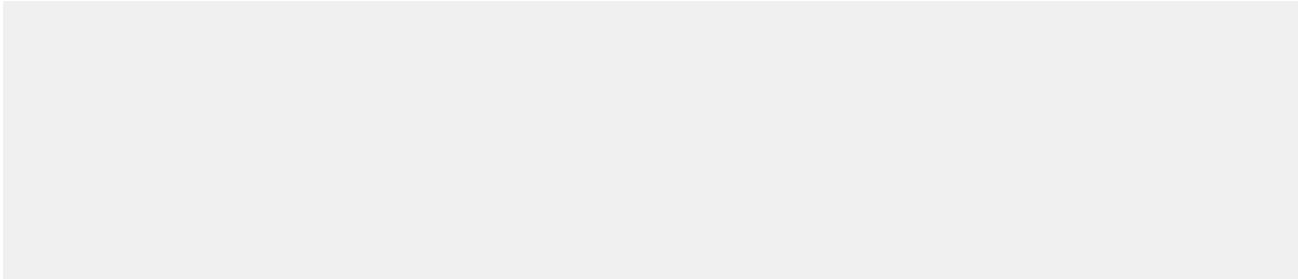
宣言的なメタデータの定義のサンプル

アクションを次のように定義することができます。

上記の定義では、 をコールすると次のコードが表示されます。



登録者が上述のメタデータを使用してパッケージをインストールした場合、XML を編集することによってその動作を上書きできます。たとえば、通常の Salesforce の動作が必要な場合は、次のコードを使用します。



関連リンク
[CustomObject](#)

BusinessProcess

BusinessProcess メタデータ型によって、ユーザのプロファイルに基づいて異なる選択リスト値を表示できます。
[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

複数のビジネスプロセスを使用すると、セールス、サポート、およびリードのライフサイクルを個別に追跡できます。セールス、サポート、リード、またはソリューションのプロセスは、レコードタイプに割り当てられます。レコードタイプは、ビジネスプロセスに関連付けられるユーザプロファイルを決定します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「複数のビジネスプロセスの管理」を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所
ビジネスプロセスは、カスタムオブジェクトまたは標準オブジェクトの定義の一部として定義されます。詳細は、「[CustomObject](#)」を参照してください。

バージョン

BusinessProcess コンポーネントは、API バージョン 17.0 以降で使用できます。

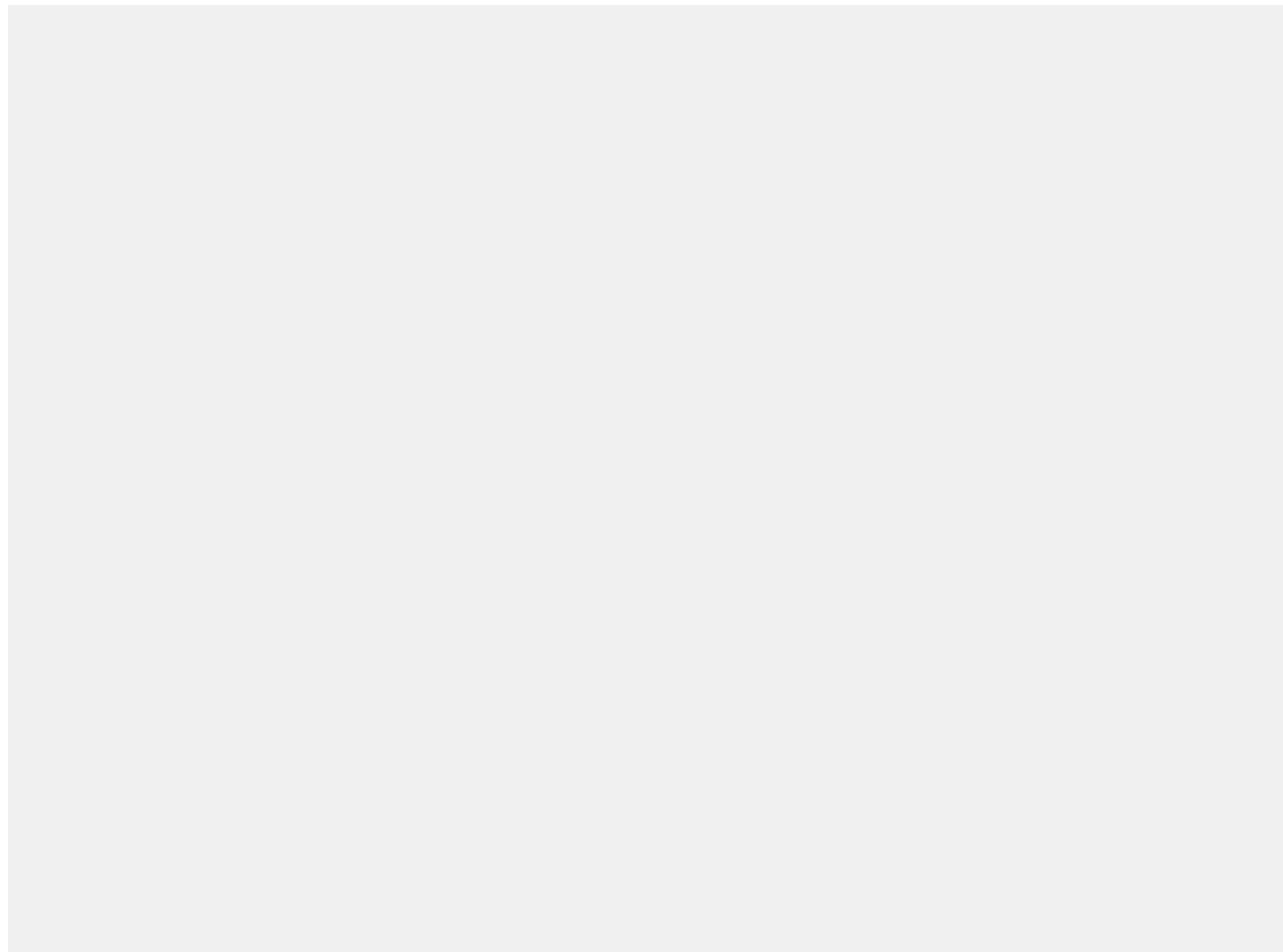
項目

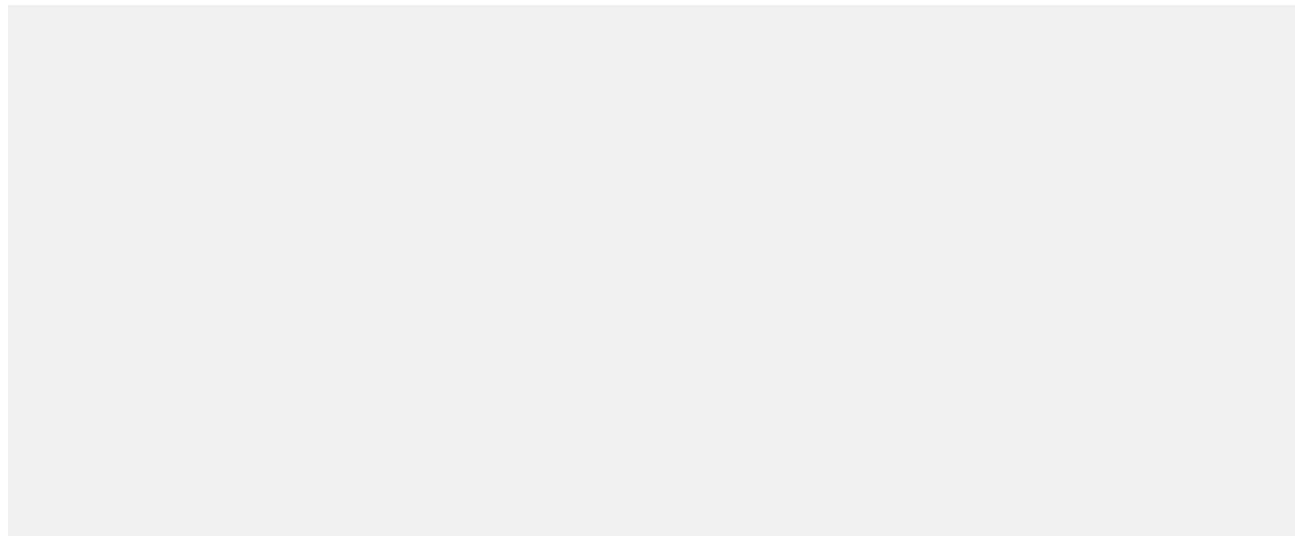
項目	データ型	説明
	string	ビジネスプロセスの説明。

項目	データ型	説明
	string	API アクセスの一意の識別子として使用される名前。 には、アンダースコアと英数字のみを使用 できます。一意であること、最初は文字であること、 空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用し ない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという 制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネ ントから継承されています。
	boolean	ビジネスプロセスが有効であるか()、否か ()を示します。
	string	パッケージが作成された開発組織の名前空間。
	PicklistValue[]	このビジネスプロセスに関連付けられた選択リスト 値のリスト。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

リードビジネスプロセスの XML 定義のサンプルを以下に示します。





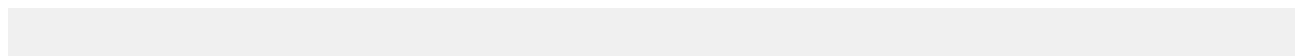
関連リンク

[CustomObject](#)

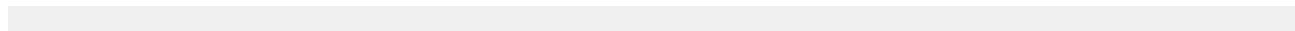
CustomField

カスタム項目に関連付けられたメタデータを表します。カスタム項目の定義を作成、更新、または削除するには、このメタデータ型を使用します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。また、このメタデータ型を使用して、取引先の項目などの標準選択リスト項目のカスタマイズを行うこともできます。

カスタム項目を作成または更新するときには必ず完全名を指定する必要があります。たとえば、カスタムオブジェクトのカスタム項目は次のように表されます。



標準オブジェクトのカスタム項目の例を次に示します。



宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

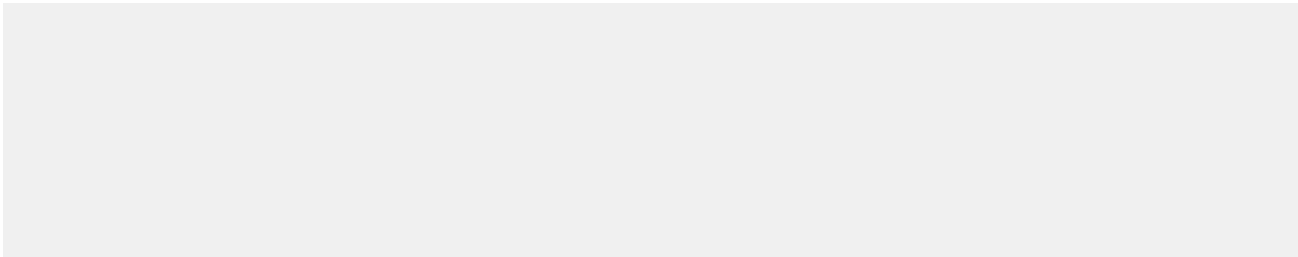
カスタム項目は、カスタムオブジェクトまたは標準オブジェクトの定義の一部として定義されます。詳細は、「[CustomObject](#)」を参照してください。



メモ: プロジェクトでこのメタデータ型のコンポーネントを取得すると、[Profile](#) コンポーネントにもこのコンポーネントが表示されるようになります。

カスタムオブジェクトまたは標準オブジェクトのカスタム項目の取得

カスタムオブジェクトまたは標準オブジェクトを取得するとき、そのオブジェクトに関連付けられるものすべてが返されます。ただし、`getCustomFields()` で明示的にオブジェクトと項目の名前を指定することによって、オブジェクトのカスタム項目のみを取得することもできます。この次の定義では、それぞれ 1 つのカスタム項目定義を含む、`CustomFieldDefinition` ファイルと `CustomFieldDefinitionList` ファイルを作成します。



バージョン

カスタム項目は API バージョン 10.0 以降で使用できます。

項目

別途記載がない限り、すべての項目は作成可能、除外可能で、null にすることもできます。

項目名	データ型	説明
	boolean	この項目が大文字と小文字を区別するかどうかを示します (区別する場合は <code>true</code> 、しない場合は <code>false</code>)。
	string	指定されている場合、項目のデフォルト値を表します。
	DeleteConstraint (string 型の 列挙)	参照関係の削除オプションを提供します。有効な値は、次のとおりです。 SetNull これはデフォルトです。参照レコードが削除されると、参照項目は消去されます。 Restrict レコードが参照関係にある場合に、そのレコードが削除されないように防止します。 Cascade 参照レコードも関連付けられた参照項目も削除します。 参照関係についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「オブジェクトリレーションの概要」を参照してください。

項目名	データ型	説明
	boolean	将来の使用のために予約されています。
	string	項目の説明。
	string	表示形式。
	boolean	項目が外部 ID 項目であるか ()、否か () を示します。
	string	指定されている場合、項目の数式を表します。
	TreatBlanksAs (string 型の 列挙)	数式内の空白の処理方法を示します。有効な値は、 および です。
	string	Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 を参照してください。 この値は にできません。
	boolean	項目がインデックス付けされるかどうかを示します。この項目が一意である場合、または が true に設定されている場合、 値は true に設定されます。バージョン 14.0 では、この項目は廃止され、後方互換性の目的でのみ提供されています。
	string	項目レベルのヘルプの内容を表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「項目レベルのヘルプの定義」を参照してください。
	boolean	カスタムオブジェクトの主従関係の子レコードの親を、他の親レコードに変更できるかどうかを示します。デフォルト値は、 です。 この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。
	string	項目の表示ラベル。取引先の 項目など、標準選択リスト項目の表示ラベルを更新することはできません。
	int	項目の長さ。
	EncryptedFieldMaskChar (string 型の 列挙)	暗号化された項目では、マスクとして使用される文字を指定します。有効な値は、 EncryptedFieldMaskChar に列挙されています。 暗号化項目についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「暗号化カスタム項目について」を参照してください。

項目名	データ型	説明
	EncryptedFieldType (string 型の 列挙)	暗号化されたテキスト項目の場合、マスクされる文字とマスクされない文字の形式を項目で指定します。有効な値は、 EncryptedFieldType に列挙されています。暗号化項目についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「暗号化カスタム項目について」を参照してください。
	picklist	指定されている場合、項目は選択リストで、この項目は選択リスト値および表示ラベルを列挙します。
	boolean	既存の行が挿入されるか()、否か()を示します。
	int	数値の精度。精度は、数字の桁数です。たとえば、数値 256.99 の精度は 5 です。
	string	指定されている場合、この項目に含まれる別のオブジェクトへの参照を示します。
	string	リレーションの表示ラベル。
	string	指定されている場合、一対多のリレーションの値を示します。たとえば、YourObject へのリレーションを持っていた MyObject オブジェクトでは、そのリレーション名は YourObjects となります。
	int	この項目はすべての主従関係で有効ですが、連結オブジェクト場合、値はゼロ以外のみです。連結オブジェクトには、2つの主従関係があり、多対多リレーションにある関連付けテーブルに類似しています。連結オブジェクトは1つの親オブジェクトを主オブジェクト(0)として、他方を第2オブジェクト(1)として定義する必要があります。主または第2の定義は、連結オブジェクトの削除動作およびデザインとレコード所有者の継承に影響します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプを参照してください。 有効な値は 0 または 1 で、0 は常に、連結オブジェクトではないオブジェクトの値です。
	boolean	作成時に項目への値の入力が必須であるか()、否か()を示します。
	int	項目のスケール。スケールは、数字の小数点の右側の桁数です。たとえば、数値 256.99 のスケールは 2 です。
	int	指定されている場合、項目の開始番号を示します。

項目名	データ型	説明
	boolean	マークアップを削除するには、維持するにはを設定します。リッチテキストエリアをロングテキストエリアに変換するときに使用されます。
	string	集計されている詳細行の項目を表します。この項目は、値がでない限り、null にできません。
	FilterItem[]	この項目が集計項目である場合、項目の検索条件のセットを表します。この項目は、検索条件が一致する場合、子で集計されます。
	string	親と子のリレーションを定義する、子の主従項目を表します。
	SummaryOperations (string 型の列挙)	実行される加算演算を表します。有効な値は、 SummaryOperations に列挙されています。
	boolean	フィード追跡の項目が有効になっているか()、否か()を示します。この項目を設定するには、関連付けられた CustomObject の項目も に設定されている必要があります。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Chatter フィード追跡のカスタマイズ」を参照してください。 この項目は API バージョン 18.0 以降で使用できません。
	boolean	項目の履歴追跡が有効になっているか()、否か()を示します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「項目履歴管理」を参照してください。
	boolean	これは、チェックボックス項目にのみ関連します。設定されている場合、true 値はインデックスに組み込まれます。バージョン 14.0 では、この項目は廃止され、後方互換性の目的でのみ提供されています。
	FieldType	必須。項目のデータ型を示します。有効な値は、 FieldType に列挙されています。
	boolean	項目が一意であるか()、否か()を示します。
	int	項目に表示される線の数を示します。
	boolean	子レコードを作成、編集、または削除するためにマスタレコードに必要な最低限の共有アクセスレベルを設定します。この項目は、主従または連結オブジェクトカスタム項目のデータ型にのみ適用されます。

項目名	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> - 「参照」アクセス権を持つユーザは、マスタレコード権限を使用して子レコードを作成、編集、または削除できます。この設定により、共有の制限が緩和されます。 - 「参照・更新」アクセス権を持つユーザは、マスタレコード権限を使用して子レコードを作成、編集、または削除できます。この設定はより制限的であり、デフォルト値となっています。 <p>連結オブジェクトの場合、2つの親からの最も厳しい制限のあるアクセス権が適用されます。たとえば、両方の主従項目に が設定されているが、ユーザが1つのマスタレコードに対して「参照」アクセス権があり、他方のマスタレコードに対して「参照・更新」アクセス権がある場合、ユーザは子レコードを作成、編集、または削除することはできません。</p>

カスタム項目は、追加のデータ型を使用します。詳細は、「[メタデータのデータ型](#)」(ページ 215)を参照してください。

EncryptedFieldMaskChar

このデータ型は、 で使用されます。 または という2つの有効な値を持つ文字列です。暗号化項目についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「暗号化カスタム項目について」を参照してください。

EncryptedFieldMaskType

このデータ型は、 で使用されます。有効な値は、次のとおりです。

all

項目内のすべての文字が非表示になります。このオプションは、Salesforce の すべての文字をマスク オプションと同等です。

creditCard

最初の12桁が非表示になり、最後の4桁が表示されます。このオプションは、Salesforce の クレジットカード番号 オプションと同等です。

ssn

最初の5桁が非表示になり、最後の4桁が表示されます。このオプションは、Salesforce の 社会保障番号 オプションと同等です。

lastFour

最後の 4 桁を除くすべての文字が非表示になります。このオプションは、Salesforce の 最後の 桁を表示 オプションと同等です。

sin

最後の 4 桁を除くすべての文字が非表示になります。このオプションは、Salesforce の 社会保険番号 オプションと同等です。

nino

すべての文字が非表示になります。項目が 9 桁の場合には、Salesforce により、各ペアの文字の後に空白が自動的に挿入されます。このオプションは、Salesforce の 国民保険番号 オプションと同等です。

暗号化項目についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「暗号化カスタム項目について」を参照してください。

FilterItem

一連の検索条件の 1 つのエントリを表します。

項目	データ型	説明
	string	検索条件に指定された項目を表します。
	FilterOperation (string 型の 列挙)	この検索条件項目の絞り込み操作を表します。有効な値は、 FilterOperation に列挙されています。
	string	操作される検索条件項目の値を表します。たとえば、検索条件が である場合、 の値は です。
	string	検索条件の最終列に項目または項目値が含まれるかを指定します。 承認プロセスでは、検索条件の エントリをサポートしていません。

FilterOperation

これは、さまざまな絞り込み操作をリストする string 型の列挙です。有効な値は、次のとおりです。

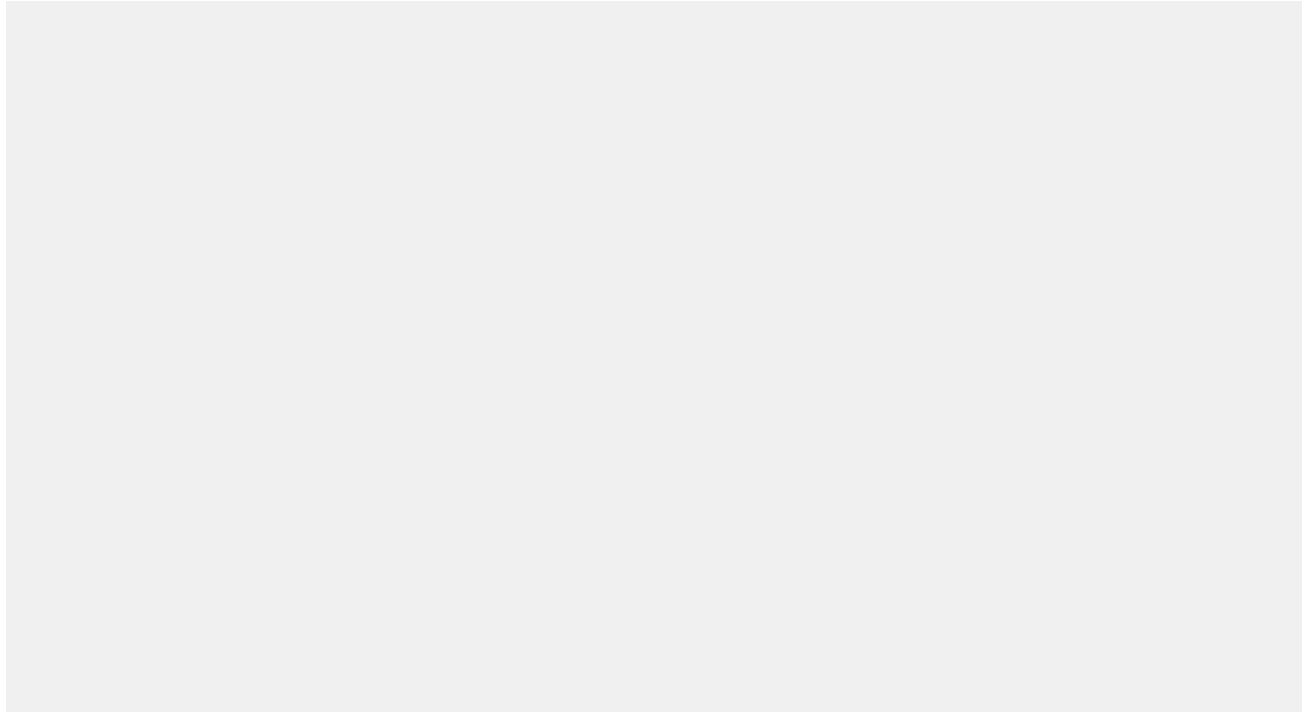
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

SummaryOperations

のデータ型を表します。有効な値は、次のとおりです。

-
-
-
-

宣言的なメタデータの定義のサンプル



関連リンク

[CustomObject](#)

[Picklist \(連動選択リストを含む\)](#)

[Metadata](#)

[NamedFilter](#)

FieldSet



メモ: このリリースには、項目セットのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありませんが、既知の制限があります。

項目セットを表します。項目セットとは、項目をグループ化したものです。たとえば、ユーザの名、ミドルネーム、姓、肩書を示す項目を 1 つの項目セットにして持つことができます。項目セットは、Visualforce ページで動

的に参照できます。そのページを管理パッケージに追加すれば、システム管理者は項目セット内の項目の追加、削除、並び替えを行って、コードを変更せずに Visualforce ページ上に表示する項目を変更できます。

バージョン

FieldSet コンポーネントは、API バージョン 21.0 以降で使えます。

項目

項目	データ型	説明
	FieldSetItem[]	項目セットのすべての使用可能な項目を含む配列。
	string	必須。開発者が記載する項目セットに関する説明。これは必須です。
	FieldSetItem[]	Visualforce ページ上に表示されているすべての項目を含む配列。項目が表示される順序により、ページ上の表示順序が決まります。
	string	API アクセスの一意の識別子として使用される名前。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	string	必須。項目セットの参照に使用する表示ラベル。

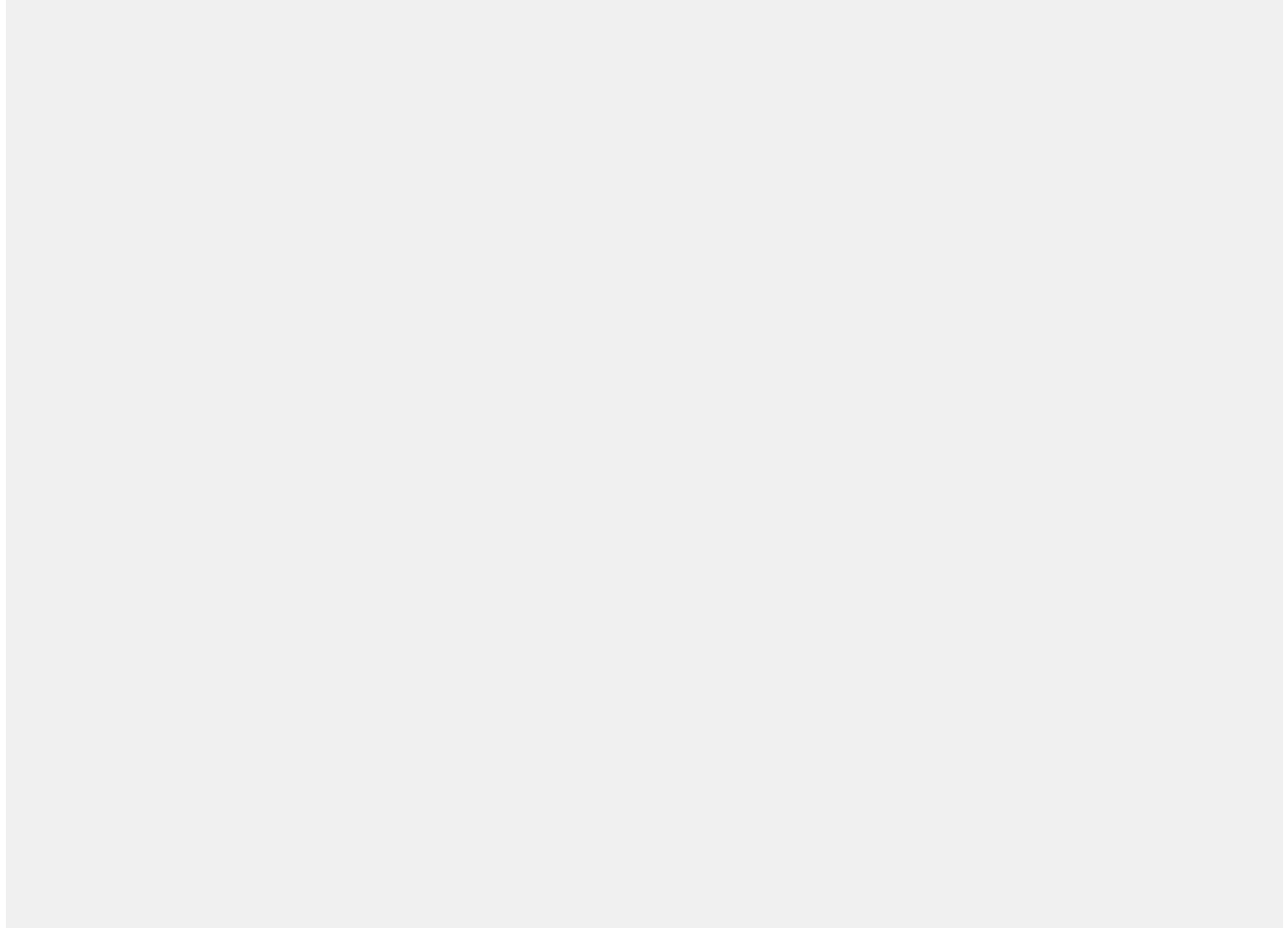
FieldSetItem

FieldSetItem は項目セットの個別の項目を表します。

項目	データ型	説明
	string	必須。標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトの項目名。
	boolean	参照のみ。項目が管理パッケージと未管理パッケージのどちらを使用して項目セットに追加されたかを示します。
	boolean	参照のみ。項目が必須であるか()、否か()を示します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

FieldSet コンポーネントの XML 定義のサンプルを以下に示します。



ListView

ListViewでは取引先責任者、取引先、またはカスタムオブジェクトなどのレコードの条件設定済みリストを表示できます。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。Salesforce オンラインヘルプの「カスタムリストビューの作成」を参照してください。



メモ: 自分にのみ表示する 表示の制限 オプションが設定されているリストビューにはメタデータ API ではアクセスできません。これらの各リストビューは特定のユーザに関連付けられます。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

リストビューは CustomObject コンポーネント内に保存されます。コンポーネントは、取引先などのカスタムオブジェクトまたは標準オブジェクトを表すことができます。

バージョン

カスタムオブジェクトの ListView コンポーネントは、API バージョン 14.0 以降で使用できます。取引先などの標準オブジェクトの ListView コンポーネントは、API バージョン 17.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	string	この項目は検索条件の詳細オプションを表します。検索条件の詳細オプションでは、複数の検索条件行項目に対する AND Boolean 演算子と OR Boolean 演算子の組み合わせを使用する検索条件を作成できます。たとえば、 では最初の 2 つの検索条件行項目または 3 番目の検索条件行項目に一致するレコードが検索されます。Salesforce オンラインヘルプの「検索条件ロジックを最大限に活用する」を参照してください。
	string[]	リストビューの項目のリスト。各カスタム項目に <i>MyCustomField__c</i> などのオブジェクト名を基準にした項目名が指定されます。
	string	組織がディビジョンを使用してデータを分類しており、「ディビジョンの使用」権限を持っている場合は、リストビュー内のレコードがこのディビジョンに一致する必要があります。この項目は、すべてのレコードを検索する場合にのみ利用できます。 この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できません。
	FilterScope (string 型の 列挙)	必須。この項目は、所有者でレコードを絞り込むか、すべてのレコードを表示するかを示します。
	ListViewFilter []	検索条件行項目のリスト。
	string	必須。 Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 を参照してください。
	string	必須。リストビューの名前。
	Language	組織がトランスレーションワークベンチを使用し、 または 演算子を使用している場合、条件検索に使用する言語。検索用語として入力した値は検索条件の言語と同じ言語である必要があります。Salesforce オンラインヘルプの「検索条件の入力」を参照してください。 有効な言語の値の一覧は、「 Translations 」を参照してください。 この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できません。

項目	データ型	説明
	string	キューの名前。キューへのアクセス権を持つユーザーがオブジェクトを監視および管理できるように、オブジェクトがキューに割り当てられている場合があります。キューを作成すると、対応するリストビューが自動的に作成されます。Salesforce オンラインヘルプの「キューの作成」を参照してください。
	SharedTo	リストビューの共有アクセス権。 この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できません。

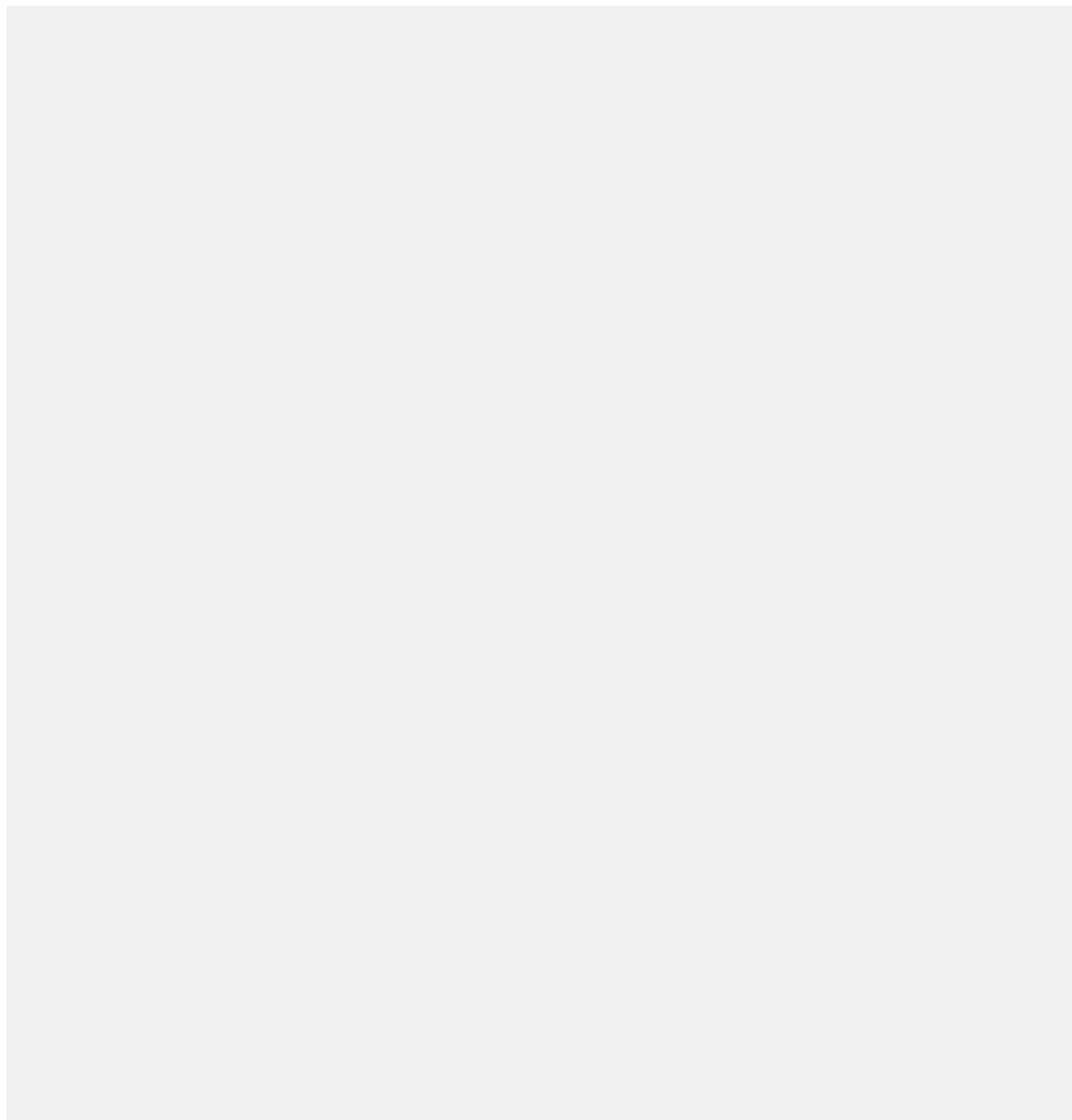
ListViewFilter

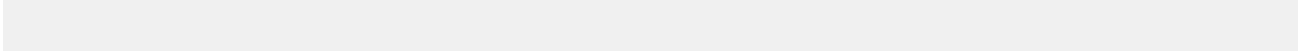
ListViewFilter は検索条件行項目を表します。

列挙値	説明
	チームに割り当てられているレコード。このオプションは、API バージョン 17.0 以降で使用できます。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

カスタムオブジェクトのリストビューの XML 定義のサンプルを以下に示します。






関連リンク

[CustomObject](#)
[package.xml マニフェストファイルのサンプル](#)

NamedFilter


ルックアップ検索条件に関連付けられたメタデータを表します。ルックアップ検索条件の定義を作成、更新、または削除するには、このメタデータ型を使用します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。このメタデータ型は、標準項目のルックアップ検索条件のカスタマイズを行う場合にも使用できます。



メモ: `namedFilter` は、関連付けられたルックアップ項目の対象オブジェクトの子として表示されます。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場合

ルックアップ検索条件は、カスタムオブジェクト定義または標準オブジェクト定義の一部として定義されます。詳細は、「[CustomObject](#)」を参照してください。



メモ: プロジェクトでこのメタデータ型のコンポーネントを取得すると、[Profile](#) コンポーネントにもこのコンポーネントが表示されるようになります。

バージョン

ルックアップ検索条件は、API バージョン 17.0 以降で使用できます。

項目

別途記載がない限り、すべての項目は作成可能、除外可能で、`null` にすることもできます。

項目名	データ型	説明
	boolean	必須。ルックアップ検索条件が有効かどうかを示します。
	string	高度な検索条件を指定します。高度な検索条件の詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「検索条件ロジックを最大限に活用する」を参照してください。
	string	この検索条件の機能の説明。
	string	ルックアップ検索条件が失敗した場合に表示されるエラーメッセージ。

項目名	データ型	説明
	string	<p>必須。ルックアップ検索条件に関連付けられたカスタム項目または標準項目の 。各ルックアップ検索条件に1つのリレーション項目を関連付けることができます。その逆も可能です。</p> <p> メモ: ルックアップ検索条件に関連付けられた項目の更新はできません。</p>
	FilterItems[]	必須。検索条件のセット。
	string	ページに表示される情報メッセージ。ある項目がルックアップ検索条件で除外されている理由など、ユーザにとってわかりにくい内容を説明するために使用します。
	string	<p>Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、こちら を参照してください。</p> <p>この値は こちら にできません。</p>
	boolean	必須。ルックアップ検索条件が省略可能かどうかを示します。
	string	必須。ルックアップ検索条件の名前。ユーザインターフェースでこの項目を作成する場合、名前は自動的に割り当てられます。メタデータ API を使用してこの項目を作成する場合、 こちら 項目を含める必要があります。
	string	このルックアップ検索条件を使用するルックアップ項目が含まれるオブジェクト。ルックアップ検索条件がソースオブジェクトの項目を参照する場合、この項目を設定します。

ルックアップ検索条件は、追加のデータ型を使用します。詳細は、「[メタデータのデータ型](#)」を参照してください。

FilterItems

FilterItems には次のプロパティが含まれます。

項目	データ型	説明
	string	検索条件に指定された項目を表します。

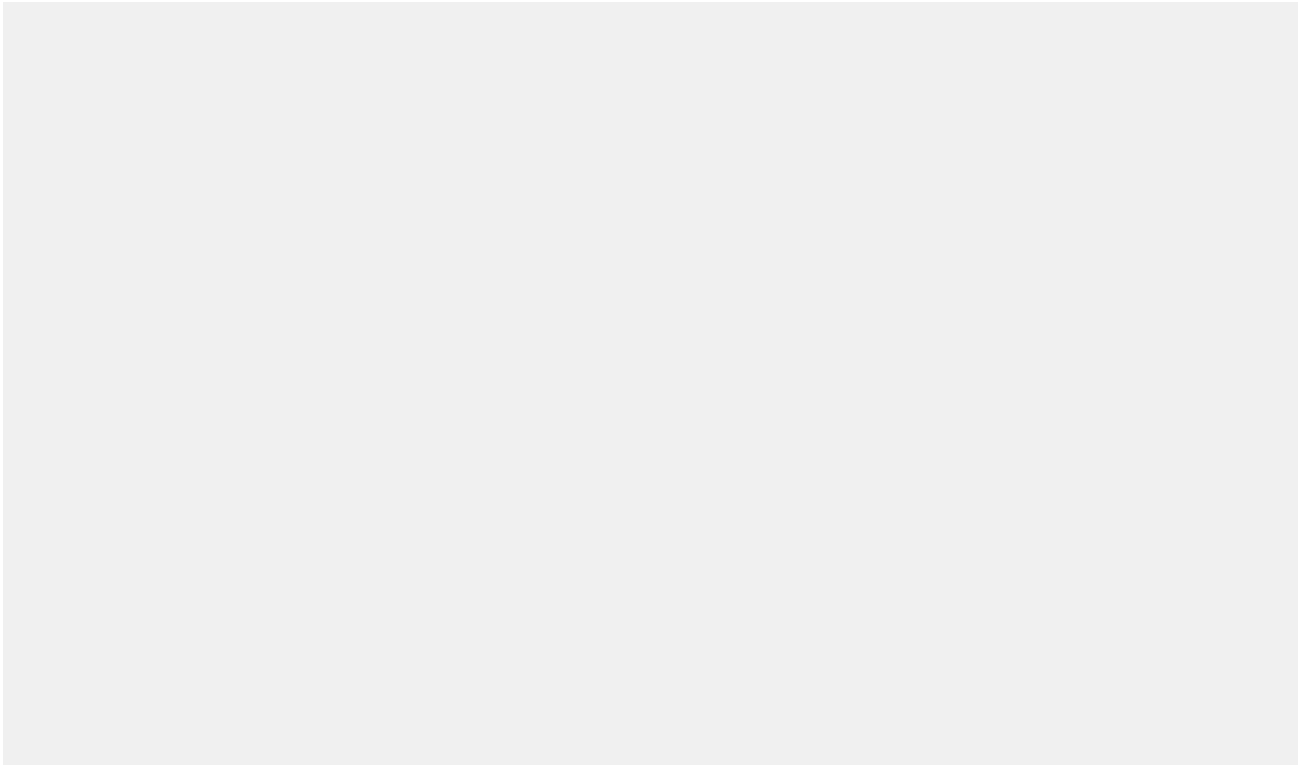
項目	データ型	説明
	FilterOperation (string 型の 列挙)	この検索条件項目の絞り込み操作を表します。有効な値は、 FilterOperation に列挙されています。
	string	操作される検索条件項目の値を表します。たとえば、検索条件が である場合、 の値は です。

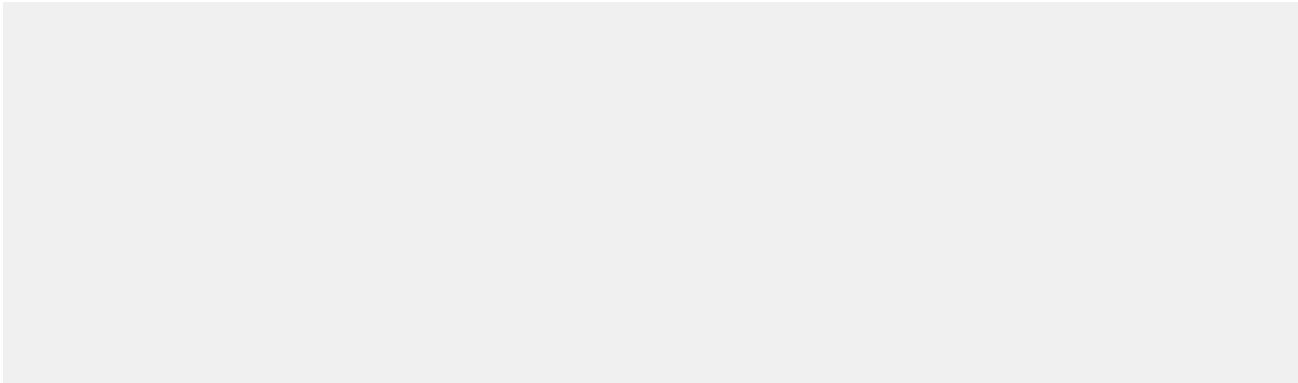
FilterOperation

これは、さまざまな絞り込み操作をリストする string 型の列挙です。有効な値は、次のとおりです。

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

宣言的なメタデータの定義のサンプル





関連リンク

- [CustomObject](#)
- [Picklist \(連動選択リストを含む\)](#)
- [Metadata](#)
- [CustomField](#)

Picklist (連動選択リストを含む)

カスタムオブジェクトのカスタム項目、または取引先などの標準オブジェクトのカスタム項目または標準項目の選択リスト (または連動選択リスト) の定義を表します。

バージョン

カスタムオブジェクトのカスタム項目の選択リストは、APIバージョン 12.0以降で使用できます。取引先などの標準オブジェクトのカスタム項目または標準項目の選択リストは、APIバージョン 16.0以降で使用できます。APIバージョン 27.0以降では、カスタム項目のリリースに必要な場合は、選択リストの値が削除されます。


宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

選択リストの定義は、カスタムオブジェクトと選択リストの定義が関連付けられた項目に含まれます。

項目

選択リストには次の項目が含まれます。

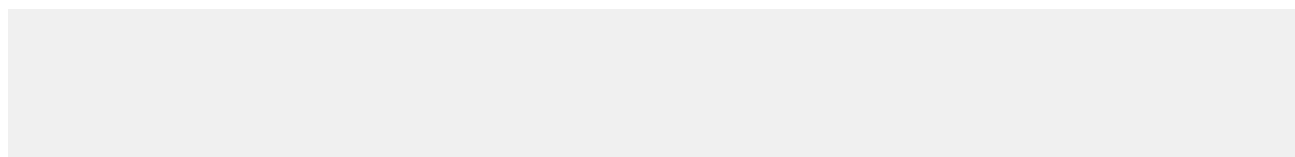
項目名	データ型	説明
	string	これが連動選択リストである場合、制御項目の。連動選択リストは、制御選択リストまたはチェックボックスと連動して動作し、使用可能なオプションに検索条件を適用します。制御項目で選択した値は、連動項目に使用できる値に影響します。この項目は API バージョン 14.0 以降で使用できます。

項目名	データ型	説明
		リード状況 にのみ関連します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「取引の開始」を参照してください。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用できます。
	boolean	<p>この値がセルフサービスポータルで使用可能か ()、否か () を示します。この項目はケースの標準項目の 原因 にのみ関連します。</p> <p>セルフサービスは、顧客にオンラインサポートチャネルを提供します。これにより、顧客は、カスタマサービス担当者に連絡しなくても各自の疑問を解消できます。セルフサービスについての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「セルフサービスの設定」を参照してください。</p> <p> メモ: Spring '12 リリースから、新しい組織ではセルフサービスポータルを利用できなくなります。既存の組織は、引き続きセルフサービスポータルを使用できます。</p> <p>この項目は API バージョン 16.0 以降で使用できます。</p>
	boolean	必須。この値が指定されている選択リストのデフォルトの選択リスト値であるか ()、否か () を示します。
	string	カスタム選択リスト値の説明。この項目は商談の標準項目の にのみ関連します。カスタマイズされている選択リスト値に関する説明を記載すると、これを作成した理由の履歴を追跡できるので便利です。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用できます。
	ForecastCategories (string 型の 列挙)	<p>この値が売上予測分類に関連付けられるか ()、否か () を示します。この項目は商談の標準項目の にのみ関連します。以下に示した有効な文字列値を含む、売上予測分類についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「売上予測分類の使用」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Omitted • Pipeline • BestCase • Forecast • Closed <p>この項目は API バージョン 16.0 以降で使用できます。</p>
	string	<p>API アクセスの一意の識別子として使用される名前。</p> <p>には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてア</p>

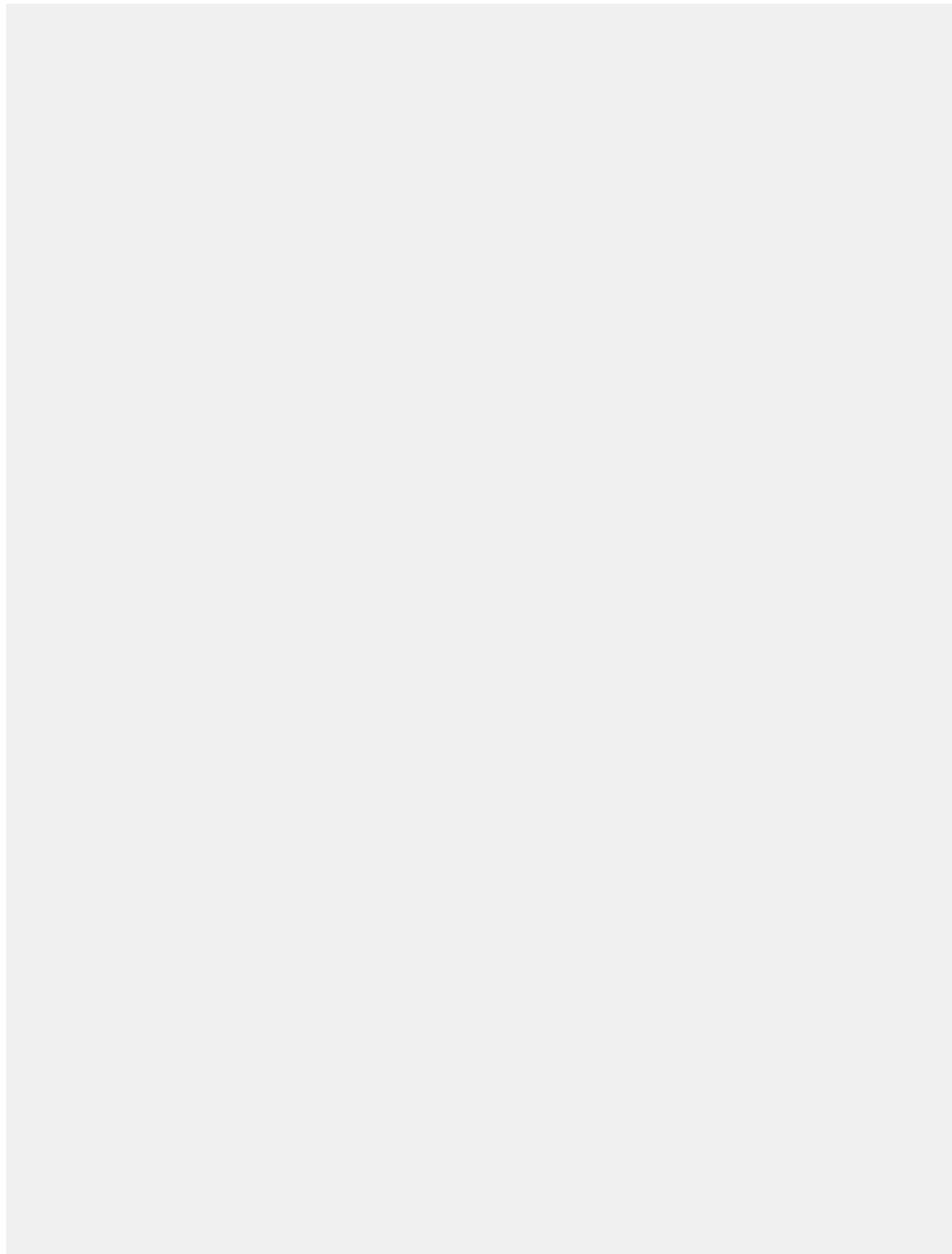
項目名	データ型	説明
		ンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	boolean	この値が優先度が高い項目であるか()、否か()を示します。この項目は ToDo の標準項目の にのみ関連します。ToDo についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「ToDoの作成」を参照してください。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用できます。
	int	この値が確度割合であるか()、否か()を示します。この項目は商談の標準項目の にのみ関連します。商談についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「商談の概要」を参照してください。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用できます。
	string	<p>パートナーの相手側から見たロールの名前に対応する選択リスト値。ロールが「下請け」の場合、相手側から見たロールは「元請け」となります。Salesforce でパートナーロールを取引先に割り当てると、相手側から見たパートナーとの関係が作成され、両方の取引先で他方をパートナーとして表示できます。この項目は、パートナーロールにのみ関連します。</p> <p>詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「パートナーの項目」を参照してください。</p> <p>この項目は API バージョン 18.0 以降で使用できます。</p>
	boolean	この値がレビュー済み状況に関連付けられるか()、否か()を示します。この項目はソリューションの標準項目の にのみ関連します。商談についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「ソリューションの作成」を参照してください。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用できます。
	boolean	この値が完了または成立の状況に関連付けられるか()、否か()を示します。この項目は商談の標準項目の にのみ関連します。この項目は API バージョン 16.0 以降で使用できます。

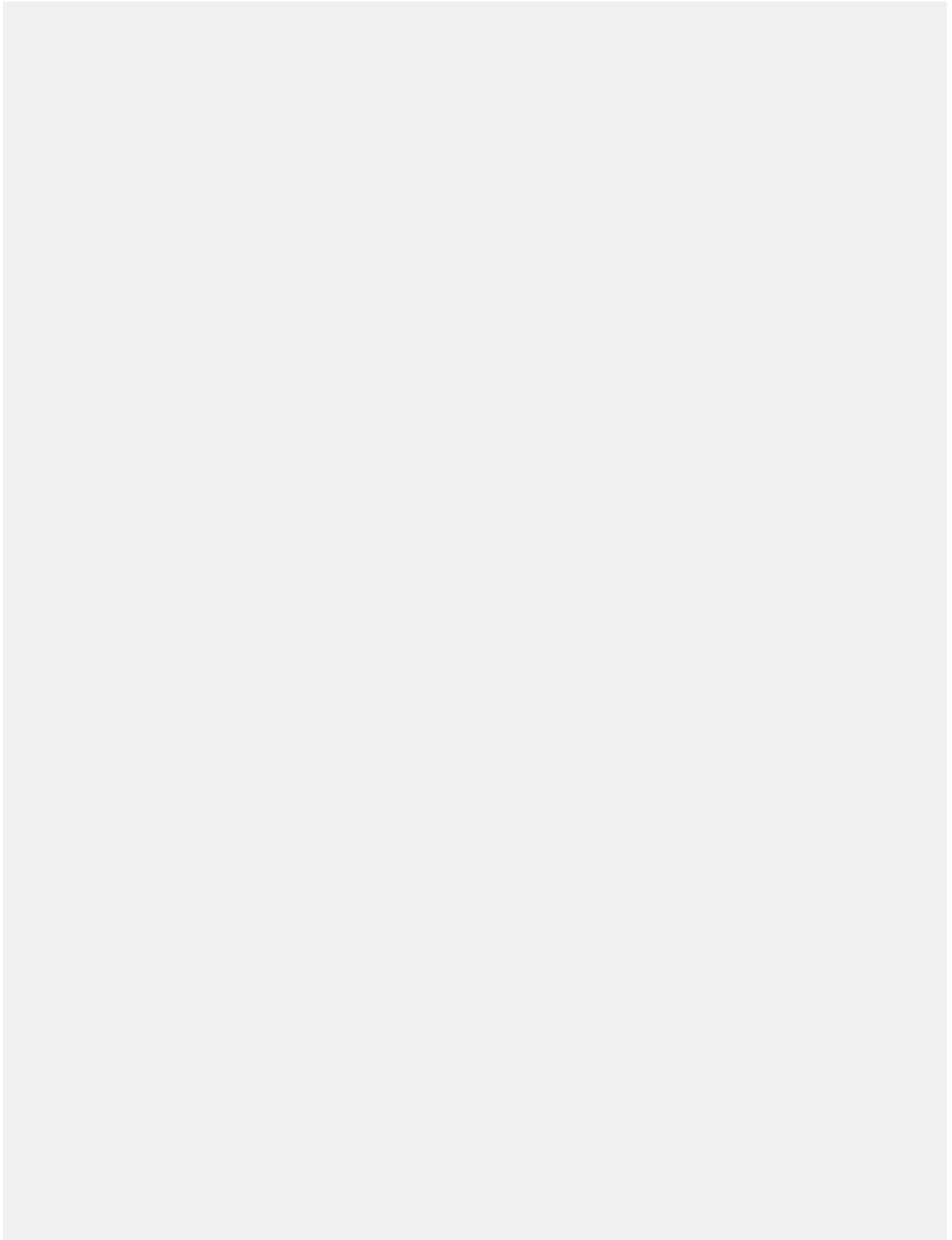
Java のサンプル

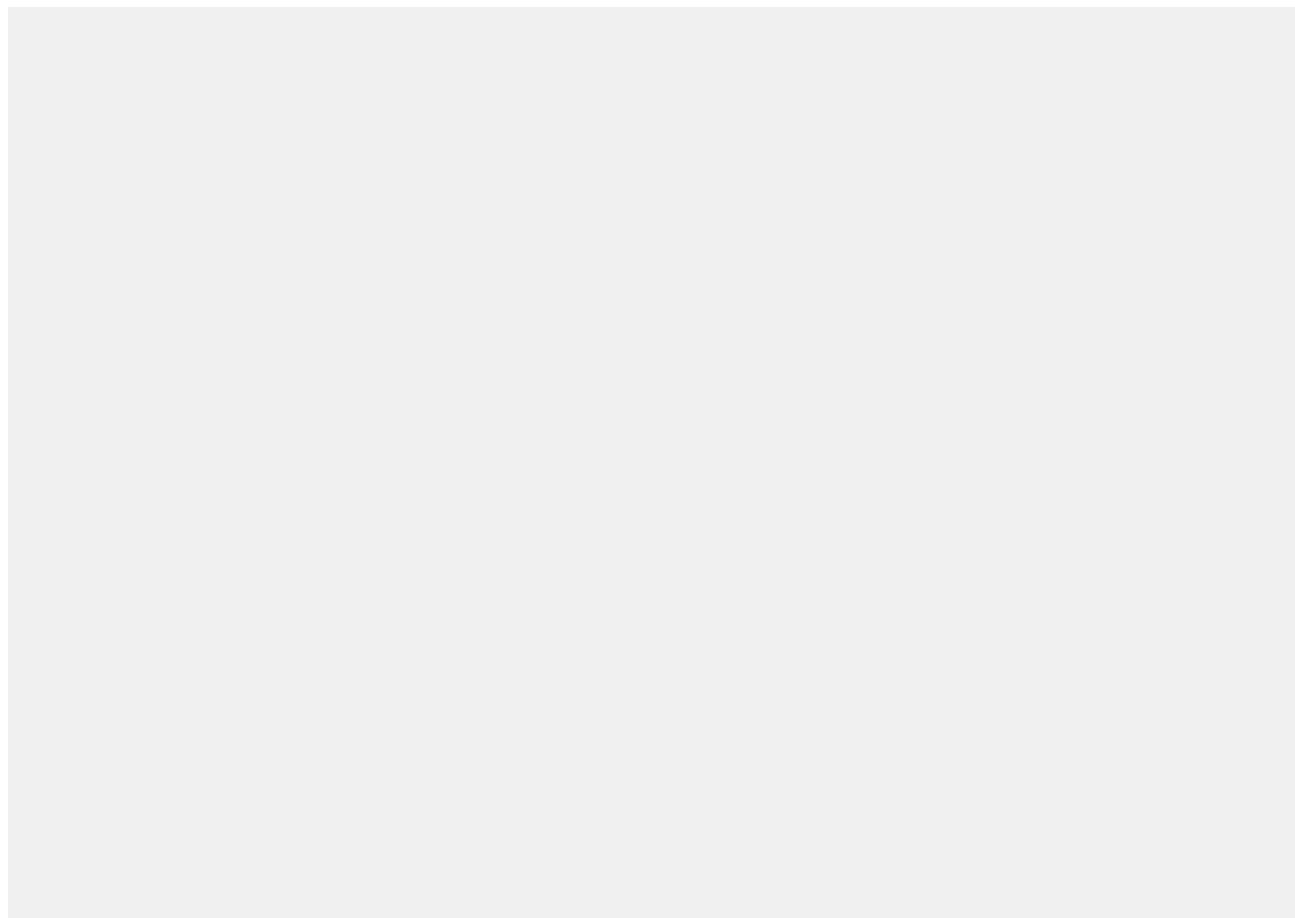
次のサンプルでは選択リストを使用します。レコードタイプおよびプロファイルを含む選択リストを使用する完全なサンプルについては、「[Profile](#)」(ページ 352)を参照してください。



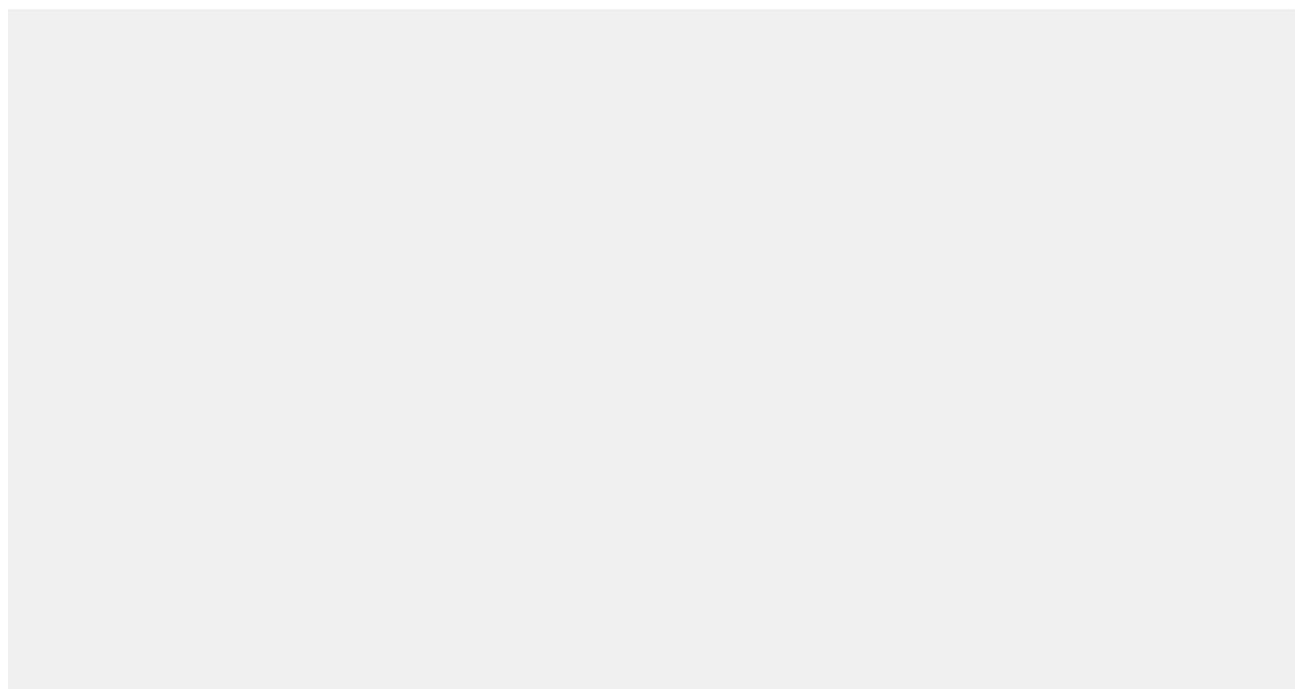
チェックボックスでは 選択リストに表示されるメーカーのリストを制御します。また、
チェックボックスでは 選択リストに表示されるモデルのリストを制御します。

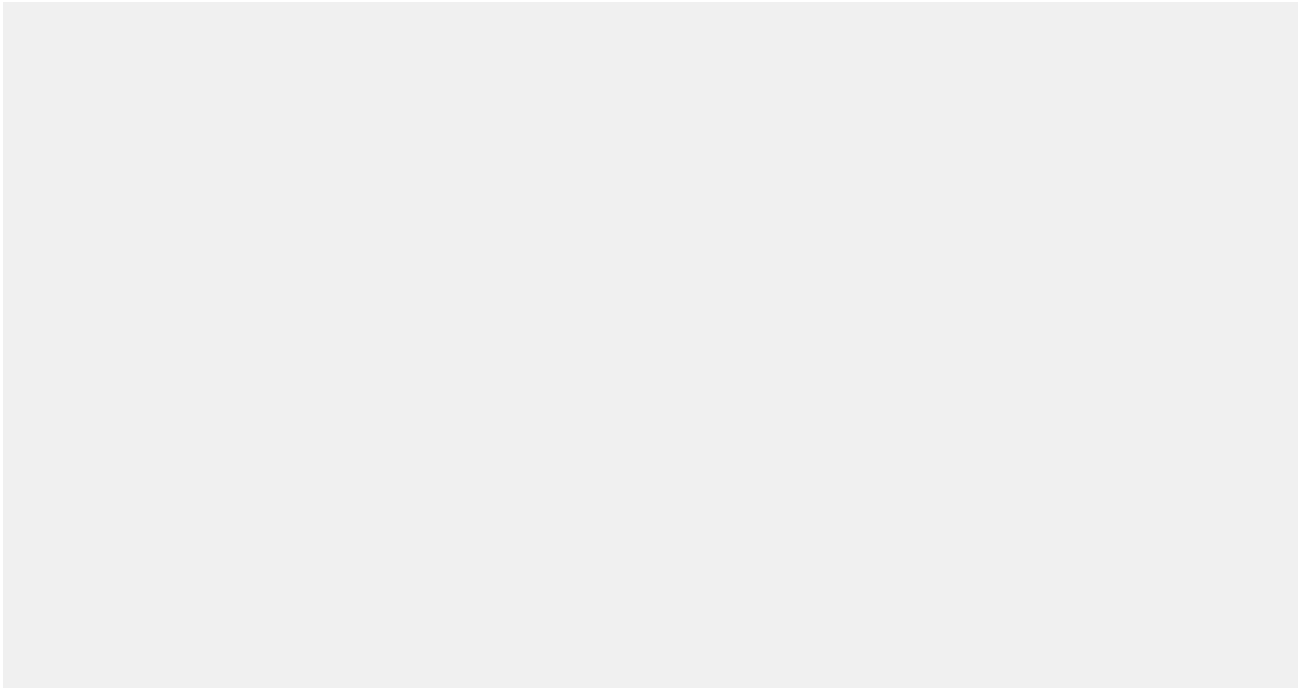







次のサンプルでは、商談の標準項目の の使用例を示します。





RecordType

レコードタイプに関連付けられたメタデータを表します。レコードタイプを使用すると、異なるビジネスプロセス、選択リストの値、およびページレイアウトを、さまざまなユーザに提供できます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「レコードタイプの概要」を参照してください。このメタデータ型は、カスタムオブジェクトのレコードタイプの定義を作成、更新または削除するために使用します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

 **メモ:** プロジェクトでこのメタデータ型のコンポーネントを取得すると、[Profile](#) コンポーネントにもこのコンポーネントが表示されるようになります。

バージョン

レコードタイプは API バージョン 12.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	boolean	必須。レコードタイプが有効かどうかを示します。
	string	このレコードタイプに関連付けられたビジネスプロセスの。リード、商談、ソリューション、およびケースのレコードタイプではこの項目は必須項目です。それ以外の場合は使用できませ

項目	データ型	説明
		<p>ん。「BusinessProcess」(ページ 174)を参照してください。</p> <p>この項目はAPIバージョン 17.0以降で使用できません。</p>
	string	レコードタイプの説明。最大 255 文字です。
	string	<p>レコードタイプの名前。には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目が、使用できなくなったバージョン 14.0 より前の文字を含んでいた場合は、それらの文字はこの項目から削除され、その項目の以前の値は項目に保存されていました。</p> <p>この項目はMetadata コンポーネントから継承するため、この項目はこのコンポーネントの WSDL で定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、を参照してください。</p> <p>この値はにできません。</p>
	string	<p>必須。レコードタイプの説明ラベル。</p> <p>項目で使える文字のリストは、バージョン 14.0 以降削減されています。この項目には、バージョン 14.0 以前の項目に含まれている値が含まれます。</p>
	RecordTypePicklistValue []	選択リストの値のセットを表します。

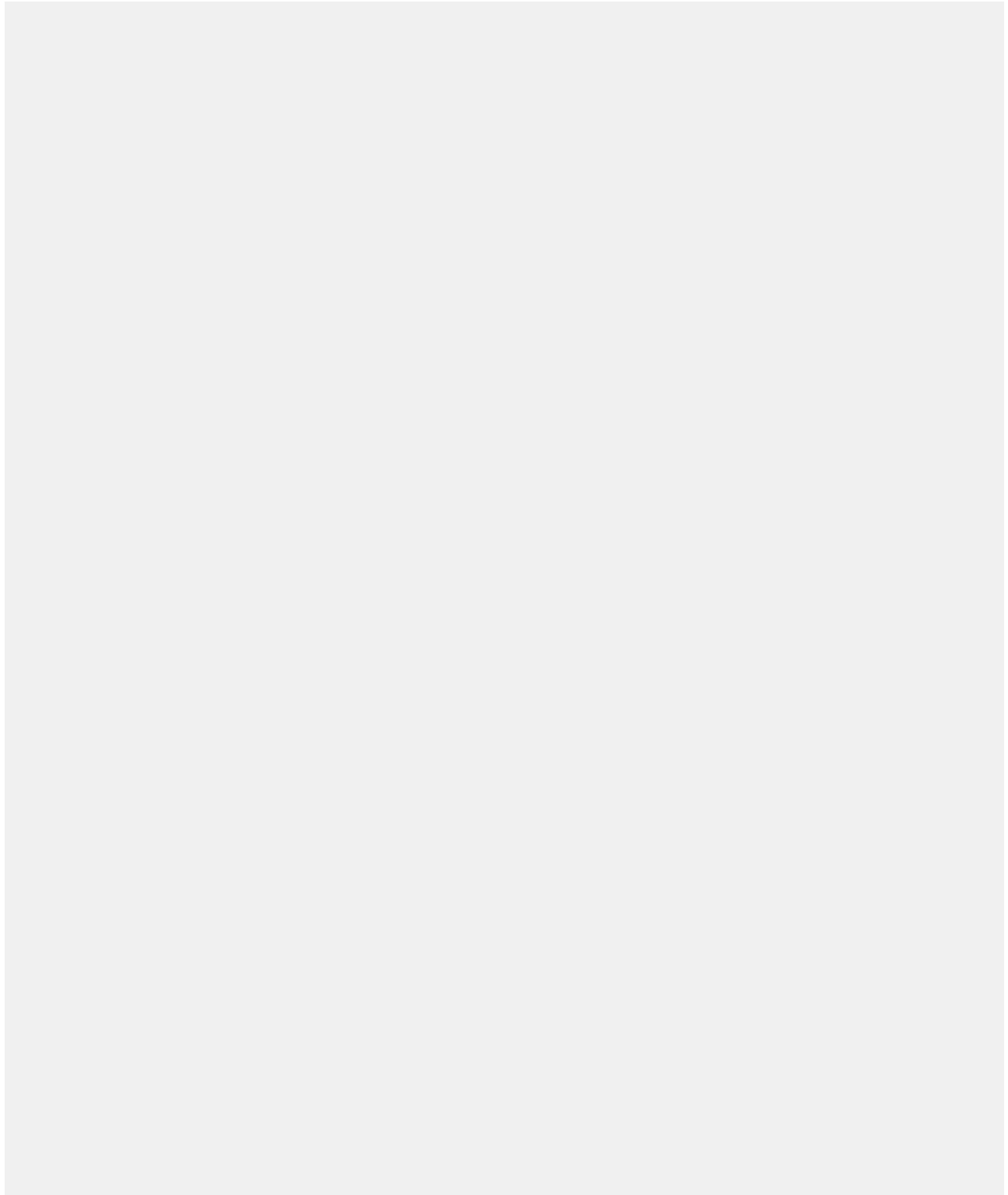
RecordTypePicklistValue

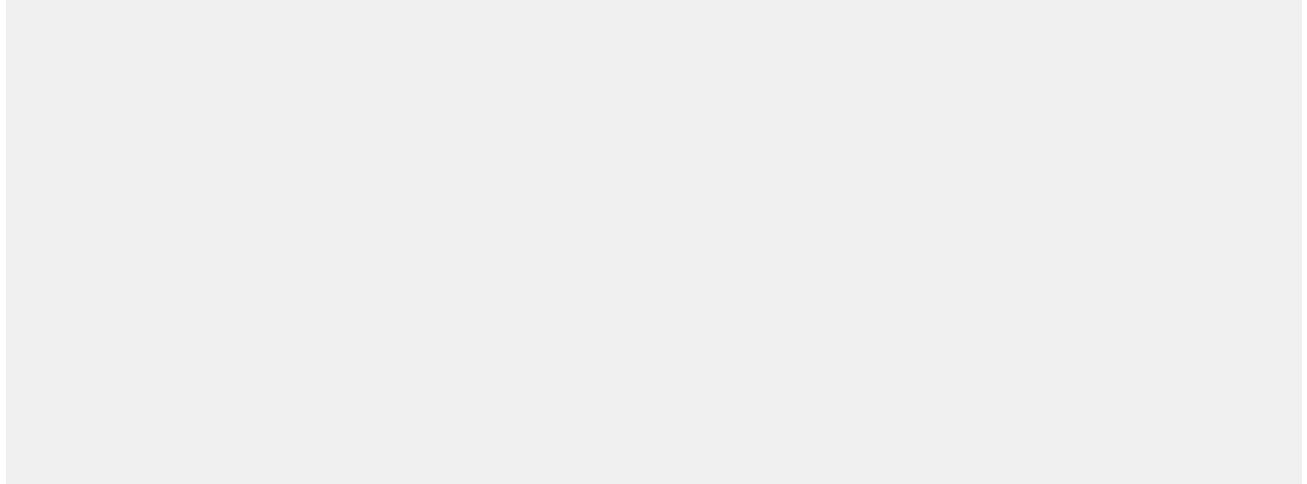
[RecordTypePicklistValue](#) は、レコードタイプを定義する選択リストおよび有効な値の組み合わせを表します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。選択リストの名前。
	PicklistValue	選択リストの 1 つ以上の選択リストの値。定義されている各値は、このコンポーネントを含むレコードタイプで使用できます。

Java のサンプル

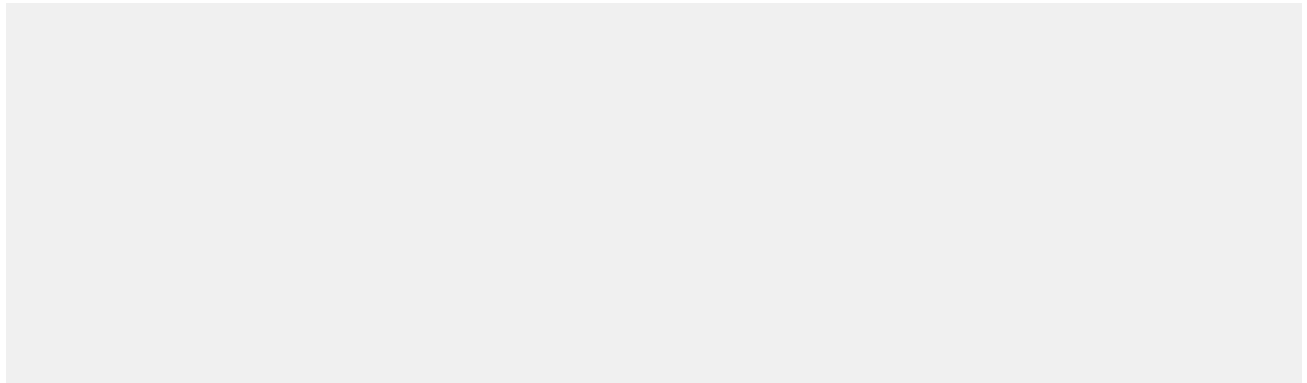
次のサンプルでは2つのレコードタイプを使用します。プロファイルおよび選択リストを含む完全なサンプルについては、「[Profile](#)」(ページ 352)を参照してください。





宣言的なメタデータの定義のサンプル

カスタムオブジェクトのレコードタイプの定義を以下に示します。



SearchLayouts

オブジェクトの検索レイアウトに関連付けられたメタデータを表します。検索結果、検索条件項目、ルックアップダイアログ、およびタブホームページの最近のレコードリストに表示される項目をカスタマイズできます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「検索レイアウトのカスタマイズ」および「カスタムオブジェクト用の検索レイアウトのカスタマイズ」を参照してください。

バージョン

カスタムオブジェクト用の検索レイアウトは、API バージョン 14.0 以降で使用できます。標準オブジェクト (行動と ToDo を除く) の検索レイアウトを変更する機能は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

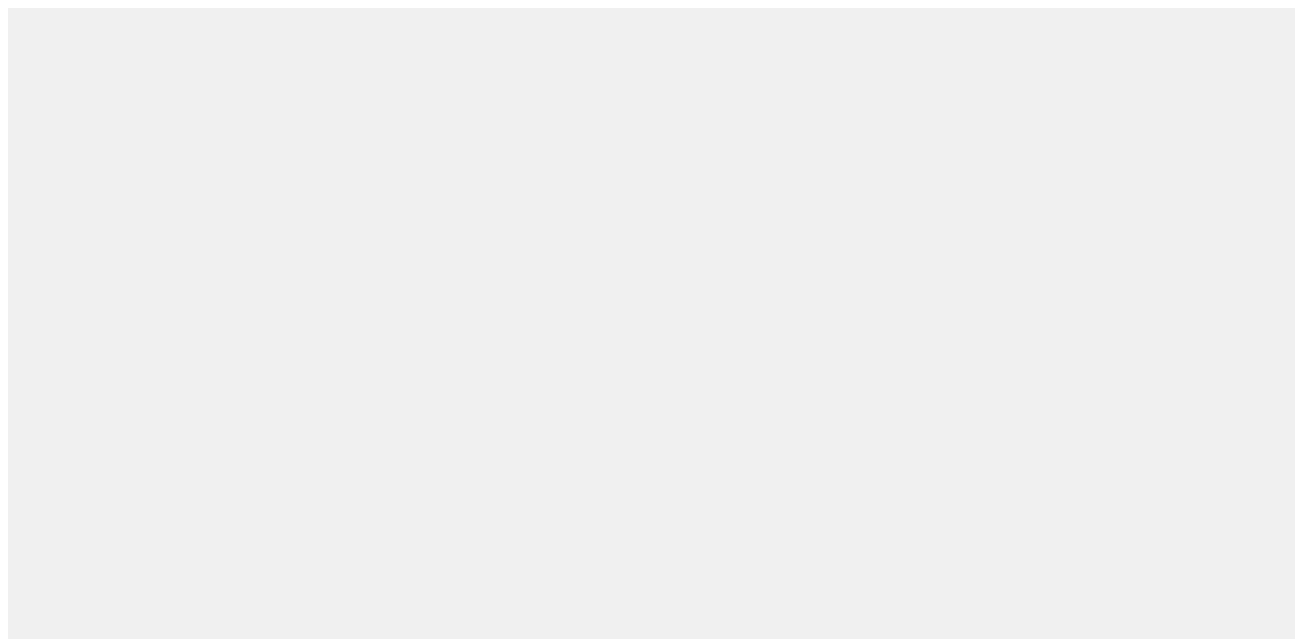
項目	データ型	説明
	string[]	オブジェクトに関連付けられたタブの、最近のオブジェクト名リストビューに表示される項目のリスト。項目は必須で、常に最初の列ヘッダーとして表示されるため、このリストに含まれません。その他のすべての項目は含まれます。各カスタム項目に <i>MyCustomField__c</i> などのオブジェクト名を基準にした項目名が指定されます。
	string[]	検索レイアウトから除外される標準ボタンのリスト。
	string[]	<p>オブジェクトのリストビューで利用できるボタンのリスト。</p> <p>この項目は、Salesforce ユーザインターフェースのオブジェクト詳細ページに表示される [検索レイアウト] 関連リストの オブジェクト名 リストビュー に含まれる [表示されるボタン] の値に相当します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「ルックアップダイアログ検索」を参照してください。</p>
	string[]	<p>オブジェクトのルックアップダイアログに表示される項目のリスト。項目は必須で、常に最初の列ヘッダーとして表示されるため、このリストに含まれません。その他のすべての項目は含まれます。各カスタム項目に <i>MyCustomField__c</i> などのオブジェクト名を基準にした項目名が指定されます。</p> <p>Salesforce オブジェクトには、多くの場合、リレーションで 2 つのレコードを互に関連付けるルックアップ項目が 1 つ以上含まれます。たとえば、取引先責任者レコードには、その取引先責任者とその取引先責任者が関連付けられた組織との間のリレーションを表す取引先ルックアップ項目があります。ルックアップ検索ダイアログを使用すると、編集中のレコードに関連付けられたレコードを検索しやすくなります。ルックアップ検索条件項目を使用すると、オブジェクト内のカスタマイズされた項目のリストによってルックアップ検索を絞り込むことができます。</p> <p>この項目は、アプリケーションユーザインターフェースのオブジェクト詳細ページに表示される [検索レイアウト] 関連リストの ルックアップダイ</p>

項目	データ型	説明
		アログ に相当します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「ルックアップダイアログ検索」を参照してください。
	string[]	<p>オブジェクトの拡張ルックアップの絞り込みに使用できる項目のリスト。拡張ルックアップは、必要に応じてシステム管理者が有効にできます。各カスタム項目に <i>MyCustomField__c</i> などのオブジェクト名を基準にした項目名が指定されます。</p> <p>この項目は、アプリケーションユーザインターフェースのオブジェクト詳細ページに表示される [検索レイアウト] 関連リストの ルックアップ検索条件項目 に相当します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「ルックアップダイアログ検索」を参照してください。</p>
	string[]	<p>オブジェクトのルックアップダイアログに表示される電話関連項目のリスト。項目は必須で、常に最初の列ヘッダーとして表示されるため、このリストに含まれません。その他のすべての項目は含まれます。各カスタム項目に <i>MyCustomField__c</i> などのオブジェクト名を基準にした項目名が指定されます。</p> <p>このリストにより、項目をソフトフォンダイアルパッドと統合できます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「CTI 1.0 および 2.0 ソフトフォンについて」を参照してください。</p> <p>この項目は、アプリケーションユーザインターフェースのオブジェクト詳細ページに表示される [検索レイアウト] 関連リストの ルックアップ電話ダイアログ に相当します。</p>
	string[]	<p>オブジェクトの検索の絞り込みに使用できる項目のリスト。各カスタム項目に <i>MyCustomField__c</i> などのオブジェクト名を基準にした項目名が指定されます。</p> <p>この項目は、アプリケーションユーザインターフェースのオブジェクト詳細ページに表示される [検索レイアウト] 関連リストの 検索条件項目 に相当します。</p>
	string[]	<p>オブジェクトの検索結果に表示される項目のリスト。項目は必須で、常に最初の列ヘッダーとして表示されるため、このリストに含まれません。</p>

項目	データ型	説明
		その他のすべての項目は含まれます。各カスタム項目に <i>MyCustomField__c</i> などのオブジェクト名を基準にした項目名が指定されます。 この項目は、アプリケーションユーザインターフェースのオブジェクト詳細ページに表示される [検索レイアウト] 関連リストの 検索結果 に相当します。
	string[]	オブジェクトの検索結果で利用できるカスタムボタンのリスト。ボタンに関連付けられたアクションは、検索結果で返される任意のレコードに適用できます。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

オブジェクトの検索レイアウトの定義のサンプルを以下に示します。



関連リンク

[CustomObject](#)

SharingReason

カスタムオブジェクトに共有が実装された理由を示すために使用される Apex の共有の理由を表します。Apex による共有管理により、開発者は Apex を使用して、プログラムでカスタムオブジェクトを共有できます。Apex に

よる共有管理を使用してカスタムオブジェクトを共有した場合は、「すべてのデータの編集」権限を持つユーザーのみが、カスタムオブジェクトのレコードの共有を追加または変更できます。共有アクセス権は、レコード所有者が変わっても維持されます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「共有設定の概要」を参照してください。

SharingReason を使用して、カスタムオブジェクトの共有の理由定義を作成、更新、または削除できます。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

バージョン

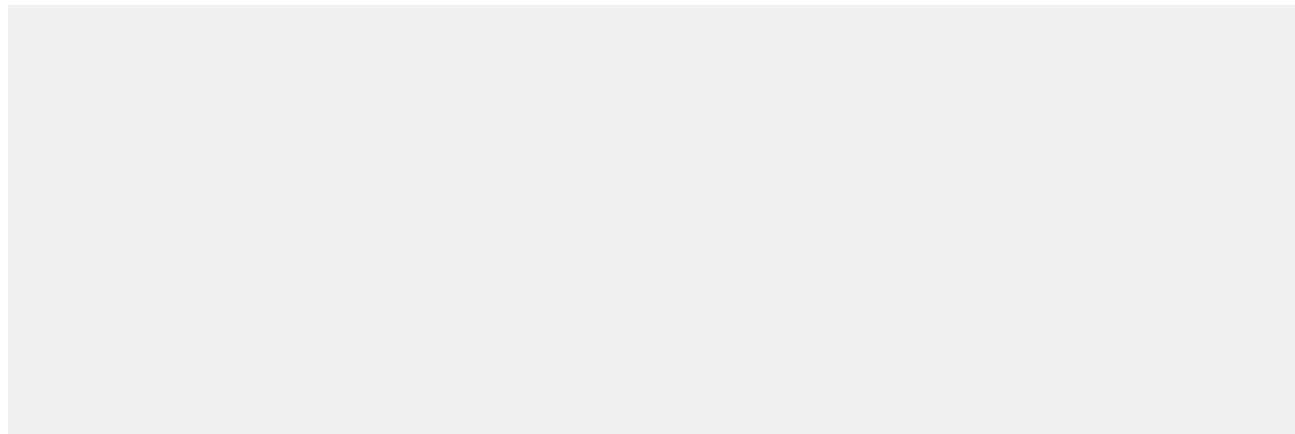
共有の理由は、API バージョン 14.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	string	必須。共有の理由の名前。__c サフィックスが、カスタム共有の理由に追加されます。 Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 共有理由の例 を参照してください。
	string	必須。共有の理由を説明する表示ラベル。最大 40 文字です。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

カスタムオブジェクトの共有の理由の定義を次に示します。



SharingRecalculation

特定のカスタムオブジェクトの Apex による共有管理を再適用する Apex クラスを表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Apex による共有管理の再適用」を参照してください。

バージョン

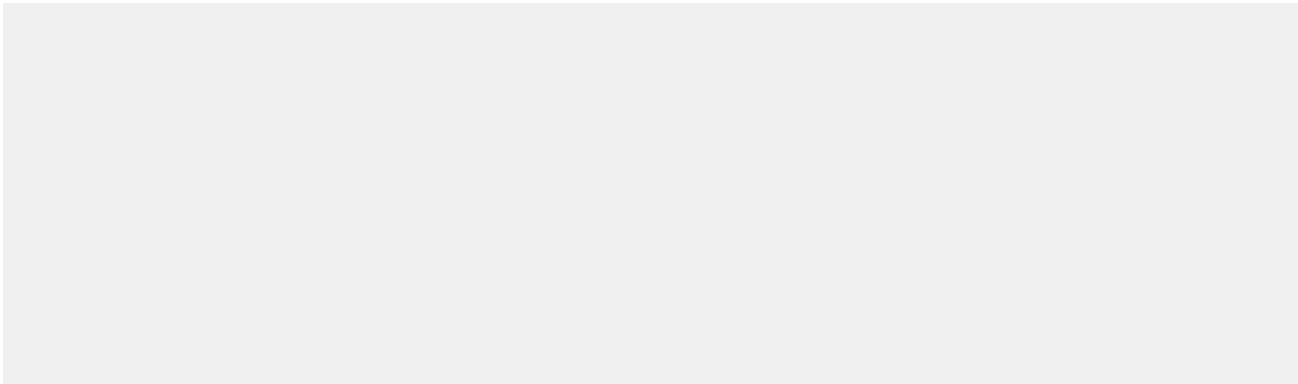
共有の再適用は、API バージョン 14.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	string	必須。カスタムオブジェクトの Apex 共有を再適用する Apex クラス。このクラスは、インターフェースを実装している必要があります。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

カスタムオブジェクトでの共有の再適用の定義を次に示します。



ValidationRule

入力規則を表します。入力規則は、ユーザがレコードに入力したデータが有効で保存可能かどうかを確認するために使用されます。入力規則には、1 つ以上の項目のデータを評価する数式が含まれ、または の値を返します。入力規則には、無効なデータによりルールが の値を返すときに、クライアントアプリケーションがユーザに表示できるエラーメッセージも含まれます。Metadata メタデータ型を拡張し、その 項目を継承します。

APIバージョン 20.0 の時点で、入力規則には複合項目を設定できません。複合項目の例には、住所、姓名、連動選択リスト、連動ルックアップがあります。

バージョン

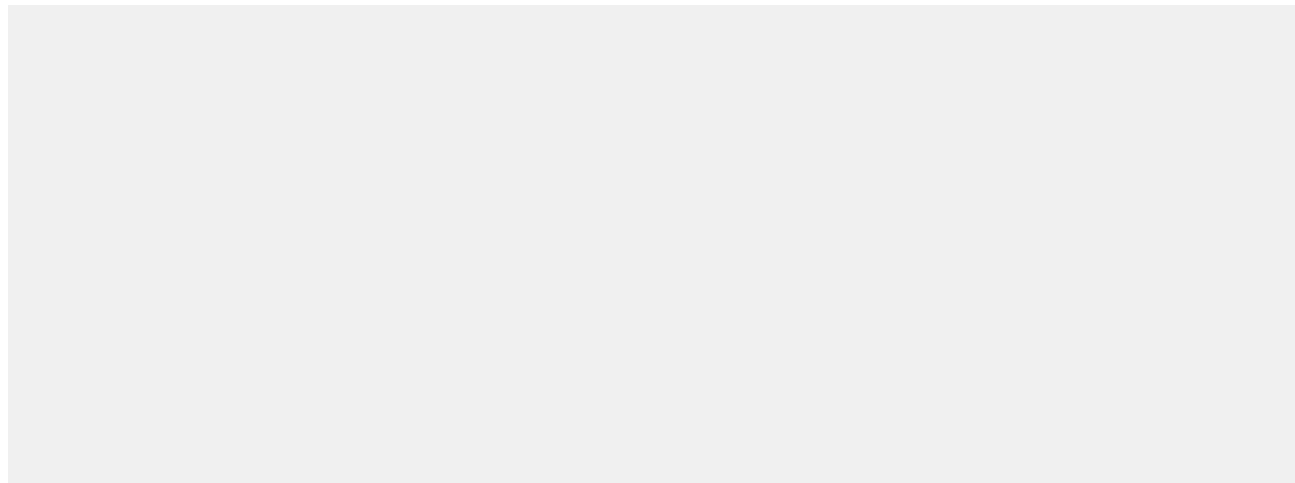
入力規則は、API バージョン 12.0 以降で使用できます。

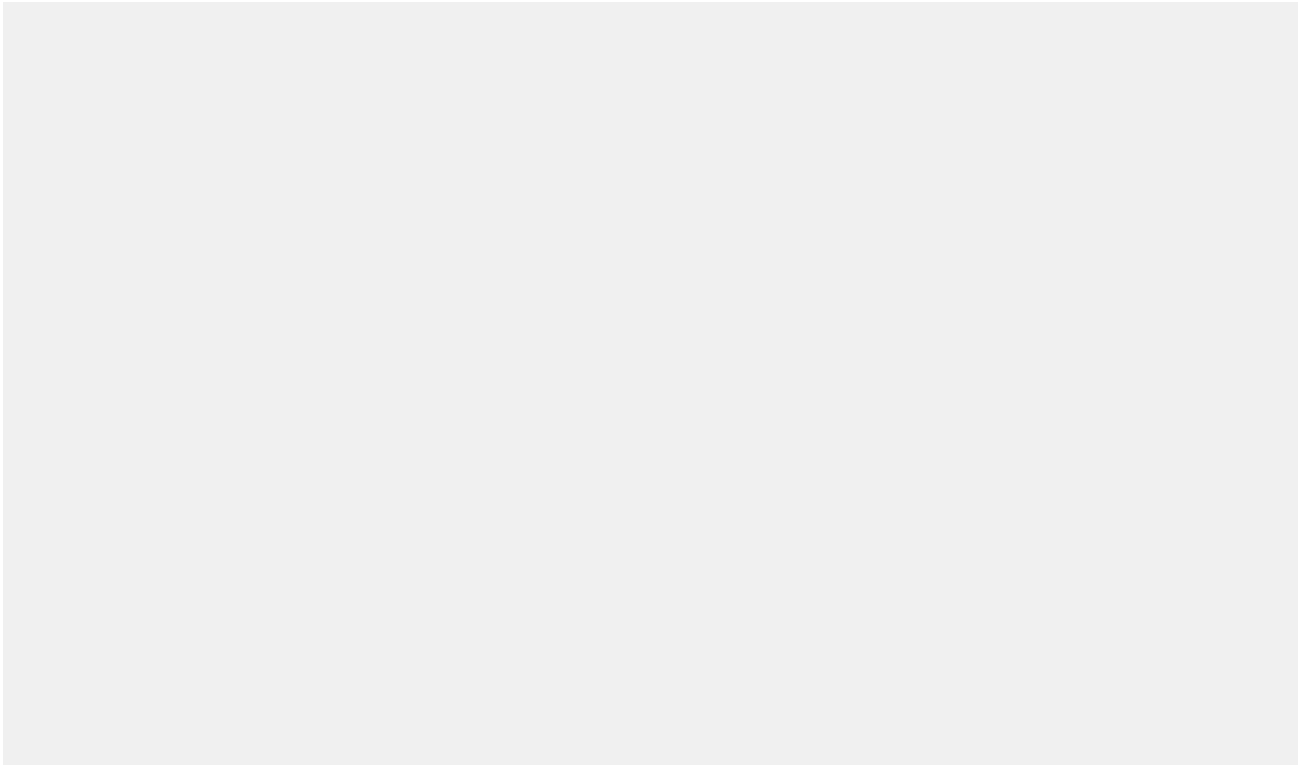
項目

項目名	データ型	説明
	boolean	必須。この入力規則が有効であるか()、否か()を示します。
	string	入力規則の説明。
	string	必須。入力規則数式ページに記載された入力規則数式。Salesforce オンラインヘルプの「入力規則の定義」を参照してください。
	string	アプリケーション内の項目の完全に指定された名前。この項目に値を入力すると、 の値が指定した項目の横に表示されます。値を指定しない場合、ページ上部にエラーメッセージが表示されます。
	string	必須。入力規則が失敗した場合に表示されるメッセージ。メッセージは 255 文字以下にする必要があります。
	string	<p>有効性のために空白と特殊文字がエスケープされた、入力規則の内部名。名前には、英数字、およびアンダースコア (_) 文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した2つのアンダースコア文字を含めたりすることはできません。</p> <p>この項目は Metadata コンポーネントから継承するため、この項目はこのコンポーネントの WSDL で定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 を参照してください。</p>

宣言的なメタデータの定義のサンプル

カスタムオブジェクトの入力規則の XML 定義のサンプルを以下に示します。





Weblink

カスタムオブジェクトに定義された Web リンクを表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

バージョン

Web リンクは、API バージョン 12.0 以降で使用できます。

項目

Web リンクの定義には次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	WebLinkAvailability (string 型の 列挙)	必須。Web リンクをオンラインでのみ使用できるか ()、オフラインでも使用できるか ()を示します。
	string	Web リンクの説明。
	WebLinkDisplayType (string 型の 列挙)	この Web リンクの表示方法を表します。 有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">ハイパーリンクの 。ボタンの 。

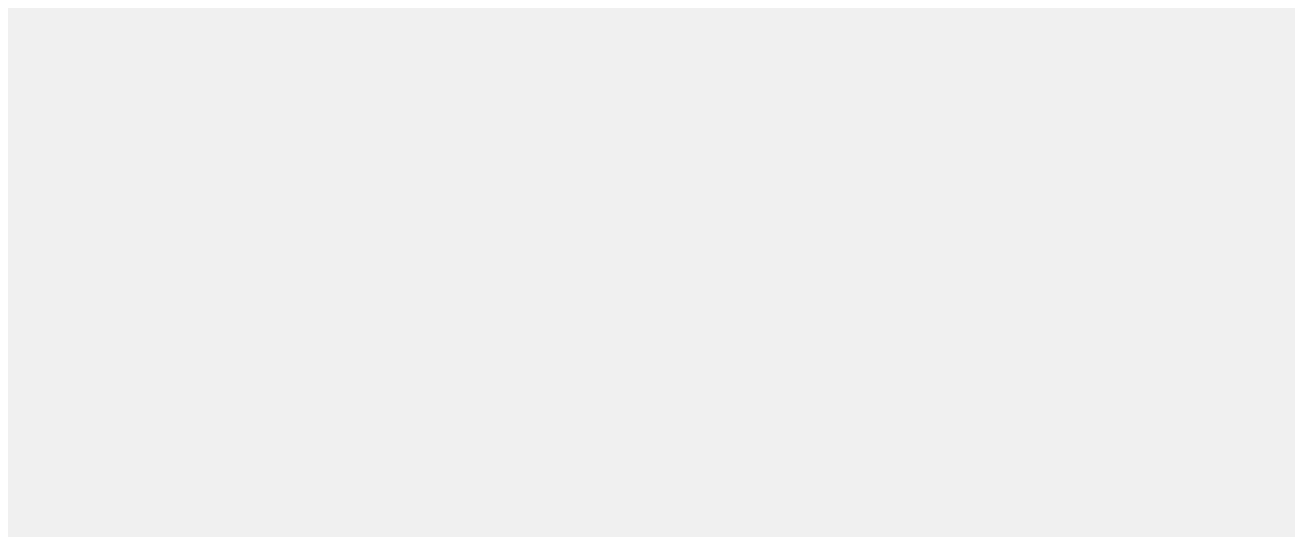
項目名	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> 関連リストに添付されるボタンの。
	Encoding (string 型の 列挙)	<p>必須。デフォルトの文字コード設定はUnicode()です。リンクの対象が異なる形式のデータを必要とする場合は、デフォルトの文字コード設定を変更します。この指定は、内容のソースがURL の場合に使用できます。</p> <p>使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> : UI の「Unicode (UTF-8)」 : UI の「米国一般および西ヨーロッパ (ISO-8859-1, ISO-LATIN-1)」 : UI の「日本語 (Shift-JIS)」 : UI の「日本語 (JIS)」 : UI の「日本語 (EUC)」 : UI の韓国語 (ks_c_5601-1987)」 : UI の「繁体字中国語 (Big5)」 : UI の「簡体字中国語 (GB2312)」 : UI の「繁体字中国語 香港(Big5-HKSCS)」 : UI の「日本語 (Shift-JIS_2004)」
	string	<p>有効性のために空白と特殊文字がエスケープされた Web リンクの名前。名前には、英数字、およびアンダースコア () 文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した2つのアンダースコア文字を含めたりすることはできません。</p> <p>この項目はMetadata コンポーネントから継承するため、この項目はこのコンポーネントの WSDL で定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、こちらを参照してください。</p>
	boolean	<p>が である場合、ウィンドウにブラウザメニューを表示するか()、否か()を示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。</p>
	boolean	<p>が である場合、ウィンドウにスクロールバーを表示するか()、否か()を示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。</p>
	boolean	<p>が である場合、ウィンドウにブラウザツールバーを表示するか()、否か()を示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。</p>
	int	<p>Web リンクによって開かれたウィンドウの高さ(ピクセル単位)。 が である場合は必須です。そうでない場合は、指定できません。</p>

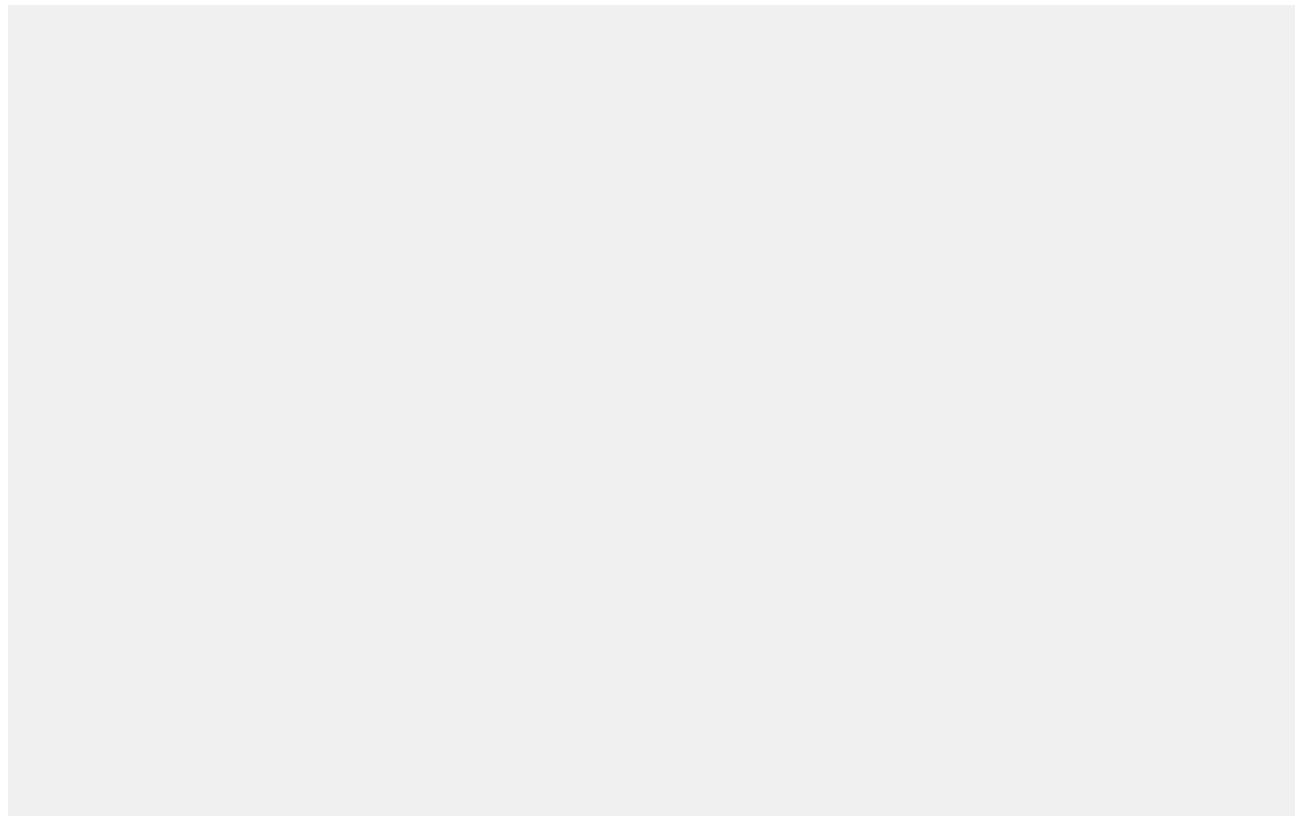
項目名	データ型	説明
	boolean	が である場合、ウィンドウのサイズを変更できるか(), 否か()を示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。
	WebLinkType (string 型の 列挙)	<p>必須。この Web リンクのコンテンツが URL、Sコントロール、JavaScript コードブロック、または Visualforce ページによって指定されているかどうかを表します。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • • • • — 今後の使用のための予約。
	string	Web リンクのマスタラベル。
	WebLinkWindowType (string 型の 列挙)	<p>必須。このボタンがクリックされたときのコンテンツの表示に使用されるウィンドウのスタイルを指定します。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • • • •
	string	の値が である場合、この項目は Visualforce ページを表します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。
	WebLinkPosition (string 型の 列挙)	<p>が である場合、新規ウィンドウの表示方法を示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • •
	boolean	必須。この下位コンポーネントが保護されるか(), 否か()を示します。保護される下位コンポーネントは、インストールする組織で作成されたコンポーネントまたは下位コンポーネントによってリンク設定したり参照したりすることはできません。
	boolean	が である場合、このボタンのアクションを実行するために個々の行を選択する必要があるか

項目名	データ型	説明
		(), 否か()を示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。
	string	の値が である場合、この項目はSコントロールの名前を表します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。
	boolean	が である場合、ウィンドウにブラウザのロケーションバーを表示するか否かを示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。
	boolean	が である場合、ウィンドウにブラウザのステータスバーを表示するか否かを示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。
	string	<p>が である場合、これはURL 値です。</p> <p>の値が である場合、これは JavaScript コンテンツです。値がこのいずれでもない場合、この項目は指定しないでください。</p> <p>コンテンツは、XML 解析ルールと同じ方法でエスケープする必要があります。</p>
	int	<p>Web リンクによって開かれたウィンドウの幅 (ピクセル単位)。</p> <p>が である場合は必須です。そうでない場合は、指定できません。</p>

Java のサンプル

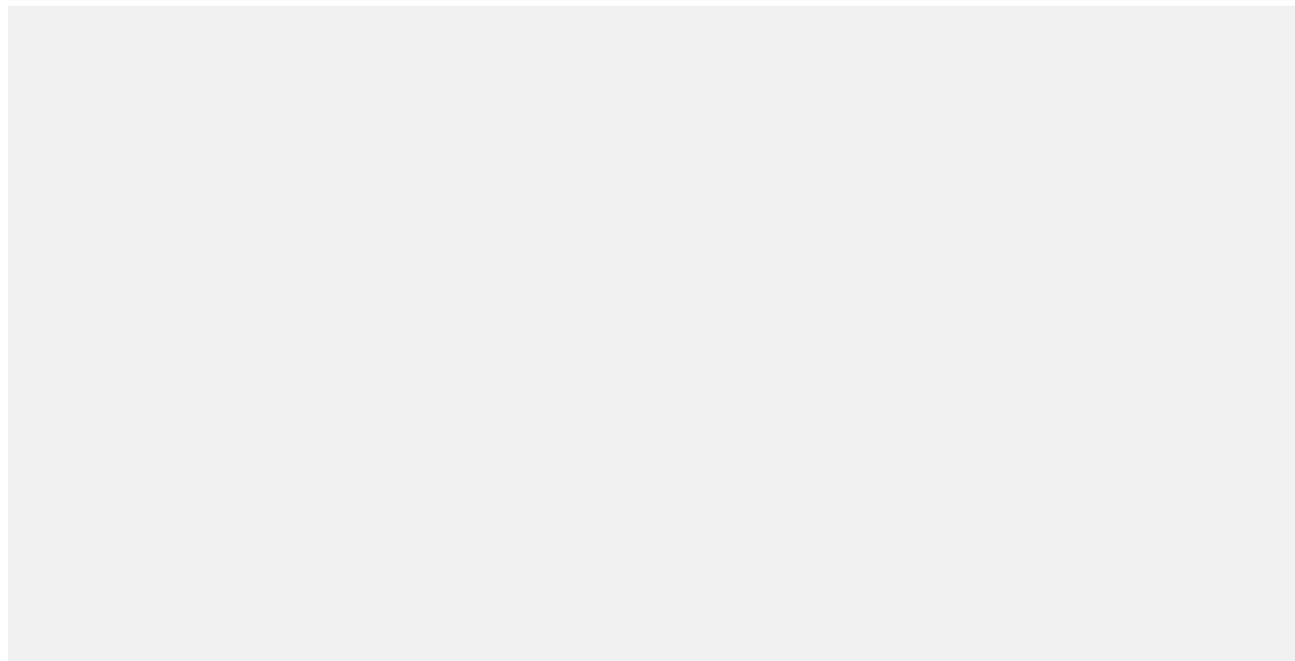
次の Java のサンプルは、Web リンクの項目のサンプル値を示します。

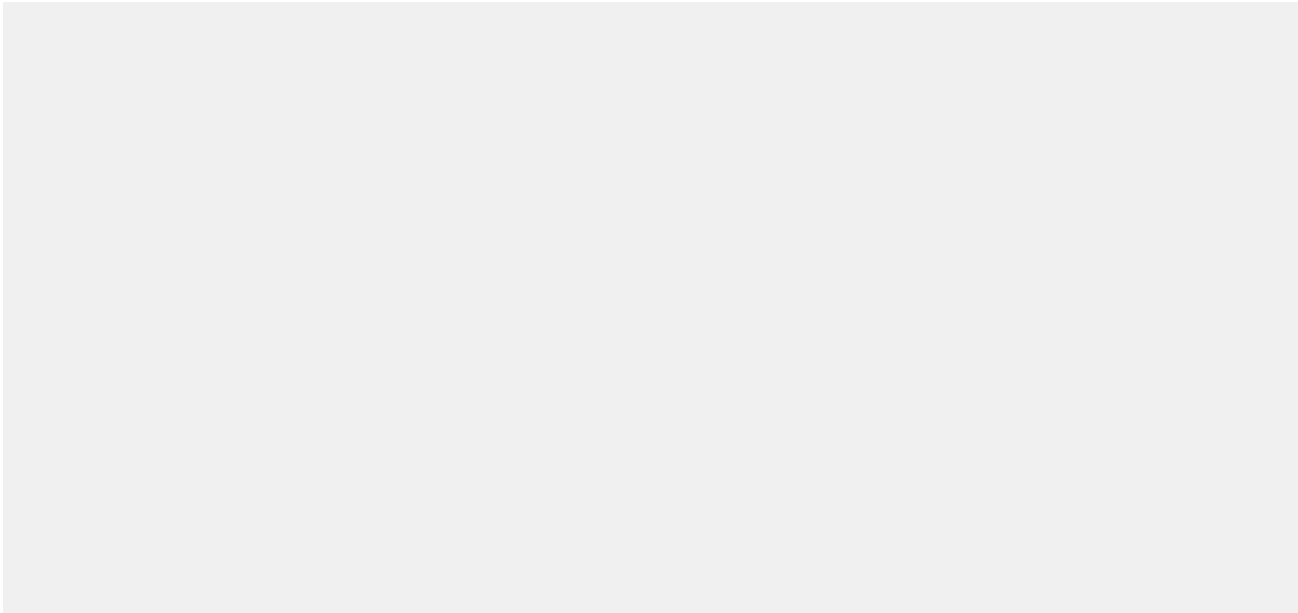




宣言的なメタデータの定義のサンプル

カスタムオブジェクト内の Web リンクの定義を次に示します。関連するサンプルについては、「HomePageComponent」「[宣言的なメタデータの定義のサンプル](#)」および「HomePageLayout」の「[宣言的なメタデータの定義のサンプル](#)」を参照してください。





関連リンク

- [HomePageComponent](#)
- [HomePageLayout](#)
- [CustomPageWebLink](#)

メタデータのデータ型

これらのデータ型は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』で説明されているデータ型を拡張します。

データ型	オブジェクト	項目に含まれる内容
CustomField	カスタムオブジェクト カスタム項目	カスタム項目を表します。
DeleteConstraint	カスタム項目	参照関係の削除オプションを表す文字列。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">・・・
DeploymentStatus	カスタムオブジェクト カスタム項目	カスタムオブジェクトまたはカスタム項目のリリース状況を表す文字列。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">・・

[illegible]

データ型	オブジェクト	項目に含まれる内容
SharingModel	カスタムオブジェクト カスタム項目	カスタムオブジェクトまたはカスタム項目の共有モデルを表します。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・ ・
StartsWith	カスタムオブジェクト カスタム項目	名前が母音、子音、または特殊文字で開始されているかを示します。これは、語の最初の文字に基づいて、異なる処理が必要となる言語に使用されます。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・ ・
TreatBlanksAs	カスタム項目	空白の処理方法を示します。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・

CustomObjectTranslation

このメタデータ型を使用して、カスタムオブジェクトをさまざまな言語に翻訳できます。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。コンポーネントの表示ラベルを翻訳する機能は、トランスレーションワークベンチの一部です。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「トランスレーションワークベンチの設定」を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

翻訳は、`customObjectName__c lang` という形式のファイルに保存されます。
`customObjectName__c` は、カスタムオブジェクト名で、`lang` は翻訳言語です。ドイツ語の翻訳のサンプルファイル名は、`customObjectName__c de` です。

カスタムオブジェクトの翻訳は、対応するパッケージディレクトリの `Translations` フォルダに保存されます。

バージョン

CustomObjectTranslation コンポーネントは、API バージョン 14.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	ObjectNameCaseValue[]	定冠詞と不定冠詞が含まれるカスタムオブジェクト、および単数形と複数形のカスタムオブジェクトのさまざまな組み合わせ。
	CustomFieldTranslation[]	カスタムオブジェクトに関連付けられたカスタム項目の翻訳のリスト。
	string	<i>customObjectName-lang</i> という形式のカスタムオブジェクトの名前と翻訳言語。 <i>customObjectName</i> はカスタムオブジェクト名で、 <i>lang</i> は翻訳言語です。 Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 こちら を参照してください。
	Gender	名詞の性別を示す言語の翻訳をサポートするための名前の性別。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・ ・
	LayoutTranslation[]	ページレイアウトの翻訳のリスト。
	string	名前項目の表示ラベル。最大 765 文字です。
	NamedFilterTranslation[]	カスタムオブジェクトに関連付けられたルックアップ検索条件のエラーメッセージの翻訳のリスト。
	RecordTypeTranslation[]	レコードタイプの翻訳のリスト。
	SharingReasonTranslation[]	共有の理由の翻訳のリスト。
	StartsWith (string 型の 列挙)	名前が母音、子音、または特殊文字で開始されているかを示します。これは、語の最初の文字に基づいて、異なる処理が必要となる言語に使用されます。有効な値は、「 StartsWith 」にリストされています。
	ValidationRuleTranslation[]	入力規則の翻訳のリスト。
	WebLinkTranslation[]	Web リンクの翻訳のリスト。
	WorkflowTaskTranslation[]	ワークフロー ToDo の翻訳のリスト。

CustomFieldTranslation

CustomFieldTranslation には、カスタム項目の翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[CustomField](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	カスタム項目の説明の翻訳。
	string	この項目の項目レベルのヘルプでフロート表示テキストとして表示されるテキストの翻訳。
	string	表示ラベルの翻訳。最大 765 文字です。
	string	必須。 などの、カスタムオブジェクトに関連する項目の名前。
	PicklistValueTranslation[]	選択リスト値の翻訳のリスト。「 PicklistValue 」を参照してください。
	string	参照関係の表示ラベルの翻訳。参照関係により、項目を別の項目に関連付けることができます。リレーション項目により、ユーザは他の項目によって定義された値のリストからオプションを選択できます。最大 765 文字です。

LayoutTranslation

LayoutTranslation には、ページレイアウトの翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[項目](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。レイアウト名。
	string	
	LayoutSectionTranslation[]	レイアウトセクションの翻訳の配列。

LayoutSectionTranslation

LayoutSectionTranslation には、ページレイアウトセクションの翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[LayoutSection](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。表示ラベルの翻訳。最大 765 文字です。
	string	必須。セクション名。

NamedFilterTranslation

NamedFilterTranslation は、カスタムオブジェクトに関連付けられるルックアップ検索条件エラーメッセージの翻訳のリストを示します。詳細は、「[NamedFilter](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	ルックアップ検索条件が失敗した場合に表示されるエラーメッセージ。

項目	データ型	説明
	string	ページに表示される情報メッセージ。ある項目がルックアップ検索条件で除外されている理由など、ユーザにとってわかりにくい内容を説明するために使用します。
	string	必須。ルックアップ検索条件の名前。ユーザインターフェースでこの項目を作成する場合、名前は自動的に割り当てられます。メタデータ API を使用してこの項目を作成する場合、項目を含める必要があります。

ObjectNameCaseValue

ObjectNameCaseValue は、さまざまな文法的なコンテキストで使用できるように、カスタムオブジェクト名の複数の格と定義をサポートします。

項目	データ型	説明
	Article (string 型の 列挙)	英語には、定冠詞 (<i>the</i>) と不定冠詞 (<i>a</i> 、 <i>an</i>) の 2 種類の冠詞があります。これらの冠詞の使用は、主に、グループの任意のメンバーを参照しているか、グループの特定のメンバーを参照しているかによって異なります。有効な値は、次のとおりです。 . . .
	CaseType (string 型の 列挙)	カスタムオブジェクト名の格。有効な値は、次のとおりです。

項目	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • • • • • • • •
	boolean	項目が複数であるか()、単数であるか()を示します。
	Possessive (string 型の 列挙)	言語の所有格は、所有の関係を示すために使用される文法上の格です。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • •
	string	必須。この文法的なコンテキストでの値または表示ラベル。

PicklistValueTranslation

PicklistValueTranslation には、選択リスト値の翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[Picklist \(連動選択リストを含む\)](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。アプリケーションの設定ページに定義された選択リスト値は、マスタラベルになります。マスタラベルは、翻訳された表示ラベルが使用できないすべての場所に表示されます。
	string	必須。値の翻訳。

RecordTypeTranslation

RecordTypeTranslation には、レコードタイプ名の翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[RecordType](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。表示ラベルの翻訳。最大 765 文字です。
	string	必須。レコードタイプ名。

SharingReasonTranslation

SharingReasonTranslation には、共有の理由の翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[SharingReason](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。共有の理由の翻訳。
	string	必須。共有の理由名。

ValidationRuleTranslation

ValidationRuleTranslation には、入力規則の翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[ValidationRule](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。入力規則の失敗に関連付けられたエラーメッセージの翻訳。
	string	必須。入力規則名。

WebLinkTranslation

WebLinkTranslation には、Web リンクの翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[Weblink](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。Web リンク表示ラベルの翻訳。最大 765 文字です。
	string	必須。Web リンク名。

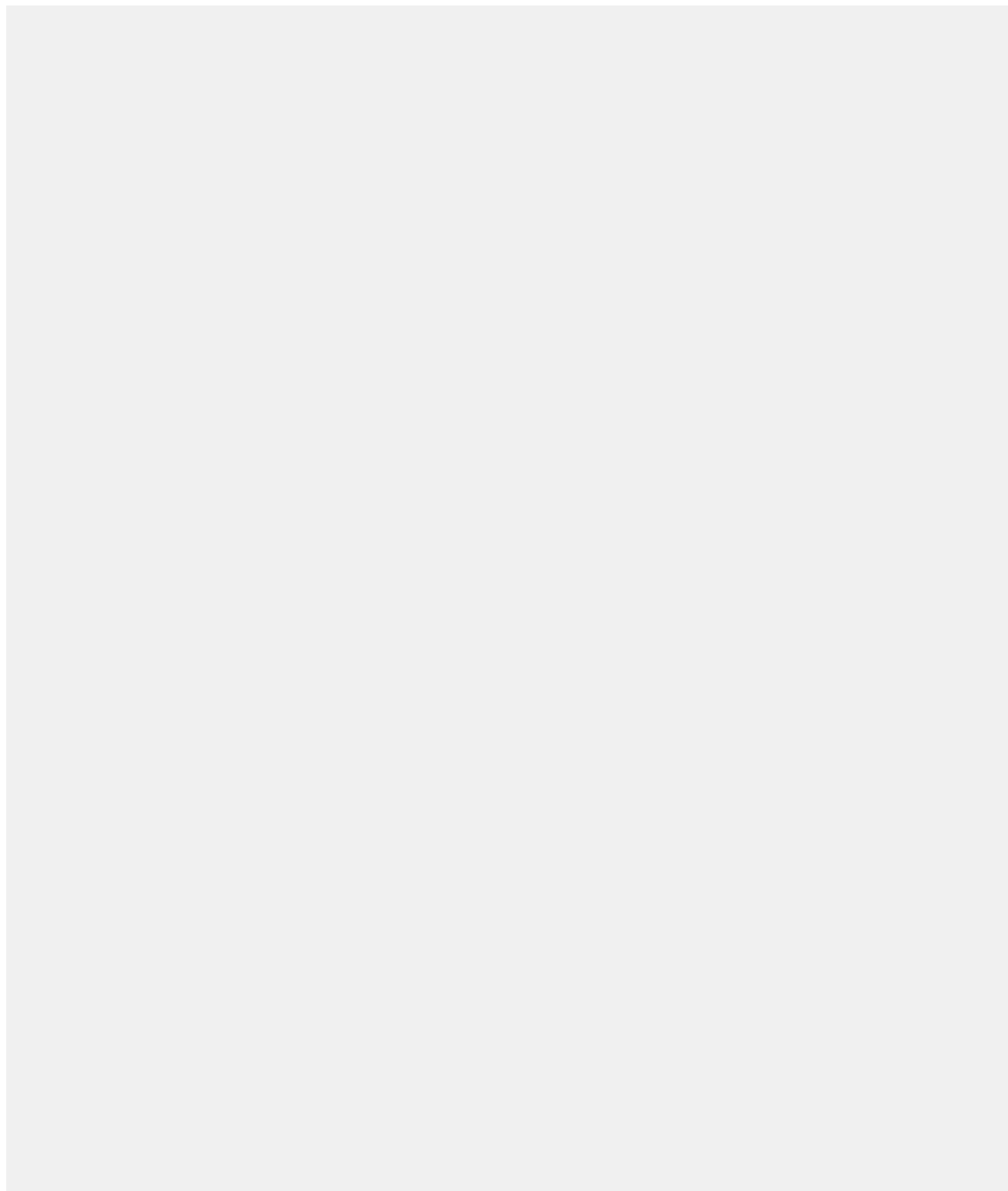
WorkflowTaskTranslation

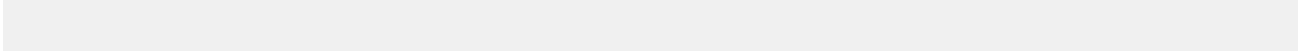
WorkflowTaskTranslation には、ワークフロー ToDo の翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[Workflow](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	ワークフロー ToDo の説明の翻訳。
	string	必須。ワークフロー ToDo 名。
	string	ワークフロー ToDo の件名の翻訳。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

カスタムオブジェクト翻訳の XML 定義のサンプルを以下に示します。





関連リンク

[CustomObject](#)
[Translations](#)

CustomPageWebLink

ホームページコンポーネントに定義された Web リンクを表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。その他のすべての Web リンクは、[CustomObject](#) に [Weblink](#) として保存されます。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

1 つの Web リンクの定義あたり 1 つのファイルがあり、対応するパッケージディレクトリのフォルダに保存されます。ファイルのサフィックスは、`CustomPageWebLink` です。

バージョン

`CustomPageWebLink` は、API バージョン 13.0 以降で使用できます。

項目

`CustomPageWebLink` の定義には、次の項目があります。

項目名	データ型	説明
	<code>WebLinkAvailability</code> (string 型の 列挙)	必須。Web リンクをオンラインでのみ使用できるか (<code>ONLINE_ONLY</code>)、オフラインでも使用できるか (<code>ONLINE_AND_OFFLINE</code>) を示します。
	<code>string</code>	Web リンクの説明。
	<code>WebLinkDisplayType</code> (string 型の 列挙)	この Web リンクの表示方法を表します。 有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">ハイパーリンクの <code>LINK</code>。ボタンの <code>BUTTON</code>。関連リストに添付されるボタンの <code>RELATED_LIST_BUTTON</code>。
	<code>Encoding</code> (string 型の 列挙)	必須。デフォルトの文字コード設定は <code>Unicode</code> (<code>UTF-8</code>) です。 リンクの対象が異なる形式のデータを必要とする場合は、デフォルトの文字コード設定を変更します。この指定は、内容のソースが URL の場合に使用できます。 使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><code>UTF-8</code> : UI の「Unicode (UTF-8)」

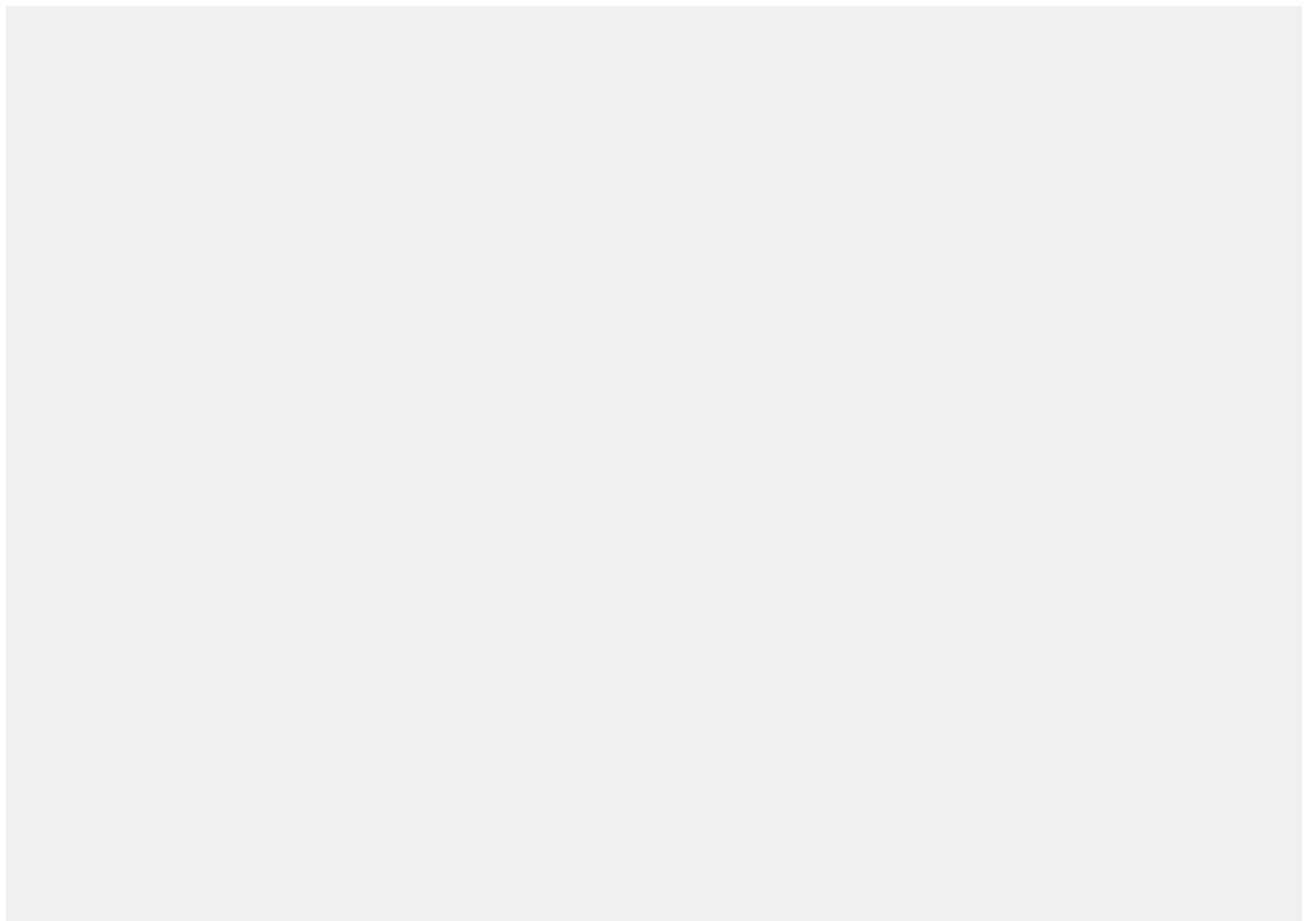
[illegible]

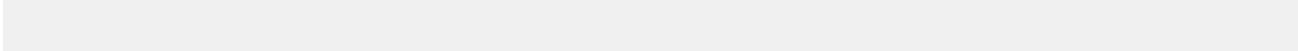
項目名	データ型	説明
	string	Web リンクのマスタラベル。
	WebLinkWindowType (string 型の 列挙)	<p>必須。このボタンがクリックされたときのコンテンツの表示に使用されるウィンドウのスタイルを指定します。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • • • •
	string	<p>の値が である場合、この項目は Visualforce ページを表します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。</p>
	WebLinkPosition (string 型の 列挙)	<p>が である場合、新規ウィンドウの表示方法を示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • •
	boolean	<p>必須。このコンポーネントが保護されるか ()、否か () を示します。保護コンポーネントは、インストールする組織で作成されたコンポーネントによってリンク設定したり参照したりすることはできません。</p>
	boolean	<p>が である場合、このボタンのアクションを実行するために個々の行を選択する必要があるか ()、否か () を示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。</p>
	string	<p>の値が である場合、この項目は S コントロールの名前を表します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。</p>
	boolean	<p>が である場合、ウィンドウにブラウザのロケーションバーを表示するか否かを示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。</p>
	boolean	<p>が である場合、ウィンドウにブラウザのステータスバーを表示するか否かを示します。そうでない場合、この項目は指定しないでください。</p>
	string	<p>が である場合、これは URL 値です。</p> <p>の値が である場合、これは JavaScript コンテン</p>

項目名	データ型	説明
		ツです。値がこのいずれでもない場合、この項目は指定しないでください。 コンテンツは、XML 解析ルールと同じ方法でエスケープする必要があります。
	int	Web リンクによって開かれたウィンドウの幅 (ピクセル単位)。 が である場合は必須です。そうでない場合は、指定できません。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

Web リンクの定義を次に示します。関連するサンプルについては、「HomePageComponent」の「[宣言的なメタデータの定義のサンプル](#)」および「HomePageLayout」の「[宣言的なメタデータの定義のサンプル](#)」を参照してください。






関連リンク

- [HomePageComponent](#)
- [HomePageLayout](#)
- [Weblink](#)

CustomSite

Force.com サイトを表します。Force.com サイトでは、公開 Web サイトとアプリケーションを作成できます。それらは Salesforce 組織と直接統合されるため、ユーザがログインする場合にユーザ名やパスワードは必要ありません。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Force.com サイトの概要」を参照してください。



メモ: CustomSite は、現在、シンジケーションフィールドをサポートしていません。

[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その 項目を継承します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

Force.com CustomSite コンポーネントは、対応するパッケージディレクトリの ディレクトリに保存されます。ファイル名はサイト名に一致し、拡張子は です。

バージョン

Force.com CustomSite コンポーネントは、API バージョン 14.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	boolean	必須。サイトが有効かどうかを決定します。
	boolean	標準ホームページが一般ユーザに表示されるかどうかを決定します。これは、API バージョン 15.0 の新項目です。
	boolean	標準のアイデアページが一般ユーザに表示されるかどうかを決定します。これは、API バージョン 15.0 の新項目です。
	boolean	標準ルックアップページが一般ユーザに表示されるかどうかを決定します。これは、API バージョン 15.0 の新項目です。

項目	データ型	説明
	boolean	標準検索ページが一般ユーザに表示されるかどうかを決定します。これは、API バージョン 15.0 の新項目です。
	string	サイトに関連付けられている追跡コード。このコードは、サイトに対するページリクエストデータを追跡するために、Google Analytics などのサービスで使用されます。この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。
	string	ゲストユーザが許可されていないページにアクセスしようとする则表示される Visualforce ページの名前。
	string	サイトがその割り当て帯域幅を超えると表示される Visualforce ページの名前。
	string	ポータルまたは Chatter アンサーのいずれかのパスワードをポータルユーザが変更しようとする则表示される Visualforce ページの名前 (有効になっている場合)。
	string	仮パスワードを記載したメールが送信されたことをユーザに知らせるために表示される Visualforce ページの名前。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。この項目は API バージョン 27.0 以降で使用できます。
	string	ユーザがリンクをクリックして忘れたパスワードを取得する場合に表示される Visualforce ページの名前。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。この項目は API バージョン 27.0 以降で使用できます。
	string	ユーザがヘルプリンクをクリックすると表示される Visualforce ページの名前。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。この項目は API バージョン 27.0 以降で使用できます。
	string	ユーザがポータルにログインできるようにするために表示される Visualforce ページの名前。この項目は、組織で Chatter アンサーが有効になっている場合に使用できます。この項目は API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目	データ型	説明
	string	ユーザを登録してポータルにアクセスできるようにするために表示される Visualforce ページの名前。この項目は API バージョン 27.0 以降で使用できます。
	SiteWebAddress	サイトに関連付けられたカスタム Web アドレス。この項目は API バージョン 21.0 以降で使用できます。
	string	サイトの説明。
	string	サイトにアクセスしているときに、ブラウザのアドレス項目に表示されるアイコンに使用されるファイルの名前。サイト全体のお気に入りアイコンを設定します。
	string	ゲストユーザが存在しないページにアクセスしようとする则表示される Visualforce ページの名前。
	string	エラー時に、他に指定されていない場合に表示される Visualforce ページの名前。
	string	参照のみ。ゲストユーザに関連付けられたプロフィールの名前。
	string	サイトがメンテナンスのためにダウンしている場合に表示される Visualforce ページの名前。
	string	無効なサイトのホームページとして設定されている Visualforce ページの名前。
	string	必須。有効なサイトのホームページとして設定されている Visualforce ページの名前。
	string	Salesforce ユーザインターフェースでのサイトの表示ラベル名。
	string	ログインアクセス用にこのサイトに関連付けられたポータルの名前。
	string	必須。組織のセキュリティ設定を上書きし、サイトから関連付けられたポータルにログインする場合に HTTP を排他的に使用するかどうかを決定します。
	string	Web クローラで使用される ファイルに表示される Visualforce ページの名前。
	string	Salesforce サーバのダウン時にキャッシュサーバから表示される静的リソースの名前。静的

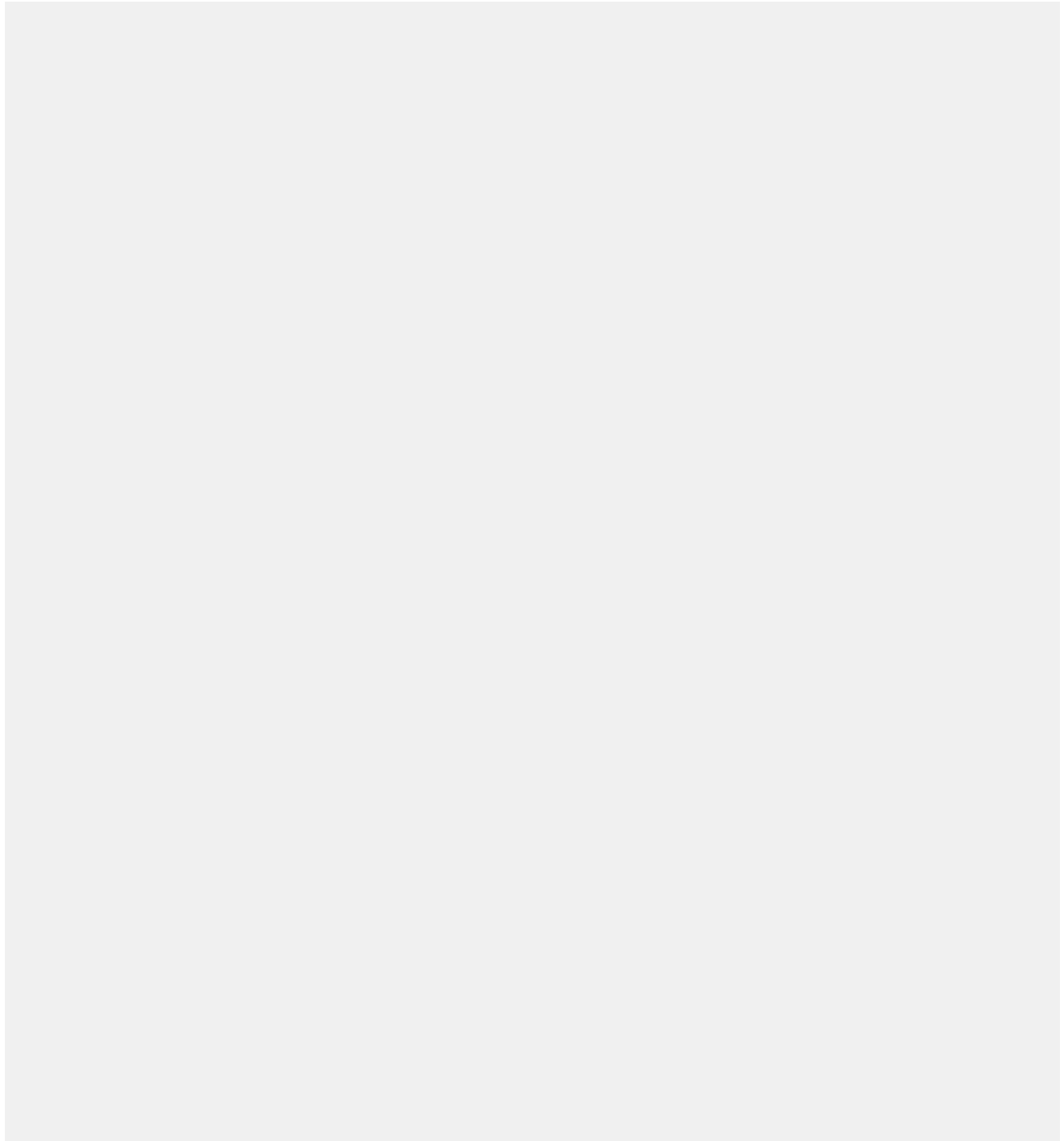
項目	データ型	説明
		リソースは、1 MB 以下の公開 zip ファイルで、zip ファイルのルートレベルに という名前のページが含まれている必要があります。画像や CSS ファイルなどの、zip ファイル内のその他のリソースは、ディレクトリ構造上の制限はありません。この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。
	SiteRedirectMapping[]	サイトに設定されているすべての URL リダイレクトルールの配列。この項目は API バージョン 20.0 以降で使用できます。
	string	サイト管理者のユーザ名。
	string	サイトテンプレートとして使用される Visualforce ページの名前。
	siteType	サイトが Visualforce であるか (Force.com サイト)、Site.com サイトであるかを特定します。 組織で Salesforce コミュニティが有効になっている場合は、ChatterNetwork (Force.com サイト) または ChatterNetworkPicasso (Site.com) サイトとなる場合もあります。 これは、API バージョン 27.0 の新項目です。
	string	必須。参照のみ。サイトのカスタムサブドメインプレフィックス。たとえば、サイト URL が である場合、 がサブドメインです。
	string	サイトを他のサイトと区別する、サイトの URL 上のパスの最初の部分。たとえば、サイト URL が である場合、 が urlPathPrefix です。

SiteRedirectMapping

SiteRedirectMapping は、Force.com サイトの URL リダイレクトルールを表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Force.com サイトの URL リダイレクト」を参照してください。

項目	データ型	説明
	SiteRedirect (string 型の 列挙)	リダイレクトの種別。使用可能な string 値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Permanent

項目	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none">Temporary
	boolean	リダイレクトの状況 (有効または無効)。
	string	リダイレクトする URL。相対 URL である必要がありますが、 や



関連リンク

[*Portal*](#)

CustomTab

カスタムタブを表します。カスタムタブとは、カスタムオブジェクトのデータや、アプリケーションに埋め込まれている他の Web コンテンツを表示するために作成するユーザインターフェースコンポーネントのことです。タブにカスタムオブジェクトが表示されているとき、タブ名はカスタムオブジェクト名と同じになります。ページ、Sコントロール、または URL タブの場合は任意の名前です。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「カスタムタブとは?」を参照してください。 [Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その 項目を継承します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ファイルのサフィックスは、 です。タブごとに 1 つのファイルがあり、対応するパッケージディレクトリの フォルダに保存されます。



メモ: プロジェクトでこのメタデータ型のコンポーネントを取得すると、[Profile](#) コンポーネントにもこのコンポーネントが表示されるようになります。

バージョン

タブは、API バージョン 10.0 以降で使用できます。

項目

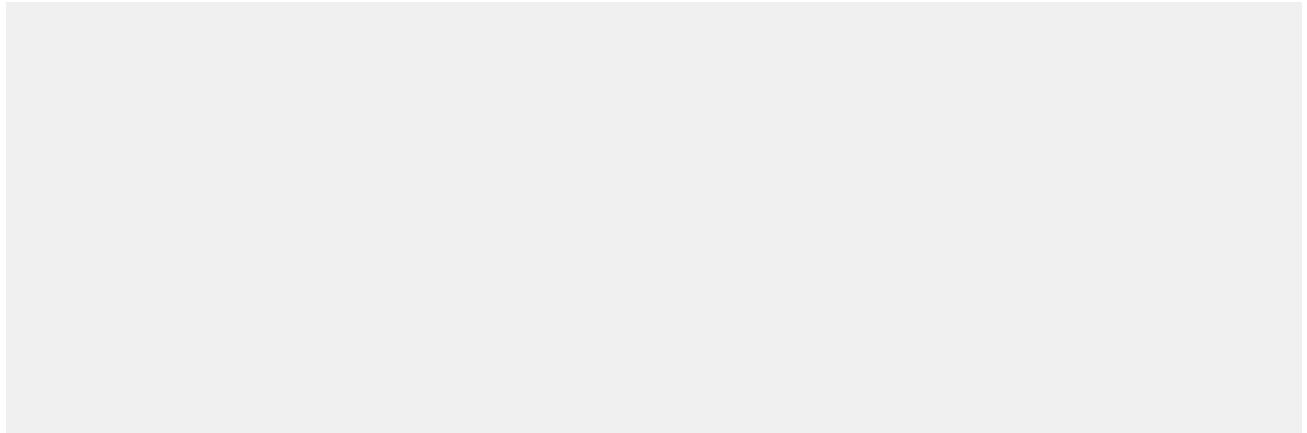
このメタデータ型には、次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	boolean	このタブがカスタムオブジェクトを表示するか ()、否か () を示します。 に設定されている場合、タブの名前はカスタムオブジェクトの名前と一致します。 次の項目のいずれか 1 つのみに値が設定されている必要があります。 <ul style="list-style-type: none">• • • •
	string	タブの説明テキスト (省略可能)。
	int	タブフレームの高さ (ピクセル単位)。Sコントロールおよびページタブでは必須です。
	string	タブの名前。この項目の値は、タブの種類と API バージョンに応じて異なります。 <ul style="list-style-type: none">• カスタムオブジェクトタブの場合、 は開発者が割り当てたカスタムオブジェクトの名前です (たとえば、MyCustomObject__c など)。カスタムオブジェクトタブの場合、この名前はカスタムオブジェクト名と同じで

項目名	データ型	説明
	string	このタブに埋め込む外部 Web ページの URL。 次の項目のいずれか 1 つのみに値が設定されている必要があります。
	Encoding (string 型の 列挙)	デフォルトの文字コード設定は Unicode () です。情報を渡す URL が別形式のデータを必要とする場合は、この設定を変更します。このオプションは、タブの種類で値が選択されている場合に使用できます。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

タブの定義を次に示します。



関連リンク

[CustomApplication](#)

Dashboard

ダッシュボードを表します。ダッシュボードは、総計値とパフォーマンスを一目で理解できるように表示されたデータの視覚的表現です。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「アクセシビリティモードでのダッシュボードの編集」を参照してください。

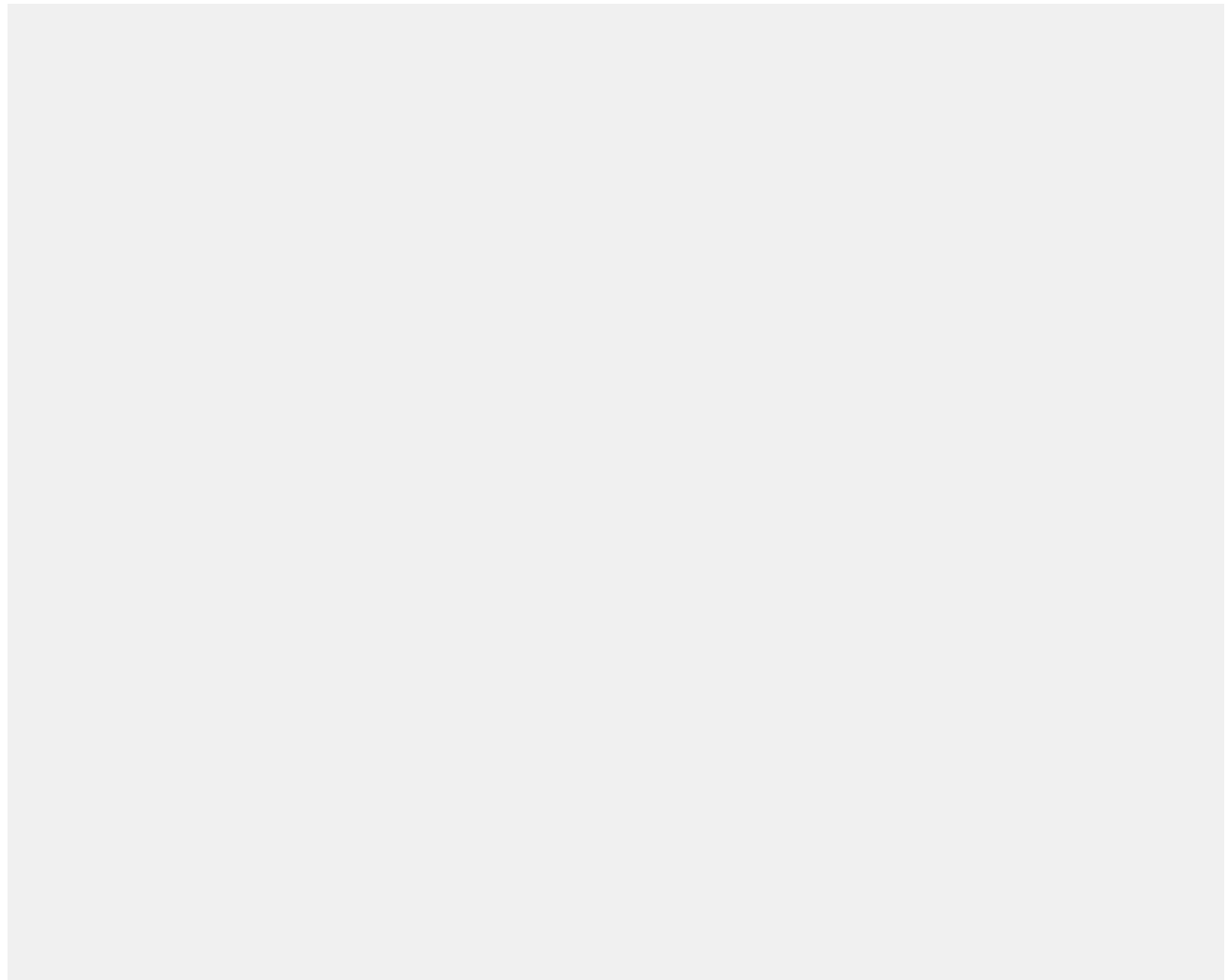
宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ダッシュボードは、対応するパッケージディレクトリの `dashboards` ディレクトリに保存されます。ファイル名はダッシュボードのタイトルに一致し、拡張子は `.json` です。

ダッシュボードの取得

`getDashboard` ではダッシュボードにワイルドカード (*) 記号を使用できません。明示的な名前を入力するためにダッシュボードのリストを取得するには、`listDashboards` をコールし、`DashboardFolder` をデータ型として渡します。`DashboardFolder` は `Dashboard` ではデータ型として返されません。ダッシュボードは、`DashboardFolder` の関連付けられている属性が `true` に設定された `Dashboard` から返されます。この属性が `true` に設定されている場合は、`DashboardFolder` など、「Folder」という単語を含むコンポーネント名を使用してデータ型を作成できます。

次の例では、`dashboards` 内のフォルダを示します。



バージョン

Dashboard コンポーネントは、API バージョン 14.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	string	必須。ダッシュボードでは、グラフにグラデーションの色の变化を適用できます。この項目は、グラデーションの 2 つ目の色を定義し、 は、最初の色を定義します。背景で単色を使用する場合、またはグラデーションの色の变化を使用しない場合は、この項目と に同じ色を選択してください。色は、16 進形式で表記されます (#FF6600 など)。
	ChartBackgroundDirection (string 型の 列挙)	必須。項目と 項目で定義される、グラデーションの色の变化の方向。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・ ・
	string	必須。ダッシュボードのグラフでのグラデーションの色の变化の開始色。詳細は、 を参照してください。色は、16 進形式で表記されます (#FF6600 など)。
	DashboardFilters[]	ダッシュボードの検索条件のリスト。 この項目は API バージョン 23.0 以降で使用できません。
	DashboardType (string 型の 列挙)	ダッシュボードの表示設定を設定する方法を決定します。有効な値は、次のとおりです。 ・ — すべてのユーザは、個々のセキュリティ設定に関係なく、項目に指定された、1 人の特定の実行ユーザのアクセスレベルでデータを表示します。 ・ — 各ログインユーザは、個々のアクセスレベルに従ってデータを表示します。 ・ — マネージャは、ロール階層におけるその部下の視点でダッシュボードを参照するように選択できます。この値は、API バージョン 20.0 以降で使用できます。 この項目は API バージョン 19.0 以降で使用できません。
	string	ダッシュボードの説明。最大 255 文字です。

項目	データ型	説明
	string	<p>Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、こちらを参照してください。</p> <p>この項目は、フォルダとダッシュボードのタイトルを指定します。たとえば、こちらです。</p>
	DashboardComponentSection	必須。ダッシュボードの左セクションまたは列。
	DashboardComponentSection	ダッシュボードの中央セクションまたは列。
	DashboardComponentSection	必須。ダッシュボードの右セクションまたは列。
	string	<p>ダッシュボードに表示されるデータを決定するために使用されるロールと共有設定を所有するユーザのユーザ名。</p> <p>ダッシュボードをリリースするときに、この項目の値が定義されていないか有効なユーザに対応していない場合、項目にはリリースを実行するユーザのユーザ名が入力されます。</p> <p>ダッシュボードは常に特定のユーザのセキュリティ設定を使用して実行されるため、各ユーザのセキュリティ設定に関係なく、ダッシュボードを参照するすべてのユーザにまったく同一のデータが表示されます。</p> <p> ヒント: 機密データの不適切な開示を避けるには、適切なユーザにのみ表示されるフォルダにダッシュボードを保存します。</p>
	string	必須。ダッシュボードの各グラフのテキストの色。色は、16 進形式で表記されます (#FF6600 など)。
	string	必須。ダッシュボードのタイトル。
	string	必須。各サッシュボードコンポーネントのタイトルの色。色は、16 進形式で表記されます (#FF6600 など)。
	int	必須。タイトルテキストの文字のサイズ。たとえば、12 という値は 12pt のテキストを示します。

DashboardComponentSection

DashboardComponentSection は、ダッシュボードの 1 つのセクションまたは列を表します。

項目	データ型	説明
	DashboardComponentSize (string 型の 列挙)	必須。ダッシュボードの列のサイズ。有効な値についての詳細は、「 DashboardComponentSize 」を参照してください。
	DashboardComponent []	ダッシュボード列の DashboardComponent オブジェクトのリスト。

DashboardComponentSize

[DashboardComponentSize](#) は、異なるサイズカテゴリをリストする string 型の列挙です。有効な値のリストを下の表に示します。

列挙値	説明
	中サイズのコンポーネント。
	最小サイズのコンポーネント。
	最大サイズのコンポーネント。

DashboardComponent

データを表示する異なるコンポーネントまたは要素のグループで構成されるダッシュボード。各コンポーネントは、経営指標または重要業績評価指標 (KPI) を表示するためのデータソースとして、カスタムレポートまたはカスタム S コントロールを使用できます。複数のダッシュボードコンポーネントを作成し、最大 3 列のダッシュボード 1 つにすべてを表示できます。

項目	データ型	説明
	ChartRangeType (string 型の 列挙)	棒グラフまたは折れ線グラフの手動または自動設定の軸範囲。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・
	double	表示する最大軸範囲。これは、項目について の軸範囲が選択された棒グラフと折れ線グラフにのみ適用されます。
	double	表示する最小軸範囲。これは、項目について の軸範囲が選択された棒グラフと折れ線グラフにのみ適用されます。
	ChartSummary	グラフデータの集計項目を指定します。 が に設定されている場合は必須です。 この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。

項目	データ型	説明
	DashboardComponentType (string 型の 列挙)	必須。ダッシュボードコンポーネントの種類。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	DashboardFilterColumns[]	ダッシュボードの検索条件列のリスト。各レポートベースのコンポーネントには、検索条件が適用される列を定義するダッシュボード検索条件列が必要です。 この項目は API バージョン 23.0 以降で使用できます。
	DashboardTableColumn[]	カスタマイズされたダッシュボードテーブルコンポーネントの列のリストを表します。
	ChartUnits (string 型の 列挙)	グラフの単位。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">・・・・・・

項目	データ型	説明
		・
	string	<p>グラフで、ユーザがダッシュボードコンポーネントをクリックしたときに移動先となる URL を指定します。このオプションを使用して、別のダッシュボード、レポート、レコード詳細ページ、または Web インターフェースを使用するその他のシステムにユーザを送信します。この項目は、項目と項目より優先されま</p> <p>す。</p>
	boolean	<p>ユーザがダッシュボードコンポーネントをクリックしたときに、完全なソースレポートまたは絞り込まれたソースレポートにユーザを移動するかどうかを指定します。完全なソースレポートにドリルするには を設定し、ユーザがクリックした項目によって絞り込まれたソースレポートにドリルするには を設定します。 に設定すると、ユーザは、個々のグループ、軸の値、または凡例のエントリをクリックできます。</p> <p>これは、項目より優先されます。この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。</p>
	boolean	<p>有効である場合、ユーザがテーブルまたはグラフのレコード名、レコード所有者、またはフィード投稿をクリックすると、レコード詳細ページに移動します。 に設定すると、ユーザは軸、凡例値、グラフ要素、およびテーブルエントリをクリックできます。項目と項目は、この項目より優先されます。この項目は API バージョン 20.0 以降で使用できます。</p>
	boolean	<p>グラフにマウスを重ねたとき、値、表示ラベル、およびパーセントを表示するかどうかを指定します。詳細のフロート表示はグラフの種類によって異なります。パーセントは、円グラフ、ドーナツグラフ、およびじょうごグラフのみに適用されます。この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。</p>
	boolean	<p>合計の 3% 以下のグループをすべて 1 つの「その他」系列または区分グループにまとめるかどうかを指定します。円グラフ、ドーナツグラ</p>

項目	データ型	説明
		フ、およびじょうごグラフのみに適用されます。グラフにすべての値を個別に表示する場合は を設定し、小さなグループを「その他」にまとめるには に設定します。この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。
	string	ダッシュボードコンポーネントの下部に表示されるフッター。最大 255 文字です。
	double	ゲージの最大値。ゲージは、ゴール達成までの距離を表示するために使用されます。自動車の速度計のようなものです。
	double	ゲージの最小値。
	string	データのグループ化の基準となる項目を指定します。このデータは、縦棒グラフの場合は X 軸に、横棒グラフの場合は Y 軸に表示されます。 この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。
	string	ダッシュボードコンポーネントの上部に表示されるヘッダー。最大 80 文字です。
	double	ダッシュボードの と を区切る値。
	double	ダッシュボードの と を区切る値。
	string	ゲージで高い数値の範囲を表す色。
	string	ゲージで低い数値の範囲を表す色。
	string	ゲージで中位の数値の範囲を表す色。
	ChartLegendPosition (string 型の 列挙)	グラフに対する凡例の位置。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
	int	横棒グラフでの横軸、縦棒グラフでの縦軸、または積み上げ棒グラフでの選択した軸の上位グループに含める要素の最大数。たとえば、上位 5 名の営業担当者のみを表示する場合は、所有者別の合計商談額を表す商談レポートを作成し、この項目に「 」と入力します。

項目	データ型	説明
	string	指標を説明した表示ラベル が 項目の値である場合に関連します。
	string	コンポーネントに関連付けられた Visualforce ページ。
	int	Visualforce ページの表示の高さ (ピクセル単位)。
	string	コンポーネントに関連付けられたレポートの名前。
	string	が 項目の値である場合に、コンポーネントに関連付けられる S コントロール。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「カスタム S コントロールの定義」を参照してください。
	int	S コントロールの表示の高さ (ピクセル単位)。
	boolean	円グラフ、ドーナツグラフ、およびじょうごグラフのゲージ、系列、および区分の領域にパーセント値を表示するか ()、否か () を示します。
	boolean	ユーザまたはグループの名前項目によってソースレポートがグループ化されている横棒グラフコンポーネントに、最大 20 レコードの Chatter 写真を表示します。写真を含むレコードが 20 件より多くある場合は、写真ではなくレコード名が表示されます。写真を表示するには、グループ表示 で なし に設定します。ドリルダウン先 オプションを レコード詳細ページ に設定すると、写真をクリックしたときにユーザプロフィールやグループページに直接移動できます。写真を表示するには、Chatter を有効にする必要があります。組織の設定に応じて、テーブルやグラフで写真が表示されない場合があります。
	boolean	ユーザまたはグループの名前項目によってソースレポートがグループ化されている横棒グラフコンポーネントに、最大 20 レコードの Chatter 写真を表示します。写真を含むレコードが 20 件より多くある場合は、写真ではなくレコード名が表示されます。写真を表示するには、グループ表示 で なし に設定します。ドリルダウン先 オプションを レコード詳細ページ に設定すると、写真をクリックしたときにユー

項目	データ型	説明
		ザプロファイルやグループページに直接移動できます。写真を表示するには、Chatterを有効にする必要があります。組織の設定に応じて、テーブルやグラフで写真が表示されない場合があります。
	boolean	ゲージとドーナツグラフですべての系列の合計を表示するか()、否か()を示します。
	boolean	グラフの個々のレコードまたはグループの値が表示されるか()、否か()を示します。
	DashboardComponentFilter (string型の 列挙)	ダッシュボードコンポーネントの並び替えオプション。
	string	ダッシュボードコンポーネントのタイトル。最大 40 文字です。
	boolean	ソースレポートに定義されたグラフをこの dashboard コンポーネントで使用するかどうかを指定します。ソースレポートのグラフの設定によって、ダッシュボードでのグラフの表示方法が決定します。また、ダッシュボードに定義したグラフ設定はすべて上書きされます。ソースレポートに組み合わせグラフを定義した場合、このオプションを使用して、このダッシュボードで組み合わせグラフを使用します。

DashboardFilters

DashboardFilters は、ダッシュボードの検索条件を表します。

項目	データ型	説明
	DashboardFilterOptions []	[検索条件を追加] ダイアログの 検索条件オプションセクションで選択できる項目のリスト。
	string	必須。検索条件の表示ラベル。

DashboardFilterColumns

DashboardFilterColumns は、ダッシュボードの検索条件列を表します。

項目	データ型	説明
	string	必須。検索条件のレポート列コード。

DashboardFilterOptions

DashboardFilterOptions は、ダッシュボードの検索条件オプションを表します。

項目	データ型	説明
	DashboardFilterOperation (string 型の 列挙)	必須。この検索条件項目の絞り込み操作を表します。 有効な値は、 DashboardFilterOperation に列挙されています。この項目は API バージョン 24.0 以降で使用できます。 API バージョン 23.0 での有効な値は、 FilterOperation に列挙されています。
	string	必須。 検索条件を追加 ダイアログの 検索条件オプション 領域の値。この項目は API バージョン 23.0 で使用できます。
	string[]	必須。 検索条件を追加 ダイアログの 検索条件オプション 領域の 1 つ以上の値。この項目は API バージョン 24.0 以降で使用できます。

DashboardFilterOperation

これは、ダッシュボードの絞り込み操作をリストする string 型の列挙です。有効な値は、次のとおりです。

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-



メモ: "between" 演算子には、2 つのオペランドが必要です ("between MinimumValue, MaximumValue" など)。また、最小値にはその値自体が含まれますが、最大値にはその値自体は含まれません。その他すべてのダッシュボード絞り込み操作では、1 つのオペランドのみが必要です。

DashboardTableColumn

DashboardTableColumn は、ダッシュボードのカスタマイズされたテーブルコンポーネントの列を表します。

項目	データ型	説明
	ReportSummaryType[] (string 型の 列挙)	テーブル列の集計種別を指定します。
	string	必須。テーブルで使用する列の表示ラベル。
	boolean	ダッシュボードテーブルに集計可能な各列の合計を表示します。この項目は API バージョン 19.0 以降で使用できます。
	DashboardComponentFilter (string 型の 列挙)	ダッシュボードテーブルコンポーネントの並び替えオプション。テーブルあたり 1 つの列で並び替えます。

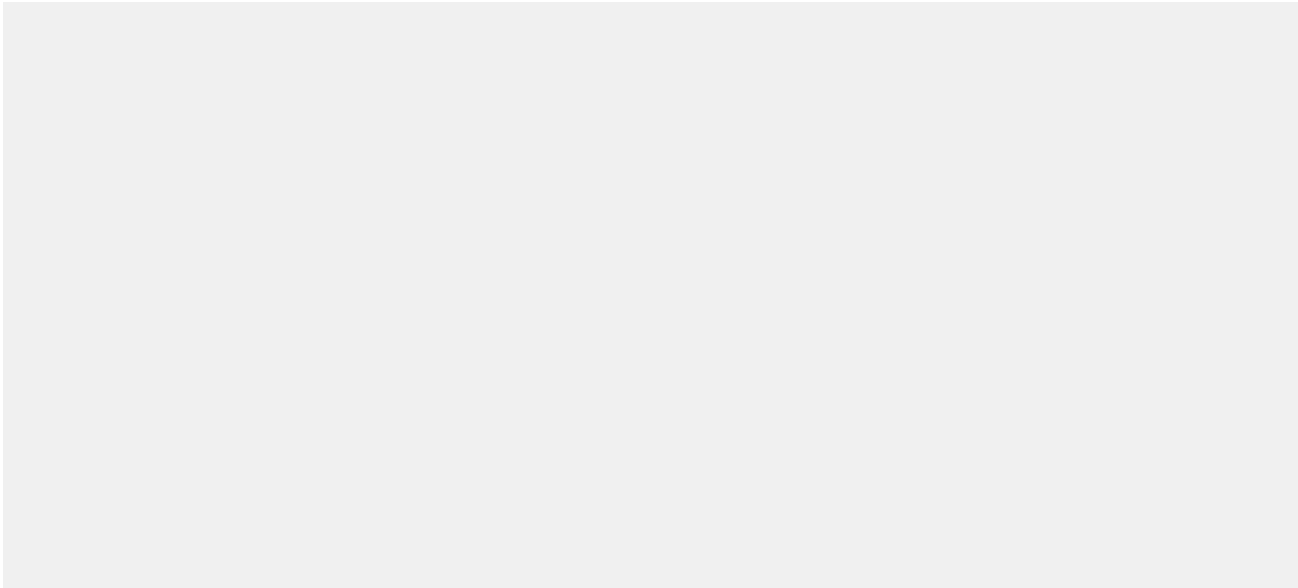
DashboardComponentFilter

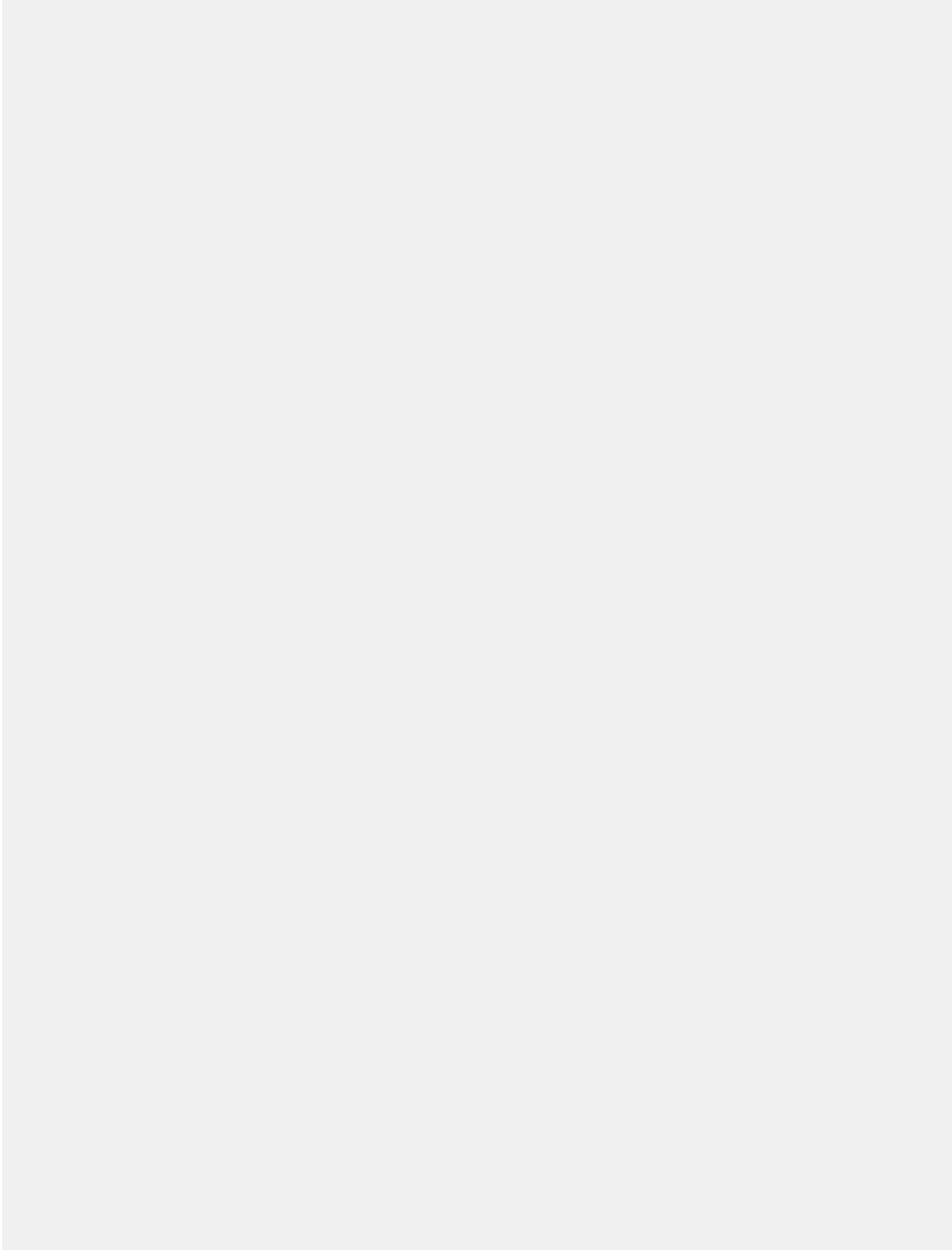
DashboardComponentFilter は、ダッシュボードコンポーネントの並び替え値をリストする string 型の列挙です。有効な値は、次のとおりです。

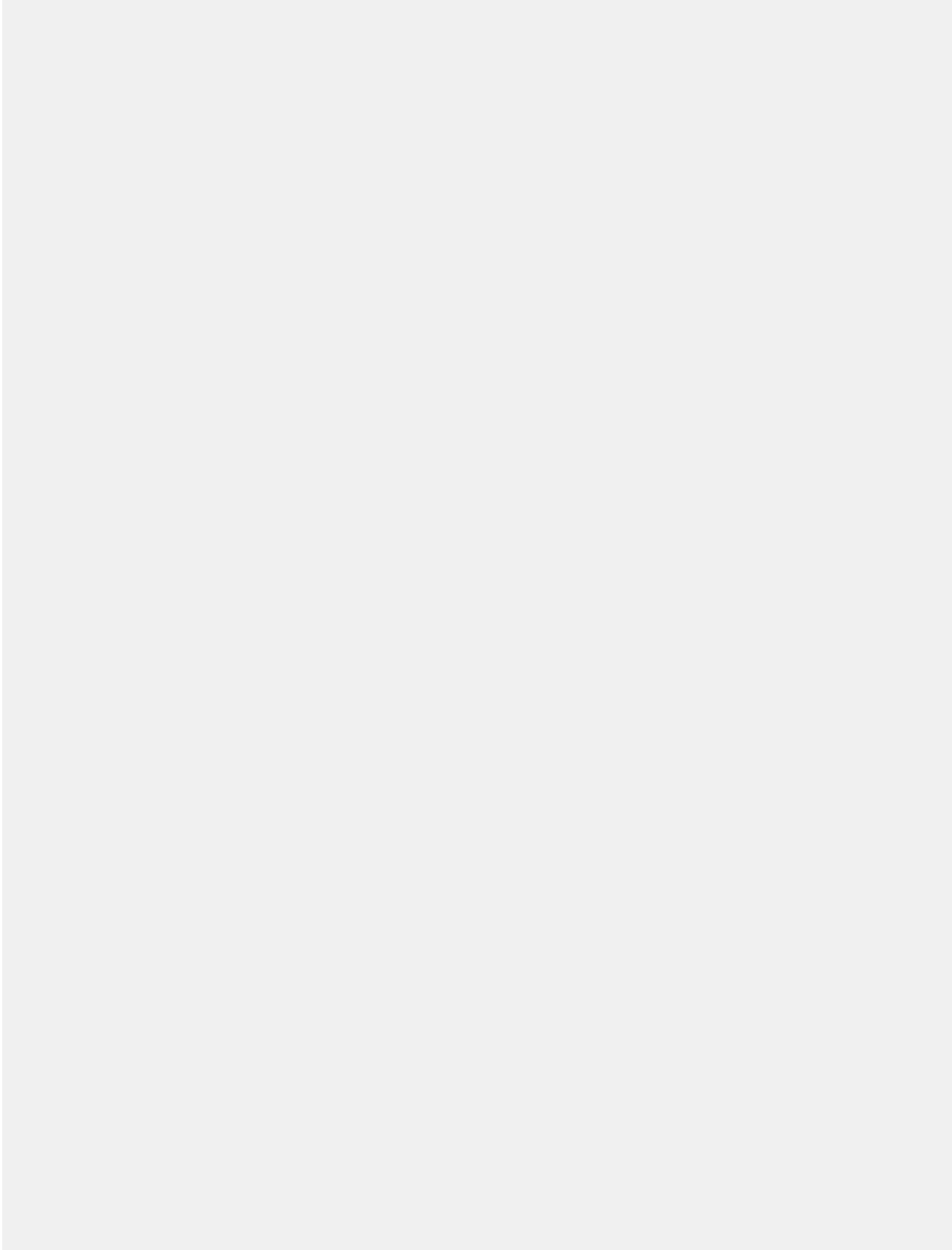
列挙値	説明
	表示ラベルを基準にしてアルファベット順に並び替えます。
	表示ラベルを基準にしてアルファベット降順に並び替えます。
	値を基準にして最小値から最大値の順に並び替えます。
	値を基準にして最大値から最小値の順に並び替えます。

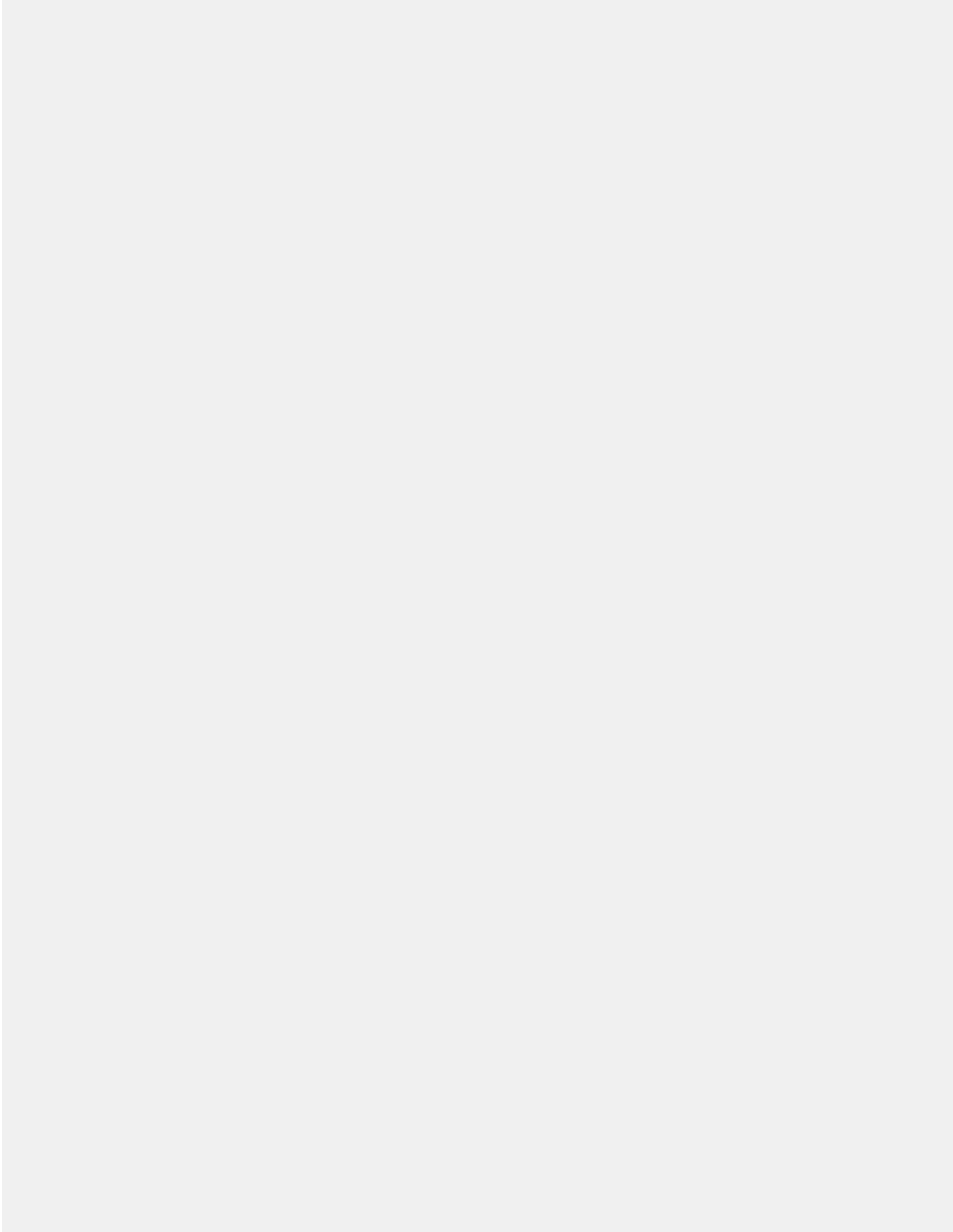
宣言的なメタデータの定義のサンプルー 条件設定済みダッシュボード

条件設定済みダッシュボードの XML 定義のサンプルを以下に示します。この例がサポートされているのは、API バージョン 24.0 以降です。ファイル名はダッシュボードのタイトルに一致し、拡張子は `.xml` です。



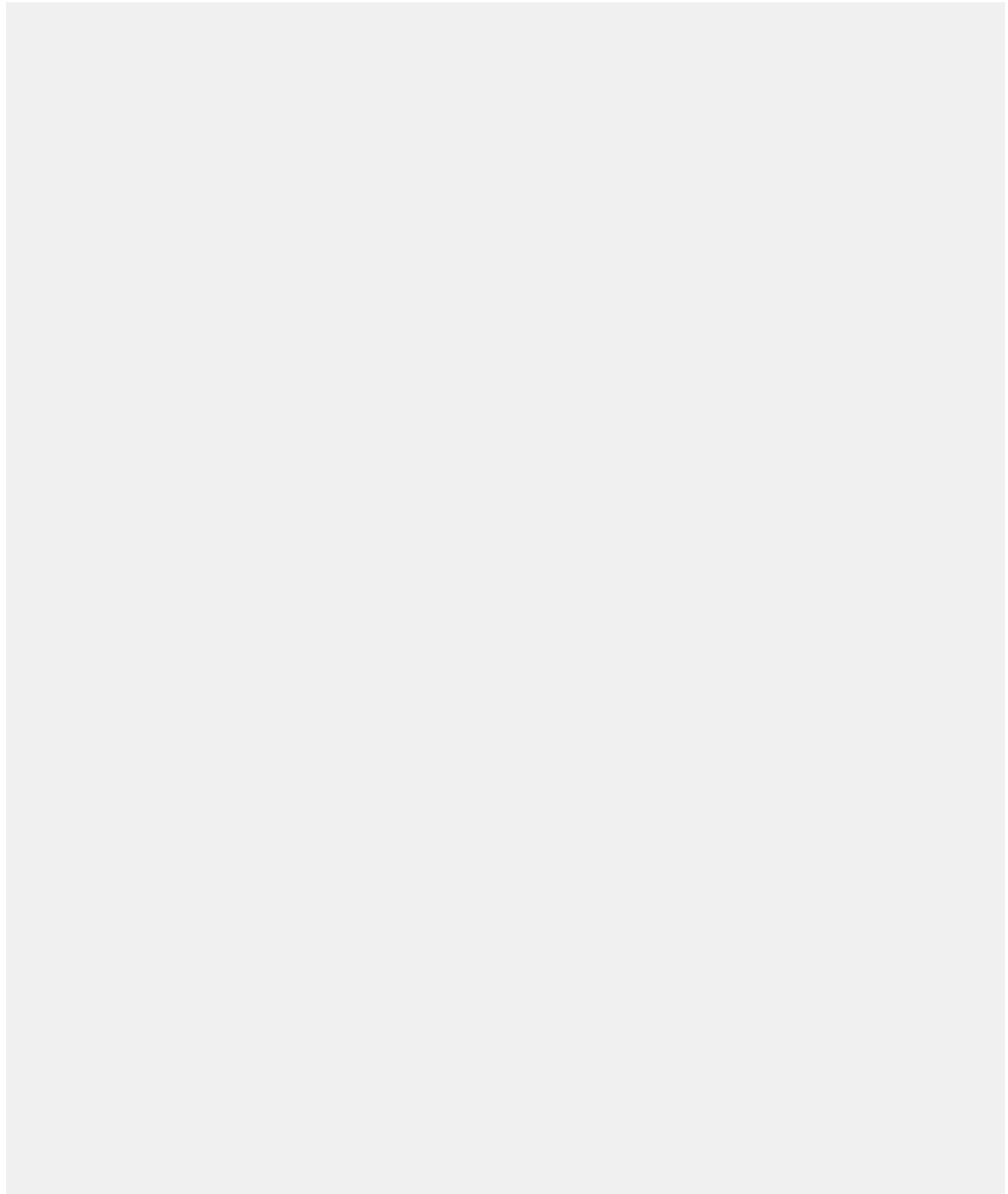


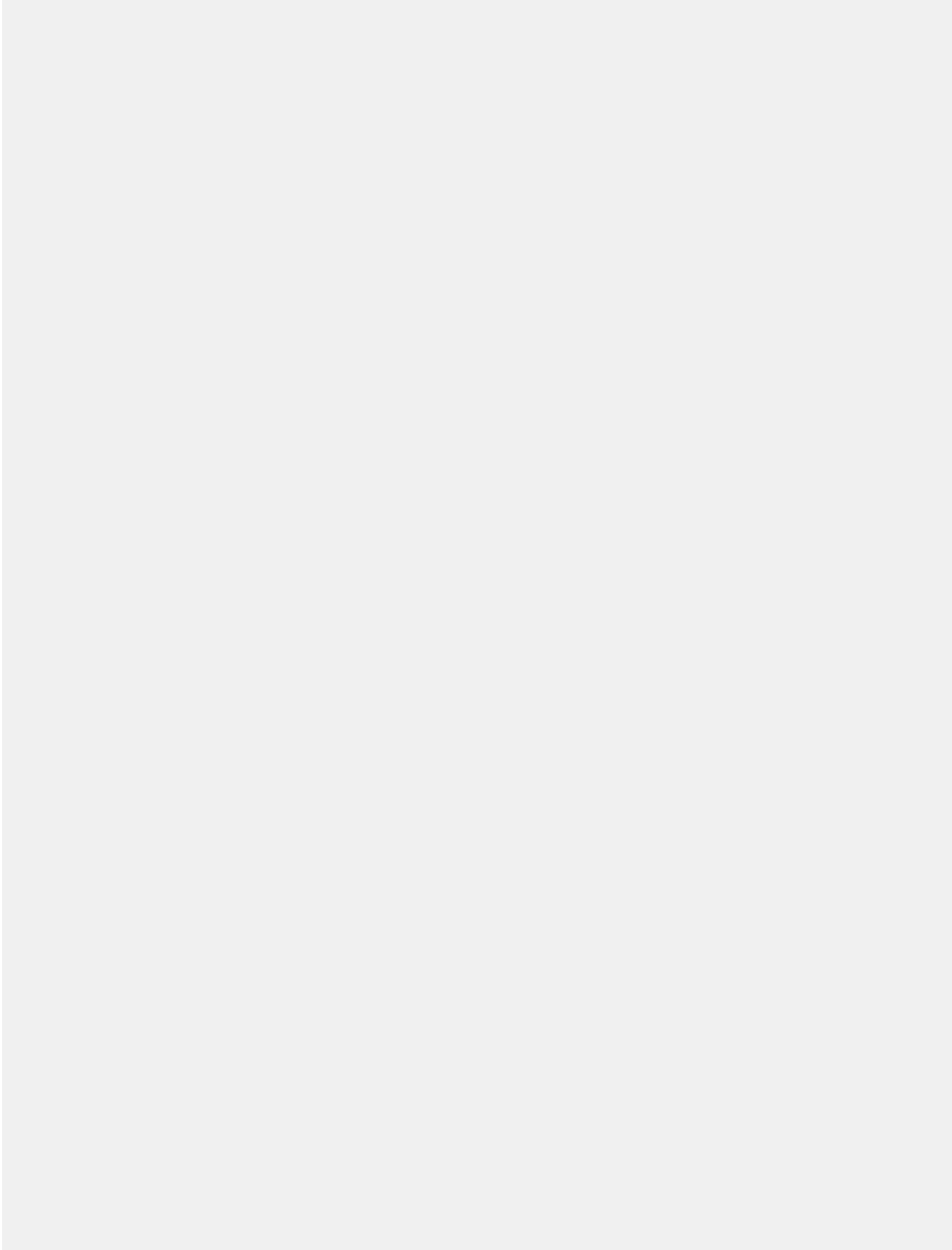


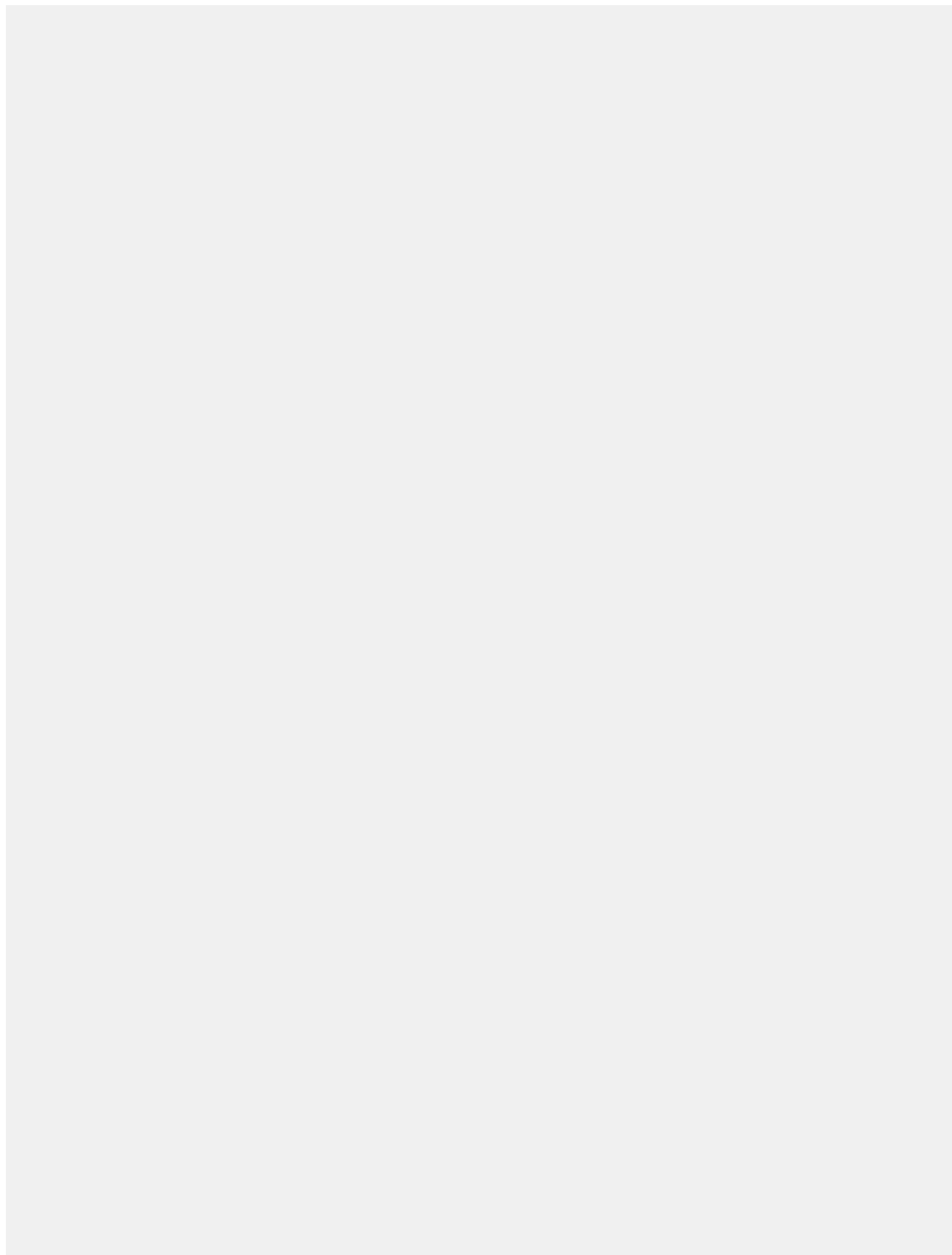


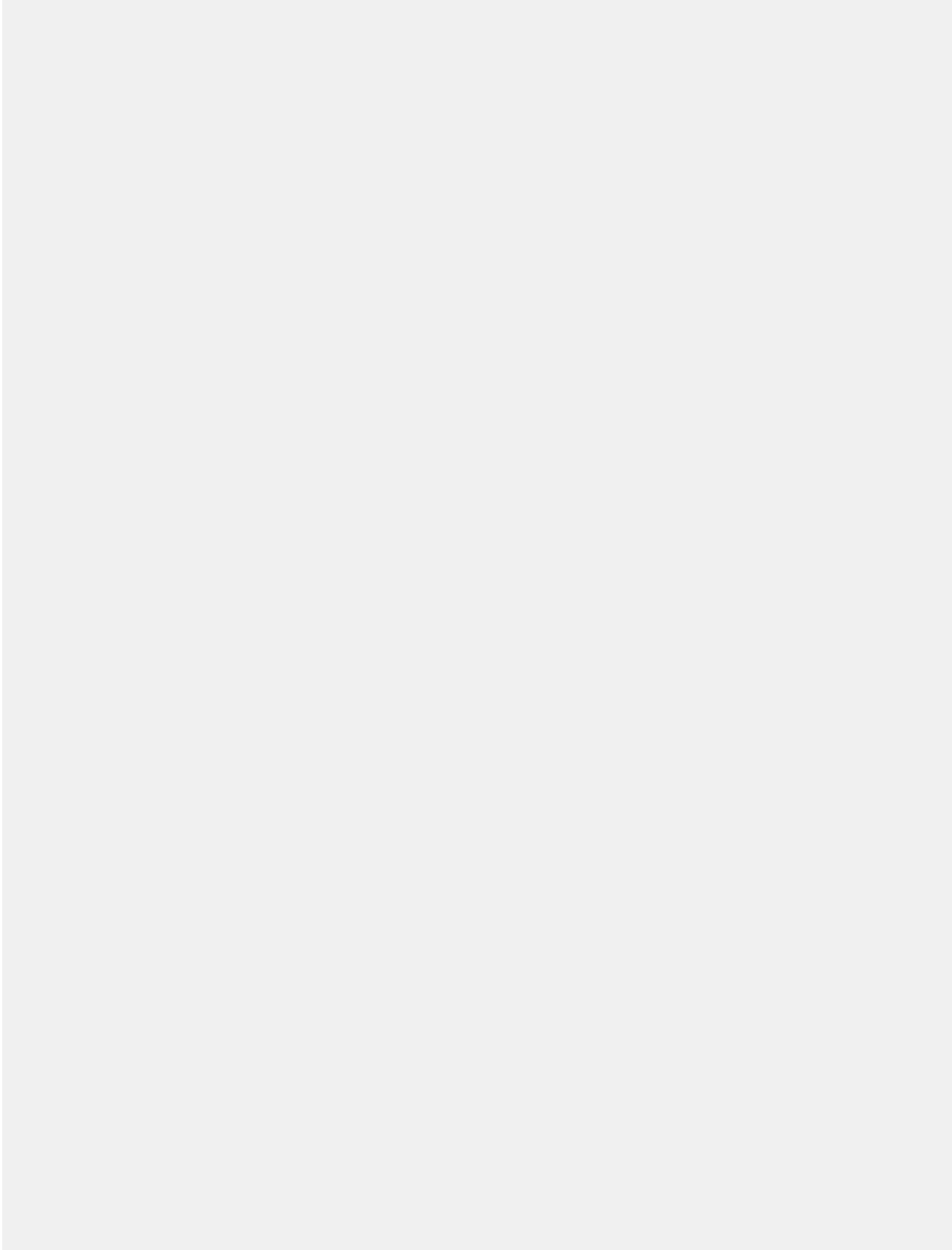
宣言的なメタデータの定義のサンプル — 条件設定解除されたダッシュボード

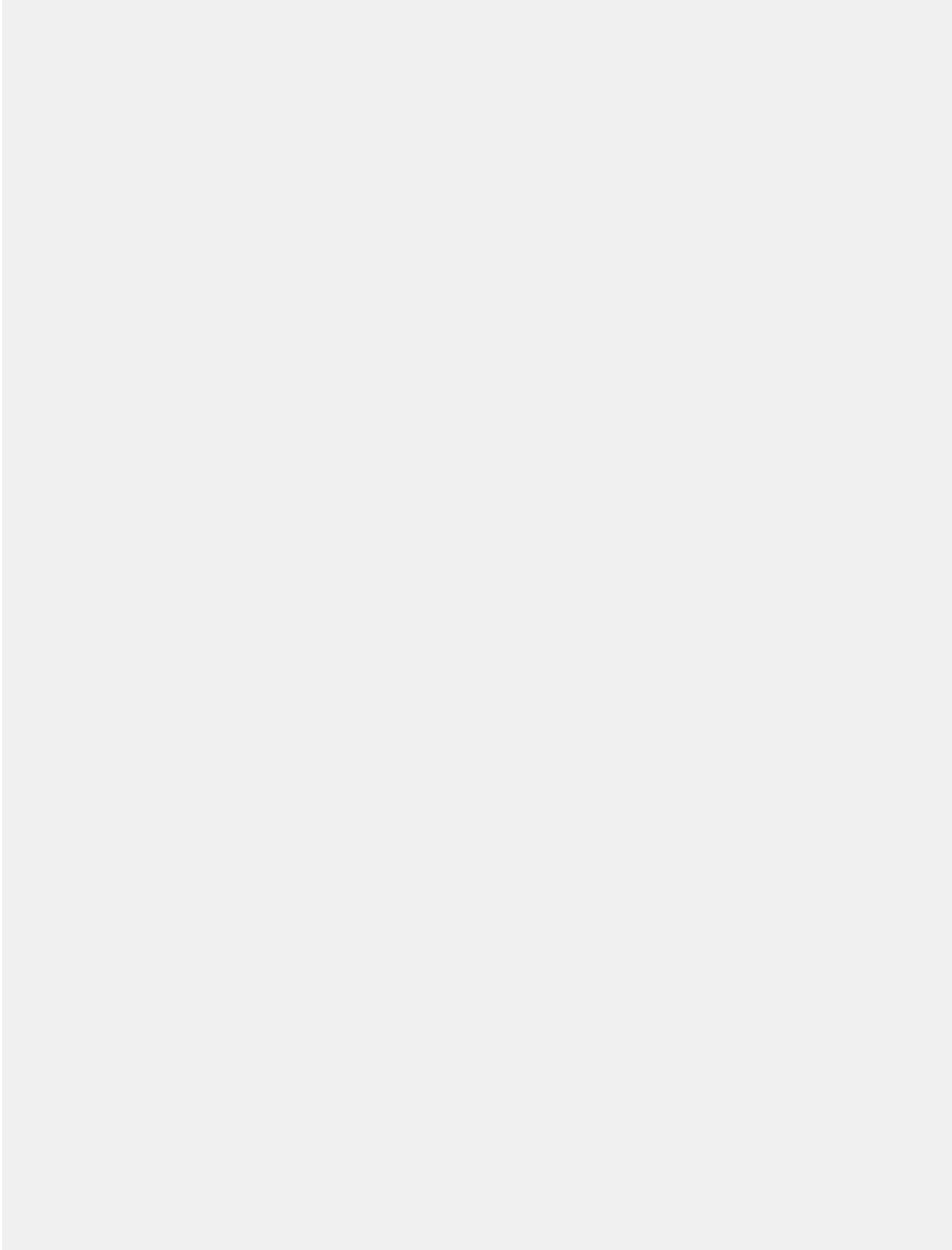
条件設定が解除されたダッシュボードの XML 定義のサンプルを次に示します。ファイル名はダッシュボードのタイトルに一致し、拡張子は `.xml` です。

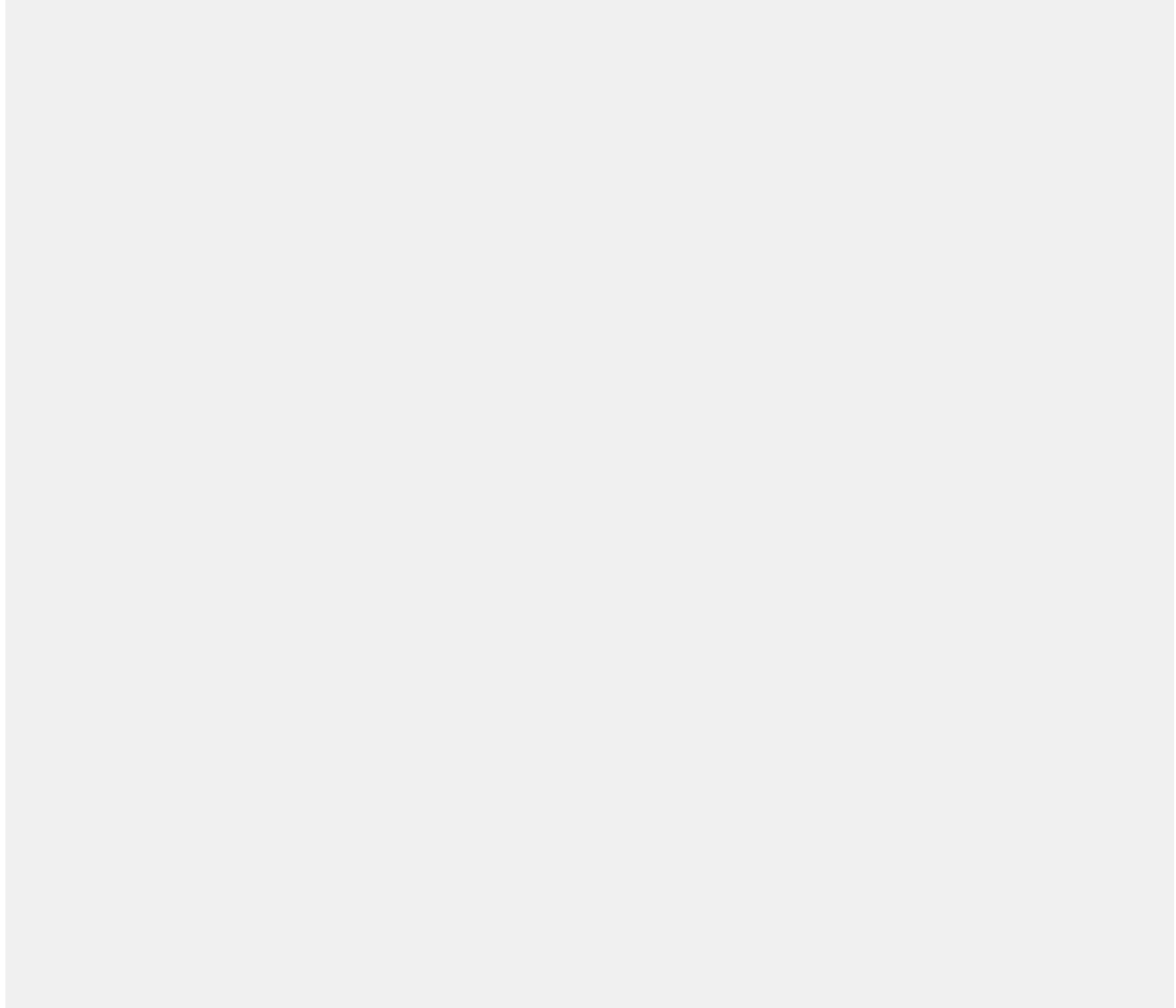












関連リンク

[Folder](#)

[Report](#)

DataCategoryGroup

データカテゴリグループを表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。



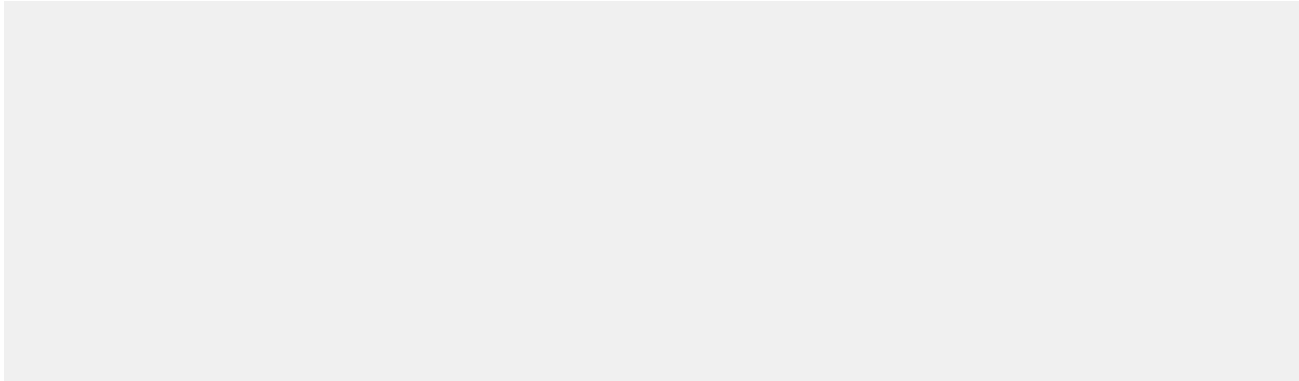
警告: メタデータ API を使用して、組織から別の組織にカテゴリ変更をリリースすると、XML ファイルで指定されていないカテゴリとレコードカテゴリが完全に削除されます。Salesforce.com では、Sandbox から本番組織に変更をリリースするのではなく、[設定] の [カスタマイズ] > [データカテゴリ] をクリッ

くして、組織内のデータカテゴリとレコードの関連付けを手動で作成することをお勧めします。詳細は、[「使用方法」](#)を参照してください。

データカテゴリグループでは次を行えます。

- データの分類と絞り込み。
- ユーザ間でのデータの共有。

各データカテゴリグループには、階層的にまとめることのできる項目またはデータカテゴリが含まれます。
下の例は、データカテゴリグループとそのデータカテゴリを示します。



メモ: データカテゴリグループ、データカテゴリ、親カテゴリ、およびサブカテゴリについての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「データカテゴリとは?」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ファイルのサフィックスは、
対応するパッケージディレクトリの

です。各データカテゴリグループに1つのファイルがあり、
フォルダに保存されます。

バージョン

データカテゴリグループは API バージョン 18.0 以降で使用できます。

項目



このメタデータ型には、次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	boolean	必須。カテゴリグループの状況。このカテゴリグループが有効であるか ()、否か () を示します。
	DataCategory	必須。データカテゴリグループ内の最上位レベルのカテゴリ。
	string	データカテゴリグループの説明。

項目名	データ型	説明
	string	必須。データカテゴリグループの一意の名前。データカテゴリグループを作成するとき、項目とファイル名(サフィックスを含まない)が一致している必要があります。には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	string	必須。Salesforce のオブジェクトを表す表示ラベル。
	ObjectUsage	データカテゴリグループと関連付けられたオブジェクト。


DataCategory

データカテゴリグループの項目(またはデータカテゴリ)を表します。データカテゴリは、他のデータカテゴリのリストを再帰的に含めることができます。

項目名	データ型	説明
	DataCategory[]	サブデータカテゴリの再帰的リスト。たとえば、一大陸内の国のリストです。各データカテゴリグループに最大 100 個のカテゴリを作成し、各データカテゴリグループ階層に最大 5 つのレベルを設定できます。
	string	必須。Salesforce ユーザインターフェースでのデータカテゴリの表示ラベル。
	string	<p>必須。API アクセスの一意の識別子として使用されるデータカテゴリの開発者名。名前には、英数字、およびアンダースコア (_) 文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した 2 つのアンダースコア文字を含めたりすることはできません。</p> <div>  <p>重要: この項目の値は一度定義されると、後で変更できません。</p> </div> <div>  <p>警告: 組織にすでに存在するカテゴリグループをリリースすると、XML ファイルで定義されていないカテゴリは、組織から完全に削除されます。詳細は、「使用方法」を参照してください。</p> </div>

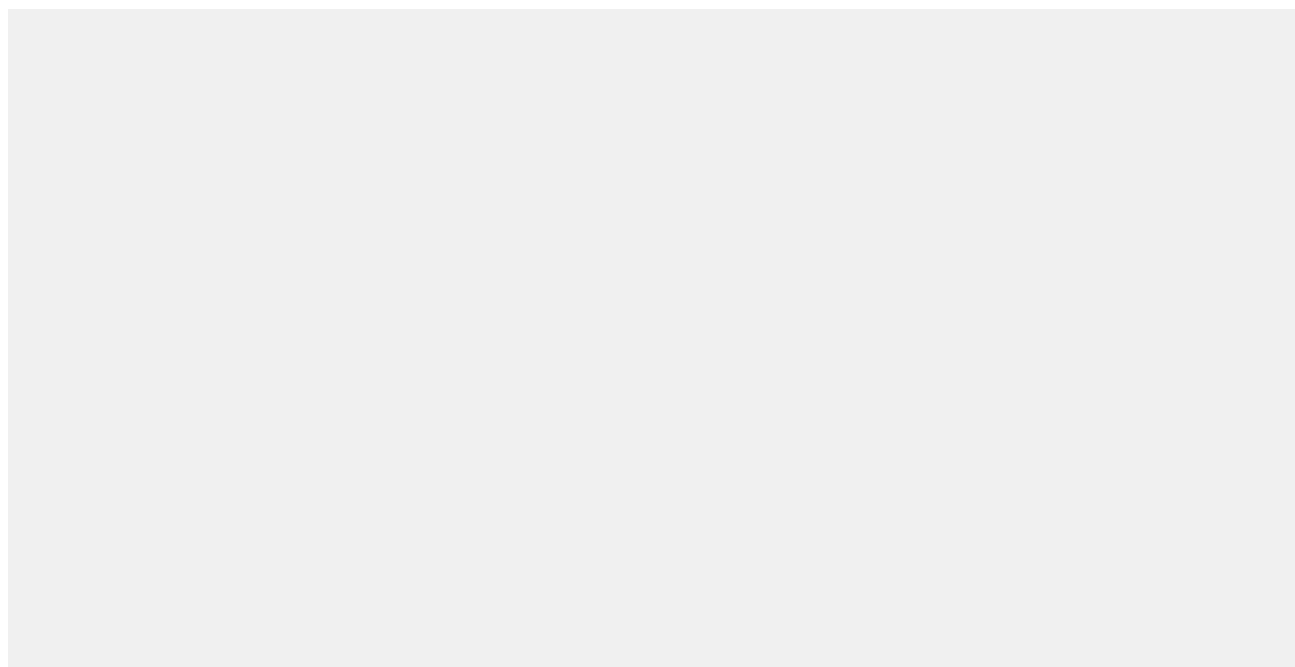
ObjectUsage

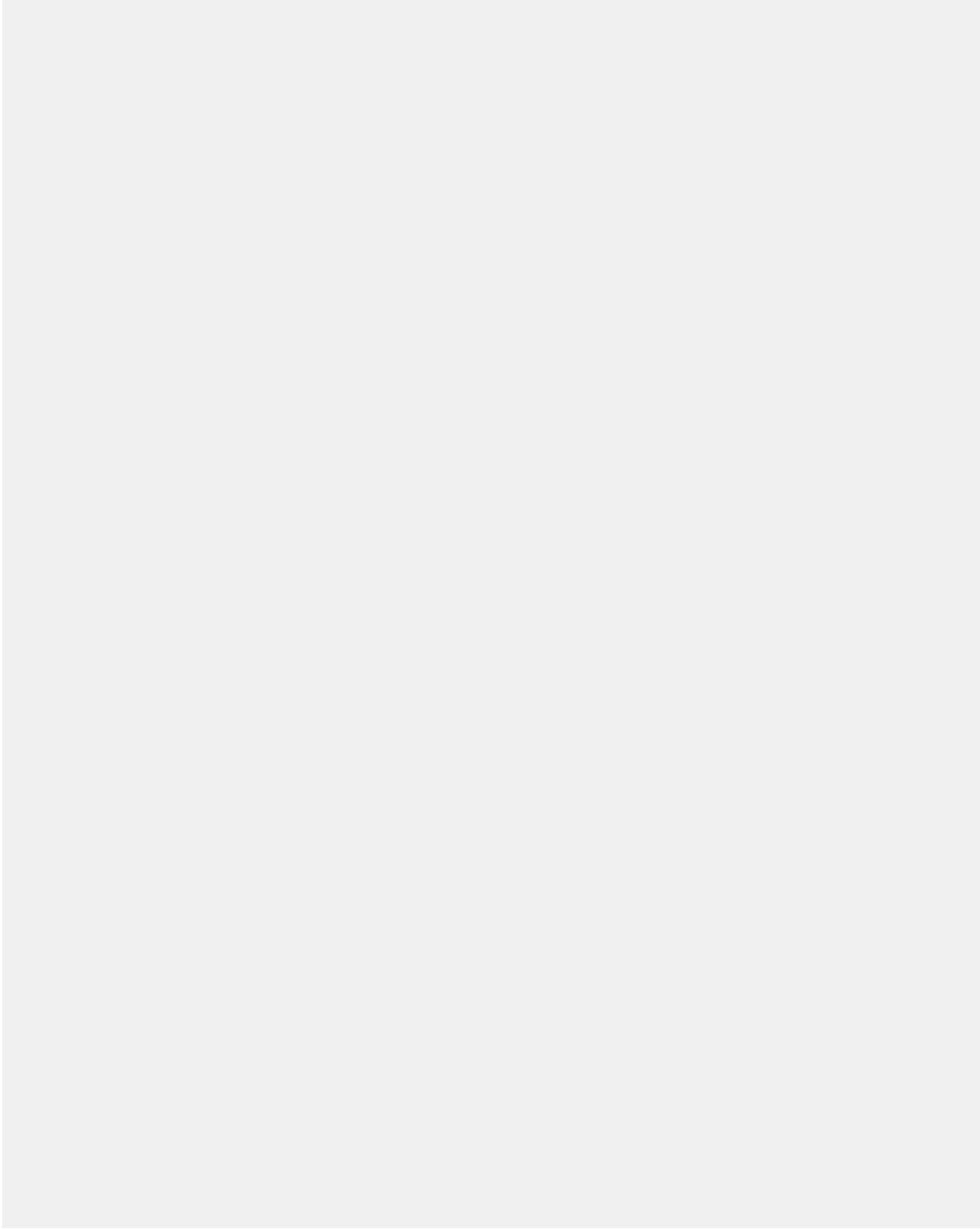
データカテゴリグループに関連付けることができるオブジェクトを表します。この関連付けによって、データカテゴリを使用したオブジェクトの分類および絞り込みが可能になります。

項目名	データ型	説明
	string[]	<p>データカテゴリグループに関連付けることができるオブジェクト名のリスト。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 記事に関連付けます。 データカテゴリグループの記事への関連付けについての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Salesforce ナレッジのカテゴリグループ割り当ての変更」を参照してください。 — 質問に関連付けます。 オブジェクトを最大 1 つのカテゴリグループに関連付けることができます。データカテゴリグループの質問への関連付けについての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「データカテゴリのアンサーへの割り当て」を参照してください。 <p> 警告: 組織にすでに存在するカテゴリグループをリリースすると、XML ファイルで定義されていないオブジェクトの関連付けは、組織から完全に削除されます。組織のカテゴリグループに関連付けられたすべてのレコードを必ず XML ファイルで指定するようにしてください。詳細は、「使用方法」を参照してください。</p>

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、 データカテゴリグループとそのデータカテゴリの定義のサンプルです。





使用方法

カテゴリグループ XML ファイルをリリースするとき、メタデータ API は、対象の組織にそのカテゴリグループが存在するかどうかを確認します。カテゴリグループが存在しない場合は作成されます。カテゴリグループがすでに存在する場合、メタデータ API は次を実行します。

- XML ファイルで定義されている新しいカテゴリまたはオブジェクトを追加する。
- XML ファイルで定義されていないすべてのカテゴリを削除する。削除されるカテゴリに関連付けられたレコードは、その親カテゴリに再度関連付けられます。
- XML ファイルで定義されていないオブジェクトの関連付けをすべて削除する。
- カテゴリが XML ファイルに指定された階層位置とは異なる位置に存在する場合、そのカテゴリを移動する。



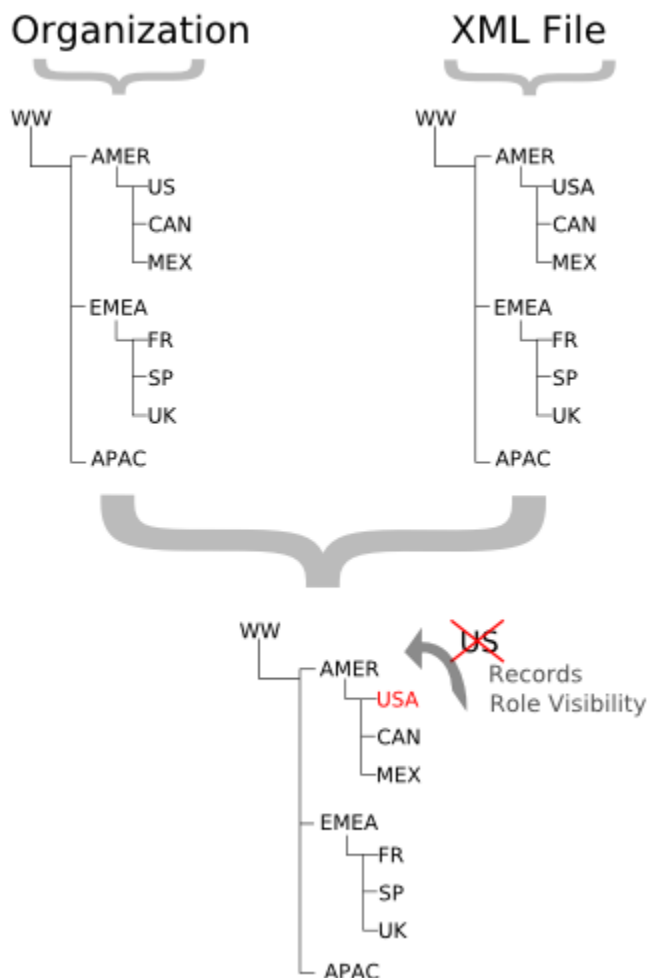
メモ: カテゴリが新しい親カテゴリに移動すると、新しい親カテゴリの表示を許可されていないユーザは再配置されたカテゴリを表示できません。



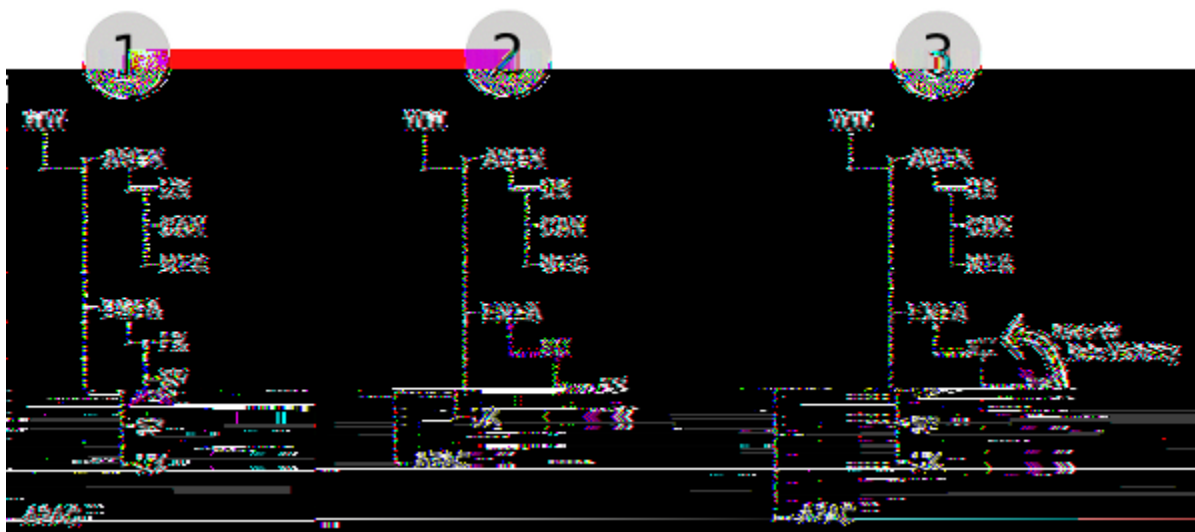
メモ: カテゴリの削除、カテゴリの再位置付け、およびレコードカテゴリと表示設定への影響については、Salesforce オンラインヘルプの「データカテゴリの削除」および「データカテゴリの変更および配置」を参照してください。

メタデータ API を使用して、組織から別の組織にカテゴリ変更をリリースすると、XML ファイルで指定されていないカテゴリとレコードカテゴリが完全に削除されます。Salesforce.com では、Sandbox から本番組織に変更をリリースするのではなく、[設定] の [カスタマイズ] > [データカテゴリ] をクリックして、組織内のデータカテゴリとレコードの関連付けを手動で作成することをお勧めします。

次の例では、データカテゴリグループの階層の XML 表現を、このデータカテゴリグループがすでに定義されている組織にリリースするとどのようになるかを説明します。組織には、カテゴリが含まれますが、XML ファイルには、同じ階層位置にカテゴリが含まれます。メタデータ API リリースプロセスは、組織からカテゴリを削除し、すべてのレコードの関連付けをから親カテゴリに移動します。また、カテゴリをの下に追加します。以前にのカテゴリに分類されていたすべてのレコードは、カテゴリに関連付けられます。



次の例では、データカテゴリグループのカテゴリを削除または移動し、そのXML表現を sandbox から、このデータカテゴリグループをすでに定義している本番組織にリリースするとどのようなようになるかを説明しています。階層1は、sandbox 組織の最初のデータカテゴリグループを示します。階層2では、カテゴリを の下に追加し、 、 、および を の下に移動しています。階層3では、 を削除し、そのレコードをその新しい親に関連付けています。最後に、変更を sandbox から本番組織にリリースします。



メタデータ API は、sandbox 組織に適用される変更の順序を識別しません。変更をある組織から別の組織にリリースするだけです。リリース中、最初に カテゴリの削除を検出し、本番組織からそのカテゴリを削除します。次に、すべてのレコードの関連付けを から、本番組織でその親である に移動します。メタデータ API は、 カテゴリを追加し、 と をその下に移動します。両方の組織のカテゴリグループの階層は同一のように見えますが、本番組織のレコードカテゴリは sandbox 組織とは異なります。最初に階層 1 で に関連付けられていたレコードは、sandbox 組織では に関連付けられますが、本番組織では に関連付けられています。

Document

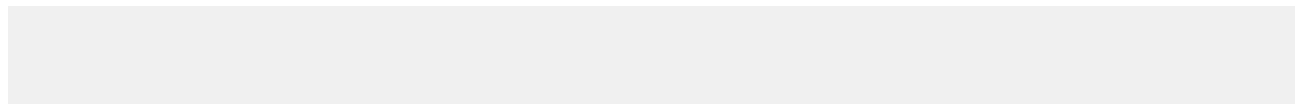
ドキュメントを表します。すべてのドキュメントは、 などのドキュメントフォルダ内にある必要があります。このメタデータ型は、[MetadataWithContent](#) コンポーネントを拡張し、その項目を共有します。

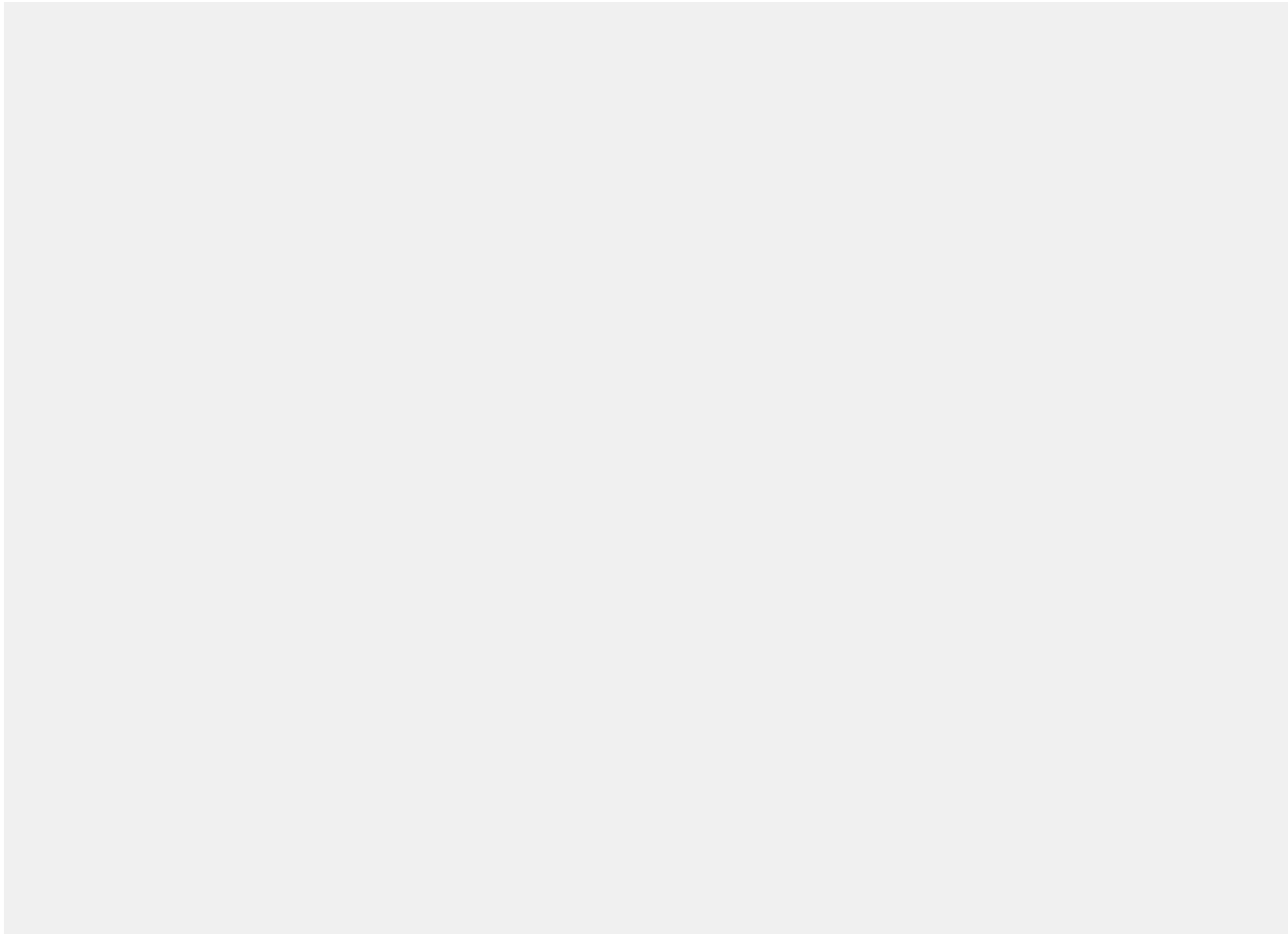
現在、ユーザは Force.com IDE を使用してドキュメントのメタデータをローカルファイルシステムにエクスポートできません。

ドキュメントの取得

ではドキュメントにワイルドカード (*) 記号を使用できません。明示的な名前を に入力するためにドキュメントのリストを取得するには、 をコールし、 をデータ型として渡します。DocumentFolder は ではデータ型として返されません。ドキュメントは、 の関連付けられている属性が true に設定された から返されます。この属性が true に設定されている場合は、DocumentFolder など、「Folder」という単語を含むコンポーネント名を使用してデータ型を作成できます。

次の例では、 内のフォルダを示します。





各ドキュメントには、`DocumentFilename` という名前の付随するメタデータファイルがドキュメントフォルダ内に作成されます。たとえば、`sampleFolder` フォルダにあるドキュメント `sampleDocument` の場合は、パッケージの `sampleFolder/sampleDocument` に `sampleDocument.DocumentFilename` があります。

バージョン

ドキュメントは、API バージョン 10.0 以降で使用できます。

API バージョン 17.0 以降では、ごみ箱に移動したドキュメントを含むフォルダを削除できます。フォルダを削除すると、ごみ箱内の関連ドキュメントをはすべて完全に削除されます。

API バージョン 18.0 以降では、ドキュメントに拡張子が不要です。

項目

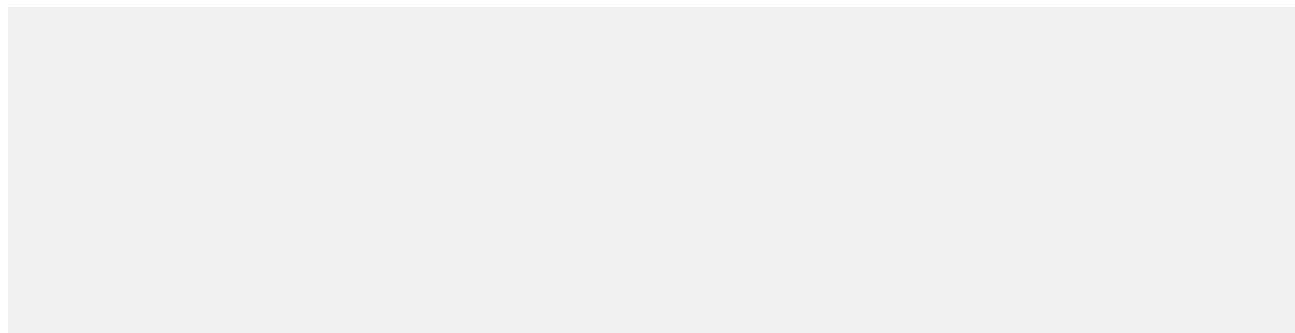
このメタデータ型には、次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	base64	ドキュメントのコンテンツ。Base 64 で符号化されたバイナリデータ API コールを行う前に、クライアントアプリケーションはバイナリ添付データを base64 に符号化する必要が

項目名	データ型	説明
		あります。応答を受信したら、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリに復号化する必要があります。この変換は、通常 SOAP クライアントによって処理されます。この項目は、 MetadataWithContent コンポーネントから継承されます。
	string	ドキュメントの説明。このドキュメントを他のドキュメントと区別するための説明を入力します。
	string	フォルダ名を含む、ドキュメントの名前。バージョン 17.0 以前では、 DocumentId にドキュメント拡張子が含まれていました。バージョン 18.0 以降では、 DocumentId にはファイル拡張子が含まれていません。 DocumentId には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目が、使用できなくなったバージョン 14.0 より前の文字を含んでいた場合は、それらの文字はこの項目から削除され、その項目の以前の値は DocumentId 項目に保存されていました。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	boolean	必須。ドキュメントが機密文書であるか (<input type="checkbox"/>)、否か (<input type="checkbox"/>) を示します。この項目と DocumentId はどちらか 1 つのみを true に設定でき、両方を DocumentId に設定することはできません。
	string	ドキュメントを説明するための 1 つ以上の語が含まれます。検索時には、この項目の語に一致するかどうかの確認が実行されます。
	string	DocumentId 項目で利用できる文字のリストは、バージョン 14.0 以降削減されています。この項目には、バージョン 14.0 以前の DocumentId 項目に含まれている値が含まれます。この項目は、 DocumentId 項目の値にその項目で受け入れられない文字が含まれる場合にのみ入力されます。
	boolean	必須。ドキュメントが HTML メールテンプレートに使用できる画像であり、メールで参照する場合に Salesforce ユーザ名とパスワードが必要でないか (<input type="checkbox"/>)、否か (<input type="checkbox"/>) を示します。その画像を、カスタムアプリケーションロゴまたはカスタムタブアイコンとして使用し、その両方を参照するのに Salesforce ユーザ名とパスワードが必要な場合は、この項目を DocumentId に設定します。この項目と DocumentId はどちらか 1 つのみを true に設定でき、両方を DocumentId に設定することはできません。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

ドキュメントの定義を次に示します。



関連リンク

[Folder](#)

EmailTemplate

メールテンプレートを表します。このメタデータ型は、[MetadataWithContent](#) コンポーネントを拡張し、その項目を共有します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

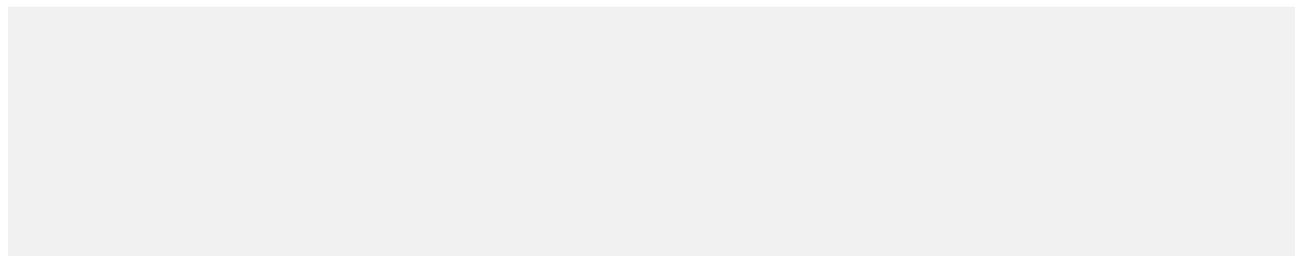
テンプレートファイルのファイルサフィックスは `EmailTemplateName` です。付随するメタデータファイルには、`EmailTemplateName` という名前が付けられます。

EmailTemplate コンポーネントは、対応するパッケージディレクトリの `sampleFolder` フォルダに保存されます。たとえば、`sampleFolder` フォルダにある `SampleTemplate` という名前のメールテンプレートの場合は、パッケージの `sampleFolder` に `SampleTemplate` があります。

メールテンプレートの取得

`getEmailTemplates()` ではメールテンプレートにワイルドカード(*)記号を使用できません。明示的な名前を入力するためにメールテンプレートのリストを取得するには、`getEmailTemplateByName()` をコールし、`getEmailTemplateByName()` をデータ型として渡します。

次の例では、`sampleFolder` 内のフォルダを示します。



項目名	データ型	説明
		<p>はバイナリ添付データを base64 に符号化する必要があります。応答を受信したら、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリに復号化する必要があります。この変換は、通常 SOAP クライアントによって処理されます。この項目には次のものが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ が に設定されている場合は、メール本文のバイナリコンテンツ ・ が に設定されている場合は、HTML メールコンテンツ ・ が に設定されている場合は、HTML 本文 ・ が に設定されている場合は、Visualforce の本文 <p>この項目は、MetadataWithContent コンポーネントから継承されます。</p>
	string	<p>メールテンプレートの説明。これはテンプレートを作成した理由を説明するのに役立ちます。</p>
	Encoding (string 型の 列挙)	<p>必須。デフォルトの文字コード設定は Unicode() です。テンプレートが別形式のデータを必要とする場合は、この設定を変更します。</p> <p>使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ : UI の「Unicode (UTF-8)」 ・ : UI の「米国一般および西ヨーロッパ (ISO-8859-1, ISO-LATIN-1)」 ・ : UI の「日本語 (Shift-JIS)」 ・ : UI の「日本語 (JIS)」 ・ : UI の「日本語 (EUC)」 ・ : UI の韓国語 (ks_c_5601-1987)」 ・ : UI の「繁体字中国語 (Big5)」 ・ : UI の「簡体字中国語 (GB2312)」 ・ : UI の「繁体字中国語 香港 (Big5-HKSCS)」 ・ : UI の「日本語 (Shift-JIS_2004)」
	string	<p>API アクセスの一意の識別子として使用されるメールテンプレートの開発者名。には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目が、使用できなくなったバージョン 14.0 より前の文字を含んでいた場合は、それらの文字はこの項目から削除され、その項目の以前の値は 項目に保存されていました。この項目は、Metadata コンポーネントから継承されています。</p>

項目名	データ型	説明
	string	このメールテンプレートに関連付けられたレターヘッド名。 が に設定されている場合のみ有効です。
	string	必須。メールテンプレート名。 項目で使用できる文字の リストは、バージョン 14.0以降削減されています。この項目には、 バージョン 14.0 以前の 項目に含まれている値が含まれ ます。
	PackageVersion[]	このメールテンプレートによって参照されるコンポーネントを含 むすべての管理パッケージのパッケージバージョンのリスト。こ の項目は、Visualforce メールテンプレートにのみ関連します。
	EmailTemplateStyle (string 型の 列挙)	必須。テンプレートのスタイル。この項目は、 が に設 定されている場合にのみ表示されます。 使用できるスタイルの値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • • • • • •
	string	メールの件名。
	string	が または に設定されている場合は、メール本 文のテキスト。
	EmailTemplateType (string 型の 列挙)	必須。メールテンプレートの種類。 有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • - すべてのユーザがテキストメールテンプレートを作成ま たは削除できます。 • - システム管理者および「HTML テンプレートの編集」 権限を持つユーザは、レターヘッドを基にして HTML メール テンプレートを作成できます。 • - システム管理者および「HTML テンプレートの編集」 権限を持つユーザは、レターヘッドを使用しないカスタムの HTML メールテンプレートを作成できます。HTML の知識が あるか、メールテンプレートに挿入する HTML コードを用意 しておく必要があります。 • - システム管理者および「アプリケーションのカ スタマイズ」権限を持つユーザは、Visualforce を使用してメー ルテンプレートを作成できます。

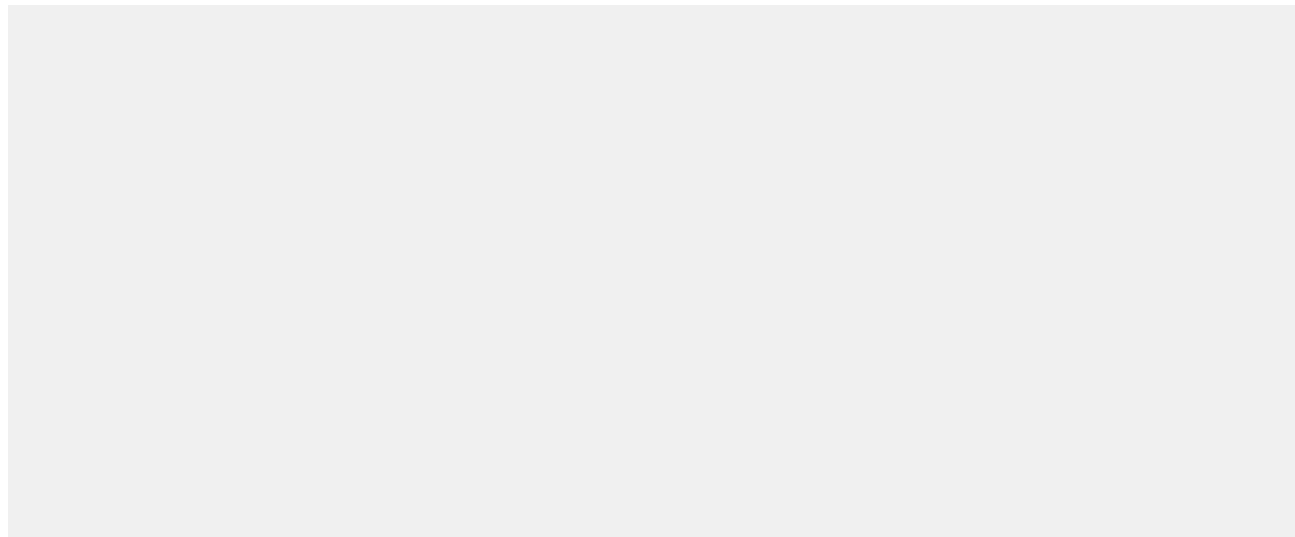
Attachment

Attachment は添付ファイルを表します。

項目	データ型	説明
	base64Binary	必須。添付ファイルのコンテンツ。Base 64 で符号化されたバイナリデータ API コールを行う前に、クライアントアプリケーションはバイナリ添付データを base64 に符号化する必要があります。応答を受信したら、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリに復号化する必要があります。この変換は、通常 SOAP クライアントによって処理されます。
	string	必須。添付ファイル名。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

メールテンプレートの XML 定義のサンプルを以下に示します。



関連リンク

[Letterhead](#)

EntitlementProcess

エンタイトルメントプロセスの設定を表します。 [Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その

項目を継承し

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場合

EntitlementProcess の値は、ディレクトリ内のファイルに保存されます。各ファイルの名前には、プロセスの名前とサフィックスが使用されます。各ファイルには、1つのエンタイトルメントプロセス、またはエンタイトルメントのバージョンが有効化されている場合はエンタイトルメントプロセスの1つのバージョンが含まれます。ファイル名は、エンタイトルメントプロセス名の最後にバージョンを付加した名前になります(該当する場合)。たとえば、「gold_support」という名前のエンタイトルメントプロセスの場合は、「gold_support_v2.entitlementProcess」のようになります。このファイル名は、SOAP APIを使用して公開される項目に対応します。このファイル名は、ユーザインターフェースの表示内容を表す項目とは異なり、バージョンが有効化されている場合は、同じエンタイトルメントプロセスの複数のバージョンで共有されます。

バージョン

エンタイトルメントプロセスは、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	エンタイトルメントプロセスが有効であるか()、有効でないか()を示します。
	string	エンタイトルメントプロセスの説明。
	string	<p>ケースのカスタム日付/時間項目に基づいてケースのプロセスが開始されるマイルストーンプロセスの場合、使用される日付と時間を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SlaStartDate (エンタイトルメントプロセスの開始日) • CreatedDate (ケースのオープン日) • ClosedDate (ケースのクローズ日) • LastModifiedDate (ケースの最終更新日) • StopStartDate (ケースの停止日)
	string	カスタム条件が一致したときにケースのプロセスが終了するマイルストーンプロセスに条件ロジックを追加する場合、その条件ロジックを指定します。
	FilterItem[]	カスタム条件が一致したときにケースのプロセスが終了するマイルストーンプロセスの場合、その条件を指定します。
	string	カスタム数式の評価がtrueになったときにケースのプロセスが終了するマイルストーンプロセスの場合、その数式を指定します。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	エンタイトルメントプロセスがデフォルトのバージョンであるか()、否か()を示します。 この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。
	EntitlementProcessMilestoneItem[]	エンタイトルメントプロセスのマイルストーンを表します。
	string	ユーザインターフェースに表示されるエンタイトルメントプロセスの名前。
	string	このエンタイトルメントプロセスに属するバージョンの順序を示します。この項目の内容は、エンタイトルメントプロセスのすべてのバージョンで同じであれば、任意の値が有効です。 この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。
	string	エンタイトルメントプロセスバージョンの説明。 この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。
	int	エンタイトルメントプロセスのバージョン番号。1 以上である必要があります。 この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。

EntitlementProcessMilestoneItem

エンタイトルメントプロセスのマイルストーン項目を表します。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	条件が一致したときにのみ適用されるマイルストーンに条件ロジックを追加する場合、その条件ロジックを指定します。
	FilterItem[]	条件が一致したときにのみ適用されるマイルストーンの場合、その条件を指定します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	数式の評価が true になったときにのみ適用されるマイルストンの場合、その数式を指定します。
	string	マイルストンの名前。
	int	ケースのエンタイトルメントプロセスが開始してから、マイルストーンが発生するまでの分数。
	WorkflowActionReference[]	マイルストーンが完了するとトリガされるアクション。
	EntitlementProcessMilestoneTimeTrigger[]	エンタイトルメントプロセスのマイルストンのタイムトリガ。
	boolean	マイルストーンが開始されるタイミング。マイルストーン条件が一致したとき (true)、またはケースのエンタイトルメントプロセスが開始されたとき (false)。

EntitlementProcessMilestoneTimeTrigger

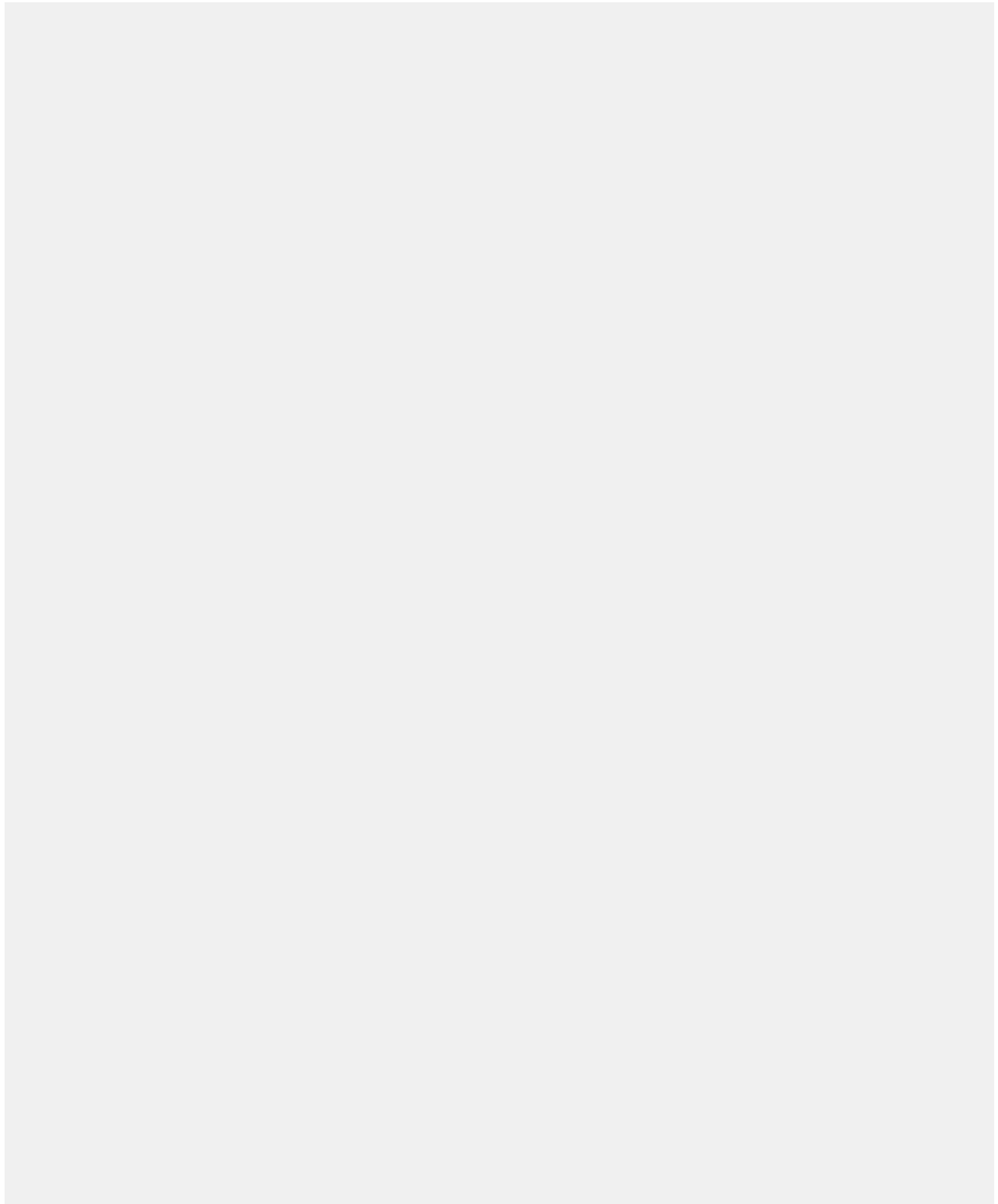
エンタイトルメントプロセスのマイルストンのタイムトリガを表します。

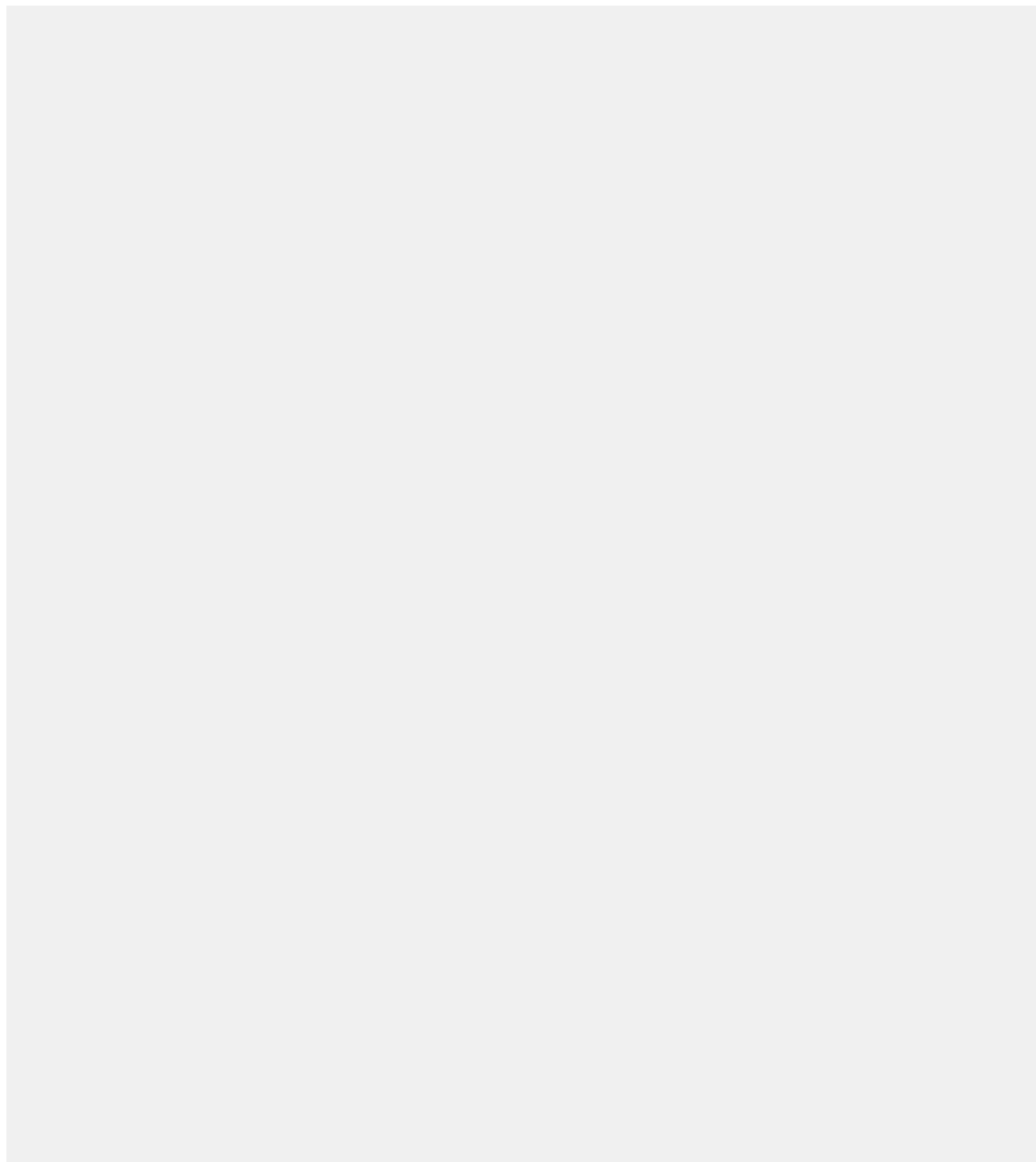
項目

項目名	項目のデータ型	説明
	WorkflowActionReference[]	タイムトリガに達したときに、その時点でマイルストーンが完了していない場合に実行されるアクション。
	int	タイムトリガが有効になってから、マイルストンの目標完了日までの時間。これは、負または正の値になる場合があります。負の値は、目標完了日に達していないことを示し、警告のタイムトリガに相当します。正の値は、目標完了日が過ぎたことを示し、違反のタイムトリガに相当します。
	MilestoneTimeUnits (string 型の 列挙)	ワークフローがトリガされるタイミングを判断するために使用される単位の種類を指定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • •

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、エンタイトルメントプロセスのサンプルです。





EntitlementTemplate

エンタイトルメントテンプレートを表します。エンタイトルメントテンプレートは、商品にすばやく追加できる、事前定義されたカスタマサポートの条件です。たとえば、ユーザが顧客に提供される商品にエンタイトルメントを容易に追加できるよう Web サポートまたは電話サポートのエンタイトルメントテンプレートを作成できます。EntitlementTemplate は Metadata メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

EntitlementTemplate コンポーネントは、対応するパッケージディレクトリのディレクトリに保存されます。ファイル名はエンタイトルメントテンプレートの一意の名前に一致し、拡張子は .xml です。

バージョン

Force.com の EntitlementTemplate コンポーネントは、API バージョン 18.0 以降で使用できます。

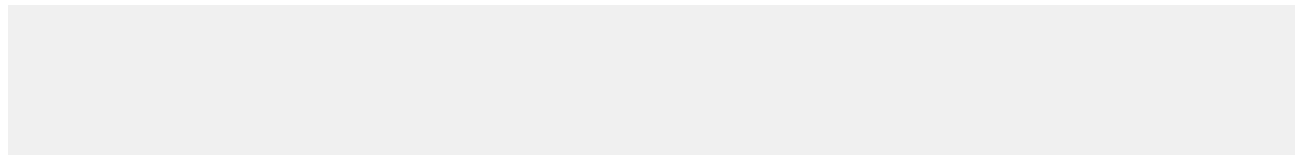
項目

項目	データ型	説明
business_hours	string	エンタイトルメントのサポートされている営業時間。
case_limit	int	エンタイトルメントがサポートするケース数を制限します。
description	string	エンタイトルメントプロセスのエンタイトルメントへの追加
enable_case_limit	boolean	このテンプレートから作成されたエンタイトルメントでケース数を制限する場合は、true 。それ以外の場合は、false 。
validity_days	int	エンタイトルメントが有効な日数。
type	string	Web サポート、電話サポートなど、エンタイトルメントのタイプ。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

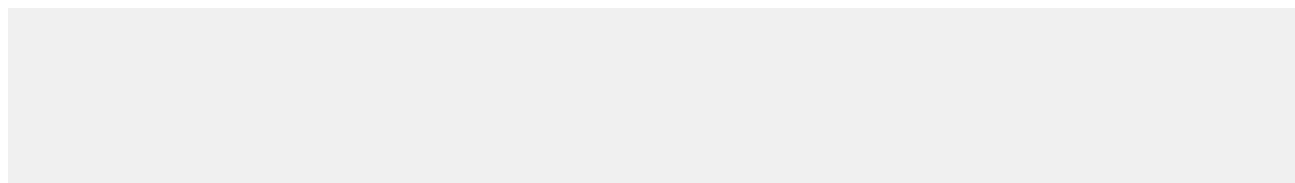
エンタイトルメントテンプレートの XML 定義のサンプルを以下に示します。

```
<pre><entitlementtemplate xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
  <business_hours>24x7</business_hours>
  <case_limit>10</case_limit>
  <description>Web サポート</description>
  <enable_case_limit>true</enable_case_limit>
  <validity_days>30</validity_days>
  <type>Web</type>
</entitlementtemplate>
```

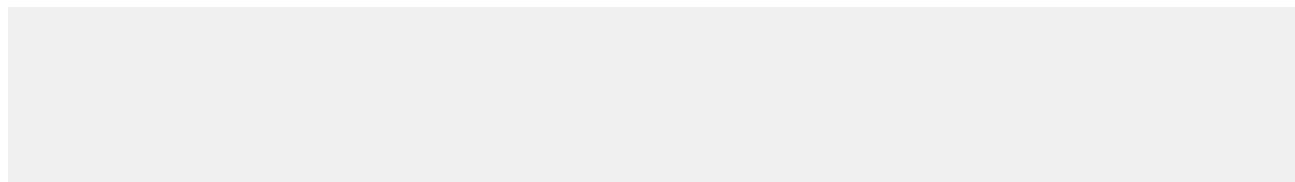


EscalationRules

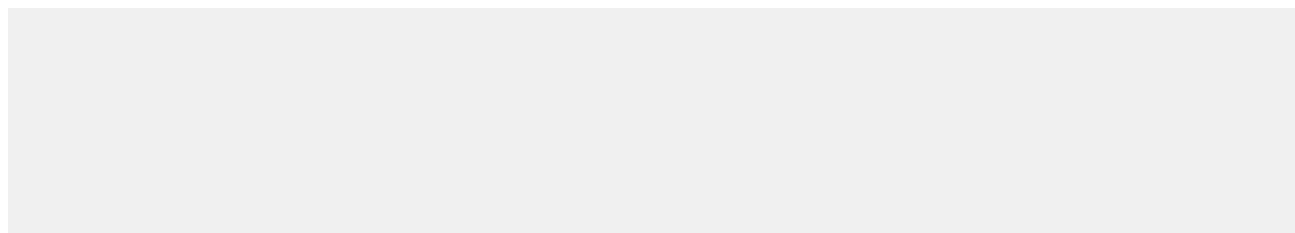
ケースが一定の期間内に解決されない場合に自動的にエスカレーションを行うための、ケースのエスカレーションルールを表します。該当するすべてのオブジェクト、特定のオブジェクト、または特定のオブジェクトの特定のルールのルールメタデータにアクセスできます。すべてのオブジェクトのすべてのエスカレーションルールにアクセスする
構文は次のとおりです。



特定のオブジェクトのすべてのルールでは、ワイルドカードを使用しない類似の構文が使用されます。たとえば、Case オブジェクトのすべてのエスカレーションルールでは、次の構文が使用されます。



オブジェクトの特定のエスカレーションルールにもアクセスできます。次の例では、Case オブジェクトの「samplerule」および「newrule」エスカレーションルールのみアクセスできます。この例では、型名の構文ではなく、
です。



ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

オブジェクトの EscalationRules のサフィックスは
れます。たとえば、すべての Case エスカレーションルールは、
す。

で、

フォルダに保存さ
ファイルに保存されま

バージョン

EscalationRules コンポーネントは、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	EscalationRule[]	1つのエスカレーションルールを表し、有効かどうかを示します。エスカレーションルールは EscalationRules コンテナ内に表示される順序で処理されます。


EscalationRule

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	エスカレーションルールが有効であるか()、否か()を示します。
	string	Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 を参照してください。 この値は にできません。
		エスカレーションルールのルールエントリの定義が含まれます。

RuleEntry

ルールで使用される項目を表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	ルールに指定されている高度な絞り込み条件。
	string	エスカレーションアクションが実行される時間。 が に設定されている場合のみ指定します。
	(string 型の 列挙)	有効な値は、次のとおりです。 ・ ・ ・
		割り当て条件を定義するリストの項目。
	boolean	レコードが変更されるとエスカレーションが無効化されるか()、否か()を示します。

項目名	項目のデータ型	説明
	ページ	エスカレーション条件が一致すると実行されるアクション。
	(string 型の 列挙)	エスカレーションの開始時間を示します。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・
	string	入力規則数式。  メモ: と のいずれかを指定します。両方の項目は指定できません。

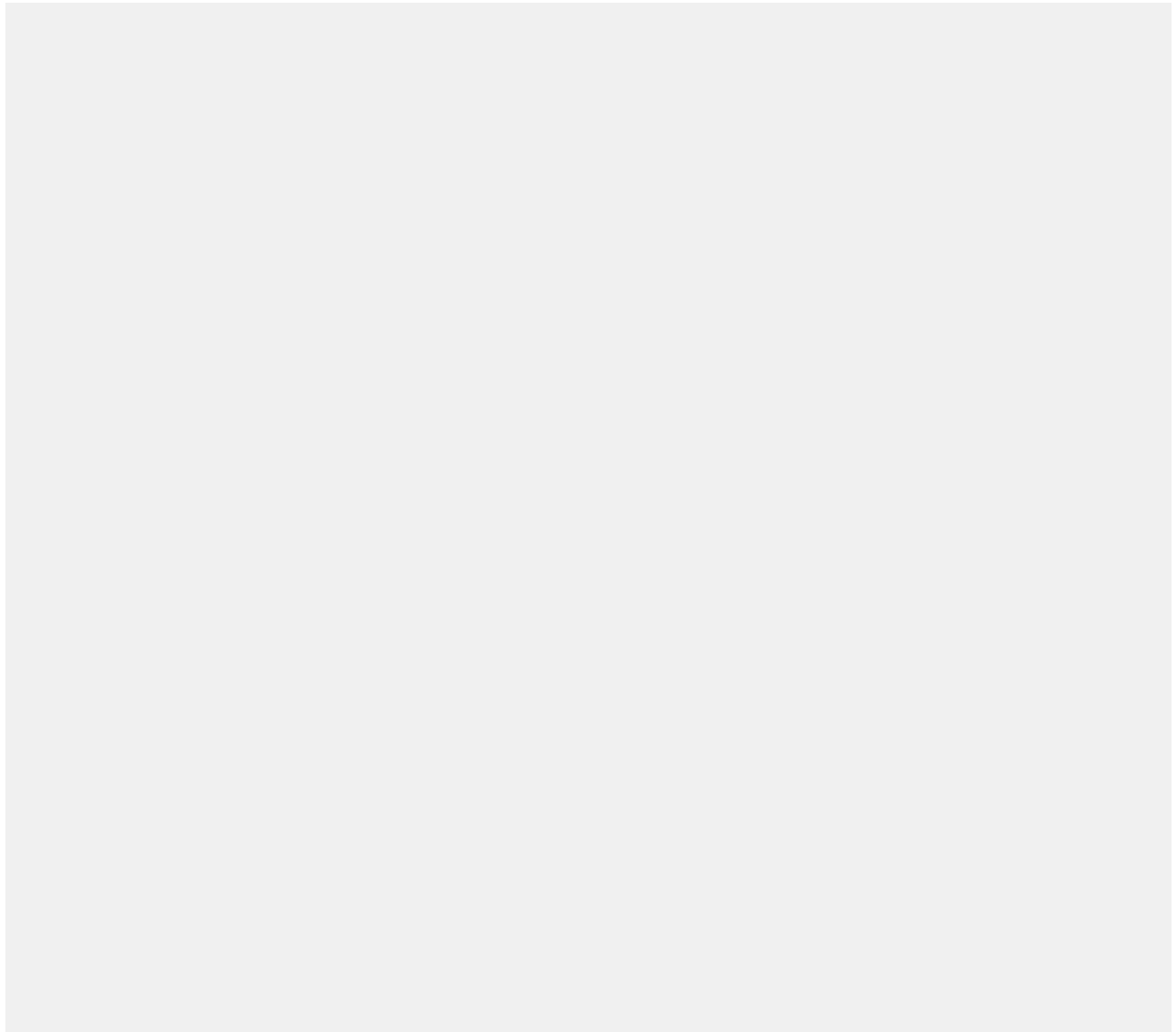
EscalationAction

エスカレーションルールで実行されるアクションを説明します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	項目が割り当てられるユーザまたはキューの名前。
	string	エスカレーションルールで指定された新しい所有者に自動送信されるメールで使用するテンプレートを指定します。
	(string 型の 列挙)	有効な値は、次のとおりです。 ・ ・
	int	エスカレーションが発生するまでの分数。
	boolean	ケースがエスカレーションされたときにケース所有者に通知するか()、否か()を示します。
	string	通知するユーザのメールアドレスを指定します。
	string	通知するユーザを指定します。
	string	通知メールに使用するテンプレートを指定します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

EscalationRules コンポーネントの例を次に示します。



Flow

フローに関連付けられたメタデータを表します。フローを使用すると、ユーザが一連の画面を移動してデータベース内のレコードをクエリおよび更新するアプリケーションを作成できます。また、ユーザ入力に基づいてロジックを実行して分岐機能を提供し、動的なアプリケーションを構築できます。対応する UI ベースのフロー作成ツールの詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Flow Designer の概要」を参照してください。

ファイルベースのメタデータ API を使用してフローを操作する場合、次の点に留意してください。

- 管理パッケージからインストールされたフローへのアクセスには、メタデータ API を使用できません。
- フローファイル名には空白を含めないでください。含めるとリリース時にエラーが発生します。先頭と末尾の空白は許可されますが、リリース時に削除されます。
- メタデータ API を使用してフローをリリースするときには、有効なフローまたはかつて有効だったフローは上書きできません。
- フローの新バージョンを作成するには、ファイルに新しいバージョン番号を指定してリリースします。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

フローは、対応するパッケージディレクトリの `flows` ディレクトリに保存されます。ファイル名はフローの一意の完全名と一致し、拡張子は `.flow` です。

バージョン

フローメタデータ API は、API バージョン 24.0 以降で使用できます。

Flow

このメタデータ型はフローの有効な定義を表します。 [Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その `Flow` 項目を継承します。

項目名	データ型	説明
	FlowApexPluginCall[]	Apex プラグインへのコールを定義するノードの配列。
	FlowAssignment[]	割り当てノードの配列。
	FlowChoice[]	静的選択オプションの配列。
	FlowConstant[]	定数の配列。
	FlowDecision[]	決定ノードの配列。
	string	フローの説明。
	FlowDynamicChoiceSet[]	データベースルックアップに基づく選択オプションのセットを構成する配列。
	FlowFormula[]	数式の配列。
	string	<p>必須。Metadata コンポーネントから継承されます。メタデータ API 内のファイルの名前。</p> <p>は、ハイフンで区切られた2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アンダースコアと英数字のみで構成されるフローの一意の名前。組織全体で一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。 • フローのバージョン番号。

項目名	データ型	説明
		たとえば、「sampleFlow-3」は、一意の名前が sampleFlow であるフローのバージョン 3 であることを示します。
	string	必須。フローの表示ラベル。
	FlowRecordCreate[]	データベース内のレコードを作成するためのノードの配列。
	FlowRecordDelete[]	データベース内のレコードを削除するためのノードの配列。
	FlowRecordLookup[]	データベース内のレコードを検索するためのノードの配列。
	FlowRecordUpdate[]	データベース内のレコードを更新するためのノードの配列。
	FlowScreen[]	画面ノードの配列。
	string	フローの開始点となるノードまたは要素を指定します。
	FlowStep[]	ステップノードの配列。
	FlowSubflow[]	サブフローの配列です。この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。
	FlowTextTemplate[]	テキストテンプレートの配列。
	FlowVariable[]	変数定義の配列。

FlowApexPluginCall

フローから Apex プラグインへのコールを定義します。[FlowNode](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。Apex クラスの名前。
	FlowConnector	この Apex プラグインコールの後に実行するノードを指定します。
	FlowConnector	Apex プラグインコールの結果がエラーの場合に実行するノードを指定します。
	FlowApexPluginCallInputParameter[]	フローから Apex プラグインへの入力パラメータの配列。
	FlowApexPluginCallOutputParameter[]	Apex プラグインからフローへの出力パラメータの配列。

FlowApexPluginCallInputParameter

フローから Apex プラグインへの入力パラメータを定義します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。入力パラメータの一意の名前。
	FlowElementReferenceOrValue	入力パラメータの値を定義します。

FlowApexPluginCallOutputParameter

Apex プラグインからフローへの出力パラメータを定義します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。出力パラメータ値を割り当てる変数を指定します。
	string	必須。出力パラメータの一意の名前。

FlowAssignment

フロー内の変数の値を動的に変更できる割り当てノードを定義します。[FlowNode](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	FlowAssignmentItem []	インデックス0から開始して特定の順序で実行される、割り当て操作の配列。
	FlowConnector	この割り当てノードの後に実行するノードを指定します。

FlowAssignmentItem

変数に適用する操作を定義します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。指定した演算子を適用する変数への参照。
	FlowAssignmentOperator (string 型の列挙)	必須。assignToReference 項目での変数参照に適用する操作。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">– assignToReference 項目の変数に指定値を割り当てます。– assignToReference 項目の変数に指定値を追加します。– assignToReference 項目の変数から指定値を減算します。

項目名	データ型	説明
	FlowElementReferenceOrValue	<code>assignToReference</code> 項目の変数参照に演算子で適用する値を定義します。

FlowChoice

選択肢リソースは、フロー全体で参照または再利用できるスタンドアロンの選択オプションです。[FlowElement](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。画面に表示する選択肢の表示ラベル。
	FlowDataType (string 型の列挙)	必須。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • • • •
	FlowChoiceUserInput	選択肢が選択されたときに選択肢でユーザ入力を許可できるようにします。複数選択肢項目ではサポートされません。
	FlowElementReferenceOrValue	割り当て、Apex プラグインへのコール、レコード要素など、フロー実行時に使用される実際の値。null の場合、この選択肢の値は常に null になります。

FlowChoiceUserInput

ユーザが選択肢を選択したときに表示されるユーザ入力項目を、選択肢に含められるようにします。ユーザ入力は複数選択肢項目ではサポートされません。

項目名	データ型	説明
	boolean	ユーザが選択肢を選択したときに、ユーザに項目への入力を要求するかどうかを示します。
	string	実行時にユーザに入力を要求するために表示されるテキスト。差し込み項目がサポートされます。
	FlowInputValidationRule	実行時にユーザ入力の検証に使用されるルール。

FlowCondition

ルールの条件を定義します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。条件式の左側として機能する要素の一意の名前。
	FlowComparisonOperator (string型の列挙)	<p>必須。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ — 左側に選択肢が必要です。 ・ — 左側にノードが必要です。
	FlowElementReferenceOrValue	条件式の右側の要素の一意の名前または実際の値(テキストや数値など)。

FlowConnector

コネクタは、フローのノードの実行順序を決定します。コネクタは、後続ノードを定義してそれにリンクします。

項目名	データ型	説明
	string	必須。現在のノードの完了後に実行するノード。

FlowConstant

定数リソースは、フロー全体で利用できる固定値を定義します。 `FlowElement` を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	FlowDataType (string 型の列挙)	<p>必須。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • • • •
	FlowElementReferenceOrValue	<p>定数のデフォルト値。この項目には差し込み項目を使用できません。また、別のsObjectを参照することもできません。</p>

FlowDecision

一連のルールを評価し、最初に true と評価されたルールに基づいてフロー実行を転送する決定ノード。FlowNode を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	FlowConnector	true と評価されたルールがない場合に実行するノードを指定します。
	string	デフォルトコネクタの表示ラベル。
	FlowRule[]	決定用のルールの配列。ルールはリストされた順序で評価され、最初に true となったルールのコネクタが使用されます。true のルールがない場合、デフォルトのコネクタが使用されます。Cloud Flow Designer では、ルールは「結果」と呼ばれます。

FlowDynamicChoiceSet

実行時に sObject からデータを検索して動的に選択肢のセットを生成します。FlowElement を拡張し、その項目のすべてを継承します。



メモ: フロー内で Geolocation 型の sObject カスタム項目を参照することはできません。たとえば、レコード検索条件内、入力または出力項目の割り当て内で、または動的選択肢の表示項目、値項目、並び替え項目として Geolocation 項目を使用することはできません。

項目名	データ型	説明
	FlowDataType (string 型の列挙)	必須。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • • • •
	string	必須。ユーザに選択肢表示ラベルとして表示する sObject の項目。たとえば、取引先 sObject では、動的に生成される選択肢をデータベースから取得したレコードの取引先名として表示する場合、DisplayField "Name" を使用します。
	FlowRecordFilter[]	データベースから取得したレコードに適用する検索条件の配列。たとえば、指定日以降に作成された取引先のみを含めるように取引先を絞り込む場合などがあります。

項目名	データ型	説明
	int	<p>生成される選択肢のセットに含まれる選択肢の最大数です。最大数とデフォルトの数は 200 です。</p> <p>と も指定されている場合、レコードは、 が適用される前に並び替えられます。</p> <p>この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。</p>
	string	<p>必須。データベースから項目情報を取得して、生成された選択肢のセットに使用する sObject。たとえば、データベースの取引先レコードの情報から選択肢を動的に生成するには、"Account" を使用します。</p>
	FlowOutputFieldAssignment[]	<p>ユーザが選択したレコードの項目をフローの他の場所で使用できる変数に割り当てる配列。たとえば、ユーザが動的に生成された選択オプションのリストから取引先名を選択した場合、outputAssignments はユーザが選択した取引先からの ID と AnnualRevenue を指定した変数に割り当てることができます。</p>
	string	<p>検索条件を満たすレコードを並び替えるために使用される項目です。この項目が指定されていない場合、返されるレコードは並び替えられません。</p> <p>SOAP API に明記されているとおり、 API 項目プロパティを持つ項目でのみ、レコードを並び替えることができます。</p> <p>この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。</p>
	SortOrder (string 型の列挙)	<p>レコードの並び替え順です。この項目が指定されていない場合、結果は並び替えられません。</p> <p>有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 昇順 — 降順 <p>この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。</p>
	string	<p>選択肢の保存値。ユーザに選択オプションとして表示される値 (DisplayField) とは異なる場合があります。たとえば、DisplayField が取引先の "Name" で、valueField が取引先の "Id" になる場合があります。</p>

FlowElement

すべてのフロー要素の基本クラス。これは抽象クラスです。

項目名	データ型	説明
	string	フロー要素の説明。
	string	必須。フロー要素の一意の名前。

FlowElementReferenceOrValue

既存の要素または指定した特定の値への参照を定義します。必ずいずれか 1 つの項目のみを指定してください。

項目名	データ型	説明
	boolean	boolean 値を指定するにはこの項目を使用します。異なるデータ型または要素参照を指定する場合はこの項目を使用しないでください。
	date	date 値を指定するにはこの項目を使用します。異なるデータ型または要素参照を指定する場合はこの項目を使用しないでください。
	string	既存の要素の名前を指定するにはこの項目を使用します。要素参照の代わりに値を指定する場合はこの項目を使用しないでください。
	double	double 値を指定するにはこの項目を使用します。異なるデータ型または要素参照を指定する場合はこの項目を使用しないでください。
	string	string 値を指定するにはこの項目を使用します。異なるデータ型または要素参照を指定する場合はこの項目を使用しないでください。

FlowFormula

フローの関数と要素を使用して数値を計算します。[FlowElement](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。Salesforce の数式。返される値は数値である必要があります。Salesforce オンラインヘルプの「フロー数式の概要」を参照してください。
	int	返される値のスケール。特に、小数点以下の桁数。

FlowInputFieldAssignment

レコードの項目の値を sObject に割り当てます。



メモ: フロー内で Geolocation 型の sObject カスタム項目を参照することはできません。たとえば、レコード検索条件内、入力または出力項目の割り当て内で、または動的選択肢の表示項目、値項目、並び替え項目として Geolocation 項目を使用することはできません。

項目名	データ型	説明
	string	必須。レコードの作成または更新中に値が割り当てられる sObject 項目の名前。
	FlowElementReferenceOrValue	sObject 項目に割り当てられる値。

FlowInputValidationRule

入力規則は、ユーザが入力したデータが指定された要件を満たすことを検証します。入力規則の評価が false の場合、指定されたエラーメッセージが表示されます。

項目名	データ型	説明
	string	必須。 が false と評価されたときに表示するエラーメッセージ。
	string	必須。ユーザ入力の検証に使用される boolean 数式。Salesforce オンラインヘルプの「フロー数式の概要」を参照してください。

FlowNode

ノードは、フローダイアグラムに表示される要素の種別です。FlowElement を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。ノードの名前。この一意ではない表示ラベルは、FlowElement から継承される、ノードの一意の名前とは異なります。
	int	必須。ノードの水平位置 (左からのピクセル数)。
	int	必須。ノードの垂直位置 (上からのピクセル数)。

FlowOutputFieldAssignment

レコードの sObject 項目の値を、フローの他の場所で使用できる変数に割り当てます。レコードは、レコードの検索で選択される場合と、ユーザの選択によって選択される場合があります。



メモ: フロー内で Geolocation 型の sObject カスタム項目を参照することはできません。たとえば、レコード検索条件内、入力または出力項目の割り当て内で、または動的選択肢の表示項目、値項目、並び替え項目として Geolocation 項目を使用することはできません。

項目名	データ型	説明
	string	必須。sObject 項目の値を保存する変数への参照。
	string	必須。レコードの検索の後に値が割り当てられる sObject 項目の名前。

FlowRecordCreate

フローからの値を使用してデータベース内に新しいレコードを作成します。[FlowNode](#)を拡張し、そのプロパティのすべてを継承します。



メモ: フローレコードの作成、ルックアップ、更新、および削除操作は、CRUDベースのメタデータコールである [FlowRecordCreate](#)、[FlowRecordUpdate](#)、[FlowRecordDelete](#)、および [FlowRecordUpsert](#) とは異なります。フローレコードメソッドは、フロー内からレコード操作に適用されるため、CRUD 設定エンティティへのメタデータコールの実行とは異なります。

フロー内で Geolocation 型の sObject カスタム項目を参照することはできません。たとえば、レコード検索条件内、入力または出力項目の割り当て内で、または動的選択肢の表示項目、値項目、並び替え項目として Geolocation 項目を使用することはできません。

項目名	データ型	説明
	string	レコードの作成後に ID を保存する変数への参照。
	FlowConnector	レコードの作成後に実行するノードを指定します。
	FlowConnector	レコードを作成しようとしてエラーになった場合に実行するノードを指定します。
	FlowInputFieldAssignment []	作成中のレコードの指定された sObject 項目に値を割り当てる配列。
	string	必須。この要素によって作成される sObject の名前。

FlowRecordDelete

データベース内の 1 つ以上の sObject レコードを削除します。[FlowNode](#)を拡張し、その項目のすべてを継承します。



メモ: フローレコードの作成、ルックアップ、更新、および削除操作は、CRUDベースのメタデータコールである [FlowRecordCreate](#)、[FlowRecordUpdate](#)、[FlowRecordDelete](#)、および [FlowRecordUpsert](#) とは異なります。フローレコードメソッドは、フロー内からレコード操作に適用されるため、CRUD 設定エンティティへのメタデータコールの実行とは異なります。

フロー内で Geolocation 型の sObject カスタム項目を参照することはできません。たとえば、レコード検索条件内、入力または出力項目の割り当て内で、または動的選択肢の表示項目、値項目、並び替え項目として Geolocation 項目を使用することはできません。

項目名	データ型	説明
	FlowConnector	レコードの削除後に実行するノードを指定します。
	FlowConnector	レコードを削除しようとしてエラーになった場合に実行するノードを指定します。

項目名	データ型	説明
	FlowRecordFilter[]	データベースから削除されるレコードの選択に使用される条件を指定する配列。たとえば、指定日以降に活動のない取引先を削除する場合などがあります。
	string	必須。レコードが削除される sObject の名前。

FlowRecordFilter

データベースのレコードを検索する条件を設定します。



メモ: フロー内で Geolocation 型の sObject カスタム項目を参照することはできません。たとえば、レコード検索条件内、入力または出力項目の割り当て内で、または動的選択肢の表示項目、値項目、並び替え項目として Geolocation 項目を使用することはできません。

項目名	データ型	説明
	string	必須。レコードの絞り込みに使用される sObject 項目。
	FlowRecordFilterOperator (string 型の列挙)	必須。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • • • • • • • •
	FlowElementReferenceOrValue	sObject 項目と一緒に使用される参照または値と、レコードを絞り込むための演算子。

FlowRecordLookup

データベース内のレコードを検索し、その項目の値をフローで使用または保存します。[FlowNode](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。



メモ: フローレコードの作成、ルックアップ、更新、および削除操作は、CRUD ベースのメタデータコールである [\\$lookup](#)、[\\$update](#)、および [\\$delete](#) とは異なります。フローレコードメソッドは、フロー内からレコード操作に適用されるため、CRUD 設定エンティティへのメタデータコールの実行とは異なります。

フロー内で Geolocation 型の sObject カスタム項目を参照することはできません。たとえば、レコード検索条件内、入力または出力項目の割り当て内で、または動的選択肢の表示項目、値項目、並び替え項目として Geolocation 項目を使用することはできません。

項目名	データ型	説明
	FlowConnector	レコードルックアップの完了後に実行するノードを指定します。
	FlowConnector	レコードを検索しようとしてエラーになった場合に実行するノードを指定します。
	FlowRecordFilter []	データベースからのレコードの選択に使用する条件を指定する配列。 検索条件で複数のレコードが返された場合、指定された <code>Field</code> と <code>Value</code> に基づいて並び替えられます。その後で、並び替えられたリストの最初のレコードが選択されます。 または <code>Field</code> が指定されていない場合、最初に返されたレコードが選択されます。ただし、レコードが返される順序は決まっています。
	string	必須。レコードの選択元となる sObject の名前。
	FlowOutputFieldAssignment []	選択されたレコードの項目を、フローの他の場所で使用できる変数に割り当てる配列。
	string	検索条件を満たすレコードを並び替えるために使用される項目です。この項目が指定されていない場合、返されるレコードは並び替えられません。 SOAP API に明記されているとおり、 <code>API Name</code> 項目プロパティを持つ項目でのみ、レコードを並び替えることができます。 この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。
	SortOrder (string 型の列挙)	レコードの並び替え順です。この項目が指定されていない場合、結果は並び替えられません。 有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">— 昇順— 降順 この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。

FlowRecordUpdate

データベース内のレコードを検索し、フローからの値で更新します。[FlowNode](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。



メモ: フローレコードの作成、ルックアップ、更新、および削除操作は、CRUDベースのメタデータコールである、[FlowRecordCreate](#)、[FlowRecordLookup](#)、および[FlowRecordDelete](#)とは異なります。フローレコードメソッドは、フロー内からレコード操作に適用されるため、CRUD 設定エンティティへのメタデータコールの実行とは異なります。

フロー内で Geolocation 型の sObject カスタム項目を参照することはできません。たとえば、レコード検索条件内、入力または出力項目の割り当て内で、または動的選択肢の表示項目、値項目、並び替え項目として Geolocation 項目を使用することはできません。

項目名	データ型	説明
	FlowConnector	レコード更新の完了後に実行するノードを指定します。
	FlowConnector	レコードを更新しようとしてエラーになった場合に実行するノードを指定します。
	FlowRecordFilter[]	データベース内で更新するレコードの選択に使用される条件を指定する配列。
	FlowInputFieldAssignment[]	更新されるレコードの指定項目に値を割り当てる配列。
	string	必須。レコードが更新される sObject の名前。

FlowRule

ルールが true と評価できる条件とロジックを定義します。[FlowElement](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	string	"and" または "or" のいずれかの値にできます。"and" に設定すると、ルールの条件がすべて true と評価された場合にのみルールが true と評価されます。"or" に設定した場合、ルールの条件のいずれかが true と評価された場合にルールが true と評価されます。
	FlowCondition[]	ルールの条件の配列。
	FlowConnector	決定でこのルールが最初に true と評価されたルールである場合に実行するノードを指定します。
	string	必須。コネクタの表示ラベル。

FlowScreen

画面は、ユーザから情報を収集してユーザに情報を表示する機能を提供します。[FlowNode](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	boolean	<p>実行時に [前へ] ボタンを画面に表示するか (true)、非表示にするか (false) を示します。true の場合、[前へ] ボタンは、ユーザがフローパスで前の画面にアクセスした場合にのみ表示されます。クレジットカードトランザクションなど、前の画面に再アクセスした場合に繰り返してはいけないアクションが起動されてしまう場合は、false に設定します。</p> <p>この項目は API バージョン 26.0 以降で使用できます。</p> <p>デフォルトは true です。</p> <p>と のいずれかを false に設定できますが、両方を設定することはできません。</p>
	boolean	<p>実行時に [完了] ボタンを画面に表示するか (true)、非表示にするか (false) を示します。true の場合、[完了] ボタンは、画面要素がフローパスの最後である場合にのみ表示されます。ユーザが前の画面に戻ってフローを続行または完了させる必要がある場合は、これを false に設定します。たとえば、ユーザに前の画面に戻って修正するように指示する画面に [完了] ボタンは表示しません。</p> <p>この項目は API バージョン 26.0 以降で使用できます。</p> <p>デフォルトは true です。</p> <p>と のいずれかを false に設定できますが、両方を設定することはできません。</p>
	FlowConnector	画面 ノードの後に実行する ノードを指定します。
	FlowScreenField[]	画面に表示する項目の配列。
	string	<p>エンドユーザが[このフォームのヘルプ]リンクをクリックした場合に表示されるテキスト。</p> <p>API バージョン 26.0 以降で差し込み項目をサポートします。</p>

FlowScreenField

画面上の設定可能な項目。 [FlowElement](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	string[]	<p>FlowChoices または FlowDynamicChoiceSets への参照の配列。作成される選択オプションは、この配列で指定した順序で表示されます。インデックス 0 の要素が最上位の</p>

項目名	データ型	説明
		<p>選択オプションになります。次の型の画面項目でサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RadioButtons • DropdownBox • MultiSelectCheckboxes • MultiSelectPicklist <p>複数選択チェックボックスおよび複数選択リスト項目は、APIバージョン 26.0 以降で使用できます。</p>
	FlowDataType (string 型の列挙)	<p>必須。この画面項目のデータ型。InputField、RadioButtons、および DropdownBox 型の画面項目でのみサポートされます。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • • • • <p>boolean の InputField は、実行時にチェックボックス項目として表示されます。チェックボックス入力項目は、API バージョン 26.0 以降で使用できます。</p> <p>複数選択チェックボックスおよび複数選択リスト項目では、string データ型のみがサポートされます。複数選択項目は、API バージョン 26.0 以降で使用できます。</p>
	string	<p>画面項目のデフォルト値として使用される FlowChoice 要素の名前。次の型の画面項目でサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RadioButtons • DropdownBox • MultiSelectCheckboxes • MultiSelectPicklist <p>DropDownBox データ型についてのみ、defaultSelectedChoiceReference が空か null の場合、choiceReferences のインデックス 0 での参照がデフォルト値として使用されます。</p>

項目名	データ型	説明
		複数選択チェックボックスおよび複数選択リスト項目では、デフォルト値として FlowChoice 要素を 1 つのみ指定できます。複数選択項目は、APIバージョン 26.0 以降で使用できます。
	FlowElementReferenceOrValue	この画面項目がユーザに入力を要求したときにデフォルトで使用される値。InputField、LargeTextArea、および PasswordField でのみサポートされます。
	string	画面に表示される項目の表示ラベル。差し込み項目がサポートされます。
	FlowScreenFieldType (string 型の 列挙)	<p>必須。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • • • • • • • <p>実行時、各複数選択項目には、その項目値がユーザが選択した選択肢の値をセミコロンで区切った結合値として保存されます。選択した選択肢の値内のセミコロンは、複数選択項目値に追加されるときに削除されます。</p> <p>複数選択チェックボックスおよび複数選択リスト項目は、APIバージョン 26.0 以降で使用できます。</p>
	string	<p>必須。エンドユーザが画面項目のヘルプアイコン (📘) をクリックした場合に表示されるテキスト。</p> <p>APIバージョン 26.0 以降で差し込み項目をサポートします。</p>
	boolean	ユーザが選択肢を選択する必要があるか、または入力する必要があるかを示します。DisplayText または boolean の inputField ではサポートされません。

項目名	データ型	説明
	int	データ型が number または currency の場合のこの画面項目のスケール。スケールは、小数点以下の桁数を設定します。
	FlowInputValidationRule	この画面項目が InputField、LargeTextArea、または PasswordField 型の場合、ユーザ入力の実証に使用されるルール。

FlowStep

フローの作成時にプレースホルダとして機能するステップ。FlowNode を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	FlowConnector[]	ステップノードの後に実行するノードを指定します。

FlowSubflow

サブフロー要素は、実行時にコールする別のフローを参照します。サブフロー要素を含むフローは、マスタフローとして参照されます。FlowSubflow は、FlowNode を拡張し、その項目のすべてを継承します。API バージョン 25.0 以降で使用できます。

項目名	データ型	説明
	FlowConnector	サブフローの後に実行するノードを指定します。
	string	実行時にコールするフローを参照します。値はフローの一意の名前である必要があり、ハイフンやバージョン番号を付記することはできません。参照されるフローは、Cloud Flow Designer で作成されたものである必要があります。
	FlowSubflowInputAssignment[]	参照されるフローの開始時に設定される入力変数割り当ての配列。
	FlowSubflowOutputAssignment[]	参照されるフローの終了時に設定される出力変数割り当ての配列。

FlowSubflowInputAssignment

参照されるフローの変数にマスタフローの要素または値を割り当てます。入力割り当ては、参照されるフローをサブフローがコールするときに行われます。API バージョン 25.0 以降で使用できます。

項目名	データ型	説明
	string	必須。参照されるフロー内の変数の一意の名前。
	FlowElementReferenceOrValue	変数に割り当てる値を定義します。

FlowSubflowOutputAssignment

参照されるフローの変数の値をマスタフローの変数に割り当てます。出力割り当ては、参照されるフローの実行が終了するときに行われます。API バージョン 25.0 以降で使用できます。

項目名	データ型	説明
	string	必須。マスタフローの変数の一意の名前。
	string	必須。参照されるフロー内の変数の一意の名前。

FlowTextTemplate

フロー全体で利用できるテキストテンプレートを定義します。[FlowElement](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。

項目名	データ型	説明
	string	テンプレートの実際のテキスト。差し込み項目がサポートされます。

FlowVariable

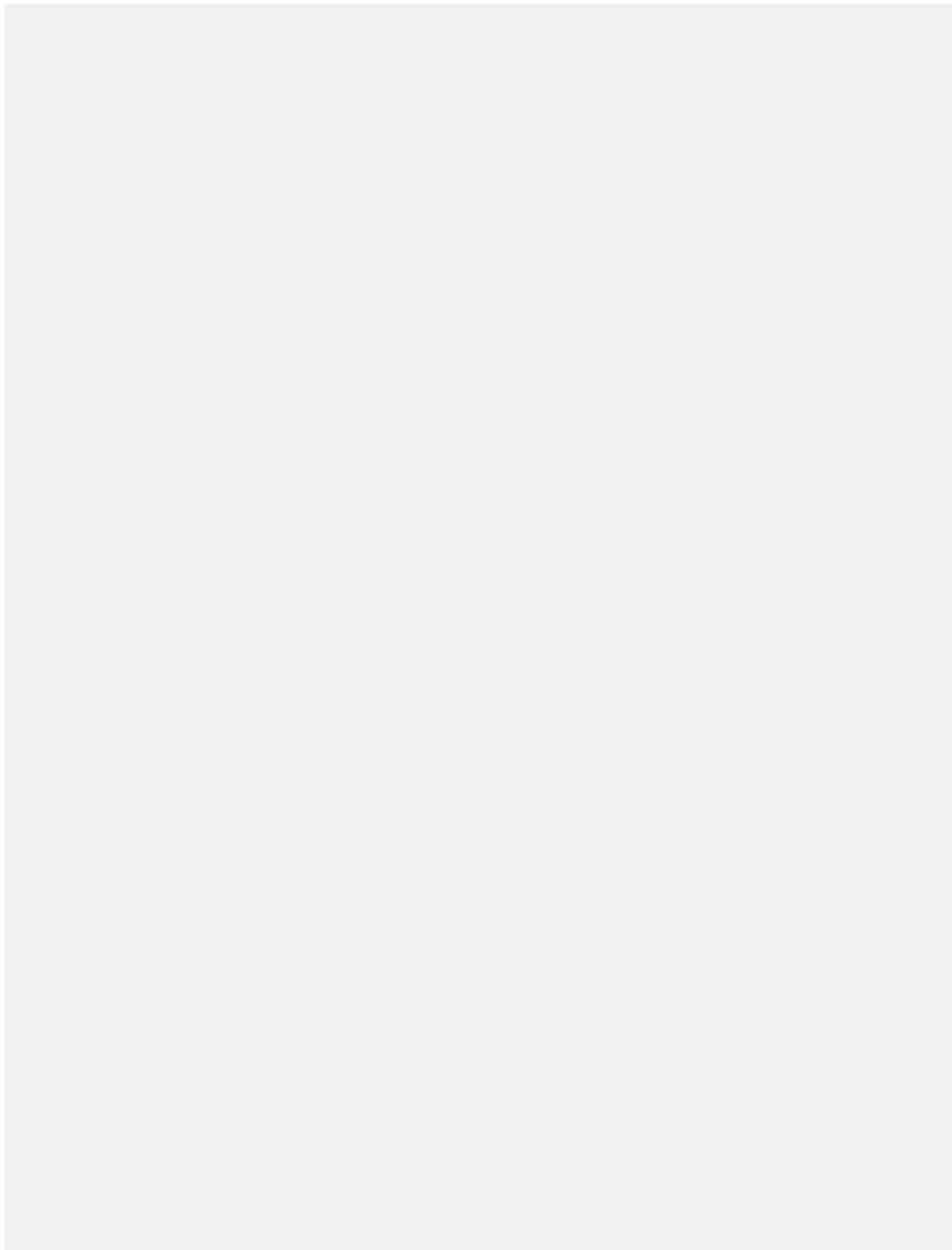
フロー内で使用する更新可能な値を作成できるようにする変数。FlowVariable は [FlowElement](#) を拡張し、その項目のすべてを継承します。

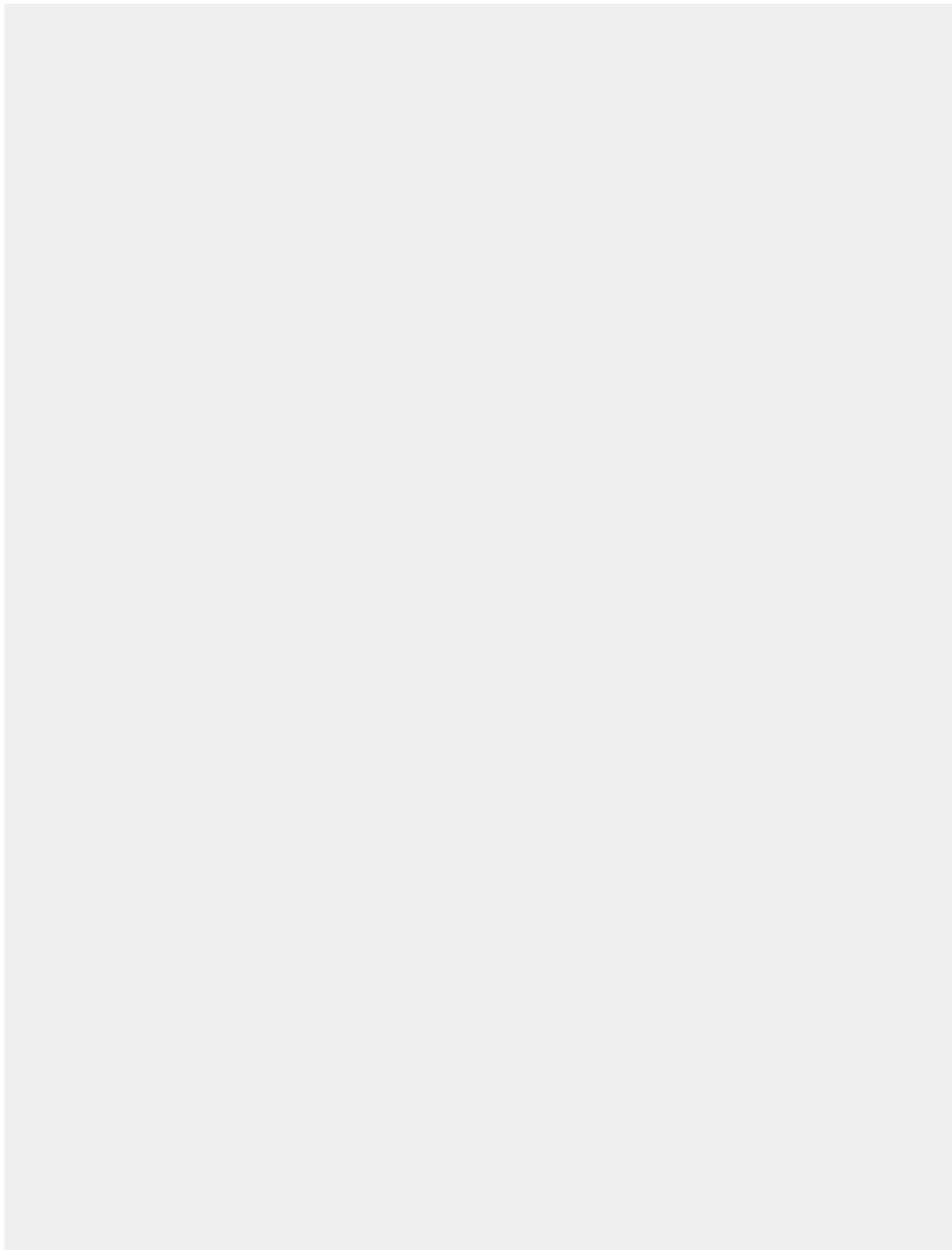
項目名	データ型	説明
	FlowDataType (string 型の列挙)	必須。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • • • •
	boolean	URL パラメータ、Visualforce コントローラ、またはサブフロー入力を使用して、フローの開始時に変数を設定できるかを示します。この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。 デフォルト値は次のとおりです。

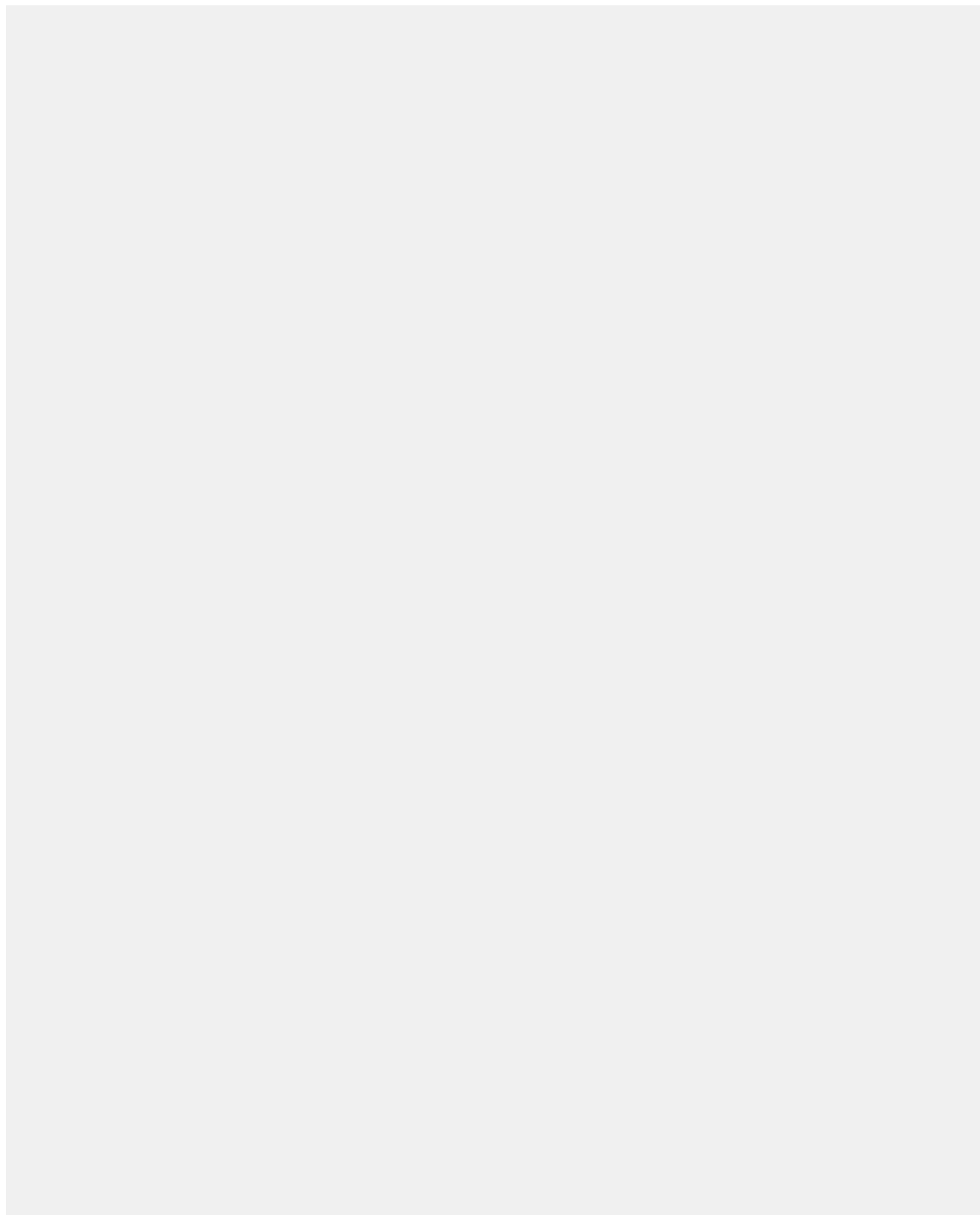
項目名	データ型	説明
		<div><div><div></div><div></div></div><div><ul style="list-style-type: none">： API バージョン 25.0 以降または Cloud Flow Designer の Summer '12 以降で作成された変数の場合： API バージョン 24.0 または Cloud Flow Designer の Summer '12 より前のバージョンで作成された変数の場合</div><div><div><div></div><div></div></div><div>警告: 既存の変数の入力または出力アクセスを無効にすると、URL パラメータ、Visualforce コントローラ、およびサブフローによってフローをコールし、変数にアクセスするアプリケーションとページの機能に影響する可能性があります。</div></div></div>
	boolean	<div><div></div><div>Visualforce コントローラやその他のフローから変数の値にアクセスできるかどうかを示します。この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。</div><div>デフォルト値は次のとおりです。</div><div><div><div></div><div></div></div><div><ul style="list-style-type: none">： API バージョン 25.0 以降または Cloud Flow Designer の Summer '12 以降で作成された変数の場合： API バージョン 24.0 または Cloud Flow Designer の Summer '12 より前のバージョンで作成された変数の場合</div><div><div><div></div><div></div></div><div>警告: 既存の変数の入力または出力アクセスを無効にすると、URL パラメータ、Visualforce コントローラ、およびサブフローによってフローをコールし、変数にアクセスするアプリケーションとページの機能に影響する可能性があります。</div></div></div></div>
	int	<div><div></div><div>データ型が number または currency の場合のこの変数のスケール。</div></div>
	FlowElementReferenceOrValue	<div><div></div><div>この変数のデフォルト値。</div></div>

宣言的なメタデータの定義のサンプル

フローの XML 定義のサンプルを以下に示します。







Folder

フォルダを表します。Metadata メタデータ型を拡張し、その
在次の 4 つのフォルダの種類があります。

項目を継承します。Salesforce には、現

- ドキュメントフォルダ
- メールテンプレートフォルダ
- レポートフォルダ
- ダッシュボードフォルダ

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

フォルダは、パッケージの対応するコンポーネントディレクトリに保存されます。これらのディレクトリにはそれぞれ、`FolderName`、`FolderName-meta.xml`、`FolderName-relationships.xml` という名前が付いています。フォルダは、ファイルのコンテナであるため、テキストファイル表記がありません。各フォルダには、同じディレクトリレベルに `FolderName` という名前の付随するメタデータファイルが作成されます。`FolderName` メタデータファイルには、`FolderName` など、そのフォルダのメタデータ情報が含まれます。たとえば、`sampleFolder` という名前のドキュメントフォルダの場合は、パッケージの `sampleFolder` フォルダ内に `sampleFolder-meta.xml` があります。

バージョン

フォルダは、API バージョン 11.0 以降で使用できます。

項目

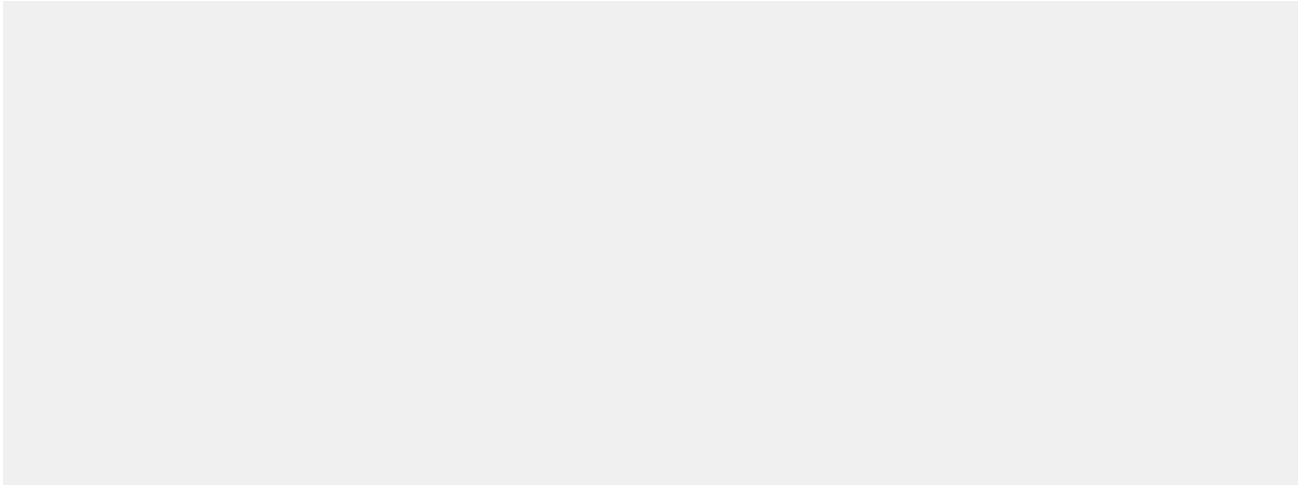
このメタデータ型には、次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	FolderAccessTypes (string 型の 列挙)	必須。このフォルダのアクセス権の種類。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><code>FolderAccessTypes.AllUsers</code>。このフォルダには、指定されたユーザのセットのみがアクセス可能です。<code>FolderAccessTypes.AllUsersExceptPartners</code>。このフォルダには、ポータルユーザを含むすべてのユーザがアクセス可能です。<code>FolderAccessTypes.PartnersOnly</code>。このフォルダには、ポータルユーザを除くすべてのユーザがアクセス可能です。この設定は、パートナーポータルまたはカスタマーポータルが有効な組織のレポートおよびダッシュボードフォルダにのみ使用できます。<code>FolderAccessTypes.NoAccess</code>。このフォルダは、すべてのユーザに対して非表示になります。
	string	API アクセスの一意の識別子として使用される名前。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用

項目名	データ型	説明
		しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	string	必須。ドキュメントフォルダの名前。
	PublicFolderAccess (string 型の 列挙)	が の値である場合、この項目はすべてのユーザがフォルダのコンテンツに対して持つアクセス権の種類を示します。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">。すべてのユーザがフォルダのコンテンツを読み取ることができますが、コンテンツを変更することはできません。。すべてのユーザがフォルダのコンテンツを読み取りと変更を行うことができます。
	SharedTo	フォルダの共有アクセス権。Salesforce オンラインヘルプの「共有に関する考慮事項」を参照してください。

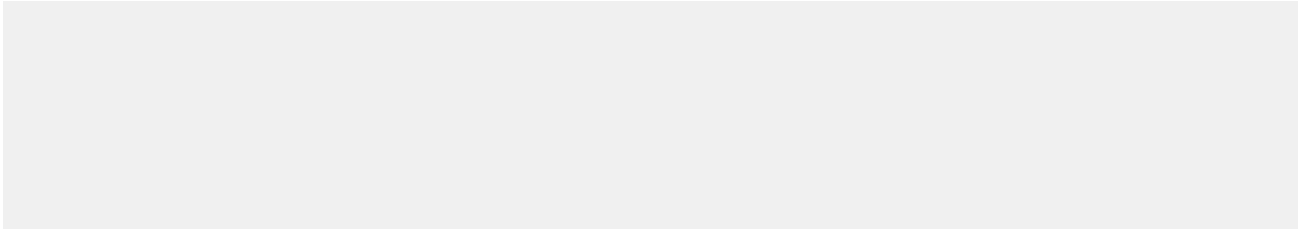
宣言的なメタデータの定義のサンプル

ドキュメントが含まれるドキュメントフォルダのパッケージマニフェスト定義を次に示します。



sampleFolder ドキュメントフォルダの

メタデータファイルの例を次に示します。





関連リンク

- [Dashboard](#)
- [Document](#)
- [EmailTemplate](#)
- [Report](#)

FolderShare

拡張分析フォルダの共有設定を表します。レポートまたはダッシュボードを含むフォルダへの閲覧者、エディタまたはマネージャアクセス権を他のユーザに付与することにより、レポートまたはダッシュボードへのアクセスを制御できます。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

FolderShare オブジェクトは、ディレクトリとディレクトリに保存されます。ディレクトリに含まれるレポートフォルダまたはダッシュボードフォルダごとに、*FolderName* という名前のメタデータファイルがあります。*FolderName* メタデータファイルには、など、そのフォルダのメタデータ情報が含まれます。たとえば、ディレクトリに というレポートフォルダがある場合、と同じレベルに *myReportsFolder-meta.xml* ファイルもあります。

バージョン

FolderShare コンポーネントは、API バージョン 28 以降で使用できます。

項目

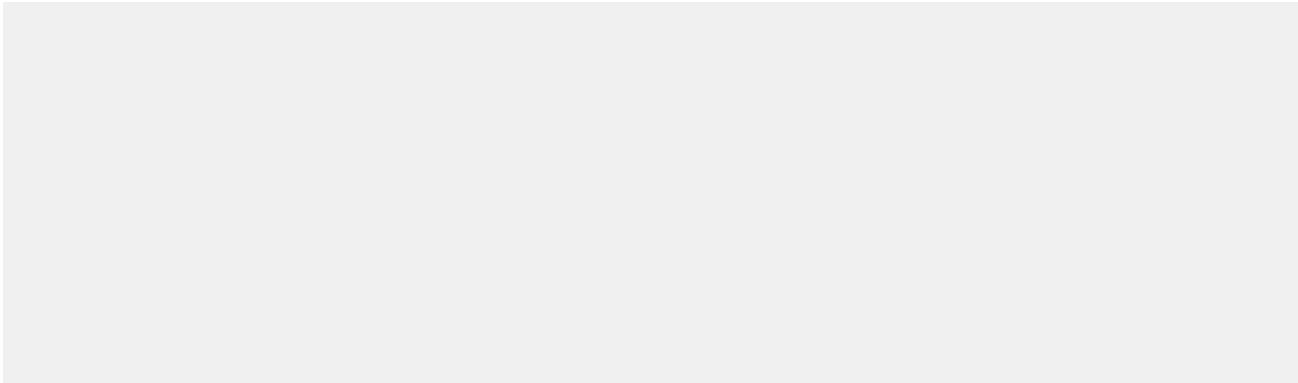
項目名	項目のデータ型	説明
	FolderShareAccessLevel (string 型の 列挙)	<p>必須。フォルダで実行できるアクションの組み合わせを指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">。レポートの実行やダッシュボードの更新はできませんが、それらを編集することはできません。すべてのユーザは、共有されているレポートフォルダとダッシュボードフォルダに対して、少なくとも閲覧者アクセス権を持っています(ユーザによっては、より幅広いアクセスが可能なシステム管理者権限を持っている場合もあります)。。ユーザは、フォルダ内のレポートまたはダッシュボードを表示および変更でき、同等のアクセス権を持つ他のフォルダとの間を移動させることもできます。

項目名	項目のデータ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> 。閲覧者とエディタに許可されたすべての操作を実行でき、フォルダへの他のユーザからのアクセスも制御できます。
	string	必須。フォルダに対して指定されたアクセス権を持つユーザ、グループ、またはロールを指定します。
	FolderSharedToType (string 型の 列挙)	<p>必須。フォルダを共有するエンティティの種別を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 。指定された公開グループに属するユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。指定されたロールを持つユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。指定されたロール持つユーザと、その下位ロールを持つユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。公開ポータルユーザである場合を除き、指定されたロール持つユーザと、その下位ロールを持つユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。すべての内部ユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。指定されたテリトリーに属するユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。指定されたテリトリーに属するユーザと、その下位テリトリーに属するユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。すべてのPRMポータルユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。指定された個々のユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。パートナーポータルの指定された個々のユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。すべてのカスタマーサクセスポータルユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。カスタマーポータルの指定された個々のユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。 。指定されたロールを持つポータルユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。

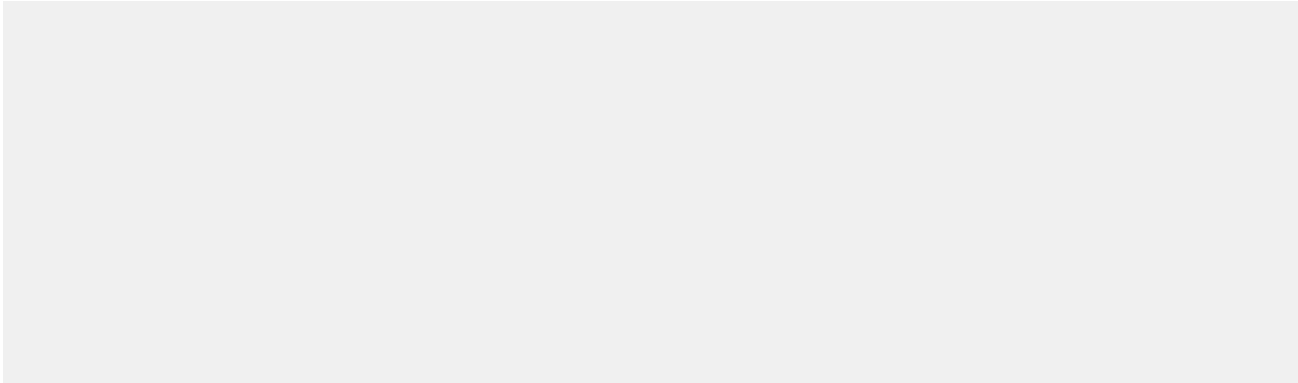
項目名	項目のデータ型	説明
		<ul style="list-style-type: none">。指定されたロール持つポータルユーザと、その下位ロールを持つポータルユーザに、フォルダに指定されたアクセス権が付与されます。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

次に、ダッシュボードフォルダの FolderShare コンポーネントの例を示します。



次に、レポートフォルダの FolderShare コンポーネントの例を示します。



Group

ユーザ、ロールおよびその他のグループを含めることができる公開グループのセットを表します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

グループコンポーネントのファイルサフィックスは で、コンポーネントは対応するパッケージディレクトリの ディレクトリに保存されます。

バージョン

グループコンポーネントは、API バージョン 24.0 以降で使用できます。

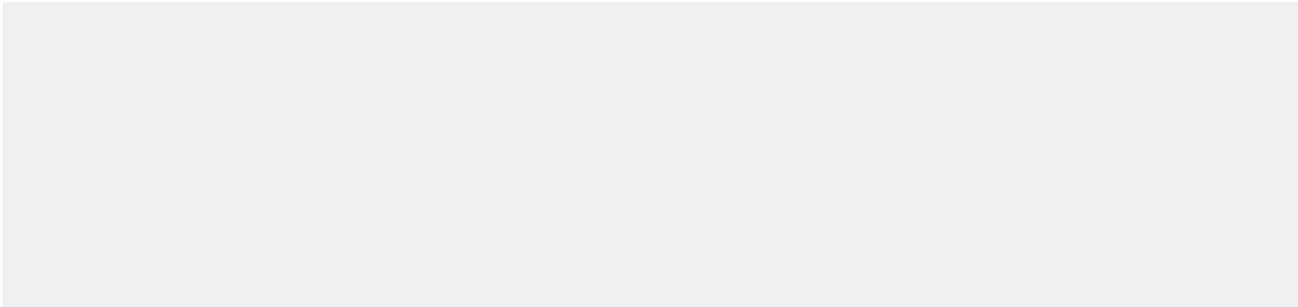
項目

このメタデータ型はグループを定義する有効な値を表します。

項目名	データ型	説明
	boolean	グループのメンバーと共有されたレコードに、マネージャがアクセスできるか()、否か()を示します。この項目は公開グループにのみ使用できます。
	string	API アクセスの一意の識別子。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。ユーザインターフェースの [グループ名] に対応します。
	string	必須。グループの名前。ユーザインターフェースの [表示ラベル] に対応します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

グループの定義を次に示します。



HomePageComponent

ホームページコンポーネントに関連付けられたメタデータを表します。[ホーム] タブにサイドバーリンク、会社のロゴ、またはダッシュボードのスナップショットなどのコンポーネントを含めるようにカスタマイズできます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「[ホーム] タブのページレイアウトのカスタマイズ」を参照してください。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その 項目を継承します。ホームページコンポーネントの定義を作成、更新または削除するために使用します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場合

ホームページコンポーネントのファイルのサフィックスは で、コンポーネントは対応するパッケージディレクトリの ディレクトリに保存されます。

バージョン

ホームページコンポーネントは、API バージョン 12.0 以降で使用できます。

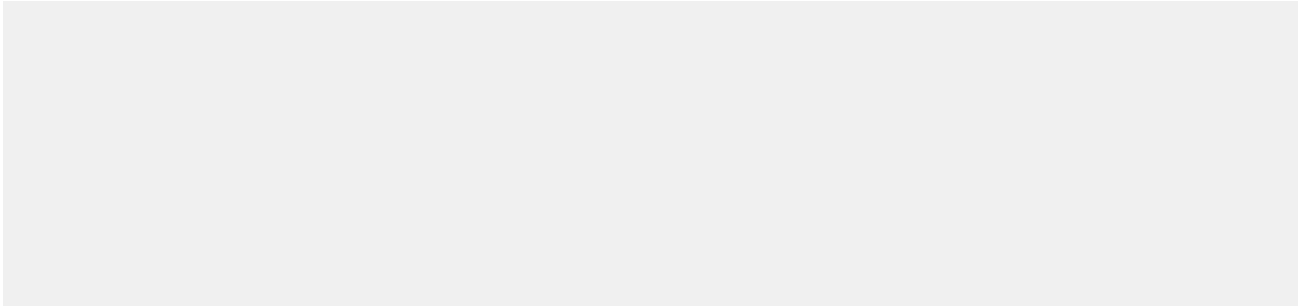
HomePageComponent

このメタデータ型はホームページコンポーネントを定義する有効な値を表します。

項目名	データ型	説明
	string	これが HTML ページコンポーネントである場合、これは HTML の本文です。
	string	名前には、英数字、およびアンダースコア (_) 文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した2つのアンダースコア文字を含めたりすることはできません。 この項目は Metadata コンポーネントから継承するため、この項目はこのコンポーネントの WSDL で定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 こちら を参照してください。
	string[]	こちら が の場合は、カスタムページリンクの 0 個以上の名前を指定できます。 . .
	PageComponentType (string 型の 列挙)	必須。有効な値は次のとおりです。 . . .
	PageComponentWidth (string 型の enumeration)	この項目は HTML コンポーネントでのみ使用可能で、これが幅の狭いまたは広いホームページコンポーネントであるかどうかを示します。有効な値は次のとおりです。 . .

宣言的なメタデータの定義のサンプル

ホームページコンポーネントの定義を次に示します。関連するサンプルについては、「HomePageLayout」の「[宣言的なメタデータの定義のサンプル](#)」および「Weblink」の「[宣言的なメタデータの定義のサンプル](#)」を参照してください。



関連リンク

- [HomePageLayout](#)
- [Weblink](#)

HomePageLayout

ホームページのレイアウトに関連付けられたメタデータを表します。ホームページのレイアウトをカスタマイズし、ユーザのプロファイルに基づいてユーザにレイアウトを割り当てることができます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「[\[ホーム\] タブのページレイアウトのカスタマイズ](#)」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ホームページのレイアウトは、対応するパッケージディレクトリの `layout` ディレクトリに保存されます。拡張子は `.layout` です。

バージョン

ホームページコンポーネントは、API バージョン 12.0 以降で使用できます。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その `Layout` 項目を継承します。

項目

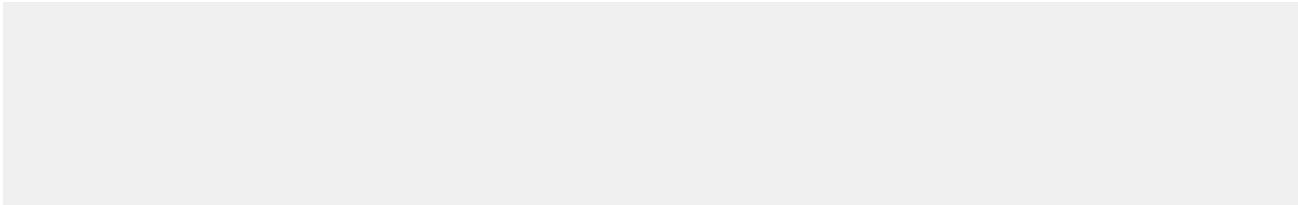
このメタデータ型はホームページのレイアウトを定義する有効な値を表します。

項目名	データ型	説明
	string	名前には、英数字、およびアンダースコア (_) 文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した2つのアンダースコア文字を含めたりすることはできません。

項目名	データ型	説明
		この項目はMetadata コンポーネントから継承するため、この項目はこのコンポーネントの WSDL で定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、を参照してください。
	string[]	ホームページの左側の幅の狭い列の要素のリスト。
	string[]	ホームページの右側の幅の広い列の要素のリスト。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

ホームページのレイアウトの定義を次に示します。関連するサンプルについては、「HomePageComponent」の「宣言的なメタデータの定義のサンプル」(ページ 310)および「Weblink」の「宣言的なメタデータの定義のサンプル」(ページ 214)を参照してください。



関連リンク

- [HomePageComponent](#)
- [Weblink](#)

InstalledPackage

インストールまたはアンインストールするパッケージを表します。現在インストールされているパッケージの新バージョンをリリースすると、パッケージがアップグレードされます。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

パッケージは、ディレクトリに、パッケージの名前空間プレフィックスが付いたファイル名で指定されます。ファイルの拡張子はです。

バージョン

InstalledPackage は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	パッケージのバージョン番号。形式は <i>majorNumber.minorNumber.patchNumber</i> (2.1.3 など) です。
	string	パッケージのパスワードを指定する項目 (省略可能)。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

次の例は、インストールまたはアンインストールするパッケージを指定します。

```
optional_password
```

Layout

ページレイアウトに関連付けられたメタデータを表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「ページレイアウトの管理」を参照してください。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。



メモ: アイデアレイアウトを編集する場合、ファイルでこのアイデアレイアウトを名前指定する必要があります。では、次のコードを使用してアイデアレイアウトを取得します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

レイアウトは、対応するパッケージディレクトリのディレクトリに保存されます。拡張子はです。



メモ: プロジェクトでこのメタデータ型のコンポーネントを取得すると、[Profile](#) コンポーネントにもこのコンポーネントが表示されるようになります。

バージョン

レイアウトは、API バージョン 13.0 以降で使用できます。

項目

このメタデータ型は、ページレイアウトを定義する有効な値を表します。

項目名	データ型	説明
	string[]	このレイアウトのカスタムボタン。各ボタンは、同一オブジェクト上の Weblink への参照です。たとえば、ButtonLink は「ButtonLink」という名前の同一の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトの Web リンクを参照します。
	CustomConsoleComponents	ページレイアウトのカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。カスタムコンソールコンポーネントは、Service Cloud コンソール のみに表示されます。
	boolean	が設定されている場合にのみ該当します。そのチェックボックスのデフォルト値を示します。
	string[]	このレイアウトから除外する標準ボタンのリスト。たとえば、 ではこのレイアウトから [削除] ボタンを除外します。
	LayoutHeader[] (string 型の 列挙)	レイアウトヘッダーは現在タギングのみに使用されており、タギングが有効になっている場合にのみ UI に表示されます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「 タグの概要 」を参照してください。有効な string 値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> — タグはユーザには非公開です。 — レコードにアクセスできる他のすべてのユーザがタグを参照できます。
	LayoutSection[]	項目、Sコントロール、およびカスタムリンクを含むレイアウトのメインセクション。ここでの順序はレイアウトの順序を決定します。
	MiniLayout	ミニレイアウトは、[コンソール] タブ、詳細のフロート表示、行動のフロート表示でのレコードのミニビューで使用されます。
	string[]	OpportunityProduct レイアウトで表示される特殊な複数行レイアウト項目の項目。その他の点で

項目名	データ型	説明
		は、これらは、 と似ています。
	QuickActionList	ページレイアウトに関連付けられたアクションのリスト。この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。
	RelatedListItem[]	レイアウトの関連リスト。ユーザインターフェースに表示される順序で表示されます。
	string[]	コンソールのミニビューに表示される関連オブジェクトのリスト。データベース用語では、これらはレイアウトのオブジェクトの外部キー項目です。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「コンソールのミニビューの関連オブジェクトの選択」を参照してください。
	boolean	が設定されている場合にのみ該当します。そのチェックボックスのデフォルト値を示します。
	boolean	ケース、CaseClose、および ToDo レイアウトでのみ使用可能。設定されている場合、メールを表示するためのチェックボックスが表示されます。
	boolean	設定されている場合、強調表示パネルが Service Cloud コンソールのページに表示されます。この項目は API バージョン 22.0 以降で使用できます。
	boolean	設定されている場合、相互関係ログが Service Cloud コンソールのページに表示されます。この項目は API バージョン 22.0 以降で使用できます。
	boolean	ケースレイアウトでのみ使用可能。設定されている場合、ナレッジサイドバーが Service Cloud コンソールのケースに表示されます。この項目は API バージョン 20.0 以降で使用できます。
	boolean	リードオブジェクトおよび Case オブジェクトでのみ使用可能。設定されている場合、割り当てルールを表示するためのチェックボックスがページに表示されます。
	boolean	CaseClose レイアウトでのみ使用可能。設定されている場合、組み込みのソリューション情報セクションがページに表示されます。
	boolean	ケースレイアウトでのみ使用可能。設定されている場合、[登録 & ファイルを添付] ボタンは、カスタムポータルポータルユーザのケース編集ページに表示されます。

CustomConsoleComponents

ページレイアウトのカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。カスタムコンソールコンポーネントは、Service Cloud コンソール のみに表示されます。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	PrimaryTabComponents	Service Cloud コンソールの主タブにあるカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。API バージョン 25.0 以降で利用できます。
	SubtabComponents	Service Cloud コンソールのサブタブにあるカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

PrimaryTabComponents

Service Cloud コンソールの主タブにあるカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	ConsoleComponent	ページレイアウトのセクションのカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。カスタムコンソールコンポーネントは、Service Cloud コンソール のみに表示されます。4 つの location (left、right、top、および bottom) のそれぞれに 1 つのコンポーネントを指定できます。

ConsoleComponent

ページレイアウトのセクションのカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。カスタムコンソールコンポーネントは、Service Cloud コンソール のみに表示されます。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	int	location が top または bottom のコンポーネントで必須です。カスタムコンソールコンポーネントの高さです。ピクセル単位で、0 より大きく 999 より小さい値に指定する必要があります。
	string	必須。ページレイアウトのカスタムコンソールコンポーネントの位置。有効な値は、right、left、top、および bottom です。コンポーネントには、ページレイアウトあたり 1 つの location を指定できます。
	string	必須。カスタムコンソールコンポーネントの一意の名前。たとえば、ConsoleComponentPage です。
	int	location が left または right のコンポーネントで必須です。カスタムコンソールコンポーネントの幅です。ピクセル単位

項目名	データ型	説明
		で、0 より大きく 999 より小さい値に指定する必要があります。

SubtabComponents

Service Cloud コンソールのサブタブにあるカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

項目名	データ型	説明
	ConsoleComponent	ページレイアウトのセクションのカスタムコンソールコンポーネント (Visualforce ページ) を表します。カスタムコンソールコンポーネントは、Service Cloud コンソール のみに表示されます。4 つの location (left、right、top、および bottom) のそれぞれに 1 つのコンポーネントを指定できます。

MiniLayout

[コンソール] タブ、詳細のフロート表示、および行動のフロート表示でのレコードのミニビューを表します。

項目名	データ型	説明
	string[]	ミニレイアウトの項目。UI に表示する順序で表示されます。ここに表示される項目はメインレイアウトに表示されます。
	RelatedListItem[]	ミニ関連リスト。UI に表示される順序で表示されます。ミニ関連リストでの並び替えは設定できません。ここに表示される項目はメインレイアウトに表示されます。

LayoutSection

LayoutSection は [カスタムリンク] セクションなど、ページレイアウトのセクションを表します。

項目名	データ型	説明
	boolean	このセクションの表示ラベルがカスタムであるか標準 (組み込み) であるかを示します。カスタム表示ラベルは任意のテキストですが、翻訳する必要があります。標準表示ラベルには、「システム情報」など、自動的に翻訳される、定義済みの有効な値セットが含まれます。
	boolean	このセクションを詳細ページに表示するかどうかを制御します。UI では、この設定はセクションの詳細ダイアログのチェックボックスに対応します。
	boolean	このセクションを編集ページに表示するかどうかを制御します。

項目名	データ型	説明
	string	表示ラベル。 フラグに基づいて標準またはカスタムのいずれかとなります。
	LayoutColumn[]	レイアウトの列です。スタイルによって異なります。1 列、2 列、または 3 列が含まれ、左から右に並べられます。
	LayoutSectionStyle (string 型の 列挙)	レイアウトのスタイルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - 2 列。タブは上から下に並べられます。 - 2 列。タブは左から右に並べられます。 - 1 列。 - カスタムリンクのみを含む。
	SummaryLayout	将来の使用のために予約されています。

LayoutColumn

LayoutColumn は、レイアウトセクション内の列の項目を表します。

項目名	データ型	説明
	LayoutItem[]	列内の個々の項目 (上から下の順序)
	string	この項目は Salesforce 用に予約されています。この項目は一部の SOAP ライブラリに関する問題を解決します。この項目に入力された値はすべて無視されます。

LayoutItem

LayoutItem は、レイアウト項目を定義する有効な値を表します。項目には、customLink、field、scontrol、page のいずれか 1 つのみを含める必要があります。

項目名	データ型	説明
	UiBehavior (string 型の 列挙)	項目の動作を決定します。有効な string 値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - レイアウト項目を編集できますが、必須ではありません。 - レイアウト項目を編集できます。必須です。 - レイアウト項目は参照のみです。
	string	の参照。これは、内でのみ使用できます。
	boolean	このレイアウト項目が空白スペースであるかどうかを制御します。

項目名	データ型	説明
	string	または などのレイアウトオブジェクトを基準にした項目名の参照。
	int	ピクセル単位の高さ (Sコントロールおよびページのみ)。
	string	Visualforce ページへの参照。
	string	Sコントロールへの参照。
	boolean	表示ラベルを表示するかどうか (Sコントロールおよびページのみ)。
	boolean	スクロールバーを表示するかどうか (Sコントロールおよびページのみ)。
	string	ピクセルまたはパーセント単位の幅 (Sコントロールおよびページのみ)。ピクセル値は など、単なるピクセル数です。パーセント値には、 などのようにパーセント記号を含める必要があります。

QuickActionList

QuickActionList はページレイアウトに関連付けられたじき

項目名	データ型	説明
	string[]	関連リストで表示される項目のリスト。 関連リストの標準項目の取得では、API名ではなく項目の別名が使用されます。たとえば、 <code>携帯</code> 、 <code>および</code> 、 <code>自宅電話</code> 項目は、Phone2、Phone3、および Phone4 としてそれぞれ取得されます。
	string	必須。関連リストの名前。
	string	並び替えに使用される項目の名前。
	SortOrder (string 型の 列挙)	が設定されている場合、項目が並び替え順を決定します。 <ul style="list-style-type: none"> - 昇順での並び替え - 降順での並び替え

SummaryLayout

ケースフィードが有効化されているときにページレイアウト上部のグリッドでキー項目を集計する、強調表示パネルの外観を制御します。API バージョン 25.0 以降で利用できます。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	必須。レイアウト表示ラベルの名前。
	int	必須。強調表示パネルの列数。1 ~ 4 (この値は範囲に含まれる) である必要があります。
	int	必須。各列の行数。1 または 2 である必要があります。
	int	将来の使用のために予約されています。指定されている場合、設定内容はユーザに表示されません。
	SummaryLayoutItem []	ケースフィードが有効化されているときに、個々の項目の外観および強調表示パネルのグリッド内の列と行の位置を制御します。少なくとも 1 つは必須項目です。
	SummaryLayoutStyle (string 型の 列挙)	強調表示パネルのスタイル。有効な string 値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Default QuoteTemplate DefaultQuoteTemplate CaseInteraction QuickActionLayoutLeftRight (API バージョン 28.0 以降で使用可能) QuickActionLayoutTopDown (API バージョン 28.0 以降で使用可能)

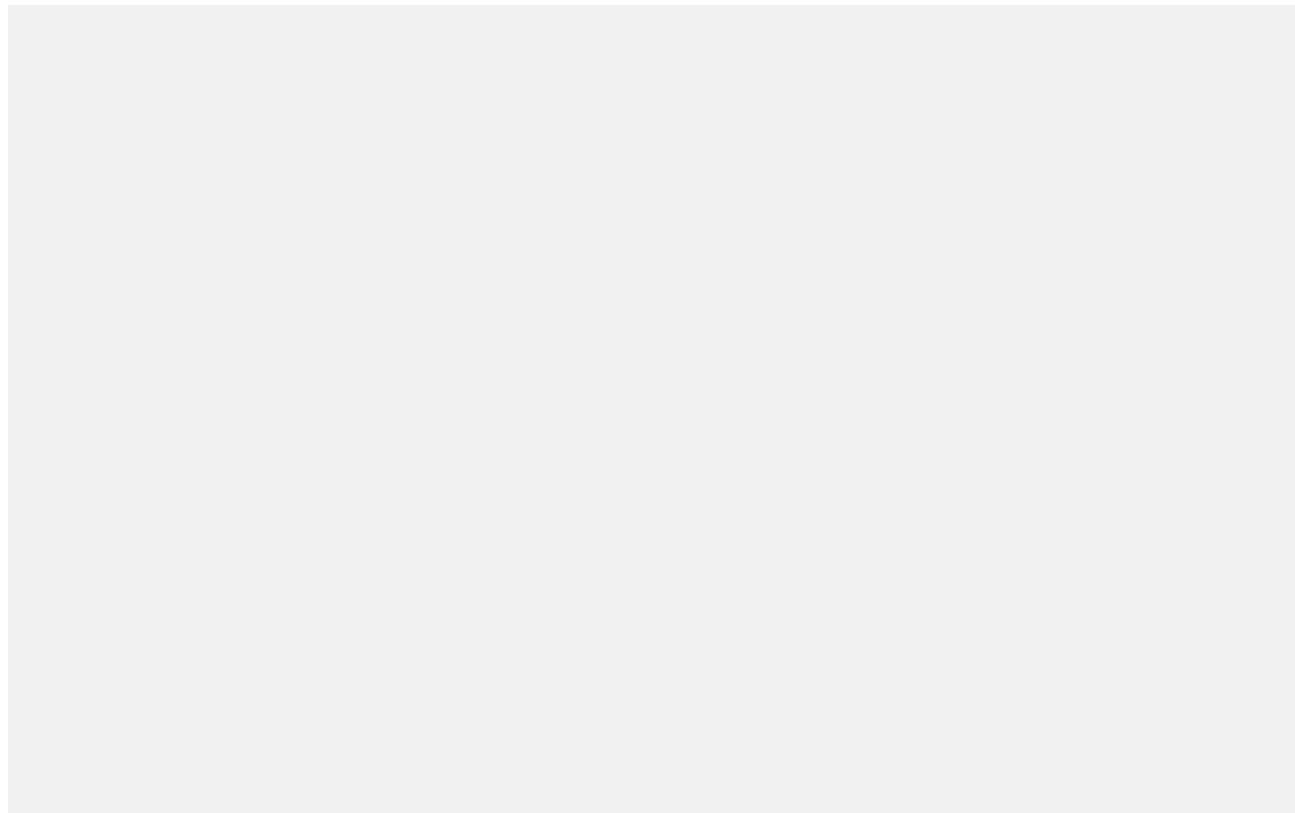
SummaryLayoutItem

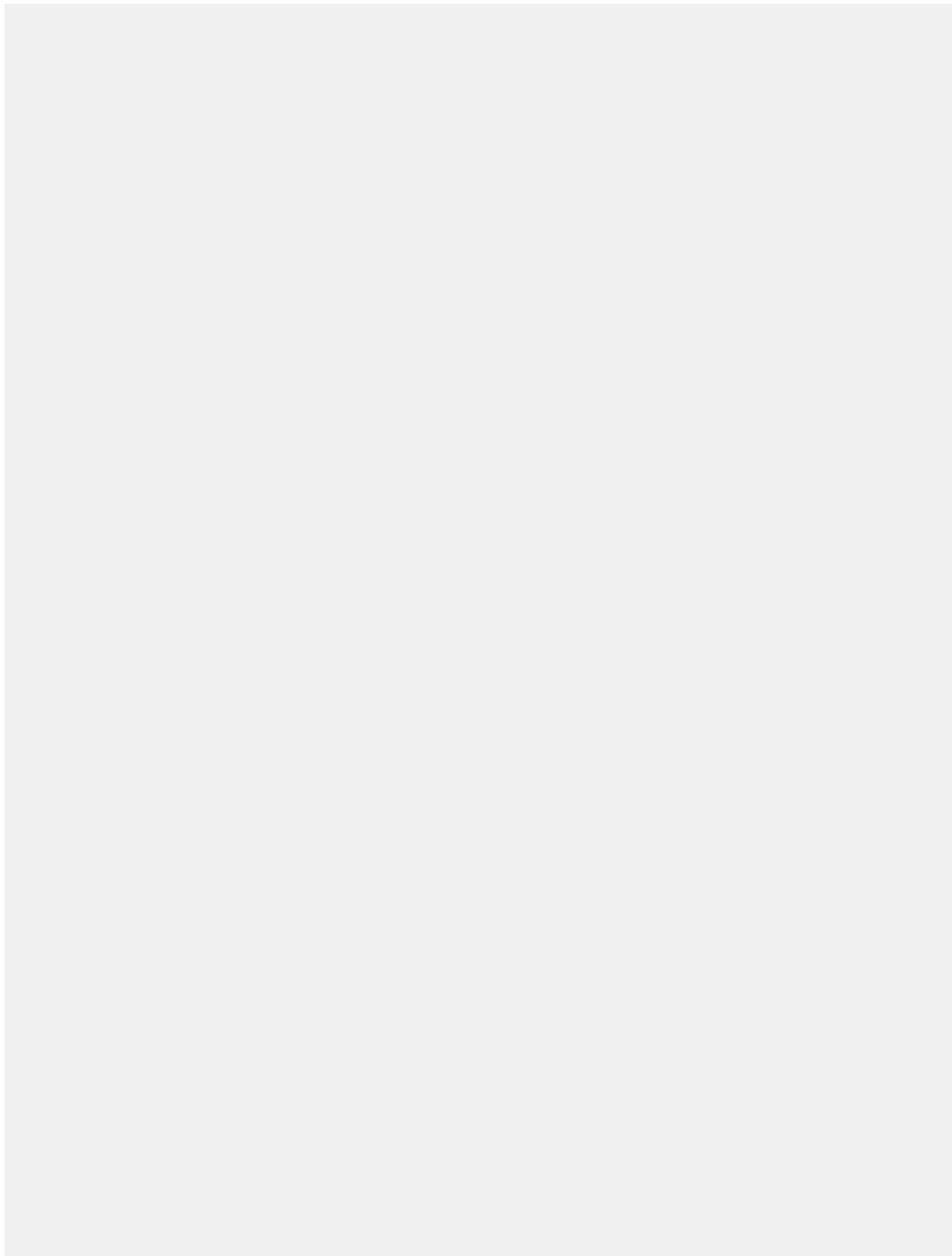
ケースフィールドが有効化されているときに、個々の項目の外観および強調表示パネルのグリッド内の列と行の位置を制御します。強調表示パネルのグリッドごとに2つの項目を指定できます。APIバージョン25.0以降で利用できます。

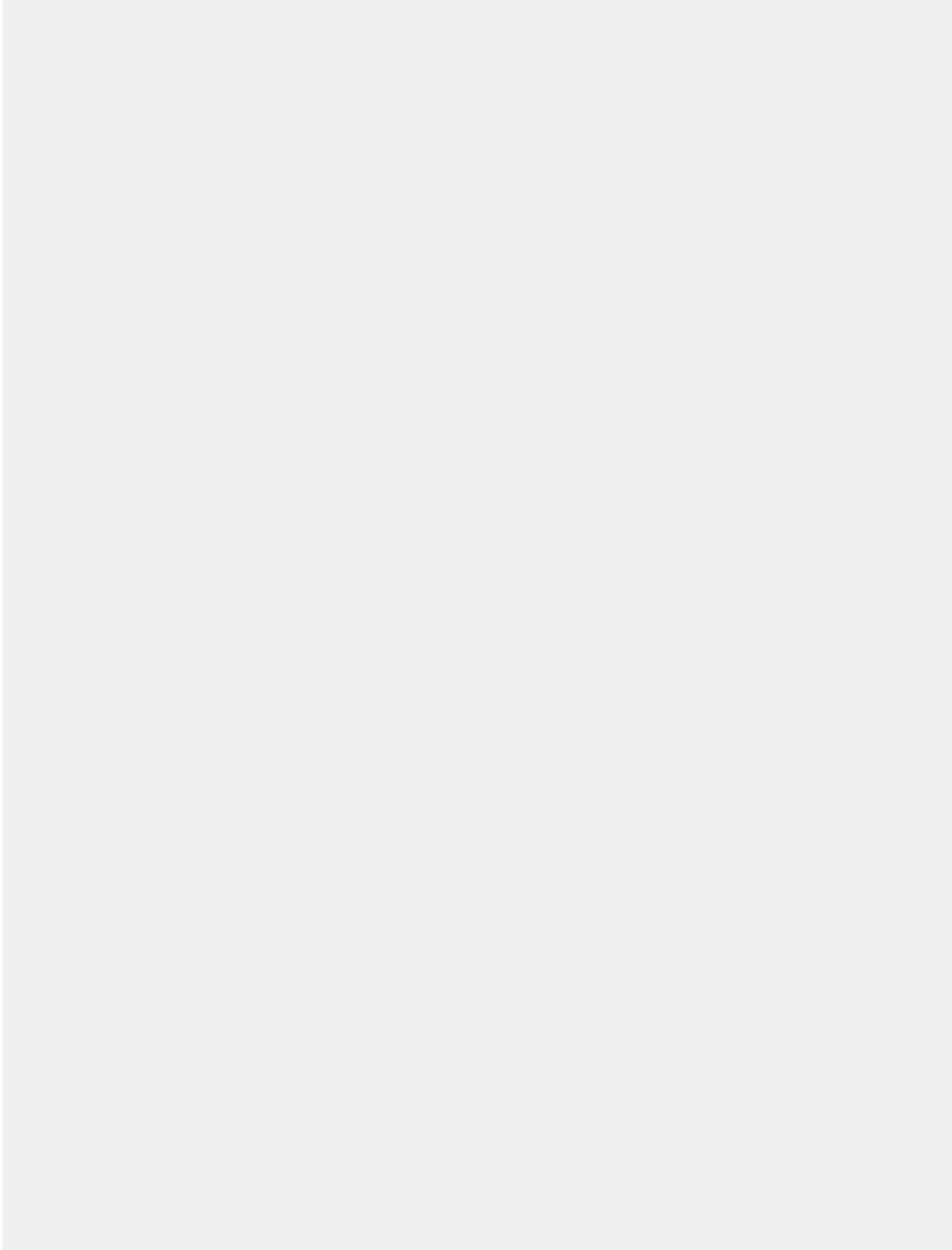
項目名	項目のデータ型	説明
	string	項目がカスタムリンクの場合は、 が参照先です。
	string	ページレイアウトを基準にした項目名の参照。詳細ページにも存在する標準項目またはカスタム項目である必要があります。
	int	必須。強調表示パネルのグリッドにおける項目の列の位置。 の範囲内である必要があります。
	int	必須。強調表示パネルグリッドにおける項目の行の位置。 の範囲内である必要があります。
	int	将来の使用のために予約されています。指定されている場合、設定内容はユーザに表示されません。

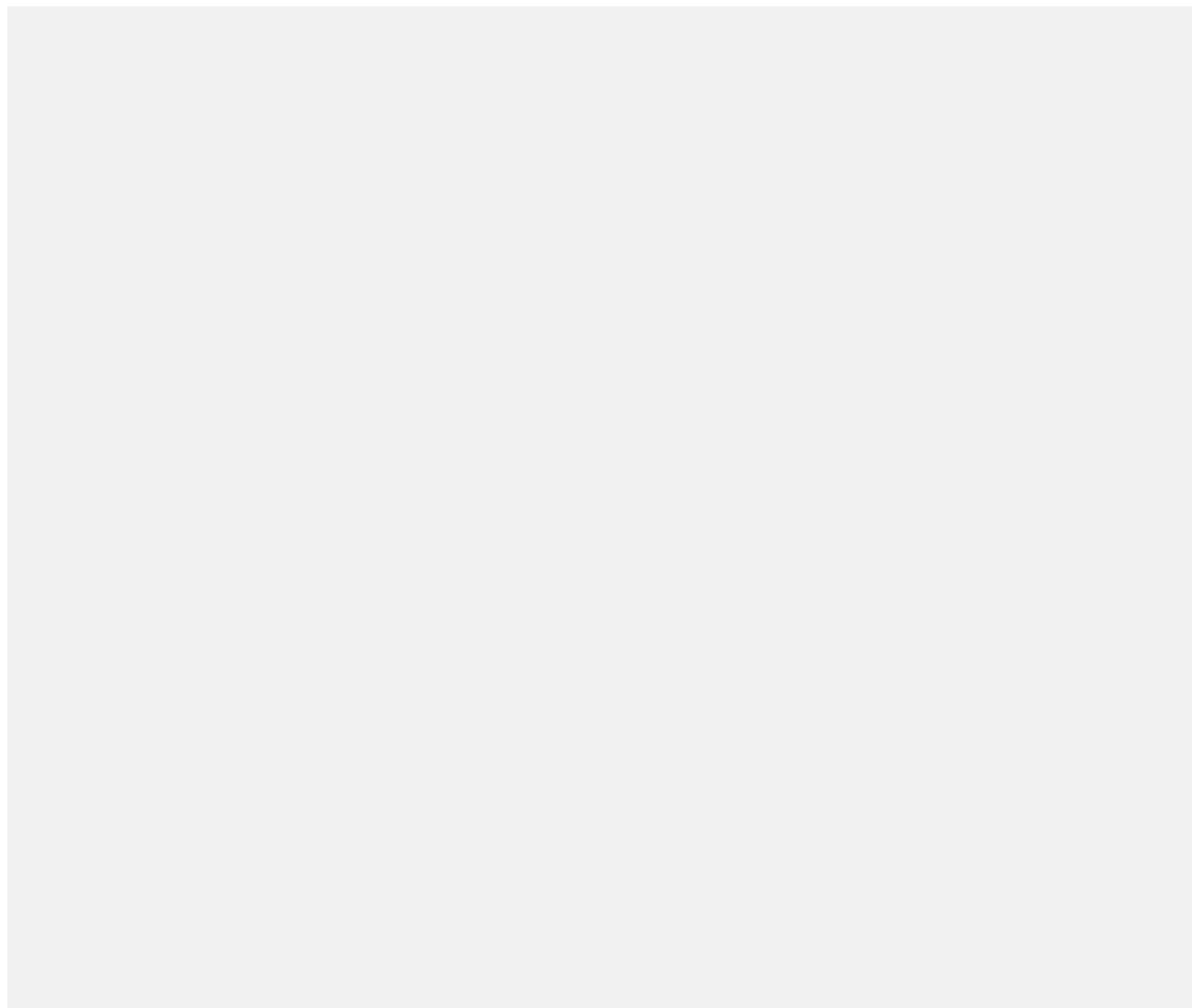
宣言的なメタデータの定義のサンプル

ページレイアウトの定義を次に示します。

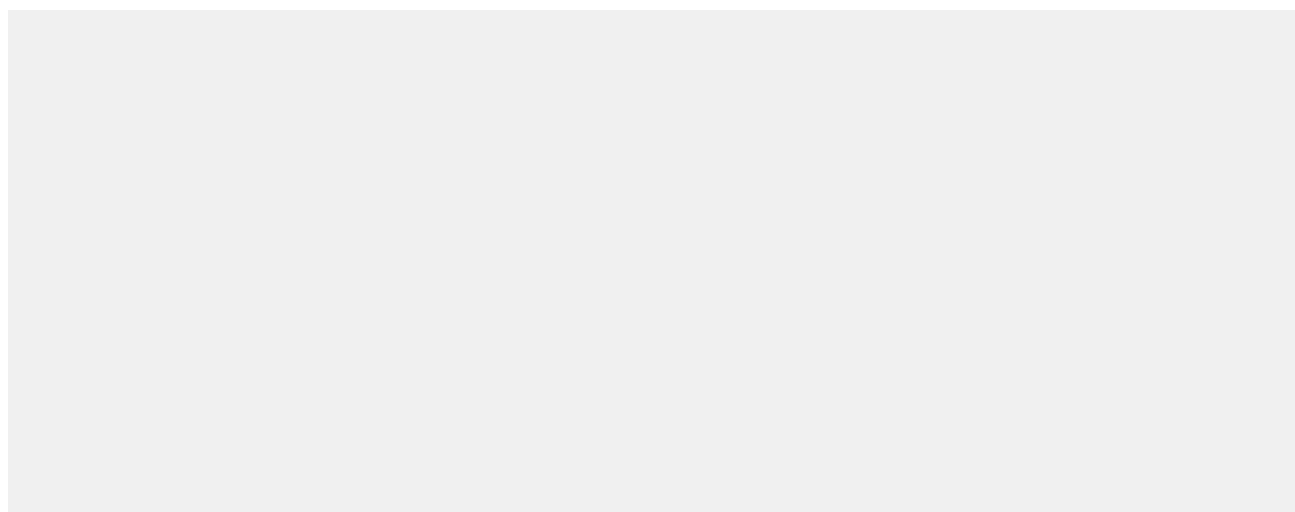


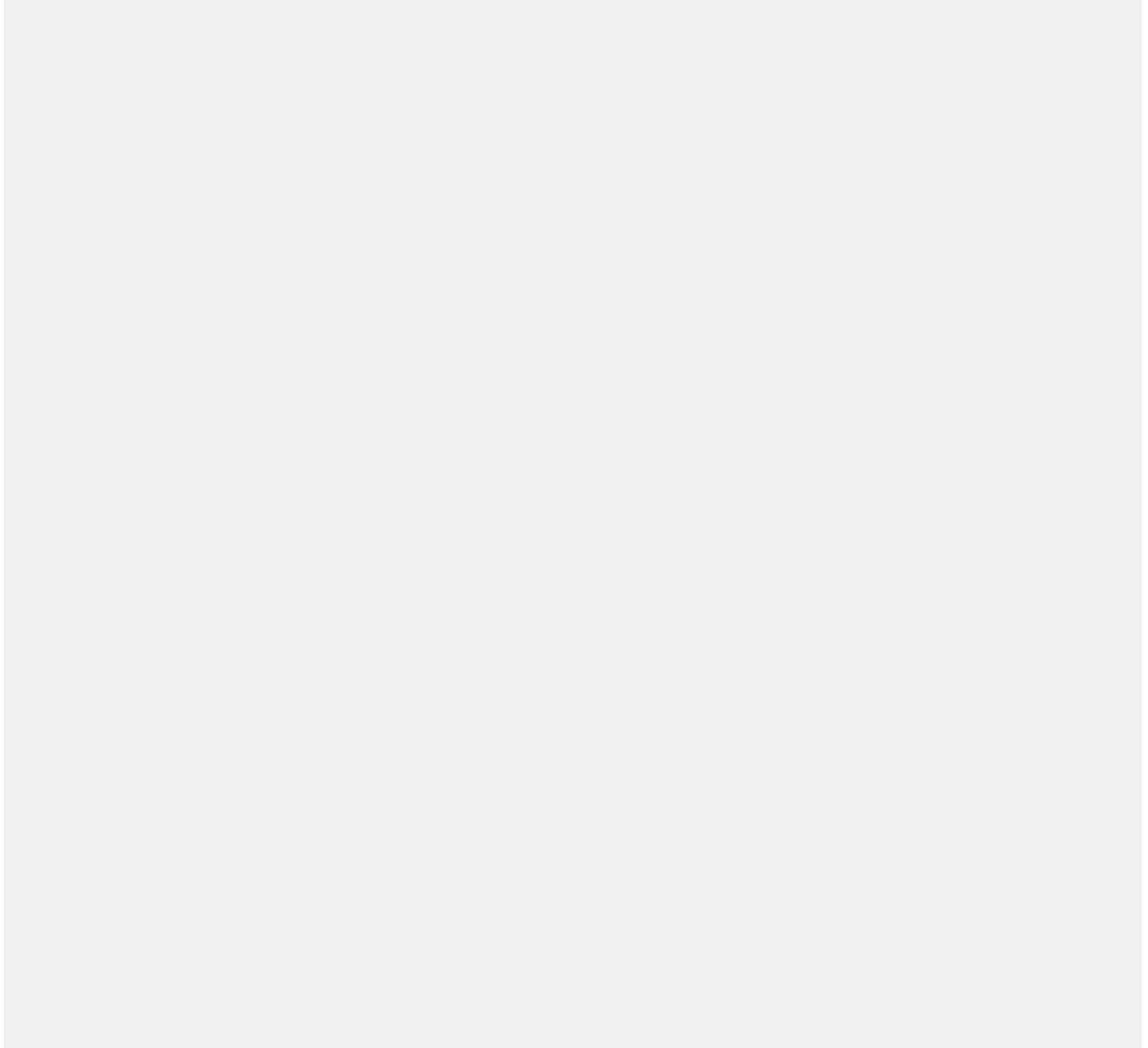






次に、 を使用したレイアウトの例を示します。





Letterhead

メールテンプレートのレターヘッドの書式設定オプションを表します。レターヘッドは、HTML メールテンプレートのデザインを定義します。レターヘッドからは、使用するロゴ、ページの色、およびテキスト設定をHTML メールテンプレートに継承できます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「レターヘッドの作成」を参照してください。 [Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

レターヘッドのファイルのサフィックスは で、コンポーネントは対応するパッケージディレクトリのディレクトリに保存されます。

バージョン

レターヘッドは、API バージョン 12.0 以降で使用できます。

項目

ロゴ、横位置および縦位置の配置を除き、これらのすべての項目が必須です。

項目名	データ型	説明
	boolean	必須。メールテンプレート内など、このレターヘッドを使用できるか()、否か()を示します。
	string	必須。背景色。 などの 16 進数で指定します。
	string	必須。本文の色。16 進数で指定します。
	LetterheadLine (string 型の 列挙)	必須。下部区切り線のスタイル。使用できるスタイルの値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 。線の色。string 値として 16 進数で指定します。 。線の高さ。int 値として指定します。
	string	このレターヘッドが他のレターヘッドとどのように異なるかを説明したテキスト。
	string	に基づくレターヘッドの内部名。ただし、有効性のために空白文字と特殊文字はエスケープ処理されます。
	LetterheadHeaderFooter	必須。フッターのスタイル。
	LetterheadHeaderFooter	必須。ヘッダーのスタイル。
	LetterheadLine	必須。レターヘッドの中間にある境界線のスタイル。使用できるスタイルの値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 。線の色。string 値として 16 進数で指定します。 。線の高さ。int 値として指定します。
	string	必須。レターヘッドの名前。

項目名	データ型	説明
	LetterheadLine	<p>必須。ヘッダーの下の上部区切り横線のスタイル。使用できるスタイルの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 。線の色。string 値として 16 進数で指定します。 。線の高さ。int 値として指定します。

LetterheadHeaderFooter

LetterheadHeaderFooter ではヘッダーまたはフッターのプロパティを表します。

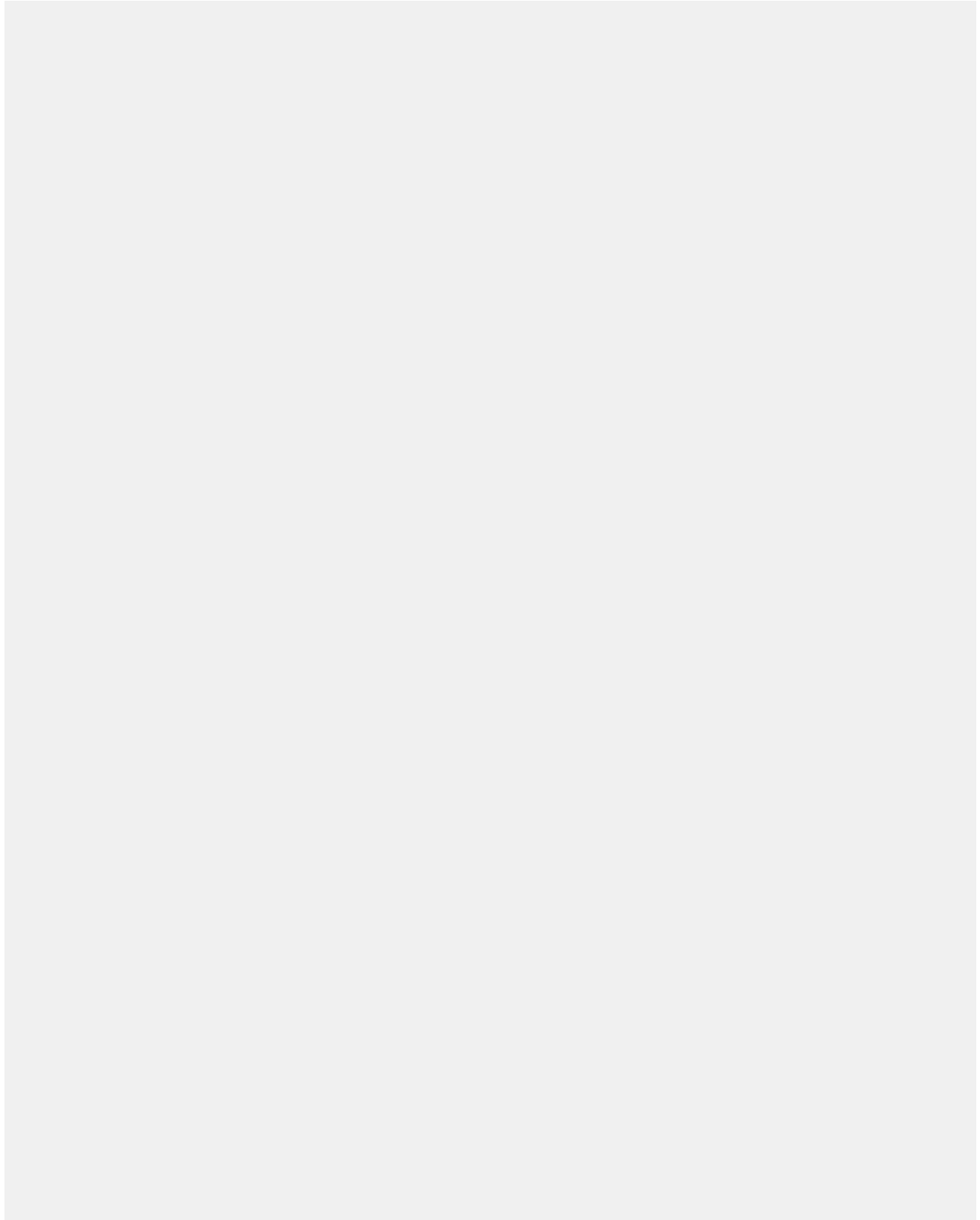
項目	データ型	説明
	string	必須。ヘッダーまたはフッターの背景色。16 進形式で指定します。
	DashboardComponent[]	必須。ヘッダーまたはフッターの高さ。
	LetterheadHorizontalAlignment (string 型の 列挙)	<p>ヘッダーまたはフッターの横方向の配置。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 。 。 。 。
	string	などのドキュメントへの参照であるロゴ。
	LetterheadVerticalAlignment (string 型の 列挙)	<p>ヘッダーまたはフッターの縦方向の配置。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 。 。 。 。

LetterheadLine

LetterheadLine は線のプロパティを表します。

項目	データ型	説明
	string	必須。線の色。16 進形式で指定します。
	int	必須。線の高さ。

宣言的なメタデータの定義のサンプル



LiveChatAgentConfig

エージェントに割り当て可能なチャット数や、チャットサウンドを有効化するかどうかなど、組織の Live Agent リリースの設定を表します。 [Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

LiveChatAgentConfig 設定は、ディレクトリのファイルで参照されます。

バージョン

LiveChatAgentConfig は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
AgentConfigAssignments		Live Agent ユーザへのエージェント設定の割り当て方法を指定します。エージェント設定は、ユーザのセットまたはプロファイルのセットに割り当てることができます。
	string	エージェントとのチャットの開始時に顧客に表示される挨拶を指定します。
	int	エージェントが一度に参加できるチャットの最大数を指定します。
	boolean	エージェントが顧客とのチャットに参加しないときに、エージェントを「退席中」として表示するか()、否か()を示します。
	boolean	エージェントが Live Agent からログアウトするときに、音を鳴らすか()、否か()を示します。
	boolean	受信チャット通知をエージェントに表示するか()、否か()を示します。
	boolean	顧客がエージェントとのチャットを要求するときに、音を鳴らすか()、否か()を示します。
	boolean	顧客のメッセージのプレビューをエージェントの Live Agent ウィンドウに顧客タイプとして表示するか()、否か()を示します。
	string	エージェントのデフォルトのチャット設定の名前を指定します。

AgentConfigAssignments

組織のプロファイルとユーザの Live Agent 設定への割り当てを表します。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	AgentConfigProfileAssignments	特定のエージェント設定に関連付けられたプロファイルを指定します。
	AgentConfigUserAssignments	特定のエージェント設定に関連付けられたユーザーを指定します。

AgentConfigProfileAssignments

特定の Live Agent 設定に関連付けられたプロフィールを表します。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	特定のエージェント設定に関連付けられたプロファイルのカスタム名を指定します。

AgentConfigUserAssignments

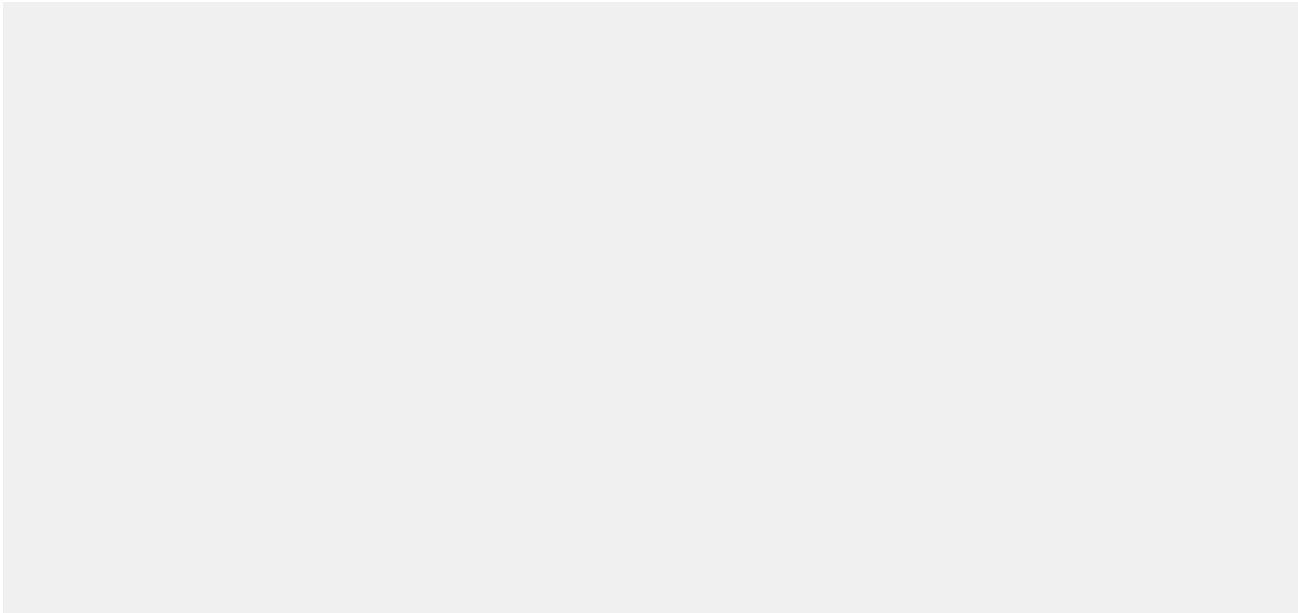
特定の Live Agent 設定に関連付けられたユーザを表します。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	特定のエージェント設定に関連付けられたユーザのユーザ名を指定します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、ファイルのサンプルです。



LiveChatButton

ボタンの表示ラベルやライブチャットの開始前に表示されるチャット前フォームなど、エージェントとチャットするために顧客がクリックするボタンやチャットウィンドウの Live Agent リリースの設定を表します。[Metadata](#)メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所


LiveChatButton 設定は、ディレクトリのファイルに保存されます。

バージョン

LiveChatButton は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	ページが Live Agent チャットウィンドウと異なる場合に、チャットをホストするページを指定します。
	boolean	キューが有効化されているか()、否か()を示します。
	string	ボタンに表示するテキストを指定します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	エージェントがチャットに対応できない場合にボタンに表示する画像を指定します。
	string	エージェントがチャットに対応できる場合にボタンに表示する画像を指定します。
	int	キューに許可されるチャット要求の最大数を指定します。
	int	必要なスキルを持つエージェントに対してキューが許可されるチャット要求の最大数を指定します。
	string	チャットの終了時に顧客が転送されるチャット後フォームの名前を指定します。
	string	チャットの終了時に顧客が転送されるチャット後フォームの URL を指定します。
	string	チャットの開始前に顧客が転送されるチャット前フォームの名前を指定します。
	string	チャットの開始時に顧客が転送されるチャット前フォームの URL を指定します。
	int	チャット要求が別のエージェントに転送されるまでに、エージェントが受信チャット要求への回答に費やすことのできる秒数を指定します。
	LiveChatButtonRoutingType (string 型の 列挙)	顧客がボタンを押したときに受信チャットをエージェントに転送する方法を指定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • •
	string	カスタムチャットボタンの画像またはカスタムチャットページをホストする Force.com サイトを指定します。  メモ: Live Agent で Force.com サイトを使用するには、組織で

項目名	項目のデータ型	説明
		<i>CustomDomain</i> 権限が有効化されている必要があります。
	LiveChatButtonSkills	ボタンに関連付けられたスキルを指定します。チャットするために顧客がボタンをクリックすると、そのスキルを持つエージェントに自動的に転送されます。
	Language	ボタンに関連付けられたチャットウィンドウの言語設定を指定します。

LiveChatButtonSkills

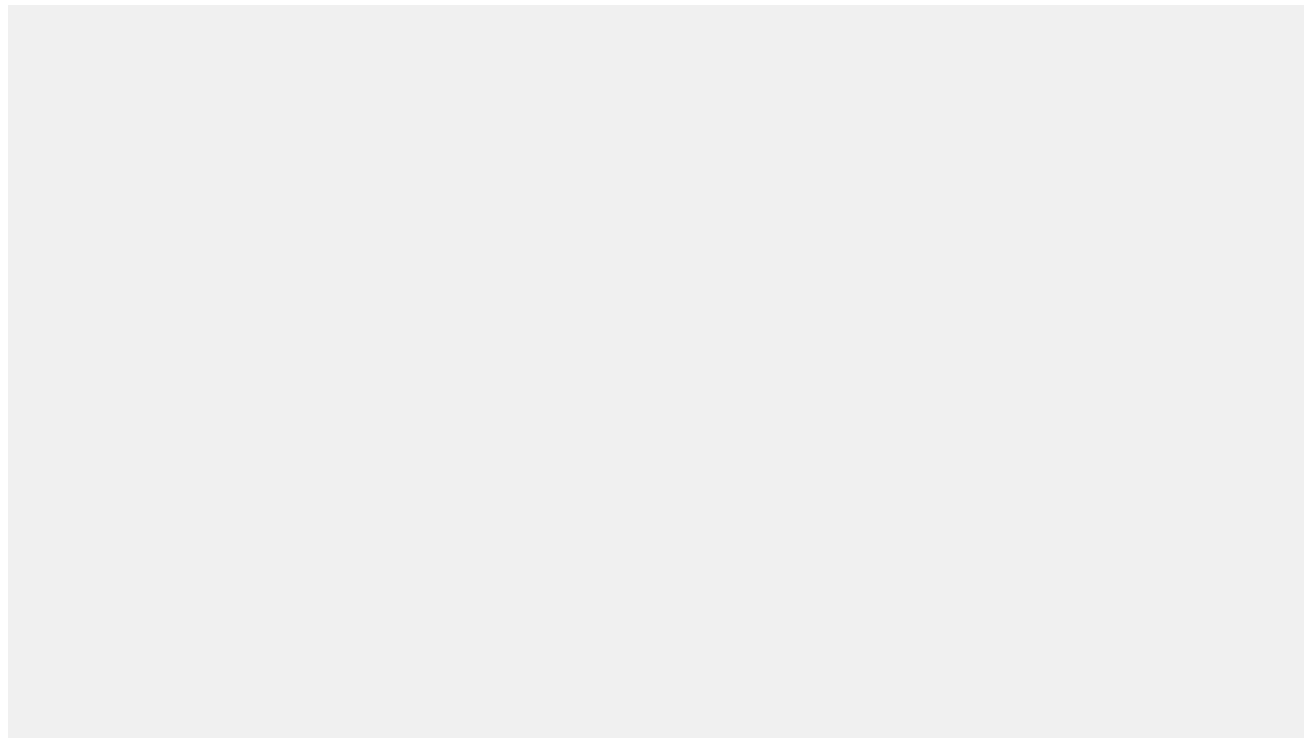
チャットボタンに関連付けられたスキルを表します。

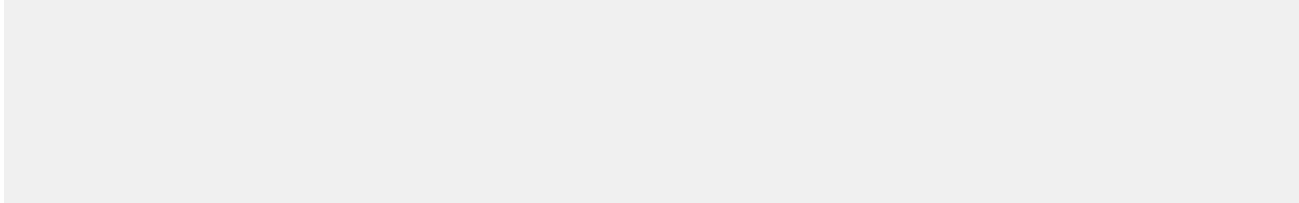
項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	スキルの名前を指定します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、 ファイルのサンプルです。





メモ: メタデータ API を使用してチャットボタンを更新する場合、必ず同じチャットボタンコードを使用するすべての Web ページを更新してください。

LiveChatDeployment

リリースのブランド画像や、チャットのトランスクリプトを自動的に保存するかどうかなど、特定の Live Agent リリースの設定を表します。Metadata メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。


ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

LiveChatDeployment の値は、ディレクトリのファイルに保存されます。

バージョン

LiveChatDeployment は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	リリースのブランド画像を指定します。
LiveChatDeploymentDomainWhiteList		リリースをホストできるドメインのリストを指定します。
	boolean	チャットの終了後にチャットのトランスクリプトを自動的に保存するか ()、否か () を示します。
	string	リリースの名前を指定します。
	string	顧客がモバイルデバイスからリリースにアクセスするときに表示される、リリースのブランド画像を指定します。
	string	リリースの画像をホストするサイトを指定します。
		 メモ: Live Agent で Force.com サイトを使用するには、組織で

項目名	項目のデータ型	説明
		CustomDomain 権限が有効化されている必要があります。
	string	リリースに関連付けられたウィンドウのタイトルを指定します。

LiveChatDeploymentDomainWhiteList

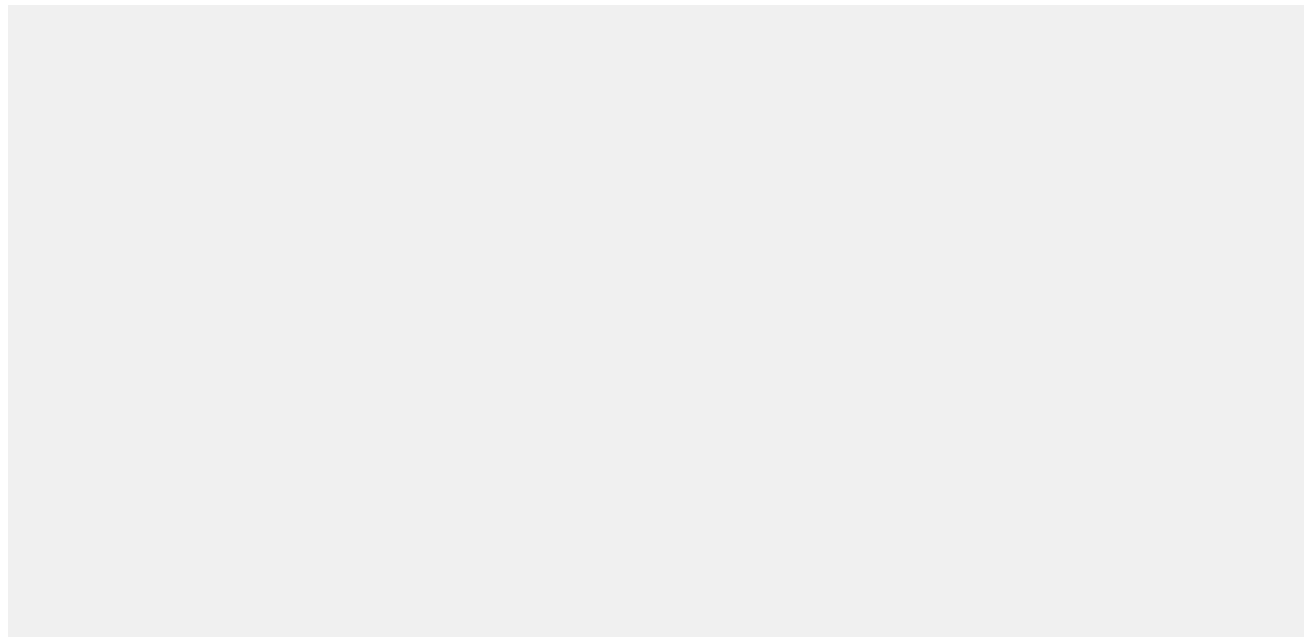
Live Agent リリースのドメインホワイトリストを表します。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	リリースをホストできるドメインを指定します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、 ファイルのサンプルです。



メモ: メタデータ API を使用してリリースを更新する場合、必ず同じリリースコードを使用するすべての Web ページを更新してください。

Metadata

これはすべてのメタデータ型の基本クラスです。このオブジェクトを編集することはできません。コンポーネントは、メタデータ型のインスタンスです。

Metadata は、すべての標準オブジェクトを表す sObject に類似しています。Metadata は、メタデータ API でのすべてのコンポーネントと項目を表します。各コンポーネントを ID で識別するのではなく、各カスタムオブジェクトまたはカスタム項目には一意の `__c` があります。この名前は、Salesforce ユーザインターフェースでカスタムオブジェクトやカスタム項目を作成するときのために、標準オブジェクト名とは異なるものにする必要があります。

バージョン

Metadata コンポーネントは、API バージョン 10.0 以降で使用できます。

項目

項目名	データ型	説明
	string	必須。コンポーネントの名前。項目の場合、名前には親オブジェクトを指定する必要があります。たとえば、 <code>__c</code> が必要です。 <code>__c</code> を設定する場合は、 <code>__c</code> サフィックスをカスタムオブジェクト名とカスタム項目名に付加する必要があります。たとえば、カスタムオブジェクトのカスタム項目では <code>__c</code> が <code>__c</code> のようになります。

関連リンク

- [CustomObject](#)
- [CustomField](#)
- [MetadataWithContent](#)

MetadataWithContent

これは、ドキュメントまたはメールテンプレートなどのコンテンツが含まれるすべてのメタデータ型の基本型で、Metadata を拡張します。このオブジェクトを編集することはできません。

バージョン

MetadataWithContent コンポーネントは、API バージョン 14.0 以降で使用できます。

項目

項目名	データ型	説明
	base64Binary	Base 64 で符号化されたバイナリデータ API コールを行う前に、クライアントアプリケーションはバイナリ添付データを base64 に符号化する必要があります。応答を受信したら、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリに復号化する必要があります。この変換は、通常 SOAP クライアントによって処理されます。
	string	<p>必須。コンポーネントの名前。には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。</p> <p>この項目は Metadata コンポーネントから継承するため、この項目はこのコンポーネントの WSDL で定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、こちら を参照してください。</p>

関連リンク

[Metadata](#)

MilestoneType

マイルストンの名前と説明を表します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

マイルストーンタイプは、対応するパッケージディレクトリの
張子は

ディレクトリに保存されます。拡張子は

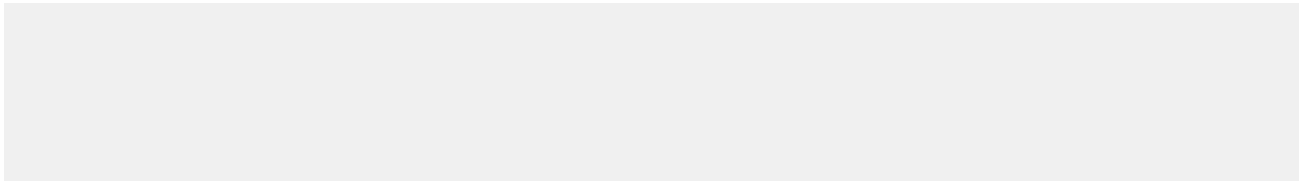
バージョン

MilestoneType は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	マイルストンの説明。

宣言的なメタデータの定義のサンプル
これは、マイルストーンタイプのサンプルです。



Network

コミュニティを表します。コミュニティとは、従業員、顧客、パートナーがつながることのできるブランド空間です。ビジネスニーズに合ったコミュニティを複数カスタマイズおよび作成し、コミュニティ間をシームレスに移行できます。Salesforce.com コミュニティには Network コンポーネントを使用します。Chatter アンサーおよびアイデアを含むゾーンを作成する場合は、Community (Zone) コンポーネントを使用します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所


Network コンポーネントは、対応するパッケージディレクトリのディレクトリに保存されます。ファイル名はコミュニティ名に一致し、拡張子はです。

バージョン

このオブジェクトは、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

項目	項目のデータ型	説明
	ブランド設定	コミュニティで使用する配色、ヘッダー、フッター。
	string	ケースコメントがケースに追加されたか変更された場合に、コミュニティメンバーに通知するときに使用されるメールテンプレート。
	string	パスワードがリセットされたことをユーザに通知するときに使用されるメールテンプレート。
	string	コミュニティの説明。
	string	コミュニティメールの送信元となるメールアドレス。
	string	コミュニティメールの送信元となる名前。

項目	項目のデータ型	説明
	boolean	ユーザが他のユーザをコミュニティに招待できるかどうかを指定します。
	string	ユーザがパスワードを忘れたときに使用されるメールテンプレート。
	NetworkMemberGroups	<p>コミュニティへのアクセス権を持つプロフィールおよび権限セット。これらのプロフィールまたは権限セットを持つユーザは、コミュニティのメンバーです。</p> <p> メモ: コミュニティにも関連付けられている権限セットが (顧客グループの) Chatter 顧客に割り当てられている場合、その Chatter 顧客はコミュニティに追加されません。</p>
	string	<p>の新しい値として入力され、まだ未確認のメールアドレス。ユーザが送信元メールアドレスの変更を要求し、確認メールに正常に応答すると、の値で の値が上書きされます。これが、コミュニティメールの送信元メールアドレスになります。</p>
	boolean	コミュニティでセルフ登録が可能かどうかを指定します。
	boolean	新しいユーザがコミュニティに追加されたときに、お知らせメールを送信するかどうかを指定します。
	string	コミュニティに関連付けられている CustomSite。
	NetworkStatus[]	<p>コミュニティの状況。選択可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Live — コミュニティがオンラインで、メンバーはアクセスできます。 • DownForMaintenance — コミュニティは以前は公開されていましたが、オフラインになっています。「コミュニティの作成および管理」権限を持つメンバーは、プロフィールまたはメンバーシップに関係なく、オフラインのコミュニティの設定にアクセスできます。メンバーはオフラインのコミュニティにはアクセスできませんが、ユーザインターフェースのドロップダウンには引き続き

項目	項目のデータ型	説明
		<p>オフライン と表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> UnderConstruction — コミュニティがまだ公開されていません。「コミュニティの作成および管理」権限を持つメンバーは、プロフィールがコミュニティに関連付けられていれば、この状況のコミュニティにアクセスできます。 <p>コミュニティの公開後は、再びこの状況になることはありません。</p>
	NetworkTabSet	コミュニティで利用できるタブ。これらのタブは、コミュニティを作成したユーザが選択します。
	string	サイトを他のサイトと区別する、サイトのURL上のパスの最初の部分。たとえば、サイトURLが である場合、 は になります。
	string	新しいコミュニティメンバーにお知らせメールを送信するときに使用されるメールテンプレート。

ブランド設定


コミュニティに適用されるブランド設定と配色を表します。

項目	項目のデータ型	説明
	string	コミュニティログインページのフッターに表示されるテキスト。
	string	外部ユーザに対してコミュニティログインページに表示されるロゴ。
	string	コミュニティページのフッターに表示される画像。
	string	コミュニティページのヘッダーに表示される画像。
	string	有効なタブに使用される色。
	string	で使用されるフォントの色。
	string	コミュニティのページの背景色。

項目	項目のデータ型	説明
	string	で使用されるフォントの色。
	string	リストとテーブルの上境界線に使用される色。
	string	で使用されるフォントの色。
	string	編集ページと詳細ページのセクションヘッダーの背景色。
	string	で使用されるフォントの色。
	string	ヘッダーの背景色。
	string	で使用されるフォントの色。

NetworkMemberGroup

コミュニティに割り当てられたプロフィールおよび権限セットを表します。いずれかのプロフィールまたは権限セットを持つユーザは、(顧客グループの) Chatter 顧客でない限り、コミュニティのメンバーです。

項目	項目のデータ型	説明
	string	<p>コミュニティに割り当てられた権限セット。</p> <p> メモ: コミュニティにも関連付けられている権限セットが(顧客グループの) Chatter 顧客に割り当てられている場合、その Chatter 顧客はコミュニティに追加されません。</p>
	string	コミュニティの一部であるプロフィール。

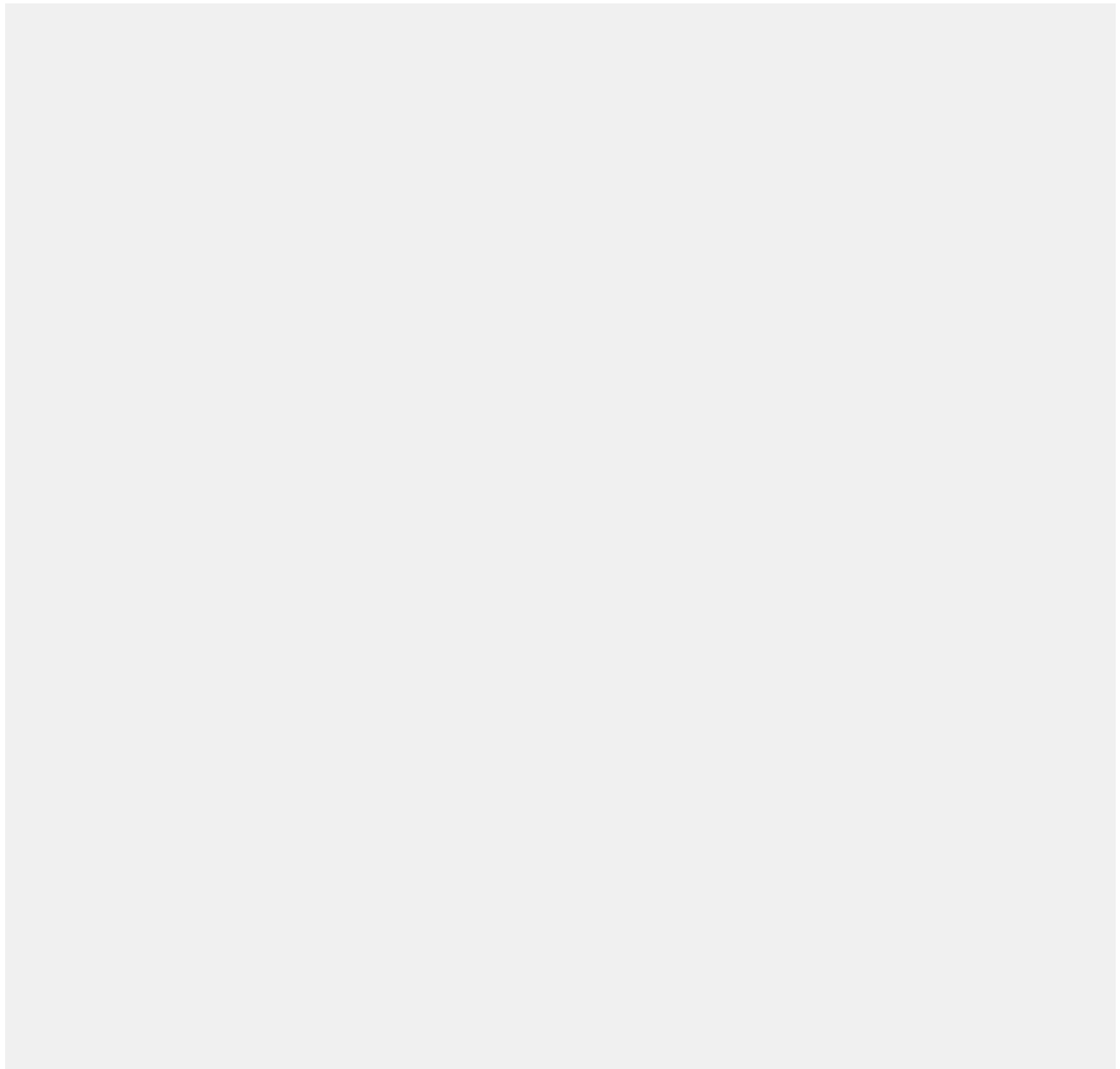
NetworkTabSet

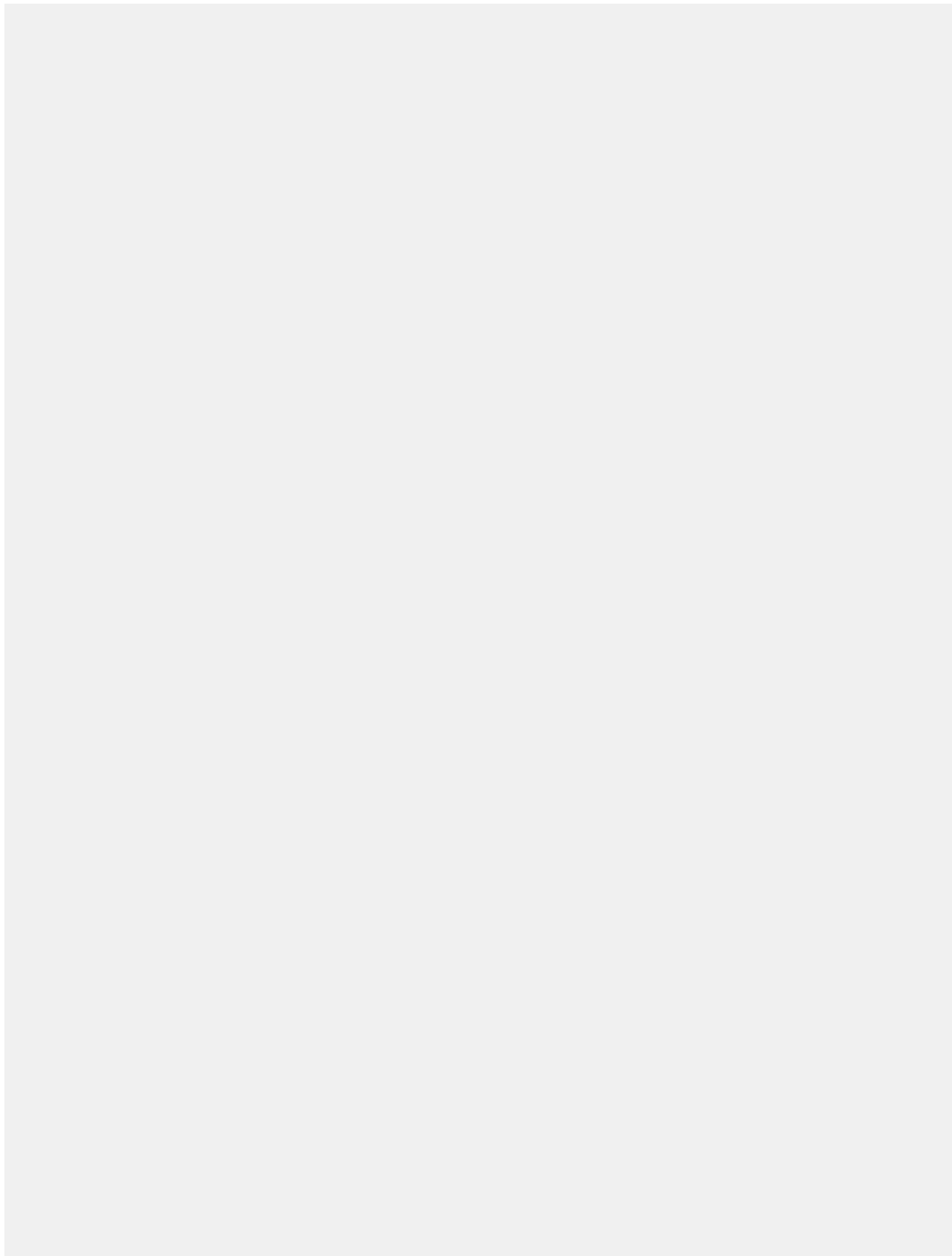
項目	項目のデータ型	説明
	string	コミュニティの一部であるカスタムタブ。

項目	項目のデータ型	説明
	string	コミュニティの[ホーム]タブ。メンバーがログインすると、このページが最初に表示されます。
	string	コミュニティの一部である標準タブ。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

次に、ネットワークの XML 定義のサンプルを示します。





Community (Zone)

コールの一部として取得するメタデータコンポーネントを指定するため、またはコンポーネントのパッケージを定義するために使用されます。

- **Unrestricted** — パッケージのコンポーネントに、コンポーネントが要求を API に送信するときにログインしているユーザと同じ標準オブジェクトへの API アクセス権があります。
- **Restricted** — コンポーネントがアクセスできる標準オブジェクトをシステム管理者が選択できます。さらに、制限されたパッケージ内のコンポーネントは、ユーザの権限で現在のパッケージ内のカスタムオブジェクトへのアクセスが許可される場合には、それらのオブジェクトにのみアクセスできます。

名前	型	説明
		アと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	string	パッケージが作成された開発組織の名前空間。
	ProfileObjectPermissions[]	パッケージにアクセスできるオブジェクトと使用可能なアクセス権の種類(作成、参照、更新、削除)を示します。
	string	パッケージのインストールの説明に使用する Web リンク。
	PackageTypeMembers[]	取得するコンポーネントの種類。
	string	必須。コンポーネントの種類のバージョン。

PackageTypeMembers

パッケージで取得されるコンポーネントの名前と種類を指定するために使用します。

名前	型	説明
	string	要素で指定されている種類のすべてのカスタムメタデータコンポーネントを取得する 1 つ以上の名前を指定したコンポーネント、またはワイルドカード文字()。標準オブジェクトを取得するには、そのオブジェクトを名前で指定します。たとえば、 Account では標準の Account オブジェクトを取得します。
	string	取得するメタデータコンポーネントの種類。たとえば、 Account では要素で指定されている 1 つ以上のカスタムオブジェクトを取得します。

PermissionSet

ユーザのプロファイルを変更せずに、追加権限の許可に使用する権限のセットを表します。アクセスの許可に権限セットを使用できますが、アクセスの拒否には使用できません。Salesforce オンラインヘルプの「権限セットの概要」を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

権限セットは ディレクトリに保存されます。ファイル名は権限セットのAPI 名に一致し、拡張子は です。たとえば、*User_Management_Pperms* という名前の権限セットは に保存されます。

バージョン

権限セットは API バージョン 22.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	PermissionSetApexClassAccess []	この権限セットに割り当てられているユーザが実行できるメソッドを持つ最上位の Apex クラスを示します。API バージョン 23.0 以降で利用できます。
	string	権限セットの説明。最大 255 文字です。
	PermissionSetFieldPermissions []	この権限セットに割り当てられているユーザがアクセスできる項目、および使用可能なアクセス権の種類(参照可能または編集可能)を示します。API バージョン 23.0 以降で利用できます。
	string	権限セットの表示ラベル。最大 80 文字です。
	PermissionSetObjectPermissions []	この権限セットに割り当てられているユーザがアクセスできるオブジェクト、および使用可能なアクセス権の種類(作成、参照、編集、削除)を示します。API バージョン 23.0 以降で利用できます。
	PermissionSetApexPageAccess []	この権限セットに割り当てられているユーザが実行できる Visualforce ページを示します。API バージョン 23.0 以降で利用できます。
	PermissionSetTabSetting []	この権限セットのタブ表示設定を示します。API バージョン 26.0 以降で利用できます。
	string	権限セットの ユーザライセンス 。ユーザライセンスに応じて、Salesforce のさまざまな機能にアクセスでき、ユーザが使用できるプロファイルおよび権限セットが判断されます。

項目	データ型	説明
	PermissionSetUserPermission	アプリケーション権限またはシステム権限(「APIの有効化」など)と、この権限セットで有効化されているかどうかを指定します。

PermissionSetApexClassAccess

`PermissionSetApexClassAccess` は権限セットに割り当てられているユーザの Apex クラスのアクセス権を表します。

項目	データ型	説明
	string	必須。Apex クラス名。
	boolean	必須。この権限セットに割り当てられているユーザが最上位クラスのメソッドを実行できるか()、否か()を示します。

PermissionSetFieldPermissions

`PermissionSetFieldPermissions` は権限セットに割り当てられているユーザの項目権限を表します。

項目	データ型	説明
	boolean	必須。この権限セットに割り当てられているユーザが項目を編集できるか()、否か()を示します。
	string	必須。項目の API 名(など)。
	boolean	この権限セットに割り当てられているユーザが項目を参照できるか()、否か()を示します。

PermissionSetObjectPermissions

`PermissionSetObjectPermissions` は権限セットのオブジェクト権限を表します。権限ごとにこれらの要素の 1 つを使用します。

項目	データ型	説明
	boolean	必須。この権限セットに割り当てられているユーザが項目で参照されているオブジェクトを作成できるか()、否か()を示します。
	boolean	必須。この権限セットに割り当てられているユーザが項目で参照されているオブジェクトを削除できるか()、否か()を示します。
	boolean	必須。この権限セットに割り当てられているユーザが項目で参照されているオブジェクトを編集できるか()、否か()を示します。

項目	データ型	説明
	boolean	必須。この権限セットに割り当てられているユーザが項目で参照されているオブジェクトを参照できるか()、否か()を示します。
	boolean	必須。オブジェクトの共有設定に関係なく、この権限セットに割り当てられているユーザが項目で参照されているオブジェクトを参照、編集、または削除できるか()、否か()を示します。これには非公開レコード(親オブジェクトを持たないレコード)を含みます。これは「すべてのデータの編集」ユーザ権限と似ていますが、個別のオブジェクトレベルに限定されます。
	string	必須。オブジェクトの API 名()など。
	boolean	必須。オブジェクトの共有設定に関係なく、この権限セットに割り当てられているユーザが項目で参照されているオブジェクトを参照できるか()、否か()を示します。これには非公開レコード(親オブジェクトを持たないレコード)を含みます。これは「すべてのデータの参照」ユーザ権限と似ていますが、個別のオブジェクトレベルに限定されます。

PermissionSetApexPageAccess

PermissionSetApexPageAccess は権限セットに割り当てられているユーザの Visualforce ページのアクセス権を表します。

項目	データ型	説明
	string	必須。Visualforce ページ名。
	boolean	必須。この権限セットに割り当てられているユーザが Visualforce ページを実行できるか()、否か()を示します。

PermissionSetTabSetting

PermissionSetTabSetting は権限セットのタブ設定を表します。

項目	データ型	説明
	string	必須。タブ名。
	PermissionSetTabVisibility (string 型の 列挙)	必須。タブの表示設定を示します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> — このタブは [すべてのタブ] ページで利用できます。各ユーザは、どのアプリケーション

項目	データ型	説明
		でもタブが表示されるように表示をカスタマイズできます。 <ul style="list-style-type: none">— このタブは [すべてのタブ] ページでは利用できず、どのアプリケーションにも表示されません。— タブは [すべてのタブ] ページで利用でき、関連付けられているアプリケーションの表示タブに表示されます。各ユーザは、表示をカスタマイズしてタブを非表示にしたり、その他のアプリケーションで表示したりできます。

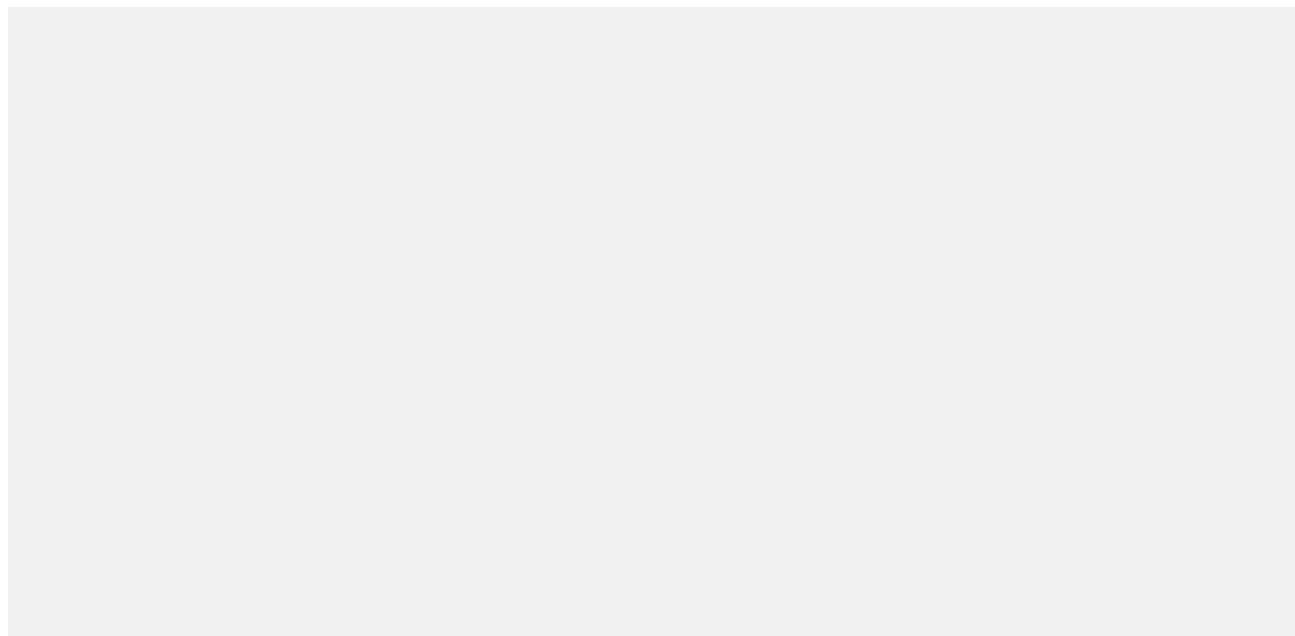
PermissionSetUserPermission

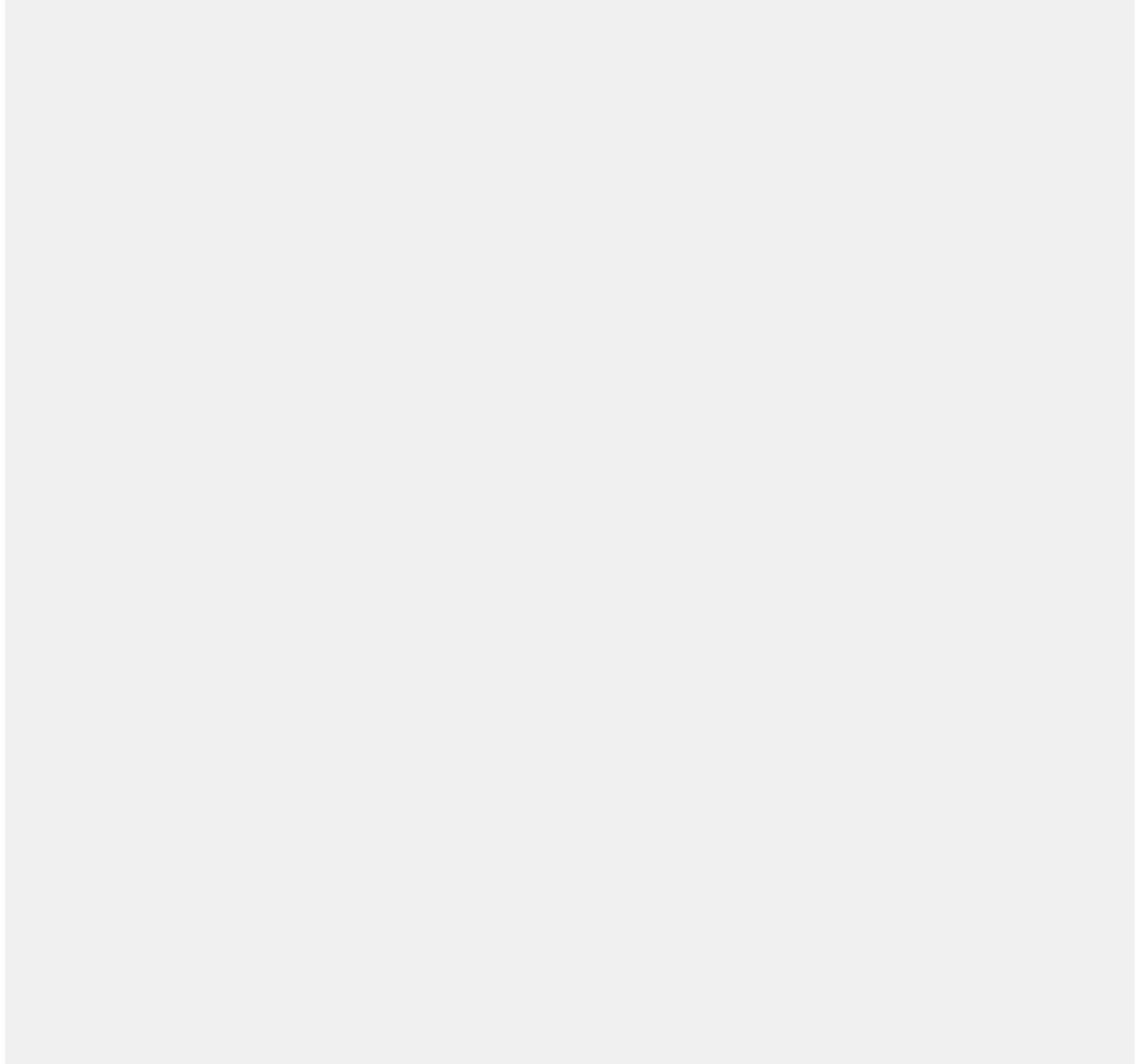
PermissionSetUserPermission は権限セットのアプリケーション権限またはシステム権限を表します。権限ごとにこれらの要素の 1 つを使用します。

項目	データ型	説明
	boolean	必須。権限が有効化されるか ()、無効化されるか () を示します。
	string	必須。権限の名前。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

権限セットを追加または変更するときは、すべての権限を含める必要はありません。含める必要があるのは、追加または変更する権限のみです。





Portal

Portal メタデータ型はパートナーポータルまたはカスタマーポータルを表します。[Metadata](#) を拡張し、その項目を継承します。このメタデータ型を使用するには、組織でパートナーポータルまたはカスタマーポータルが有効になっている必要があります。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「パートナーポータルの概要」および「カスタマーポータルの有効化」を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

Force.com Portal コンポーネントは、対応するパッケージディレクトリのディレクトリに保存されます。ファイル名はポータル名に一致し、拡張子は `.xml` です。

バージョン

Force.com Portal コンポーネントは、API バージョン 15.0 以降で使用できます。

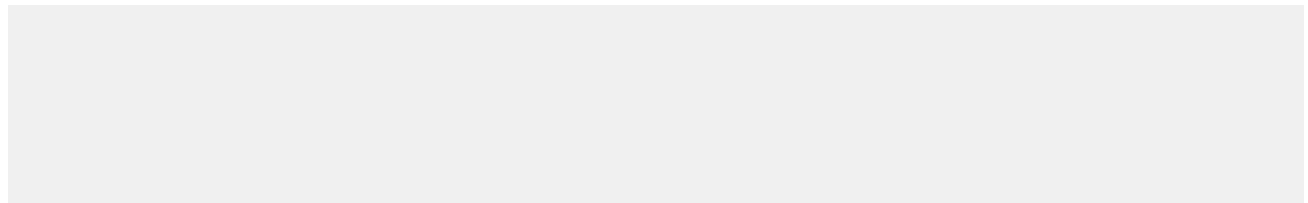
項目

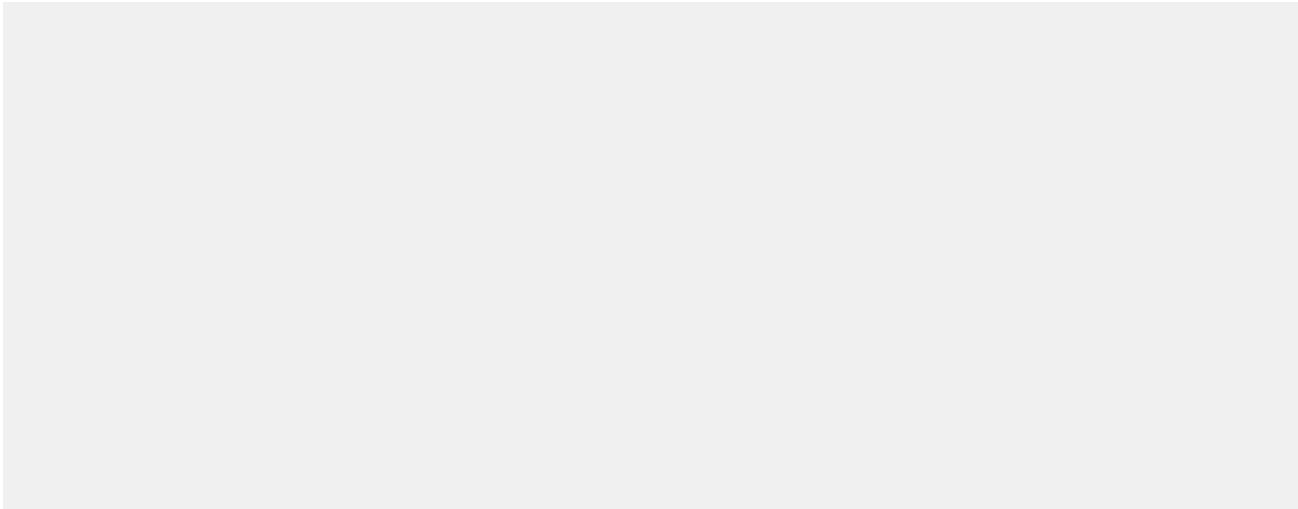
項目	データ型	説明
	boolean	必須。このポータルが有効であるかどうかを示します。
	string	ポータルの管理者として指定するユーザの氏名。
	string	ポータルの HTML メッセージのデフォルト言語。米国英語では <code>en_US</code> など、言語の略語を使用します。
	string	ポータルの説明。
	string	必須。設定済みのテンプレートを使用してポータルからメールを送信するときに使用されるメールアドレス (パスワードをリセットする場合など)。
	string	必須。設定済みのテンプレートを使用してポータルからメールを送信するときに表示する名前 (パスワードをリセットする場合など)。
	boolean	カスタマーポータルで、ポータルユーザが自分のケースをクローズすることを許可します。
	string	このポータルのフッターとして使用されるファイル。
	string	ユーザが [パスワードを忘れた場合] リンクをクリックしたときに使用するメールテンプレート。
	string	必須。ポータルの名前。 Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 こちら を参照してください。
	string	このポータルのヘッダーとして使用されるファイル。
	boolean	このポータルでセルフ登録が有効かどうかを決定します。
	string	このポータルのログインページのヘッダーとして使用されるファイル。

項目	データ型	説明
	string	このポータルロゴとして使用されるファイル。
	string	ログアウト時のユーザのリダイレクト先の URL。
	string	新規ケースコメントの自動通知に使用されるメールテンプレート。
	string	パスワードリセットの自動通知に使用されるメールテンプレート。
	string	新規ユーザ作成時の自動通知に使用されるメールテンプレート。
	string	所有者変更時の自動通知に使用されるメールテンプレート。
	string	セルフ登録ページの URL。
	string	セルフ登録したユーザのデフォルトのプロファイル。
	PortalRoles (string 型の 列挙)	セルフ登録したユーザのデフォルトのロール。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Executive Manager User PersonAccount
	string	セルフ登録の自動通知に使用されるメールテンプレート。
	boolean	このポータルでアクションに対する確認メッセージを表示するか、否かを決定します。
	string	このポータルの CSS スタイルシートとして使用される Document オブジェクト。
	PortalType (string 型の 列挙)	必須。このポータルのタイプ。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> CustomerSuccess Partner

宣言的なメタデータの定義のサンプル

ポータルの XML 定義のサンプルを以下に示します。





関連リンク
[CustomSite](#)

Profile

ユーザプロファイルを表します。プロファイルは、Salesforce 内でさまざまな機能を実行するためのユーザの権限を定義します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ファイルのサフィックスは、`.profile` です。各プロファイルに1つのファイルがあり、対応するパッケージディレクトリの `profiles` フォルダに保存されます。

バージョン

プロファイルは、API バージョン 10.0 以降で使用できます。

項目

メタデータ API で返されるプロファイルのコンテンツは、[RetrieveRequest](#) メッセージ内で要求されるコンテンツによって異なります。たとえば、プロファイルには、プロファイルと同じ [RetrieveRequest](#) で返されたカスタムオブジェクトに含まれている項目の項目レベルのセキュリティのみが含まれます。プロファイルの定義には次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	ProfileApplicationVisibility []	このプロファイルに割り当てられているユーザに表示されるカスタムアプリケーションを示します。
	ProfileApexClassAccess []	このプロファイルに割り当てられているユーザが実行できるメソッドを持つ最上位の Apex クラスを示します。

項目名	データ型	説明
	ProfileFieldLevelSecurity[]	このプロファイルに割り当てられているユーザに表示される項目、および使用可能なアクセス権の種類 (編集可能または非表示) を示します。この項目は、API バージョン 22.0 以前で使用できます。
	ProfileFieldLevelSecurity[]	このプロファイルに割り当てられているユーザに表示される項目、および使用可能なアクセス権の種類 (編集可能または参照可能) を示します。この項目は API バージョン 23.0 以降で使用できます。
	string	<p>名前には、英数字、およびアンダースコア (_) 文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した2つのアンダースコア文字を含めたりすることはできません。</p> <p>この項目は Metadata コンポーネントから継承するため、この項目はこのコンポーネントの WSDL で定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、この項目の例 を参照してください。</p>
	ProfileLayoutAssignments[]	このプロファイルで使用するレイアウトを示します。
	ProfileLoginHours[]	<p>このプロファイルを持つユーザがログインできる時間を示します。指定されていない場合、ユーザのログイン時間はプロファイルによって制限されません。</p> <p>この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。</p>
	ProfileLoginIpRange[]	<p>特定のプロファイルを持つユーザがログインできる IP アドレスの範囲のリスト。</p> <p>この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。</p>
	ProfileObjectPermissions[]	このプロファイルに割り当てられているユーザがアクセスできるオブジェクト、および使用可能なアクセス権の種類 (作成、参照、編集、削除) を示します。
	ProfileApexPageAccess[]	このプロファイルに割り当てられているユーザが実行できる Visualforce ページを示します。
	ProfileRecordTypeVisibility[]	このプロファイルに割り当てられているユーザのレコードタイプの表示設定を示します。
	ProfileTabVisibility[]	このプロファイルに割り当てられているユーザに表示されるレコードタイプ、および表示されるアプリケーション内のタブを示します。

項目名	データ型	説明
	string	プロファイルの ユーザライセンス 。ユーザライセンスに応じて、Salesforce のさまざまな機能にアクセスでき、ユーザが使用できるプロファイルおよび権限セットが判断されます。 この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。

ProfileApplicationVisibility

ProfileApplicationVisibility はこのプロファイルに割り当てられているユーザにカスタムアプリケーションが表示されるかどうかを決定します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。アプリケーションの名前。
	boolean	必須。アプリケーションがデフォルトのアプリケーションであるか ()、否か () を示します。プロファイルごとに 1 つのアプリケーションのみを に設定できます。
	boolean	必須。このプロファイルに割り当てられているユーザにこのアプリケーションが表示されるか ()、否か () を示します。

ProfileApexClassAccess

ProfileApexClassAccess は、このプロファイルに割り当てられているユーザが実行できるメソッドを持つ最上位の Apex クラスを決定します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。Apex クラス名。
	boolean	必須。このプロファイルに割り当てられているユーザが最上位クラスのメソッドを実行できるか ()、否か () を示します。

ProfileFieldLevelSecurity

ProfileFieldLevelSecurity は、プロファイルに割り当てられているユーザの項目レベルセキュリティを表します。

項目名	データ型	説明
	boolean	必須。この項目が編集可能か ()、否か () を示します。
	string	必須。項目の名前を示します。

項目名	データ型	説明
	boolean	この項目が非表示であるか()、否か()を示します。この項目は、APIバージョン 22.0 以前で使用できます。 ポータルプロファイルの場合、これは API バージョン 19.0 以降ではデフォルトで に設定されています。
	boolean	この項目が参照可能か()、否か()を示します。この項目は API バージョン 23.0 以降で使用できます。これは、 項目の代わりに使用されます。 ポータルプロファイルの場合、これはデフォルトで に設定されています。

ProfileLayoutAssignments

ProfileLayoutAssignments はプロファイルおよび特定のエンティティで使用するレイアウトを決定します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。この特定のエンティティのレイアウトを示します。
	string	この項目は省略可能です。レコードの がレイアウトの割り当てルールに一致する場合、指定されているレイアウトを使用します。

ProfileLoginHours

ProfileLoginHours は、特定のプロファイルを持つユーザがログインできる期間を制限します。

項目名	データ型	説明
<i>weekday</i>	string	<p>このプロファイルを持つユーザがログインできる曜日の開始時刻を指定します。特定の曜日の開始時刻が指定されている場合、その曜日の終了時刻も指定する必要があります。特定の曜日の Start を End より大きな値に設定することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> の有効な値は、 、 、 、 、 、 、 または です。 たとえば、 は、月曜日のログイン期間の開始を示します。 Start に使用できる値は、午前 0 時から分数です。60 (1 時間) で割り切れる値である必要があります。たとえば、 は、午前 5 時です。

項目名	設定項目の概要	
<code>weekday</code>	string	<p>このプロファイルを持つユーザがログアウトする必要がある曜日の時刻を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 有効な値は、<code>0</code>、<code>1</code>、<code>2</code>、<code>3</code>、<code>4</code>、<code>5</code>、<code>6</code>、または <code>7</code> です。 たとえば、<code>0</code> は、月曜日のログイン期間の終了時刻を指定します。• <code>End</code> に使用できる値は、午前 0 時からの分数です。60 (1 時間) で割り切れる値である必要があります。たとえば、<code>300</code> は、午後 5 時です。


プロファイルから以前に設定されたログイン時間帯の制限を削除するには、開始時刻または終了時刻を含まない、空の `loginHours` タグを明示的に含める必要があります。

ProfileLoginIpRange

ProfileLoginIpRange IP は、特定のプロファイルを持つユーザがログインできる IP アドレスの範囲を定義します。

項目名	データ型	説明
	boolean	<p>このプロファイルに割り当てられているユーザが 項目で参照されているオブジェクトを削除できるか ()、否か () を示します。</p> <p>この項目は、バージョン 14.0 より前のバージョンでは という名前でロジックが逆でした。バージョン間での項目名の変更および から への更新およびその逆の処理も自動的に処理されます。そのため、既存の XML コンポーネントファイルを手動で編集する必要は一切ありません。</p>
	boolean	<p>このプロファイルに割り当てられているユーザが 項目で参照されているオブジェクトを編集できるか ()、否か () を示します。</p> <p>この項目は、バージョン 14.0 より前のバージョンでは という名前でロジックが逆でした。バージョン間での項目名の変更および から への更新およびその逆の処理も自動的に処理されます。そのため、既存の XML コンポーネントファイルを手動で編集する必要は一切ありません。</p>
	boolean	<p>このプロファイルに割り当てられているユーザが 項目で参照されているオブジェクトを表示できるか ()、否か () を示します。</p> <p>この項目は、バージョン 14.0 より前のバージョンでは という名前でロジックが逆でした。バージョン間での項目名の変更および から への更新およびその逆の処理も自動的に処理されます。そのため、既存の XML コンポーネントファイルを手動で編集する必要は一切ありません。</p>
	boolean	<p>オブジェクトの共有設定に関係なく、このプロファイルに割り当てられているユーザが 項目で参照されているオブジェクトを参照、編集、または削除できるか ()、否か () を示します。これは、個別のオブジェクトレベルに限定されている「すべてのデータの編集」ユーザ権限と同じです。これは、API バージョン 15.0 の新項目です。</p> <p> メモ: この項目はすべてのオブジェクトで利用できるわけではありません。これらの権限を現在サポートしているオブジェクトを確認するには、ユーザインターフェースのプロファイルを参照してください。「すべてのデータの編集」を持つプロファイルは、メタデータ API の エントリを無視するため、プロファイルで「すべてのデータの</p>

項目名	データ型	説明
		編集」が有効化されている場合はエラーを返しません。
	string	必須。 など、このプロファイルで権限が変更されるオブジェクトの名前。
	boolean	オブジェクトの共有設定に関係なく、このプロファイルに割り当てられているユーザが 項目で参照されているオブジェクトを参照できるか()、否か()を示します。これには非公開レコード (親オブジェクトを持たないレコード) を含みます。これは、個別のオブジェクトレベルに限定されている「すべてのデータの参照」ユーザ権限と同じです。これは、API バージョン 15.0 の新項目です。



メモ: この項目はすべてのオブジェクトで利用できるわけではありません。これらの権限を現在サポートしているオブジェクトを確認するには、ユーザーインターフェースのプロファイルを参照してください。「すべてのデータの参照」を持つプロファイルは、メタデータ API の エントリを無視するため、プロファイルで「すべてのデータの参照」が有効化されている場合はエラーを返しません。

ProfileApexPageAccess

ProfileApexPageAccess では、このプロファイルに割り当てられているユーザが実行できる Visualforce ページを決定します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。Visualforce ページ名。
	boolean	必須。このプロファイルに割り当てられているユーザが Visualforce ページを実行できるか()、否か()を示します。

ProfileRecordTypeVisibility

ProfileRecordTypeVisibility は、このプロファイルのレコードタイプの表示設定を表します。レコードタイプを使用すると、異なるビジネスプロセス、選択リストの値、およびページレイアウトを、さまざまなユーザに提供できます。

項目名	データ型	説明
	boolean	必須。レコードタイプがこのプロファイルとオブジェクトのペアのデフォルトであるか()、否か()を示しま

項目名	データ型	説明
		す。オブジェクトあたりに許可されるデフォルトは1つのみです。
	boolean	レコードタイプがこのプロファイルとオブジェクトのペアのデフォルトの個人取引先レコードタイプであるか()、否か()を示します。オブジェクトあたりに許可される個人取引先レコードタイプのデフォルトは1つのみです。この項目は、取引先または取引先責任者オブジェクトのレコードタイプにのみ関連します。 個人取引先は、貴社が提供する金融サービス、オンラインショップ、または旅行代理店サービスの利用者など、貴社と取引がある個人の顧客を表します。個人取引先は、企業間取引モデルではなく、企業対消費者取引モデルのビジネス形態を持つ組織に適用できます。 個人取引先についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「個人取引先とは?」を参照してください。個人取引先は、Salesforce ではデフォルトで無効になっています。個人取引先の利用が必要な場合は、salesforce.com お問い合わせください。
	string	必須。 などのレコードタイプ名。
	boolean	必須。このレコードタイプがこのプロファイルに割り当てられているユーザに表示されるか()、否か()を示します。

ProfileTabVisibility

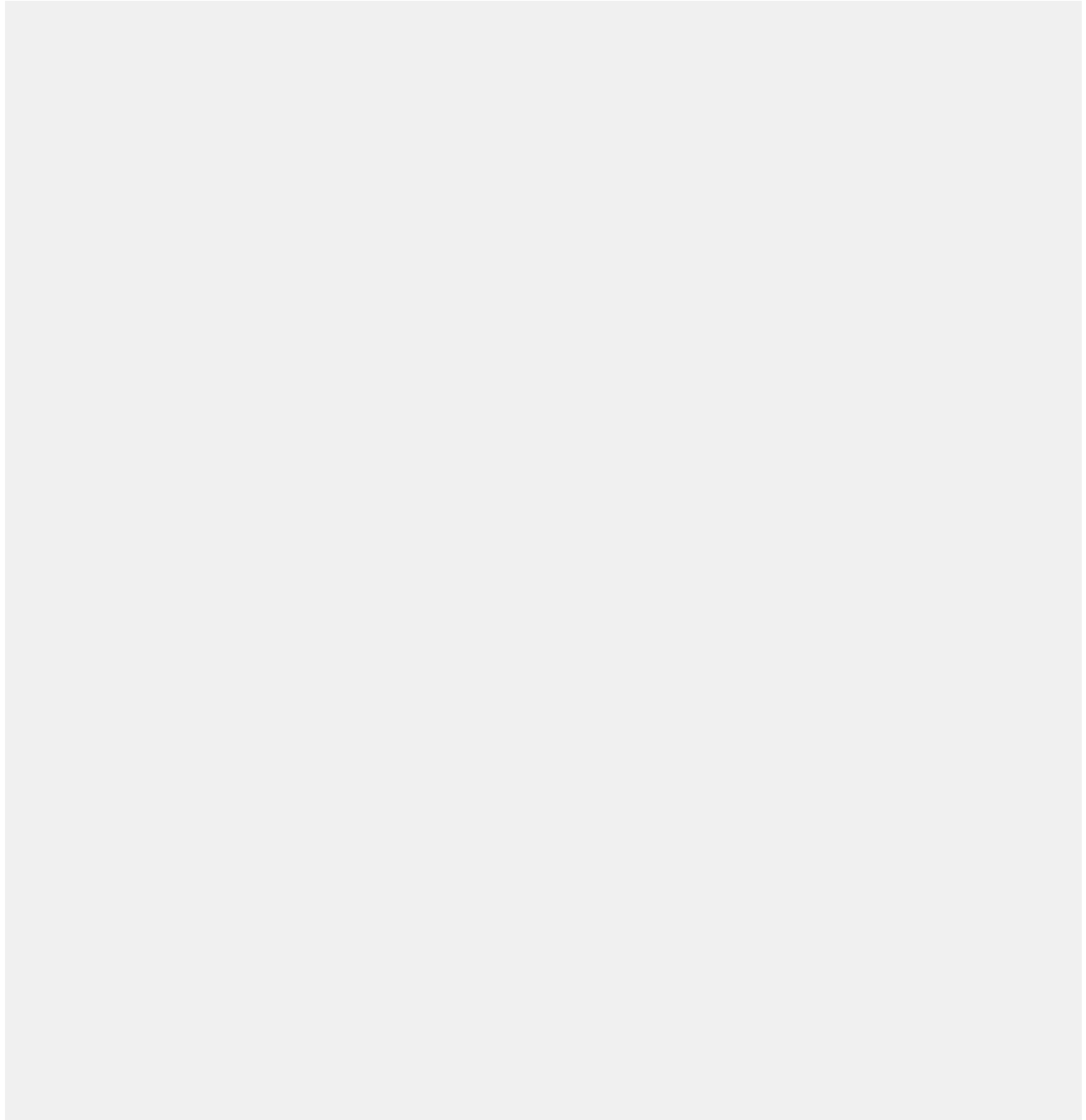
ProfileTabVisibilityはこのプロファイルのタブの表示設定を表します。バージョン17.0以降では、ProfileTabVisibilityは標準オブジェクトのタブの表示設定をサポートしています。マニフェストファイルには、プロファイルのタブの表示設定を取得するための標準タブに対応する標準オブジェクトを含める必要があります。

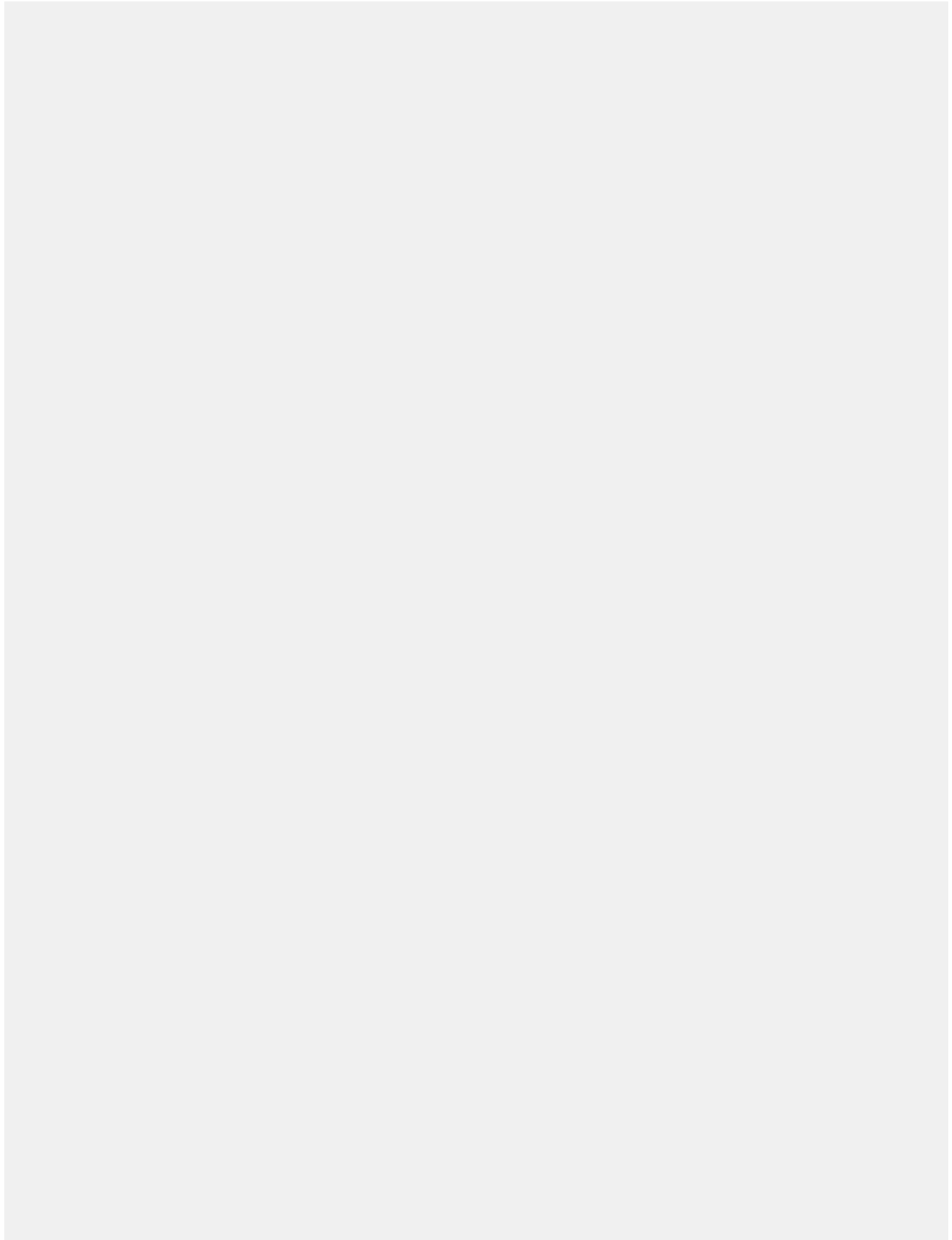
項目名	データ型	説明
	string	必須。タブの名前。
	TabVisibility (string 型の 列挙)	<p>必須。タブの表示設定を示します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> — このタブは [すべてのタブ] ページで利用できます。各ユーザは、どのアプリケーションでもタブが表示されるように表示をカスタマイズできます。 — タブは [すべてのタブ] ページで利用でき、関連付けられているアプリケーションの表示タブに表示されます。各ユーザは、表示をカスタマイズしてタブを非表示にしたり、その他のアプリケーションで表示したりできます。

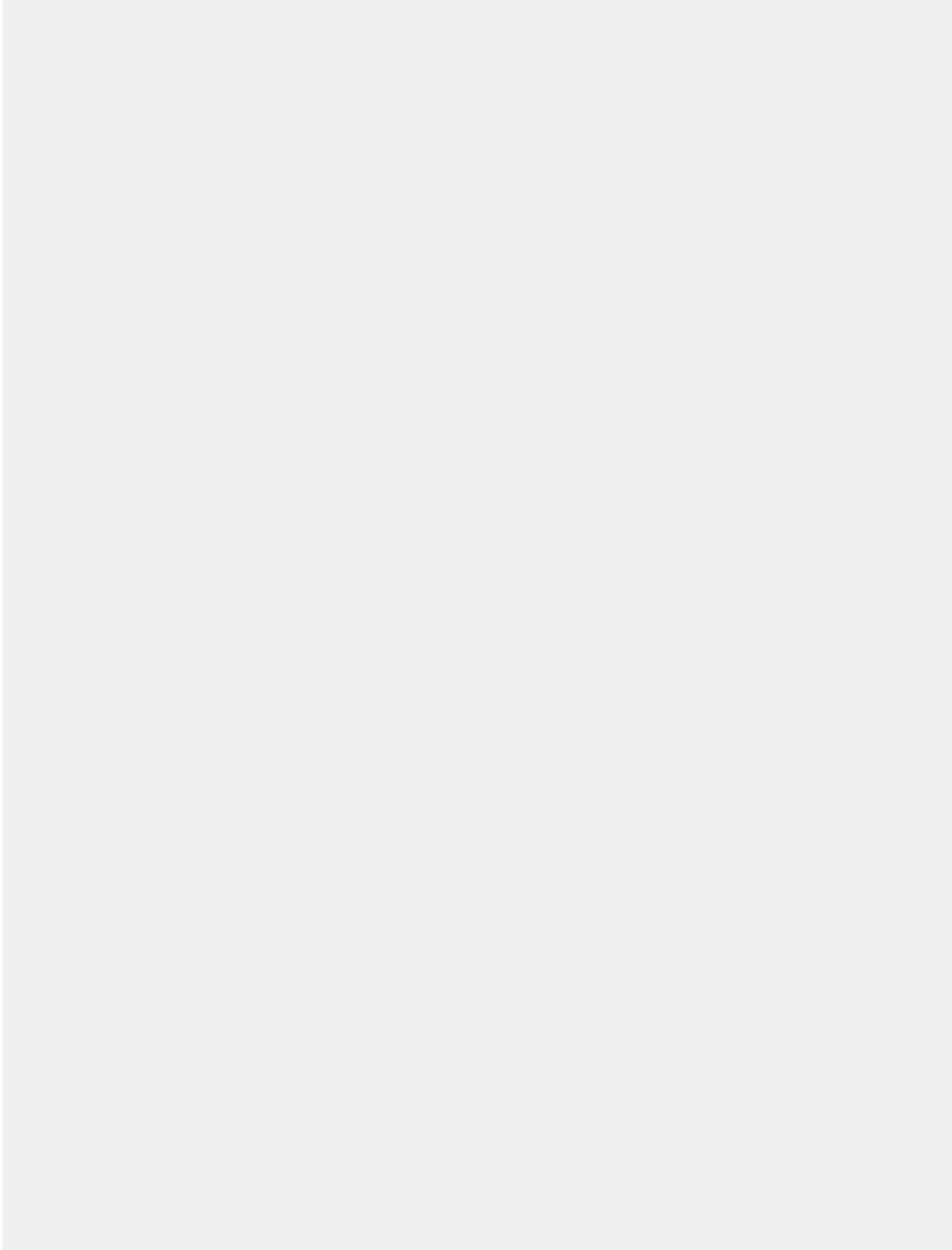
項目名	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none">— このタブは [すべてのタブ] ページでは利用できず、どのアプリケーションにも表示されません。

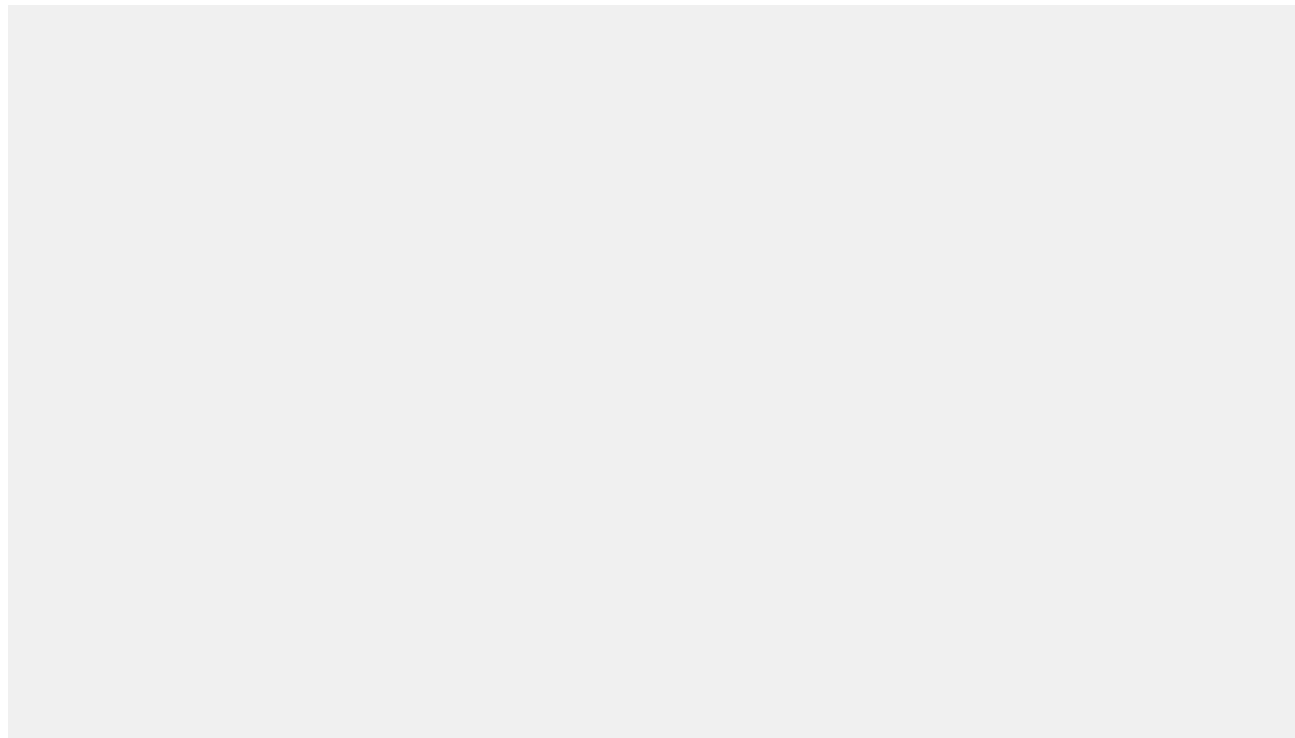
Java のサンプル

次のサンプルは、選択リスト、プロファイル、およびレコードタイプを使用します。









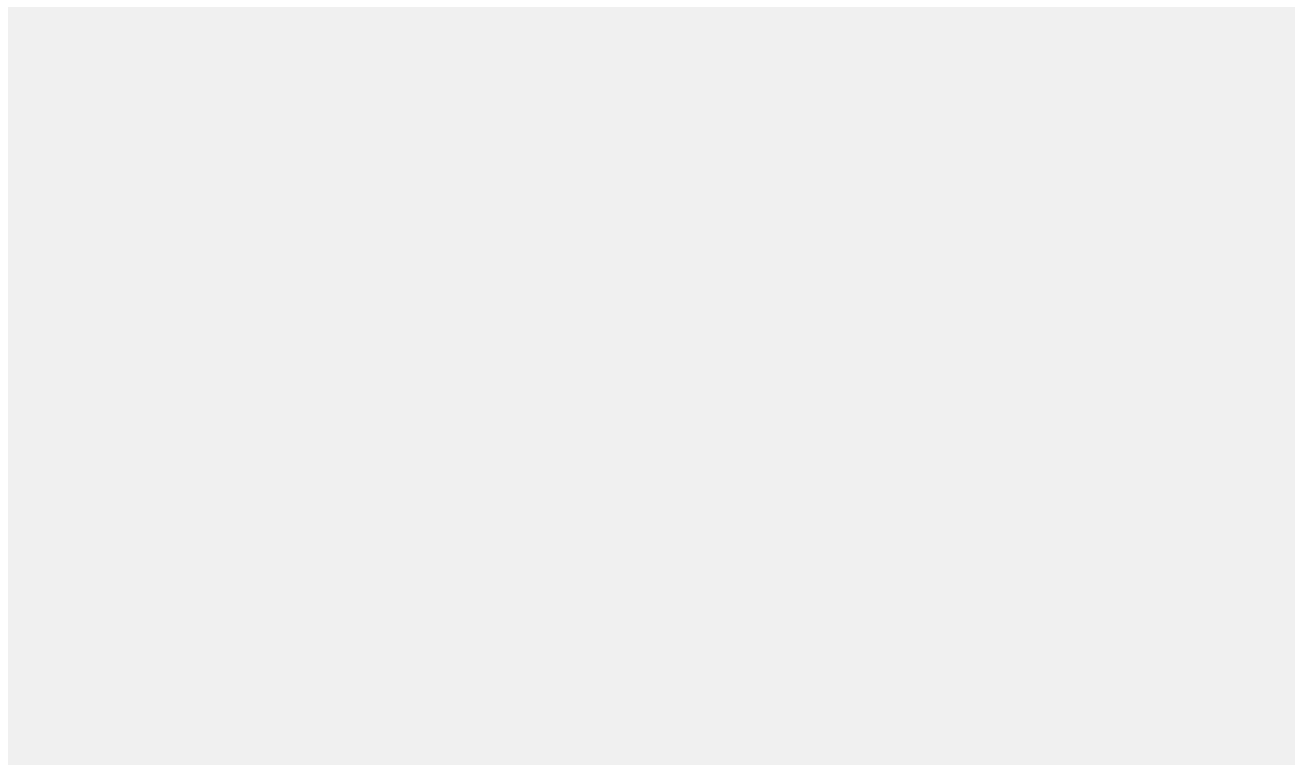
宣言的なメタデータの定義のサンプル

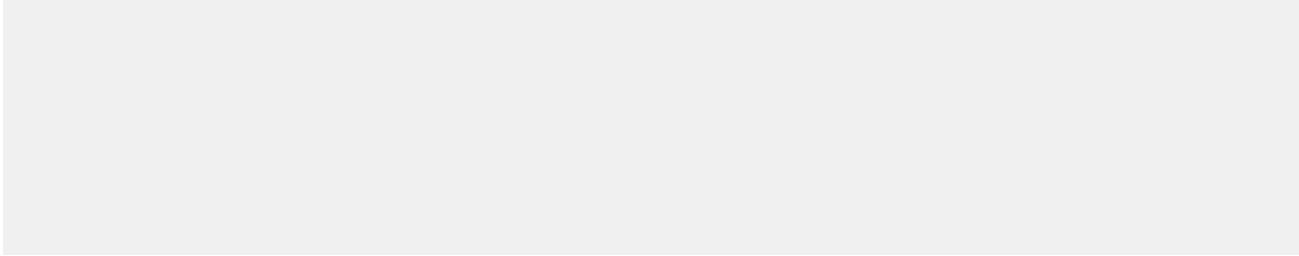
1 つのカスタムオブジェクト

および 1 つのレコードタイプ

を持つ組

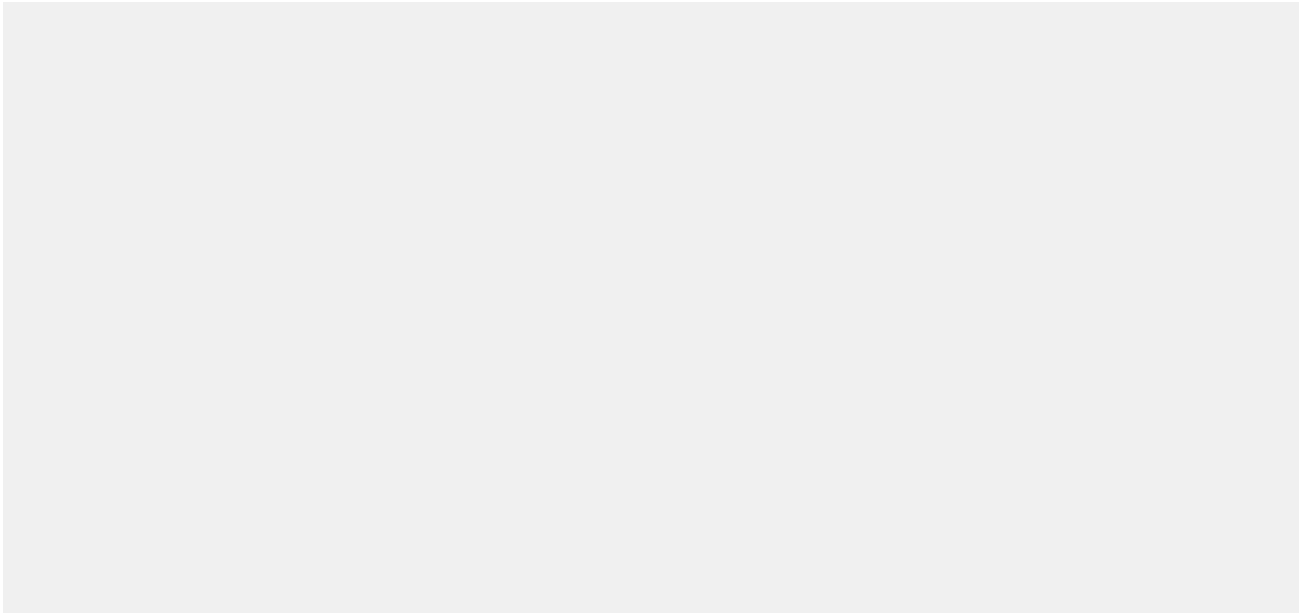
織の標準プロファイルの定義を次に示します。



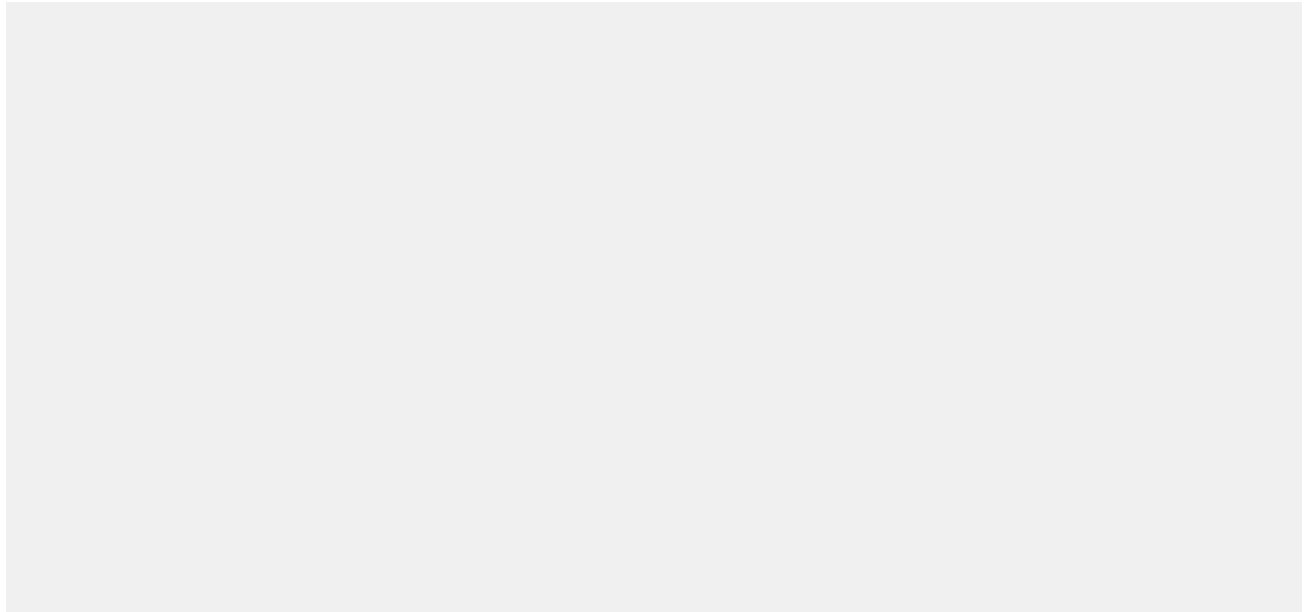


使用方法

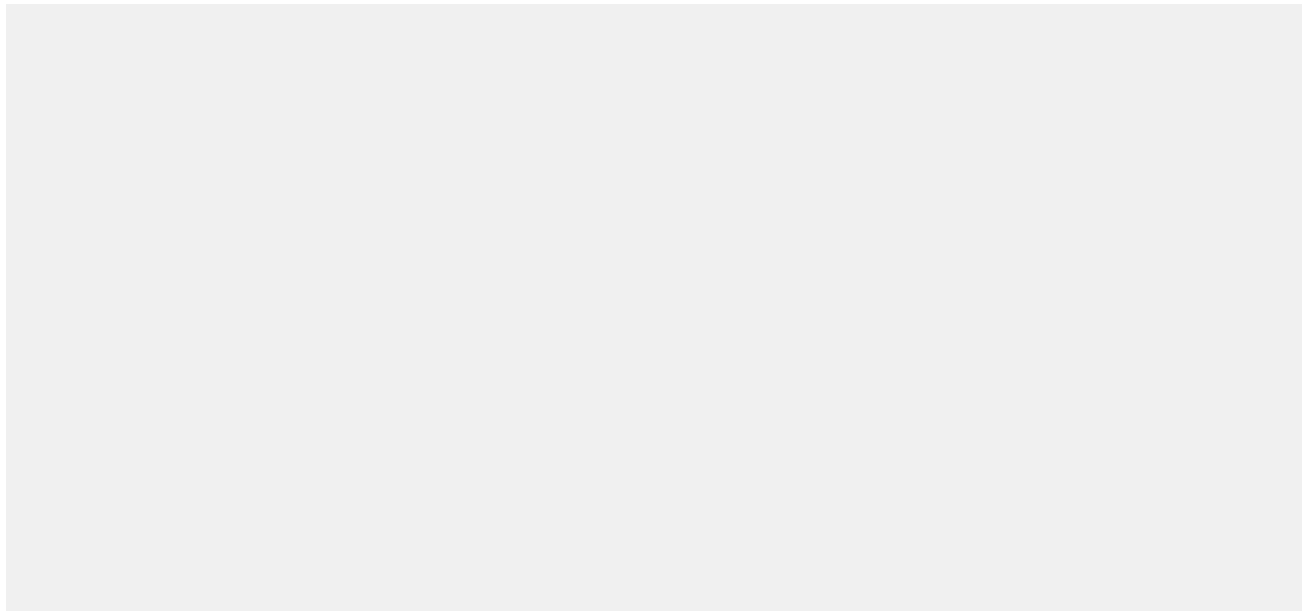
コールを使用して組織のプロファイルに関する情報を取得する場合、返されるファイルには retrieve 要求で参照されるその他のメタデータ型のセキュリティ設定のみが含まれます。たとえば、以下のファイルにはすべてのカスタムオブジェクトに一致する要素が含まれています。そのため、返されたプロファイルには組織のすべてのカスタムオブジェクトのオブジェクトおよび項目権限が含まれますが、Account などの標準オブジェクト、および標準項目の権限は含まれません。



次の `Account` プロファイルでは、`Account` 標準項目とカスタム項目のプロファイル権限を返すことができます。
`CustomObject` 型のメンバーとして標準の `Account` オブジェクトを指定することにより、要素内でこのオブジェクトがどのように定義されるかに注目してください。



最後の `Account` プロファイルでは、`Account` オブジェクトの `CustomObject` 型のメンバーとして標準の `Account` オブジェクトを指定することにより、要素内でこのオブジェクトがどのように定義されるかに注目してください。



Queue

処理する前にアイテムを置いておく領域を表します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

キューコンポーネントのファイルサフィックスは で、コンポーネントは対応するパッケージディレクトリの ディレクトリに保存されます。このコンポーネントは、ケース、リード、サービス契約 (エンティトルメントが有効である場合)、およびカスタムオブジェクトをサポートします。

バージョン

キューコンポーネントは、API バージョン 24.0 以降で使用できます。

項目

このメタデータ型はキューを定義する有効な値を表します。

項目名	データ型	説明
	boolean	新しいレコードがキューに追加されたときに、メールがキューメンバーに送信されるか()、否か()を示します。
	string	キューの所有者のメールアドレス。
	string	API アクセスの一意の識別子。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。ユーザインターフェースの [キュー名] に対応します。
	string	必須。キューの名前。ユーザインターフェースの [表示ラベル] に対応します。
	QueueSubject[]	サポートされているエンティティ種別を示します。

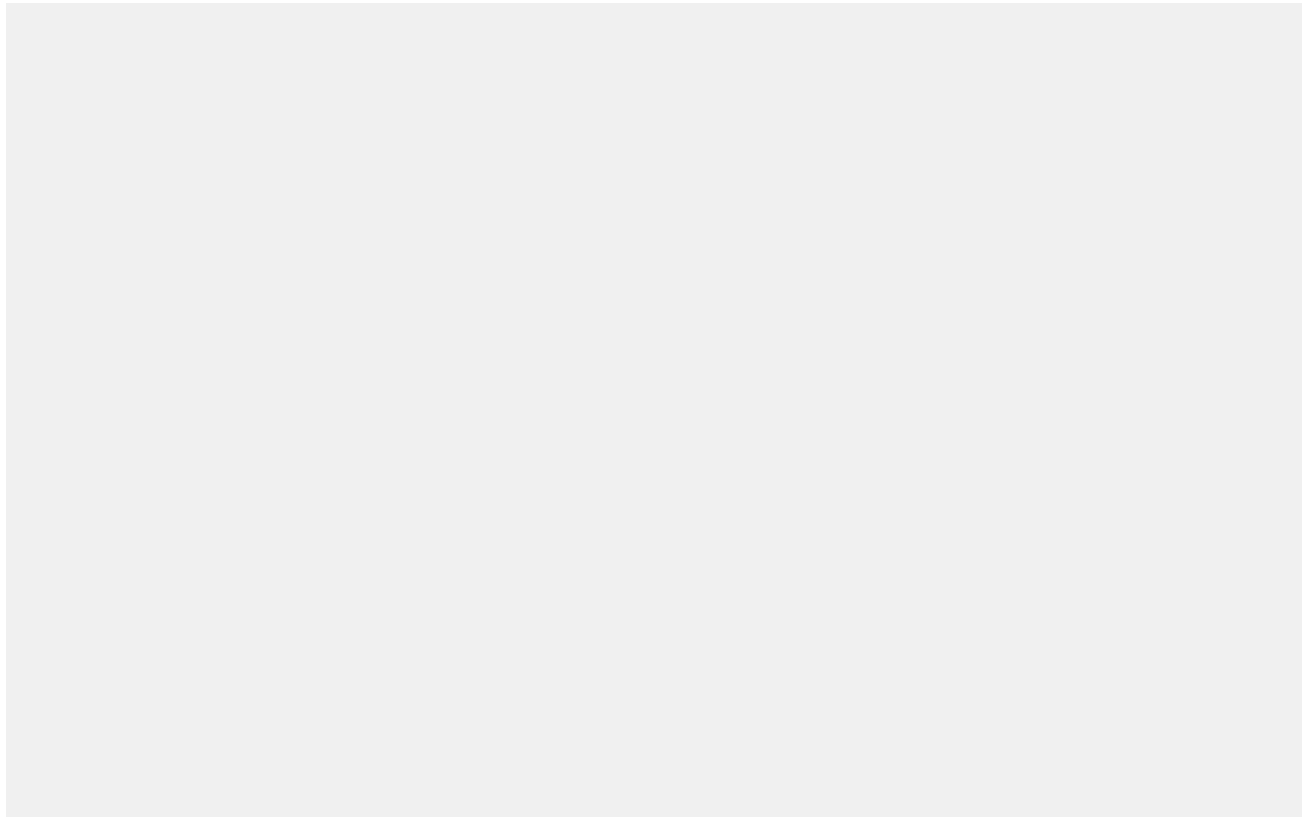
QueueSubject

QueueSubject ではキューがサポートするエンティティ種別を表します。

項目名	データ型	説明
	string	有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">・・・・ カスタムオブジェクト (たとえば、)

宣言的なメタデータの定義のサンプル

ケース、リードおよび ObjA という名前のカスタムオブジェクトをサポートするキューの定義を次に示します。



QuickAction

Chatter パブリッシャーで使用可能となるオブジェクトに対して指定された作成または更新アクションを表します。たとえば、取引先の詳細ページで、ユーザがそのページの Chatter フィードからその取引先に関連する取引先責任者を作成するアクションを作成できます。QuickAction は、カスタム項目が許可されたオブジェクトで作成できます。サポートされる親オブジェクトは、次のとおりです。

- Account
- Campaign
- Case
- Contact
- Custom objects
- Lead
- Opportunity
- User



メモ: アプリケーションでは、QuickAction はアクションと呼ばれます。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

QuickAction コンポーネントのサフィックスは `__quickaction__` で、`__quickaction__` フォルダに保存されます。

バージョン

QuickAction コンポーネントは、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	アクションの説明。
	FieldOverride	QuickAction 内で上書きできる特定の項目。
	int	カスタムアクションを作成する場合、この値がアクションペインの高さ (ピクセル単位) になります。
	string	アクションの識別に使用するアイコン。
	boolean	このコンポーネントが保護されるか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を示します。保護コンポーネントは、インストールする組織で作成されたコンポーネントによってリンク設定したり参照したりすることはできません。
	string	アクションを特定し、ユーザに表示します。これは、API および管理パッケージに使用するデフォルトの識別子でもあります。
	string	Visualforce ページを使用してカスタムアクションを作成する場合に、ページを特定します。
	QuickActionLayout	アクション中の項目のレイアウト。
	string	アクションを作成および実行する対象となるオブジェクト。 たとえば、取引先の詳細ページで、ユーザがそのページの Chatter フィードからその取引先に関連する取引先責任者を作成するアクションを作成できます。この場合、取引先責任者が <code>AccountOwner</code> になります。
	string	アクションの作成対象となるオブジェクトで指定された項目。
	string	作成するレコードタイプを指定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 法人取引先 個人取引先 主取引先

項目名	項目のデータ型	説明
	QuickActionType (string 型の 列挙)	レコードとカスタムアクションのどちらを作成するかを示します。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・ ・
	int	カスタムアクションを作成する場合、この値がアクションペインの幅 (ピクセル単位) になります。

FieldOverride

QuickAction での上書きを構成する項目名、各項目の数式およびリテラル値を表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	上書きを許可する特定の項目の名前。
	string	項目を上書きするときに使用する数式を指定します。
	string	上書きなしの項目の値。

QuickActionLayout

アクション中の項目のレイアウト。アクションレイアウトに追加できる項目数にハードリミットはありません。ただし、使いやすさを最適化するため、最大8項目をお勧めします。20項目以上を追加すると、ユーザの効率が大幅に低下します。

項目名	項目のデータ型	説明
	LayoutSectionStyle (string 型の 列挙)	使用するレイアウト構造の種別。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・ ・ ・
	QuickActionLayoutColumn[]	QuickActionLayout の列を指定します。

QuickActionLayoutColumn

QuickActionLayout に定義される列です。

項目名	項目のデータ型	説明
	QuickActionLayoutItem[]	QuickActionLayoutColumn の行アイテムを指定します。

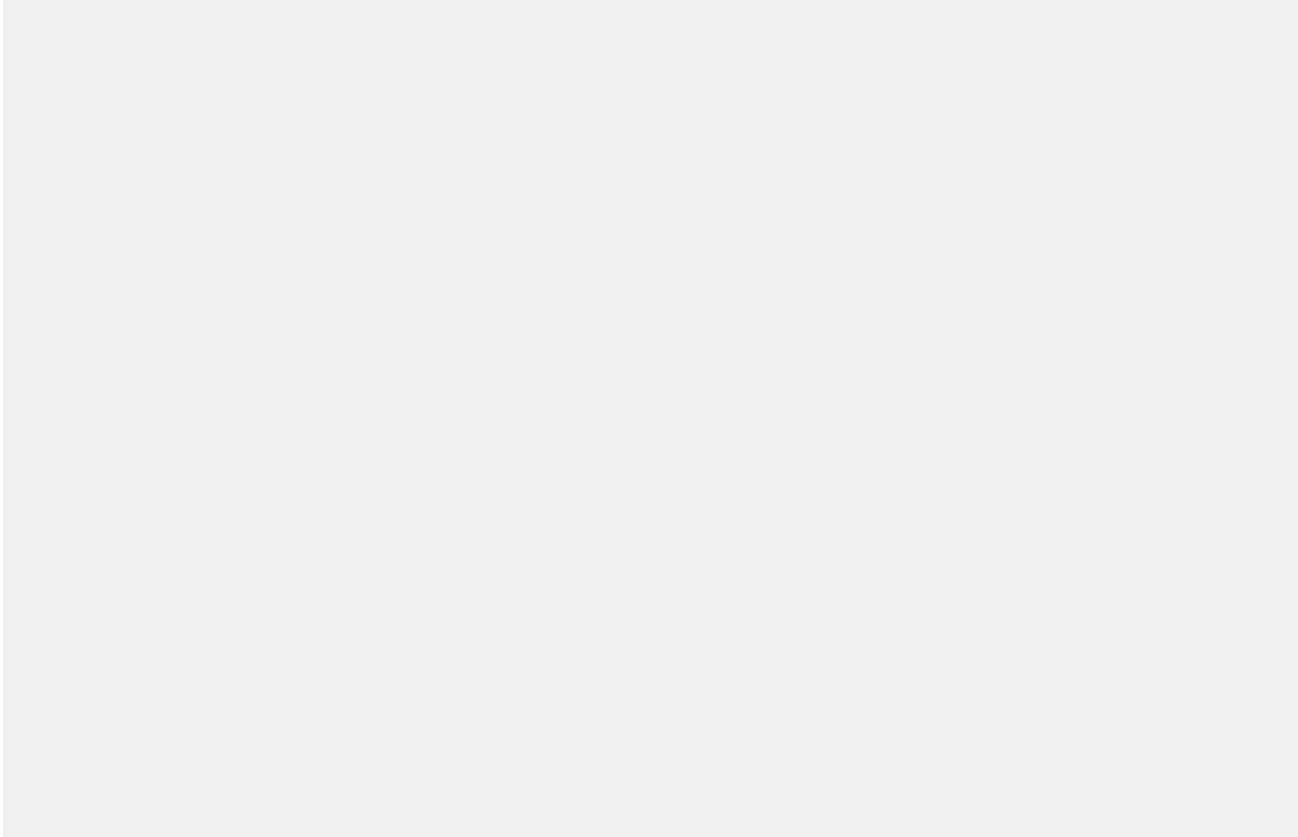
QuickActionLayoutItem

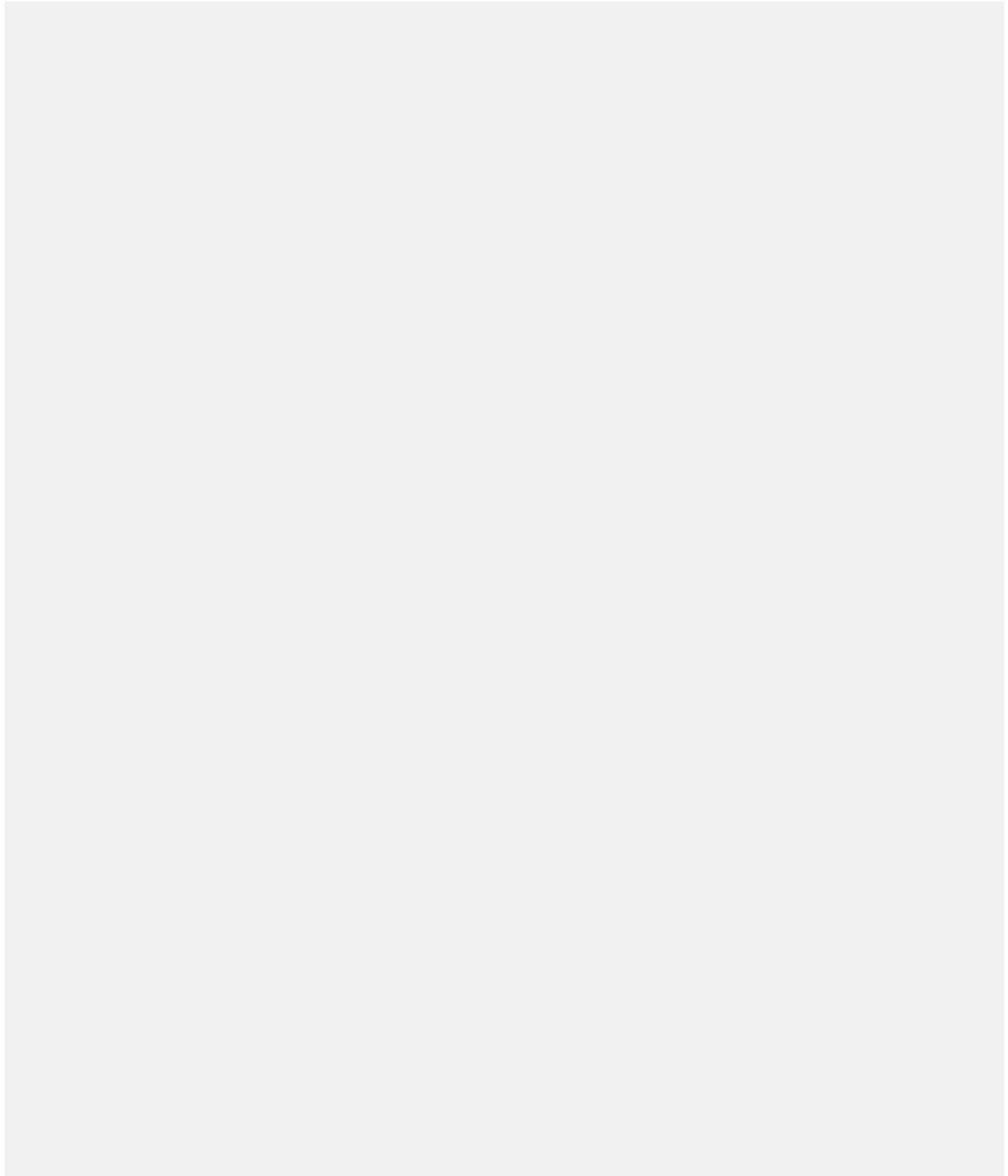
項目で構成され QuickActionLayoutColumn 用に定義される行アイテムです。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	このレイアウト項目が空白スペースであるか ()、否か () を制御します。
	string	QuickActionLayoutItem の特定の項目を表します。アクションレイアウトに追加できる項目数にハードリミットはありません。ただし、使いやすさを最適化するため、最大8項目をお勧めします。20 項目以上を追加すると、ユーザの効率が大幅に低下します。
	UiBehavior (string 型の 列挙)	QuickActionLayoutItem の特定の項目に関するユーザ入力動作を指定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">•••

宣言的なメタデータの定義のサンプル

次に、QuickAction コンポーネントの例を示します。





RemoteSiteSetting

リモートサイトの設定を表します。Sコントロールやカスタムボタンで XmlHttpRequest を使用し、Visualforce ページ、Apex 呼び出し、または JavaScript コードで外部サイトを呼び出せるようにするには、[リモートサイトの設定] ページにそのサイトを登録しておく必要があります。これを行わないと、呼び出しは失敗します。RemoteSiteSetting は [Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その 項目を継承します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

RemoteSiteSetting コンポーネントは、対応するパッケージディレクトリの ディレクトリ に保存されます。ファイル名はリモートサイトの設定の一意の名前に一致し、拡張子は です。

バージョン

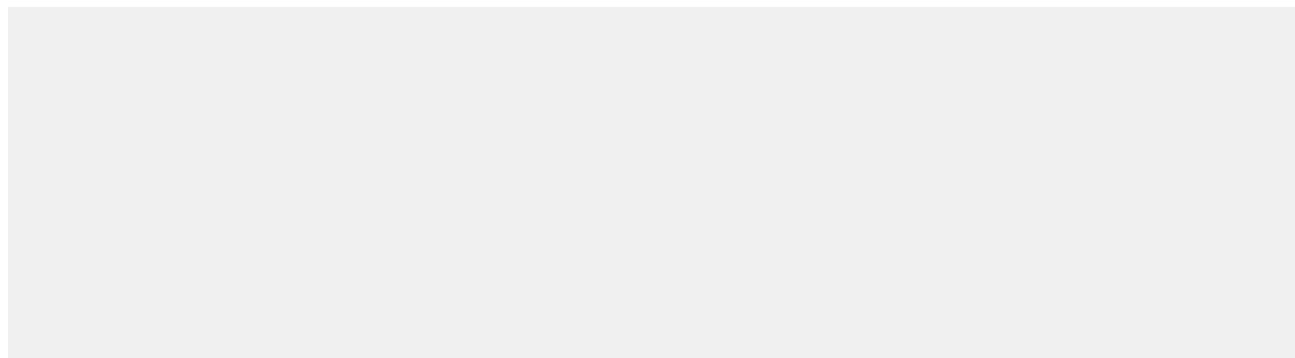
RemoteSiteSetting コンポーネントは、API バージョン 19.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	string	このリモートサイトの設定の使用目的を解説する説明。
	boolean	必須。ユーザ接続が HTTP または HTTPS 経由であるかに関係なく、Salesforce 内のコードでリモートサイトにアクセスできるか()、否か()、を示します。 である場合、Salesforce 内のコードは HTTPS セッションから HTTP セッションに、またその逆方向にもデータを渡せます。 <div> 警告: セキュリティについて理解した上でに設定してください。</div>
	string	名前には、英数字、およびアンダースコア (_) 文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した 2 つのアンダースコア文字を含めたりすることはできません。 この項目は Metadata コンポーネントから継承するため、この項目はこのコンポーネントの WSDL で定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 を参照してください。
	boolean	必須。リモートサイトの設定が有効であるか()、否か()を示します。
	string	必須。リモートサイトの URL。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

リモートサイトの設定の XML 定義のサンプルを以下に示します。



Report

カスタムレポートを表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その [Report](#) 項目を継承します。このメタデータ型でサポートされるのはカスタムレポートのみです。標準レポートはサポートされません。

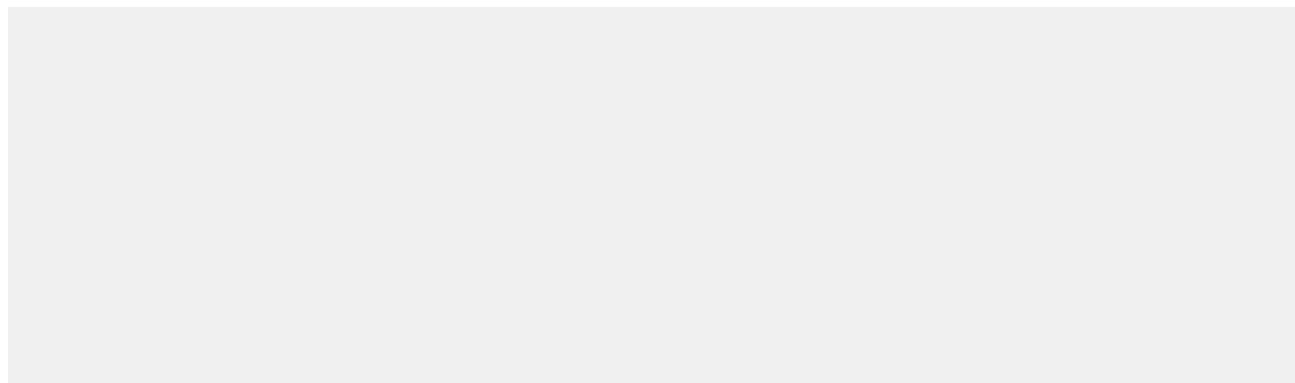
宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

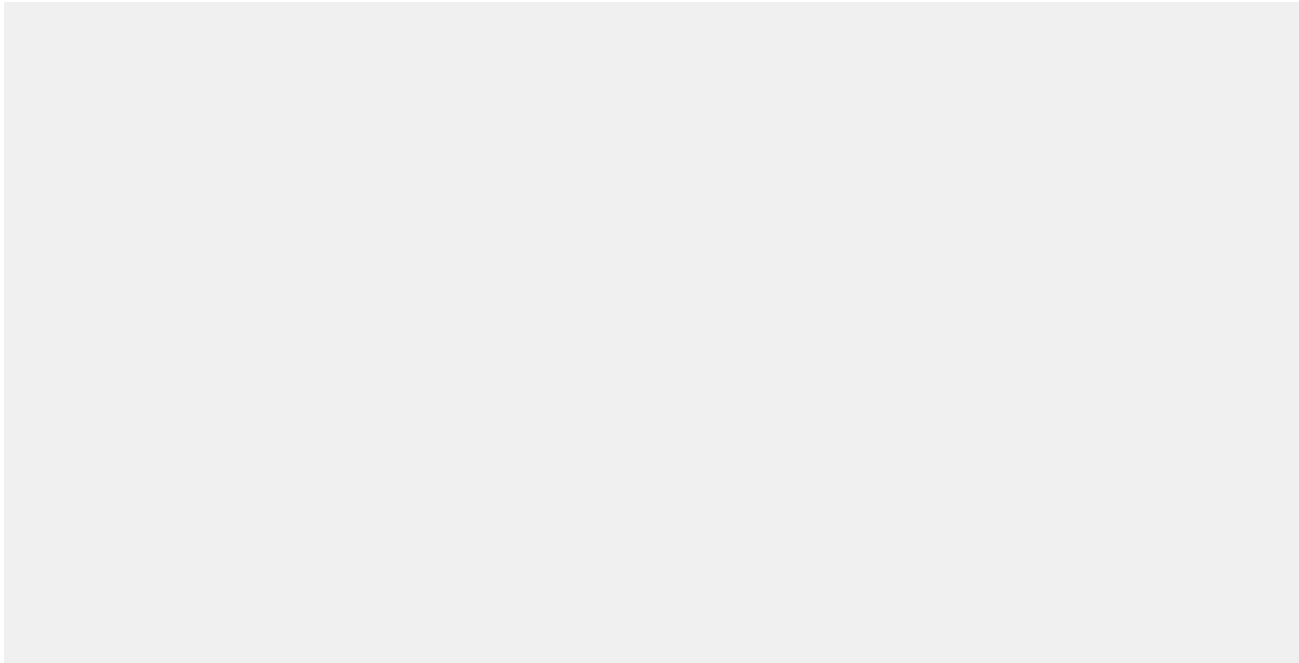
レポートは、対応するパッケージディレクトリの [Report](#) ディレクトリに保存されます。ファイル名はレポートタイトルに一致し、拡張子は [Report](#) です。

レポートの取得

[Report](#) ではレポートにワイルドカード (*) 記号を使用できません。明示的な名前を [Report](#) に入力するためにレポートのリストを取得するには、[Report](#) をコールし、[Report](#) をデータ型として渡します。ReportFolder は [Report](#) ではデータ型として返されません。レポートは、[Report](#) の関連付けられている属性が true に設定された [Report](#) から返されます。この属性が true に設定されている場合は、ReportFolder など、「Folder」という単語を含むコンポーネント名を使用してデータ型を作成できます。

次の例では、[Report](#) 内のフォルダを示します。





バージョン

Report コンポーネントは、API バージョン 14.0 以降で使用できます。

項目

次の情報は、レポートの作成と実行を十分に理解していることを前提としています。これらの項目についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「レポートの作成」を参照してください。

項目	データ型	説明
	ReportAggregate[]	サマリーレポート、マトリックスレポート、および結合レポートのカスタム集計項目を定義するリスト。
	Report[]	すべてのブロックのレポートタイプが異なる可能性がある結合レポートの各ブロックを表します。
	ReportBlockInfo	結合レポートの各ブロックの属性を定義します。
	ReportBucketField[]	レポートに使用されるバケット項目を定義します。この項目は API バージョン 24.0 以降で使用できます。
	ReportChart	サマリーレポートとマトリックスレポートのグラフを定義します。
	ReportColorRange[]	レポートサマリーデータの条件付き強調表示を指定するリスト。

項目	データ型	説明
	ReportColumn[]	レポートに表示される項目を指定するリスト。項目がレポートに表示される順序は、メタデータ API ファイルに表示される順序と同じです。
	ReportCrossFilter[]	クロス条件のオブジェクト、関連オブジェクト、条件（「含む」または「含まない」）を定義します。この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。
	(string 型の 列挙)	マルチ通貨を使用する場合、一部のレポートでは、適切な列を表示対象として選択すると、換算された金額を表示できます。たとえば、商談レポートでは、[金額] (換算値) 列をレポートに含めることができます。この項目は、換算額を表示する通貨を定義する string 型の列挙です。有効値: 、 、 など、ISO 4217 標準で定義された有効な英字 3 文字の ISO 通貨コードである必要があります。
	string	レポート名と一緒に表示される一般情報を指定します。最大文字数は 255 文字です。
	string	組織がディビジョンを使用してデータを分類しており、「ディビジョンの使用」権限を持っている場合は、レポート内のレコードはこのディビジョンと一致する必要があります。 この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。
	ReportFilter	レポートの結果を、特定のデータを持つレコードに制限します。たとえば、次のようにレポートの結果を金額が 1,000 ドルを超える商談に制限できます。

項目	データ型	説明
		詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「検索条件の入力」を参照してください。
	ReportFormat (string 型の列挙)	レポート形式を定義します。たとえば、小計のない単純なデータリストの場合は使用します。
	string	API アクセスの識別子として使用される、レポートの一意の開発者名。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	ReportGrouping []	マトリックスレポートでデータのグループ化と小計の基準となる項目を定義するリスト(行ヘッダー)。日付項目でグループ化する場合は、日、週、または月などの特定の期間を使用してデータをさらにグループ化できます。最大項目数は2です。
	ReportGrouping []	サマリーレポートとマトリックスレポートの場合でグループ化と小計の基準となる項目を定義するリスト。サマリーレポートでは、複数の並び替え項目を選択してデータを並び替えできます。マトリックスレポートでは、列ヘッダーとなる集計項目を指定します。日付項目でグループ化する場合は、日、週、または月などの特定の期間を使用してデータをさらにグループ化できます。マトリックスレポートの最大値は2です。サマリーレポートの最大値は3です。
	string	必須。レポート名。たとえば、 などです。
	ReportParam []	各レポートタイプに固有の設定、特にレポートを絞り込んで役に立つサブセットを取得できるようにするオプションを指

項目	データ型	説明
		定するリスト。たとえば、活動レポートタイプを使用すると、活動予定、完了した活動、またはその両方を表示するかどうかや、ToDo、行動、またはその両方を表示するかどうかを指定できます。有効な値はレポートタイプに応じて異なります。
	string	必須。レポート内のデータの型を定義します。たとえば、商談データのレポートを作成するには、 を指定します。
	string	レポートドリルダウンのロール名。商談レポートや活動レポートなどの一部のレポートには [階層] リンクが表示され、そこからロール階層に基づいてさまざまなデータセットにドリルダウンできます。 この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。
	int	レポートで返すことができる最大行数を定義します。
	string	レポートの実行対象となるデータの範囲を定義します。たとえば、すべての商談、自分が所有する商談、所属するチームが所有する商談に対してレポートを実行するかどうかなどです。有効な値は、 によって異なります。たとえば、Account レポートの場合、次の値になります。 . . .
	boolean	を指定すると、ヘッダー、小計、合計のみのレポートの折りたたみビューが表示されます。デフォルト:
	string	レポートのデータの並び替え対象となる項目を指定します。並び替え順を指定するには、 を使用します。
	SortOrder (string 型の列挙)	並び替え順を指定します。並び替え対象となる項目を指定するには、 を使用します。

項目	データ型	説明
	string	レポートドリルダウンのテリトリー名。組織がテリトリー管理を使用している場合、一部のレポートには [階層] リンクが表示され、そこからテリトリー階層に基づいてさまざまなデータセットにドリルダウンできます。 この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。
	ReportTimeFrameFilter	レポートの結果を、指定した期間内のレコードに制限します。
	string	レポートドリルダウンのユーザ名。商談レポートや活動レポートなどの一部のレポートには [階層] リンクが表示され、そこからユーザ階層に基づいてさまざまなデータセットにドリルダウンできます。 この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。

ReportAggregate

ReportAggregate は、サマリーレポート、マトリックスレポート、および結合レポートのカスタム集計項目を定義します。これらの項目についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「カスタム集計項目の作成」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	カスタム集計項目を表示する行のグループ化レベルを定義します。これは、API バージョン 15.0 の新項目です。
	string	必須。カスタム集計項目。たとえば、 のようになります。
	ReportAggregateDatatype (string 型の 列挙)	必須。カスタム集計項目の結果の書式設定および表示用のデータ型を指定します。
	string	カスタム集計項目の説明。最大 255 文字です。
	string	必須。カスタム集計項目の内部開発名。たとえば、 などです。これは、条件付き強調表示など、他のレポートコンポーネントからカスタム集計項目を参照するために使用されます。

項目	データ型	説明
	string	カスタム集計項目を表示する列のグループ化レベルを定義します。この項目は API バージョン 15.0 以降で使用できます。
	boolean	必須。 を指定すると、数式の結果がレポートに表示されます。 を指定すると、結果がレポートに表示されません。
	boolean	カスタム集計項目が、結合レポートで使用できるクロスブロック集計項目であるかどうかを決定します。 は、クロスブロックカスタム集計項目であることを示します。 は、標準のカスタム集計項目であることを示します。 この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。
	string	必須。カスタム集計項目の表示ラベル (名前)。
	string	結合レポートでは必須。 を追加できるブロックの を指定します。
	int	数式の結果は、指定された小数点以下の桁数に計算されます。有効な値は ~ です。

ReportBlockInfo

ReportBlockInfo は、結合レポートのブロックを定義します。

項目	データ型	説明
	ReportAggregateReference []	結合レポートブロックで使用されるカスタム集計項目を表す をリストします。
	string	必須。 は、各集計項目を含むブロックを識別するために、クロスブロックカスタム集計項目と結合レポートのグラフで使用されます。 は、自動的に割り当てられます。有効な値は、B1 から B5 です。 この項目は API バージョン 25.0 以降で使用できます。
	string	必須。結合レポートのブロックの結合に使用されるエンティティを参照します。このエンティティによって、複数のブロックにまたがってグローバルにグループ化可能な項目のリストが提供されます。

ReportAggregateReference

ReportAggregateReference は、結合レポートのカスタム集計項目に使用される開発者名を定義します。

項目	データ型	説明
	string	必須。結合レポートのブロックで使用するカスタム集計項目を指定する、ReportAggregate の。

ReportBucketField

ReportBucketField は、レポートで使用されるバケットを定義します。

項目	データ型	説明
	ReportBucketFieldType (string 型の 列挙)	必須。バケットの種別を指定します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • text • number • picklist
	string	必須。列リストやその他のレポートコンポーネント (並び替え、検索条件、リスト、グループ、グラフなど) にバケット項目を表示するために 値として使用される一意の名前。 <i>name</i> の形式にする必要があります。たとえば、 です。
	string	必須。バケット項目の表示ラベル。最大 40 文字です。表示ラベルの先頭と末尾にある改行、タブ、複数の空白はすべて削除されます。表示ラベル内にあるこれらの文字は 1 文字の空白に変換されます。
	ReportBucketFieldNullTreatment (string 型の 列挙)	数値バケット項目のみが対象。空の値を 0 として扱うか ()、否か () を指定します。
	string	バケット化が解除された値のコンテナの表示ラベル。
	string	必須。バケットが適用されるソース項目。たとえば、 または です。
	ReportBucketFieldValue (string 型の 列挙)	バケット項目で使用される 1 つのバケット値を定義します。 <div>  <p>メモ: この名前は複数形ですが、1 つのバケットを表します。典型的な使用方法では、バケット項目には複数のバケットが含まれます。</p> </div>

ReportBucketFieldValue

ReportBucketFieldValue は、バケット項目で使用されるバケット値を定義します。

項目	データ型	説明
	ReportBucketFieldSourceValue (string 型の 列挙)	<p>バケット項目内のバケットの値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 選択リスト項目およびテキストバケット項目に使用されます。選択リストの場合、バケット内の選択リスト項目を説明します。たとえば、 のバケットの sourceValue は、 の場合があります。テキストの場合、バケット内の項目の文字列全体です。たとえば、 のバケットの sourceValue は、 の場合があります。 — 数値バケット項目でのみ使用されます。数値バケット範囲の下限を示します (この値は範囲に含まれない)。この値は数値である必要があります。 — 数値バケット項目でのみ使用されます。数値バケット範囲の上限を示します (この値は範囲に含まれる)。この値は数値である必要があります。 <p>数値バケットでは、最初の値には のみ、最後の値には のみが設定されている必要があります。それ以外のすべての値は、 と の両方が設定されている必要があります。</p>
	string	必須。バケット項目内の特定のバケット値の名前。

ReportGrouping

ReportGrouping は、サマリーレポート、マトリックスレポート、および結合レポートでのデータのグループ化および小計を算出する方法を定義します。

項目	データ型	説明
	UserDateGranularity (string 型の 列挙)	日付項目でグループ化する場合、グループ化の基準となる期間。
	string	必須。データの集計の基準となる項目。たとえば、 のようになります。
	SortOrder	必須。データを英数字の昇順と降順のどちらで並び替えるかを示します。

SortOrder

レポート項目でのデータの並び替え順序を定義する string 型の列挙です。有効な値は次のとおりです。

項目	説明
	データを英数字の昇順に並び替えます。
	データを英数字の降順に並び替えます。

UserDateGranularity

データのグループ化の基準となる期間を定義する string 型の列挙です。有効な値は次のとおりです。

列挙値	説明
	日付によるグループ化なし
	日別
	週別
	月別
	四半期別
	年別
	会計四半期別。組織の四半期年度を設定できます。Salesforce オンラインヘルプの「会計年度の設定」を参照してください。
	会計年度別
	カレンダー月別
	カレンダー日別
	会計期間別 (カスタム会計年度が有効な場合)
	会計週別 (カスタム会計年度が有効な場合)

ReportSummaryType

レポート項目の集計方法を定義する string 型の列挙です。有効な値は次のとおりです。

列挙値	説明
	合計
	平均
	最大値
	最小値
	この項目は集計されません。

ReportColorRange

ReportColorRange は、レポートサマリーデータの条件付き強調表示を定義します。

項目	データ型	説明
	ReportSummaryType (string 型の 列挙)	必須。 で指定された項目の集計方法を定義します。たとえば、 です。
	string	必須。値の範囲を色で表現する項目を指定します。
	double	必須。ミドルレンジの色をミドルレンジの色と分割する数値を指定します。
	string	必須。ハイレンジの数値として分類されたデータを表す色を指定します (HTML 形式)。この色は、 を超える値に対応します。
	double	必須。ローレンジの色をハイレンジの色と分割する数値を指定します。
	string	必須。ローレンジの値(値未満)として分類されたデータを表す色を指定します (HTML 形式)。
	string	必須。ミドルレンジの値として分類されたデータを表す色を指定します (HTML 形式)。

ReportColumn

ReportColumn は、レポート内での項目 (列) の表示方法を定義します。

項目	データ型	説明
	ReportSummaryType [] (string 型の 列挙)	各レポート項目が集計されるかどうか、および集計方法を定義するリスト。
	string	必須。項目名。たとえば、 または などです。

ReportFilter

ReportFilter は、指定された項目に基づいてデータを絞り込み、レポートの結果を制限します。

項目	データ型	説明
	string	検索条件ロジックの条件を指定します。検索条件ロジックの詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「検索条件ロジックを最大限に活用する」を参照してください。
	ReportFilterItem	レポートデータの絞り込み条件。

項目	データ型	説明
	Language (string 型の 列挙)	レポートで演算子 または を使用して選択リスト値を絞り込むときに使用される言語。有効な言語の値の一覧は、「 Translations 」を参照してください。

ReportFilterItem

ReportFilterItem は、指定された項目に基づいてデータを絞り込み、レポートの結果を制限します。

項目	データ型	説明
	string	必須。データの絞り込み対象となる項目。たとえば、 Country のようになります。
	FilterOperation (string 型の 列挙)	必須。データの絞り込みに使用する演算子 (AND など) を定義する string 型の列挙。有効な値については、「 FilterOperation 」を参照してください。
	string	データの絞り込みに使用する値。たとえば、 Country などです。メタデータ API 検索条件値は、レポートウィザードに入力した検索条件値と一致しない場合があります。たとえば、メタデータ API では日付は常に米国の日付形式に変換され、非英語言語で入力された値は標準の米国英語の同等の形式に変換される可能性があります。

ReportFormat

レポート形式を定義する string 型の列挙です。有効な値は次のとおりです。

列挙値	説明
Grid	データをグリッドに集計します。関連する合計を比較するために使用します。
List	データをリスト、並び替え、および小計します。
ListNoSort	並び替えや小計なしでデータをリストします。
Summary	各レポートのデータをそれぞれのブロックに保存しているさまざまなレポートタイプからデータを結合します。

ReportParam

ReportParam は、レポートタイプに固有の設定、特に、レポートを特定の便利なサブセットに絞り込めるようにするオプションを表します。

項目	データ型	説明
	string	必須。固有の 設定を指定します。
	string	必須。設定値。

ReportAggregateDatatype

カスタム集計項目結果の書式設定および表示用のデータ型を指定する string 型の列挙です。有効な値は次のとおりです。

列挙値

ReportChart

ReportChart は、サマリーレポート、マトリックスレポート、および結合レポートのグラフを表します。

項目	データ型	説明
	string	背景のグラデーションの開始色を指定します (HTML 形式)。
	string	背景のグラデーションの終了色を指定します (HTML 形式)。
	ChartBackgroundDirection (string 型の列挙)	背景のグラデーションの色の方向を指定します。グラデーションデザインの開始色を指定する、および終了色を指定すると一緒に使用します。背景のデザインが必要ない場合は、両方に白を選択します。有効な値は次のとおりです。 ・ ・ ・
	ChartSummary[]	グラフに使用する集計を指定します。無効な集計は、通知なしで無視されます。有効な集計がない場合、デフォルトで RowCount が軸の値に使用されます。この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。
	ChartType (string 型の列挙)	必須。グラフの種類を指定します。使用可能なグラフの種類は、レポートタイプに応じて異なります。
	boolean	グラフにマウスを重ねたとき、値、表示ラベル、およびパーセントを表示するかどうかを指定します。

項目	データ型	説明
		詳細のフロート表示はグラフの種類によって異なります。パーセントは、円グラフ、ドーナツグラフ、およびじょうごグラフのみに適用されます。この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。
	boolean	合計の 3% 以下のグループをすべて 1 つの「その他」系列または区分グループにまとめるかどうかを指定します。円グラフ、ドーナツグラフ、およびじょうごグラフのみに適用されます。グラフにすべての値を個別に表示する場合は を設定し、小さなグループを「その他」にまとめるには に設定します。この項目は API バージョン 17.0 以降で使用できます。
	string	データのグループ化の基準となる項目を指定します。このデータは、縦棒グラフの場合は X 軸に、横棒グラフの場合は Y 軸に表示されます。
	ChartLegendPosition (string 型の 列挙)	必須。 グラフに対する凡例の位置。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • •
	ChartPosition (string 型の 列挙)	必須。グラフをレポートの上部に表示するか、または下部に表示するかを指定します。
	string	データのグループ化の基準となる項目を指定します (グループ化されるグラフの種類の場合に指定可能)。
	boolean	グラフに各軸の名前を表示するかどうかを指定します (棒グラフと折れ線グラフの場合に指定可能)。
	boolean	円グラフ、ドーナツグラフ、およびじょうごグラフの系列および区分のパーセント値とゲージのパーセント値を表示するか ()、否か () を示します。
	boolean	ドーナツグラフとゲージの合計を表示するか ()、否か () を示します。
	boolean	グラフの個々のレコードまたはグループの値が表示されるか ()、否か () を示します。
	ReportChartSize (string 型の 列挙)	必須。グラフのサイズを指定します。

項目	データ型	説明
	ReportSummaryType (string 型の 列挙)	グラフデータの集計方法を定義します。たとえば、 です。API バージョン 17.0 以降ではサポートされません。 を参照してください。
	double	終了値を定義します (手動で軸範囲を指定する場合に指定可能)。
	double	開始値を定義します (手動で軸範囲を指定する場合に指定可能)。
	ChartRangeType (string 型の 列挙)	必須。軸範囲を手動と自動のどちらで指定するかを定義します (横棒グラフ、折れ線グラフ、縦棒グラフの場合に指定可能)。
	string	必須。グラフデータの集計の基準となる項目を指定します。通常、この項目は Y 軸に表示されます。API バージョン 17.0 以降ではサポートされません。 を参照してください。
	string	グラフのテキストと表示ラベルの色 (HTML 形式)。
	int	グラフのテキストと表示ラベルのサイズ。有効な値は次のとおりです。 最大サイズは 18 です。18 より大きい値は 18 ポイントで表示されます。
	string	グラフのタイトル。最大 255 文字です。
	string	タイトルテキストの色 (HTML 形式)。
	int	タイトルテキストのサイズ。有効な値は次のとおりです。

列挙値

ChartSummary

ChartSummary は、グラフのデータの集計方法を定義します。有効な値は次のとおりです。

項目	データ型	説明
	ReportSummaryType	集計値の集計方法（ 、 、 、 など）を指定します。集計に使用される集計値を指定するには、 項目を使用します。RowCount またはカスタム集計項目にはこの項目を指定する必要はありません。
	ChartAxis	グラフで使用する軸を指定します。軸に使用される集計値を指定するには、 項目を使用します。
	string	必須。グラフデータの集計項目を指定します。すべての列が無効な場合、デフォルトで RowCount が軸の値に使用されます。縦棒と横棒の組み合わせグラフの場合、最大 4 つの値を指定できます。

ChartAxis

グラフで使用する軸を指定する string 型の列挙です。有効な値は次のとおりです。

列挙値	説明
	散布図の X 軸に使用する集計値。
	グラフの Y 軸。
	縦棒グラフに折れ線を追加した組み合わせグラフの 2 本目の Y 軸。

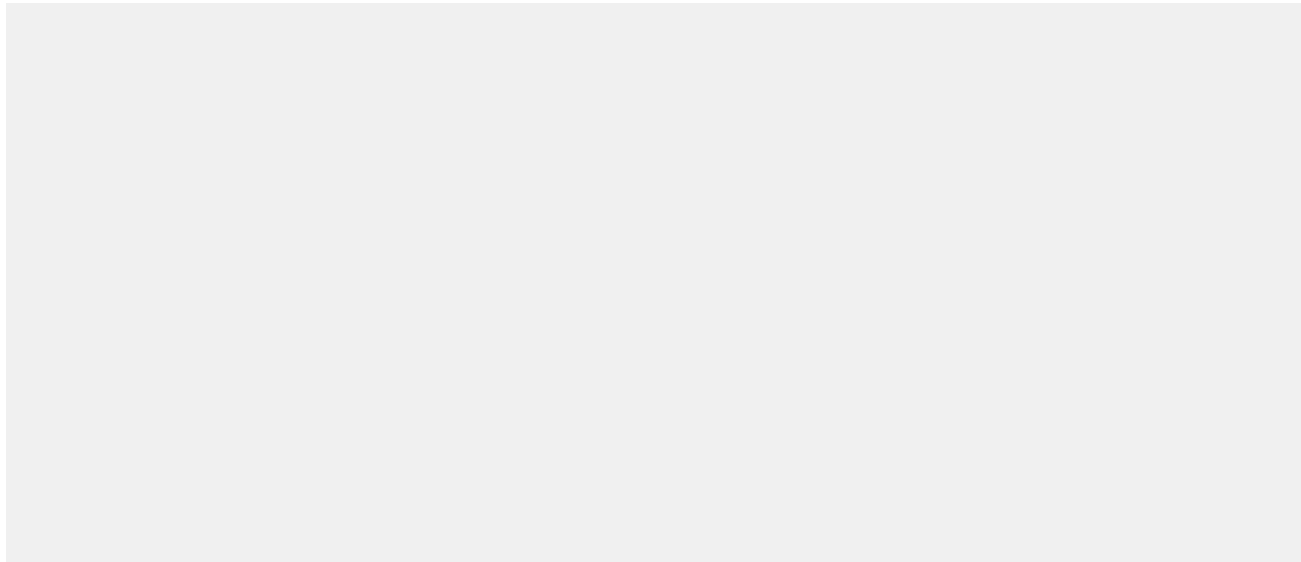
ReportChartSize


グラフのサイズを指定する string 型の列挙です。有効な値は次のとおりです。

列挙値

宣言的なメタデータの定義のサンプル

クロス条件を使用してケース状況がクローズではないケースの Account レポートを作成するサンプル XML スニペット。



 メモ: このサンプルは、API バージョン 23.0 を使用して生成されました。

UserDateInterval

期間を定義する string 型の列挙です。有効な値は次のとおりです。

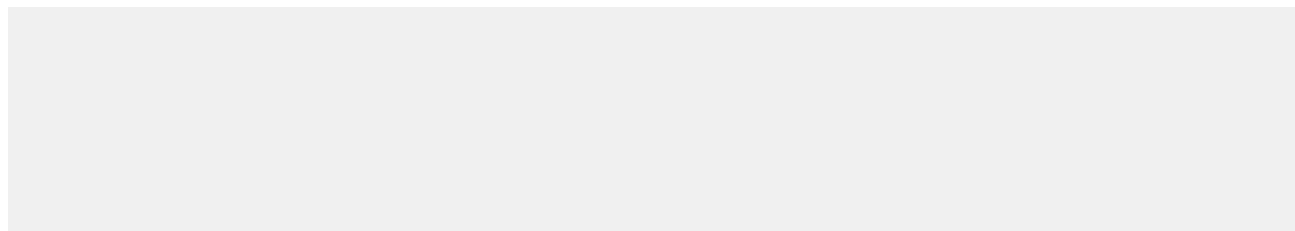
列挙値	説明
	今期 (会計四半期)
	今期と翌期 (会計四半期)
	今期と前期 (会計四半期)
	翌期 (会計四半期)
	前期 (会計四半期)
	今期と翌 3 期 (会計四半期)
	今期 (会計年度)
	前期 (会計年度)
	過去 2 期 (会計年度)
	2 期前 (会計年度)
	翌期 (会計年度)
	今期と前期 (会計年度)

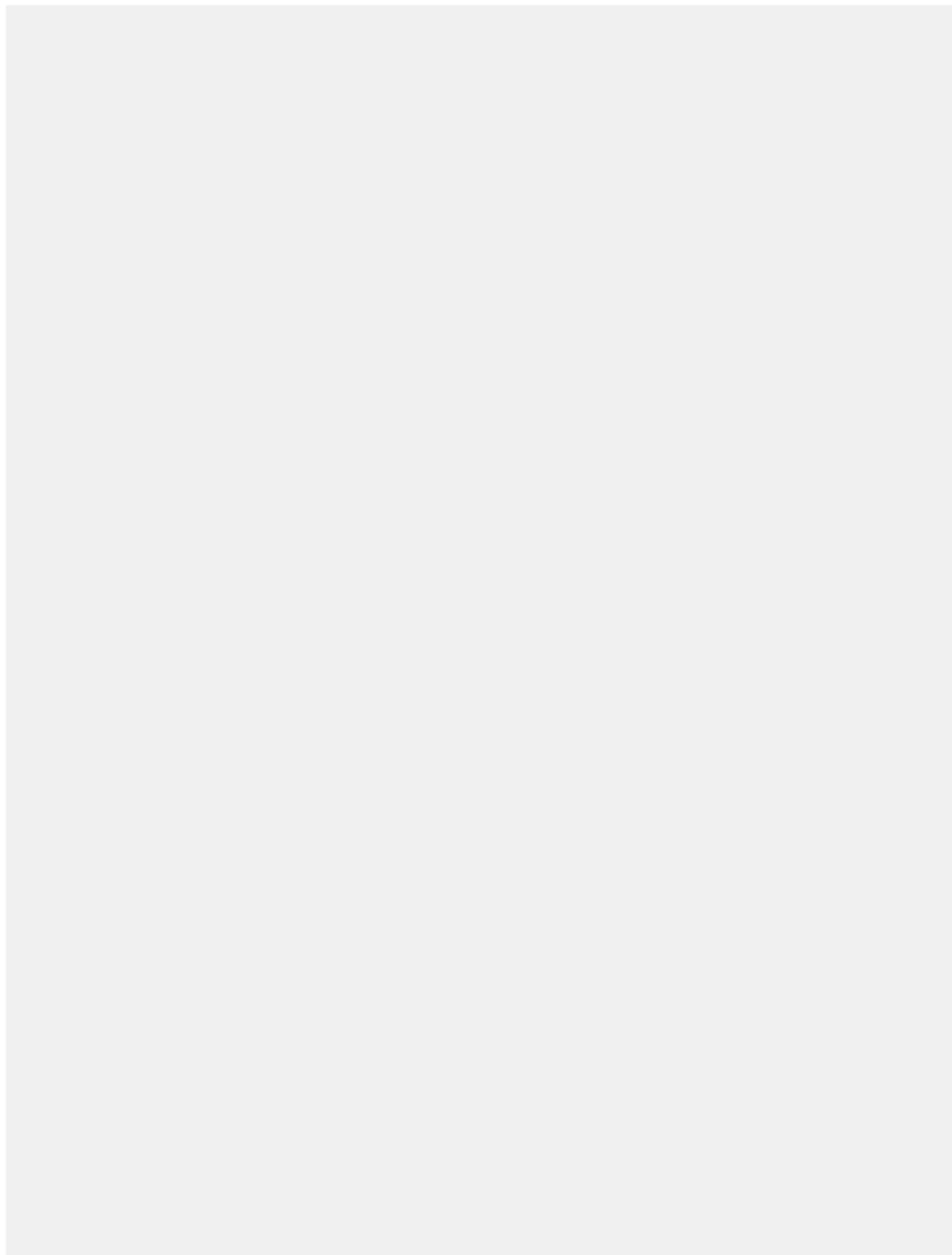
列挙値	説明
	今期と過去 2 期 (会計年度)
	今期と翌期 (会計年度)
	カスタム期間 期間の開始日と終了日を指定するには、 および 項目を使用します。
	昨日
	今日
	明日
	先週 (カレンダー週)
	今週 (カレンダー週)
	来週 (カレンダー週)
	先月 (カレンダー月)
	今月 (カレンダー月)
	来月 (カレンダー月)
	今月と先月 (カレンダー月)
	今月と来月 (カレンダー月)
	今期 (カレンダー四半期)
	今期と翌期 (カレンダー四半期)
	今期と前期 (カレンダー四半期)
	翌期 (カレンダー四半期)
	前期 (カレンダー四半期)
	今期と翌 3 期 (カレンダー四半期)
	今年 (カレンダー年)
	前年 (カレンダー年)
	過去 2 年 (カレンダー年)
	2 年前 (カレンダー年)
	来年 (カレンダー年)
	今年と前年 (カレンダー年)
	今年と過去 2 年 (カレンダー年)
	今年と来年 (カレンダー年)
	過去 7 日間
	過去 30 日間

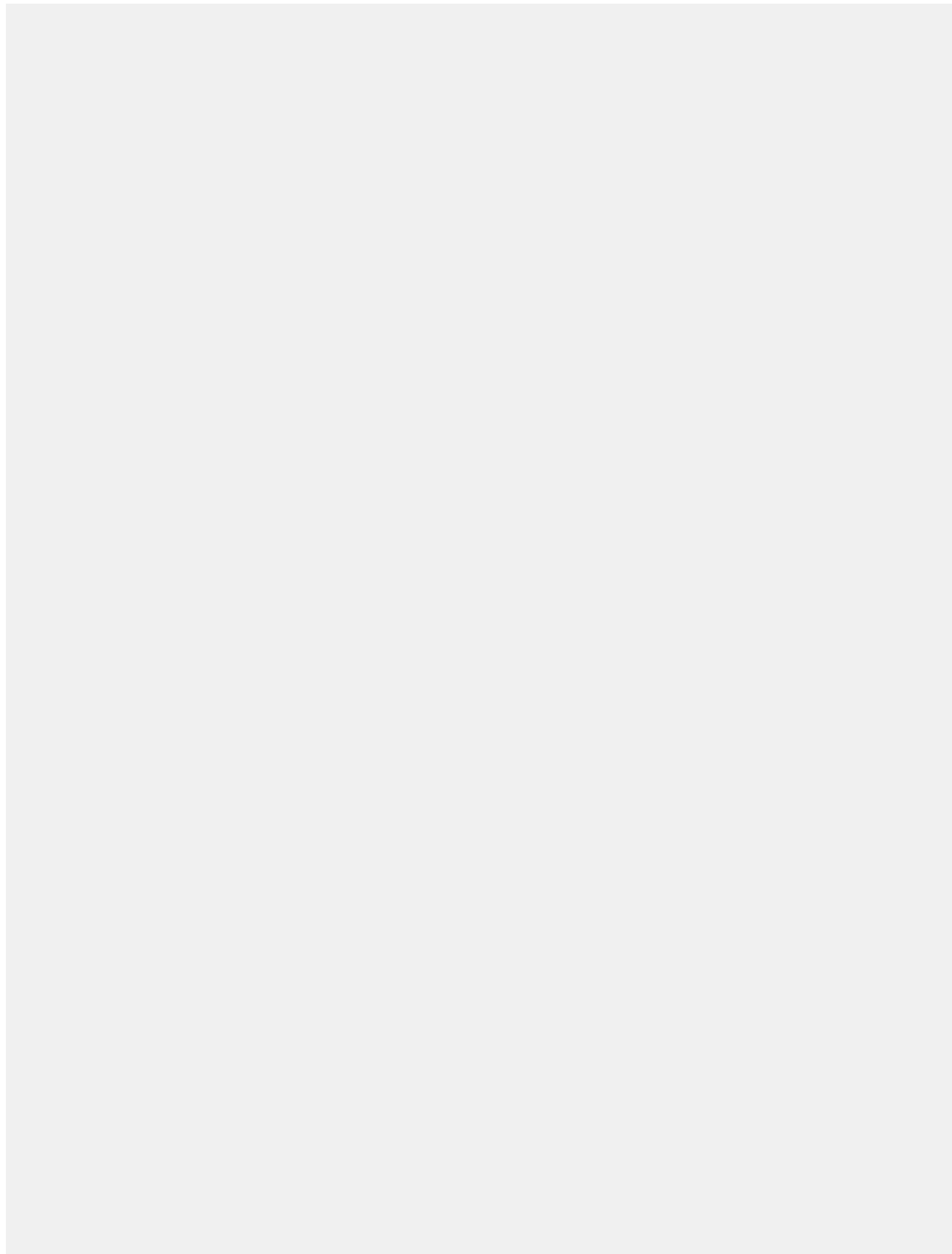
列挙値	説明
	過去 60 日間
	過去 90 日間
	過去 120 日間
	翌 7 日間
	翌 30 日間
	翌 60 日間
	翌 90 日間
	翌 120 日間
	前会計週 (カスタム会計年度が有効な場合に指定可能)
	今会計週 (カスタム会計年度が有効な場合に指定可能)
	翌会計週 (カスタム会計年度が有効な場合に指定可能)
	前会計期間 (カスタム会計年度が有効な場合に指定可能)
	今会計期間 (カスタム会計年度が有効な場合に指定可能)
	翌会計期間 (カスタム会計年度が有効な場合に指定可能)
	今会計期間と前会計期間 (カスタム会計年度が有効な場合に指定可能)
	今会計期間と翌会計期間 (カスタム会計年度が有効な場合に指定可能)
	今期 (エンタイトルメント期間)
	前期 (エンタイトルメント期間)
	過去 2 期 (エンタイトルメント期間)
	2 期前 (エンタイトルメント期間)
	今期と前期 (エンタイトルメント期間)
	今期と過去 2 期 (エンタイトルメント期間)

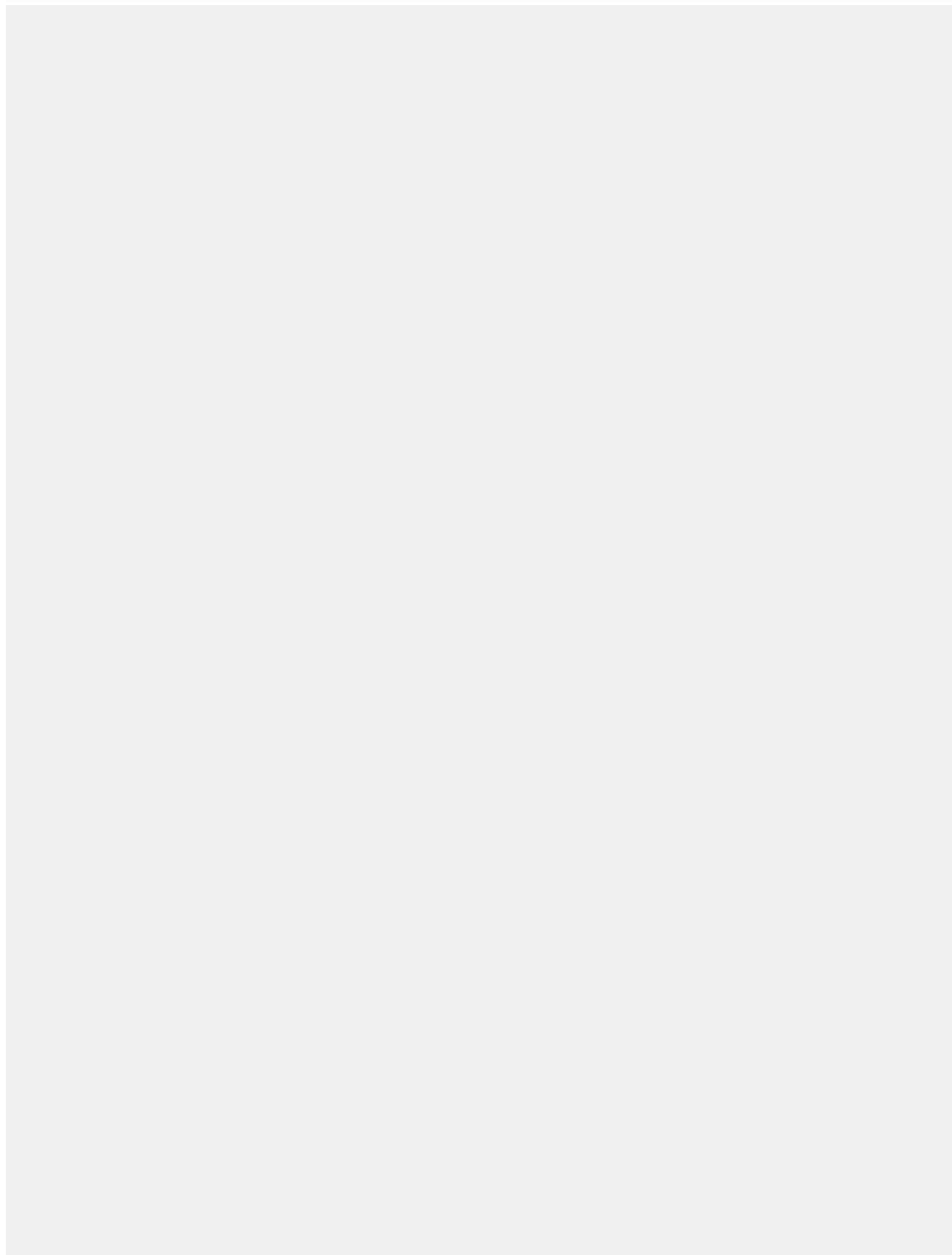
宣言的なメタデータの定義のサンプル

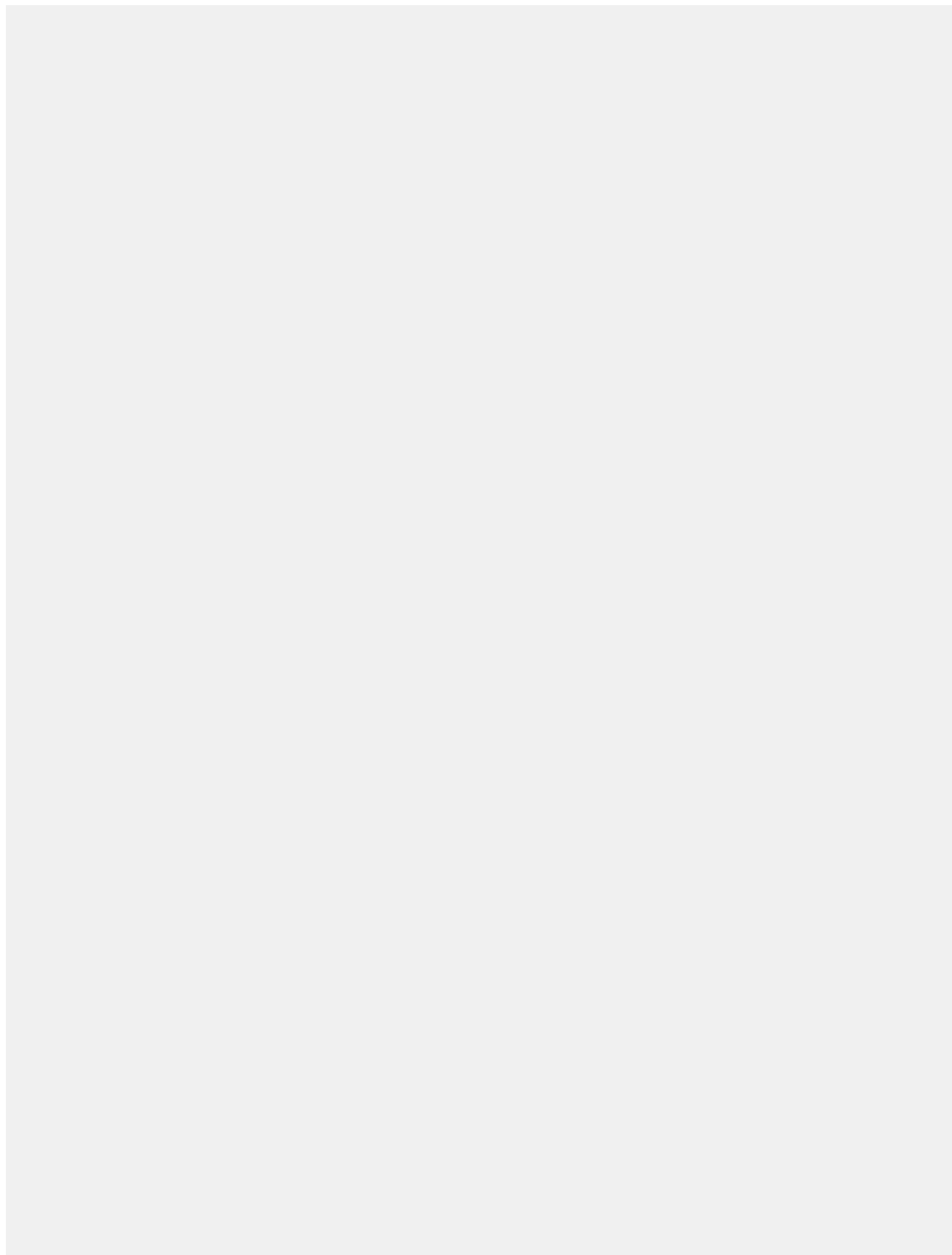
サンプル XML レポート定義を次に示します。

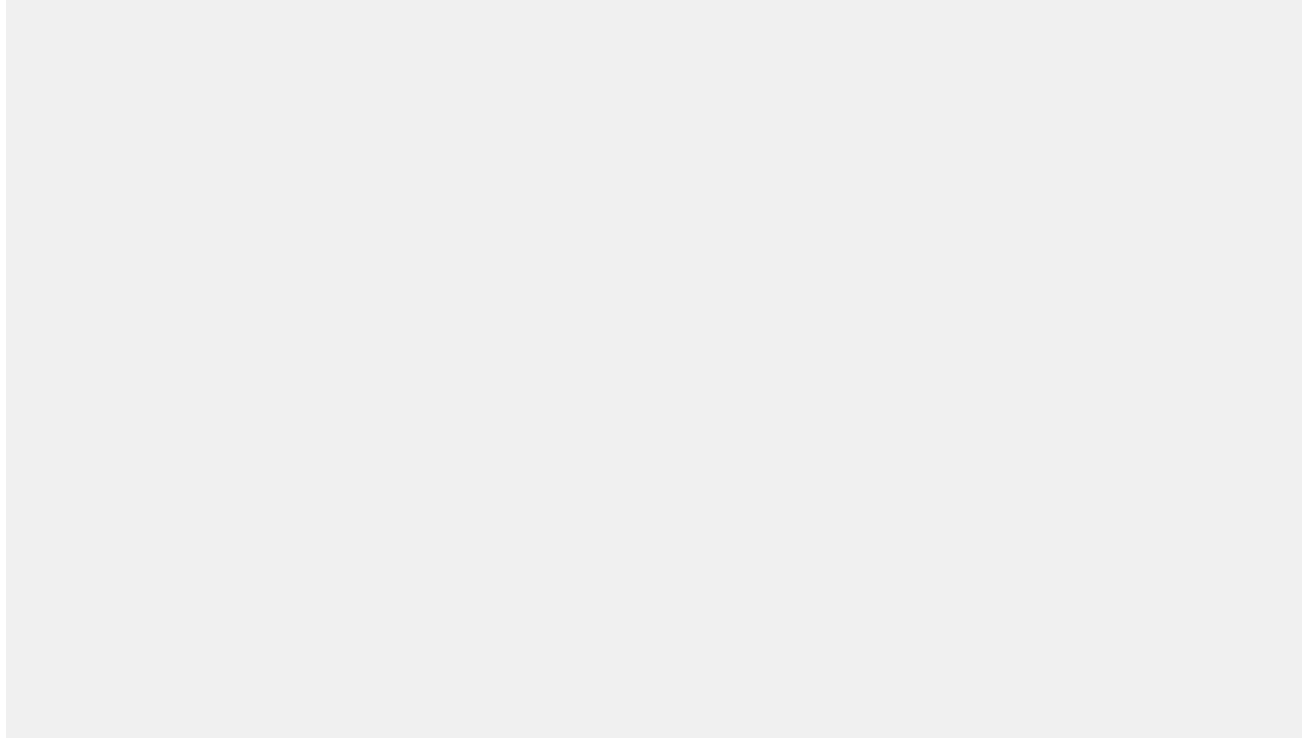




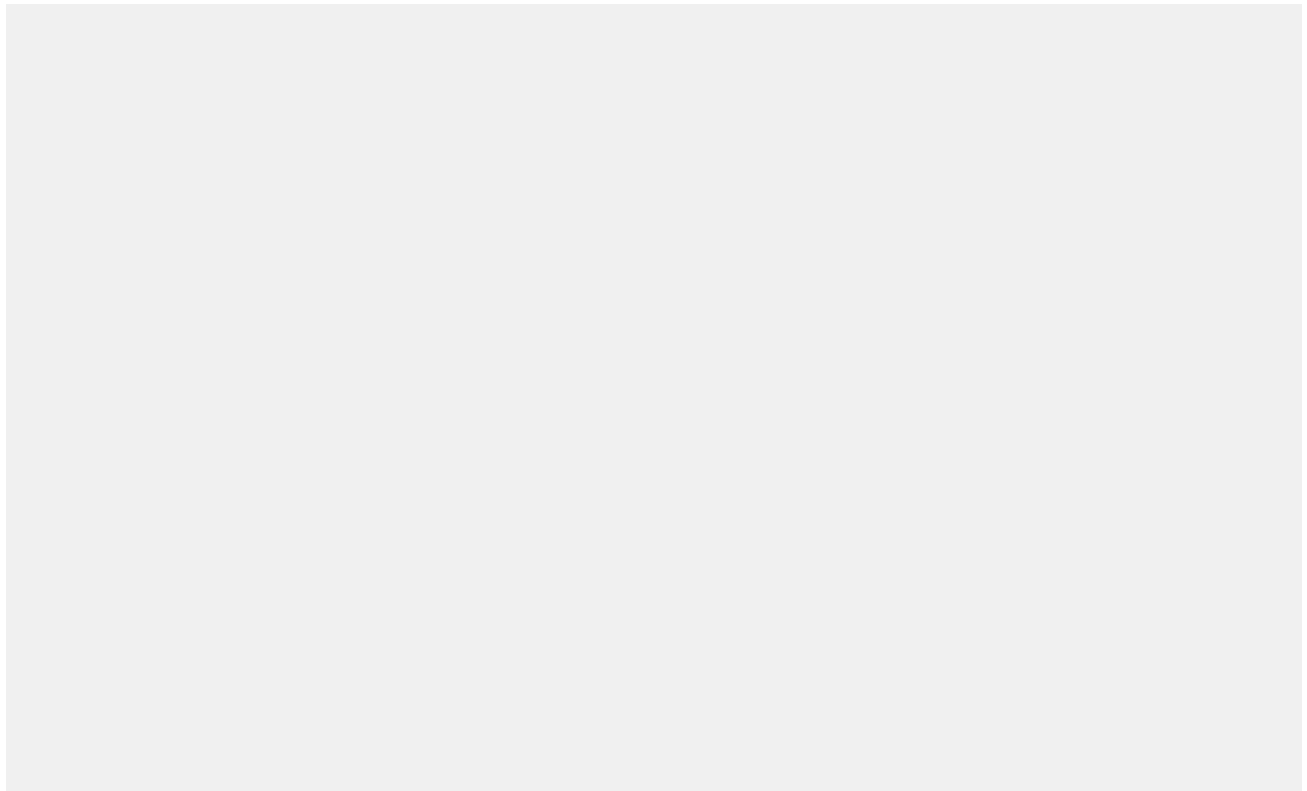


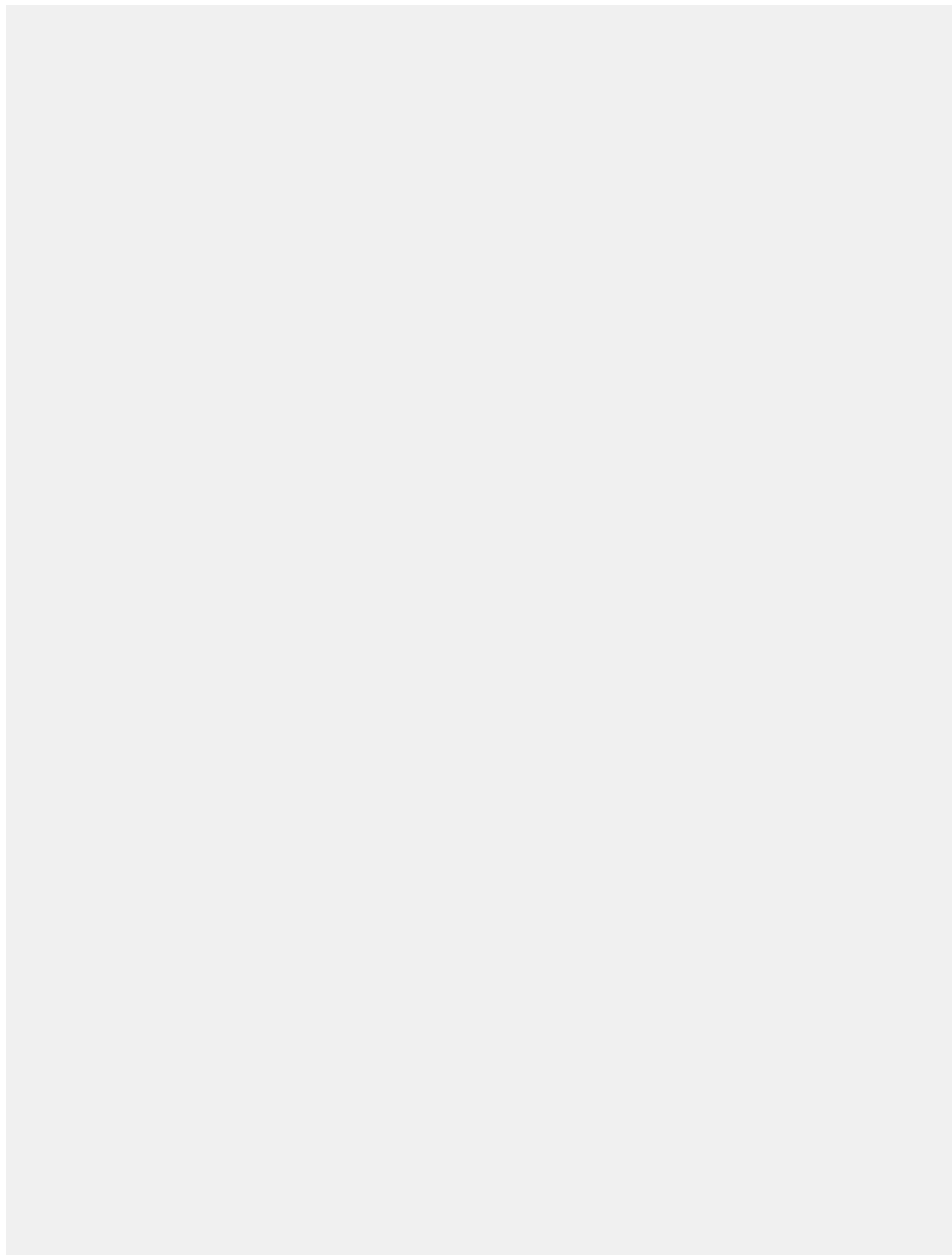


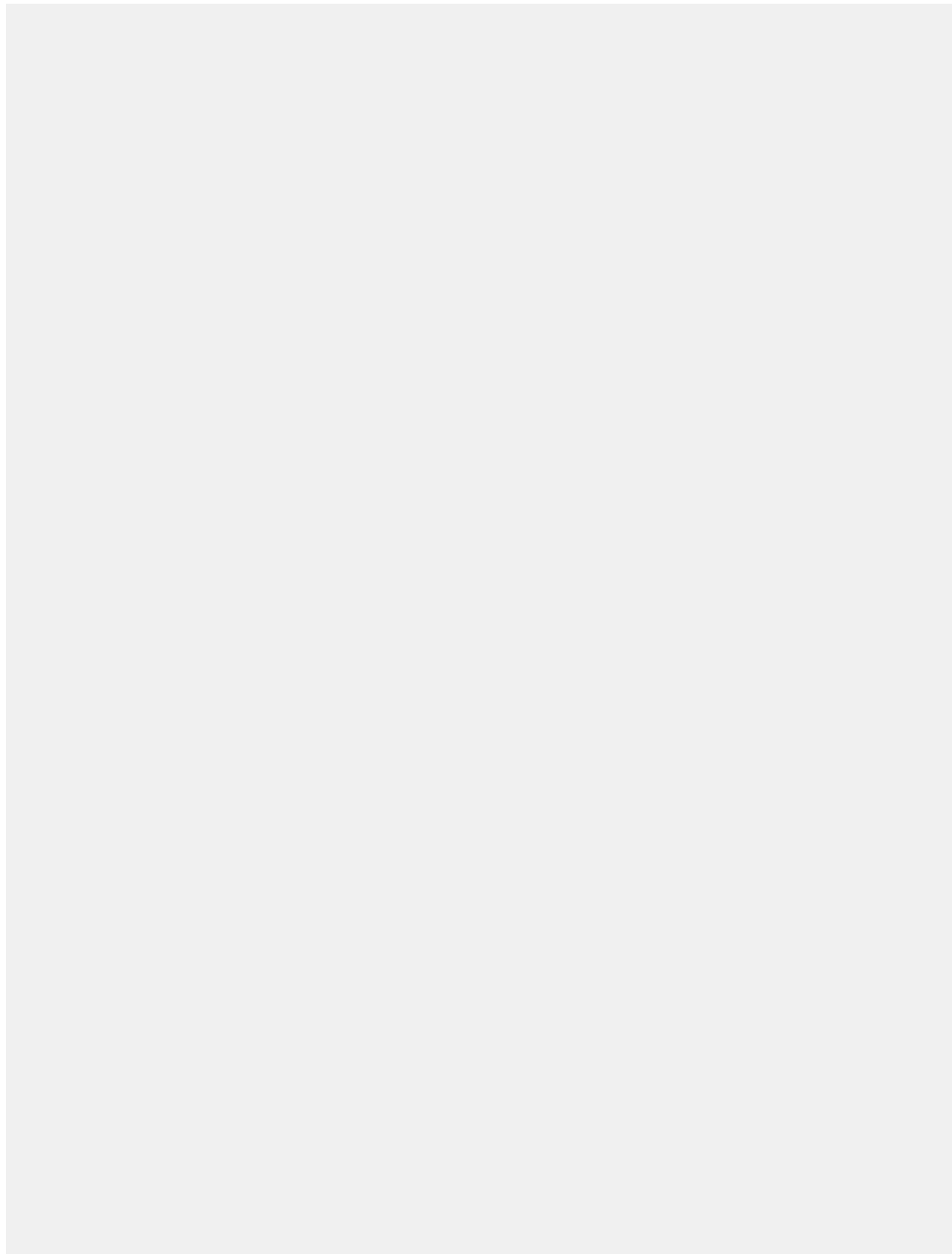


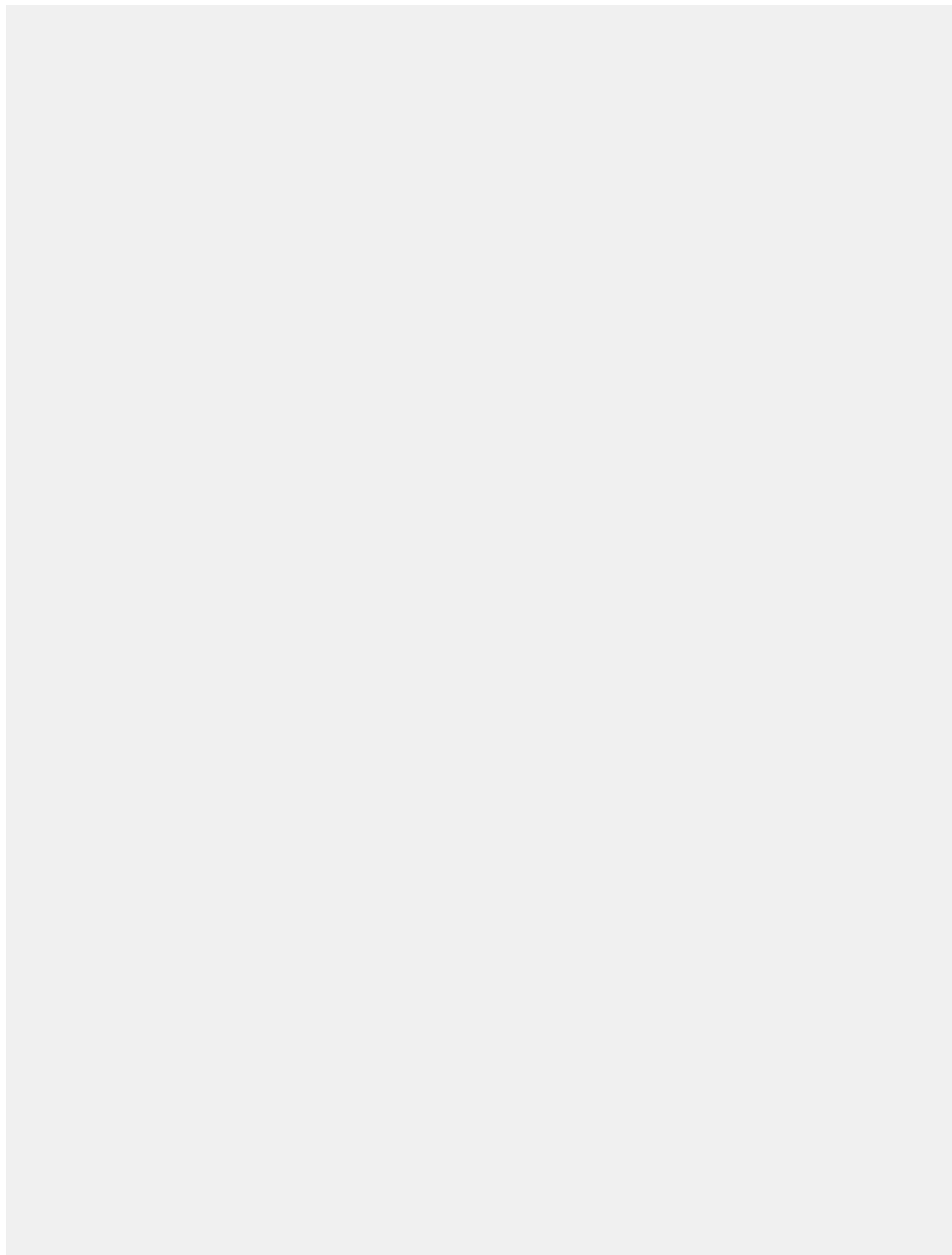


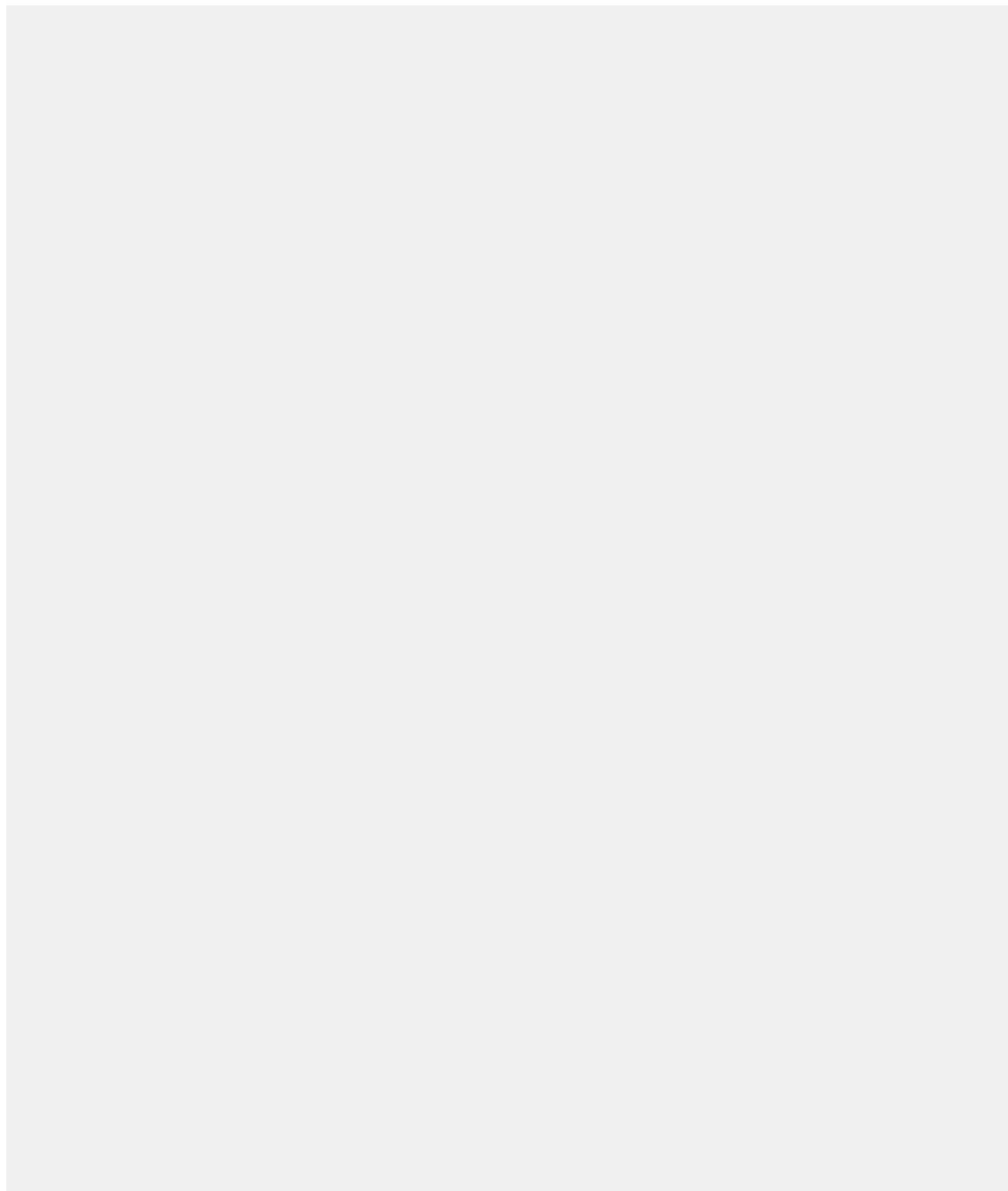
結合レポートの宣言的なメタデータの定義のサンプル
サンプル XML レポート定義を次に示します。











Dashboard

カスタムレポートタイプに関連付けられたメタデータを表します。[Metadatas](#)メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。カスタムレポートタイプを使用すると、ユーザがレポートを作成またはカスタマイズできるフレームワークを構築できます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「独自のカスタムレポートタイプの作成」を参照してください。

カスタムレポートタイプ定義のファイルサフィックスは _____ です。カスタムレポートタイプごとに1つのファイルがあります。レポートタイプは、対応するパッケージディレクトリの _____ ディレクトリに保存されます。

カスタムレポートタイプは、API バージョン 14.0 以降で使用できます。

[illegible]

項目名	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
	boolean	必須。レポートタイプをユーザが使用できるか()、まだ開発中か()を示します。
	string	カスタムレポートタイプの説明。
	string	API アクセスの一意の識別子として使用される、レポートタイプの開発者名。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。
	ObjectRelationship	に結合されたオブジェクト。たとえば、Contact が主オブジェクトの Account に結合されている場合があります。
	string	必須。レポートタイプの表示ラベル。
	ReportLayoutSection[]	レポートタイプに使用できる列のグループ。列は厳密には必須ではありませんが、レポートでは列を使用したほうが便利です。

ObjectRelationship

ObjectRelationship は、別のオブジェクトへの結合を表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「カスタムレポートタイプのオブジェクトリレーションの選択」を参照してください。

項目名	データ型	説明
	ObjectRelationship	この項目は、3 つ以上のオブジェクトを結合できるようにする再帰的参照です。最大 4 つのオブジェクトを、カスタムレポートタイプ内で結合できます。3 つ以上のオブジェクトを結合する場合、結合の順序で内部結合より前に外部結合があると、その内部結合は許可されません。 は、 で指定されたオブジェクトに最初に結合されます。その結果のデータセットがこの項目で指定された任意のオブジェクトと結合されます。
	boolean	必須。これが外部結合であるか()、否か()を示します。外部結合は、結合されたテーブルの結合列に一致する値が含まれていなくても行を返します。
	string	必須。主オブジェクトに結合されたオブジェクト。たとえば、Contact などです。

ReportLayoutSection

ReportLayoutSection は、カスタムレポートタイプで使用する列のグループを表します。

項目名	データ型	説明
	ReportTypeColumn[]	このカスタムレポートタイプで定義された、クエリから返される列のリスト。
	string	必須。レポートウィザードでのこの列のグループの表示ラベル。

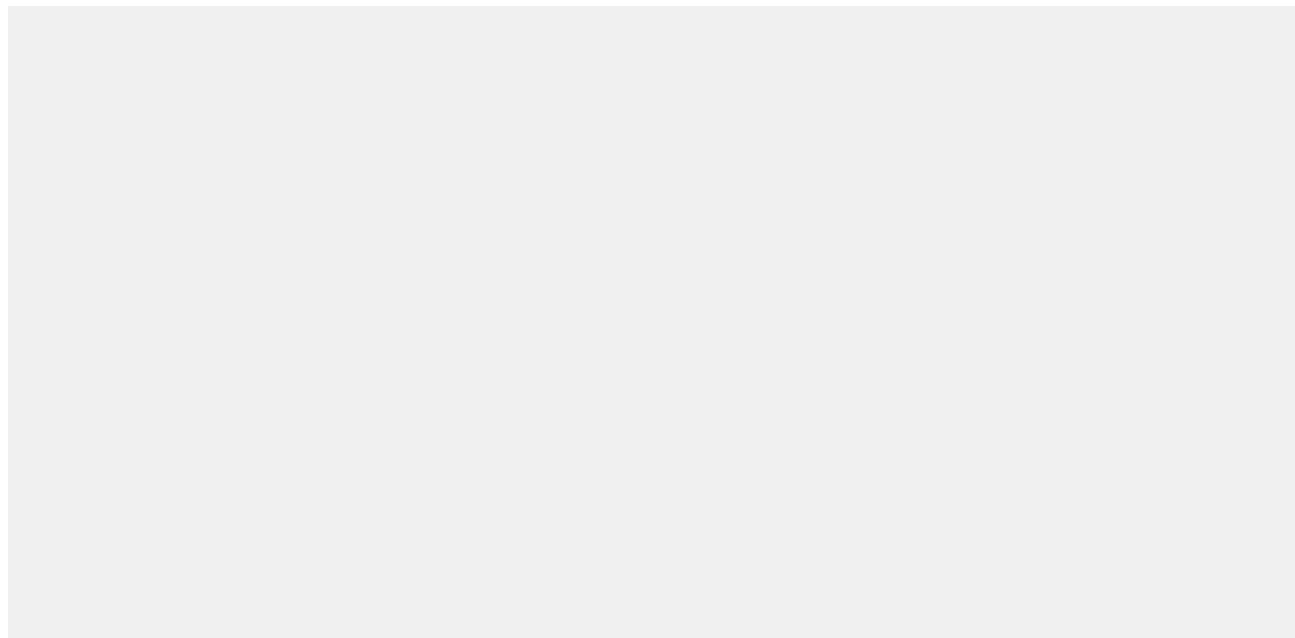
ReportTypeColumn

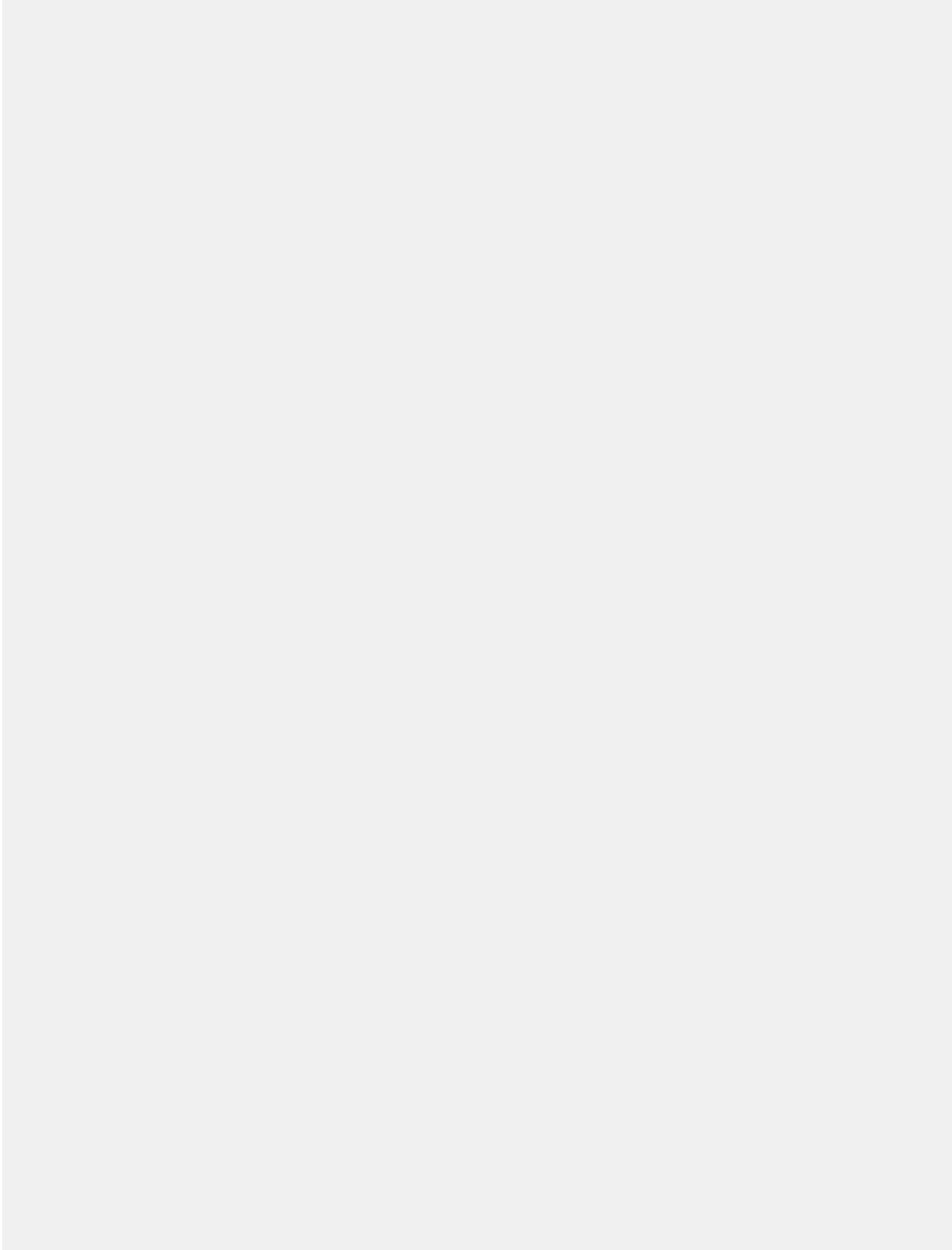
ReportTypeColumn は、カスタムレポートタイプ内の列を表します。

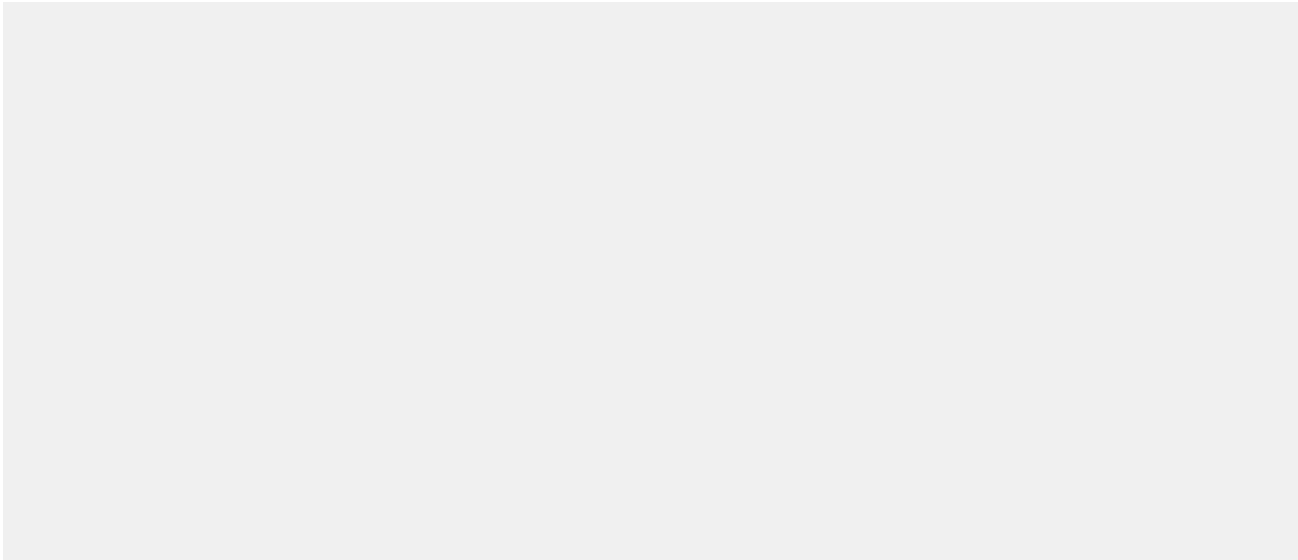
項目名	データ型	説明
	boolean	必須。この列がデフォルトで選択されるか ()、否か () を示します。
	string	カスタマイズされた列名 (省略可能)。
	string	必須。レポート列に関連付けられた項目名。
	string	必須。項目に関連付けられたテーブル。たとえば、Account などがあります。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

カスタムレポートタイプの定義を以下に示します。Account が Contact に結合され、その結果のデータセットが Asset に結合されます。







Role

組織内のロールを表します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ロールコンポーネントのファイルサフィックスは で、コンポーネントは対応するパッケージディレクトリの ディレクトリに保存されます。

バージョン

ロールコンポーネントは、API バージョン 24.0 以降で使用できます。

項目

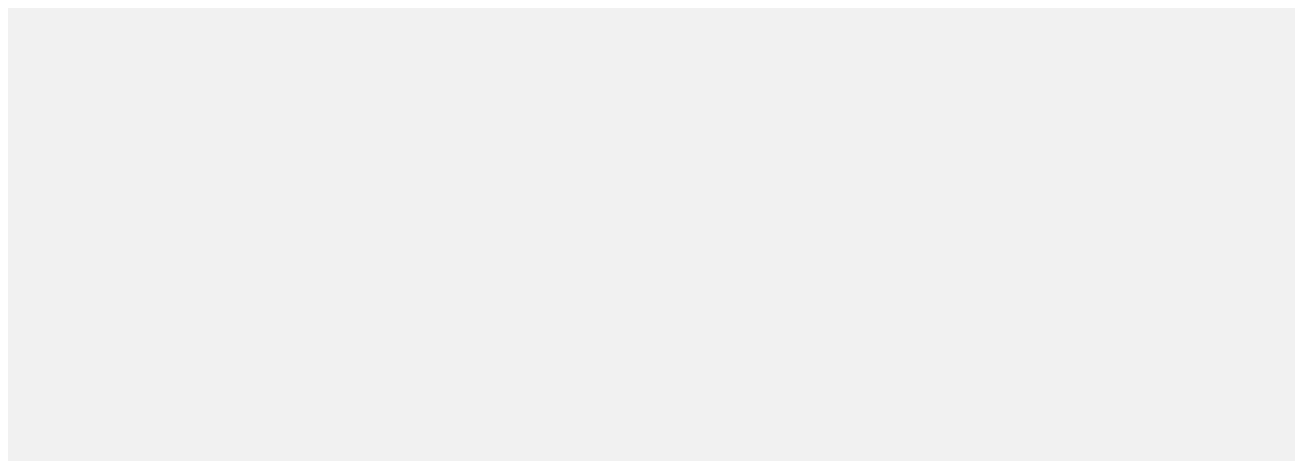
このメタデータ型は、下位型 [RoleOrTerritory](#) (ページ 408) に拡張されます。

項目名	データ型	説明
	string	API アクセスの一意の識別子。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。ユーザインターフェースの [ロール名] に対応します。
	string	階層でこのロールの上位にあるロール。

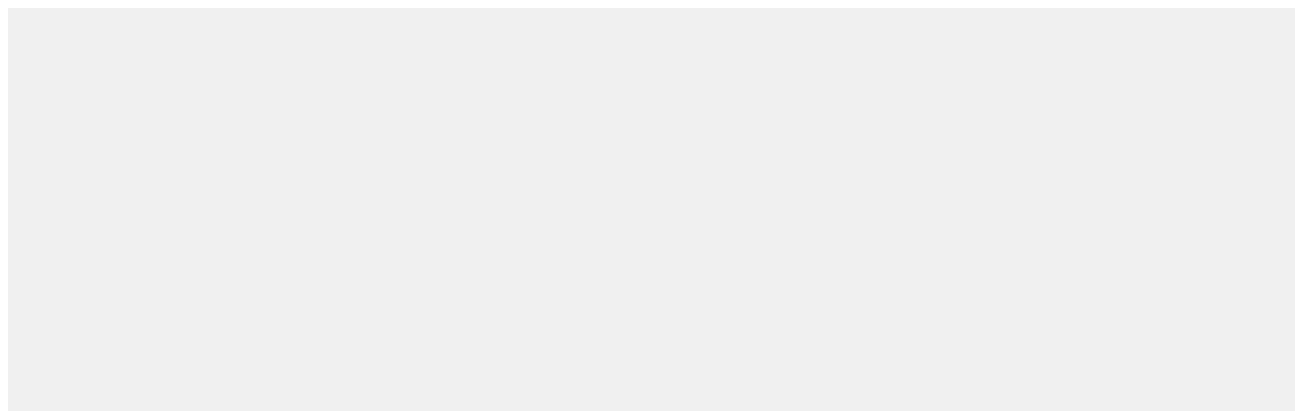
項目名	データ型	説明
		を使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	boolean	売上予測マネージャが手動で自身の売上予測を共有できるかどうかを示します。
	string	必須。ロールまたはテリトリーの名前です。
	string	ユーザが所有する取引先に関連付けられた他のユーザの商談に、ユーザがアクセスできるかどうかを指定します。組織の商談に対する共有モデルが「公開/参照・更新可能」の場合、この項目は表示されません。

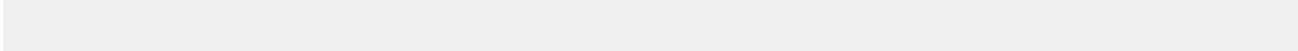
宣言的なメタデータの定義のサンプル

ロールの定義を次に示します。



テリトリーの定義を次に示します。





関連リンク

- [Role](#)
- [Territory](#)

Scontrol



重要: Sコントロールは、Visualforce ページに置き換えられました。組織で以前に Sコントロールを使用していない場合は、作成できません。既存の Sコントロールに影響はありません。今後も編集できます。

非推奨。Salesforce ユーザインターフェースの Sコントロールに対応する、Scontrol コンポーネントを表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Sコントロールについて」を参照してください。このメタデータ型は、[MetadataWithContent](#) コンポーネントを拡張し、その項目を共有します。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

Sコントロールファイルのファイルサフィックスは `ScontrolName` です。付随するメタデータファイルには、`ScontrolName` という名前が付けられます。

Scontrol コンポーネントは、対応するパッケージディレクトリの `ScontrolName` フォルダに保存されます。

バージョン

Sコントロールは、API バージョン 10.0 以降で使用できます。

項目

このメタデータ型には、次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	base64Binary	Sコントロールのコンテンツ。Base 64 で符号化されたバイナリデータ API コールを行う前に、クライアントアプリケーションはバイナリ添付データを base64 に符号化する必要があります。応答を受信したら、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリに復号化する必要があります。この変換は、通常 SOAP クライアントによって処理されます。この項目は、 MetadataWithContent コンポーネントから継承されます。
	SControlContentSource (string 型の 列挙)	必須。Sコントロールの使用目的を判断します。 <ul style="list-style-type: none"><code>Content</code> : Sコントロールのコンテンツを <code>Content</code> に入力する場合、このオプションを選択します。

項目名	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> <code>externalURL</code>: 外部 Web サイトへのリンクまたは URL を入力する場合、このオプションを選択します。 <code>snippet</code>: スニペットは、他の Sコントロールに組み込まれるよう設計された Sコントロールです。Sコントロールスニペットのコンテンツを入力する場合、このオプションを選択します。
	string	Sコントロールを説明するテキストです (省略可能)。これは「すべてのデータの参照」権限を持つユーザ (システム管理者) にのみ表示されます。
	Encoding (string 型の 列挙)	必須。デフォルトの文字コード設定は Unicode (<code>UTF-8</code>) です。情報を渡す URL が別形式のデータを必要とする場合は、この設定を変更します。このオプションは、 <code>encoding</code> の値として <code>UTF-8</code> を選択すると使用できません。
	base64	この Sコントロールをカスタムリンクに追加した場合に表示されるファイルのコンテンツ。ファイルには、Java アプレット、Active-X コントロール、またはその他の任意のコンテンツを含めることができます。このオプションは、 <code>base64</code> の値が <code>true</code> の Sコントロールにのみ適用されます。
	string	Sコントロールにつける一意の名前です。この名前は、アンダースコアと英数字のみを含み、組織内で一意の名前にする必要があります。最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、管理パッケージによってインストールされたコンポーネントでは変更できません。 <code>name</code> 項目にも値がある場合にのみ該当します。これは、API バージョン 14.0 の新項目です。
	string	API アクセスの一意の識別子として使用される、Sコントロールの開発者名。 <code>author</code> には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目が、使用できなくなったバージョン 14.0 より前の文字を含んでいた場合は、それらの文字はこの項目から削除され、その項目の以前の値は項目に保存されていました。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。

項目名	データ型	説明
	string	必須。Sコントロールにつける一意の名前です。文字で始まり、英数字のみが含まれる必要があります。たとえば、 などです。
	boolean	必須。Sコントロールがキャッシュをサポートしているか()、否か()を示します。キャッシュによりページを最適化し、ページの再読み込み時にページに含まれるSコントロールを記憶します。このオプションは、HTML Sコントロールにのみ適用されます。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

次のサンプルでは、[このリンク](#)という Sコントロールを作成し、Sコントロール内に指定された Web サイトへのリンクを作成します。対応するメタデータファイルは、S コントロールファイルの次に示します。

ファイル:

:

設定

機能に関連する、組織の設定を表します。たとえば、パスワードポリシー、セッションの設定、ネットワークアクセスコントロールはすべて、SecuritySettings コンポーネントの種類で使用できます。メタデータ API では、すべての機能設定が使用できるわけではありません。使用できない機能設定についての詳細は、「[サポートされていないメタデータ型](#)」(ページ 97)を参照してください。

Settings には、特定のコンポーネントメンバーまたはワイルドカードを使用してアクセスできます。たとえば、パッケージマニフェストファイルでは、次のセクションを使用して SecuritySettings にアクセスします。

パッケージマニフェストで使用されるメンバー形式は、「Settings」というサフィックスを使用しないコンポーネントメタデータ型名です。前述の例では、「SecuritySettings」の代わりに「Security」が使用されます。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

各設定コンポーネントは、対応するパッケージディレクトリの ディレクトリ内の 1 つのファイルに保存されます。ファイル名には、**設定機能** という形式が使用されます。たとえば、SecuritySettings ファイルは、**SecuritySettings** となります。正確なファイル名を判断するには、個々の設定コンポーネントの「ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所」の情報を参照してください。

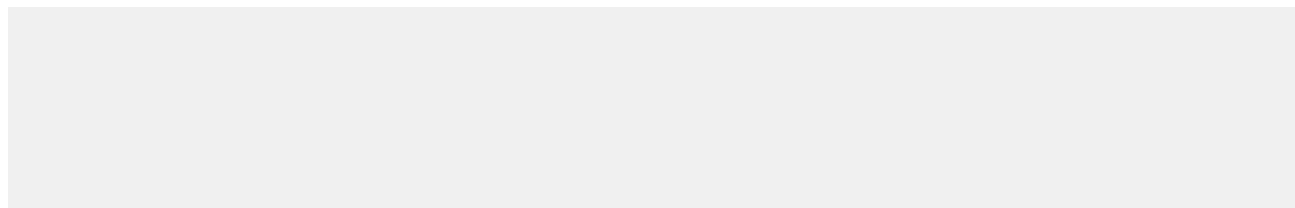
バージョン

Settings は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。設定コンポーネントが使用可能になった API バージョンを確認するには、個々の設定コンポーネントのバージョン情報を参照してください。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

組織の MobileSettings のみをリリースまたは取得するために使用される、パッケージマニフェストの例を次に示します。

組織の使用可能なすべての設定メタデータをリリースまたは取得するために使用される、パッケージマニフェストの例を次に示します。



関連リンク

[ActivitiesSettings](#)
[AddressSettings](#)
[CaseSettings](#)
[ChatterAnswersSettings](#)
[CompanySettings](#)
[ContractSettings](#)
[EntitlementSettings](#)
[ForecastingSettings](#)
[IdeasSettings](#)
[KnowledgeSettings](#)
[MobileSettings](#)
[SecuritySettings](#)

ActivitiesSettings

組織の活動設定と、カレンダー用のユーザインターフェース設定を表します。ActivitiesSettings コンポーネントタイプを使用して、次の活動設定を制御します。

- グループ ToDo と定期的な ToDo、定期的な行動と複数日の行動、およびメール追跡を設定する
- 複数の取引先責任者を ToDo および行動に関連付ける (Shared Activities)
- ミーティング要請にカスタムロゴを表示する

また、ActivitiesSettings コンポーネントタイプを使用して、フロート表示リンクやドラッグアンドドロップ編集などを含め、カレンダーのユーザインターフェース設定も制御できます。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ActivitiesSettings の値は、ディレクトリのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが1つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

ActivitiesSettings は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

次に示すすべてのタイプの設定は、[活動設定] ページまたは[ユーザインターフェース設定] ページで次のように制御されます。

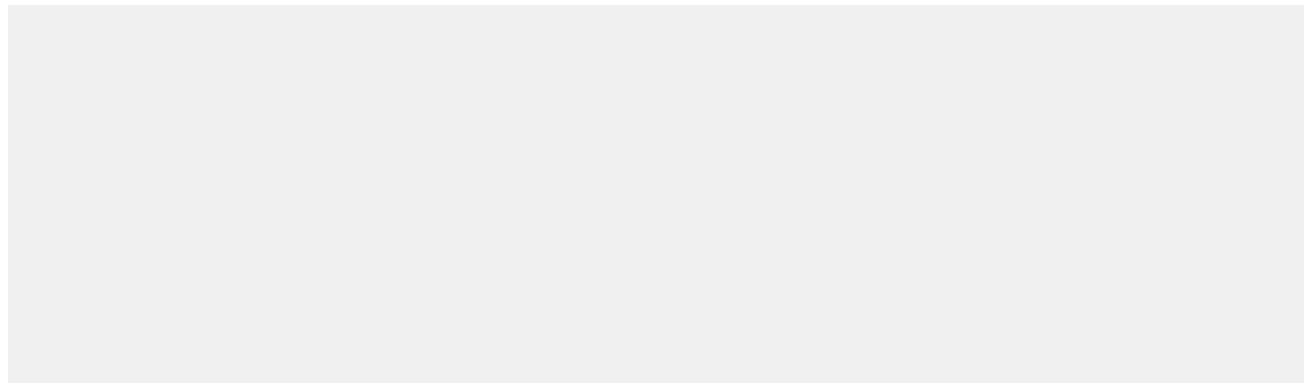
項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	組織に対してポップアップ活動アラームを有効化します。 システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。
	boolean	日表示および週表示のカレンダービューで特定の時間枠をダブルクリックし、フロート表示に行動の詳細を入力することによって、行動を作成できます。行動にマウスを置くとフロート表示が表示され、行動の詳細の参照や行動の削除をページを離れず行うことができます。システム管理者は、ミニページレイアウトを使用して、フロート表示される項目を設定します。定期的な行動または複数個人の行動はサポートしていません。 システム管理者は、この項目を [ユーザインターフェース設定] ページで制御します。
	boolean	リストビューからカレンダービューにレコードをドラッグし、フロート表示に行動の詳細を入力することによって、レコードに関連する行動を作成できます。行動にマウスを置くとフロート表示が表示され、行動の詳細の参照や行動の削除をページを離れず行うことができます。システム管理者は、ミニページレイアウトを使用して、フロート表示される項目を設定します。 システム管理者は、この項目を [ユーザインターフェース設定] ページで制御します。
	boolean	組織で HTML メールテンプレートを使用している場合に、送信 HTML メールを追跡できます。 システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。
	boolean	ユーザが新規 ToDo の独立したコピーを複数のユーザに割り当てることができます。 システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。
	boolean	および の機能をリストビューのカレンダーに拡張します。 システム管理者は、この項目を [ユーザインターフェース設定] ページで制御します。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	開始から 24 時間以上が経過した後で終了する行動を作成できます。 システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。
	boolean	指定された間隔で繰り返される行動を作成できます。 システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。
	boolean	指定された間隔で繰り返される ToDo を作成できます。 システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。
	boolean	ユーザが最後に使用したカレンダービューへのショートカットリンクをサイドバーに表示します。 システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。
	string	が有効な場合に使用できます。カスタムロゴをアップロードします。システム管理者は、[ドキュメント] タブで特定のフォルダにアップロードされたロゴのみを選択できます。 システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。
	boolean	ミーティング要請のメールおよびミーティングの Web ページにカスタムロゴを表示します。ユーザが行動に招待するかミーティングを要請すると、招待者に対してロゴが表示されます。 システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。
	boolean	フロート表示テキストとしてではなく、画面上に行動の詳細を表示します。 システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。
	boolean	[ホーム] タブのカレンダーセクションで、次の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> 行動の件名にマウスポインタを置くと、フロート表示リンクによって選択された行動の詳細がフロート表示されます (フロート表示リンクは他のカレンダービューで常に使用できます)。

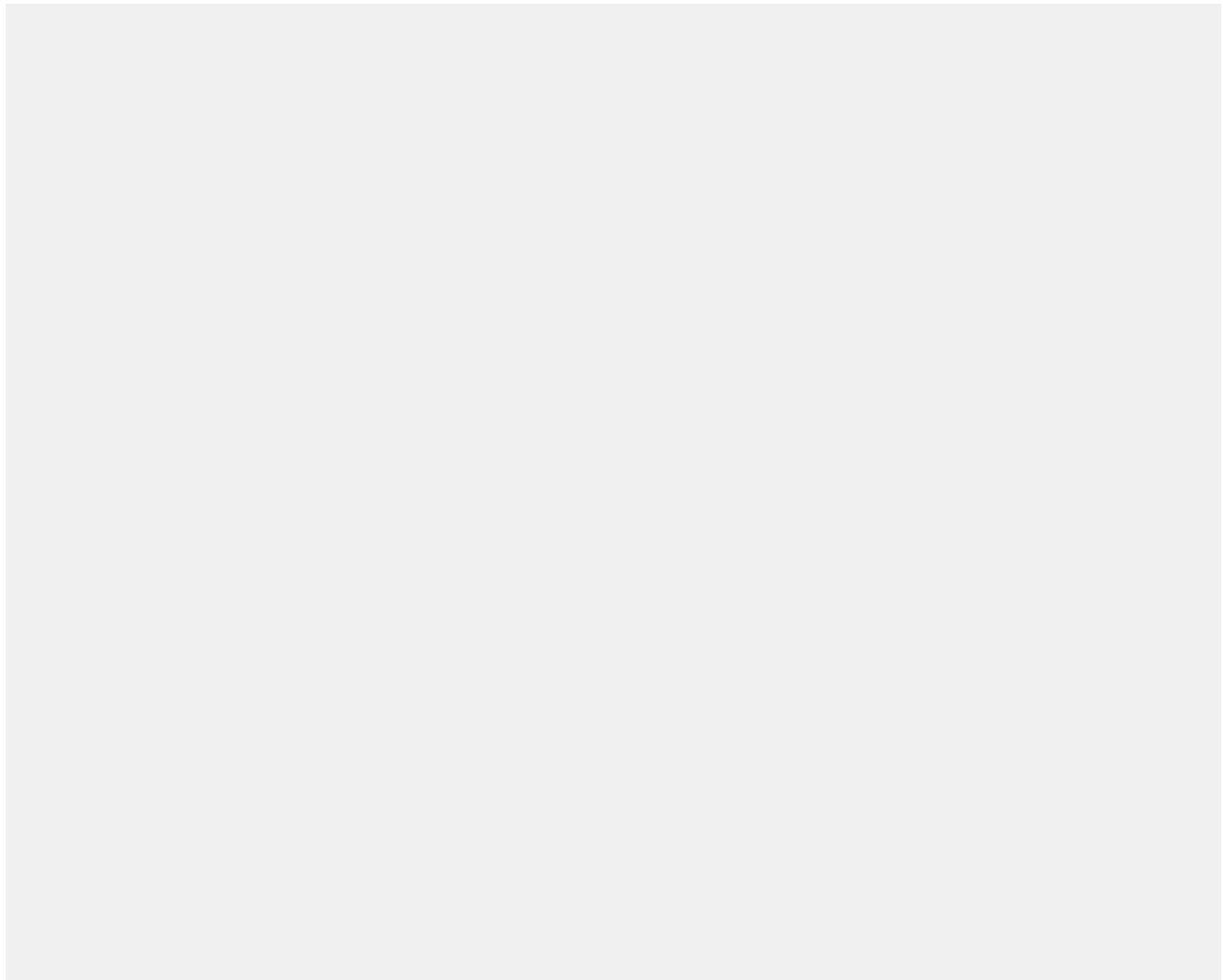
項目名	項目のデータ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> 行動の件名をクリックすると、行動の詳細ページが表示されます。 <p>システム管理者は、ミニページレイアウトを使用して、フロート表示される項目を設定します。</p> <p>システム管理者は、この項目を[ユーザインターフェース設定] ページで制御します。</p>
	boolean	<p>[ホーム] タブの [ToDo] セクションおよびカレンダーの日表示で、次の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ToDo の件名にマウスポインタを置くと、選択された ToDo の詳細がフロート表示されます ToDo の件名をクリックすると、ToDo の詳細ページが表示されます。 <p>システム管理者は、ミニページレイアウトを使用して、フロート表示される項目を設定します。</p> <p>システム管理者は、この項目を[ユーザインターフェース設定] ページで制御します。</p>
	boolean	<p>ユーザが要請し、まだ確認していないミーティングの一覧を示す [要請済みミーティング] サブタブを、[ホーム] タブの [カレンダー] セクションに表示します。この機能を無効にすると、[ホーム] タブのカレンダーから [新規ミーティング要請] ボタンが削除されます。</p> <p>システム管理者は、この項目を [活動設定] ページで制御します。</p>

パッケージマニフェストの例

組織の活動設定メタデータをリリースまたは取得するために使用される、パッケージマニフェストの例を次に示します。



宣言的なメタデータの定義のサンプル
活動設定ファイルの例を次に示します。



関連リンク

[Document](#)

AddressSettings

国選択リストと都道府県選択リストの設定を表します。国選択リストと都道府県選択リストおよび AddressSettings メタデータ型は、ベータリリースに含まれています。[設定] で [データの管理] > [都道府県/国選択リスト] をクリックしてテキストベースの値を標準の選択リスト値に変換できるように、AddressSettings コンポーネントタイプを使用して組織の都道府県および国データを設定します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「都道府県選択リストと国選択リストの概要 — ベータ」を参照してください。

Metadata メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。



メモ: このリリースには、都道府県選択リストと国選択リストのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありますが、既知の制限があります。都道府県選択リストと国選択リストに関するフィードバックを送信するには、「[IdeaExchange](#)」に移動してください。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

AddressSettings の値は、ディレクトリのという 1 つのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが 1 つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

AddressSettings は、API バージョン 28.0 のベータリリースで使用できます。


CountriesAndStates

この複合メタデータ型は、選択リストに含まれる都道府県および国の有効な定義を表します。

項目	データ型	説明
	Country []	選択リストから選択可能な国。

Country


このメタデータ型は、選択リストに含まれる国の定義を提供します。

項目	項目のデータ型	説明
	boolean	API で値を使用できるかどうかを指定します。  重要: Salesforce 組織で都道府県/国選択リストを有効にした後に、状況を設定することはできません。
	string	ISO 標準の都道府県または国コードに対応するテキストベースの都道府県および国の値。インテグレーション値がレコード内の対応する ISO コードのテキスト列に入力されます。デフォルトのインテグレーション値は Salesforce によって指定されます。この値は、組織で以前使用した値と一致するように編集できます。これで外部システムとのインテグレーションが引き続き機能するようにできます。

項目	項目のデータ型	説明
		 <p>重要: 組織で都道府県/国選択リストを有効にする前にインテグレーション値を指定しない場合は、Salesforce によって指定されたデフォルト値がレコードで使用されます。インテグレーション値を後から変更すると、それ以降に作成または更新されるレコードでは、編集後の値が使用されます。</p>
	string	コールを発行すると、ISO 標準コードがこの項目に入力されます。 の都道府県と国の は編集できません。
	string	Salesforce の選択リストに表示されるラベル。この項目は API では参照のみですが、[設定] でラベルを編集できます。
	boolean	Salesforce 組織の新規レコードに 1 つの国をデフォルト値として設定します。
	boolean	標準の都道府県と国は、Salesforce に含まれるものです。 属性は編集できません。
	State[]	国の一部である都道府県。
	boolean	Salesforce でユーザが国または都道府県を使用できるようにします。 である国または都道府県は、 である必要もあります。

State

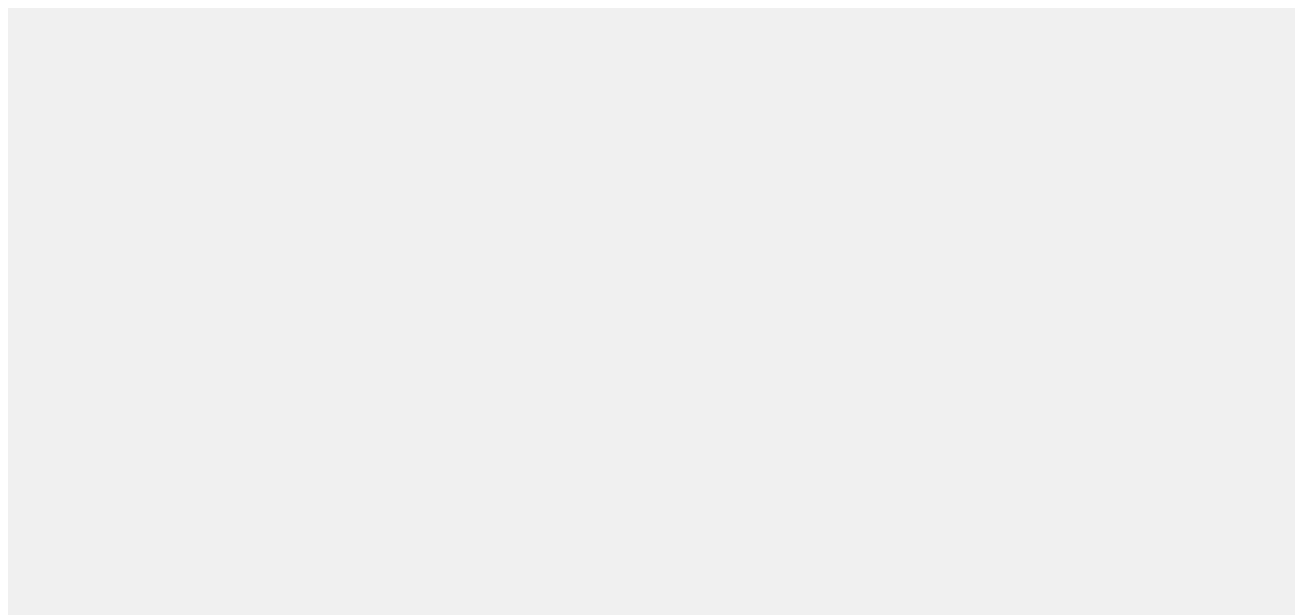
このメタデータ型は、選択リストに含まれる都道府県の定義を提供します。

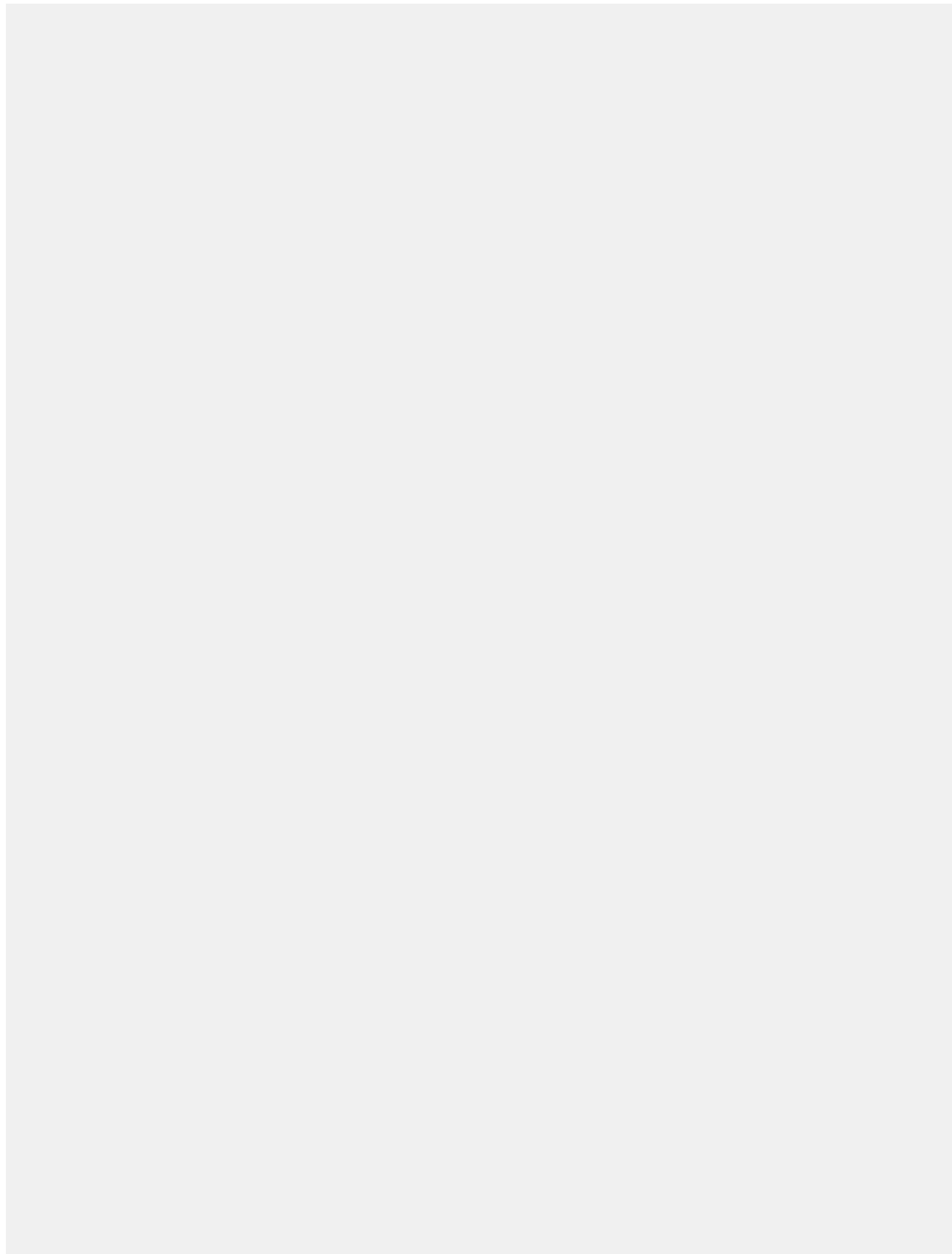
項目	項目のデータ型	説明
	boolean	API で値を使用できるかどうかを指定します。  <p>重要: Salesforce 組織で都道府県/国選択リストを有効にした後に、 状況を に設定することはできません。</p>
	string	ISO 標準の都道府県または国コードに対応するテキストベースの都道府県および国の値。インテグレーション値がレコード内の対応する ISO コードのテキスト列に入力されます。デフォルトのインテグレーション値は Salesforce によって指定されます。この値は、組織で以前使用した値と一致するように編集で

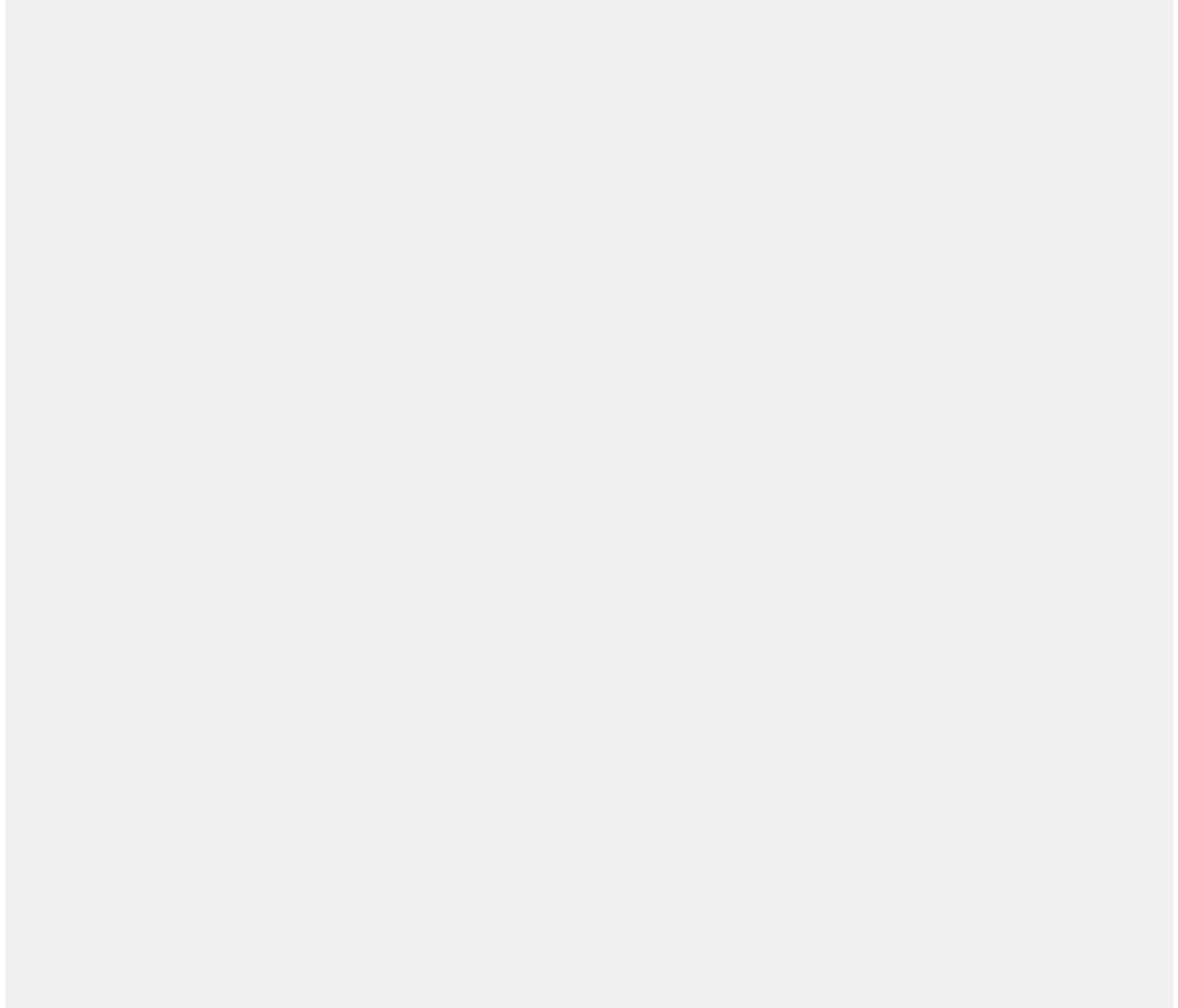
項目	項目のデータ型	説明
		<p>きます。これで外部システムとのインテグレーションが引き続き機能するようにできます。</p> <p> 重要: 組織で都道府県/国選択リストを有効にする前にインテグレーション値を指定しない場合は、Salesforce によって指定されたデフォルト値がレコードで使用されます。インテグレーション値を後から変更すると、それ以降に作成または更新されるレコードでは、編集後の値が使用されます。</p>
	string	コールを発行すると、ISO 標準コードがこの項目に入力されます。
	string	Salesforce の選択リストに表示されるラベル。この項目は API では参照のみですが、[設定] でラベルを編集できます。
	boolean	標準の都道府県と国は、Salesforce に含まれるものです。属性は編集できません。
	boolean	Salesforce でユーザが国または都道府県を使用できるようにします。である国または都道府県は、である必要もあります。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

組織で使用する米国およびカナダの州/国選択リストを設定する XML のサンプルを次に示します。また、グリーンランドの国も API でのみ使用できるようにします。この例は、API バージョン 28.0 でサポートされます。







関連リンク

[設定](#)

CaseSettings

デフォルトのケース所有者、有効化されるケース関連機能、各種ケース活動に使用されるメールテンプレートなど、組織のケース設定を表します。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

CaseSettings の値は、ディレクトリのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが 1 つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

CaseSettings は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	ケース割り当て通知に使用するメールテンプレートを指定します。 / の形式を使用する必要があります。
	string	ケースクローズ通知に使用するメールテンプレートを指定します。 / の形式を使用する必要があります。
	string	ケースコメント通知に使用するメールテンプレートを指定します。 / の形式を使用する必要があります。
	string	ケース作成通知に使用するメールテンプレートを指定します。 / の形式を使用する必要があります。
	boolean	ケース編集ページの [ケース 状況] 項目に を表示するか ()、否か () を示します。
	string	割り当てルールで所有者を見つけられなかった場合に、 ケースのデフォルトの所有者を指定します。
	string	デフォルトのケース所有者がユーザか、キューかを指定します。
	string	自動ケース更新の [ケース履歴] 関連リストに表示されるユーザを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 割り当てルール エスカレーションルール オンデマンドメール-to-ケース セルフサービスポータルでログインしたケース
EmailToCaseSettings		組織のメール-to-ケース設定。

項目名	項目のデータ型	説明
		の場合 にのみ表示されます。
	boolean	新しいコメントがケースに追加された場合に、セルフサービスポータルメンバーではない取引先責任者に通知できるようにするか()、否か()を示します。
	boolean	新規ケースが割り当てられた場合に、デフォルトのケース所有者に通知するか()、否か()を示します。
	boolean	コメントがケースに追加された場合に、ケース所有者に通知するか()、否か()を示します。
	boolean	ユーザがケースの所有者を別のユーザに変更する場合に、ケースの メールで通知する チェックボックスを自動的に選択されるようにするか()どうかを示します。
	boolean	ケースの編集ページの [保存して閉じる] ボタンと [ケース] 関連リストの [完了] リンクを非表示にするか()、表示するか()を示します。
	boolean	ケースコメント、ケース添付ファイル、およびケース割り当てのメール通知がシステムアドレスから送信されるか()、またはケース通知がケースを更新するユーザまたは取引先責任者から送信されるように表示するのか()を示します。
WebToCaseSettings		組織のWeb-to-ケース設定。

EmailToCaseSettings

組織のメール-to-ケース設定を表します。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	メール-to-ケースが有効化されているか()、否か()を示します。メール-to-ケースを有効にした後に無効にすることはできません。
	boolean	HTML メールが有効化されているか()、否か()を示します。
	boolean	オンデマンドメール-to-ケースが有効化されているか()、否か()を示します。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	ケースのスレッドIDがメールの本文に挿入されるか()、否か()を示します。
	boolean	ケースのスレッドIDがメールの件名に挿入されるか()、否か()を示します。
	boolean	ケースに関連する新規メールを受信したときに、ケースの所有者に通知が送信されるか()、否か()を示します。
	EmailToCaseOnFailureActionType (string 型の 列挙)	組織のメール-to-ケースの1日の上限を超えた後に受信したメールメッセージの処理方法を指定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • •
	EmailToCaseRoutingAddress []	組織のメール-to-ケースのルーティングアドレス設定。
	EmailToCaseOnFailureActionType (string 型の 列挙)	無効な送信者から受信したメールメッセージの処理方法を指定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • •

EmailToCaseRoutingAddress

組織のメール-to-ケースのルーティングアドレスを表します。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	EmailToCaseRoutingAddressType (string 型の 列挙)	メール-to-ケースのルーティングアドレスの種類を指定します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • — メール-to-ケースまたはオンデマンドメール-to-ケースに使用されるルーティングアドレス。 • — Outlook からケースを作成するために Salesforce for Outlook で使用されるルーティングアドレス。オンデマンドメール-to-ケースが有効になっている必要があります。
	string	オンデマンドメール-to-ケースにメールを送信できるメールアドレスまたはドメインを指定します。

項目名	項目のデータ型	説明
		カンマ区切りのリストで複数のエントリを指定できます。
	string	このルーティングアドレスから作成されたケースのデフォルトのケース発生源を指定します。
	string	このルーティングアドレスから作成されたケースのデフォルトの所有者を指定します。所有者は Salesforce ユーザ名で指定します。
	string	デフォルトのケース所有者がユーザか、キューかを指定します。
	string	このルーティングアドレスから作成されたケースのデフォルトのケース優先度を指定します。
	boolean	ケースがメールから作成されるときに、ケース所有者に ToDo が自動的に割り当てられるか()、否か()を示します。
	string	ケースとして送信されるメールメッセージを転送するために使用されるメールアドレスを指定します。
	string	メール-to-ケースのルーティングアドレスの名前を指定します。
	boolean	メールルーティングおよび封筒情報が保存されるか()、否か()を示します。
	string	メールがケースとして送信されるときにケース所有者に自動的に割り当てられる ToDo のデフォルト状況を指定します。 が に設定されている場合のみ適用されます。

WebToCaseSettings

組織のWeb-to-ケース設定を表します。

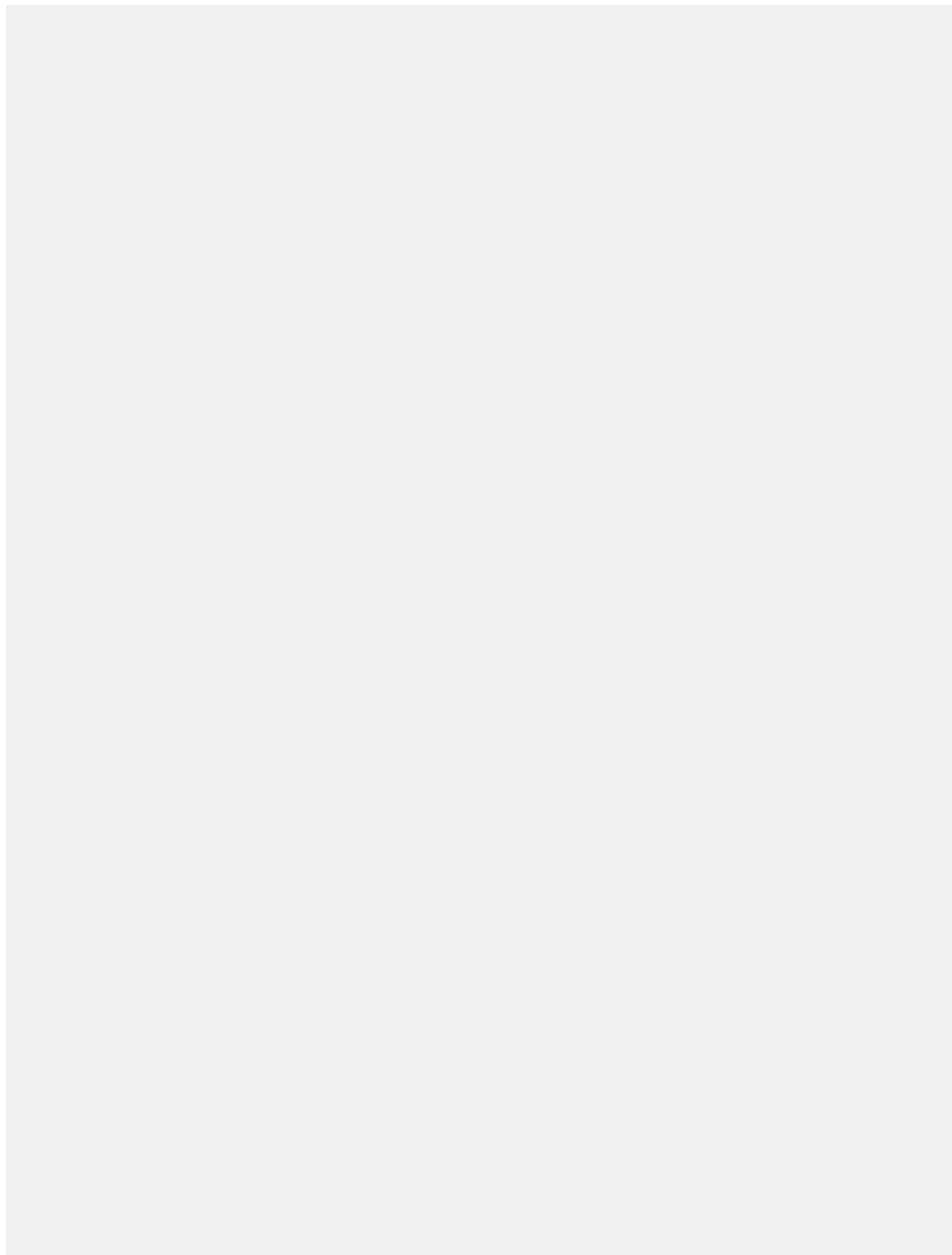
項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	この Web フォームから作成されたケースのデフォルトのケース発生源を指定します。 が に設定されている場合のみ適用されます。
	string	セルフサービスポータルから送信されたケースへのメールレスポンスに使用されるデフォルトのテンプレートを指定します。 が に設定されている場合のみ適用されます。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	Web-to-ケースが有効化されているか()、否か()を示します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、ケース設定ファイルのサンプルです。



設定

Chatter アンサーの設定管理に使用するメタデータを表します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

Chatter アンサー設定は、ディレクトリの という 1 つのファイルに保存されます。 ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが 1 つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

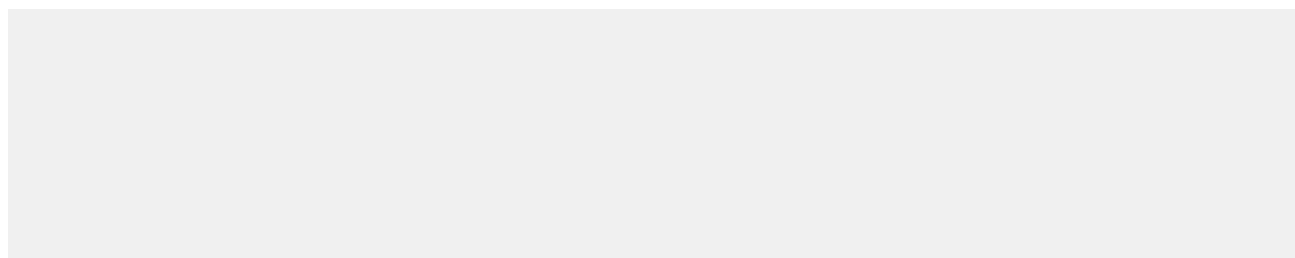
ChatterAnswersSettings は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

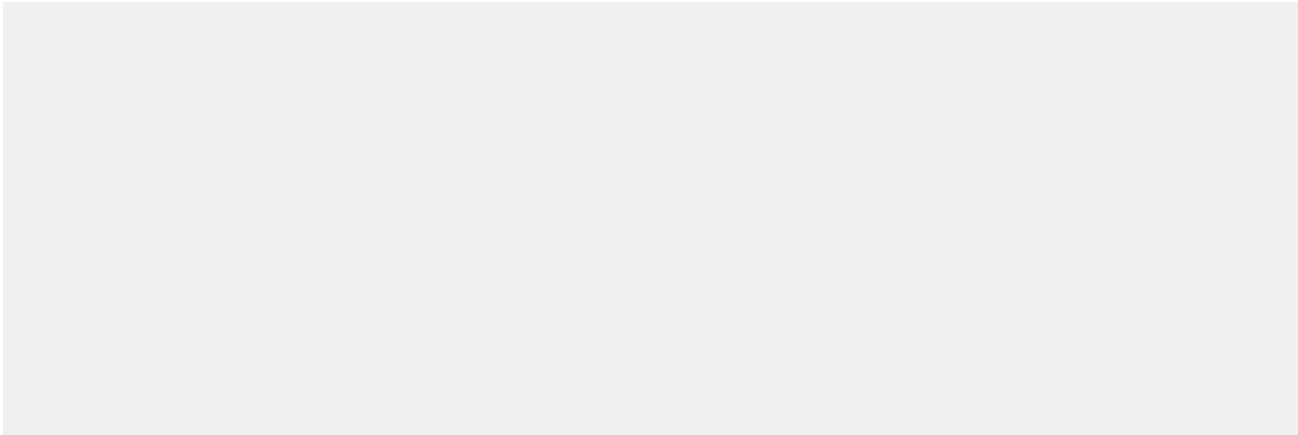
項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	フォローしている質問で最良の回答が選択された場合にユーザに通知するか()、否か()を示します。
	boolean	フォローしている質問に他のユーザが返答した場合にユーザに通知するか()、否か()を示します。
	boolean	カスタマーサポートが質問に非公開で返答した場合にユーザに通知するか()、否か()を示します。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	質問に他のユーザが返答した場合にユーザに通知するか ()、否か () を示します。
	boolean	Chatter アンサーが組織で有効化されているか ()、否か () を示します。
	boolean	ユーザが Facebook ログインを使用して Chatter アンサーコミュニティにサインインするか ()、否か () を示します。この機能を有効にするには、組織のセキュリティのコントロールで Facebook 認証プロバイダを定義して有効にし、さらに組織内で認証プロバイダを有効にする必要があります。
	boolean	Chatter アンサーコミュニティのいずれかに質問を投稿する前に、ユーザが記事または質問で検索結果をフィルタできるか ()、否か () を示します。また、タイトルおよび 内容 項目を質問に追加して、テキスト入力やスクランを容易にすることができます。
	boolean	ユーザのプロファイルの写真の上にマウスを置くと評価が表示されるか ()、否か () を示します。評価は、すべてのゾーンで有効になります。評価設定を有効にするには、組織で [評価] を有効にする必要があります。
	boolean	質問を投稿するときに、テキストを書式設定し、画像をアップロードするために、リッチテキストエディタが有効化されているか ()、否か () を示します。リッチテキストエディタを有効にするには、[質問フローを最適化] を有効にする必要があります。
	string	既存の Facebook 認証プロバイダの名前。Chatter アンサーコミュニティでの Facebook シングルサインオンを実装するには、Facebook 認証プロバイダを選択する必要があります。
	boolean	Chatter アンサーをカスタマーポータルまたはパートナーポータルにタブとして追加できるか ()、否か () を示します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

メタデータファイルの例を次に示します。





関連リンク

[設定](#)

CompanySettings

組織内の複数の機能に影響するグローバル設定を表します。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

CompanySettings の値は、対応するパッケージディレクトリの `CompanySettings` ディレクトリの `CompanySettings` という1つのファイルに保存されます。 `CompanySettings` ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが1つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

組織プロファイルの設定は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	FiscalYearSetting	年および開始月に基づく組織の会計年度設定。[カスタム会計年度]または[売上予測(従来)]が有効になっている場合は使用できません。会計年度設定を変更すると、目標および調整が消去される可能性があります。たとえば、開始月を変更すると、このデータは消去されます。

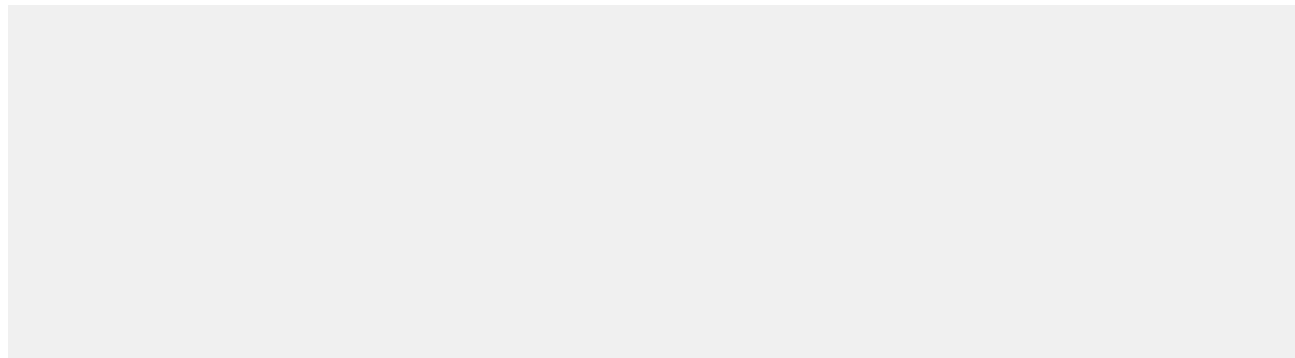
FiscalYearSetting

組織の会計年度設定を表します。

項目	項目のデータ型	説明
	string	<p>この項目は、会計年度名を判断するために使用されます。有効な値は、 または です。たとえば、会計年度が 2012 年 4 月から始まり、2013 年 3 月に終わる場合は、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> この値が のときは、会計年度名には 2013 が使用されます。 この値が のときは、会計年度名には 2012 が使用されます。
	string	会計年度が基づく月。

宣言的なメタデータの定義のサンプル — 会計年度設定

会計年度設定の XML 定義のサンプルを以下に示します。この例がサポートされているのは、API バージョン 27.0 以降です。



関連リンク

[設定](#)

ContractSettings

契約の設定を表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「契約の設定のカスタマイズ」を参照してください。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ディレクトリには、`EntitlementSettings` という名前のファイルに保存される契約設定ファイルが 1 つあります。このファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが 1 つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

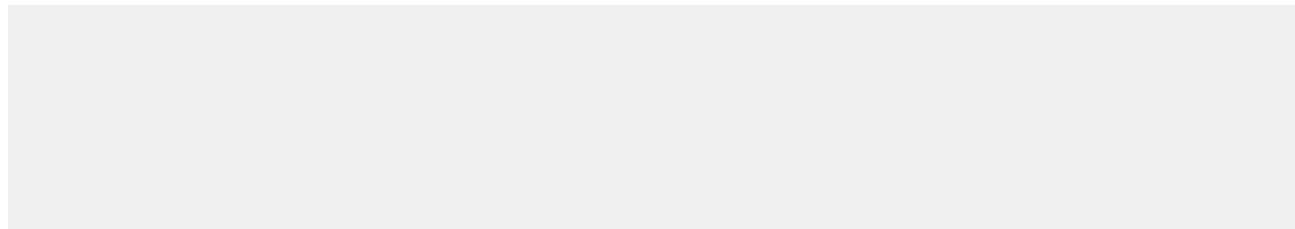
`ContractSettings` は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	契約の終了日が自動的に計算されるか ()、否か () を示します。
	boolean	契約の期限が切れるときに、取引先および取引先責任者にメール通知が自動的に送信されるか ()、否か () を示します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、契約設定ファイルのサンプルです。



関連リンク

[設定](#)

EntitlementSettings

組織のエンタイトルメント設定を表します。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

EntitlementSettings の値は、ディレクトリのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが 1 つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

EntitlementSettings は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

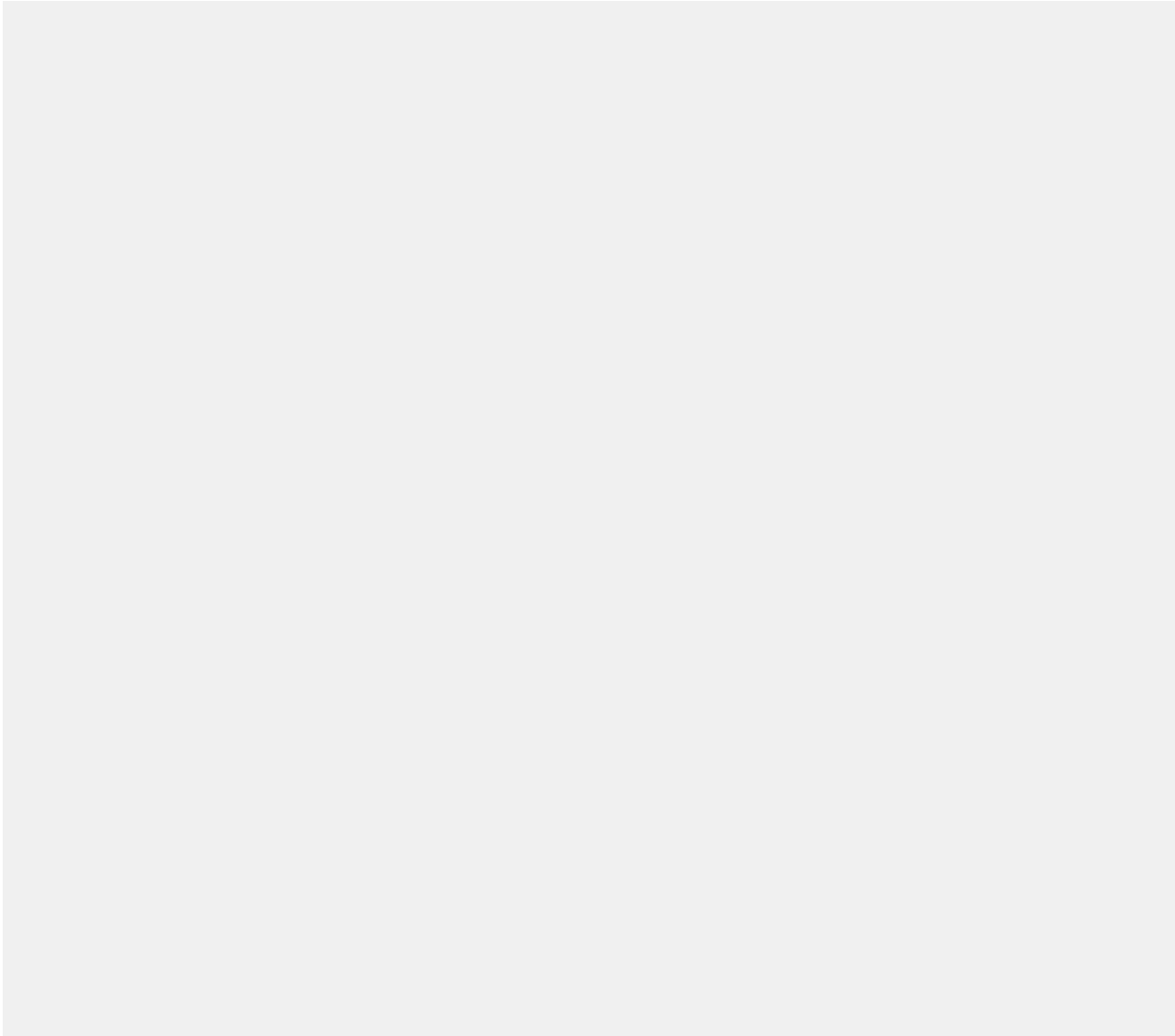
項目

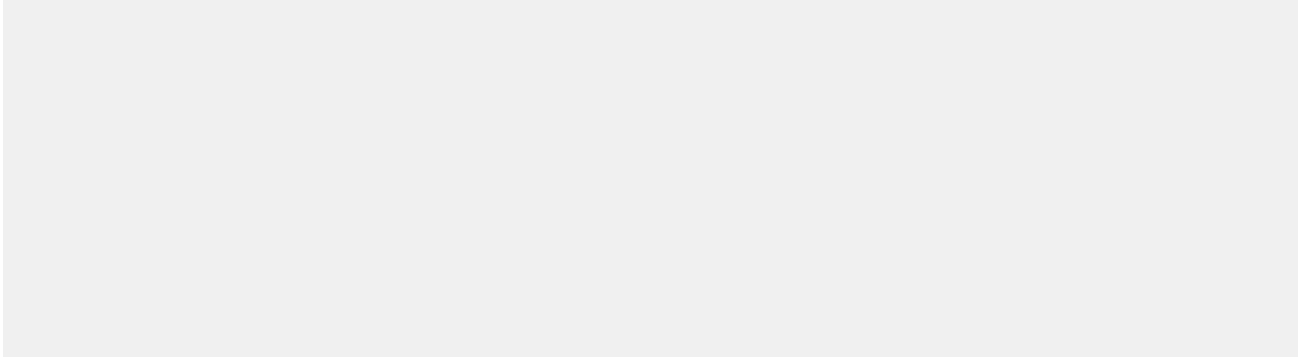
項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	ケースのエンタイトルメント関連ルックアップ検索条件が、ケースの取引先の有効なエンタイトルメントに関連する納入商品のみを返すか ()、否か () を示します。
	boolean	ケースのエンタイトルメント関連ルックアップ検索条件が、ケースの取引先責任者の有効なエンタイトルメントに関連する納入商品のみを返すか ()、否か () を示します。
	boolean	ケースのエンタイトルメント関連ルックアップ検索条件が、ケースの取引先に関連する納入商品のみを返すか ()、否か () を示します。
	boolean	ケースのエンタイトルメント関連ルックアップ検索条件が、ケースの取引先責任者に関連する納入商品のみを返すか ()、否か () を示します。
	boolean	エンタイトルメントが有効化されているか ()、否か () を示します。
	boolean	エンタイトルメントのバージョン管理が有効化されているか ()、否か () を示します。 この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。
	boolean	ケースのエンタイトルメント関連ルックアップ検索条件が、有効なエンタイトルメントのみを返すか ()、否か () を示します。
	boolean	ケースのエンタイトルメント関連ルックアップ検索条件が、ケースの取引先に関連するエンタイトルメントのみを返すか ()、否か () を示します。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	ケースのエンタイトルメント関連ルックアップ検索条件が、ケースの納入商品に関連するエンタイトルメントのみを返すか()、否か()を示します。
	boolean	ケースのエンタイトルメント関連ルックアップ検索条件が、ケースの取引先担当者に関連するエンタイトルメントのみを返すか()、否か()を示します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、エンタイトルメント設定ファイルのサンプルです。






関連リンク
[設定](#)

ForecastingSettings

売上予測設定オプションを表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

 メモ: この情報は、コラボレーション売上予測にのみ適用されます。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所


ForecastingSettings の値は、対応するパッケージディレクトリのディレクトリの
という1つのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが1つし
かないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

ForecastingSettings コンポーネントは、API バージョン 28.0 以降で使用できます。


項目

項目名	項目のデータ型	説明
	AdjustmentsSettings	売上予測の調整オプション。
	DataSourceSettings	売上予測で利用できるデータソース。選択肢には、数量、収益、またはその両方があります。少なくとも1つを選択する必要があります。
	DisplayCurrency (string 型の 列挙)	売上予測の表示に使用する通貨。組織のマスタ通貨または各売上予測所有者の個人設定の通貨のいずれかになります。これは、売上予測で使用され、設定で選択されるデフォルトの通貨です。組織で使用するために有効化されているいずれか1つの通貨を選択する必要があり、選択できるのは

項目名	項目のデータ型	説明
		1つのみです。デフォルトは です。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・
	boolean	売上予測が有効化されているか、否かを示します。売上予測を有効にするには に設定し、無効にするには に設定します。  警告: 売上予測を無効にすると、データが失われる可能性があります。機能を無効にする前に、オンラインヘルプを参照してください。
	ForecastRangeSettings	売上予測のデフォルトの期間と範囲の選択。
	OpportunityListFields SelectedSettings	売上予測ページの商談ペインに表示するために選択された項目。 商談名 は必須項目です。15 項目まで選択できます。
	QuotasSettings	QuotasSettings は、売上予測で目標を使用できるかどうかを示します。

AdjustmentsSettings



売上予測の調整オプション。

項目	項目のデータ型	説明
	boolean	売上予測の調整を有効にするには に設定し、無効にするには に設定します。  警告: 調整を無効にすると、売上予測調整データが消去されます。

DataSourceSettings

売上予測で使えるデータソース。選択肢には、数量、収益、またはその両方があります。少なくとも1つを選択する必要があります。

項目	項目のデータ型	説明
	ForecastingDisplayDataType (string 型の 列挙)	数量と収益の両方のオプションが有効化されている場合に、ユーザーに表示されるデフォルトのデータ型。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・

項目	項目のデータ型	説明
	boolean	<p>数量による売上予測を有効にするには に設定し、無効にするには に設定します。</p> <p> 警告: 数量を無効にすると、関連するすべての数量目標と調整データが消去されます。</p>
	boolean	<p>収益による売上予測を有効にするには に設定し、無効にするには に設定します。</p> <p> 警告: 収益を無効にすると、関連するすべての収益目標と調整データが消去されます。</p>

ForecastRangeSettings

売上予測のデフォルトの期間と範囲の選択。ユーザは、過去または将来の 12 か月または 8 四半期までの売上予測が可能です。売上予測範囲に当月または四半期が含まれている場合、[売上予測] ページの積み上げ集計テーブルでデフォルトで選択されている期間は当月または当四半期です。含まれていない場合、最初の月または四半期が積み上げ集計テーブルでデフォルトで選択されます。



重要: 期間の設定を [毎月] から [毎四半期] または [毎四半期] から [毎月] に変更すると、すべての調整および目標が失われます。

項目	項目のデータ型	説明
	int	デフォルトで表示する開始月または開始四半期を示します。
	int	デフォルトで表示する月数または四半期数を示します。最大月数は 12、最大四半期数は 8 です。
	PeriodTypes (string 型の列挙)	<p>使用する期間の種別を示します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・

OpportunityListFieldsSelectedSettings

売上予測ページの商談ペインに表示するために選択された項目。 商談名 は必須項目です。15 項目まで選択できます。

項目	項目のデータ型	説明
	string	商談ペインに表示する項目名を指定します。

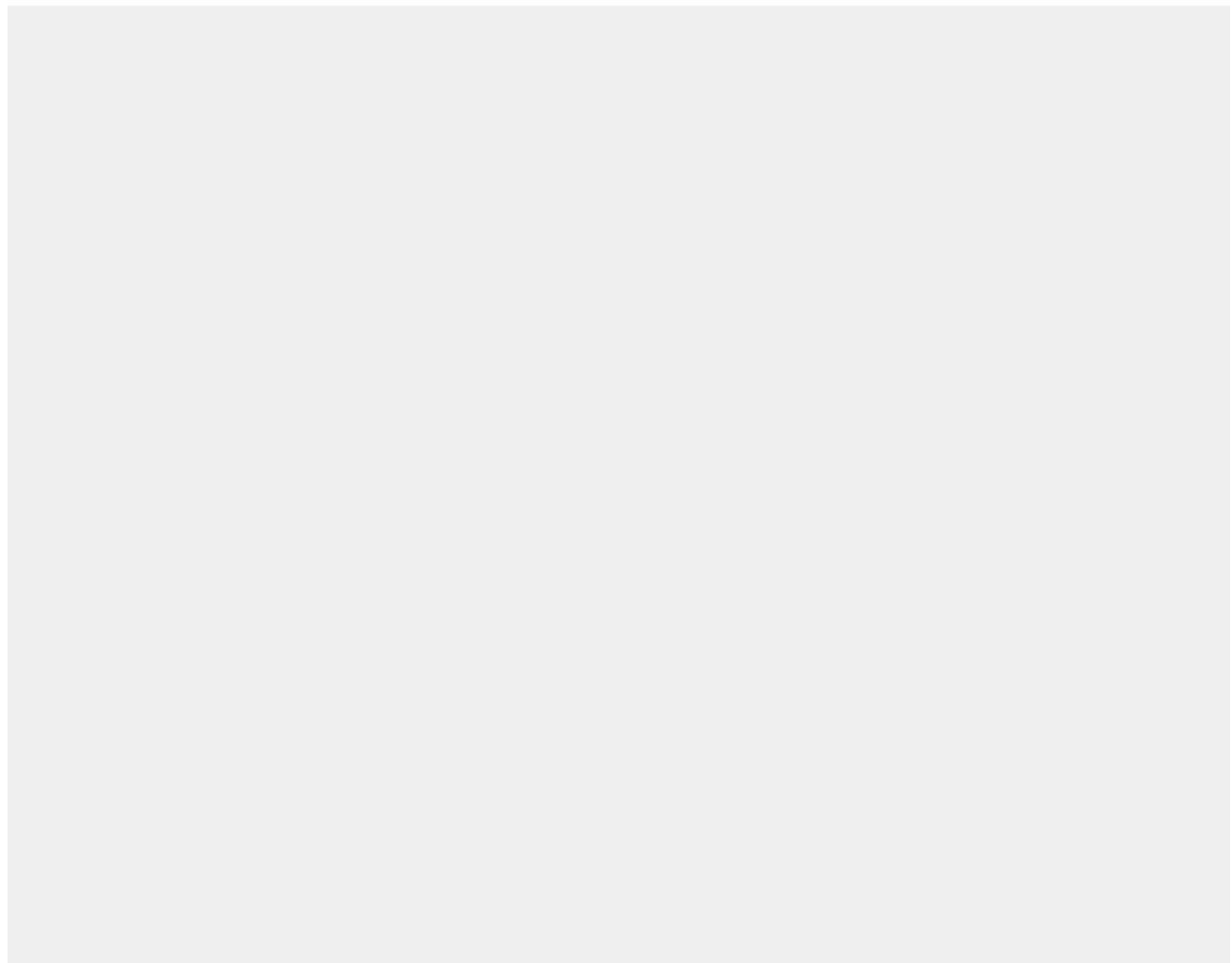
QuotasSettings

QuotasSettings は、売上予測で目標を使用できるかどうかを示します。

項目	項目のデータ型	説明
	boolean	目標を有効にするには、 に設定します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

次に、ForecastingSettings コンポーネントの例を示します。



関連リンク

[設定](#)

IdeasSettings

アイデアの設定管理に使用するメタデータを表します。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

IdeasSettings は、対応するパッケージディレクトリの フォルダ内の という 1 つのファイルに保存されます。 ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが 1 つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

IdeasSettings は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

アイデア

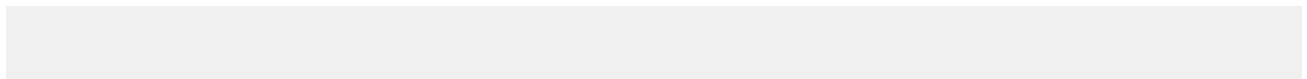
アイデアおよびアイデアのテーマの設定を表します。

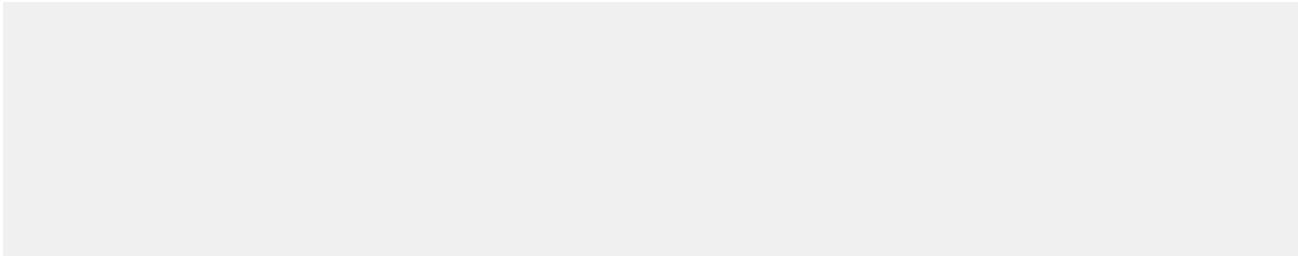
項目

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	アイデアのテーマが有効化されているか ()、否か () を示します。
	boolean	アイデアが有効化されているか ()、否か () を示します。
	boolean	評価が有効化されているか ()、否か () を示します。組織で「アイデアの評価」権限が有効化されていない場合は、IdeasReputation を有効化できません。この項目は API バージョン 28.0 以降で使用できます。
	double	[人気のあるアイデア] サブタブで、どのくらいの期間が経過すると古いアイデアの順位が下がるのかを示します。半減期設定により、[人気のあるアイデア] サブタブで古いアイデアが順位を下げ、新しい投票を多く集めているアイデアに順位を譲るまでの日数が決められます。半減期が短いと、長い場合よりも早く古いアイデアがページの下の方に移動します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

メタデータファイルの例を次に示します。





関連リンク

[設定](#)

KnowledgeSettings

Salesforce ナレッジの設定管理に使用するメタデータを表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

KnowledgeSettings の値は、ディレクトリのという1つのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが1つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

KnowledgeSettings は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	KnowledgeAnswerSettings	Salesforce ナレッジおよびアンサーの設定管理に使用するメタデータを表します。
	KnowledgeCaseSettings	Salesforce ナレッジおよびケースの設定管理に使用するメタデータを表します。
	string	必須。Salesforce ナレッジのデフォルトの言語。米国英語では en_US など、言語の略語を使用します。
	KnowledgeLanguageSettings	Salesforce ナレッジで有効化された言語のリスト。

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	ユーザが記事タブで記事の作成と編集ができるか()、否か()を示します。
	boolean	外部メディアへの接続が有効化されているか()、否か()を示します。
	boolean	Salesforce ナレッジが有効化されているか()、否か()を示します。
	boolean	記事の概要がカスタマーポータルに表示されるか()、否か()を示します。
	boolean	記事の概要が社内の知識ベースに表示されるか()、否か()を示します。
	boolean	記事の概要がパートナーポータルに表示されるか()、否か()を示します。
	boolean	検証状況が記事に表示されるか()、否か()を示します。

KnowledgeAnswerSettings

Salesforce ナレッジおよびアンサーの設定管理に使用するメタデータを表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	アンサーから記事が割り当てられるユーザ名を指定します。
	string	アンサーから作成される記事のデフォルトの記事タイプ。記事タイプの API 名を使用します。
	boolean	ユーザがアンサーから記事を作成できるか()、否か()を示します。

KnowledgeCaseSettings

Salesforce ナレッジおよびケースの設定管理に使用するメタデータを表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string	ケースから記事の PDF を作成するために使用するプロファイル。
	KnowledgeSitesSettings	Salesforce ナレッジおよびサイトの設定管理に使用するメタデータを表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	KnowledgeSitesSettings	Chatter アンサーで Salesforce ナレッジおよびサイトの設定管理に使用するメタデータを表します。
	string	ケースから記事が割り当てられるユーザ名を指定します。
	string	カスタマイズに使用する Apex クラスを指定します。
	string	ケースから作成される記事のデフォルトの記事タイプ。
	KnowledgeCaseEditor (string 型の 列挙)	リッチテキストエディタの種類を示します。有効な値は、次のとおりです。 ・ ・
	boolean	ユーザがケースから記事を作成できるか ()、否か () を示します。 KnowledgeCaseSettings の他の項目を設定できるかどうかを制御します。
	boolean	ケースから公開サイト (URL) 経由で記事を共有できるか ()、否か () を示します。
	boolean	ケースから記事の PDF を作成するためにプロファイルが使用されるか ()、否か () を示します。

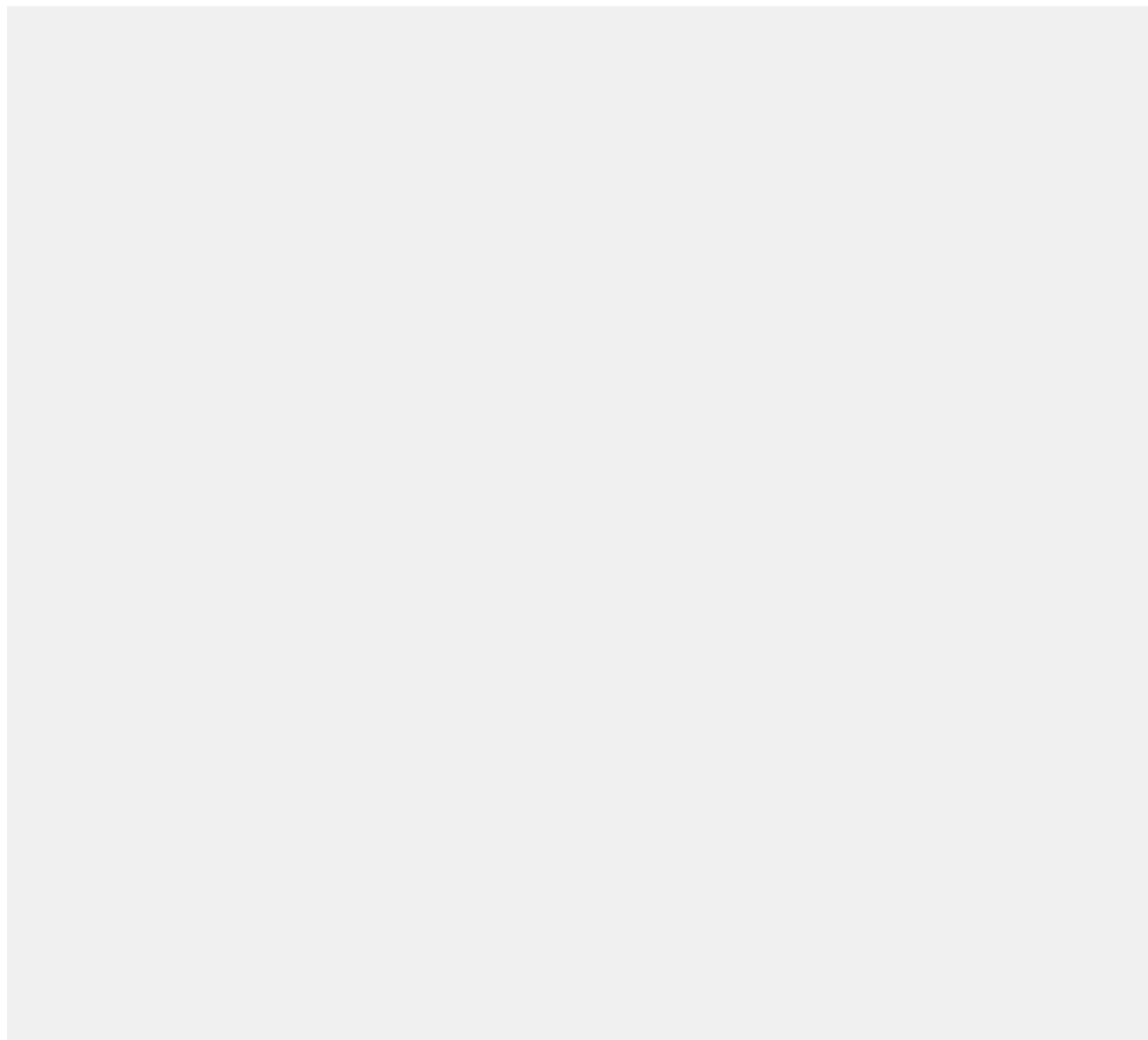
KnowledgeSitesSettings

Salesforce ナレッジおよびサイトの設定管理に使用するメタデータを表します。

項目名	項目のデータ型	説明
	string[]	Salesforce ナレッジおよびサイトに使用するサイトを指定します。

KnowledgeLanguageSettings

Salesforce ナレッジで有効化された言語のリスト。KnowledgeLanguageSettings は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。



関連リンク

[設定](#)

LiveAgentSettings

Live Agent が有効化されているかどうかなどの、組織の Live Agent 設定を表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

LiveAgentSettings の値は、ディレクトリのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが1つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

バージョン

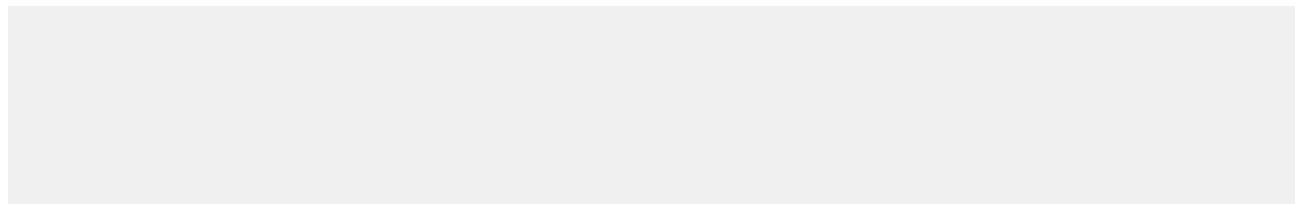
LiveAgentSettings は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	Live Agent が有効化されているか ()、否か () を示します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、Live Agent 設定ファイルのサンプルです。



MobileSettings

Chatter 設定や、Mobile Lite が有効化されているかどうかなどの、組織のモバイル設定を表します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Salesforce Mobile デバイスの管理」および「Chatter Mobile アプリケーションの概要」を参照してください。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

MobileSettings の値は、ディレクトリのという1つのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが1つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。



メモ: MobileSettings は、API バージョン 25.0 および 26.0 では今後使用できません。

バージョン

モバイル設定は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	ChatterMobileSettings	Chatter Mobile デバイスの設定。
	DashboardMobileSettings	モバイルデバイスのダッシュボードの設定。
	SFDCMobileSettings	モバイルデバイスの一般的なユーザの設定。
	TouchMobileSettings	モバイルデバイスのタッチの設定。

ChatterMobileSettings

組織の Chatter Mobile 設定を表します。

項目	データ型	説明
	boolean	iPad デバイスで Chatter Mobile が有効化されているか()、否か()を示します。
	boolean	iPhone デバイスで Chatter Mobile が有効化されているか()、否か()を示します。
	boolean	Android デバイスで Chatter Mobile が有効化されているか()、否か()を示します。
	boolean	Blackberry デバイスで Chatter Mobile が有効化されているか()、否か()を示します。
	boolean	組織で Chatter Mobile が有効化されているか()、否か()を示します。 <div data-bbox="1039 1570 1107 1654" data-label="Image"></div> <div data-bbox="1122 1564 1482 1814" data-label="Text"> <p>メモ: これを に設定すると、その他のすべての設定を設定できます。この設定を から に変更して、さらに、その他いずれかの ChatterMobile 設定を変更しようと試みると、</p> </div>

項目	データ型	説明
		リリースはエラーで失敗します。
	boolean	組織で Chatter 転送通知が有効化されているか()、否か()を示します。
	MobileSessionTimeout (string 型の列挙)	何も操作を行っていないユーザーに、ログアウトするか操作を続行するかを尋ねるまでの時間。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • • • •

DashboardMobileSettings

組織のモバイルダッシュボード iPad アプリケーションの設定を表します。

項目	データ型	説明
	boolean	モバイルダッシュボード iPad アプリケーションが組織で有効化されているか()、否か()を示します。

SFDCMobileSettings

組織の一般的なモバイル設定を表します。

項目	データ型	説明
	boolean	ユーザーをモバイルデバイスに永続的にリンクします。ユーザーがシステム管理者の介入なしでデバイスを切り替えることができないようにする場合のみ、このオプションを に設定します。
	boolean	組織で Mobile Lite が有効化されているか()、否か()を示します。

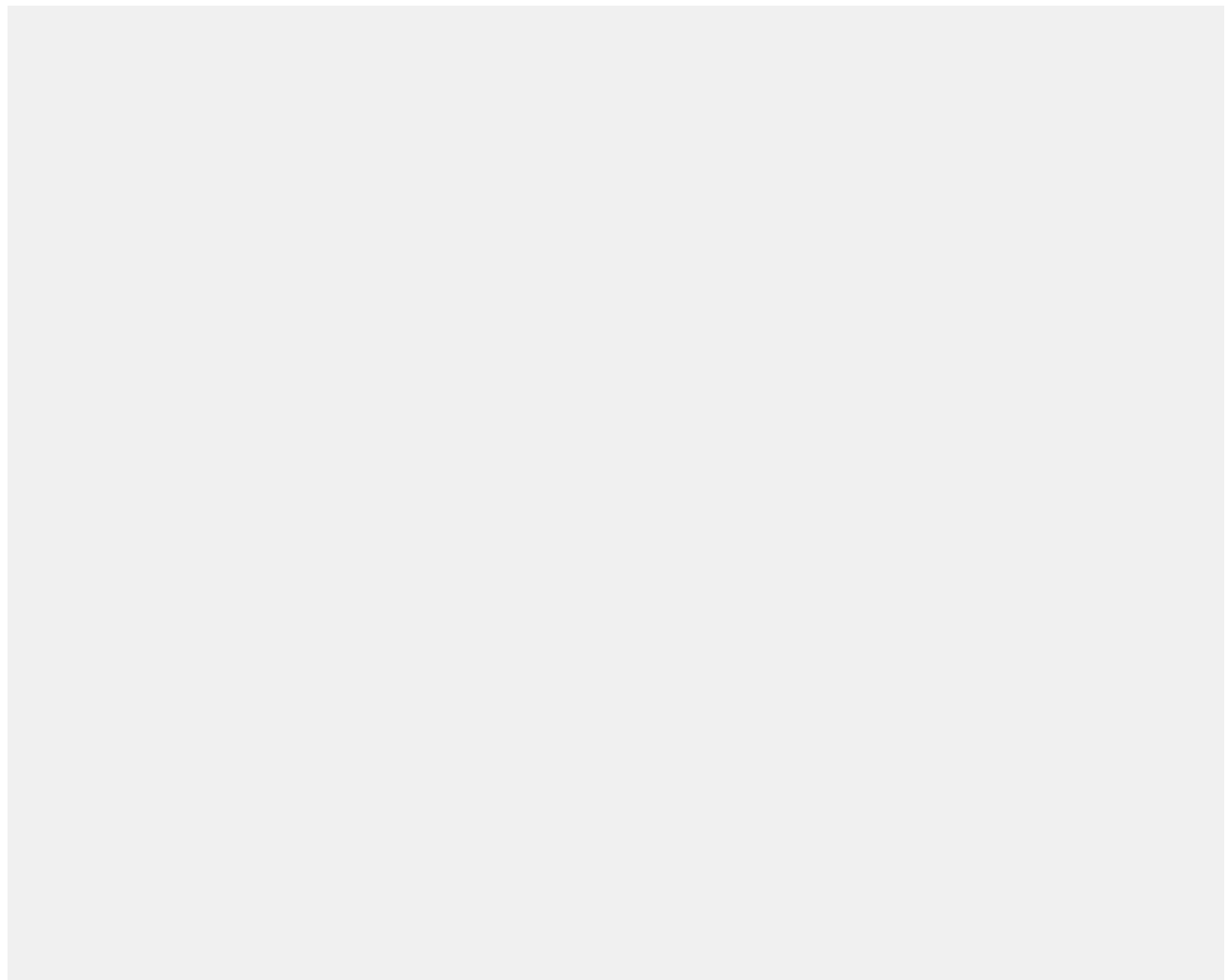
TouchMobileSettings

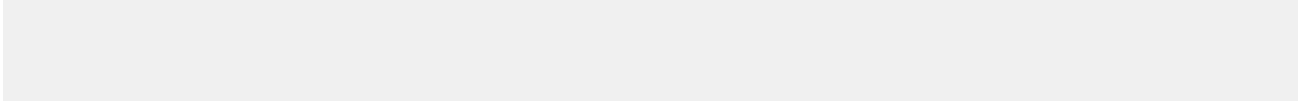
組織の Salesforce Touch 設定を表します。

項目	データ型	説明
	boolean	組織で Salesforce Touch モバイルブラウザアプリケーションが有効化されているか()、否か()を示します。
	boolean	組織で Salesforce Touch のダウンロード可能なアプリケーションが有効化されているか()、否か()を示します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、 メタデータファイルのサンプルです。





関連リンク
[設定](#)

OpportunitySettings

商談の自動更新や類似商談条件検索などの機能に関する組織の設定を表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

OpportunitySettings の値は、対応するパッケージディレクトリのディレクトリの
という1つのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが1つし
かないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

OpportunitySettings は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	ユーザは商談でスケジュール済みの自動更新を有効化することができます。
	boolean	新しい商談に自動的にスケジュール済みの更新を使用します。
	boolean	既存の商談に関連または類似する商談を表示できます。
FindSimilarOppFilter		類似商談のパラメータを定義します。
	boolean	チームメンバーを商談に関連付けることができます。
	boolean	関連する商品を商談に追加することをユーザに要求します。

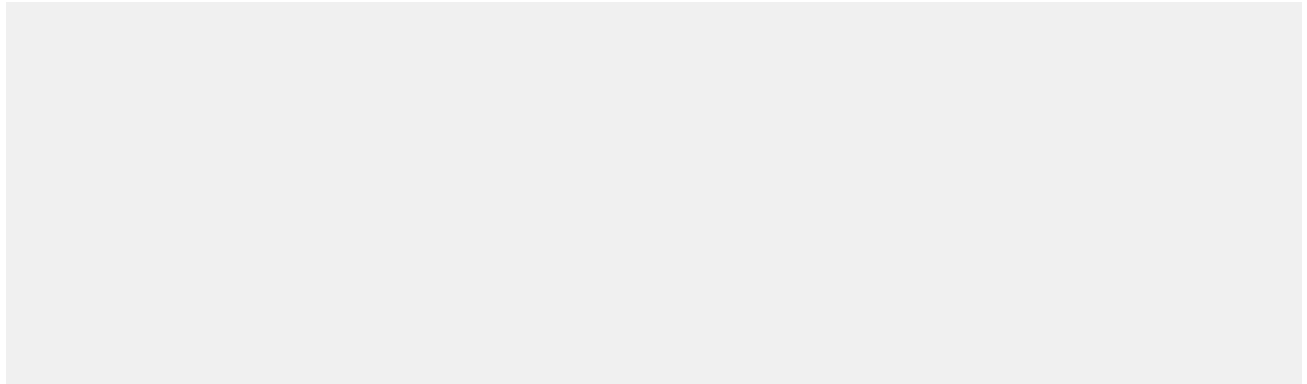
FindSimilarOppFilter

列全体または項目全体のどちらで照合するかを定義します。

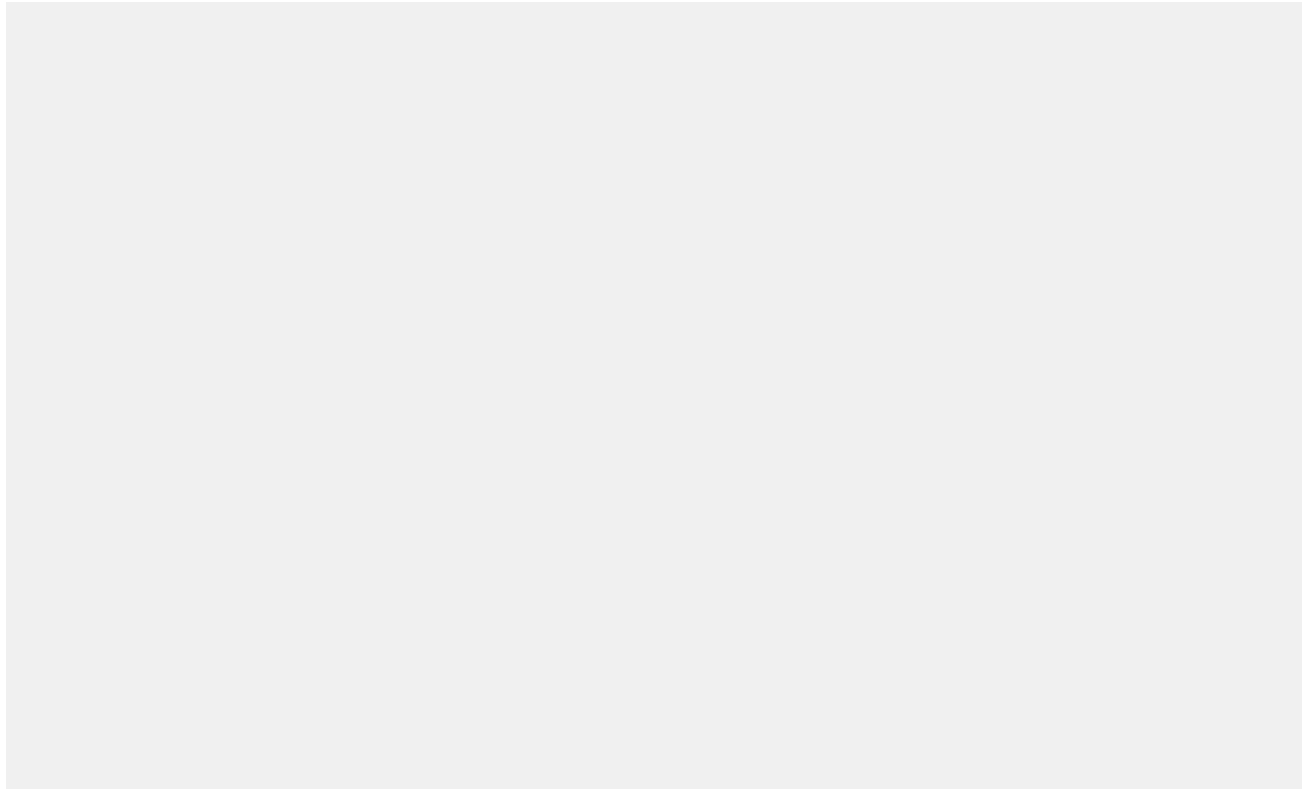
項目	項目のデータ型	説明
	string	比較する列。
	string	比較する項目。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

次に、パッケージファイルの例を示します。



パッケージファイルは、次の Opportunity.settings ファイルを参照します。



ProductSettings

数量スケジュール、収益スケジュール、および有効フラグと価格の相互作用の組織の設定を表します。 [Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ProductSettings の値は、対応するパッケージディレクトリのディレクトリという1つのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが1つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

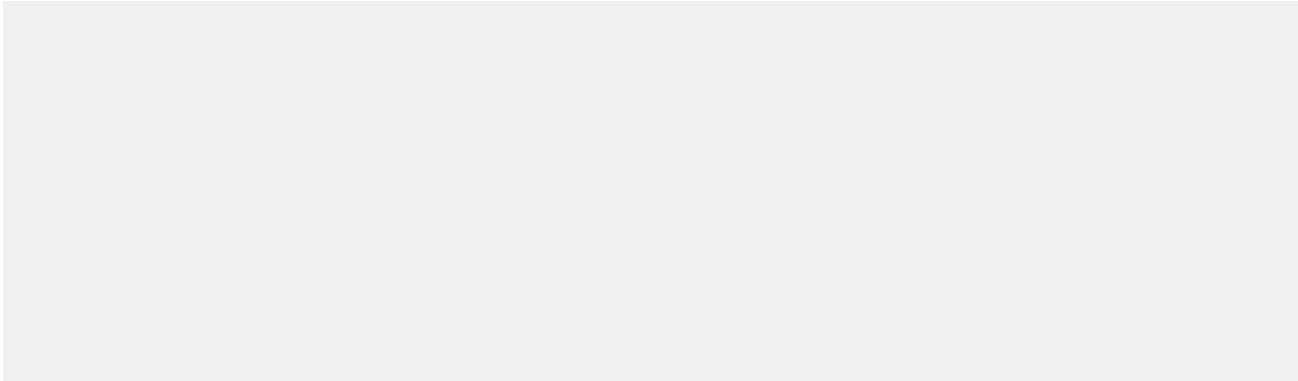
ProductSettings は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

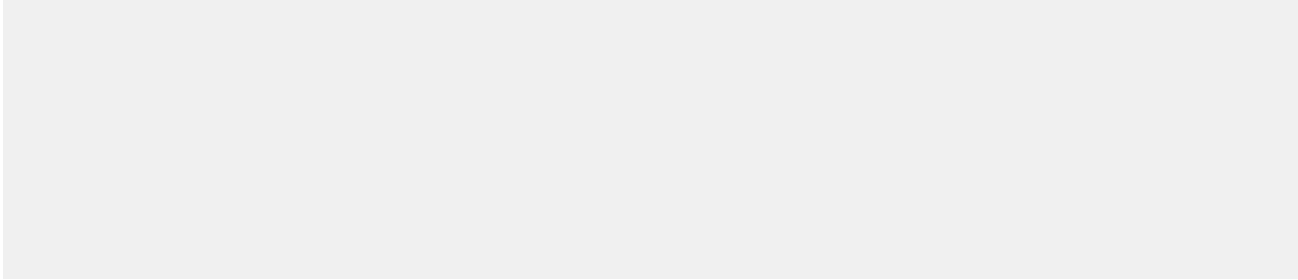
項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	商品レコード上の有効フラグを変更した場合、関連する価格の有効フラグも自動的に更新します。
	boolean	商品の数量スケジュールを有効化します。
	boolean	商品の収益スケジュールを有効化します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

次に、パッケージファイルの例を示します。



パッケージファイルは、次の Product.settings ファイルを参照します。



QuoteSettings

商品およびサービスの提案された価格を示す見積を有効または無効にします。 [Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

QuoteSettings の値は、対応するパッケージディレクトリのディレクトリという1つのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが1つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。

バージョン

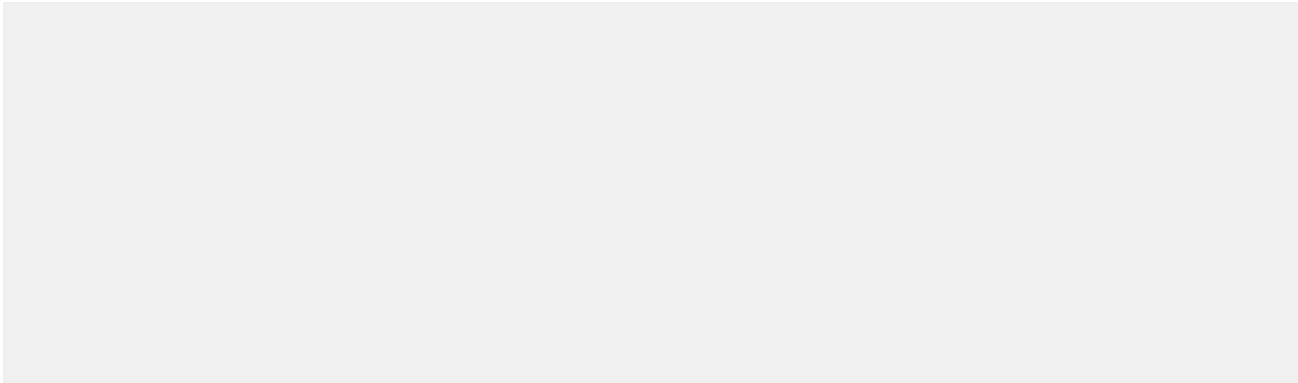
QuoteSettings は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

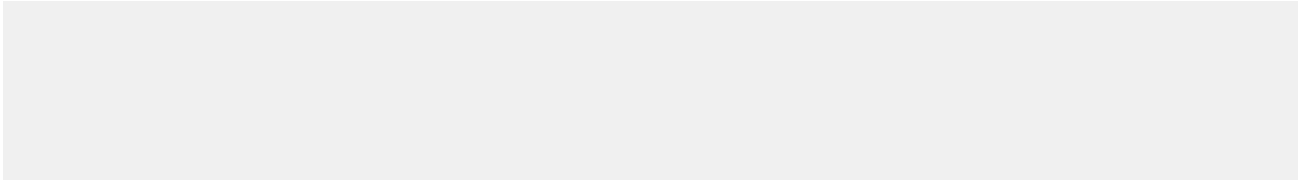
項目名	項目のデータ型	説明
	boolean	に設定されていると、ユーザは見積にアクセスできます。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

次に、パッケージファイルの例を示します。



パッケージファイルは、次の `Quote.settings` ファイルを参照します。




SecuritySettings

組織のセキュリティ設定を表します。セキュリティ設定は、ネットワークアクセス用の信頼できる IP 範囲、パスワードとログインの要件、およびセッション終了とセキュリティ設定を定義します。

パッケージマニフェストでは、「Settings」の名前を使用してすべての組織設定メタデータ型にアクセスします。詳細は「[設定](#)」を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

SecuritySettings の値は、ディレクトリの という 1 つのファイルに保存されます。ファイルは、各設定コンポーネントに設定ファイルが 1 つしかないため、他の名前付きのコンポーネントとは異なります。



メモ: SecuritySettings は、API バージョン 25.0 および 26.0 では今後使用できません。

バージョン


セキュリティ設定は、API バージョン 27.0 以降で使用できます。

項目

項目名	データ型	説明
	NetworkAccess	信頼済み IP アドレスの範囲は、ユーザがコンピュータの有効化を要求せずに常にログインできる IP 範囲です。
	PasswordPolicies	パスワードとログインの要件、および忘れたパスワードの取得をサポートする情報です。
	SessionSettings	セッションの有効期限とセキュリティの設定。

NetworkAccess

ネットワークアクセスのための組織の信頼済み IP アドレス範囲を表します。

項目	データ型	説明
	IpRange[]	<div>信頼済み IP アドレスの範囲は、ユーザがコンピュータの有効化を要求せずに常にログインできる IP 範囲です。</div> <div>メモ: IP 範囲を追加するには、すべての既存の IP 範囲と追加する IP 範囲を同時にリリースする必要があります。追加する IP 範囲のみリリースした場合、既存の IP 範囲がリリースする IP 範囲に置き換えられます。組織のすべての IP 範囲を削除するには、</div>

項目	データ型	説明
		networkAccess 項目を空白のままにしてください (<networkAccess></networkAccess>)。

IpRange

ネットワークアクセスのための信頼済み IP アドレスの範囲を定義します。

項目	データ型	説明
	string	信頼済みアドレスの範囲の上限を定義する IP アドレス。
	string	信頼済みアドレスの範囲の下限を定義する IP アドレス。

PasswordPolicies

組織のパスワードとログインポリシーを表します。

項目	データ型	説明
	string	「API 限定ユーザ」権限を持つユーザがログインページの代わりにリダイレクトされる URL。
	Complexity (string 型の 列挙)	<p>必須。ユーザのパスワードとして使用できる文字の種類の要件。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 任意のパスワード値を許可します。最も安全性の低いオプションです。 — 少なくとも 1 つの英字と 1 つの数字を使用する必要があります。これはデフォルト値です。 — 少なくとも 1 つの英字、1 つの数字、および のう ちの 1 文字を含む必要があります。
	Expiration (string 型の 列挙)	<p>必須。すべてのユーザパスワードが失効し、変更する必要が生じるまでの期間。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>。これはデフォルト値です。</p>

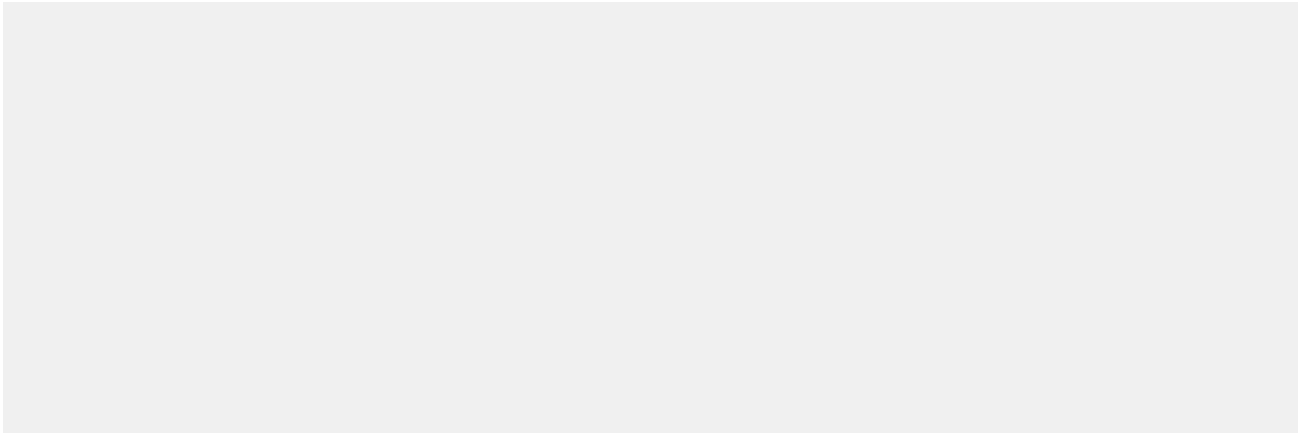
項目	データ型	説明
	string	ユーザがクリックして忘れたパスワードを取得できる URL。
	string	パスワードをリセットするユーザに対して、「アカウントロックアウト」メールと[IDを確認]画面の下部に表示されるテキスト。
	string	必須。新しく再設定されるパスワードが常に一意のパスワードになるように、保存されるユーザの過去のパスワードの数。保存されるパスワード数の有効な値は、 から です。デフォルト値は、 です。
	LockoutInterval (string 型の 列挙)	<p>必須。ロックアウトが解除されるまでの所要時間。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 。これはデフォルト値です。 (システム管理者のみがリセット可能)
	MaxLoginAttempts (string 型の 列挙)	<p>必須。ログイン失敗が許される回数。この回数を超えると、そのユーザはロックアウトされ、ログインできなくなります。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 。これはデフォルト値です。
	MinPasswordLength (string 型の 列挙)	<p>必須。パスワードに必要な最小限の文字数。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 。これはデフォルト値です。
	QuestionRestriction (string 型の 列挙)	<p>必須。パスワードヒントの質問に対する回答にパスワードそのものを含めることができるかどうかについての制限。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 。これはデフォルト値です。

SessionSettings

組織のセッションの有効期限とセキュリティ設定を表します。

項目	データ型	説明
	boolean	セッションタイムアウトの警告ポップアップが無効化されるか()、有効化されるか()を示します。
	boolean	設定以外のページの GET 要求のクロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) 保護が有効化されているか()、否か()を示します。
	boolean	設定以外のページの POST 要求のクロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) 保護が有効化されているか()、否か()を示します。
	boolean	ユーザのブラウザにユーザ名を保存して、ログインページの ユーザ名 項目に自動入力できるようにするか()、否か()を示します。
	boolean	設定以外の Salesforce ページでクリックジャック保護が有効化されるか()、無効化されるか()を示します。
	boolean	設定以外の顧客ページでクリックジャック保護が有効化されるか()、無効化されるか()を示します。
	boolean	設定ページでクリックジャック保護が有効化されるか()、無効化されるか()を示します。
	boolean	ユーザが SMS 経由で 1 回限りの PIN を取得できるか()、否か()を示します。
	boolean	別のユーザとしてログインしているシステム管理者が、セカンダリユーザとしてログアウトしてから元のセッションに再度ログインする必要があるか()、否か()を示します。
	boolean	ユーザセッションが、ユーザがログインした IP アドレスにロックされるか()、否か()を示します。
	SessionTimeout (string 型の 列挙)	何も操作を行っていないユーザに、ログアウトするか操作を続行するかを尋ねるまでの時間。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • • •

説明



関連リンク

[設定](#)

SharedTo

SharedTo では、リストビューまたはフォルダの共有アクセス権を定義します。所有者に基づく共有ルールターゲットおよびソースを指定するために使用できます。Salesforce オンラインヘルプの「共有に関する考慮事項」および「グループについて」を参照してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

SharedTo は [ListView](#)、[Folder](#)、および[OwnerSharingRule](#) と一緒に使用します。

バージョン

SharedTo は、API バージョン 17.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	string	すべてのカスタマーポータルユーザを含むグループ。 この項目は API バージョン 24.0 以降で使用できます。
	string	すべての内部ユーザおよびポータル以外のユーザを含むグループ。 この項目は API バージョン 24.0 以降で使用できます。

項目	データ型	説明
	string	すべてのパートナーユーザを含むグループ。 この項目は API バージョン 24.0 以降で使用できません。
	string[]	共有アクセス権を持つグループのリスト。項目の代わりにこの項目を使用します。 この項目は API バージョン 22.0 以降で使用できません。
	string[]	共有アクセス権を持つグループのリスト。 API バージョン 22.0 以降では代わりに項目を使用します。
	string[]	ポータルロールのすべてのユーザを含む共有アクセス権を持つグループのリスト。 この項目は API バージョン 24.0 以降で使用できません。
	string[]	ポータルロールのすべてのユーザまたはそのロールの下ユーザを含む共有アクセス権を持つグループのリスト。 この項目は API バージョン 24.0 以降で使用できません。
	string[]	共有アクセス権を持つロールのリスト。項目の代わりにこの項目を使用します。 この項目は API バージョン 22.0 以降で使用できません。
	string[]	共有アクセス権を持つロールのリスト。ロール階層でこれらの各ロールの下位にあるすべてのロールにも共有アクセス権があります。ポータル取引先が有効になっている場合、ロール階層のこれらの各ロールの下位にあるすべてのロールおよびポータル取引先にも共有アクセス権があります。 項目の代わりにこの項目を使用します。 この項目は API バージョン 22.0 以降で使用できません。

項目	データ型	説明
	string[]	共有アクセス権を持つロールのリスト。ロール階層でこれらの各ロールの下位にあるすべてのロールにも共有アクセス権があります。 この項目は API バージョン 22.0 以降で使用できません。
	string[]	共有アクセス権を持つロールのリスト。 API バージョン 22.0 以降では代わりに項目を使用します。
	string[]	共有アクセス権を持つロールのリスト。ロール階層でこれらの各ロールの下位にあるすべてのロールにも共有アクセス権があります。ポータル取引先が有効になっている場合、ロール階層のこれらの各ロールの下位にあるすべてのロールおよびポータル取引先にも共有アクセス権があります。 API バージョン 22.0 以降では代わりに項目を使用します。
	string[]	共有アクセス権を持つテリトリーのリスト。 API バージョン 22.0 以降では代わりに項目を使用します。
	string[]	共有アクセス権を持つテリトリーのリスト。テリトリー階層でこれらの各テリトリーの下位にあるすべてのテリトリーにも共有アクセス権があります。 API バージョン 22.0 以降では代わりに項目を使用します。
	string[]	共有アクセス権を持つテリトリーのリスト。 項目の代わりにこの項目を使用します。 この項目は API バージョン 22.0 以降で使用できません。
	string[]	共有アクセス権を持つテリトリーのリスト。テリトリー階層でこれらの各テリトリーの下位にあるすべてのテリトリーにも共有アクセス権があります。 項目の代わりにこの項目を使用します。 この項目は API バージョン 22.0 以降で使用できません。

項目	データ型	説明
	string[]	共有アクセス権を持つキューのリスト。リード、ケース、CustomObject 共有ルールにのみ適用します。 この項目は API バージョン 24.0 以降で使用できません。

SharingRules

共有ルールのセットを表します。SharingRules を使用すると、対象ユーザグループのアクセスレベルを指定するルールを使用して、レコードをユーザのセットと共有できます。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「共有ルールの概要」を参照してください。



メモ: SharingRules コンポーネントを直接作成することはできません。代わりに、[CustomObjectSharingRules](#) など、拡張する型を使用します。このオブジェクトには、パッケージ化のサポートは含まれません。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

SharingRules は、対応するエンティティディレクトリに保存され、ファイル名はエンティティ名と一致します。たとえば、ディレクトリには取引先共有ルールのファイルが含まれます。カスタムオブジェクトの SharingRules は、ディレクトリに保存されます。このディレクトリには、など、拡張子のファイルが含まれます。ObjA はカスタムオブジェクト種別の開発者名を指します。

バージョン

SharingRules コンポーネントは、API バージョン 24.0 以降で使用できます。

項目

次の情報は、標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの共有ルールの実装を理解していることを前提としています。これらの項目についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「共有設定の概要」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	API アクセスの一意の識別子。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。

AccountSharingRules

取引先の共有ルールを表します。SharingRules メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

項目	データ型	説明
	AccountCriteriaBasedSharingRule[]	条件に基づくルールを定義するリスト。
	AccountOwnerSharingRule[]	所有者に基づくルールを定義するリスト。

CampaignSharingRules

キャンペーンの共有ルールを表します。SharingRules メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

項目	データ型	説明
	CampaignCriteriaBasedSharingRule[]	条件に基づくルールを定義するリスト。
	CampaignOwnerSharingRule[]	所有者に基づくルールを定義するリスト。

CaseSharingRules

ケースの共有ルールを表します。SharingRules メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

項目	データ型	説明
	CaseCriteriaBasedSharingRule[]	条件に基づくルールを定義するリスト。
	CaseOwnerSharingRule[]	所有者に基づくルールを定義するリスト。

ContactSharingRules

取引先責任者の共有ルールを表します。SharingRules メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

項目	データ型	説明
	ContactCriteriaBasedSharingRule[]	条件に基づくルールを定義するリスト。
	ContactOwnerSharingRule[]	所有者に基づくルールを定義するリスト。

LeadSharingRules

リードの共有ルールを表します。SharingRules メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

項目	データ型	説明
	LeadCriteriaBasedSharingRule[]	条件に基づくルールを定義するリスト。
	LeadOwnerSharingRule[]	所有者に基づくルールを定義するリスト。

OpportunitySharingRules

商談の共有ルールを表します。[SharingRules](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

項目	データ型	説明
	OpportunityCriteriaBasedSharingRule[]	条件に基づくルールを定義するリスト。
	OpportunityOwnerSharingRule[]	所有者に基づくルールを定義するリスト。

AccountTerritorySharingRules

取引先テリトリーの共有ルールを表します。[SharingRules](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

項目	データ型	説明
	AccountTerritorySharingRule[]	所有者に基づくルールを定義するリスト。 項目の許容値のリストは次のとおりです。 ・ ・

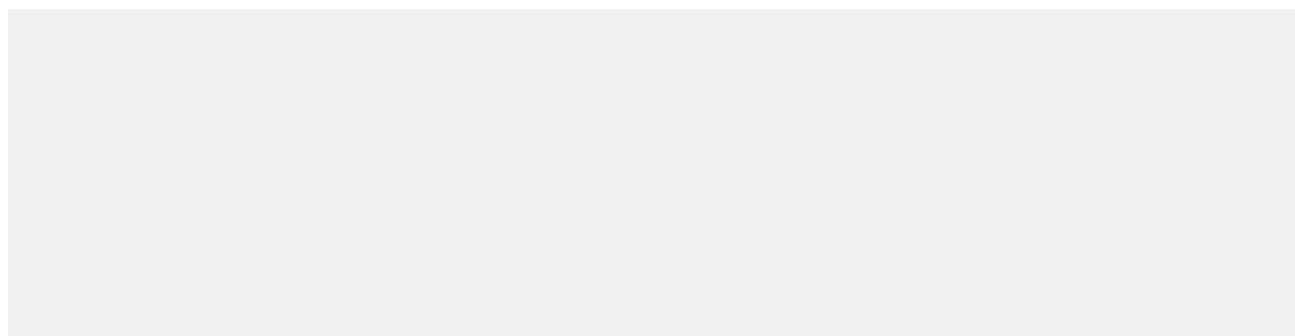
CustomObjectSharingRules

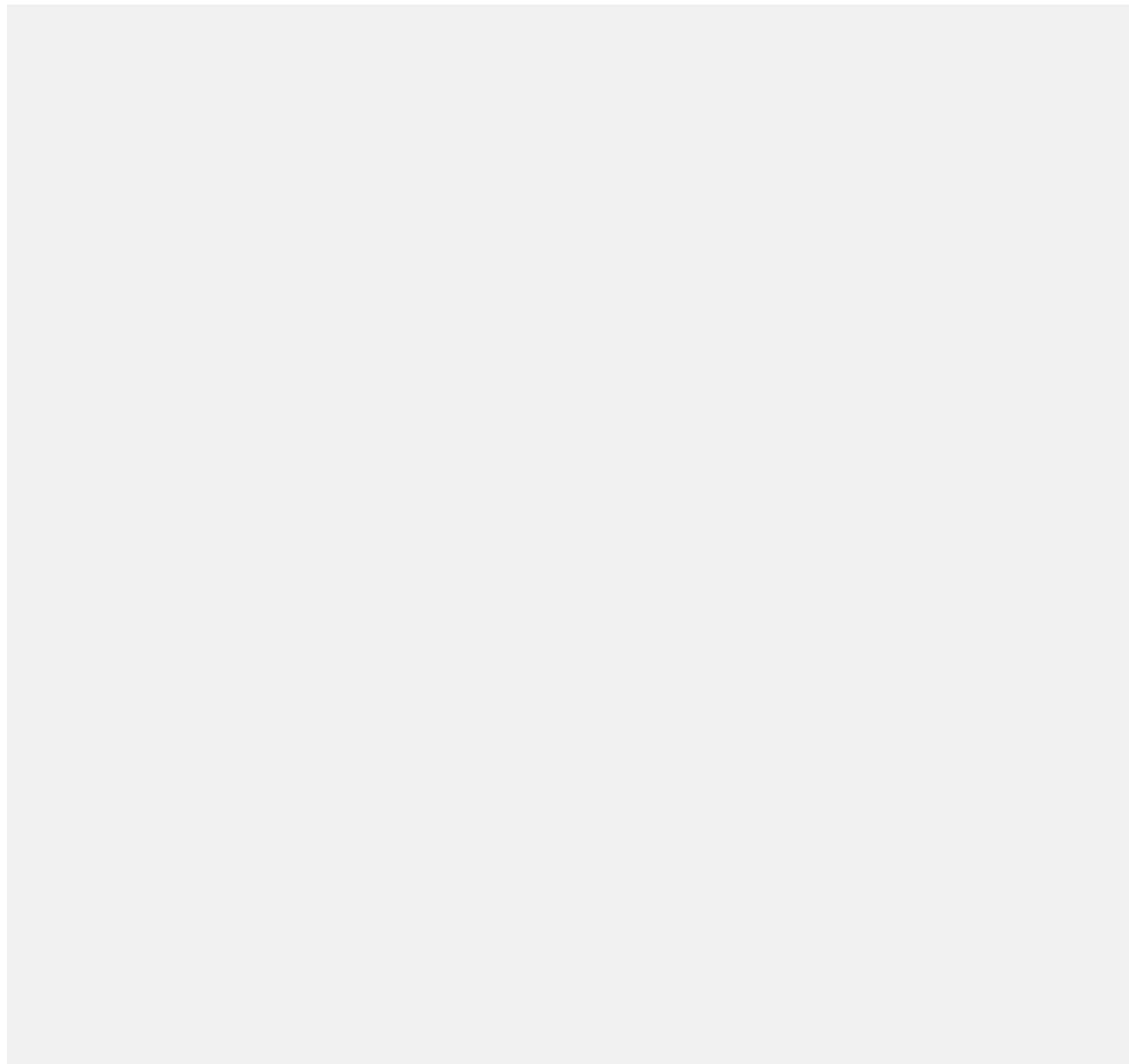
カスタムオブジェクトの共有ルールを表します。[SharingRules](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

項目	データ型	説明
	CustomObjectCriteriaBasedSharingRule[]	条件に基づくルールを定義するリスト。
	CustomObjectOwnerSharingRule[]	所有者に基づくルールを定義するリスト。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

2 つの取引先所有者に基づく共有ルールの定義を次に示します。ファイル名は、accountSharingRules ディレクトリ下の Account.sharingRules ファイルに対応します。この定義では、ownerRules が [AccountOwnerSharingRule](#) に対応します。





BaseSharingRule

条件に基づく共有ルールおよび所有者に基づく共有ルールの基本コンテナを表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。



メモ: BaseSharingRule コンポーネントを直接作成することはできません。代わりに、[CriteriaBasedSharingRule](#) または [OwnerSharingRule](#) メタデータ型でコンポーネントを使用します。

バージョン

BaseSharingRule コンポーネントは、API バージョン 24.0 以降で使用できます。

項目

これらの項目についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「共有設定の概要」を参照してください。

項目	データ型	説明
	SharedTo	必須。レコードを共有するユーザを指定します。
	string	API アクセスの一意的識別子。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。

CriteriaBasedSharingRule

条件に基づく共有ルールを表します。CriteriaBasedSharingRule を使用すると、特定の条件に基づいたレコードの共有を行えます。[BaseSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「条件に基づく共有ルールの概要」を参照してください。



メモ: CriteriaBasedSharingRule コンポーネントを直接作成することはできません。代わりに子コンポーネントを使用してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場合

CriteriaBasedSharingRule コンポーネントは、項目のコンポーネント内に保存されます。

バージョン

CriteriaBasedSharingRule コンポーネントは、API バージョン 24.0 以降で使用できます。

項目

次の情報は、標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの共有ルールの実装を理解していることを前提としています。これらの項目についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「共有設定の概要」を参照してください。

項目	データ型	説明
	FilterItem[]	共有ルールの条件を表すリスト。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • •

AccountCriteriaBasedSharingRule

取引先の条件に基づく共有ルールを表します。[CriteriaBasedSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

[AccountCriteriaBasedSharingRule](#) は、[AccountSharingRules](#) の項目によって使用されます。

項目	データ型	説明
	ShareAccessLevelNoNone	必須。ユーザまたはグループが取引先に対して持つアクセスレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・ ・
	string	共有ルールの検索条件ロジックを表します。
	ShareAccessLevelNoAll	必須。ユーザまたはグループが取引先に関連付けられたケースに対して持つアクセスレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・ ・
	ShareAccessLevelNoAll	必須。ユーザまたはグループが取引先に関連付けられた取引先責任者に対して持つアクセスレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・ ・
	string	必須。共有ルールの名前。ユーザインターフェースの [表示ラベル] に対応します。
	ShareAccessLevelNoAll	必須。ターゲットグループに許可される、関連付けられた商談に対するアクセスレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・ ・

CampaignCriteriaBasedSharingRule

キャンペーンの条件に基づく共有ルールを表します。[CriteriaBasedSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

[CampaignCriteriaBasedSharingRule](#) は、[CampaignSharingRules](#) の項目によって使用されます。

項目	データ型	説明
	string	共有ルールの検索条件ロジックを表します。
	ShareAccessLevelNoNone	必須。ターゲットグループに許可される、キャンペーンに対するアクセスレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・ ・
	string	必須。共有ルールの名前。ユーザインターフェースの [表示ラベル] に対応します。

CaseCriteriaBasedSharingRule

ケースの条件に基づく共有ルールを表します。[CriteriaBasedSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

CaseCriteriaBasedSharingRule は、[CaseSharingRules](#) の項目によって使用されます。

項目	データ型	説明
	string	共有ルールの検索条件ロジックを表します。
	ShareAccessLevelReadEdit	必須。許可されるケースに対するアクセスレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・
	string	必須。共有ルールの名前。ユーザインターフェースの [表示ラベル] に対応します。

ContactCriteriaBasedSharingRule

取引先責任者の条件に基づく共有ルールを表します。[CriteriaBasedSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

ContactCriteriaBasedSharingRule は、[ContactSharingRules](#) の項目によって使用されます。

項目	データ型	説明
	string	共有ルールの検索条件ロジックを表します。
	ShareAccessLevelReadEdit	必須。ターゲットグループ、ロール、またはユーザに許可される取引先責任者に対するアクセスレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・

項目	データ型	説明
	string	必須。共有ルールの名前。ユーザインターフェースの [表示ラベル] に対応します。

LeadCriteriaBasedSharingRule

リードの条件に基づく共有ルールを表します。[CriteriaBasedSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

LeadCriteriaBasedSharingRule は、[LeadSharingRules](#) の項目によって使用されます。

項目	データ型	説明
	string	共有ルールの検索条件ロジックを表します。
	ShareAccessLevelReadEdit	必須。許可されるアクセスレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・
	string	必須。共有ルールの名前。ユーザインターフェースの [表示ラベル] に対応します。

OpportunityCriteriaBasedSharingRule

商談の条件に基づく共有ルールを表します。[CriteriaBasedSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

OpportunityCriteriaBasedSharingRule は、[OpportunitySharingRules](#) の項目によって使用されます。

項目	データ型	説明
	string	共有ルールの検索条件ロジックを表します。
	ShareAccessLevelReadEdit	必須。許可されるアクセスレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・
	string	必須。共有ルールの名前。ユーザインターフェースの [表示ラベル] に対応します。

CustomObjectCriteriaBasedSharingRule

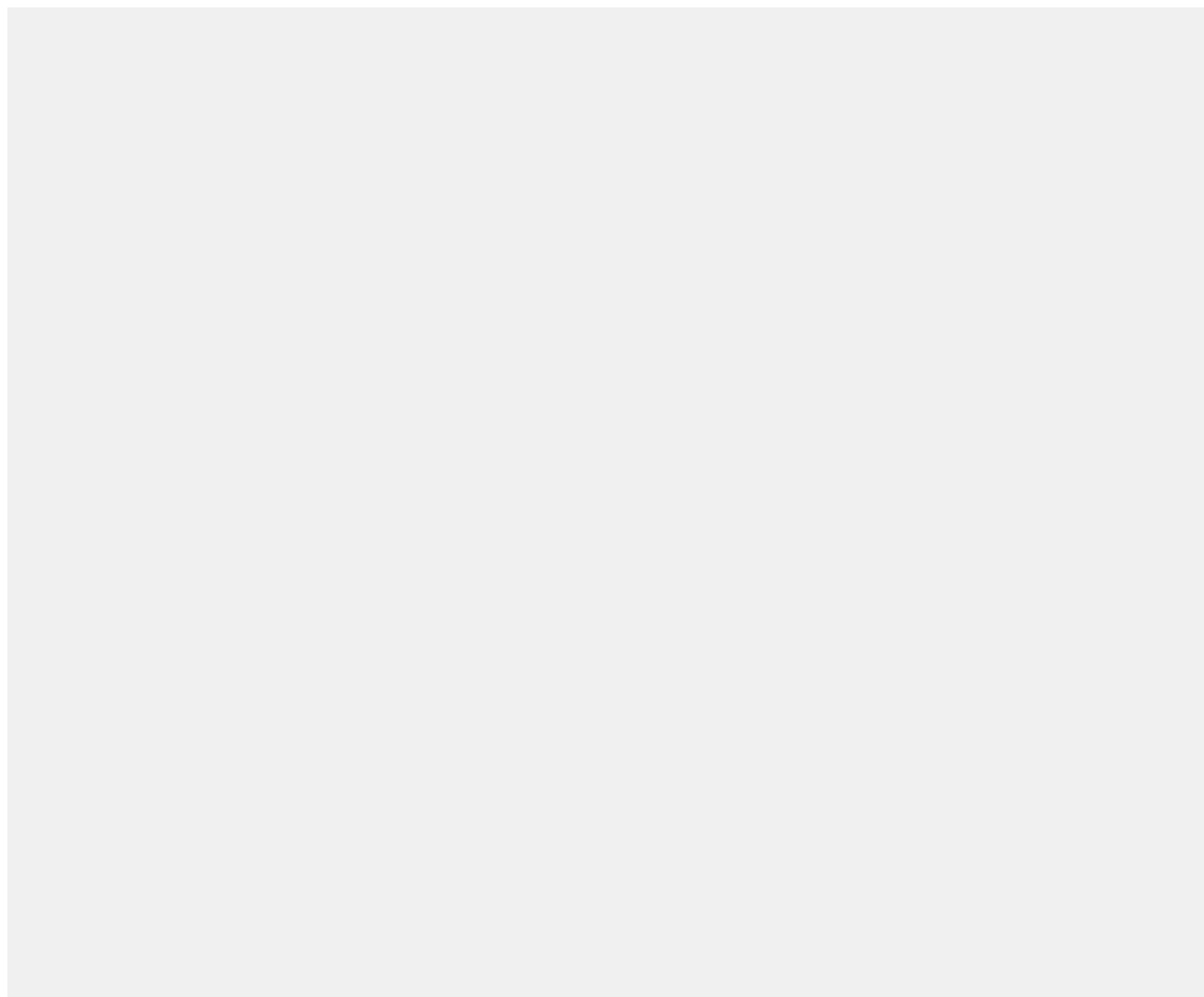
カスタムオブジェクトの条件に基づく共有ルールを表します。[CriteriaBasedSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

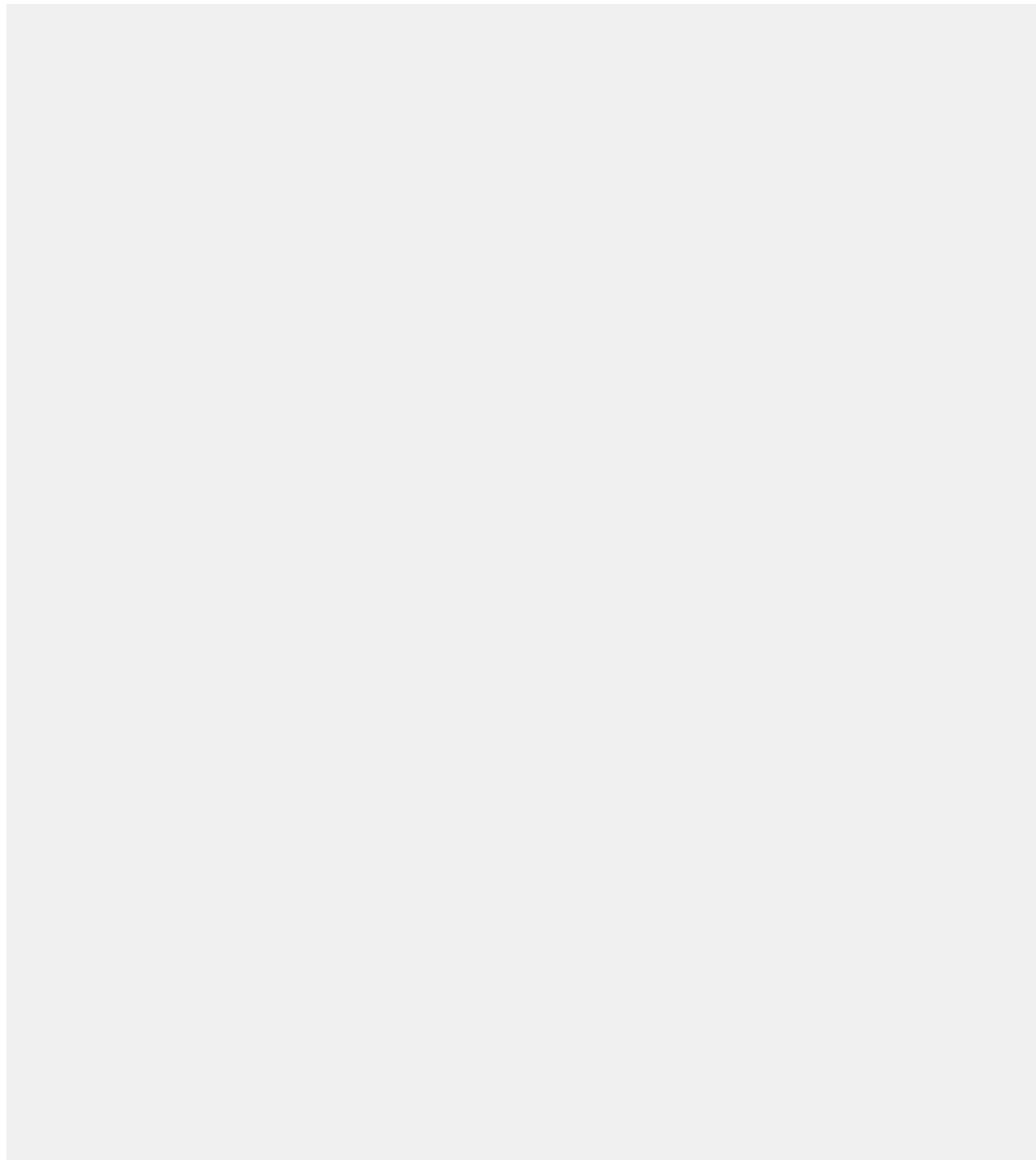
CustomObjectCriteriaBasedSharingRule は、[CustomObjectSharingRules](#) の項目によって使用されます。

項目	データ型	説明
	string	必須。使用できる共有の種類を表す値。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">•••
	string	共有ルールの検索条件ロジックを表します。
	string	必須。共有ルールの名前。ユーザインターフェースの [表示ラベル] に対応します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

2つの所有者に基づく共有ルールと、2つの条件項目を含む1つの条件に基づく共有ルールの定義を次に示します。ファイル名は、accountSharingRules ディレクトリの下の Account.sharingRules ファイルに対応します。





OwnerSharingRule

所有権ベースの共有ルールを表します。OwnerSharingRuleを使用すると、対象のユーザグループのアクセスレベルを指定するルールを使用して、あるユーザのセットが所有するレコードを他のユーザのセットと共有すること

ができます。[BaseSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その SharedTo 項目を継承します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「共有ルールの概要」を参照してください。



メモ: OwnerSharingRule コンポーネントを直接作成することはできません。代わりに子コンポーネントを使用してください。

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場合

OwnerSharingRules コンポーネントは 項目の コンポーネント内に保存されます。

バージョン

OwnerSharingRules コンポーネントは、API バージョン 24.0 以降で使用できます。

項目

次の情報は、標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの共有ルールの実装を理解していることを前提としています。これらの項目についての詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「共有設定の概要」を参照してください。

項目	データ型	説明
	SharedTo	必須。レコードの所有者を指定します。
	SharedTo	必須。レコードを共有するユーザを指定します。
	string	API アクセスの一意の識別子。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。

AccountOwnerSharingRule

所有者以外のユーザと取引先を共有するためのルールを表します。これは、[OwnerSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その 項目、 項目、および 項目を継承します。

AccountOwnerSharingRule は [AccountSharingRules](#) の 項目で使用されます。次の項目はすべて必須項目です。

項目	データ型	説明
	ShareAccessLevelNoNone	グループまたはロールが取引先に対して持つアクセス権のレベルを表す値。値は次のとおりです。 . . .

項目	データ型	説明
	ShareAccessLevelNoAll	グループまたはロールが取引先に関連付けられたケースに対して持つアクセス権のレベルを表す値。値は次のとおりです。 . . .
	ShareAccessLevelNoAll	グループまたはロールが取引先に関連付けられた取引先責任者に対して持つアクセス権のレベルを表す値。値は次のとおりです。 . . .
	string	共有ルールの名前。ユーザインターフェースの[表示ラベル]に対応します。
	ShareAccessLevelNoAll	関連付けられた任意の商談に対してグループまたはロールに許可されているアクセス権のレベルを表す値。値は次のとおりです。 . . .

CampaignOwnerSharingRule

所有者以外のユーザとキャンペーンを共有するためのルールを表します。これは、[OwnerSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その [項目](#)、[項目](#)、および [項目](#) を継承します。

CampaignOwnerSharingRule は [CampaignSharingRules](#) の [項目](#) で使用されます。次の項目はすべて必須項目です。

項目	データ型	説明
	ShareAccessLevelNoNone	キャンペーンに対してグループまたはロールに許可されているアクセス権のレベルを表す値。値は次のとおりです。 . . .
	string	共有ルールの名前。ユーザインターフェースの[表示ラベル]に対応します。

CaseOwnerSharingRule

所有者以外のユーザとケースを共有するためのルールを表します。これは、

項目	データ型	説明
	ShareAccessLevelNoAll	取引先のすべての子ケースに対して Territory または TerritoryAndSubordinates グループに許可されているアクセス権のレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・ ・
	ShareAccessLevelNoAll	取引先のすべての関連取引先責任者に対して Territory または TerritoryAndSubordinates グループに許可されているアクセス権のレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・ ・
	string	共有ルールの名前。ユーザインターフェースの[表示ラベル]に対応します。
	ShareAccessLevelNoAll	取引先に関連付けられたすべての商談に対して Territory または TerritoryAndSubordinates グループに許可されているアクセス権のレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・ ・

CustomObjectOwnerSharingRule

カスタムオブジェクトの共有ルールを表します。これは、[OwnerSharingRule](#) メタデータ型を拡張し、その項目、項目、および項目を継承します。

CustomObjectOwnerSharingRule は [CustomObjectSharingRules](#) の項目で使用されます。次の項目はすべて必須項目です。

項目	データ型	説明
	string	カスタムオブジェクトに対してグループまたはロールに許可されているアクセス権のレベルを表す値。値は次のとおりです。 ・ ・ ・
	string	共有ルールの名前。ユーザインターフェースの[表示ラベル]に対応します。

Skill

スキル名や、スキルを割り当てるエージェントなど、Live Agent でエージェントにチャットを転送するために使用するスキルの設定を表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

Skill の値は、ディレクトリのファイルに保存されます。

バージョン

Skill は、API バージョン 28.0 以降で使用できます。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	SkillAssignments	Live Agent ユーザへのスキルの割り当て方法を指定します。スキルは、ユーザセットまたはプロファイルセットに割り当てることができます。
	string	スキルの名前を指定します。

SkillAssignments

特定のスキルを割り当てるユーザおよびユーザプロファイルを表します。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	SkillProfileAssignments	特定のスキルに関連付けられたプロファイルを指定します。
	SkillUserAssignments	特定のスキルに関連付けられたユーザを指定します。

SkillProfileAssignments

特定のスキルに関連付けられたプロファイルを表します。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	特定のスキルに関連付けられたプロファイルのカスタム名を指定します。

SkillUserAssignments

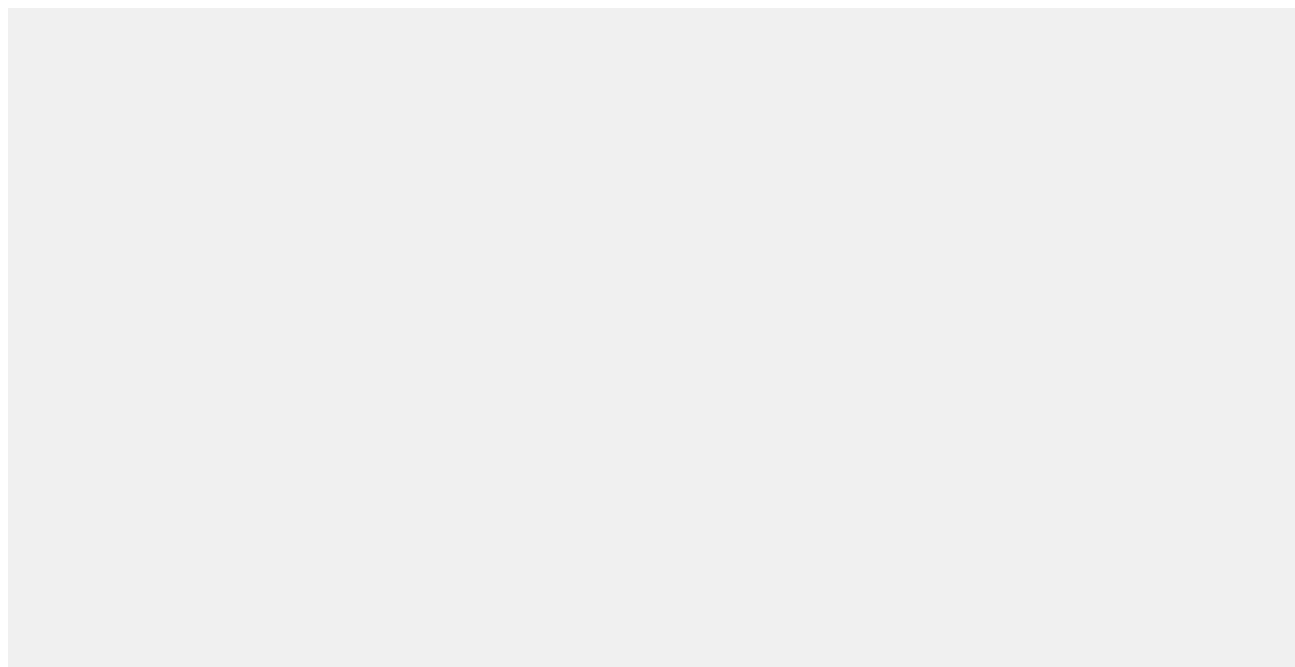
特定のスキルに関連付けられたユーザを表します。

項目

項目名	項目のデータ型	説明
	string	特定のスキルに関連付けられたユーザのユーザ名を指定します。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

これは、 ファイルのサンプルです。



StaticResource

静的リソースファイルを表します。多くの場合は、ZIPファイル内のコードライブラリです。このメタデータ型は、[MetadataWithContent](#) コンポーネントを拡張し、その項目を共有します。

静的リソースにより、アーカイブ (.zip や .jar ファイルなど)、画像、スタイルシート、JavaScript、その他のファイルなど、Visualforce ページ内で参照できるコンテンツをアップロードできます。

ファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

テンプレートファイルのファイルサフィックスは です。付随するメタデータファイルには、
resource という名前が付けられます。

静的リソースコンポーネントは、対応するパッケージディレクトリの

フォルダに保存されま

す。

バージョン

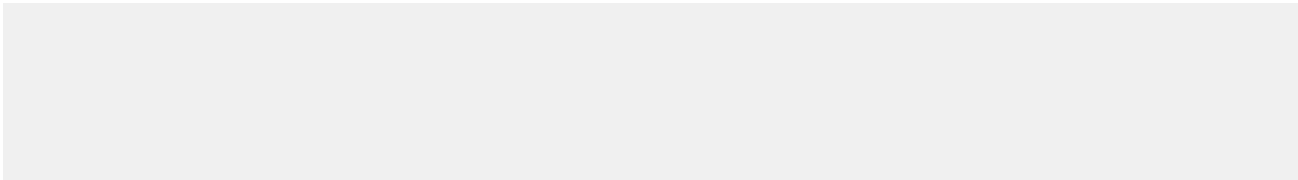
静的リソースは、API バージョン 12.0 以降で使用できます。

項目

このメタデータ型には、次の項目が含まれます。

項目名	データ型	説明
	StaticResourceCacheControl (string 型の 列挙)	必須。サードパーティ配信クライアントがコンテンツをキャッシュできるように、静的リソースが公開キャッシュタグでマークされているかどうかを示します。これは、API バージョン 14.0 の新項目です。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Private• Public
	base64Binary	静的リソースコンテンツ。Base 64 で符号化されたバイナリデータ API コールを行う前に、クライアントアプリケーションはバイナリ添付データを base64 に符号化する必要があります。応答を受信したら、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリに復号化する必要があります。この変換は、通常 SOAP クライアントによって処理されます。この項目は、 MetadataWithContent コンポーネントから継承されます。
	string	必須。ファイルのコンテンツタイプ。たとえば、text/plain などです。
	string	静的リソースの説明。
	string	静的リソース名。名前には、英数字、およびアンダースコア(_)文字のみを使用できます。また、最初は文字とし、最後にアンダースコアを使用したり、連続した 2 つのアンダースコア文字を含めたりすることはできません。 この項目は Metadata コンポーネントから継承するため、この項目はこのコンポーネントの WSDL で定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 こちら を参照してください。

宣言的なメタデータの定義のサンプル



Translations

このメタデータ型を使用して、さまざまな使用言語の翻訳を処理できます。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。コンポーネントの表示ラベルを翻訳する機能は、トランスレーションワークベンチの一部です。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「トランスレーションワークベンチの設定」を参照してください。

言語

Salesforce.com では、完全サポート対象言語、エンドユーザ言語、プラットフォーム専用言語の3つのレベルの言語サポートが提供されています。すべての言語は、2文字の言語コード(など)または5文字のロケールコード(en_AU など)で識別されます。

Salesforce では、次の言語を完全にサポートしています。

- 中国語 (簡体字):
- 中国語 (繁体字):
- デンマーク語:
- オランダ語:
- 英語:
- フィンランド語:
- フランス語:
- ドイツ語:
- イタリア語:
- 日本語:
- 韓国語:
- ポルトガル語 (ブラジル):
- ロシア語:
- スペイン語:
- スウェーデン語:
- タイ語: *

* Salesforce インターフェースが完全にタイ語に翻訳されている場合でも、ヘルプは英語のままです。

Salesforce は、次のエンドユーザ言語をサポートしていますが、管理ページとオンラインヘルプは翻訳されていません。

- アラビア語:
- ブルガリア語:
- チェコ語:
- 英語 (UK):

- ギリシャ語:
- スペイン語 (メキシコ):
- ヘブライ語:
- ハンガリー語:
- インドネシア語:
- ノルウェー語:
- ポーランド語:
- ルーマニア語:
- トルコ語:
- ウクライナ語:
- ベトナム語:

プラットフォーム専用言語は、Salesforce プラットフォーム上で作成したカスタム機能（アプリケーション）をローカライズする場合に使用します。プラットフォーム専用言語を選択すると、Salesforce ではすべてのカスタムオブジェクトおよび項目の表示ラベルの翻訳が選択した言語で提供されます。

- アルバニア語:
- アルメニア語:
- バスク語:
- ボスニア語:
- クロアチア語:
- 英語 (オーストラリア):
- 英語 (カナダ):
- 英語 (インド):
- 英語 (マレーシア):
- 英語 (フィリピン):
- エストニア語:
- フランス語 (カナダ):
- グルジア語:
- ヒンドゥー語:
- アイスランド語:
- アイルランド語:
- ラトビア語:
- リトアニア語:
- ルクセンブルク語:
- マケドニア語:
- マレー語 :
- マルタ語:
- モルドバ語:
- モンテネグロ語:
- ポルトガル語 (ヨーロッパ):
- ロマンシュ語:
- セルビア語 (キリル文字):

- セルビア語 (ラテン文字):
- スロバキア語:
- スロベニア語:
- タガログ語:
- ウルドゥー語:
- ウェールズ語:

宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

翻訳は `localeCode` の形式でファイルに保存されます。 `localeCode` は、翻訳言語のロケールコードです。たとえば、ドイツ語翻訳のファイル名は です。サポートされるロケールコードのリストは、「言語」に示しています。

カスタムオブジェクトの翻訳は、対応するパッケージディレクトリの フォルダに保存されます。

バージョン

Translations コンポーネントは、API バージョン 14.0 以降で使用できます。

項目

項目	データ型	説明
	CustomApplicationTranslation[]	カスタムアプリケーション翻訳のリスト。
	CustomLabelTranslation[]	カスタム表示ラベル翻訳のリスト。
	CustomPageWebLinkTranslation[]	ホームページコンポーネントで定義された Web リンクの翻訳のリスト。
	CustomTabTranslation[]	カスタムタブ翻訳のリスト。
	string	必須。言語コード。たとえば、ドイツ語の場合は です。 Metadata から継承されるこの項目は、このメタデータ型の WSDL では定義されません。作成時、更新時、または削除時に指定する必要があります。コールにおけるこの項目の例を確認するには、 を参照してください。
	ReportTypeTranslation[]	レポートタイプ翻訳のリスト。
	ScontrolTranslation[]	Sコントロール翻訳のリスト。

CustomApplicationTranslation

CustomApplicationTranslation には、カスタムアプリケーション翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[CustomApplication](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。翻訳されたカスタムアプリケーション名。最大 765 文字です。
	string	必須。カスタムアプリケーションの名前。

CustomLabelTranslation

CustomLabelTranslation には、カスタム表示ラベル翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[CustomLabels](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。翻訳されたカスタム表示ラベル名。最大 765 文字です。
	string	必須。カスタム表示ラベル名。

CustomPageWebLinkTranslation

CustomPageWebLinkTranslation には、ホームページコンポーネントで定義された Web リンクの翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[CustomPageWebLink](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。翻訳された Web リンク。
	string	必須。Web リンクの名前。

CustomTabTranslation

CustomTabTranslation にはカスタムタブの翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[CustomTab](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。翻訳されたカスタムタブ名。
	string	必須。カスタムタブ名。

ReportTypeTranslation

ReportTypeTranslation にはカスタムレポートタイプの翻訳の詳細が含まれます。詳細は、「[ReportType](#)」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	翻訳されたレポートタイプの説明。
	string	翻訳されたレポートタイプ名。

項目	データ型	説明
	string	必須。レポートタイプの名前。
	ReportTypeSectionTranslation[]	レポートタイプセクションの翻訳のリスト。

ReportTypeSectionTranslation

ReportTypeSectionTranslation には、レポートタイプセクションの翻訳の詳細が含まれます。

項目	データ型	説明
	ReportTypeColumnTranslation[]	レポートタイプ列翻訳のリスト。
	string	翻訳されたレポートタイプセクション名。
	string	必須。レポートタイプセクションの名前。

ReportTypeColumnTranslation

ReportTypeColumnTranslation には、レポートタイプ列翻訳の詳細が含まれます。

項目	データ型	説明
	string	必須。翻訳されたレポートタイプ列名。
	string	必須。レポートタイプ列名。

ScontrolTranslation



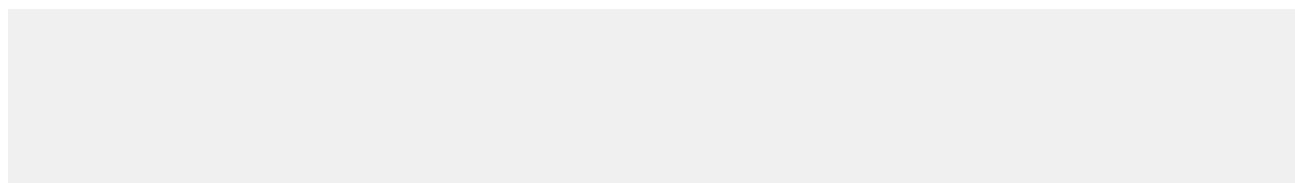
重要: Sコントロールは、Visualforce ページに置き換えられました。組織で以前に Sコントロールを使用していない場合は、作成できません。既存の Sコントロールに影響はありません。今後も編集できます。

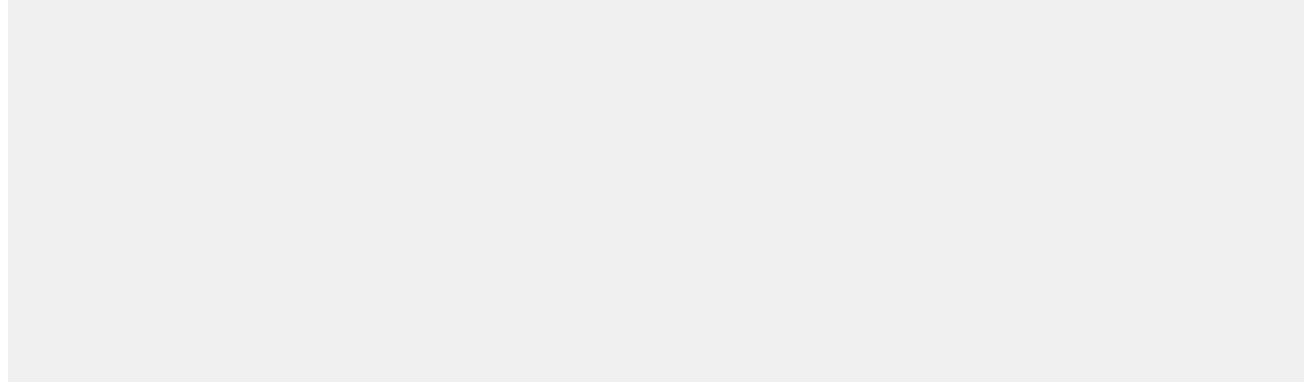
ScontrolTranslation には、Sコントロールの翻訳の詳細が含まれます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「Sコントロールについて」を参照してください。

項目	データ型	説明
	string	必須。翻訳された Sコントロール名。
	string	必須。Sコントロールの名前。

宣言的なメタデータの定義のサンプル

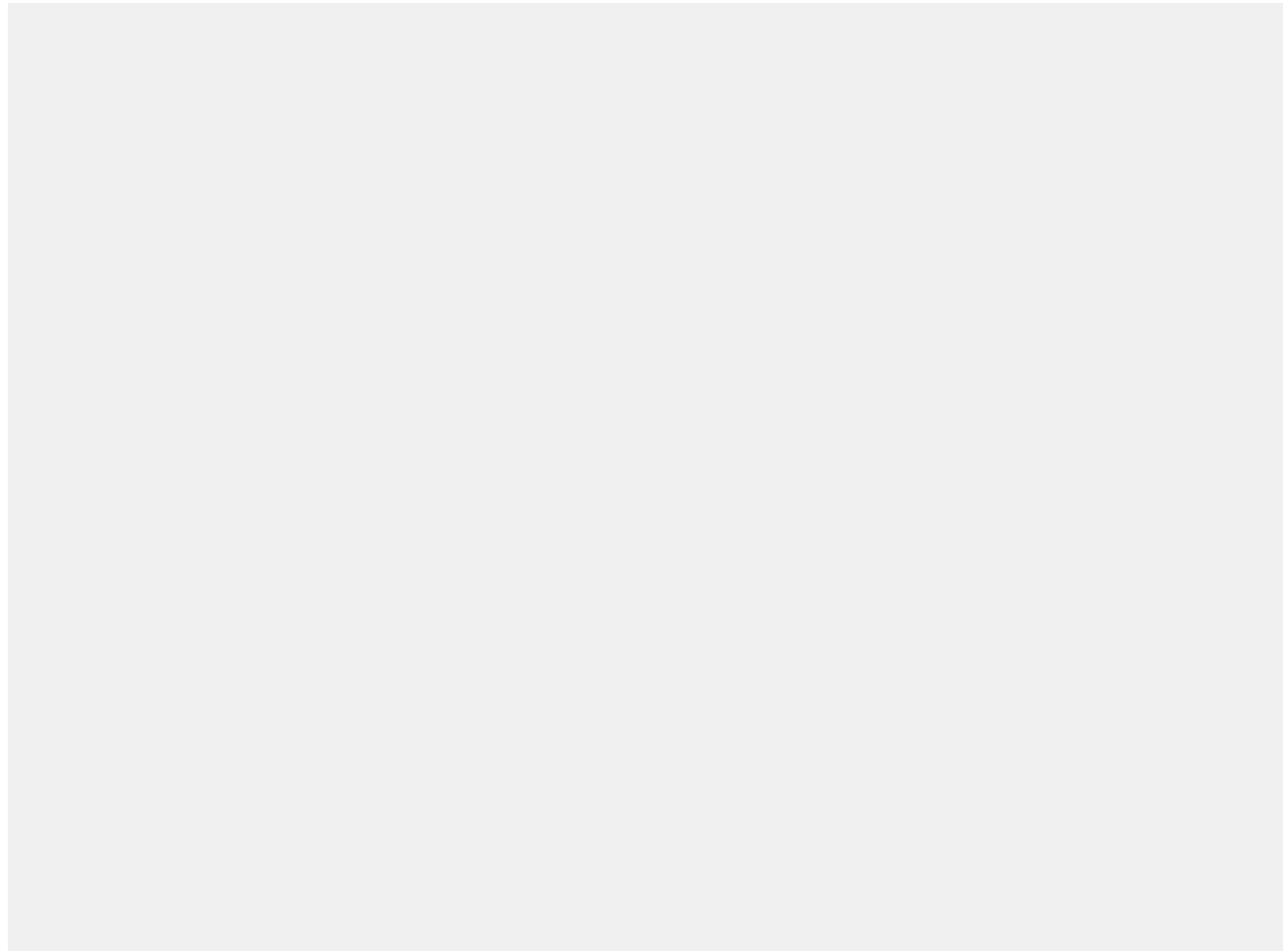
翻訳コンポーネントの XML 定義のサンプルを以下に示します。

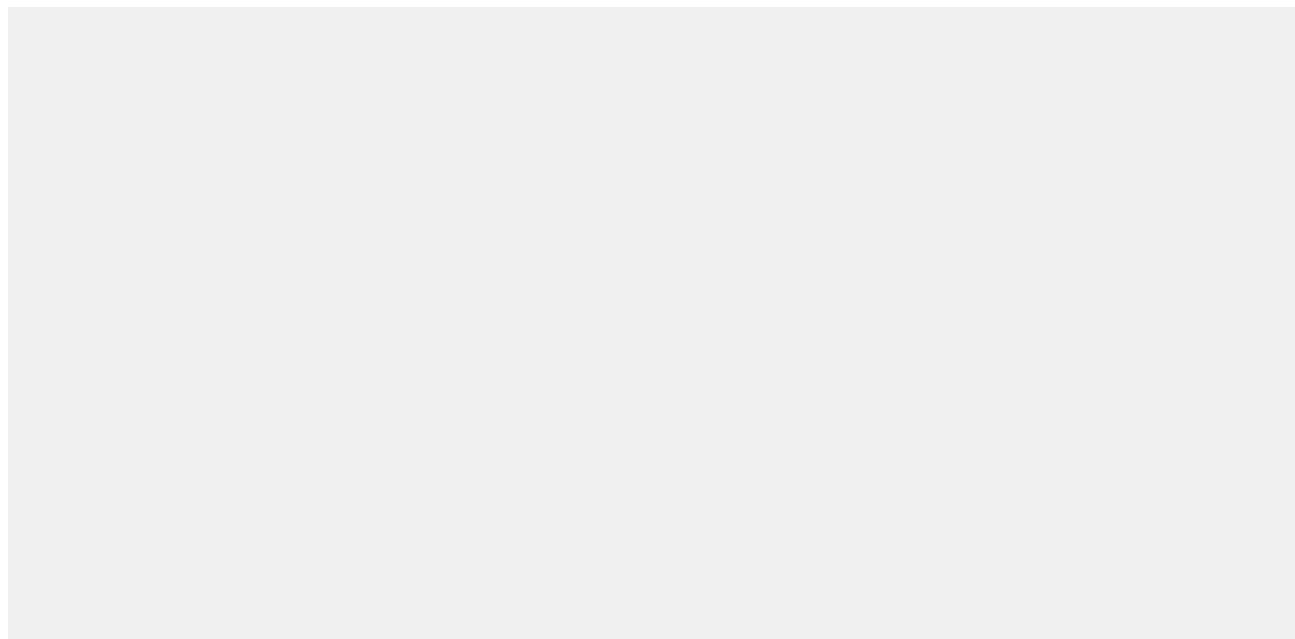




使用方法

コールを使用して組織内の翻訳を取得する場合、フォルダ内に返されるファイルには、で参照されている他のメタデータ型の翻訳のみが含まれます。たとえば、次のファイルには、すべてのカスタムアプリケーション、カスタム表示ラベル、ホームページコンポーネントで定義された Web リンク、カスタムタブ、レポートタイプ、および Sコントロールに一致する要素が含まれます。各メタデータ型は明示的ににリストされているため、これらすべてのメタデータ型の翻訳が返されます。





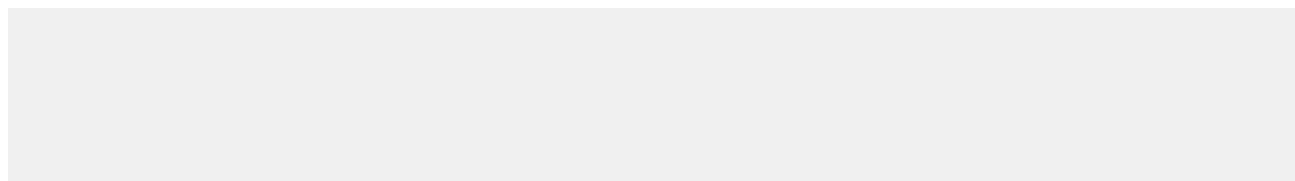
関連リンク

[CustomLabels](#)

Workflow

ワークフロールールに関連付けられたメタデータを表します。ワークフロールールは、指定された条件に該当するときに、ワークフローアクションを実行します。ワークフローアクションは、ワークフロールールで指定された条件をレコードが満たすとただちに実行するか、タイムトリガを設定して特定の日に実行するように設定することができます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「ワークフローと承認申請の概要」を参照してください。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。ワークフロールール定義の作成、更新、または削除にはこのメタデータ型を使用します。

マニフェストファイルを使用する場合、次のコードを使用してすべてのワークフローコンポーネントを取得します。



宣言的なメタデータファイルのサフィックスおよびディレクトリの場所

ワークフローファイルのファイルサフィックスは `.workflow` です。ワークフローを持つ標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトごとに 1 つのファイルがあり、ワークフローは対応するパッケージのディレクトリに保存されます。

バージョン

ワークフロールールは、API バージョン 13.0 以降で使用できます。

Workflow

このメタデータ型は、標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに関連付けられたワークフロールールおよびアクションの有効な型を表します。

項目名	データ型	説明
	WorkflowAlert[]	ワークフローに関連付けられたオブジェクトに関するすべてのアラートの配列。
	WorkflowFieldUpdate[]	ワークフローに関連付けられたオブジェクトに関するすべての項目自動更新の配列。
	string	API アクセスの一意の識別子として使用される開発者名。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	WorkflowKnowledgePublish[]	ワークフローに関連付けられている Salesforce ナレッジワークフロー公開の配列。API バージョン 27.0 以降で利用できます。
	WorkflowOutboundMessage[]	ワークフローに関連付けられたオブジェクトに関するすべてのアウトバウンドメッセージの配列。
	WorkflowRule[]	ワークフローに関連付けられてたすべてのオブジェクトの配列。
	WorkflowTask[]	ワークフローに関連付けられたオブジェクトに関するすべての ToDo の配列。

WorkflowActionReference

WorkflowActionReference は、4 つのワークフローアクションのいずれかを表します。

項目名	データ型	説明
	string	必須。ワークフローアクションの名前。
	WorkflowActionType (string 型の 列挙)	必須。次の 4 種類のワークフローアクションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • • • •

WorkflowAlert

WorkflowAlert は、ワークフロールールに関連付けられたメールアラートを表します。

項目名	データ型	説明
	string[]	追加の CC メールアドレス。
	string	必須。メールアラートの説明。API バージョン 16.0 以降で利用できます。
	string	必須。API アクセスの一意の識別子として使用される開発者名。には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	boolean	必須。このコンポーネントが保護されるか()、否か()を示します。保護コンポーネントは、インストールする組織で作成されたコンポーネントによってリンク設定したり参照したりすることはできません。
	WorkflowEmailRecipient []	メールの受信者。
	string	メールアラートの[送信者]項目のアドレス。デフォルトの[送信者]項目(レコードを更新したユーザのメールアドレス)の代わりに、組織の標準のグローバルメールアドレス()など)を使用できます。がに設定されている場合にのみ、この項目に値を指定できます。Salesforce オンラインヘルプの「組織の共有アドレス」を参照してください。
	ActionEmailSenderType (string 型の 列挙)	送信者の送信者および返信先アドレスとして使用されるメール。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> — レコードを更新するユーザのメールアドレス。これは、デフォルト設定です。 — デフォルトワークフローユーザのメールアドレス。 — など、組織の検証済みグローバルメールアドレス。
	string	必須。EmailTemplate への名前指定参照。このメールテンプレートは zip ファイル内に存在する必要は

項目名	データ型	説明
		ありませんが、メタデータ API には存在する必要があります。

WorkflowEmailRecipient

WorkflowEmailRecipient は、ワークフロールールに関連付けられたメールアラートの受信者を表します。

項目名	データ型	説明
	string	で参照される項目の名前。名前を指定した項目は、で指定されている型である必要があります。
	string	メールの受信者。選択した型に応じて、必須になる場合があります。
	ActionEmailRecipientTypes (string 型の 列挙)	<p>EmailTemplate コンポーネントへの名前指定参照。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - メールはレコードの取引先所有者に送信されます (商談の取引先所有者など)。 - Account オブジェクトのみに適用されます。メールはその Account の取引先チーム全員に送信されます。 - 取引先責任者がキャンペーンに追加された場合、またはキャンペーンに応じて、メールがリードおよび取引先責任者所有者に送信されます。 - メールは、レコードの項目から検索された値を含む取引先責任者に送信されます。この値では、項目が Contact を参照する必要があります。 - メールはレコードの作成者に送信されます。 - メールは特定のセルフサービスポータルユーザに送信されます。この値では、recipient 項目が User を (ユーザ名で) 参照する必要があります。セルフサービスポータルユーザのみが対象です。 - メールはレコードの項目から検索された値を含むメールアドレスに送信されます。この値では、項目が email 項目を参照する必要があります。 - メールはグループ内の全ユーザに送信されます。この値では、recipient 項目が group を (グループ名で) 参照する必要があります。

項目名	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> - Opportunity オブジェクトのみに適用されます。メールはその Opportunity の商談チーム全員に送信されます。 - メールはレコードの所有者に送信されます。 - メールは特定のパートナーユーザに送信されます。この値では、recipient 項目が User を (ユーザ名で) 参照する必要があります。パートナーユーザのみが対象です。 - と似ていますが、ポータルロールのみが対象となります。 - と似ていますが、ポータルロールのみが対象となります。 - メールはロールの全ユーザに送信されます。この値では、recipient 項目が (ロール階層内の) Role を (ロール名で) 参照する必要があります。 - メールは下位ロールの全ユーザに送信されます。この値では、recipient 項目が Role を参照する必要があります。 - と似ていますが、内部ポータルロールのみが対象となります。 - メールは特定のユーザに送信されます。この値では、recipient 項目が User を (ユーザ名で) 参照する必要があります。 - メールはレコードの項目から検索された値を含むユーザに送信されます。この値では、項目がユーザの外部キー項目を参照する必要があります。

WorkflowFieldUpdate

WorkflowFieldUpdate は、ワークフローの項目自動更新を表します。項目自動更新を使用すると、ワークフロールールがトリガされたときに、自動的に項目値を指定した値に更新できます。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「項目自動更新の定義」を参照してください。

項目名	データ型	説明
	string	項目自動更新の説明。この情報は、項目自動更新を最初に設定したときの理由を追跡するのに役立ちます。
	string	必須。更新する項目 (ワークフローのオブジェクト上の)。

項目名	データ型	説明
	string	項目値が の場合、これは新しい項目値の計算に使用される数式に設定されます。
	string	必須。API アクセスの一意の識別子として使用される開発者名。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2 つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	string	項目値が の場合、これは項目のリテラル値です。
	string	項目値が の場合、これは参照されるルックアップ値です。
	LookupValueType (string 型の 列挙)	項目値が参照するオブジェクトの種別。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • • •
	string	必須。コンポーネントの名前。API バージョン 16.0 以降で使用できます。
	boolean	必須。項目が更新された場合に割り当て先に通知します。
	FieldUpdateOperation (string 型の 列挙)	必須。項目の更新に使用される値を計算する操作。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • - 項目が数式に設定されることを示します。設定されている場合、数式は有効な数式である必要があります。 • - 項目がリテラル値に設定されることを示します。設定されている場合、literalValue はこの項目にとって有効なリテラル値である必要があります。 • - Literal と似ていますが、contact、user、account などの、オブジェクト参照用です。設定されている場合、 要素を設定する必要があります。現在の API では User のみがサポートされています。 • - 項目が次の値に設定されることを示します。これは、項目自動更新が選択リストを参照する場合にのみ許可されます。 • - 項目が null に設定されることを示します。

項目名	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> - 項目が前の値に設定されることを示します。これは、項目自動更新が選択リストを参照する場合にのみ許可されます。
	boolean	必須。このコンポーネントが保護されるか()、否か()を示します。保護コンポーネントは、インストールする組織で作成されたコンポーネントによってリンク設定したり参照したりすることはできません。
	boolean	<p>この項目が true に設定されているときにこの項目が項目の値を更新すると、関連付けられたオブジェクトのすべてのワークフロールールが再評価されます。条件が項目値の変更結果と一致するすべてのワークフロールールがトリガされます。</p> <p>トリガされたワークフロールールのいずれかにより、ワークフロールールの再評価も有効にする他の項目自動更新が実行される場合、ドミノ効果が発生し、新規にトリガされた項目自動更新の結果としてより多くのワークフロールールを再評価できます。このワークフロールールの再評価およびトリガのカスケードは、それを開始した最初の項目自動更新の後、最大 5 回実行できます。</p>
	string	<p>これは、子レコードで変更が検出された場合に設定されます。これが設定されている場合、親 (Case など) を指し示す子オブジェクト() など) の外部キー参照を指し示します。設定されると、数式は子オブジェクト() など) に基づきます。この項目は、バージョン 14.0 より前では という名前です。項目名の変更は、バージョン間で自動的に処理され、既存の XML コンポーネントファイルを手動で編集する必要はありません。</p>

WorkflowKnowledgePublish


WorkflowKnowledgePublish は、Salesforce ナレッジ記事の公開アクションおよび情報を表します。API バージョン 27.0 以降で利用できます。

項目名	項目のデータ型	説明
	KnowledgeWorkflowAction (string 型の 列挙)	<p>このルールが起動したときに実行可能な記事の公開アクション。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> : 記事を新規記事として公開します。

項目名	項目のデータ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> 記事のバージョン : 記事を公開済み記事のバージョンとして公開します。
	string	簡単な記事の説明。
	string	Salesforce ユーザインターフェース全体で記事を表す表示ラベル。
	string	記事の言語。
	boolean	必須。このコンポーネントが保護されるか ()、否か () を示します。保護コンポーネントは、インストールする組織で作成されたコンポーネントによってリンク設定したり参照したりすることはできません。

WorkflowOutboundMessage

WorkflowOutboundMessage は、ワークフロールールに関連付けられたアウトバウンドメッセージを表します。アウトバウンドメッセージは、外部サービスなどの指定したエンドポイントに指定の情報を送信するワークフローおよび承認アクションです。アウトバウンドメッセージは、エンドポイントに対し、特定の項目内のデータを SOAP メッセージとして送信します。詳細は、Salesforce オンラインヘルプの「アウトバウンドメッセージの定義」を参照してください。

項目名	データ型	説明
	double	<p>必須。アウトバウンドメッセージの API バージョン。アウトバウンドメッセージが作成されると、自動的に現在の API バージョンに設定されます。アウトバウンドメッセージの有効な API バージョンは 8.0 および 18.0 以降です。</p> <p>API バージョンは、Enterprise または Partner WSDL を使用した Salesforce への API コールバックで使用されます。</p> <p>バージョン は、メタデータ API を使用してのみ変更できます。Salesforce ユーザインターフェースを使用して変更することはできません。この項目は API バージョン 18.0 以降で使用できます。</p> <p> 警告: を、アウトバウンドメッセージに設定された のいずれもサポートしていないバージョンに変更した場合、更新された WSDL を消費するようにアウトバウンドメッセージリスナーを更新するまでメッセージは失敗します。[設定] からアウトバウンドメッセージの状況を監視するには、Salesforce で [監視] > [アウトバウンドメッセージ] をクリックします。</p>

項目名	データ型	説明
	string	アウトバウンドメッセージを説明します。
	string	必須。アウトバウンドメッセージの送信先となるエンドポイント URL。
	string[]	送信対象の項目への名前指定参照。
	string	必須。API アクセスの一意の識別子として使用される開発者名。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	boolean	必須。アウトバウンドメッセージに Salesforce セッション ID を含める場合は設定します。API コール発行の予定があり、ユーザ名とパスワードを含めたくない場合に便利です。
	string	必須。このメッセージの送信者となるユーザへの名前指定参照。
	string	必須。コンポーネントの名前。API バージョン 16.0 以降で使用できます。
	boolean	必須。このコンポーネントが保護されるか ()、否か () を示します。保護コンポーネントは、インストールする組織で作成されたコンポーネントによってリンク設定したり参照したりすることはできません。
	boolean	この項目は、配信不能メッセージキュー権限が有効な組織でのみ使用できます。設定されている場合、このアウトバウンドメッセージは、通常の配信が失敗した場合に配信不能メッセージキューを使用します。

WorkflowRule

このメタデータ型はワークフロールールを表します。[Metadata](#) メタデータ型を拡張し、その項目を継承します。

項目名	データ型	説明
	WorkflowActionReference []	このルールが起動したら実行する必要があるアクションの参照の配列。
	boolean	必須。このルールが有効かどうかを決定します。
	string	高度な検索条件の boolean 数式 (など) です。

項目名	データ型	説明
	FilterItem[]	このルールを起動する boolean 条件の配列。この項目か、 のいずれかが設定されている必要があります。
	string	ワークフロールールの説明。
	string	このルールが最初に (この項目か に) 設定されている必要がある数式条件。
	string	API アクセスの一意の識別子として使用される開発者名。 には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	WorkflowTriggerTypes (string 型の 列挙)	トリガが起動する条件。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - すべての変更でワークフロールールが考慮されます。 - 作成でのみワークフロールールが考慮されます。 - 作成およびトリガする更新でのみワークフロールールが考慮されます。
	WorkflowTimeTrigger	指定間隔の前/後に実行する一連のワークフローアクション (項目自動更新、メールアラート、アウトバウンドメッセージ、ToDo) を表します。

WorkflowTask

このメタデータ型は、割り当てられたワークフロー ToDo を参照します。

項目名	データ型	説明
	string	ワークフロールールまたはアクションが割り当てられているユーザ、ロール、またはチームを指定します。ここで指定した値に対応する項目は、指定された と同じである必要があります。
	ActionTaskAssignedToTypes (string 型の 列挙)	この型の有効な string 値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - 設定した場合、ToDo はレコードの取引先の作成者に割り当てられます。

項目名	データ型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> - 設定した場合、ToDo はレコードの取引先の所有者 (Opportunity) に割り当てられます。 - WorkflowAlert 型と同じです。 - 設定した場合、ToDo はレコードの作成者に割り当てられます。 - WorkflowAlert 型と同じです。 - 設定した場合、ToDo はレコードの所有者に割り当てられます。 - 設定した場合、項目は User を (ユーザ名で) 参照します。パートナーユーザが対象です。 - 設定した場合、項目は Role を (ロール名で) 参照します。ポータルロールが対象です。 - 設定した場合、項目は Role を (ロール名で) 参照します。 - 設定した場合、項目は User を (ユーザ名で) 参照します。
	string	このワークフロー ToDo の説明。
	int	必須。トリガ日または (省略可能な) で指定された日付からのオフセット (日数)。負の数値を設定できます。
	string	必須。API アクセスの一意の識別子として使用される開発者名。には、アンダースコアと英数字のみを使用できます。一意であること、最初は文字であること、空白は使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。この項目は、 Metadata コンポーネントから継承されています。
	boolean	必須。ToDo が割り当てられたときにメール通知を送信する場合に設定します。
	string	の計算の基準となる date 項目の項目参照 (省略可能)。
	string	必須。作成された ToDo に割り当てる優先度。
	boolean	必須。このコンポーネントが保護されるか ()、否か () を示します。保護コンポーネントは、インストールする組織で作成されたコ

項目名	データ型	説明
		ンポーネントによってリンク設定したり参照したりすることはできません。
	string	必須。作成した ToDo を割り当てる状況。
	string	必須。ワークフロー ToDo の件名。ToDo が割り当てられたときにメール通知を送信する場合に使用されます。API バージョン 16.0 以降で利用できます。

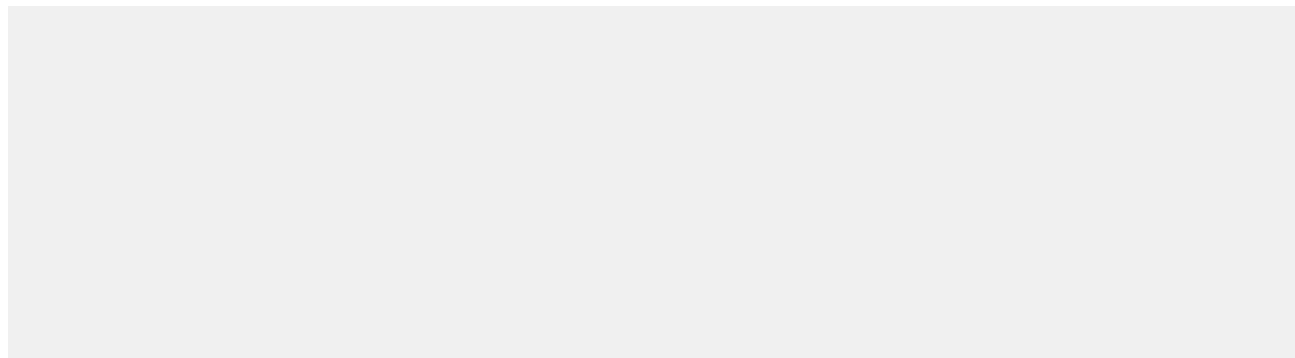
WorkflowTimeTrigger

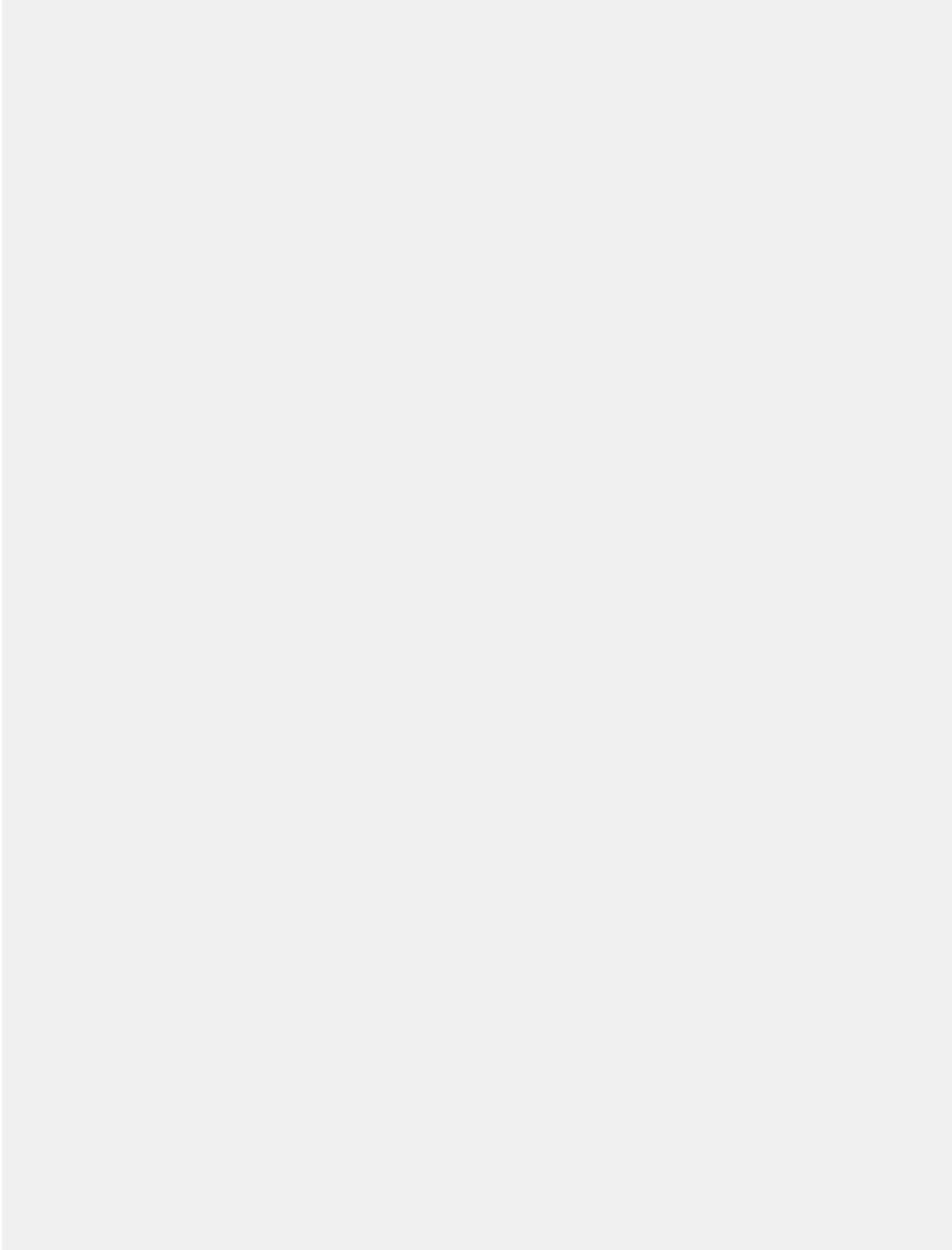
指定間隔の前/後に実行する一連のワークフローアクション (項目自動更新、メールアラート、アウトバウンドメッセージ、ToDo) を表します。

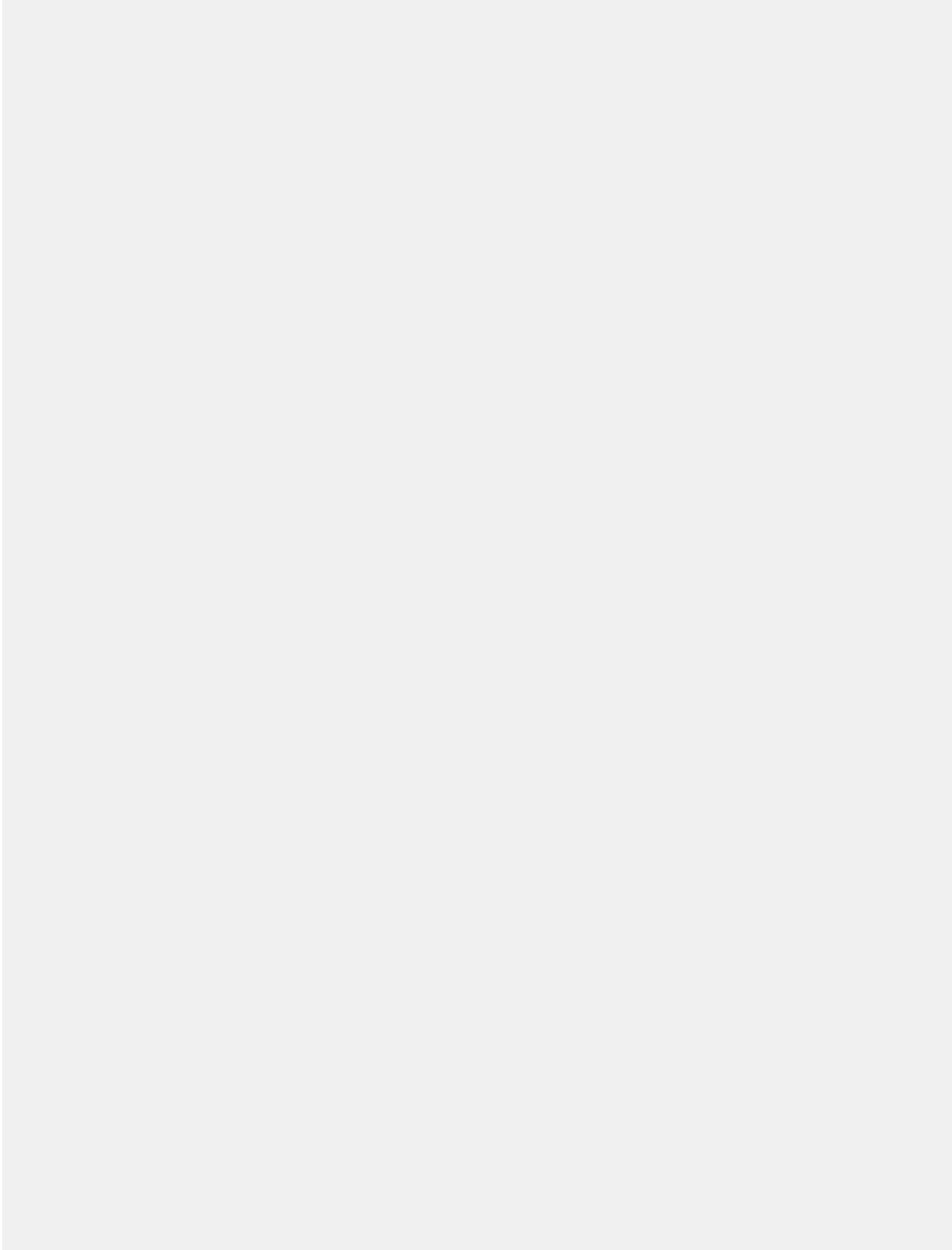
項目名	データ型	説明
	WorkflowActionReference []	このトリガが起動した場合に実行するアクションの参照の配列。
	string	時間ベースのワークフローがトリガされる基準となる date 型の項目名 (作成日、最終更新日、ルール適用日)、またはワークフロールールが定義されている、オブジェクトのカスタム日付項目。
	string	ワークフローをトリガした後/トリガする前の時間 (数値)。負の値は、トリガが起動する前の時間の長さを表します。
	WorkflowTimeUnits (string 型の 列挙)	時間ベースのワークフローがトリガされる前または後の時間の単位。有効な string 値は次のとおりです。 ・ ・

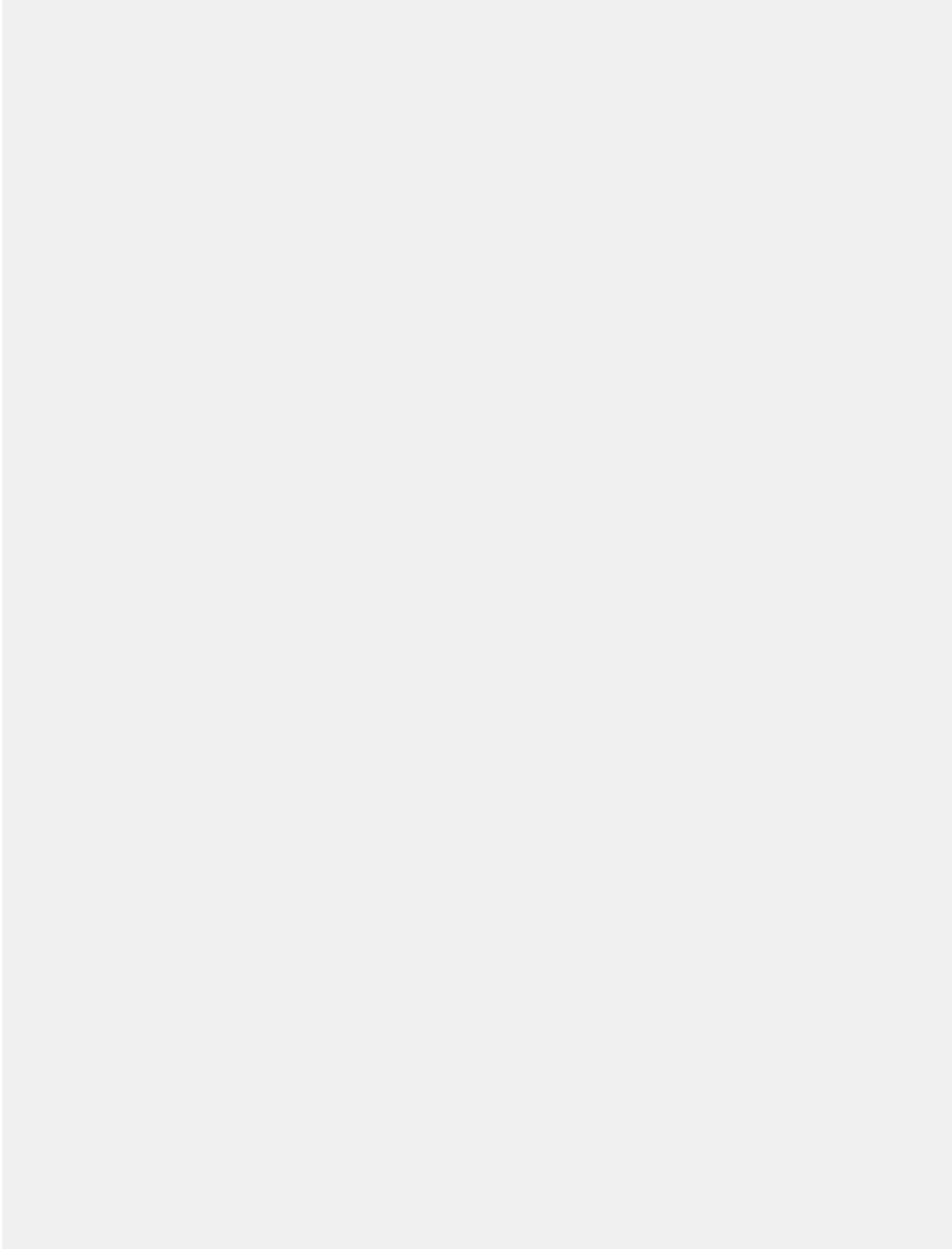
宣言的なメタデータの定義のサンプル

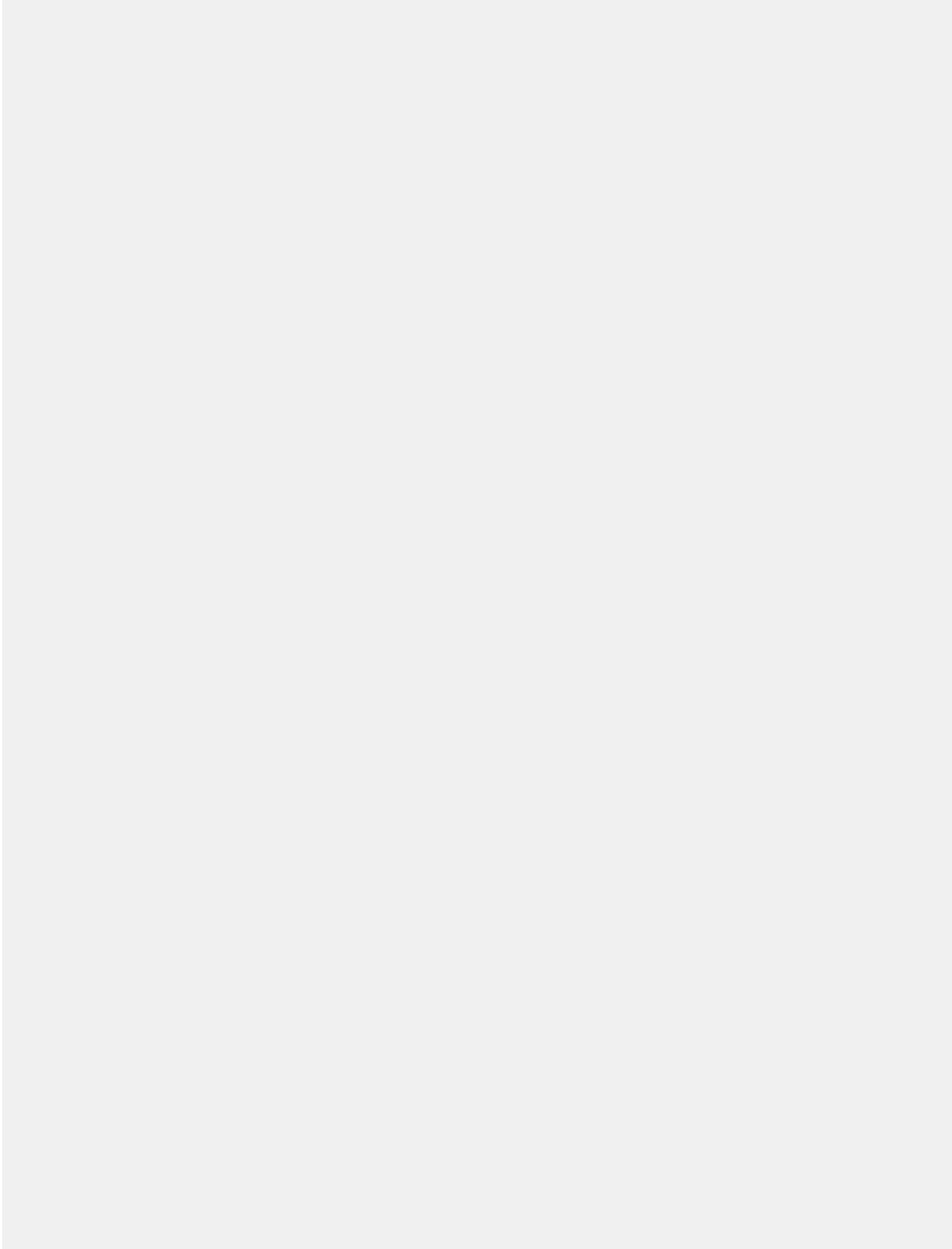
ワークフロールール定義を次に示します。

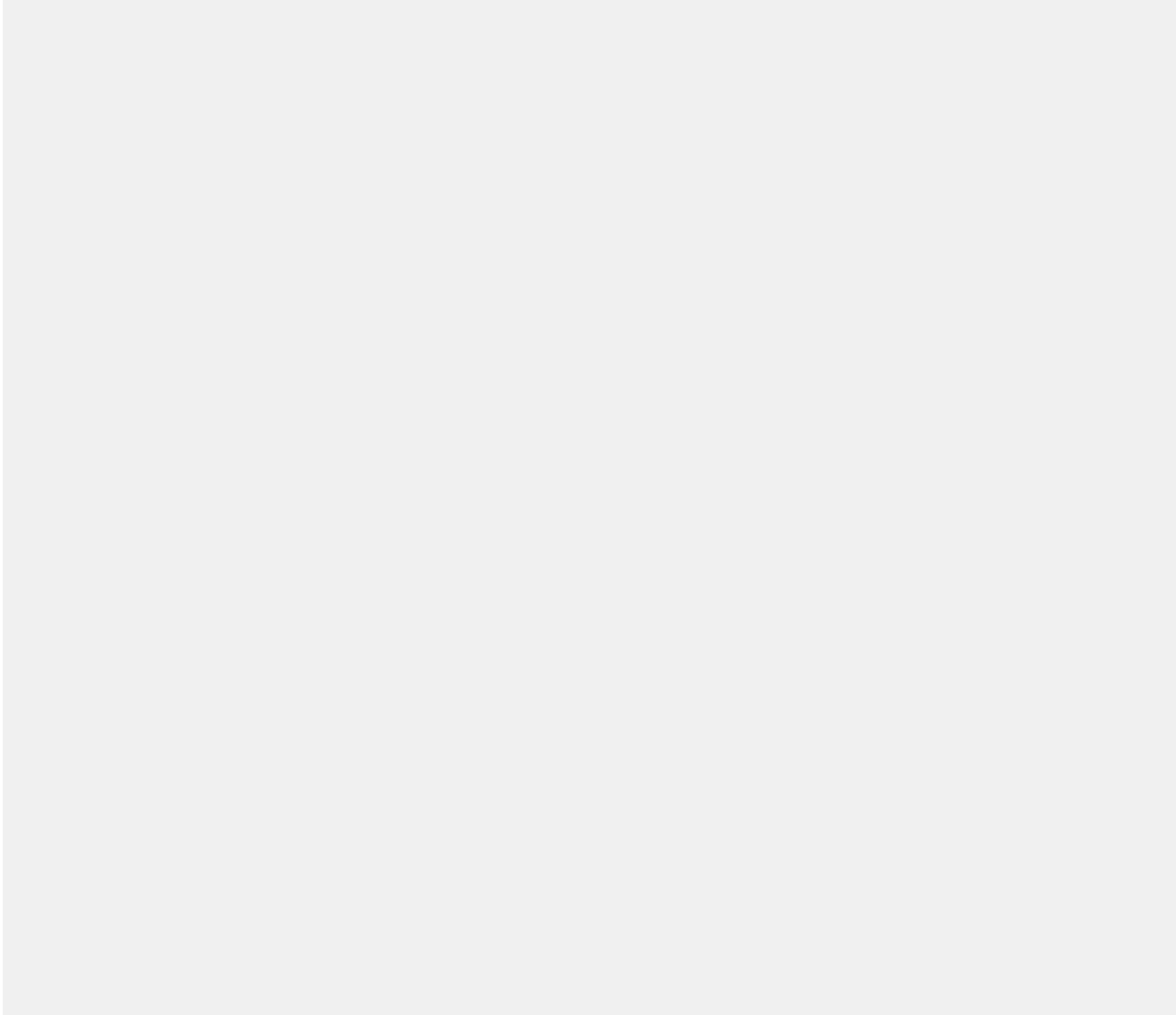












[A](#) | [B](#) | [C](#) | [D](#) | [E](#) | [F](#) | [G](#) | [H](#) | [I](#) | [J](#) | [K](#) | [L](#) | [M](#) | [N](#) | [O](#) | [P](#) | [Q](#) | [R](#) | [S](#) | [T](#) | [U](#) | [V](#) | [W](#) | [X](#) | [Y](#) | [Z](#)

A

Apex

Apex は、開発者が Force.com プラットフォームサーバでフローとトランザクションの制御ステートメントを Force.com API へのコールと組み合わせて実行できるようにした、強く型付けされたオブジェクト指向のプログラミング言語です。Java に似た構文を使い、データベースのストアドプロシージャのように動作する Apex を使用して、開発者は、ボタンクリック、関連レコードの更新、および Visualforce ページなどのほとんどのシステムイベントにビジネスロジックを追加できます。Apex コードは、Web サービス要求、およびオブジェクトのトリガから開始できます。

Apex による共有管理

開発者は、アプリケーションの動作をサポートする共有をプログラムで操作できるようになります。Apex による共有管理は、カスタムオブジェクトでのみ有効です。

アプリケーション

「App」と表記されることもあります。特定のビジネス要件を扱うタブ、レポート、ダッシュボードおよび Visualforce ページなどのコンポーネントの集合です。Salesforce では、セールスおよびコールセンターなどの標準アプリケーションを提供しています。お客様のニーズに合わせてこれらの標準アプリケーションをカスタマイズできます。また、アプリケーションをパッケージ化して、カスタム項目、カスタムタブ、カスタムオブジェクトなどの関連コンポーネントと共に AppExchange にアップロードできます。そのアプリケーションを AppExchange から他の Salesforce ユーザが利用できるようにすることもできます。

AppExchange

AppExchange は salesforce.com の共有インターフェースであり、Force.com プラットフォームのアプリケーションやサービスを参照および共有できます。

AppExchange のアップグレード

アプリケーションのアップグレードは、新しいバージョンをインストールするプロセスです。

アプリケーションプログラムインターフェース (API)

コンピュータシステム、ライブラリ、またはアプリケーションが、その他のコンピュータプログラムがサービスを要求したりデータを交換したりできる機能を提供するインターフェースです。

非同期コール

操作に長い時間がかかるため、直ちに結果を返さないコールです。メタデータ API と Bulk API のコールは非同期です。

B

Boolean 演算子

Boolean 演算子をレポートプロファイルで使用して、2 つの値の間の論理関係を指定できます。たとえば、2 つの値の間で AND 演算子を使用すると、両方の値を含む検索結果が生成されます。同様に、2 つの値の間で OR 演算子を使用すると、どちらかの値を含む検索結果が生成されます。

Bulk API

REST ベースの Bulk API は、大規模データセットの処理用に最適化されています。Salesforce によりバックグラウンドで処理される複数のバッチを送信することにより、多数のレコードを非同期でクエリ、挿入、更新、更新/挿入または削除できます。「SOAP API」も参照してください。

C

クラス、Apex

Apex オブジェクトの作成でベースとして使用する一種のテンプレートです。他のクラス、ユーザ定義メソッド、変数、例外型、および static 初期設定化コードで構成されます。多くの場合、Apex クラスは、Java 内のその対応物に基づいています。

クライアントアプリケーション

Salesforce ユーザインターフェースの外部で実行し、Force.com API または Bulk API のみを使用するアプリケーションです。通常、デスクトップまたはモバイルデバイス上で稼働します。これらのアプリケーションは、プラットフォームをデータソースとして扱い、設計されたツールおよびプラットフォームの開発モデルを使用します。

コンポーネント、メタデータ

コンポーネントは、メタデータ API のメタデータ型のインスタンスです。たとえば、CustomObject はカスタムオブジェクトのメタデータ型で、コンポーネントはカスタムオブジェクトのインスタンスです。コンポーネントは XML ファイルに記述され、メタデータ API を使用するか、Force.com IDE や Force.com 移行ツールなど、API で構築されたツールを使用してリリースしたり、取得したりできます。

コンポーネント、Visualforce

などの一連のタグを使用して Visualforce ページに追加できます。Visualforce には、多くの標準コンポーネントが含まれていますが、独自のカスタムコンポーネントを作成することもできます。

コンポーネントの参照、Visualforce

組織で利用できる Visualforce の標準コンポーネントおよびカスタムコンポーネントの説明。Visualforce ページの開発フッターまたは『[Visualforce 開発者ガイド](#)』からコンポーネントライブラリにアクセスできます。

コントローラ、Visualforce

Visualforce ページに実行する必要があるデータおよびビジネスロジックを提供する Apex クラス。Visualforce ページは、デフォルトですべての標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに付属する標準コントローラを使用、またはカスタムコントローラを使用できます。

制御項目

対応する 1 つ以上の連動項目で使用可能な値を制御する、標準またはカスタムの選択リストやチェックボックスの項目です。

カスタムアプリケーション

「アプリケーション」を参照してください。

カスタムリンク

カスタムリンクとは管理者によって定義された URL。これを使用して、Salesforce データを外部 Web サイトとバックエンドのオフィスシステムと統合します。以前は Web リンクと呼ばれていました。

カスタムオブジェクト

組織固有の情報を保存することが可能なカスタムレコード。

カスタム S コントロール



メモ: S コントロールは、Visualforce ページに置き換えられました。2010 年以降、新しい組織同様、S コントロールを作成したことのない組織は、S コントロールを作成できなくなります。既存の S コントロールに影響はありません。今後も編集できます。

カスタムリンクで使用するカスタム Web コンテンツ。カスタム S コントロールには、Java アプレット、Active-X コントロール、Excel ファイル、カスタム HTML Web フォームなど、ブラウザに表示できるあらゆる種類のコンテンツを入れることができます。

D

データベース

情報の編成された集合です。Force.com プラットフォームの基底となるアーキテクチャには、データが格納されているデータベースが含まれています。

データベーステーブル

追跡する必要のある人物、物事、またはコンセプトに関する情報のリストで、行および列で表示されます。「オブジェクト」も参照してください。

データ操作言語 (DML)

Force.com プラットフォームデータベースからレコードを挿入、更新、削除する Apex のメソッドまたは操作。

小数点の位置

数値、通貨、パーセント項目で、小数点の右に入力できる桁数合計です。たとえば、4.98 の場合は 2 となります。これ以上の桁の数値を入力した場合は、四捨五入されます。たとえば、小数点の位置 が 2 の場合に 4.986 と入力すると、その数値は 4.99 となります。Salesforce では、切り上げアルゴリズムを使用します。中間値は常に切り上げられます。たとえば、1.45 は 1.5 に切り上げられます。-1.45 は -1.5 に切り上げられません。

連動項目

対応する制御項目で選択された値に基づいて、使用可能な値が表示される、カスタムの選択リストまたは複数選択の選択リストの項目。

Developer Force

Developer Force Web サイト (developer.force.com) では、サンプルコード、ツールキット、オンライン開発者コミュニティなど、プラットフォーム開発者向けの幅広いリソースを提供しています。開発向けの Force.com プラットフォーム環境も、ここから入手できます。

ドキュメントライブラリ

ドキュメントの保存場所です。これらのドキュメントは、取引先や取引先責任者、商談、またはその他のレコードに添付しません。

E

メールアラート

メールアラートは、メールテンプレートを使用してワークフロールールまたは承認プロセスによって生成され、Salesforce ユーザなど、指定された受信者に送信されるワークフローおよび承認アクションです。

Enterprise WSDL

顧客が Salesforce 組織のみでインテグレーションを構築する場合や、パートナーが Tibco、webMethods などのツールを使って強い型付けが必要なインテグレーションを構築する場合に使用する強く型付けされた WSDL。Enterprise WSDL の欠点は、組織のデータモデルに存在するすべての一意のオブジェクトおよび項目にバインドされているため、1 つの Salesforce 組織のスキーマだけを扱うという点です。

エンティティ関係図 (ERD)

データをエンティティ (または Force.com プラットフォームではオブジェクト) に整理し、それらのリレーションを定義することができるデータモデリングツールです。主要な Salesforce オブジェクトの ERD ダイアグラムについては、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』を参照してください。

列挙項目

列挙は、WSDL での選択項目と同じです。項目の有効な値は、同じデータ型を持つ指定可能な値のセットに厳密に制限されます。

F

項目

テキストまたは通貨の値など、情報の特定の部分を保持するオブジェクトの一部です。

項目レベルセキュリティ

項目が、ユーザに非表示、表示、参照のみ、または編集可能であるかどうかを決定する設定。使用可能なエディションは、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition です。

検索条件

リストビューまたはレポートに含まれる項目に該当する、特定の項目に対する条件です。たとえば「都道府県」「次の文字列と一致する」「東京都」など。

Force.com

アプリケーションを構築する salesforce.com プラットフォームです。Force.com は、強力なユーザインターフェース、オペレーティングシステムおよびデータベースを結合して、企業全体でアプリケーションをカスタマイズおよび展開できます。

Force.com IDE

開発者が Eclipse 開発環境で Force.com アプリケーションを管理、作成、デバッグおよびリリースできる Eclipse プラグイン。

Force.com 移行ツール

ローカルファイルシステムと Salesforce 組織との間で Force.com コンポーネントを移行する Apache の Ant 開発スクリプトを作成するためのツールキット。

外部キー

値が別のテーブルの主キーと同じ項目です。外部キーは、別のテーブルの主キーのコピーとしてみなすことができます。2つのテーブルのリレーションは、あるテーブルの外部キーの値と、別のテーブルの主キーの値が一致することによって成り立ちます。

数式項目

カスタム項目の一種。差し込み項目、式、またはその他の値に基づいて、値を自動的に計算します。

関数

あらかじめ用意されている数式。入力パラメータを使用してカスタマイズできます。たとえば、DATE 関数は、年、月、および日付から日付データ型を作成します。

G

グレゴリオ暦

世界中で使用されている、12 か月構造に基づいたカレンダーです。

H

HTTP デバッガ

AJAX Toolkit から送信される SOAP 要求を識別し、調査するために使用できるアプリケーションです。ローカルコンピュータで稼動するプロキシサーバとして動作し、各要求を調査および認証できます。

I

インライン Sコントロール



メモ: Sコントロールは、Visualforce ページに置き換えられました。2010 年以降、新しい組織同様、S コントロールを作成したことがない組織は、S コントロールを作成できなくなります。既存の S コントロールに影響はありません。今後も編集できます。

個別のページでなく、レコード詳細ページまたはダッシュボード内に表示される S コントロールです。

インスタンス

組織のデータをホストし、アプリケーションを実行する単一の論理サーバとして示されるソフトウェアおよびハードウェアのクラスターです。Force.com プラットフォームは複数のインスタンスで稼動しますが、1つの組織のデータは常に 1 つのインスタンスに一元管理されています。

インテグレーションユーザ

クライアントアプリケーションまたはインテグレーションのみに定義された Salesforce ユーザ。また、SOAP API コンテキストではログインユーザとも呼ばれます。

ISO コード

国際標準化機構が定める国コードで、各国を 2 文字で表します。

J

連結オブジェクト

2つの主従関係を持つカスタムオブジェクトです。カスタム連結オブジェクトを使用して、2つのオブジェクト間の「多対多」リレーションをモデル化できます。たとえば、「バグ」という名前のカスタムオブジェクトを作成し、1つのバグを複数のケースに、また1つのケースを複数のバグに関連付けることができます。

K

該当用語はありません。

L

ライセンス管理アプリケーション (LMA)

無料の AppExchange アプリケーションで、AppExchange から管理パッケージ (アプリケーション) をダウンロードするすべてのユーザのセールスリードおよび取引先を追跡できます。

ライセンス管理組織 (LMO)

パッケージをインストールしたすべての Salesforce ユーザを追跡できる、Salesforce 組織です。ライセンス管理組織には、ライセンス管理アプリケーション (LMA) をインストールする必要があります。ライセンス管理アプリケーションは、パッケージがインストールまたはアンインストールされるたびに自動的に通知を受信するため、簡単にユーザにアップグレードを通知できます。Enterprise Edition、Unlimited Edition、または Developer Edition の組織をライセンス管理組織として指定できます。詳細は、<http://www.salesforce.com/docs/en/lma/index.htm> を参照してください。

リストビュー

特定の条件による項目 (リード、取引先、または商談など) のリスト表示です。Salesforce には、事前に定義されたビューがあります。

[コンソール] タブでは、リストビューが、具体的な条件に基づいてレコードのリストビューを表示する最上位のフレームです。[コンソール] タブに表示して選択できるリストビューは、各オブジェクトのタブで定義されたリストビューと同じです。コンソール内でリストビューを作成することはできません。

ローカルプロジェクト

プロジェクトマニフェスト () および 1 つ以上のメタデータコンポーネントを含む ファイルです。

ログインユーザ

SOAP API コンテキストで、Salesforce にログインするために使用するユーザ名。クライアントアプリケーションは、ログインユーザの権限および共有設定に基づいて動作します。また、インテグレーションユーザとも呼ばれます。

参照項目

別のレコードに対するリンク可能な値を含む項目の種別です。オブジェクトに別のオブジェクトとの参照関係または主従関係がある場合、ページレイアウトに参照項目を表示できます。たとえば、ケースに納入商品との参照関係がある場合、ケース詳細ページからルックアップダイアログを使用して納入商品を選択し、ケース詳細ページから納入商品の名前をクリックできます。

M

管理パッケージ

ユニットとして AppExchange に投稿され、名前空間とライセンス管理組織に関連付けられるアプリケーションコンポーネントのコレクション。アップグレードをサポートするには、管理パッケージであることが必要です。組織は、他の多くの組織でダウンロードおよびインストールできる単一の管理パッケージを作成できます。管理パッケージは、未管理パッケージとは異なり、コンポーネントの一部がロックされていて、後でアップグレードできます。未管理パッケージには、ロックされたコンポーネントは含まれておらず、アップグレードはできません。また、管理パッケージでは、開発者の知的財産保護のため、登録している組織では特定のコンポーネント (Apex など) は隠されます。

マニフェストファイル

プロジェクトマニフェストファイル()には、メタデータ API、またはメタデータ API の上に構築された Force.com IDE または Force.com 移行ツールなどのクライアントを使用するときに取得またはリリースする XML コンポーネントがリストされます。

手動による共有

レコード所有者がレコードにアクセス権を持たないユーザに参照権限および編集権限を与えることができるレコードレベルのアクセスルールです。

多対多リレーション

リレーションの両端に多くの子があるリレーションです。多対多リレーションは、連結オブジェクトを使用して実装されます。

メタデータ

組織およびいずれかの部署の構造、外観、機能に関する情報です。Force.com では、メタデータを記述するのに XML を使用します。

メタデータ WSDL

Force.com Metadata API コールを使用するユーザの WSDL。

マルチテナンシー

すべてのユーザおよびアプリケーションが単一で共通のインフラストラクチャおよびコードベースを共有するアプリケーションモデルです。

N

名前空間

パッケージコンテキストでは、ドメイン名と同様、AppExchange にある自社パッケージとその内容を他の開発者のパッケージと区別するための 1 ~ 15 文字の英数字で構成される識別子です。Salesforce では、Salesforce 組織のすべての一意のコンポーネント名に自動的に名前空間プレフィックスとそれに続く 2 つのアンダースコア (__) を追加します。

ネイティブアプリケーション

Force.com の設定 (メタデータ) 定義で排他的に開発されたアプリケーションです。ネイティブアプリケーションには、外部サービスまたは外部インフラストラクチャは必要ありません。

O

オブジェクト

Salesforce 組織に情報を保存するために使用するオブジェクト。オブジェクトは、保存する情報の種類の全体的な定義です。たとえば、Case オブジェクトを使用して、顧客からの問い合わせに関する情報を保存できます。各オブジェクトについて、組織は、そのデータ型の具体的なインスタンスに関する情報を保存する複数のレコードを保有します。たとえば、佐藤次郎さんから寄せられたトレーニングに関する問い合わせに関する情報を保存するケースレコードと、山田花子さんから寄せられたコンフィグレーションの問題に関する情報を保存するケースレコードなどです。

オブジェクトレベルのヘルプ

カスタムオブジェクトに提供できるカスタムヘルプのテキスト。カスタムオブジェクトレコードのホーム(概要)、詳細、編集ページ、リストビューや関連リストに表示されます。

オブジェクトレベルセキュリティ

特定のユーザに対してオブジェクト全体を非表示にできる設定です。ユーザはそうしたデータの存在を知ることできません。オブジェクトレベルセキュリティはオブジェクト権限で指定されます。

onClick JavaScript

ボタンまたはリンクをクリックすると実行される JavaScript コードです。

一対多リレーション

1 つのオブジェクトが多数のオブジェクトに関連するリレーションです。たとえば、取引先に 1 つまたは複数の関連取引先責任者がある場合があります。

組織の共有設定

ユーザが組織で持つデータアクセスのベースラインレベルを指定できる設定です。たとえば、オブジェクト権限によって有効化されている特定のオブジェクトの任意のレコードを参照できますが、編集するには別の権限が必要となるよう、組織の共有設定を設定できます。

アウトバウンドメッセージ

アウトバウンドメッセージは、外部サービスなどの指定したエンドポイントに指定の情報を送信するワークフロー、承認、およびマイルストーンアクションです。アウトバウンドメッセージは、エンドポイントに対し、特定の項目内のデータを SOAP メッセージとして送信します。アウトバウンドメッセージは、Salesforce の設定メニューで設定します。その後で、外部エンドポイントを設定する必要があります。SOAP API を使用して、メッセージのリスナーを作成できます。

フロート表示

ユーザインターフェースの要素にマウスポインタを停止すると、フロート表示に追加情報が表示されます。フロート表示によって、マウスを移動したり、フロート表示外部をクリックしたり、または[閉じる]ボタンをクリックしたりすると、フロート表示が閉じられます。

所有者

レコード(取引先責任者またはケースなど)が割り当てられる個別ユーザ。

P

パッケージ

AppExchange を介して他の組織で使用可能な Force.com のコンポーネントおよびアプリケーションのグループです。AppExchange にまとめてアップロードできるように、パッケージを使用してアプリケーションおよび関連するコンポーネントをバンドルします。

Partner WSDL

複数の Salesforce 組織にまたがって動作するインテグレーションや AppExchange アプリケーションを構築する場合に顧客、パートナー、ISV が使用する、弱い型付けの WSDL。この WSDL では、開発者が適切なオブジェクト表現でデータのマーシャリングを行います。通常、ここには XML の編集が含まれます。ただし、開発者は特定のデータモデルまたは Salesforce 組織に依存しません。強い型付けの Enterprise WSDL とは対照的です。

Picklist

Salesforce オブジェクトの特定の項目で選択できる選択肢のリスト。たとえば、取引先の項目など。ユーザは、項目に直接入力せずに、選択リストから 1 つの値を選択できます。「マスタ選択リスト」も参照してください。

選択リスト (複数選択)

Salesforce オブジェクトの特定の項目で選択できる選択肢のリスト。複数選択の選択リストを使用して 1 つまたは複数の値を選択できます。ユーザは値をダブルクリックして選択するか、Ctrl キーを押したまま値をクリックしてスクロールリストから複数の値を選択し、矢印アイコンを使用して選択されたボックスに値を移動できます。

主キー

リレーショナルデータベースのコンセプトです。リレーショナルデータベースの各テーブルには、データ値が一意にレコードを識別する項目があります。この項目を、主キーと呼びます。2 つのテーブルのリレーションは、あるテーブルの外部キーの値と、別のテーブルの主キーの値が一致することによって成り立ちます。

本番組織

実際の本番データとそれらにアクセスするライブユーザを持っている Salesforce 組織。

Q

キュー

処理する前にアイテムを置いておく領域です。Salesforce では、さまざまな機能やテクノロジーにキューを使用します。

クエリ文字列パラメータ

通常 URL の「?」文字の後に指定されている名前 - 値のペアです。次に例を示します。

```
name=value
```


R

レコード

Salesforce オブジェクトの単一インスタンス。たとえば、「John Jones」は取引先責任者レコードの名前となります。

レコード名

すべての Salesforce オブジェクトの標準項目。レコード名が Force.com アプリケーションに表示されると、値はレコードの詳細ビューへのリンクとして表示されます。レコード名は自由形式のテキストまたは自動採番項目です。レコード名 には、必ずしも一意の値を割り当てる必要はありません。

レコードタイプ

レコードタイプとは、そのレコードの標準およびカスタムの選択リスト項目の一部またはすべてを含めることができる特定のレコードに使用可能な項目。レコードタイプをプロファイルに関連付けて、含まれている選択リストの値のみがそのプロファイルのユーザに使用できるようにできます。

レコードレベルセキュリティ

データを制御するメソッドで、特定のユーザがオブジェクトを参照および編集でき、ユーザが編集できるレコードを制限できます。

ごみ箱

削除した情報を表示し、復元できるページです。ごみ箱には、サイドバー内のリンクからアクセスします。

関連オブジェクト

特定の種類のレコードがコンソールの詳細ビューに表示されたときに [コンソール] タブのミニビューで表示するために、システム管理者が選択したオブジェクト。たとえば、システム管理者は、ケースが詳細ビューに表示されているときにミニビューに表示される項目として、関連する取引先、取引先責任者、納入商品などを指定できます。

リレーション

ページレイアウト内の関連リストおよびレポート内の詳細レベルを作成するために使われる、2つのオブジェクトの間の接続。両方のオブジェクトの特定の項目において一致する値を使用して、関連するデータにリンクします。たとえば、あるオブジェクトには会社に関連するデータが保存されていて、別のオブジェクトには人に関連するデータが保存されている場合、リレーションを使用すると、その会社で働いている人を検索できます。

リレーションクエリ

SOQL コンテキストで、オブジェクト間のリレーションを辿り、結果を識別および返すクエリです。親対子および子対親の構文は、SOQL クエリでは異なります。

レポートタイプ

レポートタイプは、主オブジェクトとその関連オブジェクトとの関係に基づいて、レポートで使用するレコードと項目のセットを定義するものです。レポートには、レポートタイプで定義された条件を満たすレコードのみが表示されます。Salesforce には、定義済みの標準レポートタイプのセットが用意されています。管理者がカスタムレポートタイプを作成することもできます。

ロール階層

レコードレベルのセキュリティで使用する設定です。ロール階層によって特定のレベルのロールを割り当てられたユーザは、組織の共有モデルとは関係なく、階層において自分よりも下位のユーザが所有しているデータ、および該当のユーザと共有しているデータに対する参照、編集権限を持つことになります。

積み上げ集計項目

主従関係の子レコードの値の集計値を自動的に提供する項目の種別です。

S

SaaS

「サービスとしてのソフトウェア (SaaS)」を参照してください。

Sコントロール



メモ: Sコントロールは、Visualforce ページに置き換えられました。2010 年以降、新しい組織同様、S コントロールを作成したことのない組織は、S コントロールを作成できなくなります。既存の S コントロールに影響はありません。今後も編集できます。

カスタムリンクで使用するカスタム Web コンテンツ。カスタム S コントロールには、Java アプレット、Active-X コントロール、Excel ファイル、カスタム HTML Web フォームなど、ブラウザに表示できるあらゆる種類のコンテンツを入れることができます。

Salesforce SOA (サービス指向アーキテクチャ)

Apex 内から外部 Web サービスへのコールを実行できる Force.com の強力な機能です。

Sandbox 組織

Salesforce 本番組織のほぼ同一コピー。テストやトレーニングなどさまざまな目的のために、本番組織のデータとアプリケーションに影響を与えることなく、複数の Sandbox をそれぞれの環境に作成できます。

セッション ID

ユーザが Salesforce に正常にログインした場合に返される認証トークン。セッション ID を使用すると、ユーザが Salesforce で別のアクションを実行するときに毎回ログインする必要がなくなります。レコード ID または Salesforce ID と異なり、Salesforce レコードの一意の ID を示す用語です。

セッションタイムアウト

ログインしてからユーザが自動的にログアウトするまでの時間です。セッションは、前もって決定された非活動状態の期間の後、自動的に終了します。非活動状態の期間の長さは、[設定] から [セキュリティのコントロール] をクリックすることによって Salesforce で設定できます。デフォルト値は 120 分 (2 時間) です。ユーザが Web インターフェイスでアクションを実行または API コールを実行すると、非活動状態タイマーが 0 にリセットされます。

設定

システム管理者が組織の設定および Force.com アプリケーションをカスタマイズおよび定義できるメニューです。組織のユーザインターフェイス設定に応じて、[設定] はユーザインターフェイスのヘッダーでリンクになっている場合もあれば、ユーザ名の下でドロップダウンリストになっている場合もあります。

サイト

Force.com サイトでは、公開 Web サイトとアプリケーションを作成できます。それらは Salesforce 組織と直接統合されるため、ユーザがログインする場合にユーザ名やパスワードは必要ありません。

スニペット



メモ: Sコントロールは、Visualforce ページに置き換えられました。2010 年以降、新しい組織同様、S コントロールを作成したことのない組織は、S コントロールを作成できなくなります。既存の S コントロールに影響はありません。今後も編集できます。

スニペットは、他の S コントロールに組み込めるよう設計された S コントロールです。コードの一部で他のメソッドによって使用されるヘルパーメソッドと同様、スニペットを使用して、複数の S コントロールで再利用できる HTML や JavaScript の 1 つのコピーを保持できます。

SOAP (Simple Object Access Protocol)

XML 符号化データを渡す一定の方法を定義するプロトコルです。

サービスとしてのソフトウェア (SaaS)

ソフトウェアアプリケーションがサービスとしてホストされ、顧客にインターネットを経由して提供される配信モデルです。SaaS ベンダは、アプリケーションおよび各顧客データの日常メンテナンス、操作およびサポートを行う責任があります。このサービスで、顧客が独自のハードウェア、ソフトウェア、そして関連 IT リソースを使用してアプリケーションをインストール、構成、保守する必要性を緩和します。SaaS モデルを使用して、あらゆる市場区分にサービスを配信することができます。

SOQL (Salesforce オブジェクトクエリ言語)

単純で強力なクエリ文字列を構築し、Force.com データベースからデータを選択するための検索条件を指定できるクエリ言語です。

SOSL (Salesforce オブジェクト検索言語)

Force.com API を使用して、テキストベースの検索を実行できるクエリ言語です。

標準オブジェクト

Force.com プラットフォームに含まれる組み込みオブジェクト。アプリケーション独自の情報を格納するカスタムオブジェクトを作成することもできます。

システムログ

開発者コンソールの一部です。コードスニペットのデバッグに使用できる独立したウィンドウです。ウィンドウの下部にテストするコードを入力して、[実行] をクリックします。システムログの本文には、実行する行の長さや、作成されたデータベースコール数などのシステムリソース情報が表示されます。コードが完了しなかった場合は、コンソールにデバッグ情報が表示されます。

T

Test メソッド

特定のコードが適切に動作しているかを確認する Apex クラスメソッドです。Test メソッドは引数を採用せず、データをデータベースにコミットしません。また、コマンドラインまたは Force.com IDE のような Apex IDE で システムメソッドによって実行できます。

トランスレーションワークベンチ

トランスレーションワークベンチを使用して、翻訳する言語を指定し、翻訳者を言語に割り当て、Salesforce 組織に作成したカスタマイズの翻訳を作成し、管理対象パッケージから表示ラベルと翻訳を上書きすることができます。カスタム選択リスト値からカスタム項目にいたるすべてを翻訳し、海外のユーザが Salesforce のすべてを彼らの言語で使えるようになりました。

トリガ

データベースの特定の種別のレコードが挿入、更新、または削除される前後で実行する Apex スクリプトです。各トリガは、トリガが実行されるレコードへのアクセス権を提供する一連のコンテキスト変数で実行し、すべてのトリガは一括モードで実行します。つまり、一度に 1 つずつレコードを処理するのではなく、複数のレコードを一度に処理します。

トリガコンテキスト変数

トリガおよびトリガが起動するレコードに関する情報へのアクセス権を提供するデフォルトの変数です。

U

V

入力規則

指定される基準に一致しない場合、レコードを保存しない規則です。

Visualforce

開発者が、プラットフォームに作成されたアプリケーションのカスタムページおよびコンポーネントを容易に定義できる、単純で、タグベースのマークアップ言語。各タグが、ページのセクション、関連リスト、または項目など、大まかなコンポーネントときめの細かいコンポーネントのどちらにも対応しています。コンポーネントは、標準の Salesforce ページと同じロジックを使用して制御することができます。また、開発者が独自のロジックを Apex で記述されたコントローラと関連付けることもできます。

W

Web コントロール

「URL S コントロール」を参照してください。

Web サービス

様々なプラットフォームで稼働、さまざまな言語で作成、またはお互い地理的に離れている場合であっても、2 つのアプリケーションがインターネットを経由してデータを容易に交換できるメカニズムです。

WebService メソッド

サードパーティのアプリケーションのマッシュアップなど、外部システムによって使用できる Apex クラスメソッドまたは変数です。Web サービスメソッドは、グローバルクラスで定義する必要があります。

Web サービス API

Salesforce 組織の情報へのアクセスを提供する Web サービスアプリケーションプログラミングインターフェース。「SOAP API」および「Bulk API」も参照してください。

Web タブ

ユーザがアプリケーション内から外部 Web サイトを使用できるカスタムタブです。

ワークフローアクション

ワークフロールールを条件を満たすと起動するメールアラート、項目自動更新、アウトバウンドメッセージ、または ToDo。

ワークフローメールアラート

ワークフロールールが起動したときにメールを送信するワークフローアクションです。ワークフロー ToDo と異なり、アプリケーションユーザにのみ割り当てることができ、ワークフローアラートは有効なメールアドレスがある限り、ユーザまたは取引先責任者に送信できます。

ワークフロー項目自動更新

ワークフロールールが起動したときに、レコードの特定の項目の値を変更するワークフローアクションです。

ワークフローアウトバウンドメッセージ

別のクラウドコンピューティングアプリケーションなど、外部 Web サービスにデータを送信するワークフローアクションです。アウトバウンドメッセージは、主に複合アプリケーションで使用されます。

ワークフローキュー

1つ以上の時間ベースワークフローアクションがあるワークフロールールに基づいて起動するようスケジュールされている、ワークフローアクションのリストです。

ワークフロールール

ワークフロールールは、指定された条件に該当するときに、ワークフローアクションを実行します。ワークフローアクションは、ワークフロールールで指定された条件をレコードが満たすとただちに実行するか、タイムトリガを設定して特定の日に実行するように設定することができます。

ワークフロー ToDo

ワークフロールールが起動したときにToDoをアプリケーションに割り当てるワークフローアクションです。

WSDL (Web Services Description Language) ファイル

Web サービスと送受信するメッセージの形式を説明する XML ファイルです。開発環境の SOAP クライアントは、Salesforce Enterprise WSDL または Partner WSDL を使用して、SOAP API で Salesforce と通信します。

X

XML (拡張可能マークアップ言語)

構造化データの共有と移動を可能にするマークアップ言語です。メタデータ API を使用して取得またはリリースされるすべての Force.com コンポーネントは、XML 定義に従って表されます。

Y

該当用語はありません。

Z

Zip ファイル

データ圧縮およびアーカイブの形式です。

メタデータ API によって取得またはリリースされるファイルの集合です。「ローカルプロジェクト」も参照してください。